

# 人口問題

## 第一卷 第一號

### 内容

口 給 第一回人口問題同攻者會合

講 演

第一回人口問題同攻者會合に於ける會長の挨拶

ブラジル視察談

國際地理學會議と過剰人口委員會

調査研究

人口現象に對する統計的觀察に就いて

マルサス人口學說と救貧問題

本邦人口制限に關する史的地方的觀察

我が國人口の再生産力に就いて

我が國配偶關係の觀察(一)概報

資料

マルサス及びマルサス以後の人口理

配偶關係より見たる死亡率(昭和五年)

我が國人口現象の社會學的研究に關する若干の資料

社會統計

移植民に關する文獻目錄

紹介

デニ「世界人口の將來」——白柳氏「日本民族論」——田中館氏「一、東北

地方市町村別人口密度表 二、東北地方人口増加率の地域的分折」——岡

崎氏「人口統計に於ける諸問題」——大沼氏「農村に於ける青年層の狀態」

記事

第一回人口問題同攻者會合記録——會報——寄贈圖書書目

統計

高橋梵仙博士、安部磯雄代議士、岩倉具榮公爵、森戸辰男氏、吉岡博人博士、高阪益三郎博士、谷口弥三郎氏、上田貞次郎博士などを始め一五〇名以上の方々が論述していた。

本複刻版は五十年前の日本の人口状況、及び問題意識を指摘しており、人口問題研究史に関心を持つ人々に対しては好個の参考資料となるものと考え複刻するものであるが、ただ今日的視野から見ると、福祉人口問題論や高齢化社会人口問題論、未来人口問題論がなかったことがあげられよう、しかし人口問題史としてはこれ以上のものはないと確信している。

〒170 東京都豊島区東池袋四の二四の二  
協榮生命池袋ビル六階(財団法人生命科学研究会内)

財団法人人口問題研究会

理事長 篠崎信男

(電話)東京(03)九八九一九八一五





人間

人口委員

一 卷 一 虎

卷一

# 人口問題 第一卷 第一號 目次

口 繪 財團法人人口問題研究會主催第一回人口問題同攻者會合

講 演

財團法人人口問題研究會主催第一回人口問題同攻者

會合に於ける會長挨拶

會長伯爵 柳 澤 保 惠 一頁

ブラジル視察談

常務理事 井 上 雅 二 二五

國際地理學會議と過剩人口委員會

研究員 小 田 内 通 敏 一五

調 査 研 究

人口現象に對する統計的觀察に就いて

研究員 增 田 重 喜 三五

マルサス人口學說と救貧問題

研究員 增 田 重 喜 五

本邦人口制限に關する史的地方的觀察

研究員 增 田 重 喜 六

我が國人口の再生産力に就いて

研究員 左 右 田 武 夫 二五

我が國配偶關係の觀察(一) (概報)

研究員 館 稔 二三

資 料

マルサス及びマルサス以後の人口理論

藤 田 秀 夫 著 譯 一五

配偶關係より見たる死亡率(昭和五年)

研究員 館 稔 二〇三

我が國人口現象の社會學的研究に關する若干の資料

研究員 館 稔 二二

社會統計

研究員 增 田 重 喜 編 二四

自昭和八年一月 移植民に關する文獻目錄  
至昭和九年六月

海 外 式 會 社 調 査 課 二五

紹 介

デニ「世界人口の將來」

研究員 左 右 田 武 夫 二七

白柳秀湖氏の「日本民族論」を読む

研究員 增 田 重 喜 二七

田中館秀三氏「一、東北地方市町村別人口密度表二、東

北地方人口増加率の地域的分析」

研究員 小 田 内 通 敏 二八

岡崎文規氏「人口統計に於ける諸問題」

研究員 館 稔 二八

大沼幸之助氏「農村に於ける青年層の状態」

研究員 小 田 内 通 敏 二八

記 事

財團法人人口問題研究會主催第一回人口問題同攻者會合記錄

二九〇

會 報

三〇九

寄贈圖書書目

三二二

統計

別丁頁

一、人口統計

1. 昭和九年十月一日現在全國道府縣市(區)郡島嶼別推計人口 三
2. 昭和八年現在地別婚姻離婚出生死産及死亡 二
3. 昭和九年一月乃至三月内地人出生及死亡(現在地別) 一六

二、人口と職業に關する統計

1. 工場鑛山等勞働者數調 三〇
  2. 工場勞働者異動調 三
  3. 鑛山勞働者異動調 三
  4. 官業勞働者異動調 三
  5. 失業狀況 三
  6. 職業紹介數 二四
  7. 俸給生活者職業紹介成績 二五
- 三、産業の活動に關する統計

1. 生産指數 二六
2. 日本銀行東京卸賣物價指數 二七
3. 日本銀行東京小賣物價指數 二七
4. 國有鐵道貨物輸送高 二七
5. 外國貿易總輸出額 二八
6. 全國生計費指數 二九

講演

財團人口問題研究會主催  
法人人口問題研究會主催

第一回人口問題同攻者會合に於ける會長挨拶

會長 伯爵 柳 澤 保 惠

(本稿は、昭和九年十一月七日、内務省第一會議室に於て、本會の開催せる第一回人口問題同攻者會合に際して會長柳澤伯爵のなされたる挨拶の速記である。……編輯)

本日、第一回人口問題同攻者會合を開催致しまして、各方面に於ける熱心なる人口問題研究の皆様方と一堂に會するを得ましたことは、私の洵に欣快とするところで御座います。

人口問題の意義、其の重要性等に關しましては、茲に私から申述べるまでもなく、皆様の御承知の通りであります。先づ順序として本會設立に至る經過と本會設立の趣旨を一言し、次に本日開催致しました人口問題同攻者會合の目的とするところを述べて皆様の御援助を願ふ次第であります。

一口に人口問題と申しましても時代により處によつて種々の内容、形式を以て其の解決を訴ふるに至ることは申すまでもないことであります。大正末年に於きましては我が國人口増加と我が國民の主要食糧たる米の生産力の發展との不均衡が顯著なる事



實として現はれ、此の問題が當時の人口問題の核心をなして各方面に議論せられたのであります。政府は此の勢に刺戟せられて一大調査機關の設置を考慮するに至りましたが、昭和二年、漸く勅令を以て人口食糧問題調査會を設置致しました。私も當時委員の一人であり、又特別委員長として之に参加して居りましたが、此の調査會は其の名稱の示す通り、一面人口問題及び食糧問題に關する重要な調査研究を行ひ、他面政府の諮問に應じ、又種々の建議を致したのであります。然るに昭和五年、内閣の更迭や、財政難の爲に、十分の機能を發揮するに至らずして遂に官制が廢止せられましたことは洵に遺憾であります。然るに人口食糧問題調査會當時から既に多くの委員達は、人口問題は永續的であり、且つ其の性質は頗る複雑であつて、一時的、臨時的の調査研究を以てしては到底其の真相を明かにし、之に基いて適切なる對策を講ずることは不可能でありますので恒久的調査機關設置の必要を痛感し、種々の提案として現はれたのであります。

昭和五年、其の最終の總會は遂に「人口問題に關する常設調査機關設置に關する建議案」を可決し、直ちに政府に上申したのであります。翌昭和六年、政府も此の決議を尊重して人口問題調査機關設置に要する經費を豫算に計上し帝國議會の協賛を得たのであります。遺憾ながら、政變に妨げられて、實現するに至らなかつたのであります。

然るに社會の事情は人口食糧問題調査會當時に比して不況は連年深刻の度を加へ、失業者は増加し、就職難は累加し、中小商工業者は申すに及ばず、農村の疲弊は極度に進行しつつあるのであります。最近軍需工業の發達に伴ひ經濟界は稍々恢復の兆があると云はれて居りますが、之は單に一部分の現象であつて未だ何人と雖も、全體的な景氣恢復を認めるものはないのであります。我が國は、よく皆が申しますが、國土狹小にして資源は何分乏しき様に考へられて居ります。私は前からどうもさうは思ひませぬ、さう思ひませぬが人口は依然として益々増加して居ります。或る學者は三四十年先のことを想像され、人口の漸減に付

種々論議されて居りますが、三四十年先は別問題として、現在に於ては人口が増加してゐるのであります。職業戰線に蜷集する人々を如何にして扶養すべきかは國民生活の根本に關する重大問題であります。今にして何等適當なる方策を講ずることなく放置するに於ては國民生活の不安は益々増大し、國民思想の惡化を促して洵に憂慮すべき事態を招來するものと思ひます。茲に鑑みまして當時繼續的に人口問題の調査研究に従事し、一方には對内的見地に立つて其の解決方策を講ずると共に、他面對外的見地に於て國際的諸機關と聯絡を圖り、我が國人口政策の國際的地歩を占め民族の發展を企圖すべき團體創立の必要を痛感致しまして、昭和七年秋、官民合同致しまして私共は「我が國人口問題の解決に資する爲、諸般の調査及び研究を遂げ、且つ人口問題研究諸團體との聯絡を圖り、併せて人口政策施設の促進を期すること」を目的とする人口問題研究會を組織したのであります。幸にして民間有力財團の出資もあり、又各方面の後援を得まして、昭和八年十月二十七日、財團法人となつたので御座います。昭和九年度よりは僅かではあります。金一萬圓國庫の補助金を受くるに至りました。猶次年度よりは是れ以上の補助金を得たく目下當事者に計つて努力中で御座います。かやうに本會は創立後日尚ほ淺く、資金も未だ極めて不十分ではあります。本會の事業の概要に所期の目的を達成し、邦家の爲に貢献せんとする信念の下に専心事業を進捗せしめて居るので御座います。本會の事業の概要につきましては、後程、係員から御紹介致させることと致します。

諸、近來、我が國人口問題の重要性が益々認識せられて各方面の研究が日に増し進歩するに至りましたことは洵に御同慶に堪へない次第であります。近代科學は其の發展につれて微に入り細を穿ち、益々分化するに至つて居ります。一つの科學の部門の内部に於きまして幾多の分化が生じまして益々研究が進められて居ります。人口問題研究に就ても其の性質頗る複雑多岐で御座いまして、御承知の如く經濟學、社會學、統計學、生物學、優生學、醫學、衛生學、地理學、人類學等と極めて廣範なる

領域に亘つてゐるので御座います。従つて人口問題の研究を遂げ、一切の國策の根柢たらしめる爲には、科學の各部門、更に同一科學の内部に於ても諸種の觀察點から到達せられた研究の結果を綜合することが缺くべからざる必要事でありますことは多言を要しないところであります。又此の外種々意見の交換、討論こそ研究進歩の母であります。近來、殊に、文化科學に於きましては個人的研究から協同的研究へ進むやうになつて居ります。本會も亦國內研究機關、研究者の聯絡提携を事業の一として甚だ重要視してゐるのであります。其の具體的に現はれました一つが、今日皆様をお招きして催しました所の人口問題同政者會合に他ならぬので御座います。即ち、此の會合は人口問題に關する研究の促進を圖りまして、綜合的研究の實を擧げる爲に各部門の研究者諸君の聯絡提携の機會として之を開設致しましたので御座います。かやうな趣旨の下に、將來、出來得る限り屢々かかる會合を開催し、或は豫め問題を定めて各方面の専門の方々に討議の機會を作り、或は各方面の御研究の結果を此の會合に於て御發表願ひまして、人口問題の綜合的研究の促進を圖り度いと考へるので御座います。尙此の會合は成る可く屢々簡單に開催する爲に、主として東京市内及び近郊在住の方々を御案内致しますが、更に將來適當なる時期に於きまして、あらゆる方面の研究者を集め全國的な會合を催す豫定で御座います。

本日は第一回の會合で御座いまして、豫め問題を定めて御研究願ふといふ準備は致して居りません。同政者會合を開催致しました本會の趣旨を御了解下さいまして、忌憚なき御希望なり、御研究の一端なりを御聞きすることが出來ますれば洵に幸と存する次第で御座います。簡單で御座いますが、本會の沿革、趣旨を述べ、同政者會合開催の目的を申述べて、本日の會合の御挨拶に代へる次第で御座います。

## ブラジル視察談

常務理事 井 上 雅 二

(本稿は十月二十二日理事會の後、井上常務理事のなされたブラジル視察談の速記概要である。……編輯)

本年五月こちらを發ちましてブラジルへ参り九月末に歸つて参りました。食後の座談として秩序なく感ずるまゝにお話し申上ようと思ひます。

五月二十六日、横濱を解纜致します前々日にブラジルの憲法會議に於きまして、移住制限の條項が決議されたと云ふ電報が参りまして、エンプレス・オブ・ルシアに乗船致しました後始めて詳しい條文を手にしたのであります。それを見ると憲法の第二百一十一條の第六項と第七項の二つに於いて移民制限を實行することを規定してゐます。肉體的又は精神的其の他に於いて缺陷のあるものは、既に制限されて居つたのでありますが、此の度は憲法に於いて過去の五十年間に入國しました總數の二分以下を年々入國を許すと云ふこと、同化せしむること、集團の結成をなるべくさせないと云ふことを規定したのであります。

憲法會議なるものは、昨年の十一月より開會せられまして、度々情報を得たのでありますけれども、外務省の情報によりまして、又私の方の情報によりまして、斯くの如き最悪の場合が生ずるとは想像されなかつたのであります。而して向ふに於ては相當日本人を要求し、又日本に於きまして一般的なブラジルのことが分りまして、移住の希望者も相當多くなり、政府もこれを認めて必要な豫算を年々計上されるやうになり、船會社も色々苦心の結果、年々二萬五六千までは出し得る準備を整へて

居るのでありまして、私共十數年來の苦心が漸く實現の緒に着かんとする矢先き、あゝ云ふ最惡の條項が挿入されました事は實際局に當つてゐる私としては、寔に遺憾に思ひました。どう云ふ譯であらうかと頭を痛めて参つたのであります。

シヤトルに着きまして即日北米合衆國横斷鐵道でニューヨークに着き、再び乗船して、ブラジルへ参りました。

斯様にして深く考へさせられてあちらに着いて見ますと、目下情勢がよくなりつゝあつて、今は大事な時であるからその積りで居つて貰ひ度いと云ふ事でありました。一先づホテル・グロリーヤに落着き、ホテルでも移住制限問題に反對致しました有力なる代議士の二三人——その中の一人は共和黨の領袖でありました——とも會ひまして話しましたが、私に對しまして、自分達が此度の移住制限に反對したのは苟且の事ではない。日本人を知り、日本を研究した結果である。日本人はどうしても來て貰はなければならぬ、と云ふ事でありました。その頃はまだ丁度憲法の發布にならぬ前であつて、正式に大統領が任命されない。正式に大統領が任命されなくてはと存じまして、たつた二日間リオに居りましてサンパウロに参りました。サンパウロの町には前後二週間程居りましたが、その後の二十日以上は汽車により、自動車によつて晝夜兼行で活動して、毎日四時間か五時間位しか眠る暇がありませんでした。一日自動車で百哩、二百哩と馳け廻つて用事を濟まし、夕方食事を致します時は、用事のあるものが集つて居り、食事を了へると多い時は百人、少い時でも二三十人の人と話し、後にまだ自分の用事もありますので、かれこれして睡眠不足の状態で活動し、サンパウロからモデアナ、ノロエステ、ソロカバナ沿線より北バラナに及び、組合や個人の移住地を巡り海岸では會社の植民地等を廻りましたが、七月十四日にヴァルガス氏が正式大統領に就任されて、同二十四日に内閣が新しく組織せられましたので七月二十八日に再びリオに参りました。これから各方面の有力者、代議士、大學の教授又は日本に對して理解のある人と云ふやうな方と屢々食事を共にして交り結び、大統領始め要路の人々を正式に訪問致し、又個人的にも訪問

いたしまして、會ふ可き人に會ひ、要領を得ましたので、リオ滞在中にミナスジェラエス州と云ふサンパウロ州に拮抗します大きな州があります。その州の首府に参つて狀況を見まして、八月二十日にリオを飛行機で出發して、アマゾン河口に滞在すると五日間、それから西印度諸島を経てフロリダのマイアミに上陸してワシントンに参り、米大陸を横斷し、ロサンゼルス、サンフランシスコを経て歸つて参つた譯であります。

日本を發ちましてから歸りますまで四ヶ月の間にブラジルには約二ヶ月と十日、即ち七十日の間居つた譯であります。往復とも非常に急がしい旅行でありまして、その滞在二ヶ月と十日の間に、私の得たる感想は到る處に好印象を得て非常に愉快な旅行をして歸つたといふこととあります。それはどう云ふ譯かと申しますと、元々移住制限といふことに就いては皆様御承知の通り、何處の國でも制限して居らぬ所はありません。ブラジル丈は無制限に行けると思つてゐたのが、間違ひであります。ブラジルは前に申した通り、肉體的、精神的その他に缺陷のある者は入れませぬ。移民は制限して居る。特に一九三〇年十二月、ヴァルガス氏が革命政府を樹立して獨裁政治を行ふに當り、失業者が激増し、之を防止する爲に新しく移民の制限條令と云ふものを作つたのであります。只だ農園に働く者はその農園に於て生活の保證を與へられるので働いたのであります。日本人の如き農業家族移民は除外例として年々一定數を特許せられて來て居るのであります。從來ブラジルへの移住國として第一位にありましたイタリイ人がムツソリニの政策によつて來なくなる。又ブラジルもイタリイ人を迎へなくなつた。スペイン人、ポルトガル人は相當多く入るのでありますけれども、これは御承知の通り何百萬と云ふ多くの人がブラジルに來て居るのでありますから、その親戚、故舊を呼び寄せるといふ形式で入つて來て居るものが多いのであります。ポーランド人、ルーマニア人、バルチック沿岸の住民、殊にポーランドは熱心に移住を奨勵してをりますが、多くは單獨であつて農園で働いても途中で飽いて出て了ふと



云ふやうな所があつて、餘り喜ばれない。然るに日本だけは農業家族移民を主として送るのでありますから益々眞價を發揮する。始めはイタリア人が良かったと言はれたが、この頃はイタリア人も不可ぬさうであります。内々聞きますと思想關係から不可ないさうで、又來ないさうであります。そこで日本人を益々要求するやうになつて、要求の約四割五分、二萬三千人ばかりが昨年も行きました。左様の状況で益々日本人がなくてはならぬやうになつて來ました。私はサンパウロに於きましては、成るべく目立たないやうな行動を取りましたけれども、元州統領であるとか、勞働局長であるとか、元移民收容所長であるとか——それ等の人々は前に參つた時も二度共會つたのでありますが——かう云ふ人達の傳手で各方面の有力者を十五六名訪問し、又一夕食事を共にして話をしましたが、あゝ云ふ國であるから、さうくばらんにやつた方がよいと思つて、コクテールを一杯でよい所を二杯か三杯飲んで一杯機嫌で挨拶すると、現任の州當局が來て居るにも拘らず、在野の領袖が立つてやれば現任の人々も立つてやる。どうしても日本人には來て貰はなければならぬ、と云ふて憲法條項など口に出す人はありません。何れも是非來て貰はなければならぬと云ふ。汽車に乗つて居る時でも成るべく隣の人に話をしたら宜からうと思つて、同行の者にやらせると、そこは人なつこい、民族でありますから日本人と見ると向ふから話しかけて來る。私を海外興業の關係者とは知らないから、實はサンパウロの海興支店で二百家族を要求して來たが、迎もそんなにやれぬ四分の一の五十家族やらう、と云はれる。それでは困る。もつと日本人に來て貰はなければ困る」といふから「それでは移住制限をやつては駄目ぢやないか」と云ふとあんなものはリオでやつて居るさうですが私共は關係せぬことだと云ふ。又或る人は「自分の所には百四十二家族のコロノがあります、その中日本人は四十家族しかない、全部日本人にしたい」と云ふから「日本人は來なくなるよ」と云ふと「それは大變だ」と驚くので、「北部から入れてもよいではないか」と尋ねると、「北部の人は働かないから駄目だ、問題にならぬ」と云ふ「外國人を入

れてもよいではないか」と云ふと「今の歐羅巴人は駄目だ」と云ふのであります。北巴拉ナ州に參りましたが、彼處には英國人がやつてゐる五十五萬町歩の北巴拉ナ栽培會社と云ふのがありますが、そこには日本人が三百家族、獨逸人が二百家族程居ります。私が行きました時も「日本人でなければ困る。獨逸人は來て呉れるが、餘り成績がよくない。日本人が來て呉れないと貴方々ばかりでない。私共も困る。この問題に對して英國の大使館に交渉しよう」と云つて居りました。間もなく北巴拉ナ州の執政官が新聞に「日本人を歓迎しなければならぬ」と公表したのを見ました。サンパウロには十七八萬の日本人が居ますが、頻りに北巴拉ナ方面に流れ出る。私の關係ある南米土地會社も二萬二千五百町歩の土地をそこには持つて居ります。その土地の眞中を前に申した英國の會社が鐵道を敷設致しまして、ロンドリーナと云ふ所迄貫通してゐる。移住組合の所有地にも日本人が續々入つてゐます。何しろ過去四、五年の間にコーヒー園に入つた日本人の数が七、八萬もあります。それが遠からず獨立する。獨立して何處へ行くかと云ふと先づ北巴拉ナ方面に行くのが多い。さう云ふ關係で北巴拉ナは日本人發展の第二の候補地であります。さう云ふ關係で執政官も日本人歓迎を公表してゐる譯であります。

大統領に會ふ時はこの問題に就いては遺憾に考へて居られるやうであるから、餘り話すまいと考へまして私共より言ひ出さなかつたのであります。所が大統領の方から話が出ました。そこで私は閣下の仰しやる通り、從來貴國では日本人を欲しいと仰しやるので、貴國の希望せらるる農業家族移民を送つてゐるのであります。然し日本人はさう澤山は來ませぬ。サンパウロだけでも年に五六萬も來て欲しいと言つて居られるが、私共の方からはさう澤山は來ない。去年も二萬何千、今年も二萬何千の許可で、御希望の幾分は達せられるかも知れぬが、貴國の人の希望通り多くの人を入れ事は出來ぬと思ひます」と申した所が、ブラジルは二十一州もある。過去に於てはサンパウロに多く入れられたが、これからは外の方にも入れて貰ひ度い。どうしても農業を



盛んにしなければならぬから此の點を考へて貰ひ度い」との話であります。そこで近來歐羅巴の方から餘り貴國の希望さるる人が來ないかと云ふことは既に御承知の通りであらうと思ふが、日本の農業家族は農業に於ては非常に勝れた腕を持ち、正直で勤勉であるから、貴國の關係者は之を要求し、我が移住者も貴國の産業開發に協力せん爲に來るので、素質のよい者を出來るだけ選擇致しまして、貴方の要望に副ふ人を送つてゐるのであります。昨年獨逸の某大學教授がゼネヴァで演説した筆記を見ると、何故日本人がブラジルで歓迎されるかと云ふ事を研究して見た處が、或る會社があつて、その會社が政府の監督の下に農業家族移民を嚴撰して送ることに努力してゐる。統制ある組織を以てやつてゐる。これに反して、歐羅巴のものは多くは單獨者で浮浪の徒が多い。それでブラジルには受けないのである。歐羅巴でもあゝ云ふ日本人のやうな組織のある機關を持つてブラジルの要求に應ずる者を送るならば、歐羅巴とブラジル農業者間の關係はもつと密接になりはせぬかと云ふことを演説して居るのであります。これは自分共の會社のことを申したのであります。私も度々歐羅巴に参りまして、歐羅巴移民の狀態を見ましたが、私共の會社のやうなものはないやうであります。獨逸のやうに年に七、八萬も出してゐる所も船會社がやつて居る。かう云ふ獨逸大學の教授の話を大統領に披露致しました所、大統領も十分納得せられたやうでありました。それから聯邦農務長官に會ひましたが、これはミナス、ジエラエス州の出身でありますから、「ミナス、ジエラエスにも日本人を入れて貰ひ度い。日本人はサンパウロで棉花を作つて成功してゐる。あれをミナス、ジエラエスでもやつて貰ひ度い」と云はれました。これはどう云ふ譯か新聞記事になることを避けて居つたのでありますが、其の席に新聞に關係のある人が居つたと見えて、翌日の新聞に會見の様子が詳しく出て、それが日本にも報導せられたと云ふ事を歸つてから聞いたのであります。それから移民誘入に關する直接關係省は勞働省であります。勞働大臣は新任早々でありましたけれども、二度目に會ひました時に「世間では自分が日本人に似て居ると云ふ

ことであるが、さうですか」と云ふ。四十前後のまだ若い人であるが、よく似てゐるから、似てゐると云ふと、「似てゐるか、儼ア日本人が好きだ、詳しいことは局長が扱つてゐるから局長と能く話して貰ひ度い」と如何にも親しい感じがしました。それから最近まで外務大臣をして居つたメロ、フランコと云ふ人。これはゼネヴァにも居つて、國際の平和に貢獻してノーベル賞を貰ふとか、貰はぬとかで世界的に有名な人ですが、この人も「憲法であゝ云ふことが規定されたのはひよつとした行懸りで日本人を知つてゐる者はさう云ふ考へはなかつた、寔に遺憾なことである。あなたは此の問題に懸念なく從來通り移住者を送り出して貰ひ度い」と云ふことであつた。又憲法會議の議長で、ミナス州出身のアントニオ・カロスと云ふ方があります。前のミナス州の統領で今回も大統領候補者の一人でありましたが、極めて社交的人で、参りますとブラジルの人がよくやるやうに肩に手をかけて「よく來て呉れた。まあ座れ」と云ふ調子で、劈頭第一に「憲法會議でコート博士一派があゝ云ふことをやつたけれども、あれは實行出來ないことで、どうしても改正しなければならぬから、何とか方法を講ずるから必要なものは入れて貰ひ度い」と云ふ話でありました。私は高松宮殿下を總裁に戴いて居ります日伯中央協會の常務理事をしてゐます關係で、殿下の御思召で大統領、憲法會議議長、外務大臣その他に記念品の贈呈方を御命じになりましたので、之を贈呈致しました所、又々丁寧なる感謝の答辭がありましたが、議長は特に手紙を以て殿下に謝意を表し又私にも信書を寄越されましたが、其の文句中にも日本人を歓迎する趣旨が明記されてありました。

それから革命政府に殊勳のありました陸軍大臣のゴニス・モンティロと云ふ方に會ひました。この方は夙に我が軍事の優秀に憧憬し日本に來たがつて居られました。大使館と一緒に食事をしました時「來年は日本に行き度いと思つてゐる」と云ひ、その翌日正式訪問をした時にも「同様に日本に行き度い」と云はれますから、日本にお出になつたら吾々の日伯中央協會でも大に歓迎し

ませう」と申したのであります。そのことが新聞に出で、私と陸軍大臣の寫眞と共に記事となり、「陸相が日本に招待された」と書いてあつた。實は招待したのではなく、向ふが行き度いと云はれたのであります。又この方はミナス州には部下の旅團長が居るから電報を打つて案内させるから行つたら宜からうと云はれますので、之をお受けして其の翌々朝にベロ、ホリゾンテと云ふ州の首府に行つて見ると旅團長が出迎に來て居る。其の案内で州の執政官にも面會しました所、執政官の云はれるのに「ミナスも日本の農業家族を要求してゐる、どうか今後は大に日本人を入れて貰ひたい。最近三家族ばかりを或る學園に入れたが非常に成績がよい。行つて見て貰ひ度い。」とのことで行つて見ると最初の三年間月三百ミル(今日約八十圓位)を支給して生活を保障して土地を開墾させ、三年後は小作料として収入の三割納めしめ残りの七割は日本人に呉れると云ふ非常にいい條件である。それで「友達をどん／＼招び給へ、政府も希望してゐるから」と言ふて來た譯であります。

さう云ふ風に到る處、町の中に於いても、汽車の中でも、又今申した政權を握つて居る人々の間でも、少しも日本人を嫌ふと云ふ情況はないのみならず、益々之を要求する情況にあることは事實であります。

それじや直接の當局はどうかと云ふと、これは公言し兼ねるが、「憲法は制定されたけれども之は何時實施になるか分らぬ。五十年間の定着數と云つても、一九〇七年からの統計はあるが、その前は統計がない。これを調べるのも容易じやない。どれだけの日數がかかるか分らぬ。此の問題は實際の經驗者の意見を徴して居らぬので、これを實行することは容易ではない、先づ現状で當分推移するの外なからう」と云ふのであります。それで私は憲法であゝ決められた以上は去年と同じやうにと云ふ譯にはいかぬでせうと申しますと、今どう云ふ風に進めて行くか研究して居るから年末になつたら、重ねて君の祕書を寄こして貰ひ度い充分御話するからと云ふことで別れた次第でありました。

更に法理的に申しても「移民」と云ふ字に就いても疑問がある。現行の移民入國施行規程に於ても移民の定義は種々に解釋する餘地があり、憲法所定の二分制限は生活の保證なき者に當敵めるのであつて都市に於て失業すると困る者、即ち失業者緩和が其の動機であるから、農業移民の如き國の開拓に貢獻する者は必要であるから、此等は依然入國して貰はねばと云ふ様な次第で、これはハツ、キリ、サンパウロで言つて居りましたし、又中央當局も略々同様の意見でありました。ブラジルが日本人を要求してゐることは明白な事實でありますから、此際なるべくブラジル人の感情を刺戟しないことが大切であります。困るのは何處でもあることです。排日の巨頭と云はれたコート博士等に對して脅迫狀を送つてゐる。コートは死んだけれども、後を繼いだ人が其の書面を持つてゐる。又ネバー博士の所にも脅迫狀を送りつけた。私の祕書は、このネバー君と懇意でありますから、リオに着くと同時に挨拶に行きました所が、自分は日本人に嫌はれてゐるので、もうお前に會へぬと思つた。實はかう云ふ譯であると縷々話した後私にも手紙を書いて寄越した。ネバー博士には私も一度彼を某旗亭に招んだ。始めての面會であつたが、ネバー君の自動車をやつて來たのですぐ行つて握手した。ところが始めは私と會ふのを氣拙いやうに感じてゐるらしく、それ程神經の細かい人だと見えたが、私は此方へ來給へと云ふやうな具合でやつたのであります。そこへ二十七八の青年を連れて來た。そして云ふのには、實は貴方の知つて居られる通り、此度は日本人の氣に逆ふ事をした、外へ出ては日本に最負をする人と闘ひ、家へ歸ると此の倅からお父さん馬鹿なことは止しなさいよと云はれる。實に内外に敵を受けて居つたのです。然しブラジルの諺に子供が十八歳になつたら親は子供の言ふことを聞かなければならぬと云ふことがある。これが私の倅ですと、紹介されて、親日家の倅と一緒に食事をしましたが矢張り脅迫狀を送られてゐる同君もサンパウロだけに入れないでブラジル全體に日本人を入れて貰ひ度い、バイア州にも入れて貰ひ度い。日本人をよく知らさうと思ふなら全體に分布せなければ駄目だ、全體にや

れば日本人の信用が益々上がるだらう。と云ふことであつたが、然しこれだけでは誤解が起るかも知れないが、實はサンパウロにはすぐ行つて飯が食へるだけの方法があるのであります。外の州から來て呉れと言つても、外の州では多くの人が行つてもすぐ飯が食へるやうになつてゐないから、行くなら金を持つて行かなければならないので實行は困難である。けれども彼等の氣持は屢々申上げたやうであります。

以上に申しましたことを一言にして云へば、全體に於て日本人に對する感情は前と違はぬと云ふことであります。然し國民主義の主張より人種の統一とか、國民の血の純化とか云ふことを申して居ることは是れ亦事實であります。ミゲエル・コートの如きも移住制限を國家的見地から熱心に主張したのであります。その結果あゝ云ふやうなことになつた。

以上の見方は樂觀のやうに思はれるだらうと存じますが、私の觀測も條件付きです。條件付きと申しますのは、無爲ではないが餘り事を急がず、移民問題は國內關係であるから、彼の國の善處に任せて置くのが一番よいのじやないかと云ふことであります。(以上略)(拍手)(文責在記者)

## 國際地理學會議と過剰人口委員會

研究員 小 田 内 通 敏

(本稿は十月二十二日理事會の後、小田内研究員のなせる第四回國際地理學會議出席報告の速記である。……編輯)

### 一、國際地理學會議

#### 二、過剰人口委員會

#### 三、日本景觀展覽會其他

### 一、國際地理學會議

今回本會や國際文化振興會、文部省等の御援助によつて、私の出席しました國際地理學會議は、第一回はカイロ、第二回はケンブリッジ、第三回はパリ、第四回はワルソーで、三年目に國際地理學聯合會に附帶して、開かれる會であります。

會議の組織は、六部になつて居ります。即ち、(一)製圖學、(二)自然地理學、(三)人文地理學、(四)先史地理學、(五)地理學の歴史、(六)地理的景觀、(六)地理教育の方法で、地理的景觀は、今年から新しく設けられました。是等の諸部門に所屬してゐる委員會はいろ／＼ありますが、過剰人口委員會は、第三回がパリで開かれました時に提案されて、今回の會議から具體化された譯であります。會議は八月二十三日から三十一日まで續きましたが、會議の前と、會議の中と、會議の後にエキスカージョ



ンが御座りました。この會議の前のエキスカーションと後のエキスカーションは、相當長いものでありましたが、會議中のエキスカーションは一日でありまして、恰度日曜日で二ヶ所にありました。私は一つだけ参加し、参りました所は古い市場町でありました。ドイツの學者はバリーの時には、殆んど参りませんでした。今度は相當の方々が来てゐましたし、殊に少壯の方が来て居りました。またロシアからも参りました。エキスカーションの外に——巴里の時はなかつたのでありますが、——地理學一般の問題に對する特別の講演がありまして、それが毎日一時間づゝどの部門にも抵觸しないやうな時間に、大學の特別講演とも言つたやうな講演が御座りました。例を申しますと、有名なロシアのシュミッドの北極探險の話が、本人は参りませんでした。が、代講でありました。また之に關する活動寫眞もありました。イギリスの人文地理學の大家フルールと云ふ人の「人類の中心地とその分散」と云ふのは、幻燈入で講演されました。この地理學一般の問題に關する特別の講演の外に、特殊の講演としましては、ポーランドに關する講演が半日御座りました。このポーランドに關する講演には、ポーランドの氣候・植物・古代ポーランド・人種・土俗・主要都市等に就いての特殊の講演でありました。斯様な講演の外に博物館、城廓の見物などをやりました。

六つの部門に就いて大體の事を申しますと、前のバリーでの會議よりも非常に組織化した點であります。各部門にはプレジデント、バイスプレジデントが設けられ、オーガナイザーを中心としてその下にセクレタリーは常任で活動しました。各部門の中で、(一)製圖學の方は三日、自然地理學は五日、人文地理學は五日、歴史地理學が三日、地理的景觀は今年新しく出来たので一日だけで、地理教育の方は一日半であります。過剰人口に關する委員會は、人文地理の部門に屬しておりますが、人文地理の重要な題目の中で、人口問題に關するものは植民地・移民・風土化、産業の分布、都市地理の三つがあるのであります。人文地理の重要な題目の中で、一番澤山の人が集まりましたのは、バリーの時の會議でも同じことでありましたが、村落居住であつて、五日間

の中、一日半もこの委員會の報告並に論議にかゝりました。その中最も重要な研究報告は、ポーランドのポツナン大學のツェカルスキーと云ふ若い教授でありまして、——勿論フランス語でありますから内容は私にも分りませぬが、——地圖を見て居ると、先づ研究の方法論を述べ、次に本論としてはポーランドの村落居住の綜合的研究と云ふのであります。村落居住の研究に就いては、ベルギーのルフェーヴルといふ女博士は、よく質問されましたが、ツェカルスキー氏の講演に就いては、非常にほめておられました。このツェカルスキー氏の研究は、主任教授バヴォロスキー氏との共同のものであります。

## 二、過剰人口委員會

過剰人口委員會に關する報告は、同じく委員會組織である村落居住が第四回であるのに比べて、初回である丈、その報告は半日で、約三時間だけでありましたが、聴講者は、百人近くで、この委員會の將來の成長を豫想せしめました。今その内容を極く簡単に申しますと、

人口分布の圖的表現に就いて、二つばかり報告がありました。過剰人口に關する報告は、五つ、外に移民に關するもの一つでありました。

過剰人口に關するものに就いては、一、地方的のもの、二、一國に關するもの、三、研究方法に關するものといふ順序で御話申上げたいと思ひます。

### 一、西部アフリカに於ける人口の中心

相對的に人口の稠密である地域に二つの類型があるが、その一つは、人口の稠密が古くからあつたと思はれるモッシのやうな奥地であり、他の一つはセネガル地方の落花生の生産地のやうに、比較的新しく人口が増加し、現在も増加しつゝあり、經濟的に發展した地域である。

ふるくからの人口の分布は、單に自然的事變の影響や、地方的資源に對する適應だけによつては説明されない。また新しい分布は、植民及び新しい經濟的事變の影響の下に行はれる。

現に行はれてゐる農業制度によつて説明されるところの小さな地方的移動の外に、一層大きな範圍に亘る人口移動が看取されるが、それは勞働地域への季節的移住である。かゝる移住は、相對的な過剰人口の状態を示してゐる。

一地方の農業資源に對する相對的過剰人口は、人口の増加によつて激化される事があるが、かゝる人口の増加は確實な事實である。西部アフリカの人口の發展は、經濟生活の中心地への人口の再分布、土着民の奥地への植民及び農業制度の改良を行はしめる。

## 二、ディナルアルプ山嶽地域の過剰人口

ビー・ゼット・ミロウエキー

ディナルアルプ山嶽地域は、廣大な要害をなしてゐるユーゴスラヴィアの西部で、南西のアドリアチック地方と北東のパノニア地方とに分れてゐる。この地域は、北西から南東に廣がつており、ドニヤ、プラニナ及びセルクニカのカルスト高原に始まり、コンヴォ及びメトヒヤの盆地の手前で終つてゐるが、廣さばかりでなく、高さも同じ方向に向つて加はつてゐる。即ち北西部では廣さ約六〇キロメートルで、諸高原を分つ諸山脈は、一八〇〇メートルの高さに達してゐるが、南東部では、高さ

は一八〇キロメートルで、諸高原に聳えてゐる高峰は、二二二〇メートルを超えてゐるものが多い。

このディナルアルプ山嶽地域に於ける人口密度は、かなり低い。即ち土地が幾分低い北西部では、一平方キロメートルの人口密度が四〇人乃至二五人であり、もつと土地の高い南東部では二五人乃至一五人である。殊にタラ川及びビヴァ川流域の南東部では、人口密度更に減少し、一平方キロメートルに就き、僅かに一五人——〇人に過ぎない。かゝる低い人口密度であるに拘はらず、このディナルアルプ山嶽地域は、移動の潮流の源泉地の觀を呈しており、一方は、北東即ちサーヴ及びダニュブ兩河の流域に、他方は南西即ち海岸及び島嶼へ移動せしめてゐる。かく人口の稀薄な地域が、人口を送り出して、過剰人口地域のやうな作用をなしてゐる。

このディナルアルプ山嶽地域は、人口は稀薄であるとは云ひ、密度は極めて高いことで特色づけられてゐる。村落は或は高原に或は低い谷に位置しており、住民は幾分は農業をやつてゐるが牧畜に従事してゐるのが多い。土地が石灰質で概ね不生産的である部分が多い事と、牧畜經濟であるので、牧人は畜類をつれて山に登りそこで夏を過ごす事になつてゐるが、村落が人口過剰となるのは、牧人が高原に定住し、今までの一時的の居住を定住に變へる時に起るので、ビエラスニカ山の南西部や、ドゥルミトール南東のイエツェラ高原にそれが見られる。

たとひ人口が稀薄でも、溪谷や懸崖に密集してゐるディナルアルプ山嶽地域の過剰人口は、もつと低い近接地方に移住する。近接地方でも南西の海岸や島嶼は同様に人口が過剰であるから、北東のパノニアの廣い平野に向つてゆく。この移住に先ちて屢々季節的移動が行はれるが、この移動は、家畜と共に冬越をするために、また夏季農業勞働者として數週間を過ごすために、山人をこの平野に導くのである。

## 三、オランダは過剰人口か

シリル・ド・ヴァン

オランダの人口密度は、極めて稠密であるばかりでなく、今なほ毎日に増加しつつある。

それ故に、特殊な條件でない限り、自國の食糧資源のみで、住民の必要を満たす事は出来ないであらう。この特殊な條件は實現するに六ヶしい。

現在の恐慌に至るまでは、極めて有利な地理的要因は、全人口に對して人間的生活を営む事を可能ならしめてゐた。しかしこの國の繁榮に不利な影響を及ぼした恐慌は、オランダの經濟生活の弱點を暴露した。かく失はれたものを取戻すためには、國の經濟機構の變革が必要であると思はれる。これは可能であらう。

## 四、ベルギーは過剰人口か

ペー・エル・ミシヨット

ベルギーの人口は、一世紀の間に二倍以上となり、現在は一平方キロメートルに就き、二六五人の密度を示してゐる——（一八三〇年以來の人口移動は農業人口、工業人口、都市人口に行はれた）。

全國民八百萬の人口は自國の農業生産物の九五パーセントを消費し、かくして食糧需要の八〇パーセントを満たしてゐる。（これはベルギーの農業經濟の重要な構造である）。不足は部分的には農産物の輸出によつて、殊に工業品の輸出によつて満たれてゐる（ベルギーの一部の工業化による工業生産物の交易）。

移入と移出から見ると、ベルギーは人口過剰ではない。人口の若干の階級は、過去一世紀の間、種々な時期の労働者の家計

が示すやうに低い生活標準にあつたとしても、それは生産の不足よりも寧ろ富の配分に基因してゐる。

現在の恐慌状態に於てさへも、失業並に人口學的測定によると、それは相對的且つ一時的過剰人口たるに過ぎない。

## 五、ポーランドに於ける過剰人口の調査報告

ヴィクトル・オルミスキー

過剰人口に關する調査は、國內移動の研究に役立つ事が出来る。

移住民の數が過剰人口に比例するとしたならば、我々は、移動の強さとその地理的分布の分析によつて、過剰人口地域を決定し、且つ特殊なる地方に於ける過剰人口の程度を確める事が出来るであらう。

過剰人口の恐ある地方を觀察するために、我々の研究は、近き將來に於て、移住と人口密度、特殊密度（耕地百ヘクタールに對する住民數）、可能耕地の量、農村財産所有者と土質との割合の相互關係の進化を對象とするであらう。

人口の増加度を繼續的な計算による考察によつて、我々は豫測された過剰人口の状態が、完全な事實となるであらう事を略々決定する事さへ出来る。

余は右の如き方法によつて、ポーランドに於ける過剰人口に關する調査の過程によつて得られた結果を提出した。

（註一） 移住の強さは、次の三つの方法で表現される。一、一平方キロメートルに對する住民の數、二、自然増加のパーセンテージ、三、總人口のパーセンテージ。

（註二） 計算は、變化の少ない自然増加、國內移住の消滅、或は自然増加の減少等、人口統計的過程の發展の若干の可能性を考慮しなければならぬ。



なほ「移住並に風土馴化を主とする植民の地理的類型」に關する報告の中で、人口に關するものを申し上げますと、  
六、過去十年間に於けるポーランドの移民の考察

ゼルツェ・ロット

ポーランドの人口の發達に伴ふ過剰によつて、國外に移住した歐洲大戰前の状態を顧みるに、ポーランドの移民はドイツ・オーストリア・ロシア等の諸國に赴いたが、何等政治的の保護がなかつたから、到る處虐待され利用された。しかし共和國獨立後はその状態が一變した。世界に於ける移民の危機はポーランドにも影響し、一九二九年を頂點として減じて來た。

ポーランドの各州からする移民は、その數に於てもまたその職業に於ても、各地の地理的並に經濟的諸條件と密接なる關係を有してゐる。最近ポーランドの移民の行先は著しく變つて來た。例へばヨーロッパに於ては、ドイツへの季節的住民は、ヒットラーの政策によつて妨げられ、ためにラトヴィアやデンマークにゆくやうになり、またこゝ數年間は、北フランスに相當の移民が吸収された。ポーランドのユダヤ人はパレスティンにもゆくやうになつた。

ヨーロッパ大陸以外の移民に就いても著しき變化があつた、アメリカに於ては合衆國には絶えず行つてゐるが、カナダやアルゼンチンにもゆくやうになつた。殊に南米ではブラジルよりも、アルゼンチンにゆくやうになつた事は注目すべき事で、是等移民の現象は、その數に於てもまた理由に就いても分析的に研究する必要がある。

世界の何れの國が、ポーランドの過剰人口に向つて開かれるであらうか。國內の過剰人口をいかに養ひ、またその移住を奨勵するに就いての政府の施設が如何になさるべきか。是等は當面の研究問題である。

以上諸講演の要約は、極めて簡單ではありますが、日本の過剰人口の研究に對して、相當示唆するものがあると思ひます。殊

にミロウエキー、オルミスキー二氏の研究を通じて、我々は過剰人口を、密度と移動の方面から研究すべきヒントを得たのであります。密度に就いては、私も本會から『日本人口密度圖』を公にする事を得たのでありますが、この密度と移動の關係に就いて更に研究したいと思つております。またロット氏の人口移動に關する研究は、地圖やグラフを澤山用ゐての實證的の報告でありましたが、會議後、同氏の自宅を訪れた際に、ポーランドには移民の出生地・職業・宗教等を精細に調査する特別な機關のある事を聞き、この種の統計の乏しき我が國としては誠に羨しく思ひました。

以上の講演者中、ベルギーのミシヨット氏は、人文地理學部門に於ける重要な人で、過剰人口委員會の委員でもあります。過剰人口委員中、重要な委員であるフランスのドゥマンジョン氏が病氣の爲缺席された爲に、正式の委員會も組織的には開かれず、今冬バリーで開かれる事になりました。かゝる事は、ヨーロッパ諸國は、交通の關係上、往復が短日月でなし得るので、極めて便利であり、また羨ましく思ひます。今回の會議が何處で開かれるか決定しない前でしたが、私は偶然會議の食堂で、過剰人口委員會の委員長ともいふべきイギリスのフルール氏に會ひましたので、今回はアメリカ合衆國でないかといひました處——會頭ポーマン氏はアメリカ合衆國でありますから——フルール氏は、「アメリカ合衆國などは……」と言葉を濁した處を見まして、

私は前回のバリーの會議の時に、過剰人口委員會委員に擧げられましたので、柳澤本會長の援助により、柳澤本會長を總裁とする柳澤統計研究所に於て、助手廣重領平氏と共に、

日本の過剰人口の地理的研究

をなす事を得ましたが、之を本會議に報告するに先ち、東照宮三百年祭記念會より、その結果の要約を英譯並に作圖する費用を

援助されましたので、御手許に差上げたバムフレットを配付いたしました。

# 日本の過剰人口の地理的研究 (英文)

一 過剰人口なる言葉の概念に就いては、經濟學者・社會學者等、それらの見解が異つてゐるが、こゝでは、激しい人口増加の爲に、一定の生活水準を保持し得ずに、繼續的に低下する状態に立ち至つた場合を意味する。

島國であり且つ山國である我が國の自然的特質は、更らに東北から西南に狹長に延びてゐる關係から、北部の北海道から奥羽にかけての地域と、瀬戸内海地域から九州にかけての地域との間に、氣候の差異が著しく、従つてそれに依據する農業經營に地域的差異をあらはしてゐる。本州中央部に於てすら、沿海地域と中部の山地地域との間には、氣候及農業の諸状態を異にしてゐる。かゝる我が國の地理的條件の地域的差異は、やがて人口の地域的性質を規定し、また各地域間の交通と移動とをも妨げた。

加之永い封建制度下に馴致された經濟組織と社會的環境は、明治以前に、既に地域的に過剰人口を招來するに至つた。當時我が國の經濟機構は、農業經濟を基底としてゐたから、その過剰人口は、主として村落に於けるものであり、爲に人口制限さへ行はれた。然るに封建制度の崩壊は、産業の分化と職業の自由選擇と交通機關の發達とを來し、之によつて村落に於ける過剰人口の存在を著しく稀薄にした。加之明治中期以後の資本主義の急速な發達と近代的都市の發展とは、村落の過剰人口を吸収し、爲に生活水準の向上をも結果した。

## 二

我が國の人口増加の傾向は、約半世紀以來の事で、それが近年殊に高率を示すに至つた。即ち一九二〇年より一九三〇年に至

る十年間の増加は、八四八萬を超え、その後半期に於て殊に著しい。一九三〇年以後に於ける増加は更に多く、約百萬の人口が一年に新に増加した年すらあつた。かゝる人口増加の傾向に對しては、我が國の識者の關心漸く大に、之に關する豫測が試みらるゝに至つた。之を要するに、一九三〇年の我が國內地の人口は、六四四五萬であるに對し、十年後の一九四〇年には略々七一〇〇萬、更らに十年後の一九五〇年には、七八〇〇萬乃至八〇〇〇萬と推算されてゐる。

日本内地人口増加豫測比較表

| 統 計 局 | 上 田 博 士 |        | 左 右 田 氏 |        | 下 條 博 士 |  |
|-------|---------|--------|---------|--------|---------|--|
|       | (千單位)   |        | (千單位)   |        | (千單位)   |  |
| 一九二五年 | 五九、九七五  | 五九、七三六 | 五九、七三六  | 六四、〇九七 | 六四、〇九五  |  |
| 一九二六年 | 六三、二五七  |        |         | 六六、八六〇 | 六八、五二七  |  |
| 一九三〇年 | 六六、八三三  |        |         | 七一、一二三 | 七二、六二六  |  |
| 一九三五年 | 七一、六八一  |        |         | 七五、六六七 | 七六、二九八  |  |
| 一九四〇年 | 七六、一四四  |        |         | 八〇、四三七 | 七九、四五四  |  |
| 一九四五年 | 八〇、七六八  |        |         | 八五、二九二 | 八二、〇一四  |  |
| 一九五〇年 | 八六、五六三  |        |         |        |         |  |
| 一九五五年 | 九〇、三四七  |        |         |        |         |  |
| 一九五九年 |         |        |         |        |         |  |
| 一九六〇年 |         |        |         |        |         |  |

更らに要職業人口の増加の傾向を考察するに、今後十五年乃至二十年間に於けるその増加は、既に出生せるものからの増加で、それは動かすべからざる現實であつて、それが年々三四〇萬の増加を意味する。故に過剰人口に悩める我が國としては、こ

の要職業人口の解決は現下の人口問題の最も重要な問題である。

(註1) 第四型に屬してゐるといはれる我が國の人口を、産業との關聯に於て考察するに、我が國の農業は、過小農經營を特色とし、農家一戸當の耕地面積は、僅かに一ヘクタールに充たざる所が多い。加之地勢の關係上、耕地の擴張面積は、殆んど限度に達してゐる。のみならず單位面積當の生産收穫量は、十數年來固定化し、最近に至つては減退の傾向すら示してゐるものが少なくはない。かゝる現象は、著しく農村人口を壓迫してゐる。

(註2) 過剰人口委員會は、地理學的見地から、世界の過剰人口の主要なる諸型を左の五つに分けてゐる。

第一型 (北部支那・ガンデス河流域・中部印度・アフリカの或地方の土民・アイルランド東部・ヘブリデス)

第二型 (エジプト・南部ロシア・ジャヴァ・ルーマニア)

第三型 (北アメリカ合衆國の諸地域)

第四型 (ポーランド・イタリア・日本)

第五型 (ドイツ・ベルギー・オランダ・イギリス)

其他都市・島嶼・山嶽地域の人口型がある。

(註2) 一九三〇年の國勢調査の抽象調査に據れば、主要産業に依存してゐる割合は左の如くである。

農業人口四五・% 水産業人口二・三% 鐵業人口一・三% 工業人口一八・二% 商業人口一四・七%

農業に次いで人口を支持してゐる工業は、輕工業を主とし重工業を從とする。これらに従事する工場労働者數(從業者五)の推移を見るに、歐洲大戰前の一九一四年には九四萬餘に過ぎなかつたが、大戰を契機として劃期的な發展をなし、一九一九年には殆んど倍大に近き増加をなし、爾來その増加は停滯的ではあるが漸増し、一九二八年には最大となつて一九三萬を算し、之を頂點として減退の傾向に轉じた。しかし企業形態の擴大と生産組織並に資本構成の高度化とは、労働の強化並に能率の増進と相俟

つて、反つて生産力を増大ならしめてゐる。なほ關心すべきは、我が國の工業の規模の現在、五人未滿の労働者を使用する小工場の従業者數が、五人以上を使用する工場に於けるそれよりも大なる事であるから、企業形態の擴大と産業の合理化の進展する將來に於ては、工業生産の増大するにも拘はらず、益々工場労働者數の増大を阻む事になるであらう。

以上述べた農業人口のみならず、水産業に於てもまた鐵業に於ても、それらによつて支持される人口は、生産力の増大するに拘はらず、停滯または減退の傾向を示してゐる。殊に近年に於ける經濟界の不況は、村落に於ける過剰勞力と都市に於ける失業群の増大を結果し、こゝに新たな過剰人口の重壓を發生するに至つた。

過剰人口を緩和すべき方策としての我が國の移民は、その數極めて少なく、北米及濠洲等に於て、我が移民の渡航を制限又は禁止しなかつた一八九九年から一九三二年まで、三十三年間に於ける海外移住者總數(再渡航を含む)は僅かに五五萬二千で、最近に於ける我が國の一ヶ年の自然増加の半に過ぎない。

かゝる日本の人口現象は、日本國民夫自身の研究對象であるばかりでなく、實に世界の諸國民の研究對象たるべきもので、日本の人口と産業との關聯は、第四型よりも第五型に移行しつつあるといふべきであらう。

### 三

我が國の過剰人口には、全國を單位としてのそればかりではなく、時と場所との交互作用によつて、更らに地域的差異をも生じてゐる。即ち人口増加の諸要因たる婚姻、出生、死亡並に年齡構成、また自然増加、職業構成に於ても地域的差異があらはれてゐるばかりではなく、農家一戸當耕地面積、耕地一ヘクタール當農業生産額、人口の密度、人口の移動等に於ても著しく地域的特色があらはれてゐる。是等の解釋こそ地理學的考察に待たなければならないものが多いと思ふ。左に主なる諸地域に於ける



特色を略述すれば、

琵琶湖の西南、文化のふるい近畿地域から瀬戸内海地域では、氣候温和で、耕地の農業生産力が高く、工業の就業率も多く、

人口の密度から見ても、飽和に近い地域で、人口の移出が多く、現住人口の増加が低い。

琵琶湖の北東、日本海に沿ふてゐる北陸地域は、冬季雨雪多く、耕地の生産力少なく、死亡と移出共に多く、従つて現住人口の増加が極めて低いことは、氣候と人口と産業の相關關係に特色が多い。

風土の暖熱な太平洋岸の東海地域と九州南部とに、共に死亡と移出が少なく、爲に現住人口の増加の割合が高いのは、氣候と農業との相關關係が深いからであると考へられる。

東北地域は、その地理的位置上、氣候涼冷に積雪深く産業並に文化がおくれてゐる。婚姻、出生、死亡の割合が共に高く、また移出、移入は共に低い。従つて自然増加並に現住人口の増加は割合に高い。農家一戸當の耕地が廣いにかゝらず、その生産力少なく、従つて生活水準が低くめられ、人口の密度は北海道を除いては最も低い。

北海道は、明治以後の拓殖地域であるから、あらゆる人口状態にそれがあらはれてゐる。殊に人口の増加は、自然増加ばかりでなく、移入(殊に東北・北陸の二地域よりする)によるもの極めて大である。たゞ、氣候涼冷で一戸當の耕地が廣いのに拘はらず、耕地の生産力極めて低いから、道廳の移住奨励があるに拘はらず、移入者の再移出が少なくない事は、本道の人口問題上注目すべき現象である。

外に大都市並に工礦業の中心地を抱擁する諸地域が、人口の自然増加の割合が低いにも拘はらず、現住人口の増加の大なる事は、人口の移入の多い結果であつて、東京・大阪二府の如きは殊に著しい。

之を要するに、最近四十年間(一八九〇—一九三〇)に於ける現住人口の増加率の地域的差異は、村落人口の密度の低い地域に増加し、密度の高い地域に於て停滯してゐる。一九三〇年の國勢調査の結果に徴するに、人口の移出率、移入率並に固定率にも地域的差異がある。故に是等を検討して、如何なる地域が、從來土着の人口を支持し或は移出したか、また從來移入の人口を吸収し或はなほ吸収し得る餘地があるか。これらを究明しての地方的解決は、勿論政治的方策に據らなければならぬが、この地方的な過剩人口の合理化に對する科學的解釋は、地理的並に地域的研究に待つべきもの少なくはない。この種の研究は、我が日本の地理學界には漸くその曙光を見たに過ぎない。従つて過剩人口に對する國民的自覺もまだ十分なる認識に達してゐない。しかし限られた領土と限られた資源に對するこの人口の重壓は、やがて日本國民をしてその輕減と緩和に就いての具體的な解決方法を見出さしむるに至るであらう。國際的な學術研究機關たる本會議に於て、この世界的な過剩人口地域に對して、相當な關心をもたるゝ事は、決して徒爾ではないであらう。

以上の報告に對しては、日本の自然増加率の絶大なのに比して、海外移民の少なき事、また海外移民を解決すべき地域としての滿洲國の關係等に就き質問がありました。なほ報告を實證する意味で、道府縣別に婚姻、出生、死亡、自然増加、移動、農家一戸當耕地等を比較すべき十二枚の地圖を示しました。

私は、以上のバムフレットの外に、日本に於ける人口問題の研究を明かにするために、

# 一、日本の人口研究文献摘錄(英文)

## 二、日本の人口研究文献目錄(英文)

を配付しましたが、文獻摘録には、井上修二・石橋五郎・寺田貞次・上田貞次郎・小田橋貞壽・高岡熊雄・高倉新一郎・川人定男八氏の主要論文各二篇を載せ、文獻目録には、地理學その他の諸學の主要論文並に主要地圖等に就いても紹介しました。

なほ私は、日本の村落人口の過剰な状態を、具體的な實例で證明しやうと思ひまして、かねて研究してゐた東京府南多摩郡恩方村案下部落(戸數四六戸)に就いて、左の三つの地圖(フランス文解説)を作り、

一、土地利用圖(一八八四年—一九三三年比較)

二、職業推移圖(一八八四年—一九三三年比較)

三、過剰人口移動圖

過剰人口の状態を精細に實證し、その生活状態を明かにする爲に、十數葉の寫眞をも添へましたから、過剰人口委員會の委員は勿論、村落居住委員會の人達も非常な興味を有つて見、これをノートにとつた人さへありました。この三地圖とその解説は、『聚落地理學論文集』に、「村落共同體の地理的研究」として發表し、本會議の特殊研究者に配付する準備中であります。

また本會の研究員館稔氏の日本の婚姻率の地域的差異を明かにした地圖、同じく研究員増田重喜氏の日本の出生率と景氣變動の相關關係を明かにするグラフをも示しましたが、何れも日本の人口現象に就いて、相當に理解を與へる資料を提供し得たと思ふのでありまして、會議後ボーランドの新聞にも報導された事でも明かであります。

今回本會から出版いたしました拙案『日本人口密度圖』は、今度の會議に附帶事業として開かれた大規模の「地圖展覽會」に出品しました。之を本會からの御委嘱により特殊研究家六十人に之を配付しましたが、非常の好評を受けました。殊に人口研究關係の人達は、本會が事業團體であるか、出捐團體であるのかを質問しますから、本會が事業團體である事を答へましたら、ボー

ランドを始め、諸國の研究團體が、少數の人で效果的に仕事をしてゐる事を聞かされ、私共も大にやらなければならないと思つたのであります。

承れば、かねて本會で企てゝおられた人口問題研究者を集むる同攻者の會合を最近お開きになるさうですが、出来るならば、來年あたり、日本全國の人口問題研究會議を御開きになる事を望みます。

### 三、日本景観展覽會其他

私は、一九三一年パリで開かれた本會議の時に、日本の風土を紹介しやうと思ひまして、同學各位の御援助の下に「日本人文地理展覽會」なる名稱の下に、種々の出品を持参したのでありますが、今回も、私が文部省に於て郷土教育を擔當しております關係上、普通學務局より道府縣の師範學校長宛に、

村落の土地利用・労働・居住・生活

に關する寫眞の寄贈を求め、之を整理(英文)して、一々その地理的分布を明かにするやうに分布圖をも添へて持参しました處それが鐵道省國際觀光局からの出品をも合せて、大版百餘枚になりましたので、特に

エキスポジション、オフ、ジャパネース、ランドスケープ(日本景観展覽會)

として大きな室に陳列してくれましたので、これまた日本を紹介するのに非常に好都合でした。多くの人達から寄贈の希望があり、中には出版されたくらう知らしてくれとの依頼もありました。殊に本會聯合會のプレジデントでありまたアメリカ合衆國の地理學會のプレジデントであるボーマン氏は、これを丁寧に見て、同地理學會に研究用として備付ける爲に、土地利用・労働・居

住・生活の最も類型的な寫眞數十枚の寄贈を依頼された事を見ましても明かであります。のみならず、ポーランド氏は、閉會の辭に於て、次にオランダのアムステルダムの會議の時には、今回開設せられた「地圖展覧會」を繼續して開催せらるゝ外、特殊な展覽會の開催をも望まれた事は、特殊な展覽會としては、今回の「日本景観展覧會」より外になかつた事に徴しても相當に功果を収めた事と思つております。顧みれば一九三一年にバリーの會議の時にも、他國の展覽品は、極めて少なく、我が「日本文地理展覧會」の出品が大部分であつた事から、今回の本會議に展覽會が附設されるやうになつたのでありますから、これを好機に會議毎に特定の題目により日本を紹介する展覽をなす事が有意義であると思ふのであります。「地圖展覧會」におきましても、アメリカ合衆國のものとソヴェト聯邦のものが、極めて組織的に出品されておるのを見て、羨ましく思ひました。日本からも、陸地測量部から出品されましたが、地圖の研究は各大學・専門學校その他諸學校の地理教育上、相當に研究されておりますから、是等を組織的に出品されたならば、日本の地理學竝に地理教育の紹介に好機會であると思ひました。日本の人口狀態の研究なども、幸に過剰人口委員會(註)が設けられてありますから、今後とも組織的に出品される事が、日本の過剰な人口現象を、正當に歐米の學者に理解さすのに適當な機會であると思ふのであります。

(註) 最近右會議の幹事長たるドウ、マルトンヌ教授からの來信によれば、村落居住委員會と過剰人口委員會は、一つの委員會となり、英・仰・獨・伊・波諸國の委員がきまり、筆者もその一人として、不日研究項目の送達を受ける事になつてゐるから、その節は改めて本誌に報導したいと思つてゐる。

先程シベリア鐵道の事に就て御尋ねがありましたから、滿洲國、シベリア、ソヴェト聯邦の事に就いて簡単に申し上げます。

滿洲國の事を本會議に紹介し度いと思ひまして、滿洲國の地形圖と産業分布圖、外に「滿洲國」と云ふ英文の冊子(滿洲國編纂)を十數冊持つて参りました。この滿洲國と云ふ小冊子は、滿洲里からシベリアにはいる時に沒收されはせぬかと非常に心配して居りましたが、丁度ハルビンからの汽車で、ソヴェト聯邦のハルビン駐在の總領事が歸朝するのと同車になりましたので、旅行の目的をそれとなく話しましたら、大丈夫だらうと笑つてゐました。滿洲里驛の次の驛で調べる事になつてゐるので、冷々して居りましたが、朝鮮人のゲー・ペー・ウーが「あなたは滿洲國の代表ですか」といひますから、私は、「さうではないが、地理學會議であるから新しい國を紹介し度いと思つて持つて來た」と云つたら無事でした。この滿洲の地圖と滿洲國の本を、「地圖展覧會」に出品しましたら、會員は勿論殊にポーランドの軍人は非常な興味をもつて見ました。ポーランドは御承知の通り陸軍の盛んな國でありまして、その軍事地理研究所は大規模なものでありますし、従つて軍人は地理學に對しても非常に理解と興味を有つております。私が「日本景観展覧會」の陳列を始めました時でも、十人來ると六七人は軍人でした。

シベリア鐵道の中では、ニューヨークに十一年も居るといふデーリー、ヘラルドの記者と一緒にりましたが、滿洲國の事に就いては非常に關心を有つてゐるので、試みに寫眞を見せましたら、司法部とか文教部といふ大きな造營物に非常に興味を有つておりまして、この設計は日本人の技師がやつたか支那人の技師がやつたのかと聞いて居りました。また新式の大きなローラーで新しい道路の開修をやつてゐる寫眞にも興味を持つてゐました。シベリア鐵道のボーイは、數年前までは殆んど英語が話せないといふ話でしたが、今度は往きも歸りも一列車に二人居るボーイの一人は、一寸した用便の足りるやうな英語は出來ました。これは非常に注意すべき事で、歸りの汽車でのボーイは、モスコで三ヶ月英語の速成科に通つたといつてゐました。また滿洲里からハルビンまで來る汽車の中で、日本人の官吏の夫婦の方に會ひましたが、この方は、三河といふ國境近くの白系ロシア人ばかりから出來てゐる村に居つた人ですが、この家で頼んだロシア人の女中に、或る時奥さんが一寸英語を話したら女中が分つ



たので、驚いて聞かれたら、學校に居つた時に習つたといつたさうであります。ハルビンの滿鐵の地方事務所の圖書室を見た時にも、ロシア語の澤山の雑誌の中に、ソヴェト、トラヴェルといふ大型の英文雑誌のあるのに驚きました。日本などでも、日本を世界に正解さす爲には、もつと組織的な計畫が必要ではないでせうか。

歸りの汽車では、色々な方と同事しまして興味がありません。アメリカの青年技師で、ウラル地方の鑛山に傭はれて居つた人がありました。ソヴェト聯邦の重工業の盛んなことを言つて居りまして、地圖に就いて一々重工業の盛んな都市を教えてくれました。モスコで會つたチタ(赤塔)の副領事の山本と云ふ人も、矢張り重工業が盛んであると云ふことを話して居りました。モスコに滞在してゐる間には、私は、一昨年新に開かれた産業博物館を見ましたが、その施設は勿論ですが、これを訪れた民衆に、各部の係が親切に説明して、一種の社會教育機關の働をしてゐる事に感心しました。人口の事に就いては、はつきりした資料が得られませんが、モスコでは男女共稼といふ状態である關係上、墮胎が默認されてゐるやうに聞きました。大分時間が経ちましたから、今晚はこれで御免を蒙ります。(拍子)

# 調査研究

## 人口現象に對する統計的觀察方法に就いて

研究員 増 田 重 喜

### 目 次

- 一、緒 論
- 二、觀察の方法
  - 一、傾向の測定
  - 二、變動量の比較
  - 三、關係の測定

### 一、緒 論

私は目下、本邦人口發展の傾向及びその數量的變動に就いて研究したものを纏めつゝあるが、茲に發表したものはその一部分で、總論中の研究方法に關するものである。

私は、人口現象を研究するに當り、之れを純粹現象として認識せず、一定の國土に於ける人口集團の論理學的內包、即ち人口

の概念を構成する上に於て必要なる總ての屬性を考慮に入れ、特にその中でも經濟的、社會的、及び生物學的要素の作用を重要視するものである。此の見地に於て研究の對象と爲るものは、一定時點に於ける平面的靜態的實在としての人口集團でなくして、是等經濟的社會的要素の作用に依つて影響を受けつゝ變動する所の人口發展の史的動態的現象である。人口現象は、實在を離れて私達が認識の映象となるものであるから、研究の對象として取扱ふ上に於て、方法論的に言へば、之れは量的形態上數字的素材より成るものである。従つて人口現象に對する研究は、先づ其の一定の量的變動を測定する爲に用ひらるる指數の作製より出發する。何となれば、實數の年次の配列に就き視察したゞけでは、その取扱が繁雜であつて、人口發展の過程に於ける傾向も數量的變動の大きさに就いても、認識上の明確を缺くからである。そこで、人口の實數に就いて、一定年度に於ける數字を一〇〇とせる基準で以て、同一の時系列の年次の指數に換算した。統計的研究の大部分は、斯る指數の作製と應用に依るものであつて、之れに依り人口數量の變化の狀態を、その傾向及び起伏の中に反映せしむることが出来るものである。即ち一定年度に於ける數量を基準として比較することに依り、人口の年次的變化の割合を知ることの出来ることは、茲に言ふまでもない。指數の使用は、人口研究の基礎的方法であるから、之れを素材として人口現象に對し、その傾向と變動の大きさ及び關係に就き、次に示す各種の研究方法に依つて考察することにした。

## 二、研究の方法

### 一、傾向の測定

人口發展の過程に就き、その數量的變動に對する形態的觀察方法として、私は直綫の方法に依りて説明し度。

人口數量の永年の變動過程に於ける増加、若しくは低減の方向、及びその傾斜度に就きては、デカルト氏法 (Descartesian System) の直角座標に於ける直線に依る觀察法を採用説明せんと思ふ。

人口趨勢の傾向に就いては、直線の方程式の一般型

$$y = a + bx.$$

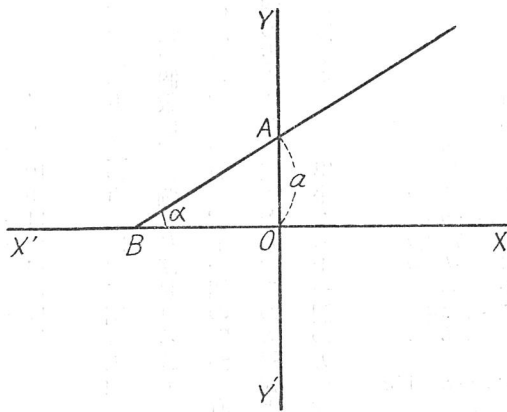
によりて表すことが出来る。上圖に於いて、直線  $AB$  が右の方程式を表はすものとすれば、この直線は  $O$  より  $OA = a$  ( $a > 0$  とする) なる距離にある點  $A$  を通り

$$\tan \angle ABO = \tan \alpha = b$$

なる關係を有する直線を表すのである。従つて、人口の數量的變動の傾向は、右の如き直線に依て表し、説明し度いと思ふ。傾向直線の求め方としては種々あるが、概ね最小自乗法に依る表現が便利である。

今、與へられた十一個の點があるとする。しかるとき、これ等の點に平均且つ近似的位置にある直線の方程式は、點の位置を定めたる數値によりて求めることが出来る。即ち、 $a$  及び  $b$  の値を確定するのである。點の位置を示す數値を次の

第一圖 傾向の測定圖



如く與へられたとする。

| $x$ | $y$ |
|-----|-----|
| 1   | 4   |
| 2   | 6   |
| 3   | 7   |
| 4   | 10  |
| 5   | 9   |
| 6   | 11  |
| 7   | 14  |
| 8   | 14  |
| 9   | 15  |
| 10  | 17  |
| 11  | 19  |

之等の數値を  $3118 + a$  に代入して見ると、次の如き十一個の方程式を得、即ち

$$\begin{aligned} 4 &= 1b + a \\ 6 &= 2b + a \\ 7 &= 3b + a \\ 10 &= 4b + a \\ 9 &= 5b + a \\ 11 &= 6b + a \\ 14 &= 7b + a \\ 14 &= 8b + a \\ 15 &= 9b + a \\ 17 &= 10b + a \\ 19 &= 11b + a \end{aligned}$$

この十一個の方程式の中には、二個の未知數  $a$ 、 $b$  が存在する故、此の値を知らんとするのに必要な條件に適する方程式の個數は、二個あれば足りる譯である。然るに、この十一個の方程式の内より任意に選みたる二個の方程式によりて決定されたる  $a$ 、 $b$  の値は、十一個の點が一直線上にあらざる限り、他の九個の方程式には一般には適合しないのである。故に、十一個の方程式を二個に纏め、その方程式より  $a$ 、 $b$  の値を決定しなければならない。その爲には、各式の兩邊に同一式の  $a$  及び  $b$  の係數を乗じ、出來たる十一個の方程式を邊々相加ふれば、次の如く二個の方程式を得、即ち  $a$  の係數は 1 であるから、

$$\begin{aligned} 4 &= 1b + a \\ 6 &= 2b + a \\ 7 &= 3b + a \\ 10 &= 4b + a \\ 9 &= 5b + a \\ 11 &= 6b + a \\ 14 &= 7b + a \\ 14 &= 8b + a \\ 15 &= 9b + a \\ 17 &= 10b + a \\ 19 &= 11b + a \\ +) & \\ 126 &= 66b + 11a \end{aligned}$$

となり、 $b$  の係數は 1 より 11 迄變化するから、次の如くなる。

$$\begin{aligned} 4 &= 1b + a \\ 12 &= 4b + 2a \\ 21 &= 9b + 3a \\ 40 &= 16b + 4a \\ 45 &= 25b + 5a \\ 66 &= 36b + 6a \\ 98 &= 49b + 7a \\ 112 &= 64b + 8a \\ 135 &= 81b + 9a \\ 170 &= 100b + 10a \\ 209 &= 121b + 11a \\ +) & \\ 912 &= 506b + 66a \end{aligned}$$

故に

$$\begin{cases} 126 = 66b + 11a \\ 912 = 506b + 66a \end{cases}$$

なる聯立方程式を得、之を解きて

$$b = 1.418$$

$$a = 2.948$$

故に求むる直線の方程式は

$$y = 1.418x + 2.947$$

となる。此の方程式は、結局次の關係式より求めたる  $a$ 、 $b$  の値と同一のものである。

$$\Sigma(y) = na + b\Sigma(x)$$

$$\Sigma(xy) = a\Sigma(x) + b\Sigma(x^2)$$

この關係式は、前に方程式の羅列によりて知りたる式の一般形のものである。

人口現象に對する研究の場合、即ち年次的に變動數量の移動する現象に對し之を検討する場合には、變動數量を  $y$  にとり、年次

的事項を $x$ とする。而して項数が奇数なる場合には、中央に位する項の $x$ の値を $0$ となし、それより年次数の減少するに従ひて $-1, -2, -3, \dots$ と置き、増加する場合は $+1, +2, +3, \dots$ と置けば、 $\Sigma x$ は零となり、前に述べた關係式は

$$\Sigma(y) = na$$
$$\Sigma(xy) = b \Sigma(x^2)$$

となる。この式を解く事によりて、同じ傾向の値を有つ $n$ の値を知る事が出来るのである。項数が偶数である場合は、 $x$ 系列の數値を $1\frac{1}{2}, 2\frac{1}{2}, \dots$ と置けばいいのである。

人口の變動過程に對し、右の如き方法を採用して傾向線を求めたのである。而して項数を概ね十一箇年に相當する十一個を取りて、計算を進めて行つた。茲では研究の方法に就き説明するのであるから、説明資料を簡單にする。この計算方法に依つて大正九年より昭和五年に至る本邦出生數量を指數に換算して之れを圖表とせば、次の如き永年の指數傾向を示すのであるが、これでは傾向がはつきり表現されない。そこで次の如き計算方法に依りて最小自乘法に依る直線を求め、それを永年の指數線の上に畫すれば、傾向が明瞭に現はるのである。これに依れば、右期間の出生數量の傾向は、三十九度二十四分四十七秒を示してゐる。

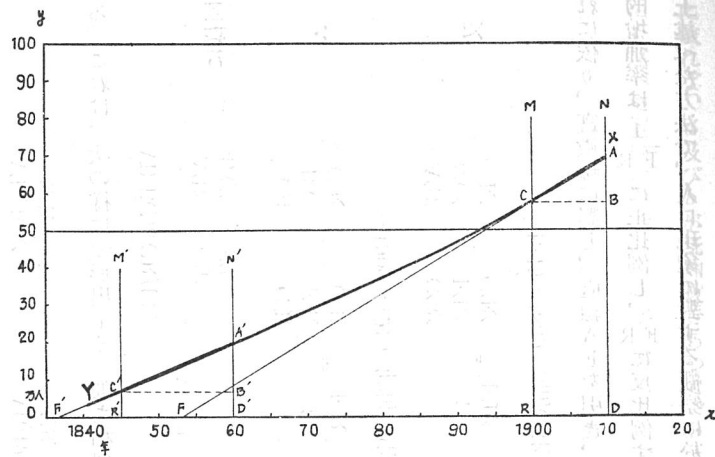
出生傾向線計算表

| 年次  | 指 数 |         | $x$ | $x^2$ | $xy$   | $y = a + bx$                      |
|-----|-----|---------|-----|-------|--------|-----------------------------------|
|     |     | $y$     |     |       |        |                                   |
| 大 正 | 9   | 142.5   | -5  | 25    | -712.5 | $y = 144.428 - 4.1090 = 140.319$  |
|     | 10  | 140.1   | -4  | 16    | -560.4 | $y = 144.428 - 3.2872 = 141.1408$ |
|     | 11  | 138.6   | -3  | 9     | -415.8 | $y = 144.428 - 2.4651 = 141.9626$ |
|     | 12  | 143.8   | -2  | 4     | -287.6 | $y = 144.428 - 1.6436 = 142.7844$ |
|     | 13  | 140.6   | -1  | 1     | -140.6 | $y = 144.428 - 0.8218 = 143.6062$ |
| 昭 和 | 14  | 146.8   | 0   | 0     | 0      | $y = 144.428 + 0 = 144.4280$      |
|     | 1   | 148.1   | 1   | 1     | 148.1  | $y = 144.428 + 0.8218 = 145.2498$ |
|     | 2   | 145.0   | 2   | 4     | 290.0  | $y = 144.428 + 1.6436 = 146.0716$ |
|     | 3   | 150.3   | 3   | 9     | 450.9  | $y = 144.428 + 2.4651 = 146.8934$ |
|     | 4   | 146.2   | 4   | 16    | 584.8  | $y = 144.428 + 3.2872 = 147.7152$ |
|     | 5   | 146.7   | 5   | 25    | 733.5  | $y = 144.428 + 4.1090 = 148.5370$ |
| $S$ |     | 1,588.7 | 0   | 110   | 90.4   |                                   |

$a = 1,588.7 + 11 = 144.428$   
 $b = 90.4 + 110 = 0.8218$   
 $\tan \alpha = 0.8218$   
 $\therefore \alpha = 39^{\circ}24'47''$   
 $\therefore y = 144.428 + 0.8218x$



第三圖 比例的増加測定圖



は十五萬分の六千二百五十であるから、比例的増加率は第一期は五％であり、第二期は四・一七％である。

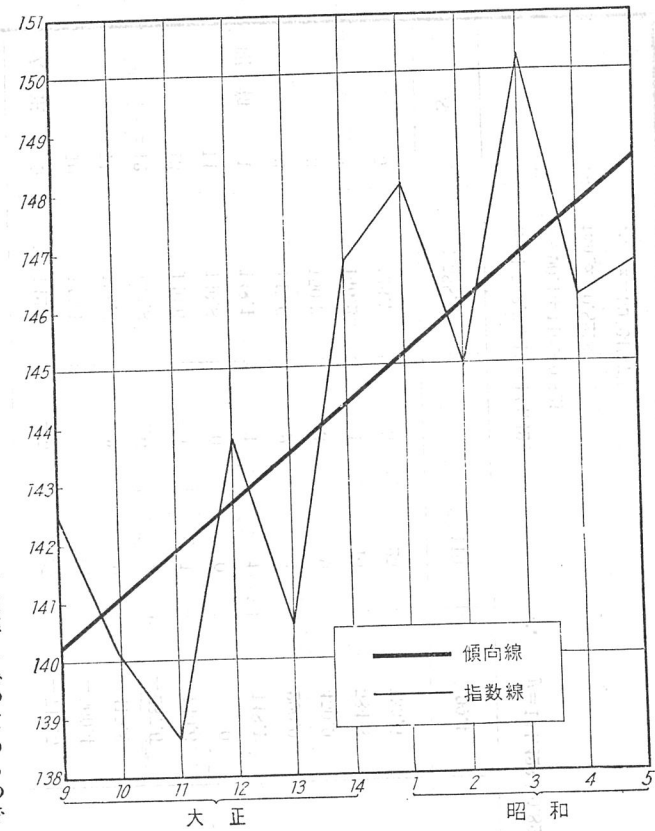
人口増加に關して正確な觀念を得る爲には、この比例的増加率を知る事が肝要である。そこで、この比例的増加の割合に就いて、アルフレッド・マシヤルは直線で以て、次の様な歴史圖で比較し得ることを教へてくれた。

XY線は、或都市に於ける一八四〇年以降の人口を示す實數線である。この圖に於て、一八四五年より一八六〇年に至る期間と一九〇〇年より一九一〇年に至る期間とに於て、人口の比例的増加率は何れの方が大であるかに就き視察する。

直線M'R、N'D、M'R、N'Dを、見やうとする期間の年次に於ける縦座標とし、人口實數線XYとC'、A'、C、Aに於て交らしむ。また直線CB、C'B'を横軸と平行に引く。點A'、C'を結びたる直線を引き、F'に於て横軸に交らしむ。また點A、Cを結びたる直線を引き、Fに於て横軸に交らしむ。然るときは、A'B'及びA'Bは、與へられた期間の絶對的増加を示すものであつ

$$\frac{A'B'}{B'C'}, \frac{A'B}{B'C}$$

第二圖 出生線



人口數量の永年の傾向に關し、故アルフレッド・マシヤル教授は、異なる諸期間に於ける比例的變化の割合に就き、直線の方向で知り得る方法を示してくれた。例へば或都市の人口記録が、次の如き場合、即ち

|       |          |
|-------|----------|
| 一八九〇年 | 一〇〇,〇〇〇人 |
| 一九〇〇年 | 一五〇,〇〇〇人 |
| 一九〇八年 | 二〇〇,〇〇〇人 |

であるときに、一八九〇年より一九〇〇年に至る期間に於ける人口増加數量と、一九〇〇年より一九〇八年に至る期間に於ける人口増加數量とは、共に五〇,〇〇〇人といふ數字を示してゐるので、その絶對的増加は等しいのである。併し乍ら、その二期間の各々に於ける人口の増加率は異つてゐるのである、その第一期には、五〇％の人口増加を示したが、第二期には三三％の増加に過ぎない。増加の割合は、第一期には一箇年五千人宛であるし、第二期には一箇年六千二百五十人宛で、後の時期の方が數字が大であるけれども、之を比例的増加から見ると、第一期では十萬分の五千であり、第二期で

は各々同期間に於ける人口増加率を示すものである。然らば、兩期間に於ける比例的増加率如何と云ふに、各々

$$\frac{AB/BC}{CR'} = \frac{AB/BC}{CR}$$

である。これは、次の様に變形出来る。即ち相似三角形の對應邊に依り、

$$AB/BC = CR/FR$$

$$\text{同様に} \quad \frac{AB'}{B'C'} = \frac{CR'}{F'R'}$$

$$\therefore \frac{AB}{BC} = \frac{CR}{FR} = \frac{1}{F'R}$$

$$= 1900 - 1910 \text{ 年間の比例的増加率}$$

$$\text{又} \quad \frac{AB}{B'C'} = \frac{CR'}{F'R'} = \frac{1}{F'R'}$$

$$= 1945 - 1960 \text{ 年間の比例的増加率}$$

これに依り、實數線に對し、直線  $AF$  を引き、 $CR \perp O\alpha$  を作り、 $FR$  なる直線を測定することが肝要である、何となれば、比例的増加率は  $\frac{1}{F'R}$  に正比例し、 $F'R$  に反比例するからである。

以上述べた方法で、人口現象に對する觀察に於いて、直線に依る方法に従ふ場合には、歴史的傾向若くは割合を示す直線の長さ、若くは其の傾斜度を測定せねばならぬ。

人口現象に關する研究は、方法的に云へば、數學的關係方程式に於ける變數に關する見方である。例へばエミル・ボレルの説明に依れば、 $a$  及び  $b$  が既知數であつて、 $x$  は變數であるとすれば、 $a + bx$  なる一次二項式の變動を研究することにある事は最初にも述べて置いたのではあるが、要するに、指數線上の二點若くはそれ以上の諸點を單に結び着けただけでは、歴史圖としては粗大であるから、以上述べた様な方法を以て研究を進めて行く事にしたのである。

## 二、變動量の比較

指數の時系列に於ける方向を明にする爲に、移動平均方法に依つて傾向線を作製するのであるが、この傾向線は、短期の數量的動搖を或程度まで除去する方法であることは云ふまでもない。併し乍ら、之れは、指數の時系列に於て依然永年の傾向（長期變動傾向）をそのまゝ示すものであから、數量的變化に於ける年度の増減を、平均的標準に照して明確に示すものではない。思ふに、傾向線は移動平均に依る度數線で表現しても、直線で表現しても、永年の傾向を保有してゐるものであるから、指數の時系列に於ける其の年度毎の數量的増減を明にする爲には、長期變動傾向を除去しなければならぬ。而して、茲に何故に指數系列より長期變動傾向を除去しなければならぬかと云ふに、二種の系列の變動量を比較する場合に、その必要を見るからである。二種の系列とは、人口系列と之れに對應して比較研究すべき他の指數系列である。例へば、出生數量が歴史的過程に於て通貨數量の影響を受けることありやてふ問題に對して、之れが研究方法としては、是等出生數量と通貨數量との二種の指數の時系列に於ける變動量の比を求めなければならぬ。之れが爲には、二種の指數系列より各々の短期動搖及び長期動搖を取除かねばならぬ。

短期動搖の除去方法を施せる移動平均指數線の歴史圖に於ても、永年の傾向が強く現はれてゐるので、出生線と通貨線の波長が

手形交換高と移民数との間の變動の割合を見る

ゴールドトン・グラフ指数 (註、二)

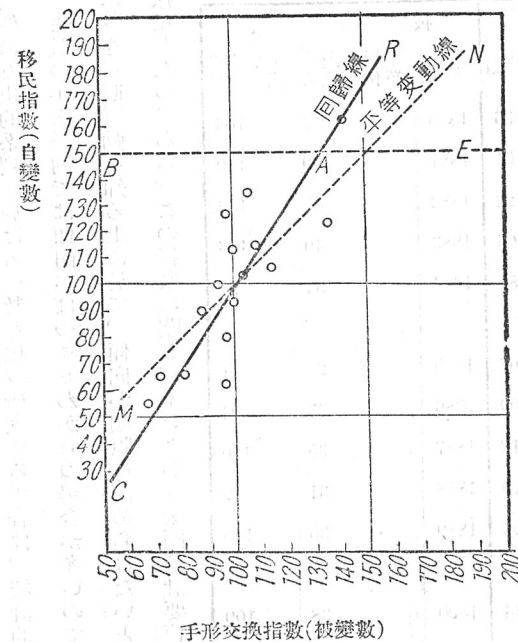
| 自 變 數     |                    |      | 被 變 數     |                      |        |
|-----------|--------------------|------|-----------|----------------------|--------|
| 年次        | 移 民 數<br>(單 位 萬 人) | 移民指數 | 年次        | 手形交換高<br>(單 位 千 萬 弗) | 手形交換指數 |
| 1881      | 67                 | 136  | 1880      | 37                   | 106    |
| 1882      | 79                 | 161  | 1881      | 49                   | 140    |
| 1883      | 60                 | 122  | 1882      | 47                   | 134    |
| 1884      | 52                 | 106  | 1883      | 40                   | 114    |
| 1885      | 40                 | 81   | 1884      | 34                   | 97     |
| 1886      | 33                 | 67   | 1885      | 25                   | 71     |
| 1887      | 49                 | 100  | 1886      | 33                   | 94     |
| 1888      | 55                 | 112  | 1887      | 35                   | 100    |
| 1889      | 44                 | 90   | 1888      | 31                   | 89     |
| 1890      | 46                 | 94   | 1889      | 35                   | 100    |
| 1891      | 56                 | 114  | 1890      | 38                   | 109    |
| 1892      | 62                 | 126  | 1891      | 34                   | 97     |
| 1893      | 50                 | 102  | 1892      | 36                   | 103    |
| 1894      | 31                 | 63   | 1893      | 34                   | 97     |
| 1895      | 28                 | 57   | 1894      | 24                   | 69     |
| 1896      | 34                 | 69   | 1895      | 28                   | 80     |
| 平均 = 49.1 |                    |      | 平均 = 35.0 |                      |        |

思ふに、二個の歴史的系列に於ける變數を比較研究する場合、統計的方法として各系列の變動を指數系列に換算せねばならぬ。それは、實數の年次系列では傾向がはつきりわからぬ場合が多いので、その方法を講ずるのである。而も、指數系列を作つても、それに就き長期變動を知る上に於て、傾向が明瞭に認められないときは、更にその指數系列に就き各項目を算術平均で除する方法を採用したのである。この指數に關し、キングが合衆國統計要覽より資料を得て作製使用した統計表を引例する。

そこで、歴史的系列に於ける數量的變動の割合に對する見方としては、與へられたる各年度に於ける算術平均からの被變數の偏差を取り、それに對應する自變數の偏差を以て之れを除し、斯くて得た凡ての商を合計して、之れを商の個數を以て除するならば、二系列間の變動量の割合を見出す方法となるであらう。併し、此の方法は、兩系列に於ける數量的動搖が規則的に行はるる現象を示す場合に、兩者間の比の算定方法として満足すべきものであるが、實際に於ては良好なる結果を得難い。然るに、兩系列の變動量の比を見る爲には、十九世紀にフランシス・ゴールドトン教授 Prof. Francis Galton に依つて考察せられた所謂「ゴールドトン・グラフ」(註、一)用の指數、即ち私達が正常態指數と稱するものの使用に依つて、その目的を達することが出来るのである。而して此の指數を算出するには、手數がかつて繁雜であるけれども、次の如き方法を用ひるのである。即ち二系列の各々の數に就き一定期間の年次的合計を求め、この合計に對し、その一定期間の項數を以て除した所の算術平均を求める。そして此の算術平均を以て、更にその一定期間に於ける各年次的數を項目數毎に除して得たものが、所謂「ゴールドトン・グラフ」用指數である。移動平均を以て指數を除して得た所の正常指數を以て、之れに代用してもよい。私は後者を使用した。

註、一 ゴールドトン教授は、此の方法を「相關々係及びその測定」と題し、一八八〇年に英國欽定統計協會雜誌で公表した。

第四圖 米國手形交換高と移民数との關係變  
動の比を示すゴールトン・グラフ(註、四)



舉ぐれば、

註、三 比較の場合に一ヶ年若くは二、三ヶ年の遅れを見る方法は、經濟指數と社會指數若くは人口指數との相關々係を探る場合に應用されることは、クライド・ホワイト R. Clyde White, や、ヘックスター・モリス Hexter Maurice, などが試みた所のもので、この點に關しては後述し度いと思ふ。

此の圖に於て、分散度の形態は、右の上方より左の下方向つて一帯の傾向を示してゐる。そこで目分量でも、諸點の一帯の傾向の最近似的位置にある一線を引く。これは出來得る限り、この線の兩側に

各々同數の諸點を持ちつつ其の傾向の方向を示すやうに引くのである。然るときは、諸點は一直線上の方向に於て存在すること  
を示すものである。若し是等諸點の位置が散在し複雑であるときは、その方向を示すには曲線を引かなければならないことにな  
るけれども、實際に於ては、一定期間に於ける二系列指數の分散度の方向を示す上に於て、數學的直線を以て満足し得るのであ  
る。而してゴールトン氏は、兩系列の一定期間に於ける數量的變動の比を計量するものとして、グラフに於ける直線の使用を提  
示したるは一の功績であつた。此のグラフに於ける直接の方向であるが、(註、五)これは圖に於て直接 R C に依つて表はされるの  
で、三角形 A B C に於て直線 A C の方向は  $\tan \alpha = \frac{AB}{BC}$  に依つて知ることが出来る。この直線は回歸線若くは複歸線 (Regression  
line) であるが、自變數に於ける一パーセントの變動量に對し、被變數が若し等量の變動を示す場合には、その變動量の比は同一  
であつて、此の場合直線 R C の方向は、平等なる分散度の比例的地位を示す直線 M N のやうな四十五度の角度を示す一線と平行  
するであらう。が、被變數が自變數よりも數量的變化が少くないときは、回歸直線の方向は四十五度以下となるべきである。而し  
てこの回歸線が平等變動線 M N から大なる偏差を示すに従つて、兩系列の間に於ける關係の僅少なる程度を示し、回歸線が垂直に  
近くなるに従つて、被變數の變動が自變數の影響を受くことが殆んど無いことを示すものである。翻つて右のゴールトン・グラ  
フに就き見るに、回歸線 A C の方向は  $\tan = \frac{AB}{BC}$  に依つて決定されることは一言しておいた。然るに三角形 A B C に於て、そ  
の一邊の長さ垂直線 A B は度數に依り八二、他の一邊の長さ底邊 B C は一二二を示してゐるので、 $\frac{AB}{BC} = \frac{82}{122} = 0.67$  即ち兩系  
列の間に於ける變動量の比率は一〇〇分の六七であつて、これは自變數が一パーセント變動する毎に、被變數は一パーセントの  
一〇〇分の六七だけ同一方向に變動する傾向にあることを示すものである。而して回歸の比率は、その餘分數  $1 - \frac{67}{100} = \frac{33}{100}$  即  
ち〇・三三である。(註、二、四、五、W. King, Op. Cit. Sec. 122.)



本邦出生と通貨とのゴールトン・グラフ計算表

| 出 生 (被 變 數) |         |                | 前 次 |         |                | 貨 (自 變 數) |  | xy |
|-------------|---------|----------------|-----|---------|----------------|-----------|--|----|
| 年 次         | y       | y <sup>2</sup> | 年 次 | x       | x <sup>2</sup> |           |  |    |
| 大正          |         |                | 大正  |         |                |           |  |    |
| 7           | 97.2    | 9,446.8        | 5   | 87.5    | 7,656.3        | 8,505.0   |  |    |
| 8           | 94.6    | 8,919.2        | 6   | 89.5    | 8,010.3        | 8,406.7   |  |    |
| 9           | 105.9   | 11,214.8       | 7   | 102.3   | 10,465.3       | 10,833.6  |  |    |
| 10          | 101.5   | 10,302.3       | 8   | 116.4   | 13,549.0       | 11,814.6  |  |    |
| 11          | 98.2    | 9,643.2        | 9   | 100.9   | 10,180.8       | 9,908.4   |  |    |
| 12          | 101.2   | 10,241.4       | 10  | 100.3   | 10,060.1       | 10,150.4  |  |    |
| 13          | 97.9    | 9,584.4        | 11  | 99.7    | 9,940.1        | 9,760.6   |  |    |
| 14          | 101.3   | 10,261.7       | 12  | 104.3   | 10,878.5       | 10,565.6  |  |    |
| 昭和          |         |                | 昭和  |         |                |           |  |    |
| 1           | 101.2   | 10,241.4       | 13  | 101.2   | 10,241.4       | 10,241.4  |  |    |
| 2           | 98.4    | 9,682.6        | 14  | 99.0    | 9,820.8        | 9,741.6   |  |    |
| 3           | 102.0   | 10,404.0       | 1   | 95.9    | 9,196.8        | 9,781.8   |  |    |
| S           | 1,099.4 | 109,971.8      | 11  | 1,097.0 | 109,939.4      | 109,769.7 |  |    |

$$\begin{cases} \Sigma x = na + b\Sigma y \\ \Sigma xy = a\Sigma y + b\Sigma y^2 \end{cases}$$

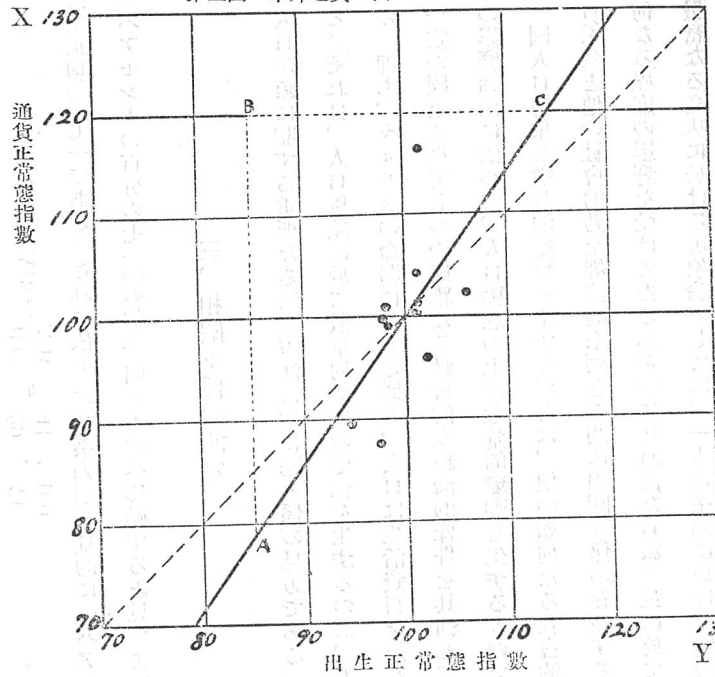
$$\begin{cases} a = -41.395 \\ b = 1.412 \end{cases}$$

$$\text{即 } \begin{cases} 1,097.0 = 11a + 1,099.4b \\ 109,759.7 = 1,099.4a + 109,971.8b \end{cases}$$

$$\therefore X = -41.395 + 1.412Y$$

$$\tan \hat{CAB} = \frac{BC}{AB} = \frac{29}{41} = \frac{71}{100}$$

第五圖 本邦通貨と出生とのゴールトン・グラフ



以上述べた見方に依りて、本邦出生指数と通貨指数を比較し、兩者の數量的變動の割合を見る場合に、統計技術的方法として次の如く自變數として通貨指數系列を採り、被變數として出生指數系列を擧げた。而して兩系列の指數に對し移動平均を以て各

々の正常態指數系列を作り、これに基き別圖の如きゴールトングラフを作製した、此のグラフに於て通貨系列を自變數としてX軸に、出生系列は被變數としてY軸に各々の正常態指數に基き、其の數量的位置を決定し點を以て表した。一帶の諸點の方向を精確に表す爲に視察に依らず兩系列の正常態指數に基いて、最小自乘法に依る直線を算出し、これを以て其の方向を表示したのである。従つて次のゴールトン・グラフにありては、直線ACは即ちこれである。

圖中、三角形ABCに於いて、直線ACのX軸に對する方向は

$$\tan \alpha = \frac{BC}{AB}$$

に依つて知ることが出来ることは、前述の通りである。この三角形の一邊ABは度數に依りて四一、他の一邊BCは二九であるから、

$$\tan \angle CAB = \frac{BC}{AB} = \frac{29}{41} = \frac{71}{100}$$

即ち正切〇・七一である。これに依り、通貨系列が數量的に一パーセント變動する場合には、出生系列は其の影響を受けて、其の一パーセントの百分の七一變動し、同一方向へ移動すると見てよい。従つて兩系列の回歸比率は、〇・二九である。

### 三、相關々係の測定

人口現象に關する重要な研究方法は、相關々係の見方である。此の研究方法を何故に重要視するかに就いては、次の理由がある。それは、人口現象に於て數量的構成の變化を生ずるのは、人口自らの内因的作用にのみ基くと見ることが出来ないからである。即ち、マルサスの命題にもある通り、人口は生活資料を離れて増殖することが出来ないばかりでなく、その生活形態に於て一定の國土に從屬しつつ複雑なる社會的及經濟的條件を具備してゐるからである。従つて生活環境に於ける社會的及經濟的條件の影響如何に依つて、人口動態の上に數量的變動を生ずるものである。これ人口現象は純粹現象に非ざる所以であるが、然らば一國人口現象が數量的變異を生ずる場合は、他の如何なる社會的經濟的要素の影響を受ける事多きや。此の問題を解く爲には人口系列と他の社會的乃至經濟的系列との間に相關々係の存在するか否かを検討しなければならぬ。即ち如何なる要素に依つて如何なる程度の影響を受けてゐるかを明にせねばならぬ。茲に於て、相關々係々數の算出を必要とするのである。

嚴密なる意味に於ける現象論としては、一方の系列に於ける變數が他の系列の變數の原因であること、若くは兩系列の變數の變動が共通の或第三要素の原因に基くことが立證されるのでなければ、兩者の間に、相關々係の存在する事を言明し得ないであらう。兩系列の間に相關々係の存在することを立證することが出来ない場合にも、甲系列の數量的變化が乙系列の數量的變化に

對し比例的に増減する場合もあるが、兩系列の間に相關々係の存在することを立證し得るに於ては、甲系列の變數が乙系列の變數に對し、その數量的變動に就き一定の關係の存することを認め得るのである。併し乍ら、兩系列に於ける數量的變動中より外部的作用の諸因子の影響を全く除去し得るに於ては、兩者の間の相關々係に就き精確なる測定を爲し得るのであらうが、實際に於て作用する影響が複雑にして、従つてその外來的因子も多種多様であるから、是等諸因子の影響を除去して兩者間の相互的作用影響のみに就き精確に測定することは到底不可能のことと言はざるを得ない。殊に社會統計の對象となるべきものの範圍にありては、相互に作用する諸因子が複雑を極め、従つてその影響せる結果として認むべきものも攪亂的狀態にあるので、是等諸因子を排除し、兩者の關係を抽出して純粹なる相互關係を成立せしめむと企つことは、或は科學的考察の範圍より脱出するものであるかも知れない。併し乍ら、二個の現象の歴史的系列の間に、我々が若し甲系列の變數の増加するとき乙系列の變數に一定の數量的増加を認め、若くはその逆である場合換言すれば、二系列の變數が或一定期間に同一方向に變動し、若くはその反對方向に變動することを數學的關係に於て立證し得るならば、我々はそこに兩者の間に相關々係ありと言ひ得るであらう。従つて、人口現象が歴史的系列に於て之に對應する他の經濟的若くは社會的系列の變數に依つて、その數量的變動が如何に影響せらるゝかを知るには、是等兩系列の變數が一定の歴史的過程を通じ、その増減の方向が如何になるかを測定すればよい。この場合、兩系列の歴史的數量を示す二直線が、常に同一方向に偏差を示すならば順相關であり、若しそれが反對方向に偏差を示すならば逆相關と見るのである。而して、二個の歴史的系列に於ける數量的變動の間の關係を測定する爲に、私は主としてカール・ピアソン (Pearson) の考察した方程式を採用した。この方法に基いて、私は本邦出生數量と經濟景氣指數との關係を測定した。茲に引例せるものは、出生に對する通貨指數との關係であつて、兩者の間に相關々係の存することを立證する一例である。この相關々係表

通貨数量と出生率との相関々係表

| 通    |                | 貨          |        | 出              |            | 生          |  | PaTy |
|------|----------------|------------|--------|----------------|------------|------------|--|------|
| 年次   | 正常係指数<br>$P_x$ | $(P_x)^2$  | 年次     | 正常係指数<br>$P_y$ | $(P_y)^2$  |            |  |      |
| 大正 6 | 89.46          | 8,003.09   | 大正 8   | 94.60          | 8,949.16   | 8,469.92   |  |      |
| 7    | 102.31         | 10,467.34  | 9      | 105.90         | 11,214.81  | 10,834.63  |  |      |
| 8    | 116.43         | 13,555.94  | 10     | 101.50         | 10,302.25  | 11,817.65  |  |      |
| 9    | 100.88         | 10,172.74  | 11     | 98.20          | 9,643.20   | 9,906.42   |  |      |
| 10   | 100.26         | 10,052.07  | 12     | 101.20         | 10,241.44  | 10,146.31  |  |      |
| 11   | 99.66          | 9,932.12   | 13     | 97.90          | 9,584.40   | 9,736.71   |  |      |
| 12   | 104.29         | 10,876.40  | 14     | 101.30         | 10,261.69  | 10,564.58  |  |      |
| 13   | 101.24         | 10,249.54  | 昭和 1   | 101.20         | 10,241.44  | 10,245.49  |  |      |
| 14   | 98.99          | 9,799.02   | 2      | 98.40          | 9,682.60   | 9,740.62   |  |      |
| 昭和 1 | 95.89          | 9,194.89   | 3      | 102.00         | 10,404.00  | 9,780.78   |  |      |
| 合計   | 1,009.41       | 102,348.15 | $n=10$ | 1,002.20       | 100,524.99 | 101,256.11 |  |      |

$$r = \frac{\sum P_x P_y - n \times \sum P_x \times \sum P_y}{\sqrt{\sum (P_x)^2 - n \times (\sum P_x)^2} \times \sqrt{\sum (P_y)^2 - n \times (\sum P_y)^2}} = \frac{101,256.11 - 10 \times 1,009.41 \times 1,002.20}{\sqrt{102,348.15 - 10 \times 1,009.41^2} \times \sqrt{100,524.99 - 10 \times 1,002.20^2}}$$
$$= 0.93807$$

例へば、 $x$  を自變數の諸項目と算術平均からの偏差とし、 $y$  を被變數に於ける諸項目の算術平均からの偏差とする、また  $\sigma_x$  を自

變數の標準偏差とし  $\sigma_y$  を被變數の標準偏差とし、 $n$  を項目の總個數とせば、カール・ピアソンの相關係數  $r$  の計算式は

$$r = \frac{\sum (xy)}{n \sigma_x \sigma_y}$$

である。

$r$  は回歸若くは複歸(reversion)の頭文字から取つたもので、相關係數 (Coefficient of Correlation) の符號として採用されてゐる。相關の理論は元來生物測定學(Biometries)に於て發達したもので、偉大なる生物學者カール・ピアソンに依つて考察せられた。計算式が生物學的方面ばかりでなく、社會經濟等一般統計に於て應用されてゐるのである。

相關係數  $r$  を求める公式の意味は、理解し難いものではない。自變數  $x$  及被變數  $y$  の二系列を一組とする。その各々の  $x$ 、 $y$  の算術平均よりの偏差を求め、此の自乗平方根に對して  $x$ 、 $y$  の對の項數  $n$  を以て除した標準偏差を各々  $\sigma_x$ 、 $\sigma_y$  とする。次いで各々の平均よりの偏差  $x$ 、 $y$  を各項毎に掛合せ、之を合計したる  $\sum xy$  の値を  $n$  項數で除し平均を求める。(註、一) この平均よりの偏差を單位として求める場合の相關係數は

$$r = \frac{\sum xy}{n}$$

註 1 Horace Secrist, An Introduction to Statistical Methods, PP. 459, 461.

W. King, the Elements of Statistical Method, sec. 112.

Albert Aftalion, Cours de statistique, chap. II. Coefficient de corrélation.

G. R. Davis, Introduction to Economic Statistics, ch. VI. Correlation.

これは何を意味するかと云ふに、最小自乘法に依る傾向線の傾きを示してゐるものと見るべきである。何故ならば、

$$n = \sum x^2$$

であるからである。x、yの項が、その變數に於て同數であるときは、xyの平均は(±1.00)となるであらう。それで

$$xy = x^2$$

であり、標準偏差の欄に於て

$$\sum x^2 + n = 1$$

となるからである。またx、yの項が同數であつて、而も符號を異にするときは、xyの平均は(±1.00)となるであらう。それ故に、xとyと一致せぬ場合は、數値と符號の兩方に就いてxyの平均値に現はれる、即ち最大か若くは最小かに向つてその數量的結果を示すのであるから、相乗積xyの平均は相關の正確なる尺度として用ひられてゐるのである。相關係數rの値を求むる簡單な方法は、x、y各々の平均偏差を單位とする積xyの總和をn除したゞけでよい。即ち

$$r = \frac{\sum xy}{n}$$

である。精確に相關係數を求める場合には、之をx、y各々の標準偏差の積を以て除する、即ち二個標準偏差の積の總和 $\sum xy$ を除することであつて、即ち次のピアソンの計算に歸するのである。即ち

$$r = \frac{\sum xy}{n \sigma_x \sigma_y}$$

人口現象に於ける數量的變動を研究する爲めには、標準偏差に基く觀察方法を講ずることが肝要である。標準偏差を單位とする二個の系列をx、yとし、(各系列には各々對のn個の項がある)xとyとの差をdとする。即ち

$$x - y = d,$$

$$\therefore y = x - d,$$

系列の項數はn個であり、且つ標準偏差の系列の平方の總和は定理に依り1であることに注意する。

$$n = \sum x^2 = \sum (x - d)^2 = \sum x^2 - 2 \sum xd + \sum d^2,$$

$$\therefore \sum xd = \frac{1}{2} \sum d^2$$

標準偏差の二個の系列に對する相關係數を求むるには

$$r = \frac{\sum xy}{n \sigma_x \sigma_y} = \frac{\sum x(x - d)}{\sum x^2 - \sum xd} = \frac{\sum x^2 - \sum xd}{\sum x^2 - \frac{1}{2} \sum d^2},$$

$$r = \frac{(\sum x^2 - \frac{1}{2} \sum d^2)}{\sum x^2 + n}.$$

故に相關係數は $\sum d^2 = 0$ なるとき最大である。それは $d = 0$ であるとき、 $\sum xy = \sum x^2$ であつて、相關係數rは(±1.00)の最大の値を示すのである。而して(±1.00)のとき、rは最小の値をとる、即ち相關係數は最低である。

前にも云つた様に、相關係數rは標準偏差を單位として求めるときの公式は

$$r = \frac{1}{n} \sum xy$$

であつて、これは實際に於て最小自乗線の傾向を意味するものである。そこで更にX、Yなる二個の系列の相關係數を知る計算に就き考察してみると、次の二つの方法より誘導することが出来る。それは第一に最小自乗法に依つて兩者の關係數量の位置を

$$Y = a + bX$$

なる形式の直線に當て嵌めることである。

第二は前にも云つた如く標準偏差を基礎とする觀察である。標準偏差(Standard deviation)は常に算術平均からのみ計算せら



れるもので茲では $\sigma$ を以て表示する。その公式は

$$\sigma = \sqrt{\frac{\sum d^2}{n}}$$

である。その計算方法は例へば

| 項 数<br>$m$ (單位耗) | 度 数<br>$f$ | $mf$           | 偏 差<br>$d$ | $d^2$ | $fd^2$          |
|------------------|------------|----------------|------------|-------|-----------------|
| 8                | 2          | 16             | -3         | 9     | 18              |
| 9                | 4          | 36             | -2         | 4     | 16              |
| 10               | 6          | 60             | -1         | 1     | 6               |
| 11               | 9          | 99             | 0          | 0     | 0               |
| 12               | 6          | 72             | +1         | 1     | 6               |
| 13               | 4          | 52             | +2         | 4     | 16              |
| 14               | 2          | 28             | +3         | 9     | 18              |
|                  | $n=33$     | $\Sigma m=363$ |            |       | $\Sigma d^2=80$ |

$$\frac{1}{n}(\Sigma m) = a = 11$$

$$\sigma = \sqrt{\frac{\Sigma d^2}{n}} = \sqrt{\frac{80}{33}} = \sqrt{2.4242} = 1.53$$

W. King. Op. Sec. 84.

項數が階級度數に類別せられた場合には、度數分布 $f$ が加味するので標準偏差の一般の公式は

$$\sigma = \sqrt{\frac{\sum f d^2}{n}} \quad \text{若くは} \quad \sigma = \frac{\sum f d^2}{n}$$

である。 $d$ は算術平均からの偏差で、 $n$ は項數である。この算術平均を基礎とした偏差自乗平均平方根を $\sigma$ とすれば、更に假定數を想見し、之れよりの偏差を $d'$ とせる場合の偏差自乗平均平方根を $S$ で表示すれば、この計算式は

$$S^2 = \frac{\sum f (d')^2}{N}$$

である。

而して算術平均を基礎とせる標準偏差 $\sigma$ は、度數上他の點を基礎とせる偏差自乗平均平方根よりも小なるものであるから、 $S^2$ は $\sigma^2$ よりも大である。 $S^2$ と $\sigma^2$ との差を $C^2$ とすれば、

$$\sigma^2 = S^2 - C^2$$

これを證明するに、

$$\sigma^2 = \frac{\sum d^2}{N} \quad \text{の代り} \quad \text{に}$$

$$S^2 = \frac{\sum (d')^2}{N}$$

$$(d')^2 = d^2 + 2ad + a^2$$

$$\sum (d')^2 = \sum d^2 + 2a \sum d + N a^2$$

$$\text{しかるに} \quad \sum d = 0$$

$$\begin{aligned}\therefore \Sigma(d')^2 &= \Sigma d^2 + NC^2 \\ \frac{\Sigma(d')^2}{N} &= \frac{\Sigma d^2}{N} + C^2 \\ S^2 &= \sigma^2 + c^2 \\ \therefore \sigma^2 &= s^2 - c^2\end{aligned}$$

Yule, Introduction. The Standard Deviation. 参照

そこで前に戻つて、二系列の間の相關々係を測定する方法として第二に考察すべき點は、標準誤差の計算である。標準誤差 (Standard Error) は標準偏差と分離して考へねばならぬ。標準偏差は一般に算術平均に對する偏差自乗平均平方根に限られてゐるもので、度数分布を表すのにそれが最も良好なる一般的變數の尺度であつて、計算上の記號で表はされてゐる。然るに標準誤差は、計算の精確の程度を記す尺度たる平均關係の線に就いての標準偏差を云ふものであつて、計算上の記號で表はされてゐる。従つて Y 系列の變數の標準誤差を表す場合は、 $S_y$  なる記號を用ふるのである。この標準誤差の計算式は

$$S_y = \sqrt{\frac{\Sigma d^2}{N}} \quad \text{若くは} \quad S_y^2 = \frac{\Sigma d^2}{N}$$

である。

計算式中の  $d$  は Y の實際數値と標準數値との差を示すもので、直線の場合で云へば直線よりの偏差である。Y の計算上の數値を  $Y_c$  なる記號で表せば、標準數値は

$$Y_c = a + bX$$

なる方程式から求められる。而して實際數値を表す記號を Y とすれば、 $d$  は  $Y_c$  と Y との差、即ち

$$d = Y_c - Y = a + bX - Y$$

である。従つて

$$d = a + bX - Y$$

度数分布の中樞である直線を中央にして數値の地位が散在して居り、従つてその諸點に對する方程式があるわけであるから、その諸項に  $d$  を乗じ加へ合せたものは、次の關係として表はされる。

$$\Sigma(d^2) = a\Sigma d + b\Sigma(dX) - \Sigma(dY)$$

數値上の置位は最小自乗法に依りて得たる直線であるから、 $\Sigma(d) = 0$  又  $\Sigma(dX) = 0$  である。この證明に就いては既に説明して置いた。それ故に

$$\Sigma(d^2) = -\Sigma(dY)$$

また

$$d = a + bX - Y$$

の各項に Y を乗じ、其の和を求めれば、

$$\Sigma(dY) = a\Sigma(Y) + b\Sigma(XY) - \Sigma(Y^2)$$

而して  $\Sigma(dY)$  の等量數値を關係式

$$\Sigma(d^2) = -\Sigma(dY)$$

に代用すれば

$$\Sigma(x^2) = \Sigma(Y^2) - a\Sigma(X) - b\Sigma(XY)$$

これより次の如き標準誤差の關係式が得られるのである。

$$S_{y^2} = \frac{\Sigma(Y^2) - a\Sigma(X) - b\Sigma(XY)}{N}$$

F. C. Mills, Statistic Methods, P. 375. Details of Calculation.

此の計算式に於ける  $a$  及  $b$  は、直線の方程式に於ける定数である。而して標準誤差  $S_{y^2}$  が求められ、且つ標準偏差  $\sigma_y$  も既に求められてゐるので、二系列に對する關係測定の關係式は次の如き計算方法に於ても成立するのである。

$$r = \sqrt{1 - \frac{S_{y^2}}{\sigma_y^2}}$$

この關係式に於ける標準誤差  $S$  は中間數値であるが、これを計算しなくとも相關係數  $r$  を求むる計算式は、次の如く構成を變更してもよい。即ち

$$r^2 = \frac{a\Sigma(Y) + b\Sigma(XY) - Nc_y^2}{\Sigma(Y^2) - Nc_y^2}$$

此の式に於ける  $c_y$  は、平均値とその計算に用ひられた原點との差であつて、 $Y$  の算術平均よりの偏差である。而してこの關係式は相關係數を求むる方法として最小自乗法の計算式より誘導したのであつて、ピアソンの相關係數の關係式

$$r = \frac{\Sigma(xy)}{N\sigma_x\sigma_y}$$

に誘導し得るものである。

それは測定方法として直線を求め、その原點が平均點にあるとせば、二つの標準關係式

$$\Sigma(Y) = na + b\Sigma(X) \quad \text{及} \quad \Sigma(XY) = a\Sigma(X) + b\Sigma(X^2)$$

$\Sigma(xy) = b\Sigma(x^2)$ ,  $\{\Sigma(x) = 0, \Sigma(Y) = 0\}$   
に變更し得る。また傾斜度  $b$  は求むべき定数であつて、

$$b = \frac{\Sigma(xy)}{\Sigma(x^2)}$$

なる關係より求め得る。同じ條件の許に於て、右の關係式は次の如く變更し得る。

$$r^2 = \frac{a\Sigma(Y) + b\Sigma(XY) - Nc_y^2}{\Sigma(Y^2) - Nc_y^2} = \frac{b\Sigma(xy)}{\Sigma(y^2)}$$

この變更し得る理由は、偏差を  $Y$  の平均より計量せる場合には、 $c_y = 0$  であるからである。

また  $b$  の代りに、右の計算式に於て決定せる等量數値を代用せば

$$r^2 = \frac{\Sigma(xy) \times \Sigma(xy)}{\Sigma(y^2) \times \Sigma(x^2)}$$

然るに

$$\Sigma(y^2) = N\sigma_y^2, \quad \text{また} \quad \Sigma(x^2) = N\sigma_x^2$$

であるから、

$$r^2 = \frac{\Sigma(xy) \times \Sigma(xy)}{\Sigma(y^2) \times \Sigma(x^2)} = \frac{\Sigma(xy) \times \Sigma(xy)}{N^2\sigma_x^2\sigma_y^2}$$

$$\therefore r = \frac{\Sigma(xy)}{N\sigma_x\sigma_y}$$

以上論じたる如く、相關々係に就いての計算方法は、數學的に見て種々の見方はあらうが、結局二個の系列の間の變數の關係を決定する見方に二つの尺度があつて、この尺度に基いて相關の關係を測定するのである。二つの尺度とは、第一には或一系

の變數が他の系列の變數の變動に應じて變化する程度を示す平均關係に關する方程式であつて、第二には平均關係の直線の周圍に於ける散布の程度に關する尺度たる標準誤差に關するものである。此の二つの標準的計算方法に基いて二個の系列の變數の間の關係を見るのであるが、人口現象を歴史的過程に於いて二個の系列の間の數量的關係を測定するに當つても、計量の技術方法としては以上擧げた觀點より脱することは出来まいと思ふ。故に私は、人口現象の歴史的系列に於ける二個の數量的變動形態相互の關係に就いて、以上擧げた測定方法に基いて考察することにしたのである。

マルサス人口學說と救貧問題

研究員 増田重喜

目次

- 一、英國救貧法の缺陷
- 二、マルサスの對策意見
- 三、救貧法の人口問題に對する影響
- 四、生存權に對するマルサスの態度

一、英國救貧法の缺陷

マルサスは、救貧法の效果に就いて期待を持たなかつた許りでなく、寧ろ否定的態度を示した。マルサスに依れば、救貧法は次の二つの點に於て、勞働階級の一般狀態を壓迫する傾向があるのである。

第一、食物の生産數量を増加せしめずして、單に貨幣で貧民を救済することは、救済せられる階級の消費を普通に維持せしむるだけで、救済せられない同じ階級の他の者の生活を却つて壓迫せしめ、其の苦痛の程度を増加せしむる。これと共に、貧民階級は、極貧の場合に救貧法に依頼する望を有するが故に、其の所得の維持に對し全然家族支持の望なくしても結婚することになり、從つて人口増加を助長する。

第二、社會の一部として救貧院で一定量の食糧品が消費されると、それだけ、より勤勉な、また社會により有用な人々に屬する筈であつた食物



數量を減少することになり、其の結果同様に多くのものを救貧院に依頼せしめ、獨立の出来ないものを増加させることになる。  
(an essay on the Principle of Population, Malthus, 7th ed., pp. 302—363, Everyman's L. Vol. II. p. 48).

第一の論點に就いて、マルサスは次の如く説明した。金持が金を出すことゝなつて、假りに、一日十八片宛貰つて居たものが、五志宛多く貰ふ様になつたと想へ、貧民は前よりも、より以上に生活が幾分樂になり、肉の分量も多く食べられることになるであらうと想ふなら、それは間違である。それは、労働者が貰つたのは三志六片宛餘計に貨幣で貰つたので、その爲に一回の食物數量が増加した譯でない。それ故、肉の市場では買手の競争が強くなつて、從來の市價一ポンド五片若しくは六片を示したものが、今度は騰貴して二志若しくは三志になり、現在より多くの分前にあづかることが出来ない。多く買ひ得るものは、貧民でも貨幣を餘計に貰つてゐるものである。また肉に對する買手の競争が續いて、之が刺戟となつて、家畜が多く飼養されるのを待つ様になれば、それだけの穀物を犠牲にしなければならぬ。各種の品物に對して買手の數が増加し、之に依つて生産業を刺戟して、生産物數量の増加を期待するものがあるけれども、それは夢想的富であつて、生産業に對する刺戟は同時に人口の増加の刺戟ともなり、人口の増加をして生産の増加を助長せしむるものであるから結局、増加した生産物は、より増加した人口に對して分配されねばならぬことになる。實際に於て從來十八片を貰つてゐたものが、五志宛貰ふ様になつた場合には、労働をせずに遊ぶ時間が増加し、而も消費を増大するに至るので、下層階級は一日十八片づゝ貰つてゐた時よりも却つて生活が苦しくなる。金持から一磅に就いて十八志宛出捐せしめ、これを公平に分配するとしても、金持の出捐が貨幣を以てする以上、社會のいづれかに犠牲があつて、落ちかゝつてくる窮乏を如何することも出来ない、生活難の存在することには變りはない。貨幣の力を以てせば、貧民の一人をよくすることが出来るだらうが、同時にそれだけ同じ階級の他の者の生活標準を下げることになる。マルサスはこ

の點に就いて詳しく説明した。いま假りに私（マルサス自ら云ふ）が私の家で消費する食物を割いて、これを或貧乏人に與へたとせよ、是れに對して私も私の家族もその犠牲に耐えることが出来たとせば、此の場合に、私は誰人をも困らせないで彼の生活を援助し、彼の爲になつたのである。私はまた未開地を開墾して、これより出来た食物を彼に與へたとせば、私は彼を益し又、同時に社會を益したことになる。が、私は若し彼に貨幣を與へたとしたら如何か、而も一國生産物の數量に變りない場合に、私は彼に何を與へたかと云ふに、生産物を與へずして生産物に對し之を要求し得る權利を與へたことになる。従つて彼がこの貨幣に依つて購ひ得た分前は、それだけ他のものが得やうとした筈の分前を減らしてしまつたことになる。そこで或金持が自分達の食卓を制限しないで救済金を出し、五十萬人の者に一日五志宛與へると假定せば、その出捐に與つた人達は前よりは生活が樂になつた譯であるけれども、その救済に浴してゐない他の人達に分配されるべき食物の數量が減るわけになる。英國の救貧法は、貧民の食物を増加せしめず、人口を増加させるに役立つのである。一體、食物價格の騰貴は、人口の増加が生活資料の増加の割合よりも増加する場合に起るし、又社會の貨幣の分配狀態の變化からも起る場合がある。歴史の古い國では、食物の生産量の増加は遅いので、急激に起る需要に應ずることが出来ない。また貨幣の社會的分配狀態に於て、其の變化を見ることが多く、之が原因となつて食物の市價の變動を見るのである。救貧方法として貧民の一部に貨幣を與へることは、貨幣の社會的分配狀態を變化せしめ、食物市價を變動せしめ、この救済に與らぬ同じ階級の他のものに騰貴した食物を求めさせることになり、生活資料に對する購買力の減少となる。而もその分けらるべき食物は減少してゐる。英國の救貧法は、貧民が一家を支へることの出来る望がなくとも、彼等に結婚を可能ならしむるのである。従つて貧民を増殖させ、人口を増加せしめ、其の結果各々のものに分配されるべき食物量は、從來より少い割合となるものであるから、救貧教會區の救済を受けないものは、從來よりも購入し

得る食物數量は少くなり、遂に救済を受けなければならぬ人口をして、益々増加せしむる譯になると云ふのである。  
 (the principle. ch. v. —the true cause why the immense sum collected in England for the Poor does not better their condition.—the Powerful tendency of the Poor laws to defeat their own Purpose.—).

また、第二の論點に就いて曰く、社會の最も價值ある部分を見ることの出来ない救貧院で、一定量の食物が消費せられ、現在よりも贅澤な生活をする事になれば、その消費量だけ社會の有用なる人々の分前に屬する食物數量を減じ、また社會の貨幣分配關係もそれだけ變化する結果として、食物の市價が騰貴し、救貧院以外の同種人員の生活が壓迫され、それだけ窮迫を増大せしむるに至るのである。(ibid.)

マルサスは、獨立の出来ない貧民を其の儘放任して置くことは、殘酷なることであると云つてゐるが、しかし、かかる状態を存置して置くことは、人類多數の幸福を増進せしむる爲に必要な刺戟であるから、これを弱むるやうな施設は、其の動機に於て如何に善意的なものであつても、その法律の目的に合致せぬことになる。自ら獨立して家族を扶養する機會を持たぬものが、救貧法施設を當にして結婚するときは、彼等自身のみならずその子女をして依頼心を持たしめ不幸を招來するに至るのである。それ許りでなく、彼等と同じ階級にある社會の者をして、同じ様に忌はしい誘惑に陥らしむるものであるとて救貧法の缺陷を非難し、食料品の價格を騰貴せしめ、勞働の實質價格を下落せしめ、貧民の通有性たる不注意や節約心の缺乏を養成せしめ、眞面目と勤勉に對する刺戟を奪ふものである點に就いて痛烈に攻撃した。

更に英國救貧法の缺陷に就き、左の點に就いて非難した。救貧法の缺點の他の一は、第一、下層階級の者をして憲法の眞精神と兩立することの出来ない暴虐な法律の下に置いたことである。それは貧民收容所は、自由の思想と全く矛盾する施設であると

とを知らねばならぬ。救貧法に基いて教會區が、家族の凡てのものが之に依つて支持を受ける所の世帯や主婦をして收容所に收容を強制することは、自由を無視した最も憎むべき暴虐である。

第二、救貧法に依つて生ずる弊害は、制度そのものにあつて、或程度迄は全く之を救済することの出来ないものである。それは或階級のものに對し救済を施す場合には、その救助の程度や範圍を決定する權力と之に必要な設備に關する事務を執行する權力を要するものであるから、貧民救助に關し此の權力の行使は、貧民に對し横暴を行ふことになり、彼等の不満を買ふことが往々にしてあるのである。これは此の制度の罪であつて、全く匡正することの出来ないものである。かくて、マルサスは、人口論第一版第五章に於て、英國の救貧法律には以上述べた病弊があつて、その匡正に付いては、人力を以てしても今や如何ともすることの出来ない事態となつて、貧民を支持する手段——生活資料の増加を講ずることをせず人口のみを増加せしめ、教會區の救済に與らぬ他のものゝ生活を壓迫せしめ、その貧困を増大せしむる傾向を有するものであると痛論した。

## 二、マルサスの對策意見

マルサスが、人口論上の見地に於て、救貧法に對し如何に多くの缺陷を認めたかに就いては、以上主なる論點を紹介して置いた。マルサスが、此の法律にして英國に存在しなかつたならば、甚だしい窮乏の事例が多くなるかも知れぬが、それにしても庶民間の幸福の總量は現在よりも遙に大なるものがあつたであらうとさへ云つてゐる。(E. L. ed. Vol. II, P. 51.) 併し、マルサスは、救貧法律の功績を全然否認せず、この法律はビットの所謂、慈善的善意の目的に依り組み立てられたものであつて、甚だしき窮乏の場合を輕減せしめた功績に就いては、之を認めてゐるのである。従つて救貧事業に就いては、人口方策の見地に於て之

れが施行を主張してゐるのである。この點に關する彼の意見は、次の三點に就いて知ることが出来る。

第一、現在の救貧教會區法を廢止すること。

Were I to Propose a Palliative, and Pallatives are that the nature of the case will admit; it should be in the first Place, the total abolition of all the Present Parish laws & マルサスは云つてゐる。この方法は如何いふ効果があるかと云ふに、英國の農民に現在持つてゐない自由と行動の自由を與へることになる。さうなれば、彼等は勞働の機會のある場所に行き、勞働の價格の高い場所へと何の妨げもなく移住する。需要があつても價格を騰貴せしめずにある現在の障礙が除かれ、勞働の市場は自由に展開される。

第二、製造工業よりも農業を獎勵し、新地開拓者へ助成金を交附すること。

Secondly, premiums might be given for turning up fresh land, and all possible encouragements held out to agriculture above manufactures, and to tillage above grazing. Every endeavor should be used to weaken and destroy all those institutions relating to corporations, apprenticeships, etc., which cause the labours of agriculture to be worse paid than the labours of trade and manufactures.

是れに依れば、農業勞働をして商工業勞働よりも安價ならしむる理由となる一切の制度の力を弱めしめ、是れを打破すべきであるといふのである。その理由として、農業を獎勵することは、一國の食物生産量を増加せしめ、市場に健康な仕事の需要を増加せしむるものであるから、勞働の相對的價格を高めしめて、勞働者の境遇を改善し、其の地位を向上するに至るので、救助教會區の救済を受ける望のないものは、救助を要する場合の準備をするためにも、彼等自らの共同組合運動を容易ならしむるものであると見る。

あると見る。

第三、救貧院をして從來のものと別個な意義あらしむること。

この點に就き、マルサスは斯く云つてゐる。

Lastly, for cases of extreme distress, county workhouses might be established, supported by rates upon the whole kingdom, and free for persons of all counties, and indeed of all nations. The fare should be hard, and those that were able obliged to want. It would be desirable, that they should not be considered as comfortable asylums in all difficulties; but merely places where severe distress might find some alleviation. (1st ed. ch. v.)

即ち窮乏の極度にあるものに對して收容する施設として、全國に課せる租税に依つて支持する州救貧院を設置し、極貧に陥れる場合には、誰人でも自由に入院を許すのであるが、此處では安逸の生活を許さず一定の作業に従事せしめる。貧民をして困窮せる場合の快適な避難所とせしめず、困窮の場合に之を緩和してくれる施設に過ぎないものと思はせるのである。従つて斯かる施設は勞働の場所であつて、一定の作業に従事し、其の製作品に對しては、市價に依り之が勞賃を提供する。

かゝる事業計畫を提げて、マルサスはこれを以て英國の一般人民の多くの幸福を増進すべき最善の方策であると叱咤大呼したものである。但し、當時の現行救貧教會區法の廢止を前提としたことは云ふまでもない。人口論第一版に於けるこの提唱は、單に救貧事業に對する徹底的方策たるのみならず、人口數量を考慮に入れて、庶民階級の社會的幸福増進を理想とするマルサスの人口政策に關する思想の中心を爲すものである。但し、政策上の原則として道徳的抑制を提唱したものは、第二版に於ける導入であるから、この條項をそれに加出してマルサスの人口政策を考察すべきである。

### 三、救貧法の人口問題に對する影響

マルサスは、救貧法に反對した理由に就いては既に述べて置いたが、これは法律的救済に對して反對したのである。

マルサスは、貧民の救済に反對したものでなく、むしろ貧民救済事業に就いては、彼は立派な計畫を持つて居たことは、前章末文に於ても説明して置いた。

マルサスは、權利として救済を要求する機構の法律制度に對して反對したに過ぎない。救貧法に依つて萬人が與へられた請求權を行使するに至らば、如何なる社會もそれを與へる義務を履行することが出来なくなるであらう。が、此の法律の存在せぬ場合の當時の社會多數の無産階級の困窮状態を想像せよ。マルサスは、一七九九年の末にスウェーデンの旅行から暇つて來た。當時英國の狀態は、歐洲に於ける他の國と同様に食物の數量が少かつたが、その價格は他の國に於ける市價よりも遙かに高かつた。當時の判事ケニオンは、食糧の買占を禁止した舊法を強制して居た状態であつた。食物の少いのに賃銀の低い貧民階級のもの、高價のパンを買ふことが出来ない事情を裁判所に訴へたので、救助教會區の救済を彼等に與へることになつた。歸朝後、サリに於ける彼の教區に落着いてゐたマルサスは、この情況を知つてゐた筈である。教區の救助が行はれるに従つて、パンの價格は騰貴し、それだけ救済費も膨脹して行つた。

救貧税は、それに伴つて一磅に就き四志から十四志に騰貴したので、高い税金と高價なる食物費用との二重の重荷に依つて、當時五百萬人より六百萬人の英國富裕階級の人口は、食物の不足の爲に苦しんだ。そこで、若し救貧法にして施行せられざりせば、食物不足の爲に二百萬人の貧民階級のものは死ぬか、然らざりせば、如何に悲惨なる状態に陥つたか、想像に難くないであ

らう。救貧法は、かゝる場合に英國社會に對して偉大なる功績を遺したのである。唯、マルサスは、救貧法は其の場合に、食物の價格を騰貴せしむる上に於て助長作用を爲した點を痛撃したのである。(Essay, 1st ed., pp. 82, 83; 7th ed. pp. 303-4)そしてこの法律に依つて救済さるゝものゝ生活は、多少樂になるにしても、これが爲に同じ階級に屬する他のものゝ生活をより以上に困窮ならしむるに至るものである。即ち救貧法に依る救済は、救助されるものゝ普通の結費を支持せしむる爲に、そのことに依つて他の貧民の生活を一層困難ならしめ、救貧税の負擔者に多大の犠牲を拂はしむるに過ぎないと見るのである。

ボナアに依れば、マルサスは、救貧法は英國に特有なものであると云つたが、之に對する反駁資料に於て、救貧法は英國に於ける特殊法制でなく、當時既にデンマーク及び其の他の國に於ても存在したのである。また救貧法の制度の必要なる所以に就いては、マカロツクは云つた。英國は特に外國關稅を通じて來る取引上の相場變動を蒙り易いので、これがために國內食物市價の變動を激甚ならしめ、それが勞働階級の生活に悲惨なる影響を與ふるものであるから、此の點から云つても、救貧法の存在を必要とするといふのである。これは一八二〇年九月三十日、マカロツクがマルサスを目標としてマクヴィー・ネピアに對して與へたる文書に於て論じたるものである。救貧法に對するマルサスの思想上の態度に關しては、大體右に述べた次第であるが、猶言つて置かなければならぬことは、救貧法が當時の英國人口問題に對して何んな影響を與へたかといふ點である。

マルサスの「人口に關する試論」の第一版が現れた年より四年前、即ち一七九五年には、英國は如何な状態であつたかといふに、食物が非常に不足してゐて、其の市價は飢饉價格をなして暴騰の状態であり、従つて下層階級のものゝ暴擧を企て、國王の馬車がパンを叫ぶ暴徒に依つて、其の進行が止められ、遂ひに警察官と兵士とで大鎮壓を行つた年であつた。世人はかゝる物情騒然たる時勢に對する處置に就いて、議會に對して大に期待して已まなかつた。そこで、このパン騒動のあつた翌年一七九六



年に、當時の宰相ビットは、エリザベス救貧法の改正法律案を以て此の困難なる世相に處置せんとしたのである。即ち家族の多い場合には、貧民救済も厚く多く行ひ、以て人口の増加を獎勵せんとする案 (Hausard, Parl. Hist., Vol. xxxiii, pp. 763seq., Feb. 12, 1793.) にして、これは恥辱と輕蔑の理由なくして權利と名譽のために貧しきものを救済し、以て大家族を祝福しやうとする趣意に出でたものであつた。が、この法律は、マルサスに依れば、肉を増加せずして口を増加するものであるから、人民を、却つて飢饉に接近せしめて人口を増加せしむるもので、歡喜を増加せしむる法律ではないのである。併し乍ら、當時救貧法の實際の適用は、思つたほど多くの件数を示さなかつた。それは、此の法律に基く支給に携つてゐる官吏の横暴であつたこと、法の精神を忠實に執行する上に於て怠慢であつたことは、救貧法の効果をして極めて不完全ならしめたものであるから、労働者の間に結婚生活に對する道德的戒慎を興ふる餘地があつたのである。即ち救貧法の施行が極めて不完全であつたといふことは、労働者の生活に對する支給が確保されないことになる結果として、かゝる状態の下に不注意にも結婚するならば、家族が窮乏に陥つた場合に生活の支持を期待することが出来ないから、此の點に就いて、道德的動機は働く労働者にとつては、結婚は輕率に對して實際上抑制的效果を興へた結果となつたのである。それ故、マルサスは、「英國では救貧法は制定せられてゐるけれども、都市及田舎に於ける下層階級を概観して見るとき、そこには適當にして且つ充分なる食物が缺乏してゐること、並に過勞の勞働と不健康なる住宅とから來る困窮に苦しんでゐること、是等の事由に依つて、本來の人口増加力に對する恒常的制限となつて働いてゐる」と云つた。(Ist ed. ch. v.)

#### 四、生存權に對するマルサスの態度

最後に再論して置かなければならないのは、マルサスは法律に依る貧困救済を否定した點である。マルサスに依れば、「英國の救貧法は、庶民の貯蓄力と貯蓄心とを奪ひ、眞面目と勤勉努力と、其の當然の結果としての幸福に對する最も強烈なる刺戟の一を奪ふ」ものであるし、貧民の生活状態を獨立労働者のそれよりも更に改善せんとして投ぜられる救助金は、貧民の怠惰と罪惡とに對する獎勵金に外ならぬのであると見る。それ故、彼は、貧民の制約的維持から期待し得る利益の分量は、それに必然的に伴ふ害惡の分量に依つて相殺されて餘り有ると云つたのは、當然の結論でなければならぬ。(Essay, 7th ed. III. vi. 388n) マルサスの如く法律上與へられたる權利に基いて救助を求むることを否定するとせば、如何にして乞食を非法的存在として是認することが出来るか首肯することの出来ない難問題である。

併し乍ら、マルサスの本精神を云へば、彼は法律上救助を要求する權利も救済する義務も認めないと同時に、乞食の如きものに對してすら之を非法的存在として排撃したであらう。それには、マルサスの云つた、此の様な理由がある。即ち人は如何に窮乏極貧の境地に陥つてゐても、社會にして之を需要せぬ限り、之に對し誰人も救済する義務を有することもなく、また救助を要求する權利をも持つものでない云ふのである。マルサスに依れば、斯かる窮乏な境地に陥れる人間の生ずるのは、生活資料に對する割合よりも人口の増加が多い結果であるから、貧困はその當然の歸結である。それ故、生活資料に對する人口の割合の問題に觸れることなくして、單に救貧法律の施行のみに依つては貧困問題は解決されない。従つて法律に依る救貧方法は、効果がないばかりでなく、却つて食物の市價を騰貴せしめ、生活支持の經濟能力のなき状態にあるものまでも結婚を容易ならしめ、

従つて人口増加を助長するものであるといふのである。

マルサスが生存権を否定した理由は、そこにあるのである。マルサスは云ふ、若し社會が誰人に對しても彼の勞働を必要でないとする場合には、彼の食物の最小の部分に對しても、何等要求する權利を持つてゐないし、また斯かるものゝ事實上此の世に存在する必要はないと云つて、生存権を否定したのである。かゝるものに對し、自然の大いなる饗宴に於て彼の坐るべき空席はなし。即ち曰く、A man who is born into a world already possessed, if he cannot get subsistence from his parents on whom he has a just demand, and if the society do not want his labour, has no claim of right to the smallest portion of food, and in fact, has no business to be where he is. A nature's mighty feast there is no vacant cover for him. She tells him to be gone, and will quickly execute her own orders, if he do not work upon the compassion of some of her guests. If these guests get up and make room for him, other intruders immediately appear demanding the same favour. The report of a provision for all that come, fills the hall with numerous claimants. The order and harmony of the feast is disturbed, the plenty that before reigned is changed into scarcity; and the happiness of the guest is destroyed by the spectacle of misery and dependence in every part of the hall, and by the clamorous importunity of those, who are justly enraged at not finding the provision which they had been taught to expect. (Essay, 2nd ed. IV. vi. 531.)

此の世に生れたるものが、正當なる要求を爲し得る兩親から生活資料を得ることが出來ず、そして社會が彼の勞働を要求せぬ場合は、彼は此の世に生存する理由を持たないことになる。自然は、その大饗宴に於て彼に去れといふのである。他の來客の或者が憐みの情を惹かぬ限り、自然は彼に對し速かにその命令を行ふに至るであらう。然らば來客達が立上つて彼に席を作る場合

に如何なるか。その時はまた同じ恩恵を要求する他の闖入者が直に現はれて來るのである。來るものに對して全部食物の準備があるといふ知らせは、無數の請求者をして客間を充滿せしむるであらう。

かゝる場合には、饗宴の秩序と調和とは擾亂され、以前に支配した豊富潤澤さは缺乏へと變るのである。客間のあらゆる部分に於ける悲惨と依頼との光景に依つて、並びにそれを期待する様に教へられた食物を見出し得ないで、正當に腹を立てゝゐる人の囂々たる強談に依つて、來客の幸福は破壊されるのである。云々。

あゝ、これ何等の冷酷なる比喻ぞや。人口食糧問題を戯曲とせる最後の劇的シーンは、この情景に盡きるであらうか。この點に關して、若し爲政家にしてグラハムの警告を忘却するなら、かの『パンを！パンを！』と叫んで國王の行列の馬車を止めた、一七九五年の英國暴動事件や、大正七年我國に於ける全國的米騒動の再學を防止し得ないであらう。實にグラハムが一八一六年に云つたやうに、若し座席を持たないものが餓死すべきであるなら是等のものは、既に長く饗宴の席に着いてゐた富裕の者より、その食物を奪ひ取る鬭争を演ずるであらう。かゝる結果は、自然に避く可からざるものであつて、若し冷酷なる法律を發布せる場合の立法者は、飢饉に激昂せる民衆に依つて果して寸斷せられずに済むであらうか。それは常識あるものゝ一考を要すべきことであるとグラハムは云つた。(An Inquiry into the Principle of Population, J. Grhame, 1816, pp. 33-34.) マルサスが人口論第二版に於て、その冷酷なる比喻を公表するや、果して世論の囂々たる非難に遭會し、友人の忠告に依つて第三版よりは、此の記事を抹殺したのであるが、併し乍ら、マルサスがその眞意を消滅したるものでないことは、彼の人口法制を前提として救貧法を否定した態度を終生變更しなかつたことに徴しても、容易に首肯せられるのである。而して法律に依る救貧方法を排撃した彼の態度は、明かに庶民の生活権を否定した結果であつて、これは彼の人口理論より來る當然の歸結と云へやう。

# 本邦人口制限に關する史的地方的觀察

研究員 増 田 重 喜

## 目 次

- 第一章 本邦墮胎・子殺の史的觀察
- 一、古昔に於ける墮胎・子殺とその防止方策
- 二、現代に於ける本邦地方的狀況
- 第二章 墮胎・子殺の發生要因
- 一、人口と食糧との關係に因るもの
- 二、家庭經濟事情に因るもの
- 三、郷土的風習に因るもの

- (一) 淫風
- (二) 迷信
- (三) 恥かき子
- (四) 年子、多産
- (五) 三兒制維持
- 第三章 ××の××地方別、産業別、及び社會階級別觀察
- 第四章 ××に關する地方的××
- 第五章 結 言

## 第一章 本邦墮胎、子殺しの史的觀察

### 一、古昔に於ける墮胎子殺と其の防止方策

人口制限の方法として、避妊の知識は、近代に於て發達したるものであるが、英國のカー・サウンダーズ (C. Saunders) は古代に於て既に其の適用を見たものであると主張し、(C. Saunders: The Population Problem p. 225) 參照、獨逸のタイルハ

パー氏 (Theilhaber) も、紀元前の古代猶太人、ゲルマン民族、アラビヤ民族、フランク民族、ギリシヤ民族、羅馬民族の間に、避妊方法の適用が行はれたことを引例して居るが、(Theilhaber: Das sterile Berlin S. 10) 併し、家族人口の制限方法として、古代より最も多く行はれたものは、子殺と墮胎である。子殺の方法としては、紀元前イスラエル人の間に於て行はれたる嬰兒の河流し (拙著兒童社會史第一章參照) の如きは、其の好例であるが、我國にありては、古代より多く行はれたるものは、所謂子殺し、若くは間引と稱し、分娩直後に嬰兒を殺して捨てた方法である。此の方法が最近まで猶行はれた地方は、三重縣名賀郡に於ける一村の如き、その代表的のものであつて、分娩後嬰兒を處置する際、臍帶を××して死に至らしめ、若くは産兒の處置を加へず任凍死せしめ、若くは土穴の中に之を放置するが如き方法を講じたと言はれてゐる。

古昔にありては、斯くの如く死に至らしめた乳兒の死體を、夜間祕かに路傍に棄て去りたるもの相當に多かりしことは、古文書に依りても之を想見し得る。例へば、貞觀 (西曆紀元九世紀中葉) より寛平 (九世紀末) に至る年間、本邦最初の兒童保護事業の行はるゝに至りし動機であつた承知年代 (九世紀初葉)、洛中の路傍に獨腰多數遺棄せられしを收容したる數五千五百餘個に及び、而も其の中に多數の乳兒の頭骨を見たのに顧みても、古代に於ける子殺しの多きを想見し得るのである。元慶 (九世紀末葉) 年間、渤海の使者入京の際に、途次路上の死骸を多數埋没したる事實もあるが、是等の中には、成人の死體數のみと解すべきではない。

林箏翁著の「仙臺聞語」なる本の中に「……八丈島の女は男子をも産む。予が友齋藤小兵衛は父八丈島流罪の時、彼島の女に生ぜたる子也。正しく女國といふべきは、薩州九十九島の中の甌島には女のみ産む。男は薩摩より遣る。其女配夫して幾人産するも女なり。是所謂女國ならん世界中には奇異なる地も有と薩州の二宮東菴談れり。……」とあるけれども、この甌島が男を産

むことが全然なくて女ばかり生んだといふことは變である。或は男を生むことがあつても、何かの根強い迷信などからして男を生むと所謂嬰兒棄殺をやつたものと思料せられる。

又同書の南琉別志に云ふ云々……といふ件りに唯今時の大惡俗と云ふは、陸奥にて貧窮者の子多ければ、まびら或はおし反すなど云ひて、自ら吾兒を殺す也。それさへ有るに吾兒をば殺し、其乳を以て取金錢而て他の兒を育るもの多し。是は上世の遺風に非ず、只金錢を貪る利慾心より出來る惡俗なり。如何なる名義やあらん。之を里子にやると云ふ。士大夫の高祿を食む人も、國君の寵賜を隠して里子に遣り、公然として無愧色く人に逢ふては家に乳母を仕ふより費用少しと云ふ。子二人ある人の一人は、自ら乳有し一人は里子に遣て自ら言するより、里子に遣しは不惑と云ふも有り。豺狼の賊心あるもの、兒を委ねたる不慈の父母なればさもあるべき也。其里子に遣られたる兒は幼時は父母を父母とも不知、成長して父母の家に歸り、人に語られて父母とは知れども如路人と思ふ也。されば居喪にも無益、寧ろ我の喪期を短くせんことを問ひしに、孔子予が之不仁と咎め給へり。親子の情如此なれば、君臣の義も不厚成行くべし。畢竟國家の大患なり。先生の道は不知ども、國家の務に志あらん人は、嚴命を出して禁ず可き也。此惡俗漸く野州常州に傳へ、近日は總州に及ぶ、然れども、吾兒食金錢て他人の兒を乳育する迄には未至、就中女兒を多く殺す故女の奉公人少し。二十年許り總州にも婢少くなれり。但し、總州には女子をば不殺、六七歳にも長ずれば、諸國の娼家に賣る。其姦を看れば、此者假に如何様の死を遂ぐる共不及爲御知、其許御了簡次第御取調可被下候、と書く、爲取金錢殺すと無異、大惡俗也。越後も諸國の娼家へ女子を賣れ共、未聞殺す。江都にも里子と云ふこと有つて、貧家の乳母を扶持すべき力の無き人は、兒死して乳の有る婦人を頼んで育つる也。自ら我子を殺すは決して無し。五六十年前は捨子と云ふこと流行つて、貧困なる者は初生の兒又二三歳に長じても不言を竹籠に入る、諸侯太夫の門前或は豪富の商家の戸外

へ乘、夜じて捨つれば、拾取と告官養育し、及長それぞれは有付る。東都の商は皆他國の旅人なれば、男住居して女の有は稀なれば、捨子をば喪兒有乳婦女へ例の里子に送る也。度々禁ぜられて近來は甚だ少し。昔、或女の喪、兒育里子たるが、其里子を又毒殺して別に育里子如此二三度せしが、露はれて忽ち倒磔の刑に行はれたり。惡習の長じたらんには如此成行まじやに非ず。水戸義公捨子を拾ひ修め、女子なれば養女の如くして、隣國の富豪、或は一向宗の大寺、山伏の行者などへ嫁せしめられたり。小金の日暮玄蕃と云ふ豪富の百性の妻も、義公の捨子也。又義公の妃の孕をば隨體せらる。是は父威公頼房卿は高松公の弟にて、武田萬千代君早世の後を繼給へば、高松公より封國も廣く、官位も貴くして水戸の嫡流となり、高松公は水戸の屬國の如きを以て、高松公の子を養ひて水戸を讓ん爲也。誠に難有事なれども、大鶴鶴尊と菟道稚郎子と讓國と自殺し給へるは、吾邦の人心なるべしと。徂來先生の評の如く、諸妃の有身を隨體する迄は有るべからざるか。云々と書いてゐる。(坂田俊夫氏引例採用)

子殺、墮胎に關し、法令を以て之れを取締るに至つたのは、極めて近代のことであつて、徳川時代に於ても申棄以後の事である。而して、墮胎に就いては、之を死産として見做したものであつて、死産も臨月近きものに就き故意に之れを行へるものは、子殺の犯行と同視し、包括して取締つたものと見るべきである。

子殺、墮胎に關する禁止法令も、徳川幕府は最初之れを捨子取締法規と一括して布告した。而も斯かる法令を見るに至つたのは、元祿年間以降の事である。此の種の取締法規は、元祿九年丙子八月に幕府が布告したものが、最初の法律にあらざりしかと思惟せらる。

茲に、其の原文を示せば

捨子仕間敷候、若養育成兼候ものは可申出之旨、跡に相觸候通彌其旨可相守、然る所に頃日時に捨子有之候、向後者地



借店借之者をばらみ候は、大屋地主へ爲知、其上出產又は傷産、流産いたし候は、是又爲知可申候、出生之子三歳迄之内死候歟、何方へも遺候者は、其澤大屋地主方へ可申届、右之趣大屋地主方にて書付置、若捨子詮議有之節者、右之書付可差出之、不念仕疑敷事有之者、可爲越度者也。(御觸書古四十七)

當時幕府の當局が、此の法令にても猶取締困難のものと思つたか、翌月更に次の法令を布告した。

捨子之儀、去月相觸候趣彌々相守之、地借店借之もの子供、向後出生又は、はらみ候者勿論、只今まで有之三歳以下の子供も、名主並地主大屋、改之帳面記置、行衛不知候歟、疑敷儀も候はゞ、其支配方へ可申出、隠置此方より之詮議にて致露顯候はゞ、名主、五人組、地主、大屋可爲越度者也。(御觸書古四十七)

子殺の死骸遺棄に就きては、捨子の死骸の始末と同様に見て、之を取締つたものであることは、享保七年壬寅二月朔日に布告した法令に就いて知ることが出来る。これも捨子取締法令の中に包括したものである。

一、死骸之捨子は相届候へば、其御目付より當番へ相達、差圖に而御小人口付罷越、見分之上三日晒候様申渡、四日白朝最初届候御目付へ相届候へば、猶又當御目付より御小人口付を以、本片付いたし候様御差圖有之候事。

享保十一年九月一日の捨子取締令の中にも、同様の趣旨にて布告したが、見苦しいから取拂へといふに過ぎない。

一、捨子當歳方、死骸は見分遺し無別條候はば直に取捨可申渡候、二三歳にも成候はば見分遺し、三日晒に成候事。

御目付 (届物取扱)

一、捨子當歳方死骸有之候得ば届出候へは死骸見分有之候、尤無別條候得ば直に取捨可申旨達有之候、二三歳にも相成候得ば、見分之上三日晒候様達有之候事 (令書要文六、七)

今條祕録四には十月十五日松平右京大夫殿御渡候由稻垣羽冊被相達御書付、御奏忘番衆、寺社奉行衆、御大目付へ

特に墮胎に關して取締を嚴にしたのは、地方の藩に於て之を見るのである。之は享保十五年四月前後に於て、莊内藩の水野元朗と、仙臺藩の田邊希文が墮胎防止に關する取締を嚴にした。幕府に於て墮胎及子殺に關し、地方に向つて其の取締令を布告するに至つたのは、明和四年の事である。此の時に至つて幕府が始めて家族人口制限を目的とする殺兒、墮胎に關する禁止條例を布告して、其の取締を嚴にしたのである。即ち明和四年丁亥十月の布告文を示せば

百姓とも大勢子供有之候得ば、出生之子を産所にて直に殺候屋柄も有之段相聞不仁之至に候、以來右體之儀無之様、村役人は勿論百姓共も相互に心を附け可申候、常陸、下總邊にては、別而右之取沙汰有之由、若外より相顯るに於ては、可爲曲事者也

十月

右之通可被相觸候

(御觸書新五十一、舊政府御達留八、公儀御觸留五十一)

明和四年十月には幕府は、更に嬰兒絞殺に關して、之を嚴禁する旨の取締令を布告し、寛政年間には、松平定信、政務を見るに及んで、墮胎禁止に關する法令を布告した。

仙臺藩にては、文化文政時代に、墮胎子殺を防止する上に於て有效なる事業が現はれた。同藩登米郡史に依れば、之れは同藩士、新妻元之の社會事業的功績である。

新妻卯啼、名は元之、字は子章、通稱は順藏、秋岡又卯啼と號す。本藩六番士なり、夙に畑中葆澤に従游して經史を學び、

詞藻に渉る。曾て節用集を読む。曰く奥人子を産すれば壓殺し、恬然浴を爲すと、乃ち歎して曰く、我奥の地たる八道中の大國、而して此の惡習あり、慙まざる可けんや、若し同志志を得て此惡習を蕩滌すれば、即ち國家に忠にして人民に仁なるものなりと、乃ち自ら方法を畫策し、文化五年二月を以て赤子保全方法を建言す、此時徹山薨去し、觀心夫人賢明、藩政を聽く、大に其言を嘉し、粧具を分ち二萬金を資し、子母の法を立て、以て其の費に充つ。其法、郡村を分ちて四區となし、每區監察（御郡方横目赤子の養育方）に命じて巡視せしむ、之を赤子の養育方と稱す。貧窶の小民、生子を養育する能はざるものに金穀を給與す。

又毎戸妊婦を調査して、之を撫育する方法を立つ、是に於て、衆、其仁慈に感じ、富農豪商争つて金穀を出し、官費を助く。幾年ならずして、惡習一洗す、藩其實蹟を嘉し、銀子三枚を賜ふ。卯啼益々其職に盡す。文政四年、祿十石を加賜す。

此法施行以來、人口大に加はり、田野日に開け、文政六年癸未に至り、戸數増加すること一萬に過ぐと云ふ。

卯啼、文政十一年戊子四月二十日歿す、享年六十三、其子雄記、孫兵衛胤彦、三世相繼ぎて其職を奉ず、雄記名は元冲、字は公奇、天姥、又道威齋と號す。經史詩文を志村五城目に澤鉅鹿に學び、博覽強記、最も詩に長ず。

弘化四年丁未四月十二日歿す。砂子山墓地に葬る。

其の碑に刻したる詩に曰く、

賈公垂淚擁兒孫

應識明時雨露恩

不厭山川行路過

征鞍復過綠揚村

文政四年正月十日、登城於御客間、松前知泉列座、福原縫殿を以て被仰渡書左の如し、

平以對の禮を以て

村田志摩舊組御郡方横目赤子養育方引切

新 妻 順 藏

外 一 名

赤子養育方之儀、文化五年より別而御制導被成下候に付き、御手始より其方共引切に被相廻候處、宜敷勸辨仕年來深切に會教諭候故、一統養育を志し當時に至候而者心得違之者も無之、舊染之惡風取直候段相違御聽拔群之勤方一段之事に候、依之當年數は無之候得共、別段之御吟味を以て拜御加増知行一貫文被下置旨御意之事

（登米郡史拔萃）

東京府社會事業協會編日本社會事業年表に依れば、天保十年頃より法道因果物語の、社會教化に依り、墮胎壓殺の弊風を止むとあれど、徳川時代の末葉にありても、地方に於いては、未だ此の弊風を一掃することの出来なかつたことは、堀田正睦の藩圖たりし上總、下總の邊に於いても、俗に間引（Kindes mord）と稱せらるゝ惡習が古來より存して、子を多く持ては渡世の妨げになるといふ見解の下に、長子のみを保育するも、其の餘は墮胎するか或は婉産と共に、褥下に敷いて壓殺する間引をなすの弊が行はれた。此の惡弊の存したのは、初めは細民の間にのみあつたのであるが、何時とはなしに、中産を侵し、遂に一般に感染し、終ひには、多産にして全部を養育する者をば、人妻たるの働が無いとして譏り、蔑笑する様な有様になり、人間外道を踏むことを、恬として恥ぢ無きに至つた。是れを知りし藩主堀田正睦は、慨嘆措かず、遂ひに老臣に謀り、郡吏の意見を徴したる上、斷然この弊を禁遏するの意を決して、所謂『洗兒の禁令』と言はれた左の手書を、天保九年二月二十七日に發令布告して、之れを戒めたのである。

『在中にて、胎中の子をおろし、うぶ兒をつぶす事之れある由、鳥獸さへ子をかあいがり、おのが命をとらるゝまでも、子を

うばはれじとするものなるに、ましてや人として子のかあいくなきものはあるまじけれど、全く田畑かせぎのさまたげをいひ、貧しきにかまけてのわざなるべし、まれに子なき人、いか程ほしく思ひても、金錢にて買はれぬものなり、それに親の手づから殺す事、鳥獸にもおとりたるわざにて、右様の事いたす人は、神佛もながくにくみたまひ、天の咎もまのあたりにて、其の家によきことは來らず、終にはますく、こんきうするなり、此道理をよくわきまへ、此後我等領内にて、子をおろし、つぶすこと、決して致すまじく候。』とある。

正陸は尙ほ、郡奉行、代官を封内に派遣して、この布告(手書)を読み聞かせて、よく其の非行たることを戒諭せしめた。然るに、この弊風が、上總、下總ばかりでなく、關東地方一般なることを聞いて、更に常州、野州、武州、相州に散在した自領にも、役人を派遣して、餘す處なく訓諭せしめたのである。その効果の顯れからか、これより大いにその跡を絶つに至つたといはれる。その實證として、堀田正陸封内の郡村に於ける天保元年より同九年に至る期間、及び同九年より安政五年に至る二十一年間の人口増減を見れば、

|      | 人 口    | 男      | 女      |
|------|--------|--------|--------|
| 天保元年 | 六、一八六〇 | 三、一七〇七 | 三、〇一五三 |
| 天保九年 | 六、一九五四 | 三、一六一六 | 三、〇三三八 |
| 差 引  | 増 九四   | 減 九一   | 増 一八五  |

であつて、一ケ年の増加率僅かに十人餘に過ぎなく、而も男子は十人餘の減少となつてゐた。然るに、同手書布告後の天保九年以後の數字を見るに、

|      | 人 口      | 男      | 女      |
|------|----------|--------|--------|
| 天保九年 | 六、一九五四   | 三、一六一六 | 三、〇三三八 |
| 安政五年 | 七、四二九二   | 三、七六一八 | 三、六六七四 |
| 差 引  | 増 一、二三三八 | 増 六〇〇二 | 増 六三三六 |

となつてゐて、一ケ年の増加率は、一躍して五百八十七人餘の多數に上つてゐる。

このことを見れば、同藩人口増加の傾向を辿つたのは、此の布告の與つて力のあつたことが窺はれるのである。

猶、此の外にも、昔時に於ける、嬰兒の生命保護に就いては、餘り保證的のものがなく、社會事業家の手に俟つものがあつたことを想はしめる。僧智隆の如きは、文久元年に墮胎、拉殺を戒め地方を行脚して、生兒の保護の爲に一身を捧げたほどである。

## 二、現代に於ける本邦地方的狀況

現代に於ても墮胎、死産で顯著なのは、地方的に見て先づ三重縣名賀郡矢△村地方であらう。阿山郡は墮胎多く、流産として取扱はれてゐたものらしい。また、名賀郡も嬰兒壓殺が多い地方であるが、こゝも死産として現はるゝ數字が高い。昔から妊婦は、死産にあらざれば乳兒の死を期待するものが多く、此の期待に副ふため、妊娠時の攝生榮養等に注意するもの少く、産事の如きも放任的であると云はれて居る。觀察上の二三の例を示せば

同地方には「川原田子」なる特種の稱呼がある。これは川原田といふ駐在巡查が同村の惡風を嘆いて、極力之れが防止に努めた爲め、其在勤中は比較的死産兒が少かつたとの事である。それで、此期間の生産兒を「川原田兒」と呼ぶに至つた。又「駐在兒」と云ふ別稱もある。其の駐在巡查が夜間妊婦視察中、出産があつた家で不穩な密議の進行して居るのを窺知し、殊

更に警官の來た事を覺らしめる様な行動を取つて、密議を阻止した爲、其産兒は生命を保つ様に至つた。此の産兒を「駐在兒」と稱へたことがあつたとの事である。

○△町に住む某老産婆の談に依れば、このやうなことがあつた。それは或る冬の夕、老産婆は丁度、△△村某家を出る間際であつた故、迎のものに「妊婦は産氣がつかましたか」と訊ねたのに、「産氣がついて迎へに來ました」と答へ、産婆の發足を促し、之を伴つて出て行つた。杖に縋つてトボ／＼と、歩を運ぶ老産婆の後姿を眺めて、此産兒は、間引される運命にあるか否かが氣遣はれた。當時残雪猶消えず、道路の一部は改修の爲め泥濘が甚しく、其の上日暮れの山道なので、老婦の歩は抄らず、産家に着くには、三時間以上もかゝるだらう。迎への人が産家を出て五時間以上も過ぎて始めて、産婆の到着となるので、此間の産兒の處置が果して遺憾なく行はれて居るかどうか懸念に堪えなかつた。

この惡風は、資産階級に比較的多く、無産階級には反つて少いと説を爲すものがある。それは、貧者は兒が多くとも、割合に意に介せずには生育には費用がかゝつても、成長後（義務教育の修了後）工女又は其の他の筋肉労働に依つて収入を得べきも、資産階級にあつては、斯く卑近な収入を得るの途に就く事が出來ず、高等小學或は其れ以上の教育費或は結婚費を要する等、打算的に小兒の少い事を好ぶとの事である。

某村人は、婦人の労働が激しかつた時代には、一般に妊孕力少く、又労働の激しき婦人は妊孕力少く、比較的安逸な婦人は妊孕力多いとのことであつた。同時に○○○區は、小兒の少き所である。以前は女の労働が（山野又は戸外にての労働が）激しかつたが、近頃は養蠶が盛になるに従つて労働を減少する様になり、妊孕力が増した。之は當村一般に就ても此の傾向がある云つた。爰に注意を喚起したいのは、十年間に於ける○○○區の生産率は中位で、死産率及乳兒死亡率は最高位に在ることである。

ることである。

之に依り、大正元年以降十年間に於ける矢△村と同郡の他の村落とに於ける生産死産及び乳兒死亡に關する千分比を示せば

|   | 矢 | △    | 村    | 生   | 産   | 死   | 産   | 乳 | 兒 | 死 | 亡 |
|---|---|------|------|-----|-----|-----|-----|---|---|---|---|
| 甲 | 村 | 三〇・二 | 三〇・六 | 一・四 | 七・五 | 五・三 | 八・〇 |   |   |   |   |
| 乙 | 村 | 四二・一 | 二・一  | 七・七 |     |     |     |   |   |   |   |
| 丙 | 村 | 二二・二 | 〇・七  | 二・四 |     |     |     |   |   |   |   |

是等、四ヶ村に於ける生産順位は、矢△村は第三位を占めて居るも、死産に於て第一位を占め、乳兒死亡率に於ても第一位を占めて居ることを見る。然らば、之れを、全國的に見る場合には如何。右同年次と比較する爲、昭和元年に於ける内閣統計局統計に依れば、人口千に對する死産の割合は、栃木縣第一位を占め、三・二一を示し、岩手縣と秋田縣は同率の三・〇〇を示して居る。二・〇〇以上を示せる死産の高き地方を挙げれば、青森縣、宮城縣、山形縣、福島縣、茨城縣、群馬縣、埼玉縣、千葉縣、神奈川縣、石川縣、山梨縣、長野縣、岐阜縣、大府、兵庫縣、奈良縣、和歌山縣、鳥取縣、岡山縣、徳島縣、高知縣等は孰れも高率を示してゐる。

死産は、其の發生要因として、疾病、傷害労働状況等種々の事情に因るものもあるが、古來より墮胎の行はれたる慣習の地方にありては、現時に於ても、是等死産の中には故意に因るもの無しと斷ずることの出來無い以上、死産を以て是等の傾向を察知する一資料と爲し得るのである。従つて、古來より墮胎の慣習ありと稱せられた地方では、現時に於ても死産の高率を示せるを見



るべきである。

死産の年次的趨勢を見るに、最近低減の傾向を示したるも、而も是を以て、過去に於けるよりも低減したといふことは出来ない。明治時代に於て最も死産の高率を示せるは、明治三十年以降、四十四年に至る間の（三、〇〇以上を示したる時代であるが）是等の時代を除き、それ以前の明治二十二年以降三十一年代に至る二、〇〇以上を示せる時代に比すれば、最近の死産率は、數歩の低減を示すに過ぎなく、二、〇〇以上を示して居る。

右同年次の本邦數字と比較する爲、之を一九二四年（大正十三年）に於ける人口千に對する歐洲各國死産率を對比せば、

| 國 別   | 人口千に對する死産率 | 國 別 | 人口千に對する死産率 | 國 別   | 人口千に對する死産率 |
|-------|------------|-----|------------|-------|------------|
| 日 本   | 二・一        | 獨 逸 | 〇・七        | 智 利   | 一・一        |
| 丁 抹   | 〇・五        | 瑞 典 | 〇・五        | 新 西 蘭 | 〇・六        |
| 佛 蘭 西 | 〇・八        | 瑞 典 | 〇・五        | 和 蘭   | 〇・七        |

即ち本邦の死亡率は、是等の諸國に比し最高位を占めてゐることを知るであらう。

## 第二章 墮胎・子殺の發生要因

### 一、人口と食糧との關係に因るもの

運輸交通の不便なる地方にありては、古より其の村落の人口増加を喜ばざる慣習あり、斯る地方にありては、人口の増加は餘程問題を惹起するを以て、食糧との關係に於て人口制限の意味を以て墮胎を爲す慣行があつた。次に其の傾向の顯著なりし地方

に就いて示せば、

長崎縣。西彼杵大串村、瀬川村、龜岳村、長浦村方面

南松浦郡、右に擧げる各村落にては、人口の増加を忌避したのである。

對馬島一圓に涉り、明治中葉時代迄は、墮胎の慣行があつた。此の島の如く山岳重疊し、耕地狹少なる所にありては、人口の増加を見る如きことは食糧の缺乏を來すので、舊藩時代には政策上、墮胎を默許した模様である。

壹岐郡も明治十六七年頃迄は、郡内漁業部落に於て、之を爲す慣習があつた。此の島の如く本土を離れたる一孤島にして、其の漁業の方法も規模小なると、魚類の販路今日の如くならざりし時代には、人口の増加は直ちに食糧問題を發生せしたるものなれば、人口制限の目的を以て墮胎を慣行したのである。

三重縣、こゝでは、伊賀一圓、即ち阿山郡、名賀郡地方である。伊賀は、戰國時代に常に織田氏の侵略を受け、住民皆外敵防備に忙殺され、産業の發達に専心すること能はざりし歴史のあつたところで、平和狀態に復することあるも、亦安んじて就業すること能はざりし關係上、常に食糧に缺乏した地方であつた。他國より供給を仰がむとするも、山間の地なれば、容易に移入し難く、爲に饑饉を訴へし狀態であつたので、人民は食糧問題に就いて苦しみ、遂に自給自足に依るの他に途なしとなし、豐作不作の年を論ぜず、粥の常食（現時に於ても此の風あり、所謂伊賀の茶粥と稱す）に甘んじた。又地方に於て、人口制限の方法として、墮胎を爲す慣習があつた。封建時代の風習から、自國防衛上、不得止手段として此地方の壯年者以上の者に墮胎を深く罪惡視せざる風があつた。時代の變遷と共に、交通機關開けたるも、尙依然として此の惡習を踏襲するの風が残つてゐる。蓋し現時に於ては、必ずしも人口食糧關係の觀念より來れるものでなく、性的關係や道義心の薄きに依るものと思はれる。一説に據れ

ば、嘉永、安政年間あたりより始まりたる慣習として、徳川時代伊賀領藤堂藩主は、幕府に上納すべき年貢の、他國に比し過重であつても、自己の地位擁護上、之れが減額願方を試みず、而も領土内に於ける生産能力は、一定の限度に在るに拘らず、人口は年々増加する傾向がある。茲に於て、上納米を減することなく、且つ一般の生活難を救済せんとする爲、人口の制限として墮胎を默許し、一面茶粥を奨めて國內の安定を策したと云はれてゐる。現時に於ても、此の慣習は容易に改められず、大正十四年偶々一墮胎被疑者を檢舉したるを機に、縣當局の調査が進められるに従つて、芋蔓的に七百二十五人を檢舉したと云はれてゐる。岩手縣に於て、墮胎が慣習的に行はれたる地方は、紫波郡（煙山、赤石、志和、佐比内村）氣仙郡（綾里村）、東磐井郡（大津保村）下閉伊郡（岩泉町、普代村）

是等の部落にありては、野合等の性的關係より來る妊娠の場合に、墮胎を行ふ慣習あるも、又交通の不便なる事と、農業收益の擧がらざる不作の年には、食糧を得ること困難なるに依り、家族産兒數の増加を恐れ、部落として見る場合にも、人口増加を忌避する方法として墮胎を爲す慣習を馴致したのである。

福井縣。此の縣に於ける墮胎慣習の行はれる地方は、三方郡、遠敷郡、大飯郡なるが、斯くの如き慣習の生じたる理由は、食糧と人口數との關係に因る。

若狹藩主は、代々墮胎を處罰しなかつたのである。其は、同地方は耕地少きと、舊幕時代交通の發達せざりしとに依り、食糧の供給充分でなかつた。従つて、産兒を制限して、人口の増加を防止する目的に基いたものである。

墮胎は慣習として、最近二十年前頃迄盛に行はれたが、近時墮胎に關する檢舉件數を示せば、

大正七年 一件 同 八年 一件

|       |    |         |     |
|-------|----|---------|-----|
| 同 十年  | 四件 | 大正十三年   | 二件  |
| 同 十一年 | 三件 | 昭和三年六月迄 | 二件  |
| 同 十二年 | 一件 | 計       | 十四件 |

## 二、家庭經濟事情に因るもの

其の困難より免れんが爲若しくは現在の勞働生活を維持せんが爲、産兒制限の必要に基くもの。警視廳管下の區域中、西多摩郡霞村、今井、藤橋（農村）は、勞働階級が比較的多産であつた爲、日傭勞働者等は二十年前頃まで、秘密裡に墮胎せる慣習ありと云はれてゐる。

北海道に於ける墮胎慣行の理由は、不義の性的關係に因るもの多く、生活困難に依りて之を行ふものが尠い。

新潟縣は、本邦に於て墮胎の行はれる地方として顯著なるものの一であるが、其の發生理由を見るに、不義に依る性的關係に基くものと、生活困難なるに因るものとを比較すれば、其の原因に對する發生件數に於て相半せるものなるを想ふのである。

後者の要素に依りて説明せられる同縣下の地方を擧ぐれば、

|      |     |       |       |
|------|-----|-------|-------|
| 中蒲原郡 | 川内村 | 過去に於て | 生活難より |
| 東蒲原郡 | 西川村 | 同     | 多産より  |
| 古志郡  | 枋尾町 | 同     | 生活難より |
| 南魚沼郡 | 三國村 | 同     | 貧困    |
| 中魚沼郡 | 倉俣村 | 同     | 生活難   |
| 中條村  | 同   | 同     | 同     |

過去に於て生活難より

田澤村 同  
六箇村 同  
見野村 同  
古志村 同  
入東谷村 同  
北魚沼郡 簀神村 同

埼玉縣に於ける農村にあつては、多産の結果生活難を俟れ、墮胎を慣行するものが多い。

茨城縣に於て墮胎の行はれたる地方中、猿島郡境町地方は、明治三十八年六月妊婦嬰兒視察内則發布以來、漸減した。

此の地方にあつては、多産者の大部分の者が之れを慣行的に行つた。

稻敷郡江戸崎地方中、江戸崎警察署管内、江戸崎町外十六ヶ町村は、明治三十七、八年以前迄、各階級を通じ生活の安定を得んが爲に、之を慣行した。

筑波郡谷田部町地方、谷田部署管内の谷田部町外十五ヶ村は、三四十年前迄子女を多く持つと貧乏するとの觀念により、一人置きに墮胎したるものを椽下、又は其の他に埋没するを通例とした。

行方郡麻生町地方、麻生警察署管内大生原村外一ヶ村、三四十年前迄、子女一人置きに暗に葬りたる風あり、子女を多く持つと農事の妨害になるとの理由に依り、之を慣行した。

西茨城郡笠間町地方、笠間警察署管内、岩瀬町地方、三四十年前迄、生活困難なる理由よりせるものが多い。(中に私生子を恥ぢたるものもある)

新治郡土浦町地方、土浦警察署管内九重村方面、三四十年前迄、生活困難より慣習的に行はれた。

奈良縣、二三十年前迄、添上郡、山邊郡、生駒郡、南葛城郡、宇智郡にて行はれたが、其の發生理由として多産に依る生活苦を免れんとするに基く。

三重縣、同縣下の志摩郡前島地方(波切、船越、片田、布施田、和具、越賀、御座の各村)は太平洋に面した半島であるより、沿海漁業を營む勞働階級のもの、多く蟻(婦)と稱する婦人にして、産兒を設くる場合には、一家の生計上に大影響を及すを以て、古くより墮胎が行はれたのである。

是等の村に於ける生産と死産との關係に就き次に示せば(大正七年現在統計)

| 村 別   | 生産百に對する死産 | 死産百に對する | 村 別 | 生産百に對する死産 | 死産百に對する |
|-------|-----------|---------|-----|-----------|---------|
| 波 切   | 六・一       | 二五・〇    | 越 賀 | 五・八       | 一       |
| 船 越   | 六・五       | 一       | 御 座 | 四・七       | 一       |
| 布 施 田 | 一三・五      | 一       | 長 岡 | 二・七       | 一       |
| 和 具   | 八・三       | 三三・二    | 計   | 六・二       | 一六・七    |

生産百に付き死産數の最も多きは布施田村にして、和具村之に次ぎ、而も死産百に對する私生に因るものは、和具村最も多くして三三人三を示し、波切村之に次ぎ、二五人を示してゐる。

三重縣下に於ける伊賀一圓の地方に於ても、墮胎多く行はれたることを示すも、之れは他の發生要因に基くものとして、他の分類の所で示す。

宮城縣。この縣に於ける墮胎發生の要因は、生活難の家庭に於ける多産に原因して居る。

過去に於ける文献として登米郡史は、その好参考となるものであることは、既に擧げておいた。福島縣にありては、明治十四、五年頃迄は、墮胎の慣行は各地にありしも、其の要因としては、天保年間の饑饉に發せるとは、古老の言である。しかし、其の原因に就きては更に調査を要するも、同地方に於ける慣習として、長子は常に生存せしむるも、次の出生者以下は、資産の程度に應じて適當に制限したと云はれてゐる。

秋田縣、同縣下に於いて墮胎の行はるゝ地方は、北秋田郡矢立村地方、生計困難と多産に原因する。

北秋田郡米内澤町阿仁部地方、生計困難より。仙北郡大澤郷村地方、生活困難に原因する。

鳥取縣に於ける墮胎發生の要因としては、農村、漁村にて不振なる年は、生兒が生活上の脅威を感じる場合に、之より脱せんが爲に行ふものがある。

島根縣、同縣にては、八束郡の下層階級にして、生活困難なる場合に、産兒を墮胎せしむる慣習がある。

佐賀縣下に於ては、過去に墮胎の行はれたる地方に小城郡岩松村、東松浦郡植賀村、東松浦郡佐志村があるが、其の多くは、生活困難と多産とに原因して居る。

沖縄縣にありては、墮胎に関する調査を施行せし八重山郡に就きて見るに、生活困難なる家庭に、産兒の發生を見る場合に、其の生活は慘狀を來すを以て、之れを防止せんが爲に墮胎を行ふ慣習がある。特に注意を拂ふべきは、生活困難を助長したる要素として、苛酷なる課税制度にあつたのである。當時、人頭税を課したる中産以下の家庭にありては、産兒數は、彼等の生活を一層困難ならしむるを以て、産兒を制限したのであるが、而も、之れに直接の關係のあつたものは、その課税制度であつたといはれて居る。

### 三、郷土的風習に因るもの

(一)、淫風。地方的慣習とし、正當なる婚姻に依らざる性的關係、又は其の他の性的慣行に基く私通、野合と稱するもの。

北海道にありては、嬰兒殺事件中墮胎の方法を用ひしものに就きて見るに、不義の爲と稱せらるるものが原因として強く働いて居る。昭和二年に於ける嬰兒殺事件數十九件中、不義(私通)に依る原因別を示せば

一、不義の爲世間態を恥ぢたるもの 九件  
一、近親者間の不義 四件

此の中で、墮胎の方法を用ひしものに就きて見るに、不義の爲世間態を恥ぢしものの中に二件、近親者間の不義に依るもの一件を示してゐる。

神奈川縣足柄下郡地方に於ける墮胎發生要因にありては、「風紀紊れ、未婚の青年男女が野合の結果」と認められてゐる。以下墮胎發生要因中、不義私通に依るものの多數を占むる地方を擧ぐれば

兵庫縣

北及西播州地方 (過去) 不義私通に依る

但馬地方 (過去) 不義私通に依る

是等の地方は古來「但馬よいとこ女の夜這ひ」の俗謡あるが如く、今尙其の遺風残り、未婚の女子にして未婚男子の家に夜間訪問宿泊し、翌朝歸宅する慣習があり、従つて妊娠したる胎兒は之を墮胎する風習があつた。



長崎縣に於ける墮胎發生要因は、人口増加に依るものも多いが、概して淫風盛にして野合の行はるゝ結果と見るべきもの少からずある。古來その風習のあるところは、北松浦郡地方の中、津良村、獅子村、等であると見られてゐる。新潟縣に於ては、こゝも淫風盛にして、野合の行はれたる結果として認められてゐる。村落に於ては、寧ろ經濟的要因に基けるものに比して、其の割合は少ないとせられてゐる。野合に因る墮胎の行はれたる村落を示せば

|          |       |
|----------|-------|
| 北蒲原郡神山村  | 數十年前  |
| 築地村      | 明治維新前 |
| 北魚沼郡田邊山村 | 明治維新前 |
| 廣瀬村      | 不明    |
| 南魚沼郡中之島村 | 明治維新前 |
| 刈羽郡千谷澤村  | 不明    |
| 七日町村     | 四十年前  |
| 南鱒石村     | 三十年前  |
| 東頸城郡旭村   | 不明    |
| 佐渡郡赤泊村   | 十數年前迄 |
| 相川町      | 不明    |
| 深根町      | 右同    |

千葉縣にありては、農村及び漁村で私通の結果に因るものが多い。併しながら、又經濟的理由に依るものと認められてゐる慣習は、細民階級に於て多し。

栃木縣、農村に於ける青年の野合、或は「四十八の恥かき子」と稱し、婦女が四十有餘歳にて妊娠したる場合に之を恥ぢ、慣習的に墮胎する風習がある。

愛知縣では、知多郡、△市にありては、寡婦若くは、無知の婦女の間に、不義によつての妊娠より來るものが多い。靜岡縣、富士郡元△原村、田△浦村、等過去に於て私通より行はれたことがある。

山梨縣。農村に於ける男女青年の私通

滋賀縣。伊香郡、東△井郡、阪△郡

こゝも野合が原因となつてゐる。是等の淫風の行はれし原因は

1. 山間僻地にして、娯樂の途少かりしに依り、性的趣味に陥つたこと。
2. 養蠶、製絲、眞綿製造の爲、青年男女の臨時僱入れのため、風儀紊亂し、其の結果惡風起る。
3. 男子の海外出稼に依り、留守を守る婦女に性的自制心の弱きに依るもの、大上郡に於てそれが多い。

岐阜縣。武儀郡の山間部落の上△村は、山間僻地にして風紀頹廢し、私通の風習がある。

長野縣。南佐久郡川△村方面、數十年前。

諏訪郡北山村等は、明治二十年乃至三十年頃、夜這、野合に依る妊娠多かつた。

下伊那郡地方は、製絲女工等の野合より。

岩手縣。紫波郡、氣仙郡、東磐井郡、下閉伊郡等の農村、漁村では、經濟的原因、並びに野合に依るもの。

青森縣。上北、下北郡、南津輕郡、北津輕郡の一部では、夜這、野合、又生活困難の事由等より。

富山縣。婦負郡南部の山間地では、野合。因に同地方では古來より、青年男女、寡婦の間に夜這ひ行はれし風あり。

鳥取縣。山間僻地の農村、漁村では野合、夜這の風習による妊娠より。猶、此の縣には後述する如き原因がある。

島根縣。八束郡では中産以下の者によつて行はれ、現今では其の風習があつたやうだ。中以上は、私通の結果である。

岡山縣。和氣郡、赤磐郡、上房郡の農村では、それがあつたやうだ。其の他漁村に於ても古來より行はれた。此の縣に於ては、生活困難に因るもの極めて多く、多くは私通に因るものである。

山口縣。玖珂郡北部、吉敷郡東岐波村、豊浦郡豊田前村、野合に因るものにして、過去に於て行はれた。

和歌山縣。山間部落は娯樂の施設乏しく、青年婦女の慰安とするもの無く、之を補ふに盆踊を以つて唯一の慰樂と爲し、其の結果として男女の野合

行はれ、又夜這の風習がある。

漁村にあつては、海洋出稼の男子多く、之に伴ふ空閑の淋しきを守り得ざる有夫の婦女等が、不義の性交に因つて妊娠し、その結果墮胎を爲すに至るものと見られてゐる。

徳島縣。阿波郡(農村)、美馬郡(山村)、海部郡(山村)、那賀郡(山村)に於て過去に行はれた原因は野合、及び人口統制的原因等。

愛媛縣。過去に於て行はれたのは西宇和郡、佐田半島の一部、東宇和郡下宇和村、宇摩郡、新立村、上山村、金砂村、富郷村、金生村、關川村、南宇和郡御莊町、等。何れも婦女等の貞操觀念の稀薄に原因する野合妊娠。

此の外に生計困難に依る要因あることは、他の場合に於て述べ度い。

鹿児島縣。十五六年前では、「へらし兒」と稱し、縣内各所に於て行はれた。原因はこれも野合、夜這に依る妊娠。

此の縣に於て墮胎の行はれた地方は、風紀惡く、私生子の分娩は世間體を恥ぢ、密かに墮胎を爲すの風があつた。また、漁業地にありては、男子が悉く漁業に出て晝夜、留守勝であるより、酷暑の候には海岸に涼を求め、甚だしきに至つては、宿泊所と稱する所に宿泊し、不義の子を胎すものもあつて、これが原因となつて墮胎するに至るものと見られてゐる。

(二)、迷信。我國では古來、或る村落にて一定の人口數に達したる場合に、其れ以上の人口増加は村に凶變ありとの迷信に基き、××を勵行せしめた處もある。例へば、愛媛縣東宇和郡下宇和村宇明間の如き、明治維新前までは、同村の戸數二百戸と人口壹

千人に達するときは、凶變來るとの傳説に基き、人口増加を防止せんが爲め、墮胎を慣行するに至つた。

岡山縣にては、父四十一歳の時に其の妻に妊娠せしむること及び、四十二歳の時に二ツ兒を生むことを忌み、墮胎せしむる風習がある。

又同縣にては、丙午の年に於ける妊娠を忌み、墮胎せしむる風習がある。

三重縣にある矢持村にありては、結婚したる娘が妊娠し、其の娘の母親も妊娠せる場合に、何れかを處置(墮胎)しなければ兩兒は共に生長せずとの迷信を古來より信じ、之れに捉はれて墮胎する風習がある。

(三)、恥搔き子。婦人の年齢が、四十八歳の時に妊娠せる場合は、之れを恥辱なりとして、墮胎せしむる風習がある。例へば、栃木縣地方にては、四十八の恥かき子と稱して、婦女が四十有餘にして妊娠したる場合に、墮胎する風習がある。

鳥取縣地方に於ても、婦人の中年殊に四十歳以後の妊娠は、世間惡惡るしと爲し、又家族の若き娘等に恥ぢて、墮胎する風習がある。

(四)、年子、多産。同一の母性が毎年妊娠して分娩するを年子と稱せらるゝが、年子ならずとも、多産は禽獸に近きものと爲し、墮胎の行はるゝ地方にて、此の理由の許に之をなす風習あり。三重縣名賀郡にても、此の理由の下に、墮胎の行はるゝ風習がある。同郡矢持村の如きは、死産の多きことで有名なるは前述せる所であるが、此の村に於ける死産の多くは、墮胎として認めらるゝものがある。同村に於ける婦人の多産は、同地方に於ける妊娠率の高きを示せるが、而も其の多産は、同地方に於ける婦人が、一夫を守らずして數男に接するもの多かりしたためならんと云はれてゐる。(三重縣衛生課死産の特殊觀察一〇頁参照) 青森縣にても、年子の場合には、其の妊娠を墮胎せしむる風習がある。

(五) 三兒制支持。本邦にて、古來より子三人と稱し、男女合せて三人を以て適當の出産數なりと爲し、之れ以上は不用のものなりとの觀念の許に、四人目からの妊娠に對して墮胎せしむる慣習がある。例へば、鳥取縣に於ける墮胎慣行の原因に此の思想が一要素を占めて居るし、三重縣に於ても、此の思想が一因を占めて居る。同縣名賀郡に於ける「間引く」といふ方言の意味は、此の地方にては三人以上の子を有することを避け、第四人目の妊娠には、適當の手段が講ぜられ、妊娠が中止せらるゝものであるので、之を「間引く」と俗稱すと云はれて居る。

新潟縣中魚沼郡貝野村では、細民は墮胎、若しくは棄兒を三人目以上の産兒の場合に行つた。それは、三人以上の子を養ふに於ては、村民の同情を失ふ風習なりし故、村の斯かる拘束力は、人口制限の作用として働き、××を××せしめたのである。

### 第三章 ××の××地方別、産業別及社會階級別觀察

本邦に於て、××の慣習は、古來より行はれたるを既に述べた通りであるが、之れを地方別に見るも、現時にありては、之の取締り厳しき爲め、稀れに其の犯行の認めらるゝ場合あるに過ぎない。従つて各地方の、××の慣行は、多くは、過去に於ける資料に依りたるものである。

××の慣習に就き、地方的資料を見るに、全國的に行はれたるものと認むることが出来る。其れの特に顯著なる地方は、各縣別に列記した。

産業別に見る場合には、××は全國を通じ、農村に於て最も多く、漁村之れに次ぐ。社會階級別に見る場合には、勞働階級に最も多く行はれたることを知る。中産階級、之れに次ぐ。地方に依り、上流階級、中産階級に於て却つて多く行はれたる所もある。

るが、之れは、其の發生要因として、性的關係の開放に依る妊娠に基くものである。例へば、新潟縣の中魚沼郡岩澤村にありては、上流階級に多く、滋賀縣伊香郡、東淺井郡、阪田郡にありては、男子の縣外出稼の多き地方として階級的に區別なく、留守居婦女の間に墮胎行はれ、和歌山縣紀南地方の沿海漁村も、男子の縣外出稼多き爲、留守居婦女の間に行はるゝ××は、中産階級に多い。是等は、性的關係に依るものであるが、併し、大體に於て、墮胎が勞働階級、細民階級に多く行はれたることに顧みれば、下層階級にありては多産にして、生活困難なるに因り、産兒を制限せんとして、××を慣習的に行はれたるものと認むべきである。

次に各縣に就き、地方別、産業別及び社會階級別に於ける墮胎慣行の跡を擧げたい。

北海道。農、漁村、都會地、炭山地方を通じ、下層階級に屬するもの多し。

東京府警視廳管下。墮胎の行はれたる西多摩郡霞村は、農村にして、神津島、三宅島坪田村は農業漁業の村落なるが、是等の村落に於ける勞働者階級に於て、墮胎の慣習のあつたことを示してゐる。

兵庫縣。農業を主要産業とせる所及西播州地方、但馬地方に墮胎の慣習があつた。これは、中流階級及下層階級に於て行はれた。

長崎縣。同縣にては、農村及漁村の細民階級に於て行はれた。

新潟縣。農村の北蒲原郡神山村、築地村、中蒲原郡、南魚沼郡三屋村、中魚沼郡倉俣村、下船渡村、中深見村、貝野村、刈羽郡千谷澤村、北魚沼郡藪神村にては、細民階級に於て行はれた。併し、中魚沼郡岩澤村（農村）は、古來より墮胎が各階級に行はれたものであるが、特に上流階級に多かりしと云ふ。即ち同村にては、細民と裕福階級と相半せりと云はれたのである。之れ

は同村の裕福階級にては風紀悪しく、性的に放縱なりし結果としての私生児發生を防止せん爲、之を行ひしものならん。此の村を除きては、新潟縣に於ける大多數は、細民階級に於て行はれたと見てよい。

埼玉縣。農村の各階級に行はれたるも、割合に中産階級以下に多い。

千葉縣。農村漁村に於ける細民階級に於て多い。

茨城縣。農村に於て墮胎慣習あり、中産階級及下層階級相半してゐると見られてゐる。即ち、

一、猿島郡境町地方

一、筑波郡谷田部町地方

一、行方郡麻生町地方、等は中産階級に多く、

一、稻敷郡江戸崎町地方

一、西茨城郡笠間町地方

一、新治郡土浦町地方にありては、労働階級に多い。

栃木縣。那須郡、鹽谷郡、芳賀郡等の農村、下層階級に多い。

奈良縣。添上郡、山邊郡、生駒郡、南葛城郡、宇智郡の農村にて、中産階級及び労働階級に多く、細民階級には尠い。

三重縣。志摩郡前島地方の漁業及農業の労働階級（特に蟹婦）に多い。

伊賀一圓（阿山郡、名賀郡）にては、農業、林業、蠶業の中産階級以下に多い。

愛知縣。知多郡及び名古屋市の一部に見られる。産業別では農業及漁業。中産階級以下に多い。

静岡縣。富士郡元吉原村、田子浦村の漁業の労働階級に最も多く、中産階級之に次ぎ、細民階級は割に少い。

山梨縣。農村の各階級の若い女に多い。

滋賀縣。伊賀郡、東淺井郡、限田郡、等の農業、林業にして、男子の海外出稼の盛なる地方に多い。又養蠶業、製絲業の地方

に多い。

岐阜縣。武儀縣、紙の原産工業地。細民階級に多い。

長野縣。南佐久郡川上村、諏訪郡北山村、農業の細民の間に行はれ、下伊那郡山麓は製絲業。中産階級及び労働階級の間に見

られた。

宮城縣。農村、漁村、工業地の中産階級以下に行はれた。

福島縣。各地方の下層階級

岩手縣。紫波郡（煙山村、赤石村、志和村、佐比内村）の各農業

氣仙郡（綾里村）農業、漁業

東磐井郡（大津保村）農業

下閉伊郡（岩泉町、普代村）農、漁村の下層階級。

青森縣。上北郡、下北郡、南津輕郡、北津輕郡の一部、農、漁村の労働階級の間に行はれた。

秋田縣。北秋田郡、矢立村の農業の細民階級。米内澤町、何仁部地方は農業の中産及び下層階級に於て行はれた。

仙北郡にては、大曲町大曲字古町方面であつて、主たる産業と認むべきもなく、労働階級の間が多い。







限を實行するものは、名目上の理由にして原因にはならない。この點につき、歐洲に於ける論争に就き一言する。ユールが歐洲諸國に於て一般に行はれてゐる避妊の方法は、出生率を低下せしむる一手段ではあるが、原因ではないと云つたのと、同一の見方を以て是等の社會事相を觀察する要がある。(Yule, G. Udney: the Fall of the Birth-Rate, London: Cambridge Univ. Press.) 地方風土に於ける迷信と云ひ、恥かき子の風習に隨ふものであつても、是等風習の基調に働くものは經濟的事情に基く人口制限にあらざるか。これは、一考を要する論點であらう。ユールは、またその論文("On the Changes in the Marriage and Birth-Rates in England and Wales During the Past Half Century with an Inquiry as to their Probable Causes," Jour. Roy. Stat. Soc. Vol. ixix, 1926)に於て、物價系列は人種の再生産力を直接間接に變化せしむる所の一種の重要な要素であると云つた。勿論この要素は、他の要素の影響に依る隨伴的作用を毫も排撃するものでなく、これ以外の他の或數原因の作用をも認めたのに對し、ニュースホルムは、出生率の低減現象に於ける各國別差異は、その變動の程度に於て經濟狀態の異常に異れる各國に於て見ると云ひ、而も道德的觀念の變つて來たことを擧げ、經濟要因を重要視したに拘らず、出生率の低減原因を貧困の増大に歸せずして生活標準の向上に歸した。("The Decline of Human Fertility in the United Kingdom and other country as shown by Corrected Birth-Rates.") ユールは、これに就き云ふ。各異れる國に於ける出生率の歴史的過程の變動に就いては、類似點のあることを知るのであるが、それは道德的觀念の變つて來たといふ所謂純粹の道德學說だけでは、出生率の變動現象を説明することが困難になつて來た。ニュースホルム等が論じたやうに道德的觀念にして果して變つて來たとしても、ニュースホルムは猶その背後に横はれる或種の若干經濟的要素の働いてゐることを認めやうとしてゐると。(loc. cit. p. 31) これに對し、スウィー氏は云ふ。國民の道德的氣風を變化せしめた所の各個人の觀念が變つて來たといふ此の事實は、究極する所經濟的理由に基くといふことが言ひ得る。……………即ち出生率の低減は、我々の信する限りに於て、主として産兒制限の實行に依つて生じたものであるが、それが究竟する所、經濟的影響の表現である。(Sweeney, T. S. Declining Birth-Rates, p. 23.) 是等の觀點に依るも、人口制限を目的とする方法として産兒制限の實行に依るも、産兒制限は原因でなくして手段であり、従つてその根柢には經濟的事情が横はつてゐると解すべきである。

翻つて、本邦に於ける子殺、墮胎慣行の理由が地方風土的慣習に依るもの、その件數の一部を占めてゐても、風土的慣習は名目上の理由にして、その根柢には生活問題に直面して之れを實行するに至つたものが、最も多數を占めてゐると解してよからう。この見地に於て感興を惹くものは、全國産兒制限相談件數と出生率との關係である。茲に擧げたるものは、東京市内及府下に於ける産兒制限相談所に對する全國各地方よりの相談申込件數であるが、この數字は遺憾ながら最近のものとして昭和五年と同六年とのものだけ擧げることにした。従つて、之れに對比すべき全國各地方別出生率は、同年次に於ける數字を採らず、一ヶ年の先行を見て昭和四年と同五年との數字を以て、制限相談件數に比較することにした。そこで、各々二ヶ年間の増減とを對比して、伴起法(The coefficient of Concurrent Deviation)に依る相關係數を算出すればよいのであるが、制限相談件數は各地方別に於ける確實なる數字でなく、統計的資料として不備なものであるから、相關々係を求むることは無理である。しかし、各地方別出生率に就き前年との差表増加記號十のものに就き、即ち出生率が前年に比し増加せる地方は、産兒制限相談件數も増加せるかといふ點に注意を拂ふべきものである。この見地に從へば、出生率の増加せる地方にありては、産兒制限を必要とする相談件數も同様に増加してゐるのである。甚だ不完全な見方ではあるが、出生率を基礎にして見るときは、出生率が増加せる地方は、産兒制限を要求する件數も増加してゐるのである。これに依れば、産兒制限に對する需要件數の増加傾向は、地方別に見て、出

石 福 秋 山 青 岩 福 宮 長 岐 滋 山 靜 愛 三 奈 枋 茨 千 群  
川 井 田 形 森 手 島 城 野 阜 賀 梨 岡 知 重 良 木 城 葉 馬

|       |       |   |       |       |   |
|-------|-------|---|-------|-------|---|
| 二四四   | 三四三   | + | 三四・一八 | 三五・〇〇 | + |
| 四一二   | 六六四   | + | 三三・一一 | 三二・四六 | - |
| 二二三   | 四七八   | + | 三四・九七 | 三三・九二 | - |
| 一八九   | 三八六   | + | 三五・五九 | 三五・六七 | + |
| 四一    | 五四    | + | 二九・八八 | 三〇・二四 | + |
| 八三    | 八七    | + | 三四・二一 | 三三・五二 | - |
| 一、〇七四 | 一、八九二 | + | 三三・三三 | 三二・六三 | - |
| 二三三   | 三四七   | + | 三五・六二 | 三四・六五 | - |
| 一一一   | 一六七   | + | 三四・四六 | 三三・一六 | - |
| 四八    | 五〇    | + | 三〇・九八 | 三〇・八五 | - |
| 九四    | 一一一   | + | 三五・二七 | 三五・六〇 | + |
| 一、一〇四 | 九四三   | - | 三二・二二 | 三二・一四 | - |
| 一二〇   | 一七一   | + | 三八・八六 | 三七・七三 | - |
| 三六七   | 七八二   | + | 三六・二六 | 三六・五五 | + |
| 八五    | 一五九   | + | 三九・八八 | 三九・三七 | - |
| 七九〇   | 一、〇〇四 | + | 四二・一五 | 四三・七三 | + |
| 一九六   | 二三二   | + | 三七・二〇 | 三九・二六 | + |
| 二八三   | 三一二   | + | 三九・四三 | 四二・二七 | + |
| 七四    | 八三    | + | 三四・八三 | 三三・二九 | - |
| 六四    | 九三    | + | 三三・〇六 | 三二・七五 | - |

生率の増加傾向に作ふものと云ひ得る。しかし、これは勿論統計的に精確なる歸結ではない。かく觀するとき、第二章に於て墮胎、子殺の發生要因に就き擧げた所の人口と食糧との關係に於て、古來人口を制限した地方の如き、出生に依る人口の増加は地域的經濟生活に於ける脅威であつたであらうし、また家庭經濟の限界的事情にあるものにして産兒數を増加するに於ては、彼等の生活を困難に陥らしむるものであるから、人口制限の方法として墮胎、子殺等の方法を講じたことは、昔から地方の事情として已むを得なかつたことと思はれる。従つて、迷信その他風土的慣習に基いて子殺等の行はれたことも、その根柢には、經濟的要素の働いてゐることを看過することが出来ないであらう。

全國産兒制限相談件數對出生率増減表

|     | 産兒制限相談件數 |        | 前年に對する増減 | 府縣別出生率 |       | 前年に對する増減 |
|-----|----------|--------|----------|--------|-------|----------|
|     | 昭和五年     | 昭和六年   |          | 昭和四年   | 昭和五年  |          |
| 廳府縣 | 一、五一四    | 一、一七二  | -        | 三八・二一  | 三七・四一 | -        |
| 北海道 | 一二、七三八   | 一七、九四一 | +        | 二八・七〇  | 二八・〇一 | -        |
| 東京  | 三八三      | 二七二    | -        | 二八・〇七  | 二六・九〇 | -        |
| 京都  | 一、〇〇二    | 二、九二二  | +        | 二六・三七  | 二六・二六 | -        |
| 大阪  | 九九〇      | 一、四九一  | +        | 三三・〇四  | 三〇・七七 | -        |
| 神奈川 | 七九九      | 七四三    | -        | 二九・九七  | 二九・二九 | -        |
| 兵庫  | 七〇       | 八四     | +        | 三三・七三  | 三一・〇六 | -        |
| 長崎  | 五七四      | 六四一    | +        | 三五・八二  | 三六・七四 | +        |
| 新潟  | 七七       | 一四九    | +        | 三三・八三  | 三四・〇二 | +        |



其困難なる理由は同じ自然増加数を示す場合に於ても其質の相異により増殖力、再生産力と云ふ立場より見る時には全然相反する意味を有する事が有り得るからである。

同じ自然増加数を持ち乍ら其質を異にし得る場合は次の三つに分けて考へられる。

一 一般に人口の増減は一定の期間(通常一ケ年間)中に發生せる出生と死亡との差引きに依り測定せられる。

昭和八年に於ける我國人口の増加九二七、二六六人と云ふ數字は同年中に發生したる出生二、一二一、二五三人より死亡一、一九三、九八七人を差引きて得られたるもので、之人口の自然増加と稱せられるものである。異なる大きさの人口の自然増加を比較するためには人口千に付ての割合で表されたものは自然増加率と云ふ。

我々は以上の如き自然増加数又は率により、去年と今年の人口状態を比較したり、外國の人口増加と我國のそれを比較したりして、其増加数又は率の大小により、人口増加の状態傾向を判斷する。

我々が其自然増加数及率、そのものが現實に於ける出生と死亡の差としての意味しかないものと考へる場合には何ら問題はない。然し乍ら其數又は率を以つて、其人口の生存力、増殖力、又は再生産力の測定基準となす場合には種々困難なる問題を伴ふ。

## 我が國人口の再生産力に就いて

研究員 左 右 田 武 夫

| 沖<br>繩 | 鹿<br>兒<br>島 | 宮<br>崎 | 熊<br>本 | 佐<br>賀 | 大<br>分 | 福<br>岡 | 高<br>知 | 愛<br>媛 | 香<br>川 | 徳<br>島 | 和<br>歌<br>山 | 山<br>口 | 廣<br>島 | 岡<br>山 | 島<br>根 | 島<br>取 | 富<br>山 |
|--------|-------------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|-------------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 八      | 五六          | 二九     | 六二     | 八八     | 四五     | 八一四    | 三三     | 五九     | 八〇     | 八九     | 六五          | 一四〇    | 二四九    | 一三八    | 五四     | 九六     | 一二六    |
|        | 七三          | 四一     | 八四     | 六〇     | 九八     | 七三四    | 五一     | 四四     | 一一九    | 三五     | 九九          | 一九二    | 二四九    | 八六     | 六四     | 九二     | 一〇九    |
|        | +           | +      | +      | -      | +      | -      | +      | -      | +      | -      | +           | +      |        | -      | +      | -      | -      |
| 二八・〇四  | 三三・五八       | 三五・三六  | 三二・一四  | 三四・三八  | 三三・一六  | 三二・〇九  | 三一・三六  | 三三・八四  | 三四・六一  | 三四・九三  | 二九・六九       | 二九・五一  | 三一・四三  | 三〇・三九  | 三一・五九  | 三一・三四  | 三六・五五  |
| 二四・八二  | 三二・二七       | 三三・五五  | 三一・七〇  | 三三・〇五  | 三二・五四  | 二九・六〇  | 二九・八八  | 三三・三三  | 三二・九七  | 三三・六八  | 二九・七九       | 二八・四三  | 二九・九六  | 二九・一七  | 三〇・一二  | 三〇・四五  | 三六・四六  |
| -      | -           | -      | -      | -      | -      | -      | -      | -      | -      | -      | -           | +      | -      | -      | -      | -      | -      |

第一、同一の自然増加は異なる出生数と死亡数の差引きにより生じ得る事。

第二、同一の出生数と同一の死亡数を示す場合が異つた年齢構成の人口に於て存在し得る事。

第三、同一の出生数と同一の死亡数を示す場合が異つた各歳別出生率と死亡率を持つ人口に於て存在し得る事。

然らば以上三つの異質性により如何なる人口再生産力に於ける意味の相異が生じ得るであらうか。

凡べての人口は出生に依つて増加し、死亡に依つて減少する。然し乍ら人口に對する出生と死亡との關係は單なる數學的プラスとマイナスの關聯ではない。

若しも新しく生れたものが單に死亡者と置き代へられるのならば、唯必要な事は出生が死亡に等しく、死亡が若しなからば出生がなくとも人口は生存し得ると云ふ事になる。成程斯る人口の總數は數學的には變化しないであらう。然しこの考へ方が誤りである事は容易に解る。即ち若しも一定の人口に於て一人の死亡も一人の出生も起らぬならば、其人口は絶へず歳をとり五十年後には妊孕年齢にある女子及び十分なる肉體的勞働力を有する男子が共に皆無となる。總人口は依然として五十年前と少しも變らない大きさであるが、其再生産に關しては何ものもなされて居らず、再生産の將來に對する總べての機會を永遠に喪失して終つて居るのである。

如何に死亡が減少して、譬へ總ての人間が百歳迄生き得るやうになつたとしても、人口の再生産を確保するためには一定の出生數が絶対に必要である。

生れたるものは必ず死ぬのである。出生は死亡の必要條件である。然し死亡は出生の必要條件ではない。

其故に人口の再生産に關して持つ出生と死亡の意味は著しく異なる。即ち出生は人口再生産力の窮極の決定者であるが、死亡は

現在の人口のバランスの決定には出生と共に重要な意味を持つも人口の更新、再生産の問題に對しては出生程に決定的重要性を持つて居ないのである。

同一の自然増加は出生の増加に依つて齎らされる事もあり死亡の減少に依つて齎らされる事もある。然し出生の増加と死亡の減少が如何に異なる意味を持つかは以上により直ちに理解せられるであらう。

出生と死亡が人口に對する關係は更に複雑なる考察を必要とする。即ち出生と死亡は凡べての人口に一樣に關係するのではなく、其年齢の段階に於て著しき相異を有する。出生は妊孕年齢と云はれる特定の年齢階級に於てのみ發生し、其年齢にある人口の大きさは出生の數と密接なる關係を有する。然もその特殊年齢中に於ても各年齢別に見た出生率は著しき相異を示し其高き部分の年齢にあるものの人口は又出生数の大きさに重要な關係を有して居る。

死亡に就いて之を見れば出生が大體に於て十五歳—四十九歳に集中せるに相反し、幼年と老年に於て死亡多く、各年齢別に見たる死亡率も大體に於て年少者程高き部分と高齢者程高き部分とよりなつて居る。即ち死亡に就ては幼年者の數と老年者の數とに其大さが密接なる關係を有して居るのである。

今茲に老年階級の割合少く青壯年階級の割合大なる人口があるとする。此人口に於ては假令其各年齢別の死亡率が高く、出産率が低くとも、其死亡数は少く、その出生数は多くなり、其表面的なる出生の大なる死亡超過は實際の出産力が少しも其人口を維持するに十分でないのにも拘らず、尙高い生存力を有するかの如き印象を與へる。

即ち其は年齢構成の比率に依つて生じた一時的現象であつて、若しも十五歳以下の年齢階級の割合も少ないものとすれば、其人口の出生数は次の世代に於ては妊孕年齢階級の減少により低下を來し、其死亡数は逆に高齢者の割合の増大により上騰するに

至り、従つて自然増加の著しき減少を來さざるを得ざる年齢構成に變化するであらう。

以上の例に於ては人口各年齢別の出生率及び死亡率が一定なりとの假定に基いて考へられたのであるが、次に例へば高年齢者に於ける各年齢別の死亡率が著しく何か衛生、醫學上の發明により低くなつた場合を考へて見やう。

即ち高年齢者に於ける死亡数は著しく減少し、其結果、妊孕年齢階級には何等増減なく出生が同數なるため、出生と死亡との均衡の上からは著しい自然増加が表れる。

然し乍ら斯る自然増加が何等其人口の再生産力の増大を意味さない事は既に述べた所により明かである。

自然増加數が人口の再生産力の測定指標として色々の缺陷を有し其まゝ利用し得ざる事は上述した如くである。然らば我々は何に其測定基準を求むべきか。

肯綮に當る質問は、出生の死亡超過があるかどうかではなくして、一つの世代が死滅して終ふ其生涯の期間に於て、其出生力と死亡力とが永續するとすれば斯る出生力と死亡力とは其世代を置き代へるに十分なる子供を産むやうな均衡にあるか否うかである。

其再生産と云ふのは決して人口全體を含め、高齢者や幼少者を再生産すると云ふのではなく、再生産力を持つた主として妊孕年齢階級にある女子の再生産を意味する。

勿論男子も再生産には生理的に經濟的に重要な關係を有するが、女子の場合程年齢關係に支配される事も少く、其關係は女子程密接直接的ではない。それ故に我々は人口の再生産力を考へる場合、何ら間違なく妊孕年齢にある女子の再生産力を其測定基準となし得るであらう。

今斯る立場に立つて人口の増減を考へ直して見やう。

新しく生れたる千人の女兒が其生涯に於て丁度千人の女兒を生むならば、人口は古い千人が死亡した後にも變化しないであらう。其出生力と死亡力が其まゝであるならば其千人の女兒は其生涯に於て再び千人の女兒を生む。そして尙其出生力と死亡力とが永久に同一であれば、人口は常に正確に現状維持である。

若しも其場合千人以上の女兒が新しく出生した女兒千人の生涯に於て作られるならば、其人口は増加するであらうし、其が千人より少なければ、其人口は減少し終には死滅すべき運命にあると云へやう。

然らば斯る再生産率、即ち千人の新しく生れたる女兒は其生涯に於て何人の女兒を再生産するかと云ふ率は如何にして測定せられるであらうか。

之測定のために第一に必要な事は、新しく出生した女兒千人中何人が妊孕年齢たる十五歳に到達するか、何人が十六歳に、……最後に何人が妊孕年齢を通過し五十歳に到達するかを各年齢別に明確に知る事である。

此知識は生命表から抽出せられる、即ち生命表は、各年齢別の死亡力が觀察の時期に於ける死亡力であると假定すれば、千人の出生中各年齢の始めに於て生残して居る女子數を表示して居るのである。

第二に必要なものは、妊孕年齢の各歳別女子の實數、及び十五歳—十六歳の女子千人に付女兒出生の數、十六歳—十七歳の女子千人に付女兒出生の數、……と云ふやうな各年齢別女子出生率計算のために、母の年齢別に依る女兒出生數である。

第三に必要な事は、上述の各歳別出生率を、第一に於ける生命表より得られたる十五歳—十六歳、十六歳—十七歳……の女子數と掛け合せる事である。(其女子數は十五歳—十六歳の女子は十五歳の生存者と十六歳の生存者の平均に等しきものと假定し

て以下各歳毎に求められる。即ち十五歳—十六歳の女子數に十五歳—十六歳の女子の女兒出産率を乗じて、十五歳—十六歳の年齢に於て千人の新しく生れたる女子は何人の女兒を生むかを知る。(現在の出産力と死亡力にて) 同様の計算により十六歳—十七歳……の結果を知る。斯くの如くして得られたる新しい出産率の全部を合計したるものは、もとの千人の女兒が其一生涯に於て生む女兒の總數を示すであらう。

若し此合計が千に等しいならば人口は其まゝであり、若し大ならば人口は増加し、小ならば、出産力と死亡力が同様である限り死滅する運命にある。

我々は茲に人口の再生産力を測定し得べき方法を知り得たのである。然らば我國の人口再生産力は如何なる率を示しつゝあるであらうか。

計算に必要な資料は、女子の生命表、妊孕年齢各歳別女子の實數及び母の年齢別女兒出生數である。

生命表は既に第四回迄發表せられて居り、妊孕年齢各歳別女子の數も三度の國勢調査により正確に之を知り得るが母の年齢別出生數の調査は利用し得るものとして大正十四年の出生に就き調査せられたる内閣統計局調査資料「父母の年齢と出生との關係」中に於ける母の年齢五歳階級別嫡出女子竝に私生子出生數のみに過ぎない。

其故に我國に於ては大正十四年に於ける再生産率が唯一回計算せられ得るだけで其率の變遷を知る事の出来ない怨はあるが、然し外國との比較は之により始めて可能となり、我國の再生産力が國際的に如何なる地位を占めつゝあるかは之により明かにされるであらう。

計算に利用したる資料は次の如し。

女子の生命表。大正十年—大正十四年の死亡統計を基礎として作られたる統計局發表の「第四回生命表」により五歳年齢階級別生存者を十五歳—十九歳……四十五歳……四十九歳に就いて計算し求める

妊孕年齢各歳別女子數。大正十四年國勢調査により、同様に五歳年齢階級別に算出する。

母の年齢別女子出生數。上述内閣統計局調査資料「父母の年齢と出生との關係」中に於ける母の五歳年齢階級別嫡出女子及び私生子女出生數の合計により之を得る。計算の方法は大體に於て既に述べた如くであるが資料の關係上五歳年齢階級別により計算したるため其手續きは多少異なる。計算資料を表にすれば左の如し。

我國の再生産率は千人の女子に就き一、四九五である。若しも大正十四年現在に於ける我國の生産力と死亡力とが永續するものとすれば我國の人口は一世代に約一倍半の増加をなすべき事を之率を示す。

之を R, K, Kue Yusa が計算したる歐洲諸國の率と比率すれば次表の如く、ロシアに次いで高率なるを見る。



|           |               |    |    |
|-----------|---------------|----|----|
| はしがき      | 一、全國的概観       | 本文 | 内容 |
| (一) 總説    | 最近の配偶關係       |    |    |
| 二、地方別概観   | 大正九年—昭和五年間の變化 |    |    |
| (一) 總説    | 年齡階級別考察       |    |    |
| (二) 地方別概観 | 婚姻年齡          |    |    |
| (三) 地方別概観 | 特殊婚姻率         |    |    |
| (四) 地方別概観 | 特殊出生率         |    |    |
| (五) 地方別概観 | 括要            |    |    |
| (六) 地方別概観 |               |    |    |
| (七) 地方別概観 |               |    |    |

## 我が國配偶關係の觀察 (一) (概報)

研究員 館

稔

|           |           |
|-----------|-----------|
| (一) 總説    | 男女別考察     |
| (二) 地方別概観 | 年齡階級別考察   |
| (三) 地方別概観 | 地方別平均婚姻年齡 |
| (四) 地方別概観 | 地方別特殊婚姻率  |
| (五) 地方別概観 | 地方別特殊出生率  |
| (六) 地方別概観 | 結語        |
| (七) 地方別概観 |           |

### 統計表

|     |                                      |
|-----|--------------------------------------|
| 第一表 | 可婚年齡人口配偶關係(昭和五年・大正十四年・大正十九年)         |
| 第二表 | 可婚年齡人口配偶關係性年齡階級別表(昭和五年・大正十四年・大正十九年)  |
| 第三表 | 二〇—三四歲年齡階級の有配偶及び未婚(昭和五年・大正十四年・大正十九年) |
| 第四表 | 平均初婚年齡(大正九年—昭和七年)                    |

我國再生産率の計算資料一覽表

| 年 齡 別   | 母の年齢別<br>嫡出及び私<br>生女兒出生<br>數 | 大正十四年<br>國勢調査に<br>よる女子數 | 女子年齢別<br>女兒出生率<br>‰ | 第四回生命<br>表による女<br>子生存者數 | 女子年齢別<br>再生産率<br>‰ |
|---------|------------------------------|-------------------------|---------------------|-------------------------|--------------------|
| 15歳未満   | 246                          |                         |                     |                         |                    |
| 15 — 19 | 58,420                       | 2,896,907               | 20.17               | 358,974                 | 14.48              |
| 20 — 24 | 266,211                      | 2,485,728               | 107.10              | 338,625                 | 72.51              |
| 25 — 29 | 260,032                      | 2,136,969               | 121.68              | 319,633                 | 77.75              |
| 30 — 34 | 193,287                      | 1,795,910               | 107.63              | 303,027                 | 65.22              |
| 35 — 39 | 138,833                      | 1,680,839               | 82.60               | 287,218                 | 47.41              |
| 40 — 44 | 56,759                       | 1,597,541               | 35.53               | 271,487                 | 19.20              |
| 45 — 49 | 7,155                        | 1,515,661               | 4.72                | 256,424                 | 2.42               |
| 50歳以上   | 1,633                        |                         |                     |                         |                    |
| 計       |                              |                         |                     |                         | 註 299.08           |

註 (五歲階級別の調査なる故  $299.08 \times 5 = 1,495.40$  が總再生産率を示すのである)

各國の再生産率比較表

| 國 別           | 調 査 年 次 | 再 生 産 率<br>(女子一人に付) |
|---------------|---------|---------------------|
| ロ シ ア         | 1928    | 1.700               |
| 日 本           | 1925    | 1.495               |
| ウ ク ラ イ ナ     | 1929    | 1.400               |
| 伊 太 利         | 1921~22 | 1.400               |
| 波 蘭           | 1927    | 1.300               |
| ブ ル ガ リ ア     | 1929    | 1.300               |
| 東部チエコスロバキア    | 1929    | 1.300               |
| ハンガリー         | 1930    | 1.200               |
| フィンランド        | 1921~25 | 1.146               |
| スウェーデン        | 1921~22 | 1.137               |
| デンマーク         | 1923    | 1.097               |
| イングランド及びウェールズ | 1921    | 1.087               |
| 西部チエコスロバキア    | 1929    | 0.950               |
| 佛 蘭 西         | 1922~25 | 0.937               |
| 獨 逸           | 1925    | 0.937               |
| ラ ト ビ ア       | 1929    | 0.900               |
| オ ウ ス ト リ ア   | 1928    | 0.800               |
| エ ス ト ニ ア     | 1929    | 0.650               |

(R. R. Kuczynski, The Balance of Births and Deaths Vol. I Vol. II による)

第五表 特殊婚姻率(昭和五年・大正十四年・大正九年)

第六表 年齡階級別特殊婚姻率(昭和五年・大正九年)

第七表 特殊出生率(昭和五年・大正十四年・大正九年)

第八表 道府縣別可婚年齡人口有配偶率(昭和五年・大正十四年・大正九年)

第九表 大正十四年道府縣別可婚年齡人口有配偶率順位(總數)

第十表 大正十四年道府縣別出生率(總數)

第十一表 大正九年可婚年齡者職業別配偶關係百分率

第十二表 道府縣別可婚年齡人口男女比率(昭和五年・大正十四年・大正九年)

第十三表 大正十四年東京府及岩手縣可婚年齡人口配偶關係性年齡別百分率

第十四表 二〇一三四歲東京府及岩手縣配偶關係

第十五表 道府縣別夫妻平均婚姻年齡(昭和五年・大正十四年・大正九年)

第十六表 道府縣別特殊婚姻率(昭和五年・大正十四年・大正九年)

第十七表 道府縣別特殊出生率(昭和五年・大正十四年・大正九年)

圖表

第一圖 可婚年齡人口五歲階級別有配偶者數(昭和五年・大正十四年・大正九年)

第二圖 夫妻年齡別婚姻件數(昭和五年・大正九年)

第三圖 年齡階級別特殊婚姻率(昭和五年・大正九年)

第四圖 特殊出生率と有配偶率の變動

第五圖 大正十四年道府縣別可婚年齡人口有配偶率

第六圖 大正十四年道府縣別全出生率に對する工業生産額の割合

第七圖 大正十四年道府縣別可婚年齡人口有配偶率(男)

第八圖 大正十四年道府縣別可婚年齡人口有配偶率(女)

第九圖 大正十四年東京府及び岩手縣可婚年齡人口性年齡別配偶關係

第十圖 東北六縣有配偶率比較圖(昭和五年・大正十四年・大正九年)

第十一圖 東北六縣特殊婚姻率比較圖(昭和五年・大正十四年・大正九年)

第十二圖 東北六縣特殊出生率比較圖(昭和五年・大正十四年・大正九年)

## はしがき

明治維新以後に於ける我が國人口の急激なる増加が經濟的、政治的變革に基く通婚範圍の垂直的並に水平的擴大を中心とする。

配偶關係の一大變化に因由すること極めて大なるは周知の事實である。但し云ふ迄もなく之は極めて特殊且顯著なる事例である。

一般に、出生率變動の原因に關する所謂婚姻率説、婚期説或は婚姻持續期間に關する諸説の検討は別としても、疑ひもなく配偶關係の如何は人口再生産に關する一大規制條件である。同時に人口現象の極めて包括的な表現でもある。此の意味に於て配偶關係の考察は人口現象研究の第一歩たるべきである。

配偶關係の如何は社會の歴史的、思想的、社會的、經濟的、自然的諸條件を極めて強く反映する。戰後の所謂アメリカニズムの發展と米國に於ける「nuptiality」は「mother-hood」を意味し「といふ事實とは無關係ではあり得ない。又英國一八五一年人口調査の指導者 Hare は既に配偶關係の成立たる結婚は「經濟繁榮のパロメーター」であると云つた。又景氣變動と不可分の關係にある經濟構造の變化は配偶關係を徐々に變更し、出生現象に重大なる影響を與へる。かくて配偶關係の考察は常に人口將來の推移を豫測するに不可缺の要件たるのみならず、社會の文化發展の現狀を知り、その將來を卜すべき重要な事實である。

右の如き配偶關係の社會的、自然的規制性並に被規制性は出生を直接統制することが殆んど不可能であることと相俟つて古來現在に至る迄、配偶關係に干渉することを以て人口政策の重要な手段の一たらしめた。其の效果の價值判斷は自ら別個の問題である。或る意味に於て、現代人口問題の一つの特色は量的政策に對して質的政策が高揚せられること乃至は質的配慮が量的配慮に著しく加はりつつあることにある。質的政策の手段は素より多岐に亘るが配偶關係への干渉が重要な地位を占めてゐることとは云ふ迄もない。

又近來、配偶狀態の考察は別の意味に於て重要視せられるに至つた。即ち、技術並に技術的精神の發達、思想の變遷が配偶關

係の如何と出生現象との間に益々介入するに至つたといふことである。それは有配偶率の上昇と出生率の低下の傾向として歐米諸國特に北米合衆國に於て顯著に現はれ注目を惹くに至つた。その價值判斷は別個の問題であるが、戦後に於ける文化の變遷を反映するものとして現代人口問題の一つの特色をなしつつあるは事實である。

以上の如く配偶關係の考察は極めて重要な意義を有つてゐるが、我が國に於ける此の方面の研究は未だ十分であるとは云ひ得ない。以下に於て私は比較的短期間に集計した資料を掲げ之に若干の説明を附して參考に供しようと思ふ。問題が極めて複雑であり、多方面に亘るが故に輕々に結論を引き出すことは出来ない。以下は資料が主であつて説明は副である。系統的でないこと及び手を加へた數字を煩をいとせず出来るだけ掲載したのはその爲である。

以下に於て極めて簡単に、知り得る限り最近の状態をスケッチし、個々の問題は稿を改めて各別に考察することとする。

## 一 全國的概観

### (一) 最近の配偶關係

先づ全國的(内地)に見て、現在我が國の配偶關係が如何なる状態にあるかを概括的に考察することに出發しよう。我々は三回の國勢調査の結果に基いて最近の状態を知ると共に大正九年から昭和五年に至る十箇年間の變遷を辿ることが出来る。

配偶狀態を觀察するのに、事實上、一應配偶關係に入り込み得ると考へられる人口をとつて觀察することが適當である。特に國際的に比較する場合に必要である。そこで十五歳未満の人口はその資格を缺くものと假定して之を除外し、十五歳以上の人口、所謂「可婚年齢人口」(Die Masse der Heiratsfähigen)に就いて考察することとする。

又、事實上の配偶關係が比較的多いとせられてゐる我が國に於いては、法律上の配偶關係のみならず、事實上のそれをも併せて觀察することが必要である。幸にして國勢調査の結果には此の兩者が含まれてゐる。(註1・2)

註 (1) 此の稿には此の問題を省略する。戸田貞三教授は「家族と婚姻」(昭・九)中「事實上の婚姻と法律上の婚姻」の項に於て最近我が國の總

有配偶者中法律婚によるものと然らざるものとを推計して次の如き結果に到達されてゐる。(同書五四頁)

(一) 總有配偶者中法律婚によるもの男子約八三・四—八二・二%、女子約八四・一—八三・五%。

法律婚によるものと事實婚によるものとの割合は大正九年より大正十四年に到る間に約〇・六%減少した。

(二) 男子は女子に比し内縁關係に止まるもの約七厘程多い。

註 (2) 本稿に於て「結婚」なる語を用ふるときは事實婚を含む。「婚姻」なる語を用ふるときは法律婚のみを指すものとする。

三回の國勢調査の結果によつて可婚年齢人口に就いて其の配偶關係を示せば次に掲ぐる第一表の如くである。

第一表 可婚年齢人口配偶關係

(昭和5年・大正14年・大正9年)

| 年次    | 男        |         |          |         |       | 女        |         |          |         |       |
|-------|----------|---------|----------|---------|-------|----------|---------|----------|---------|-------|
|       | 計        | 未婚      | 有配偶      | 死別      | 離別    | 計        | 未婚      | 有配偶      | 死別      | 離別    |
| 大正9年  | 千人17,735 | 千人5,200 | 千人11,147 | 千人1,059 | 千人320 | 千人17,812 | 千人3,327 | 千人11,253 | 千人2,805 | 千人431 |
| 大正14年 | 18,950   | 5,677   | 11,860   | 1,078   | 334   | 18,832   | 3,597   | 11,879   | 2,951   | 436   |
| 昭和5年  | 20,515   | 6,583   | 12,573   | 1,083   | 273   | 20,050   | 3,912   | 12,637   | 3,168   | 333   |
| 割合    | 100.0    | 29.3    | 62.9     | 6.0     | 1.9   | 100.0    | 18.7    | 63.1     | 15.8    | 2.4   |





次に同じく第一表によつて割合の變化を見れば、男子有配偶者が男子可婚年齢中に占める割合は大正九年の六二・九%から大正十四年の六二・六%に極めて僅かに低下してゐる。大正十四年から昭和五年に至つては六一・三%と前五年份に比して稍々著しき低下を示してゐる。未婚者の割合は前五年份には二九・三%から三〇・〇%に僅かに上昇し、後五年間に三二・一%と著しく上昇してゐる。死別、離別は共に低下が認められる。

女子の有配偶者の割合が此の十箇年殆んど不變であるといふことは興味深い現象である。未婚者の割合は漸次上昇を示してゐる。死別は大正十四年が少しく低下し一五・六%、大正九年及び昭和五年は共に一五・八%である。離別は二・四から二・三に二・三から一・七%に顯著に低下してゐる。

以上の如く此の間を通じて見らるる變化は次の如く要約することが出来る。

- (一) 有配偶者の増加は男女共に可婚年齢者の増加よりも遅れる傾向があり、未婚者は相對的に増加してゐる。従つて可婚年齢者中有配偶者の割合は低下を示してゐる。
- (二) 但しその程度は男子に於て高く女子に於ては極めて微弱である。
- (三) 以上の傾向は大正九年から大正十四年に至る期間に於て極めて微弱であり、後五箇年に相當顯著である。
- (四) 男子の死別は相對的に低下し、女子の死別は餘り變化してゐない。
- (五) 離別は男女共に相對的に著しき減少を示してゐる。その傾向は男子に比し女子に於て著しい。

(三) 年齢階級別考察

以上の如き最近に於ける配偶關係並にその變化が如何なる意義を有するかを知る爲には進んでその年齢別考察を試みなければならぬ。そこで三回の國勢調査の結果によつて十五歳以上五歳年齢階級別に男女の配偶關係を示すために作製したものが第二表である。更に此の複雑な數字を簡単に圖指したものが第一圖である。

第二表 可婚年齢人口配偶關係性年齢階級別表

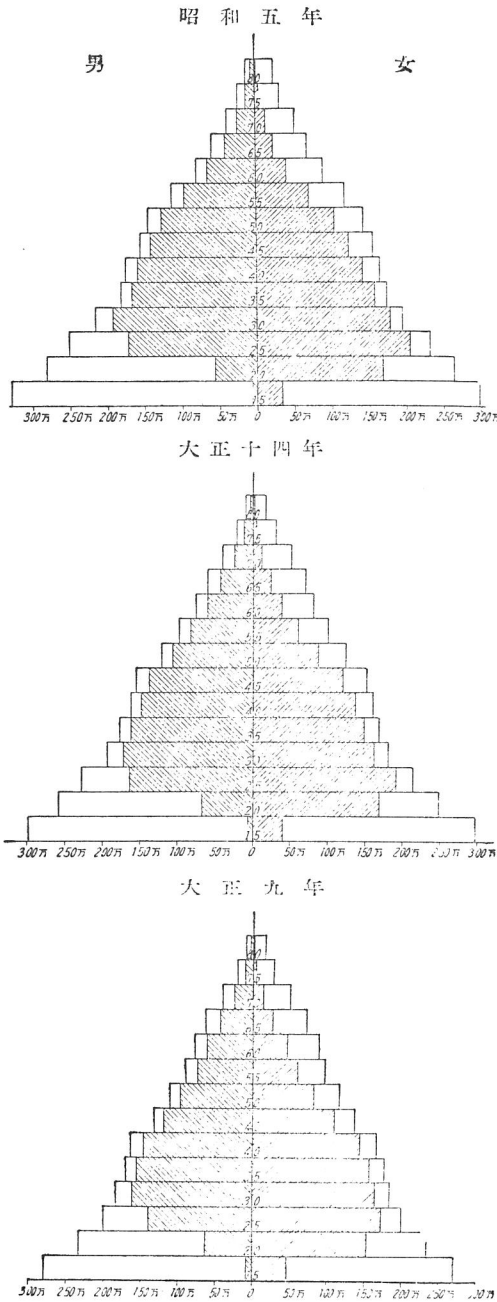
(昭和5年・大正14年・大正9年)

| 年齢階級及<br>年次 | 男               |        |       |        |       |     |        |       |        |       | 女               |       |      |      |     |     |       |      |      |      |
|-------------|-----------------|--------|-------|--------|-------|-----|--------|-------|--------|-------|-----------------|-------|------|------|-----|-----|-------|------|------|------|
|             | 可婚年<br>齡者總<br>計 |        |       |        |       | 有配偶 |        |       |        |       | 可婚年<br>齡者總<br>計 |       |      |      |     | 有配偶 |       |      |      |      |
|             | 數               | 計      | 未婚    | 有配     | 死別    | 數   | 計      | 未婚    | 有配     | 死別    | 數               | 計     | 未婚   | 有配   | 死別  | 數   | 計     | 未婚   | 有配   | 死別   |
| 總數          | 35,517          | 17,736 | 5,207 | 11,147 | 1,069 | 329 | 17,812 | 3,337 | 11,238 | 2,806 | 431             | 100.0 | 29.3 | 62.9 | 6.0 | 1.9 | 100.0 | 18.7 | 63.1 | 15.8 |
| 正大9年        | 37,840          | 18,950 | 5,677 | 11,860 | 1,078 | 334 | 18,862 | 3,597 | 11,879 | 2,951 | 436             | 100.0 | 30.0 | 62.6 | 5.7 | 1.8 | 100.0 | 19.1 | 63.0 | 15.6 |
| 昭和5年        | 40,565          | 20,515 | 6,586 | 12,673 | 1,083 | 273 | 20,050 | 3,912 | 12,637 | 3,168 | 333             | 100.0 | 32.1 | 61.3 | 5.3 | 1.3 | 100.0 | 19.5 | 63.0 | 15.8 |
| 15-19       | 5,419           | 2,749  | 2,672 | 71     | 1     | 5   | 2,670  | 2,197 | 443    | 3     | 27              | 100.0 | 97.2 | 2.6  | —   | 0.2 | 100.0 | 82.3 | 16.6 | 0.1  |
| 14年         | 5,885           | 2,988  | 2,935 | 50     | 0     | 3   | 2,897  | 2,489 | 384    | 2     | 22              | 100.0 | 98.2 | 1.7  | —   | 0.1 | 100.0 | 85.9 | 13.2 | 0.1  |
| 5年          | 6,273           | 3,282  | 3,247 | 35     | 0     | 0   | 2,991  | 2,654 | 328    | 2     | 7               | 100.0 | 98.9 | 1.1  | —   | —   | 100.0 | 88.7 | 11.0 | 0.1  |
| 20-24       | 4,609           | 2,316  | 1,642 | 634    | 7     | 33  | 2,293  | 719   | 1,488  | 19    | 66              | 100.0 | 70.9 | 27.4 | 0.3 | 1.4 | 100.0 | 31.4 | 64.9 | 0.8  |
| 14年         | 5,061           | 2,575  | 1,865 | 670    | 6     | 33  | 2,486  | 735   | 1,682  | 16    | 68              | 100.0 | 72.4 | 26.0 | 0.2 | 1.3 | 100.0 | 29.6 | 67.1 | 0.6  |
| 5年          | 5,153           | 2,810  | 2,238 | 547    | 3     | 22  | 2,642  | 900   | 1,682  | 9     | 51              | 100.0 | 79.6 | 19.5 | 0.1 | 0.8 | 100.0 | 34.1 | 63.7 | 0.3  |
| 25-29       | 3,924           | 2,008  | 517   | 1,418  | 22    | 51  | 1,916  | 175   | 1,643  | 40    | 58              | 100.0 | 25.7 | 70.6 | 1.1 | 2.6 | 100.0 | 9.2  | 85.7 | 2.1  |
| 14年         | 4,393           | 2,257  | 563   | 1,618  | 21    | 55  | 2,137  | 167   | 1,872  | 36    | 61              | 100.0 | 25.0 | 71.7 | 0.9 | 2.4 | 100.0 | 7.8  | 87.6 | 1.7  |
| 5年          | 4,822           | 2,509  | 728   | 1,722  | 15    | 44  | 2,313  | 171   | 2,050  | 44    | 48              | 100.0 | 29.0 | 68.6 | 0.6 | 1.7 | 100.0 | 7.4  | 83.6 | 1.9  |
| 30-34       | 3,609           | 1,837  | 149   | 1,606  | 35    | 43  | 1,776  | 73    | 1,553  | 66    | 49              | 100.0 | 8.1  | 87.4 | 1.0 | 2.3 | 100.0 | 4.1  | 84.4 | 3.7  |
| 14年         | 3,716           | 1,920  | 137   | 1,708  | 30    | 44  | 1,796  | 64    | 1,623  | 62    | 47              | 100.0 | 7.1  | 89.0 | 1.6 | 2.3 | 100.0 | 3.5  | 90.4 | 3.4  |
| 5年          | 4,092           | 2,149  | 170   | 1,905  | 29    | 44  | 1,943  | 63    | 1,774  | 67    | 39              | 100.0 | 7.9  | 88.7 | 1.4 | 2.1 | 100.0 | 3.2  | 91.3 | 3.4  |

| 35-39                            | 40-44                            | 45-49                            | 50-54                            | 55-59                            | 60-64                        | 65+                        |
|----------------------------------|----------------------------------|----------------------------------|----------------------------------|----------------------------------|------------------------------|----------------------------|
| 3,411<br>1,708<br>3,419<br>3,542 | 1,708<br>1,813<br>1,640<br>3,222 | 1,640<br>1,738<br>1,340<br>3,055 | 1,340<br>1,558<br>1,339<br>3,103 | 1,122<br>1,224<br>1,224<br>2,857 | 912<br>981<br>1,115<br>2,293 | 803<br>803<br>805<br>1,693 |
| 70                               | 61                               | 46                               | 31                               | 23                               | 13                           | 9                          |
| 1,553                            | 1,674                            | 1,433                            | 1,200                            | 977                              | 762                          | 623                        |
| 47                               | 43                               | 66                               | 79                               | 96                               | 112                          | 147                        |
| 38                               | 26                               | 36                               | 31                               | 26                               | 22                           | 19                         |
| 1,703                            | 1,729                            | 1,604                            | 1,318                            | 1,113                            | 928                          | 853                        |
| 46                               | 34                               | 34                               | 26                               | 18                               | 14                           | 12                         |
| 1,500                            | 1,495                            | 1,556                            | 1,042                            | 784                              | 567                          | 414                        |
| 109                              | 105                              | 167                              | 212                              | 279                              | 324                          | 408                        |
| 48                               | 48                               | 47                               | 39                               | 31                               | 23                           | 19                         |
| 100.0                            | 100.0                            | 100.0                            | 100.0                            | 100.0                            | 100.0                        | 100.0                      |
| 4.1                              | 3.8                              | 2.8                              | 2.3                              | 2.0                              | 1.7                          | 1.5                        |
| 90.9                             | 92.3                             | 91.8                             | 89.5                             | 87.1                             | 83.5                         | 77.6                       |
| 2.7                              | 2.4                              | 4.0                              | 5.9                              | 8.6                              | 12.3                         | 18.3                       |
| 2.2                              | 1.4                              | 2.2                              | 2.2                              | 2.3                              | 2.4                          | 2.4                        |
| 100.0                            | 100.0                            | 100.0                            | 100.0                            | 100.0                            | 100.0                        | 100.0                      |
| 2.7                              | 2.3                              | 2.1                              | 1.9                              | 1.7                              | 1.5                          | 1.4                        |
| 88.1                             | 88.9                             | 84.5                             | 79.1                             | 70.4                             | 61.1                         | 48.6                       |
| 6.4                              | 6.2                              | 10.4                             | 16.1                             | 25.1                             | 34.9                         | 47.8                       |
| 2.8                              | 2.5                              | 2.9                              | 2.9                              | 2.8                              | 2.5                          | 2.2                        |

備考 1. 國勢調査報告に據る。 2. 昭和5年は推算法による概數。

第一圖 可婚年齢人口五歲階級別有配偶者數



備考 第二表に據る。斜線の部分は有配偶者數

第二表によつて昭和五年に於ける状態を見れば、男子一五—一九歳の有配偶者の割合は僅かに一・一%であるが、二〇—二四歳に於て一九・五%、二五—二九歳に至つて一躍六八・六%に上り、三〇—三四歳階級に於ては九〇%に肉迫し、三五—三九歳階級に至つて最高九二・三%に達してゐる。以後年齢階級を経る毎に漸次減少して六〇—六四歳に至つて八一・二%を示してゐる。之に對して未婚者の割合は一五—一九歳に於ては九九%を占めてゐるが二〇—二四歳に至つて八〇%に減じ、更に二五—二九歳

に於て二九%まで低下してゐる。次の三〇—三四歳に於ては激減して僅かに八%弱を示し、以後年齢階級を経るに従つて逆進してゐる。

女子の側を見れば、有配偶者の割合は一五—一九歳に於ては一一%、二〇—二四歳に於ては急激に上昇して六三・七%を示してゐる。二五—二九歳では九〇%に近付き、三〇—三四歳に至つて頂點に達し九一%を示してゐる。四〇—四四歳以後相當急速な歩調で漸減してゐる。その未婚者の割合は一五—一九歳に於て八八・七%、二〇—二四歳に至つては三四%に著減し、二五—二九歳に於ては激減して七・四%に低下し、三〇—三四歳の三・二%以後漸次減少を辿つてゐる。

次に男子の死別の割合は五五—五九歳に至つて漸く一〇%を超え、六五歳以上に於て三五・四%を示してゐる。女子にあつては四〇—四四歳に於て既に一〇%を超え、以後急激に上昇して五五—五九歳に至つては五〇%に達し、六五歳以上に於ては七四・三%といふ高率に上つてゐる。かくの如き男子と女子の死別の割合の差異は云ふ迄もなく一般に夫の年齢が妻に比して高く、而かも男子の死亡率が女子のそれよりも遙かに高きが故である。

離別は男子に於ては二五—二九歳、三〇—三四歳共に二・一%、四〇—四四歳、四五—四九歳二%、五五—五九歳、六〇—六四歳共に一・九%で以上の年齢階級を通じて略々同様の水準にある。一五—一九歳に於ては殆んどなく、六五歳以上に於て約一%他の年齢階級は二%と一%との中間に位する。女子については二〇—二四歳一・九%、二五—二九歳二・一%、三〇—三四歳二%、四五—四九歳一・九%、六〇—六四歳二・一%で此等の年齢階級はほぼ同率を示してゐる。特に高いのは五〇—五四歳の二・七%、五五—五九歳の二・三%であつて、一五—一九歳は〇・二%といふ極めて低率であり、六五歳以上は男子と等しく一・一%である。他の年齢階級は二%と一%との中間に位する。

更に大正九年より昭和五年に至る十年間に年齢別配偶關係が如何に變化したかを見れば次の如くである。

先づ第一に注目を惹くものは有配偶者の割合に於ける變化、之に伴ふ未婚者の割合の變化である。一五—二〇歳に於ては有配偶者の割合は男女共に著しき低下を示し、特に男子にあつては昭和五年は大正九年の割合の半以下に減退してゐる。大正十四年は大正九年と昭和五年との中間の位置を示してゐる。次に二〇—二四歳に於て男子の有配偶者の割合は大正九年の二七%餘から大正十四年の二六%昭和五年の二〇%に低下してゐる。然るに女子に於ては大正九年六五%から大正十四年の六七%に上昇し、昭和五年に至つて六四%に低下を示してゐる。二五—二九歳に於ては男子は大正九年の七一%から大正十四年七二%に僅かに増加を見せ一轉して昭和五年には六九%に低下し、女子は八六%から八八%へ、八八%から八九%へと漸次微増を示してゐる。三〇—三四歳階級については男子は八七%から大正十四年の八九%に上昇し昭和五年は大正十四年と同様である。女子は八九%、九〇%、九一%と漸増を見せてゐる。三五—三九歳以後に於ては男女共に一般に漸次増大を示してゐる。六五歳以上の老年階級に於ては大正十四年男子が特に高率である。

一般に未婚者の割合は男女及各年齢階級を通じて有配偶者の割合の變化と相表裏してゐる。

以上の考察によつて知らるゝことは

- (一) 男女共に下位の年齢階級に於ける有配偶者の割合が減少し徐々に上位の年齢階級に集中する傾向があること。即ち、男女共に結婚の延期が行はれてゐる傾向があること。
- (二) 女子の結婚に適當なる年齢は男子のそれよりも著しく弾力性を缺く爲に女子に比して男子に結婚延期の傾向が強くあらはれてゐること。世俗に種々の表現を以て女子の結婚困難が訴へられてゐるのは此の間の消息を物語るものである。

| 大正 | 昭和 | 夫     |       | 妻     |      |
|----|----|-------|-------|-------|------|
|    |    | 年齢    | 差     | 年齢    | 差    |
| 九  | 五  | 二九・〇二 | 二四・一二 | 二九・〇二 | 四・九〇 |
| 十  |    | 二八・二九 | 二四・九〇 | 二八・二九 | 四・三九 |
| 十四 |    | 二八・二九 | 二四・二八 | 二八・二九 | 四・三九 |
| 十九 |    | 二九・二二 |       | 二九・二二 | 四・九四 |

以上の考察の結果、大正九年以後結婚延期の傾向が現はれてゐることを知つた。今試みに婚姻年齢の變化によつて此の間の事情に一瞥を投じよう。婚姻年齢は内閣統計局「日本帝國人口動態統計」によつて知ることが出来る。然し法律婚のみであつて事實婚については、全國的には他に何等知るべき方法がない。故に法律婚に於ける婚姻年齢の變化によつてその一般を推測することとする。出生中私生の占める割合、上掲註(1)の如く有配偶者中に占める事實上の有配偶者の割合から見ても事實婚の占める地位は少くとも最近に於ては比較的軽く、従つてその割合の變化も比較的軽い意味を持つに過ぎない。法律婚の推移によつて一般を察することはそれ程支障を來すとは思はれない。

次に注意すべきは婚姻手續の延期であつて、此の點を斟酌しなければならないこと云ふ迄もない。

先づ平均婚姻年齢を算出すれば左の如くである。(註3)

(四) 婚姻年齢

半かやうに女子に於ては此の間殆んど變化なく、男子に於ては若干低減してゐるに過ぎない。此の點から見て、此の間の有配偶者の割合の變化が出生率に對して與ふべき影響は今のところ寧ろ微弱であると見ることが出来る。

(三) 此の傾向は前五年間に於て比較的微弱であつて後五年間に於て比較的顯著であること。

(四) 離別、死別の相對的減少、並に全體として有配偶者の割合の低下は結婚延期が行はれるのみならず、配偶關係の成立、即ち結婚が可婚年齢者の増加に對して相對的に減少しつつあること。

等である。

尙特に人口再生産力に最も重要な意義を有する男女二〇—三四歳の間をとつて有配偶者の割合の變化を見れば上掲第三表の如くである。

男子の有配偶者の割合は大正九年五九・四%・大正十四年五九・二%で殆んど變化なく、昭和五年に至つて五五・九%を示し此の間約三%方の低下を示してゐる。

女子に於ては大正九年七八・九%、大正十四年八〇・四%で僅かに上昇を示し、昭和五年に至つて七九・八%を示し、大正十四年と殆んど變化を見せてゐない。

第三表 20-34 歳年齢階級の有配偶及び未婚

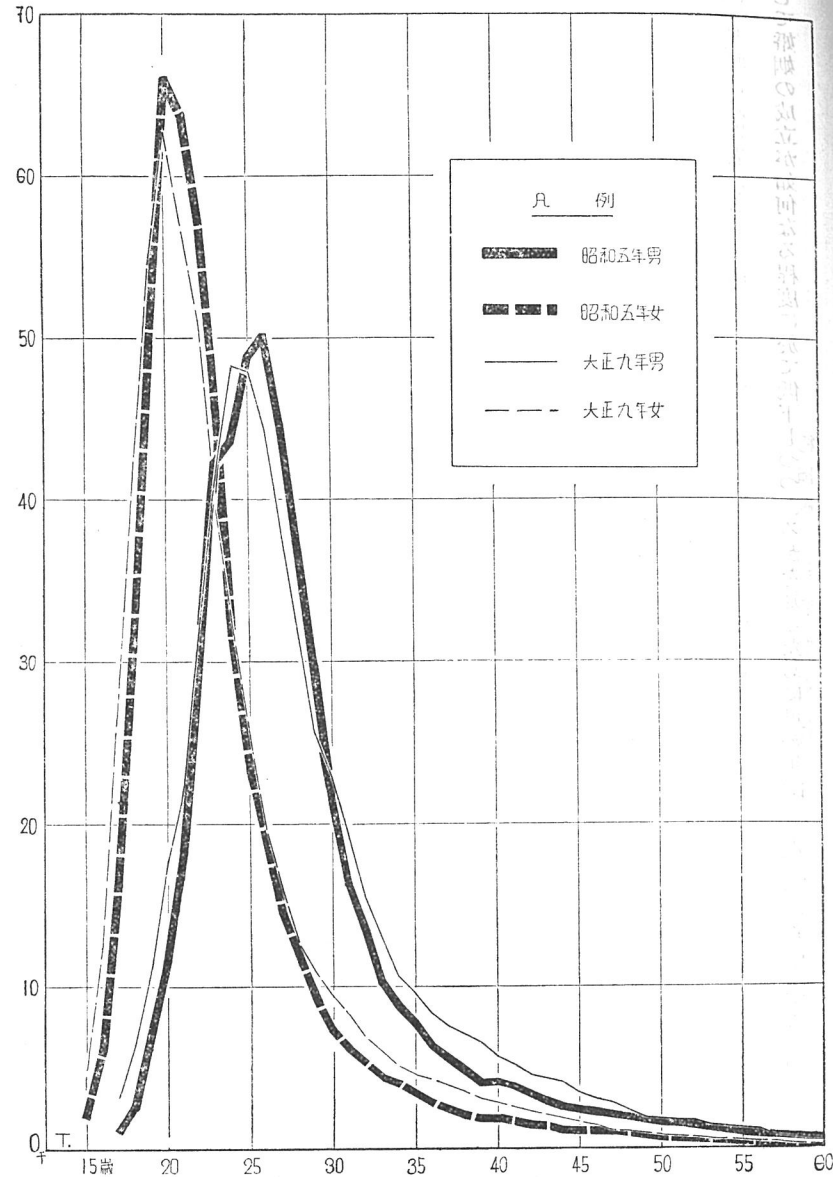
(昭和5年・大正14年・大正9年)

|       | 男 子   |       |       | 女 子   |       |       |
|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
|       | 總數    | 未婚者   | 有配偶者  | 總數    | 未婚者   | 有配偶者  |
| 大正九年  | 千人    | 千人    | 千人    | 千人    | 千人    | 千人    |
|       | 2,316 | 1,642 | 634   | 2,293 | 719   | 1,488 |
|       | 25-29 | 517   | 1,418 | 1,916 | 175   | 1,643 |
|       | 30-34 | 1,837 | 149   | 1,776 | 73    | 1,589 |
|       | 計     | 6,162 | 2,309 | 5,985 | 967   | 4,720 |
| 大正十四年 | 千人    | 千人    | 千人    | 千人    | 千人    | 千人    |
|       | 2,575 | 1,865 | 670   | 2,486 | 735   | 1,667 |
|       | 25-29 | 563   | 1,618 | 2,137 | 167   | 1,872 |
|       | 30-34 | 1,920 | 137   | 1,796 | 64    | 1,623 |
|       | 計     | 6,751 | 2,566 | 6,419 | 965   | 5,163 |
| 昭和五年  | 千人    | 千人    | 千人    | 千人    | 千人    | 千人    |
|       | 2,810 | 2,238 | 547   | 2,642 | 900   | 1,682 |
|       | 25-29 | 728   | 1,722 | 2,313 | 171   | 2,050 |
|       | 30-34 | 2,149 | 170   | 1,943 | 63    | 1,774 |
|       | 計     | 7,468 | 3,136 | 6,898 | 1,134 | 5,506 |
| 指數    | 大正9年  | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 |
|       | 大正14年 | 109.6 | 111.1 | 107.2 | 99.8  | 109.4 |
|       | 昭和5年  | 121.2 | 135.8 | 115.3 | 117.3 | 116.7 |

備考 第二表に據る。

第二圖 夫妻年齡別婚姻件數

(昭和5年・大正9年)



備考 内閣統計局「日本帝國人口動態統計」に據る。

第四表 平均初婚年齢

(昭和7年—大正9年)

|         | 夫      | 妻      |
|---------|--------|--------|
| 大 正 9 年 | 27.380 | 23.218 |
| 10 年    | 27.093 | 22.990 |
| 11 年    | 27.070 | 23.006 |
| 12 年    | 26.991 | 23.023 |
| 13 年    | 27.055 | 23.085 |
| 14 年    | 27.088 | 23.120 |
| 昭 和 1 年 | 27.127 | 23.070 |
| 2 年     | 27.180 | 23.047 |
| 3 年     | 27.264 | 23.105 |
| 4 年     | 27.364 | 23.225 |
| 5 年     | 27.334 | 23.205 |
| 6 年     | 27.293 | 23.248 |
| 7 年     | 27.400 | 23.394 |

備考 「統計時報」第46號昭和9年3月號に據る。

(註3) 算出法は第十四表備考参照。「統計時報」第四十六號「昭和七年我國平均婚姻年齢」の稿に挙げられた数字と相違するのは多少計算法を異にするが故である。

更に平均初婚年齢を學ぐれば次の如くである。(第四表)

以上の数字のみによつては大正九年以後婚姻の延期が行はれてゐることを把握することは甚だ困難である。前述の如く配偶關係は大正九年と大正十四年に於てはそれ程顯著な變化を示してゐないが、婚姻年齢に於ては平均して寧ろ大正十四年の方が低下を示してゐる。夫の平均年齢に於ては昭和五年は未だ大正九年よりも下位に位する。然し之によつて此の間に於ける婚姻延期の事實が存在しないと斷定することは出来ない。そこで我々は夫妻年齢別婚姻件數を調べてみよう。「日本帝國人口動態統計」の数字によつて之を圖示すれば第二圖の如くである。此の圖によつて男子の婚姻延期特に大正十四年—昭和五年間に於ける相當顯著



な傾向は最早多言を要しない。大正十四年に於ける二一―二七歳の婚姻件数は各年齢ともに全體として婚姻件数が減少してゐるにも拘らず大正九年のそれに比して増加を示し、昭和五年に於ては二五―三〇歳の間の各歳婚姻件数が大正十四年並に大正九年に比して更に増加を見せてゐる。かかる度数分布の變化によつて明かに(一)婚姻延期の傾向の存在(二)特に大正十四年―昭和五年間に著しきこと(三)婚姻延期がより後位の年齢階級の頻度の上昇として此等の年齢階級に集中しつつあることを知ることが出来る。(紙面の都合上数字の掲載を省略する。)

次に女子に於ても男子に於ける程顯著ではないが同様の結果が觀取せられる。二十歳以前の階級に於て漸次減少し、二十歳に集中し更に溢れて二〇―二三歳のカーヴを $x$ の方向に強く推しやつてゐる。二〇―二三歳の各歳別件数の絶対数は、全體の件数の減少にも拘はらず、昭和五年に於ては大正九年、十四年を遙かに超えてゐる。

(五) 特殊婚姻率

結婚延期は大體以上の如くであるが、次に結婚の減少に關して一言することとする。ここに取扱ふ婚姻數も「日本帝國人口動態統計」によるものであつて婚姻年齢の考察に際して一言したところと同様の注意を要すること云ふ迄もない。

第五表に見る如く可婚年齢者の數が増加するに反し婚姻件數は大正九年より昭和五年に至る間相對的並に絶對的に漸次低下を示してゐる。我々は既に男女共に可婚年齢者の増加率以上の増加率を以て未婚者數が増加してゐることを指摘した。これに反して死別、離別者、特に離別者が著しき低下を示してゐることを述べた。可婚年齢者中此等の婚姻關係に入り得ると考へられる人々の數に對して婚姻の成立が如何なる程度に於て低下しつつあるかを知るために可婚年齢者中無配偶者に對する婚姻數の比率、即ち

第五表 特殊婚姻率

(昭和5年・大正14年・大正9年)

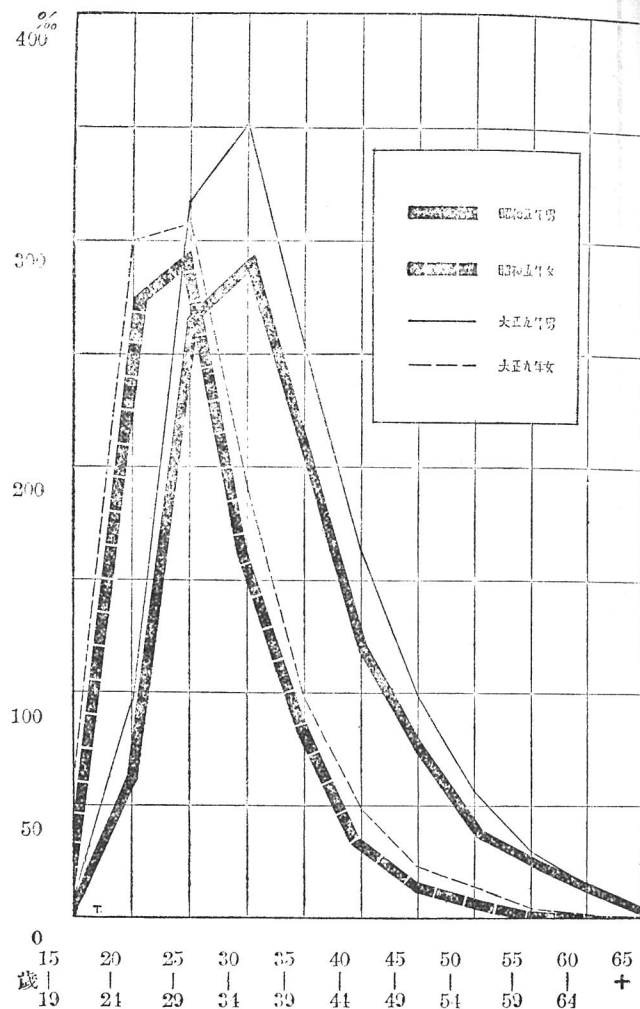
|       | 婚 姻 數 | 男              |            | 女              |            |
|-------|-------|----------------|------------|----------------|------------|
|       |       | 可婚年齢者<br>中無配偶者 | 特殊婚姻率<br>% | 可婚年齢者<br>中無配偶者 | 特殊婚姻率<br>% |
| 大正9年  | 516   | 7,588          | 82.91      | 6,574          | 83.9       |
| 大正14年 | 521   | 7,090          | 73.55      | 6,981          | 74.67      |
| 昭和5年  | 507   | 7,911          | 63.80      | 7,413          | 68.35      |
| 大正9年  | 100.0 | 100.0          | 100.0      | 100.0          | 100.0      |
| 大正14年 | 95.5  | 118.4          | 88.7       | 106.2          | 81.9       |
| 昭和5年  | 92.8  | 120.5          | 77.0       | 112.8          | 82.3       |

備考 1. 婚姻數は日本帝國人口動態統計に據る。  
2. 可婚年齢者中無配偶者數は第二表に據る。

特殊婚姻率(Specific Marriage-rate)を算出した。此の結果(第五表)によれば昭和五年に於て、男子十五歳以上の無配偶者千人の中約六十四人、女子六十八人餘りがこの年内に婚姻したことになる。之が最近の我が國の婚姻狀態である。而して大正九年以來此の意味の婚姻率は男子の八二・九一%から七三・五五%に、それから六三・八%と漸次減少し、女子は八三・〇九%から七四・六七%に、それから六八・三五%に低下してゐる。即ち大正九年に比し昭和五年に男子二割三分、女子一割八分の減少振りである。更に大正九年に於ては男女共に大體八三%で略同一水準にあるが、以後女子の無配偶者の増加が男子のこれに比して相當緩慢な爲め

第三圖 年齢階級別特殊婚姻率

(昭和5年・大正9年)



備考 第六表に據る。

第六表 年齢階級別特殊婚姻率

(昭和5年・大正9年)

| 年 齢   | 男     |       | 女     |       |
|-------|-------|-------|-------|-------|
|       | 昭和5年  | 大正9年  | 昭和5年  | 大正9年  |
| 15—19 | 3.0   | 7.9   | 39.6  | 62.9  |
| 20—24 | 64.3  | 96.1  | 275.0 | 300.9 |
| 25—29 | 266.3 | 317.3 | 295.6 | 307.3 |
| 30—34 | 289.6 | 352.3 | 162.3 | 191.3 |
| 35—39 | 206.3 | 253.4 | 87.7  | 97.2  |
| 40—44 | 118.1 | 163.8 | 34.9  | 47.6  |
| 45—49 | 73.3  | 98.7  | 16.4  | 23.1  |
| 50—54 | 37.7  | 56.4  | 8.6   | 10.4  |
| 55—59 | 25.8  | 39.3  | 3.7   | 4.5   |
| 60—64 | 15.0  | 14.4  | 1.5   | 1.7   |
| 65+   | 3.8   | 4.1   | 0.3   | 0.3   |

備考 1. 婚姻数は日本帝國人口動態統計に據る。

2. 5 歳階級別可婚年齢者中無配偶者数は本稿第二表に據る。

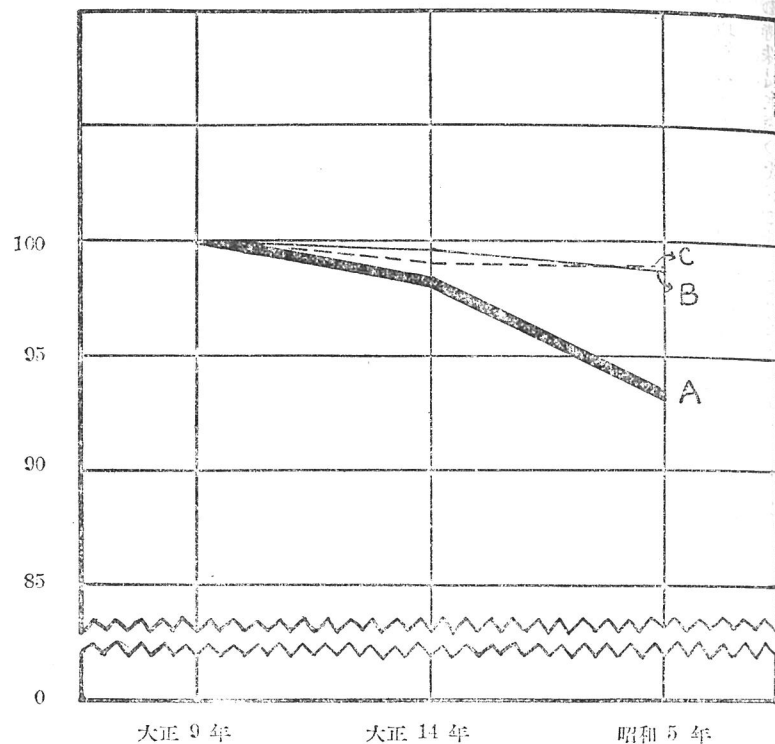
に昭和五年に至つて男子、女子の婚姻率に約千分の四の差を生じたのである。次に年齢五歳階級別に昭和五年及び大正九年につき特殊婚姻率を算出すれば第六表の如く、之を圖示すれば第三圖の如くである。説明を省略するが特に顯著なことは昭和五年男子一五—一九歳の率は大正九年のそれに比して六割以上、二〇—二四歳に於ては三割以上の減退を示し、二五—二九歳に於ては僅かに三分の低下を示してゐることである。結婚延期の傾向とそれによる全體的減少の傾向は凡そ明かである。

## (六) 特殊出生率

以上に於て我々は我が國の配偶状態及び最近十箇年間に於けるその變化を素描した。此の配偶關係と出生との關係は最も重要

第四圖 特殊出生率と有配偶率の變動

(大正9年—昭和5年)



備考 A 特殊出生率 B 有配偶率  
C 可婚年齢女子有配偶者中に占むる妊孕年齢有配偶女子の割合

(三)

て反映してゐる經濟構造の徐々たる變化も此の配偶關係の變化に參與してゐると見られる。而してその程度は大正十四年から昭和五年までの間に於て特に顯著である。前五箇年には數字の上にも、事實の上にも、好況時代の餘勢が残存してゐると考へられるし、不況の深刻化による經濟生活の壓迫も前五年に比して後五年の方がより一層甚しいと見ることが出来るやう。然しその變化の程度は常識よりも寧ろ輕微である。經濟狀態、經濟思想の變化に重點を置いて見れば特にその感が強い。それ

第七表 特殊出生率

(昭和5年・大正14年・大正9年)

| 實數    | 妊孕年齢女子有配偶者數 | 可婚年齢女子有配偶者百に付き | 出生數   | 妊孕年齢女子有配偶者百に付き出生 |
|-------|-------------|----------------|-------|------------------|
|       | 千人          | %              | 千人    | %                |
| 大正9年  | 8,019       | 71.4           | 2,023 | 252.6            |
| 大正14年 | 8,398       | 70.7           | 2,086 | 248.4            |
| 昭和5年  | 8,838       | 69.9           | 2,085 | 235.9            |
| 指數    | 大正9年 100.0  | 100.0          | 100.0 | 100.0            |
|       | 大正14年 104.7 | 99.1           | 103.0 | 98.3             |
|       | 昭和5年 110.2  | 98.0           | 102.9 | 93.4             |

備考 1. 妊孕年齢は15歳以上44歳以下とする。  
2. 妊孕年齢有配偶者數は國勢調査報告に據る。  
昭和5年は抽出法による概數。  
3. 出生は「日本帝國人口動態統計」に據る。  
4. 可婚年齢女子有配偶者數は第一表による。

## (七) 括 要

以上に於て現在の配偶關係、竝に大正九年以來昭和五年に至る間の變化を二三の副次的資料と共に之を概觀した。その結果は次の二三の事實に要約することが出来る。

(一) 有配偶者の割合は此の間漸次低下し、未婚者の割合が大體之に伴つて増加した。それは主として(A)結婚延期と(B)結婚の絶對的並に相對的減少との反映である。結婚延期と結婚の減少は不況の進展による經濟生活の壓迫による部分が相當多いと考へられる。又職業構成の變化とし

なる問題であつて改めて詳細に觀察することとし、ここでは妊孕年齢(十五歳以上四十四歳以下と假定する。)にある女子有配偶者に對する出生數(私生を含む)の比率即ち特殊出生率の變化に一言觸れるに止める。

第七表を見るに妊孕年齢にある女子有配偶者千に付き出生の割合は大正九年二五三、大正十四年二四八、昭和五年二三六と漸次低下を示してゐる。妊孕年齢有配偶女子の増加に對して出生數の増加は緩慢であり、ここに算出した特殊出生率は妊孕年齢有配偶女子が可婚年齢女子有配偶者中に占める地位の低下以上の速度をもつて低下してゐることを明瞭に認め得る。

(四)(五) は依然として傳統的な諸種の力、制度が抗争しつつあることを示してゐる。特に出生に對して最も重要な意義を有する年齢階級の配偶關係の變化は寧ろ極めて輕微である。男子に比して女子の配偶關係の變化が比較的輕微である。それは女子の可婚年齢人口の増加率が男子のそれよりも低いことによるところが多い。

(六) 死別者の割合が相當著しく減少してゐる。衛生狀態の向上による點もあるが、思想的に再婚が比較的容易になつたこと等も重要な原因であらう。

(七) 離別者の割合が極めて顯著に減少してゐる。社會生活、經濟生活の變遷に伴つて持續性を特色とする我が國家族制度が漸次變質しつつあることによるところも少なくないであらう。又都鄙人口構成の變化に現はれてゐる人口の都市集中的傾向とも密接な關係を持つてゐる。再婚が幾分盛んになつたことも認め得る事實があるが、離婚自體の減少も相當顯著である。特殊離婚率を算出したが、煩を避けてここには省略する。離婚に關しては稿を改めて概観することとする。

(八) 配偶關係の變化よりも相當著しい程度で特殊出生率が低下してゐる。この變動の差異を圖示すれば第四圖の如くである。蓋しこの傾向は技術並に技術的精神の發達、Wolf の所謂「合理主義化の傾向」、工業化の進展等々相關聯する一聯の事實に歸することが出来るであらう。

(九) 逆に、最近に於ける出生率低減の一つのファクターは上記の如き配偶關係の變化によるものと云ひ得る。然し配偶關係の變化以外のファクターが、更に働いてゐることを察知することが出来る。

(十) 此の特殊出生率の低下に對して初婚年齢の上昇が如何なる役割を演じてゐるかは、所謂婚期説と關聯して極めて興味ある

問題である。ここではただ問題として指摘するにとどめておく。

## 二 地方別概観

配偶關係は各地方の自然的、社會的、經濟的諸事情の相異によつて夫々相異つた様相を現はしてゐる。それと關聯して出生現象も亦極めて地方的な特色を持つてゐる。以下に於て配偶關係の中樞たる有配偶率に就いて道府縣別に之を概観することとする。素より個々の地方の特色に立入つて考察する邊はないが他日之を試みる豫定である。一般に行政區劃が地理的、竝に經濟的區劃と一致しない場合が相當多いのであつて、行政區劃別に考察するに當り、特に或る地方では一行政區劃内に地理的、經濟的に極めて相異つた地域を包含する爲に現象相互間の關聯を相殺してその區劃のニュアンスを鈍重ならしめてゐる場合が少なからざることを斟酌しなければならない。

### (一) 總 說

昭和五年國勢調査の府縣別報告書が未だ全部發表せられないので昭和五年に付ては全府縣に亘つて之を概観し得ないことは甚だ遺憾である。止むを得ず大正十四年の國勢調査の結果を中心として考察を進めよう。而して大正九年—昭和五年間の變化の地方別的考察も之を他日に譲ることとする。

次に掲げる第七表は三回の國勢調査報告によつて作製した道府縣・男女別可婚年齢人口の有配偶率である。

第八表 道府縣別可

| 年次 | 縣 別 | 昭和五年   |        |        |        |        |        |        |     |     | 大正     |        |        |        |   |   |        |   |   |
|----|-----|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|-----|-----|--------|--------|--------|--------|---|---|--------|---|---|
|    |     | 可婚年齢人口 |        |        | 可婚年齢人口 |        |        | 可婚年齢人口 |     |     | 可婚年齢人口 |        |        | 可婚年齢人口 |   |   | 可婚年齢人口 |   |   |
|    |     | 總數     | 男      | 女      | 總數     | 男      | 女      | 總數     | 男   | 女   | 總數     | 男      | 女      | 總數     | 男 | 女 | 總數     | 男 | 女 |
| 總數 |     | 40,565 | 20,515 | 20,050 | 25,210 | 12,573 | 12,637 | 622    | 613 | 630 | 37,813 | 18,950 | 18,862 |        |   |   |        |   |   |
| 1  | 北海道 | —      | —      | —      | —      | —      | —      | —      | —   | —   | 1,450  | 777    | 673    |        |   |   |        |   |   |
| 2  | 青森  | —      | —      | —      | —      | —      | —      | —      | —   | —   | 480    | 240    | 239    |        |   |   |        |   |   |
| 3  | 岩手  | —      | —      | —      | —      | —      | —      | —      | —   | —   | 547    | 269    | 278    |        |   |   |        |   |   |
| 4  | 宮城  | 677    | 349    | 327    | 427    | 213    | 213    | 631    | 627 | 634 | 620    | 311    | 310    |        |   |   |        |   |   |
| 5  | 秋田  | 579    | 287    | 292    | 381    | 187    | 193    | 657    | 653 | 662 | 555    | 276    | 280    |        |   |   |        |   |   |
| 6  | 山形  | 651    | 317    | 334    | 411    | 204    | 207    | 631    | 614 | 620 | 623    | 303    | 329    |        |   |   |        |   |   |
| 7  | 福島  | 894    | 434    | 460    | 583    | 290    | 293    | 652    | 668 | 638 | 862    | 422    | 440    |        |   |   |        |   |   |
| 8  | 茨城  | 914    | 447    | 467    | 593    | 295    | 298    | 649    | 660 | 639 | 870    | 421    | 445    |        |   |   |        |   |   |
| 9  | 栃木  | 676    | 330    | 346    | 435    | 216    | 219    | 644    | 655 | 632 | 647    | 315    | 332    |        |   |   |        |   |   |
| 10 | 群馬  | 730    | 354    | 377    | 442    | 221    | 221    | 605    | 624 | 587 | 689    | 335    | 355    |        |   |   |        |   |   |
| 11 | 埼玉  | 903    | 441    | 463    | 530    | 279    | 251    | 620    | 634 | 608 | 832    | 417    | 445    |        |   |   |        |   |   |
| 12 | 千葉  | 939    | 463    | 475    | 595    | 295    | 300    | 634    | 637 | 631 | 894    | 438    | 456    |        |   |   |        |   |   |
| 13 | 東京  | —      | —      | —      | —      | —      | —      | —      | —   | —   | 3,069  | 1,607  | 1,462  |        |   |   |        |   |   |
| 14 | 神奈川 | 1,638  | 546    | 492    | 618    | 311    | 307    | 596    | 569 | 625 | 910    | 485    | 425    |        |   |   |        |   |   |
| 15 | 新潟  | —      | —      | —      | —      | —      | —      | —      | —   | —   | 1,131  | 549    | 583    |        |   |   |        |   |   |
| 16 | 富山  | —      | —      | —      | —      | —      | —      | —      | —   | —   | 457    | 229    | 227    |        |   |   |        |   |   |
| 17 | 石川  | —      | —      | —      | —      | —      | —      | —      | —   | —   | 474    | 225    | 249    |        |   |   |        |   |   |
| 18 | 福井  | —      | —      | —      | —      | —      | —      | —      | —   | —   | 376    | 181    | 195    |        |   |   |        |   |   |
| 19 | 山梨  | 382    | 189    | 194    | 231    | 115    | 116    | 601    | 609 | 599 | 363    | 179    | 184    |        |   |   |        |   |   |
| 20 | 長野  | 1,078  | 515    | 563    | 636    | 317    | 319    | 530    | 615 | 566 | 1,029  | 493    | 532    |        |   |   |        |   |   |
| 21 | 岐阜  | 732    | 365    | 367    | 462    | 231    | 231    | 631    | 631 | 620 | 703    | 351    | 352    |        |   |   |        |   |   |
| 22 | 愛知  | 1,096  | 546    | 550    | 698    | 348    | 350    | 636    | 637 | 636 | 1,021  | 507    | 514    |        |   |   |        |   |   |
| 23 | 三重  | 1,658  | 823    | 835    | 897    | 499    | 498    | 601    | 607 | 596 | 1,489  | 733    | 747    |        |   |   |        |   |   |
| 24 | 滋賀  | 738    | 360    | 378    | 459    | 228    | 230    | 622    | 635 | 610 | 701    | 342    | 363    |        |   |   |        |   |   |
| 25 | 京都  | 449    | 215    | 234    | 268    | 133    | 135    | 597    | 617 | 578 | 426    | 202    | 223    |        |   |   |        |   |   |
| 26 | 大阪  | 1,066  | 545    | 520    | 594    | 299    | 295    | 557    | 548 | 547 | 956    | 489    | 467    |        |   |   |        |   |   |
| 27 | 兵庫  | 2,451  | 1,292  | 1,162  | 1,393  | 705    | 688    | 508    | 546 | 592 | 2,118  | 1,115  | 1,003  |        |   |   |        |   |   |
| 28 | 奈良  | 1,740  | 878    | 864    | 1,060  | 536    | 530    | 639    | 606 | 613 | 1,665  | 811    | 794    |        |   |   |        |   |   |
| 29 | 和歌山 | 383    | 187    | 195    | 234    | 116    | 118    | 610    | 617 | 604 | 370    | 182    | 188    |        |   |   |        |   |   |
| 30 | 鳥取  | 528    | 262    | 266    | 320    | 158    | 162    | 606    | 605 | 607 | 491    | 244    | 251    |        |   |   |        |   |   |
| 31 | 島根  | —      | —      | —      | —      | —      | —      | —      | —   | —   | 301    | 144    | 157    |        |   |   |        |   |   |
| 32 | 岡山  | —      | —      | —      | —      | —      | —      | —      | —   | —   | 476    | 234    | 241    |        |   |   |        |   |   |
| 33 | 広島  | —      | —      | —      | —      | —      | —      | —      | —   | —   | 815    | 409    | 415    |        |   |   |        |   |   |
| 34 | 山口  | —      | —      | —      | —      | —      | —      | —      | —   | —   | 1,023  | 518    | 508    |        |   |   |        |   |   |
| 35 | 徳島  | —      | —      | —      | —      | —      | —      | —      | —   | —   | 710    | 358    | 350    |        |   |   |        |   |   |
| 36 | 香川  | 449    | 222    | 227    | 230    | 143    | 146    | 643    | 645 | 640 | 423    | 215    | 218    |        |   |   |        |   |   |
| 37 | 愛媛  | —      | —      | —      | —      | —      | —      | —      | —   | —   | 431    | 215    | 215    |        |   |   |        |   |   |
| 38 | 高松  | —      | —      | —      | —      | —      | —      | —      | —   | —   | 682    | 333    | 349    |        |   |   |        |   |   |
| 39 | 福岡  | —      | —      | —      | —      | —      | —      | —      | —   | —   | 416    | 220    | 227    |        |   |   |        |   |   |
| 40 | 佐賀  | —      | —      | —      | —      | —      | —      | —      | —   | —   | 1,472  | 748    | 725    |        |   |   |        |   |   |
| 41 | 熊本  | 430    | 207    | 223    | 265    | 132    | 133    | 617    | 637 | 598 | 427    | 207    | 220    |        |   |   |        |   |   |
| 42 | 大分  | —      | —      | —      | —      | —      | —      | —      | —   | —   | 739    | 380    | 360    |        |   |   |        |   |   |
| 43 | 宮崎  | 599    | 291    | 308    | 384    | 191    | 193    | 641    | 656 | 627 | 585    | 295    | 300    |        |   |   |        |   |   |
| 44 | 鹿児島 | 467    | 235    | 232    | 303    | 152    | 51     | 648    | 645 | 651 | 428    | 215    | 213    |        |   |   |        |   |   |
| 45 | 沖縄  | —      | —      | —      | —      | —      | —      | —      | —   | —   | 886    | 417    | 469    |        |   |   |        |   |   |

備考 「国勢調査報告書」に據る。1) 抽出法による結果に基づく。2) 空欄は報告の未だ発表されざるもの。

婚年齢人口有配偶率

(昭和5年・大正14年・大正9年)

(單位千人)

| 十                |        |        | 四                |     |     | 年                |        |        | 大正九年             |        |        |                  |     |     |                  |   |   |
|------------------|--------|--------|------------------|-----|-----|------------------|--------|--------|------------------|--------|--------|------------------|-----|-----|------------------|---|---|
| 可婚年齡人口<br>中有配偶者數 |        |        | 可婚年齡人口<br>中有配偶者數 |     |     | 可婚年齡人口<br>中有配偶者數 |        |        | 可婚年齡人口<br>中有配偶者數 |        |        | 可婚年齡人口<br>中有配偶者數 |     |     | 可婚年齡人口<br>中有配偶者數 |   |   |
| 總數               | 男      | 女      | 總數               | 男   | 女   | 總數               | 男      | 女      | 總數               | 男      | 女      | 總數               | 男   | 女   | 總數               | 男 | 女 |
| 23,739           | 11,860 | 11,879 | 628              | 620 | 630 | 5,547            | 17,735 | 17,812 | 22,385           | 11,147 | 11,238 | 630              | 629 | 631 |                  |   |   |
| 945              | 481    | 464    | 649              | 619 | 684 | 1,393            | 754    | 639    | 912              | 465    | 447    | 655              | 616 | 701 |                  |   |   |
| 328              | 163    | 165    | 684              | 677 | 690 | 448              | 225    | 223    | 308              | 152    | 156    | 688              | 678 | 697 |                  |   |   |
| 382              | 189    | 192    | 698              | 704 | 693 | 524              | 258    | 266    | 369              | 183    | 186    | 705              | 709 | 701 |                  |   |   |
| 404              | 202    | 203    | 652              | 649 | 655 | 585              | 294    | 290    | 383              | 191    | 192    | 655              | 648 | 662 |                  |   |   |
| 375              | 185    | 190    | 675              | 670 | 680 | 542              | 271    | 272    | 368              | 182    | 186    | 679              | 671 | 686 |                  |   |   |
| 404              | 201    | 203    | 648              | 662 | 635 | 597              | 291    | 305    | 337              | 192    | 195    | 649              | 660 | 635 |                  |   |   |
| 577              | 289    | 289    | 670              | 684 | 657 | 834              | 408    | 425    | 558              | 278    | 281    | 669              | 680 | 659 |                  |   |   |
| 584              | 291    | 294    | 672              | 685 | 660 | 848              | 411    | 436    | 574              | 285    | 289    | 673              | 693 | 663 |                  |   |   |
| 428              | 213    | 216    | 662              | 675 | 649 | 632              | 307    | 325    | 416              | 206    | 210    | 658              | 673 | 645 |                  |   |   |
| 427              | 214    | 213    | 619              | 640 | 601 | 652              | 315    | 337    | 402              | 200    | 202    | 617              | 637 | 598 |                  |   |   |
| 543              | 270    | 273    | 630              | 648 | 612 | 825              | 395    | 429    | 517              | 257    | 260    | 627              | 650 | 606 |                  |   |   |
| 584              | 289    | 294    | 653              | 661 | 645 | 802              | 420    | 442    | 566              | 286    | 290    | 656              | 667 | 646 |                  |   |   |
| 1,714            | 869    | 845    | 559              | 522 | 603 | 2,532            | 1,355  | 1,177  | 1,333            | 685    | 688    | 546              | 513 | 585 |                  |   |   |
| 555              | 281    | 274    | 609              | 579 | 644 | 859              | 456    | 403    | 511              | 257    | 251    | 595              | 563 | 630 |                  |   |   |
| 724              | 359    | 365    | 639              | 654 | 620 | 1,086            | 521    | 535    | 703              | 347    | 356    | 647              | 665 | 630 |                  |   |   |
| 304              | 159    | 155    | 666              | 679 | 653 | 423              | 207    | 226    | 232              | 143    | 149    | 674              | 688 | 660 |                  |   |   |
| 301              | 148    | 152    | 634              | 654 | 612 | 468              | 223    | 245    | 297              | 147    | 151    | 630              | 660 | 615 |                  |   |   |
| 242              | 129    | 123    | 645              | 663 | 626 | 376              | 189    | 196    | 242              | 120    | 122    | 643              | 663 | 623 |                  |   |   |
| 226              | 113    | 114    | 623              | 639 | 610 | 354              | 174    | 180    | 222              | 110    | 112    | 627              | 633 | 611 |                  |   |   |
| 621              | 311    | 311    | 604              | 620 | 584 | 995              | 478    | 517    | 601              | 309    | 311    | 604              | 627 | 584 |                  |   |   |
| 449              | 225    | 221    | 638              | 641 | 635 | 669              | 333    | 336    | 429              | 214    | 215    | 641              | 643 | 640 |                  |   |   |
| 668              | 333    | 336    | 655              | 657 | 653 | 955              | 473    | 482    | 629              | 313    | 316    | 659              | 662 | 657 |                  |   |   |
| 913              | 457    | 456    | 617              | 624 | 610 | 1,324            | 650    | 674    | 826              | 412    | 415    | 624              | 634 | 615 |                  |   |   |
| 445              | 221    | 223    | 631              | 648 | 610 | 679              | 329    | 359    | 432              | 214    | 217    | 636              | 652 | 621 |                  |   |   |
| 259              | 128    | 131    | 610              | 630 | 588 | 417              | 196    | 221    | 254              | 125    | 129    | 615              | 638 | 583 |                  |   |   |
| 544              | 274    | 271    | 569              | 559 | 580 | 862              | 435    | 428    | 497              | 249    | 248    | 577              | 572 | 582 |                  |   |   |
| 1,217            | 617    | 601    | 575              | 553 | 599 | 1,766            | 926    | 840    | 1,014            | 511    | 523    | 574              | 552 | 598 |                  |   |   |
| 904              | 498    | 496    | 620              | 615 | 625 | 1,503            | 772    | 732    | 924              | 463    | 461    | 610              | 600 | 610 |                  |   |   |
| 229              | 114    | 115    | 618              | 624 | 612 | 353              | 173    | 179    | 219              | 108    | 110    | 620              | 626 | 615 |                  |   |   |
| 305              | 151    | 154    | 610              | 618 | 615 | 466              | 228    | 238    | 289              | 142    | 147    | 621              | 625 | 618 |                  |   |   |
| 199              | 99     | 100    | 659              | 683 | 637 | 298              | 143    | 153    | 196              | 97     | 98     | 662              | 683 | 642 |                  |   |   |
| 317              | 157    | 159    | 600              | 670 | 650 | 478              | 234    | 243    | 321              | 158    | 162    | 671              | 671 | 676 |                  |   |   |
| 529              | 262    | 267    | 649              | 655 | 643 | 804              | 396    | 408    | 523              | 259    | 264    | 651              | 655 | 648 |                  |   |   |
| 651              | 323    | 328    | 635              | 624 | 645 | 978              | 488    | 490    | 626              | 308    | 318    | 640              | 632 | 648 |                  |   |   |
| 452              | 226    | 226    | 637              | 633 | 641 | 677              | 337    | 341    | 434              | 216    | 218    | 641              | 642 | 643 |                  |   |   |
| 283              | 141    | 142    | 653              | 655 | 650 | 422              | 206    | 216    | 277              | 137    | 140    | 656              | 663 | 650 |                  |   |   |
| 276              | 137    | 139    | 642              | 636 | 647 | 414              | 203    | 211    | 268              | 131    | 136    | 646              | 645 | 644 |                  |   |   |
| 442              | 219    | 223    | 648              | 657 | 640 | 655              | 318    | 337    | 428              | 211    | 217    | 654              | 664 | 648 |                  |   |   |
| 298              | 148    | 150    | 669              | 675 | 663 | 441              | 216    | 226    | 295              | 146    | 149    | 663              | 676 | 649 |                  |   |   |
| 926              | 465    | 460    | 629              | 622 | 635 | 1,416            | 727    | 689    | 885              | 445    | 449    | 625              | 612 | 639 |                  |   |   |
| 270              | 134    | 136    | 633              | 650 | 618 | 422              | 204    | 218    | 268              | 133    | 135    | 634              | 653 | 617 |                  |   |   |
| 462              | 233    | 229    | 629              | 615 | 635 | 734              | 382    | 352    | 457              | 222    | 224    | 622              | 607 | 637 |                  |   |   |
| 509              | 253    | 255    | 620              | 630 | 605 | 790              | 379    | 411    | 489              | 243    | 246    | 619              | 610 | 599 |                  |   |   |
| 383              | 191    | 192    | 655              | 669 | 641 | 556              | 269    | 287    | 366              | 182    | 184    | 658              | 676 | 642 |                  |   |   |
| 285              | 143    | 143    | 660              | 663 | 669 | 409              | 205    | 205    | 276              | 138    | 138    | 673              | 672 | 674 |                  |   |   |
| 555              | 274    | 281    | 620              | 657 | 599 | 830              | 402    | 458    | 539              | 266    | 273    | 627              | 661 | 596 |                  |   |   |
| 269              | 100    | 109    | 610              | 635 | 599 | 358              | 168    | 190    | 215              | 105    | 110    | 601              | 625 | 579 |                  |   |   |



此の中大正十四年の有配偶率總數をとつて圖示したのが、第五圖である。更に大正十四年總數を有配偶率の高き地方から低き地方へ向つて順序に排列すれば第九表の如くである。

此等によつて見れば、有配偶率の極めて高き地方は岩手を最高として青森、秋田、茨城、福島等の諸縣である。之に反して東京、京都、大阪、長野、神奈川等の諸府縣は極めて低き地方の代表的なるものである。

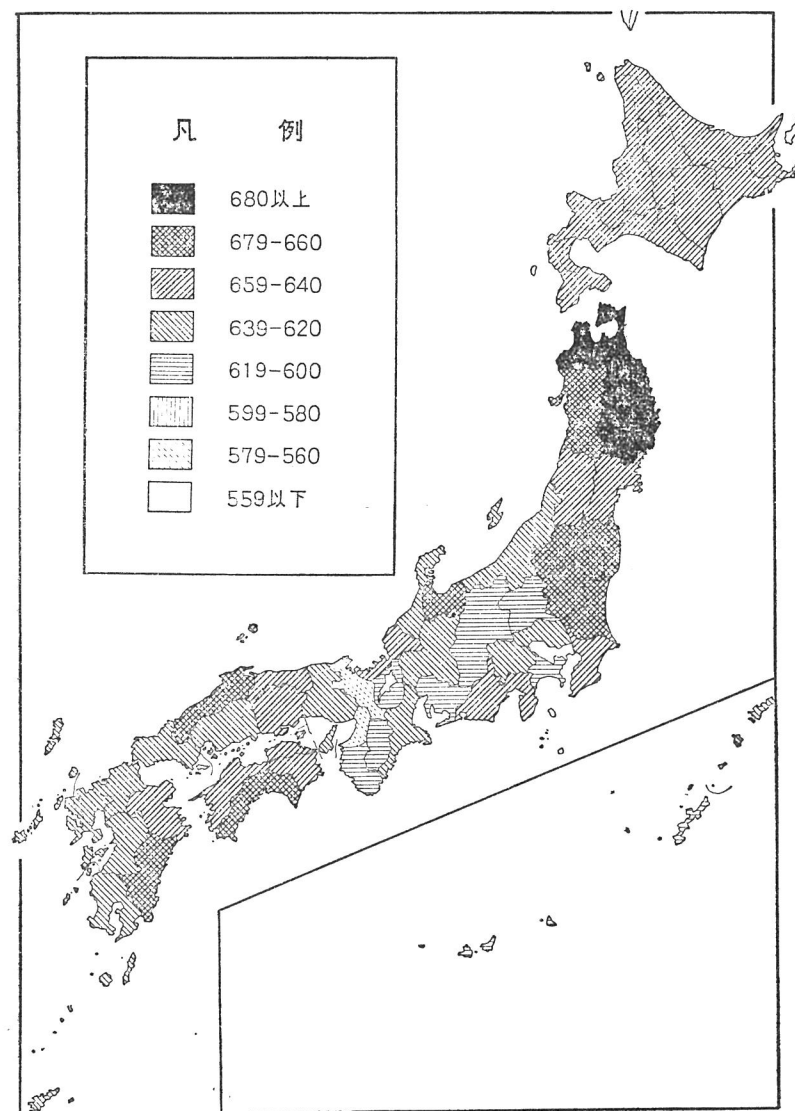
以上の如く有配偶率は一般に北海道、東北地方、關東地方中千葉、茨城、栃木三縣、靜岡、富山、福井三縣、山陰、四國及び九州東半に高く、上記三縣を除く關東、富山、福井、靜岡を除く中部、近畿の諸地方に低い。此の事は極めて概括的に、又極めて常識的に、工業化の程度高き地方に低く、農業地方に高いと見ることが出来る。そこで統計的にこの兩者の關係の程度を示してみよう。

第九表 大正 14 年道府縣別可婚  
年齢人口有配偶率順位

|       |     | (總  | 數)     |   |     |
|-------|-----|-----|--------|---|-----|
| 1. 岩  | 手   | 698 | 25. 山  | 口 | 637 |
| 2. 青  | 森   | 684 | 26. 廣  | 島 | 635 |
| 3. 秋  | 田   | 675 | 27. 石  | 川 | 634 |
| 4. 茨  | 城   | 672 | 28. 佐  | 賀 | 633 |
| 5. 福  | 島   | 670 | 29. 三  | 重 | 631 |
| 6. 高  | 知   | 669 | 30. 埼  | 玉 | 630 |
| 7. 富  | 山   | 666 | 31. 福  | 岡 | 629 |
| 8. 鳥  | 根   |     | 32. 鹿兒 | 島 | 626 |
| 9. 宮  | 崎   |     | 33. 長  | 崎 | 625 |
| 10. 栃 | 木   | 662 | 34. 山  | 梨 | 623 |
| 11. 鳥 | 取   | 659 | 35. 熊  | 本 | 620 |
| 12. 靜 | 岡   | 655 | 36. 兵  | 庫 |     |
| 13. 大 | 分   |     | 37. 群  | 馬 | 619 |
| 14. 千 | 葉   | 653 | 38. 奈  | 良 | 618 |
| 15. 德 | 島   |     | 39. 愛  | 知 | 617 |
| 16. 宮 | 城   | 652 | 40. 和歌 | 山 | 616 |
| 17. 北 | 海 道 | 649 | 41. 沖  | 繩 |     |
| 18. 岡 | 山   |     | 42. 滋  | 賀 | 610 |
| 19. 山 | 形   | 648 | 43. 神奈 | 川 | 609 |
| 20. 愛 | 媛   |     | 44. 長  | 野 | 604 |
| 21. 福 | 井   | 645 | 45. 大  | 阪 | 576 |
| 22. 香 | 川   | 642 | 46. 京  | 都 | 569 |
| 23. 新 | 潟   | 639 | 47. 東  | 京 | 559 |
| 24. 岐 | 阜   | 638 |        |   |     |

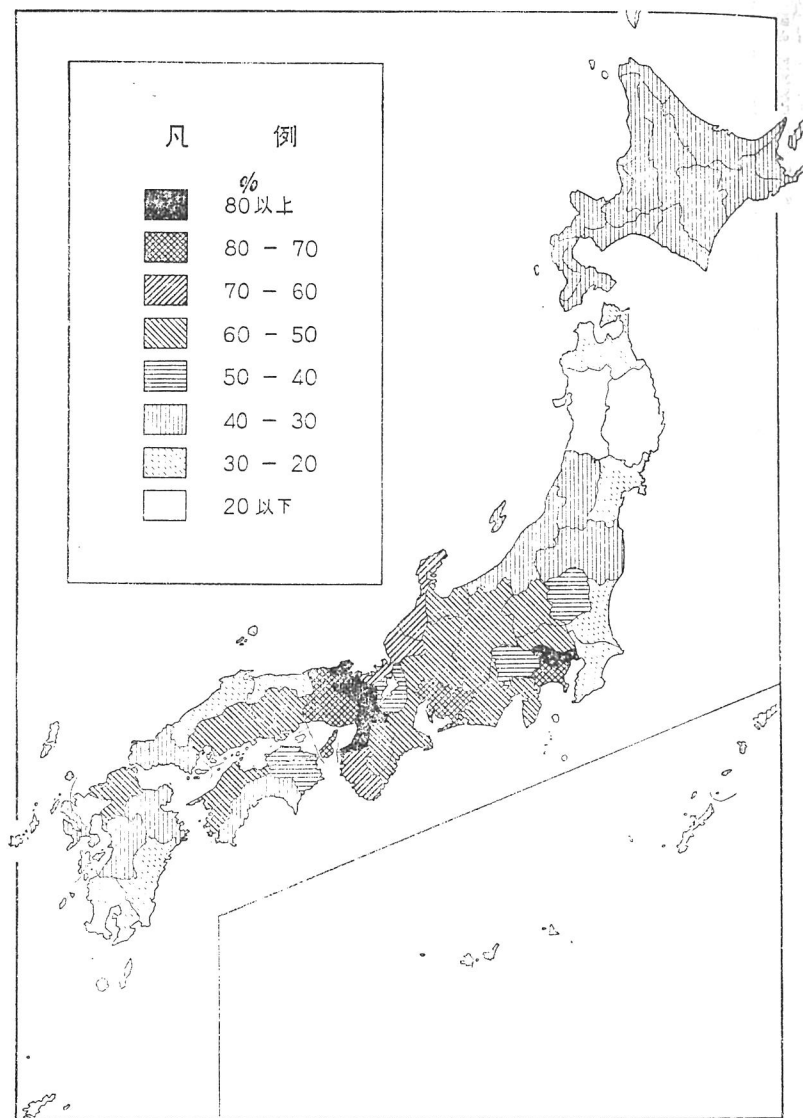
第五圖 大正 14 年道府縣別可婚年齢人口有配偶率

(總 數)



備考 第八表に據る。

第六圖 大正 14 年道府縣別全生産額に對する工業生産額の割合



備考 第十表に據る。

第十表 大正 14 年道府縣別生産額百分率

|        | 總數    | 農産   | 畜産  | 林産   | 鑛産   | 水産   | 工業   |
|--------|-------|------|-----|------|------|------|------|
|        | %     | %    | %   | %    | %    | %    | %    |
| 總數     | 100.0 | 39.0 | 1.7 | 3.1  | 2.7  | 4.0  | 53.4 |
| 1 北海道  | 100.0 | 31.4 | 2.2 | 4.8  | 8.1  | 22.8 | 30.7 |
| 2 青森   | 100.0 | 53.0 | 3.0 | 7.9  | 0.4  | 10.0 | 25.1 |
| 3 岩手   | 100.0 | 52.1 | 2.6 | 9.7  | 5.8  | 10.7 | 17.8 |
| 4 宮城   | 100.0 | 56.1 | 1.8 | 6.8  | 0.3  | 7.7  | 27.3 |
| 5 秋田   | 100.0 | 47.4 | 1.8 | 17.9 | 15.9 | 1.4  | 15.6 |
| 6 山形   | 100.0 | 57.6 | 1.6 | 2.5  | 0.4  | 0.7  | 37.8 |
| 7 福島   | 100.0 | 41.4 | 2.4 | 5.0  | 7.0  | 1.5  | 39.7 |
| 8 茨城   | 100.0 | 59.7 | 2.1 | 4.8  | 5.4  | 2.9  | 25.1 |
| 9 栃木   | 100.0 | 46.4 | 1.9 | 5.0  | 5.7  | 0.3  | 40.0 |
| 10 群馬  | 100.0 | 56.6 | 1.3 | 2.8  | 0.3  | 0.1  | 58.9 |
| 11 埼玉  | 100.0 | 37.8 | 1.1 | 1.1  | 0.4  | 0.1  | 59.6 |
| 12 千葉  | 100.0 | 52.4 | 4.0 | 3.1  | —    | 7.9  | 28.6 |
| 13 東京  | 100.0 | 5.7  | 4.9 | 0.5  | —    | 1.7  | 89.3 |
| 14 神奈川 | 100.0 | 20.6 | 2.9 | 1.1  | —    | 3.7  | 71.7 |
| 15 新潟  | 100.0 | 44.8 | 1.2 | 4.1  | 8.4  | 2.7  | 38.8 |
| 16 富山  | 100.0 | 40.0 | 0.9 | 1.6  | 0.9  | 4.4  | 52.2 |
| 17 石川  | 100.0 | 32.3 | 1.0 | 3.3  | 1.0  | 3.6  | 64.7 |
| 18 福井  | 100.0 | 25.1 | 0.8 | 4.0  | 0.3  | 3.4  | 66.1 |
| 19 山梨  | 100.0 | 49.8 | 1.2 | 6.1  | 0.4  | 0.1  | 42.5 |
| 20 長野  | 100.0 | 36.9 | 1.2 | 1.6  | 0.3  | 0.3  | 59.8 |
| 21 岐阜  | 100.0 | 37.8 | 1.2 | 3.3  | 0.7  | 0.4  | 56.7 |
| 22 静岡  | 100.0 | 30.9 | 1.7 | 2.6  | 0.7  | 9.0  | 55.2 |
| 23 愛知  | 100.0 | 13.3 | 1.7 | 0.5  | 0.4  | 1.8  | 75.8 |
| 24 三重  | 100.0 | 39.2 | 1.1 | 3.5  | 0.2  | 5.3  | 59.6 |
| 25 滋賀  | 100.0 | 46.3 | 3.4 | 2.6  | 0.6  | 1.0  | 46.2 |
| 26 京都  | 100.0 | 14.5 | 1.8 | 2.0  | 0.2  | 0.5  | 81.1 |
| 27 大阪  | 100.0 | 4.3  | 0.9 | 0.2  | 0.0  | 0.5  | 94.6 |
| 28 兵庫  | 100.0 | 17.1 | 1.1 | 1.8  | 0.1  | 2.4  | 77.1 |
| 29 奈良  | 100.0 | 39.6 | 1.9 | 3.1  | 0.3  | 0.2  | 55.5 |
| 30 和歌山 | 100.0 | 18.8 | 0.7 | 9.1  | 0.4  | 5.1  | 66.0 |
| 31 鳥取  | 100.0 | 56.8 | 1.7 | 8.2  | 1.4  | 3.1  | 28.8 |
| 32 島根  | 100.0 | 56.6 | 1.7 | 8.6  | 0.2  | 6.4  | 27.1 |
| 33 岡山  | 100.0 | 35.7 | 1.3 | 2.8  | 0.8  | 2.5  | 56.9 |
| 34 広島  | 100.0 | 31.0 | 2.8 | 3.3  | 0.3  | 3.5  | 59.2 |
| 35 山口  | 100.0 | 34.5 | 1.4 | 5.2  | 7.1  | 18.4 | 33.4 |
| 36 徳島  | 100.0 | 41.3 | 1.5 | 3.2  | 0.8  | 6.8  | 46.3 |
| 37 香川  | 100.0 | 40.5 | 1.8 | 0.8  | 0.8  | 9.5  | 46.4 |
| 38 愛媛  | 100.0 | 36.5 | 1.1 | 2.1  | 4.7  | 4.2  | 51.4 |
| 39 高知  | 100.0 | 42.5 | 1.6 | 10.1 | 0.2  | 12.7 | 32.8 |
| 40 福岡  | 100.0 | 20.2 | 1.2 | 1.1  | 29.7 | 1.6  | 55.1 |
| 41 佐賀  | 100.0 | 51.3 | 1.6 | 2.5  | 11.1 | 4.3  | 29.2 |
| 42 長崎  | 100.0 | 36.2 | 1.6 | 4.2  | 8.4  | 17.2 | 32.4 |
| 43 熊本  | 100.0 | 51.2 | 1.6 | 3.6  | 3.8  | 1.7  | 33.1 |
| 44 大分  | 100.0 | 44.0 | 1.8 | 5.8  | 6.7  | 5.1  | 36.6 |
| 45 宮崎  | 100.0 | 52.9 | 3.0 | 15.1 | 0.6  | 4.1  | 24.3 |
| 46 鹿児島 | 100.0 | 53.5 | 3.8 | 8.6  | 1.1  | 9.3  | 24.3 |
| 47 沖縄  | 100.0 | 40.8 | 5.3 | 3.1  | 3.9  | 10.5 | 36.4 |

備考 静岡県統計課「大正 14 年道府縣別生産額調査」に據り若干の修正を加へて算出す。

地方別に工業化の程度を測定することは極めて困難であるが、今假りに静岡県統計課の集計にかかる道府縣別生産額調に基き、之に若干の修正をほどこして各道府縣毎に各種生産額の全生産額に對する百分比を作製し（第十表）工業生産物價額の占むる地位によつて工業化の程度を略々測定し得るとすれば（註 2）右の如き有配偶率の高低と工業化の程度とが、大體に於て一致するものと知られる。比較の便宜の爲に第十表によつて第六圖を作製して掲出して置く。

工業化の程度を示す上記の方法は註記の如き缺點があるから、之を補正する爲に、否、工業がどれ程の人口を包擁してゐるかといふ點に着眼して大正九年國勢調査の結果に基き各府縣につき有業者百人中工業者の占むる割合を算出し、兩者の算術平均を求めてスペアマン(Spearman)の方法によつて、府縣別有配偶率と工業化の程度との二系列について順位相關値(早崎八洲氏による名稱)を計算すれば  $\rho = 0.716$  にして相當顯著なる逆相關の存在を示してゐる。(註4)

註4 此の方法には幾多の不完全なる點が存在することは明かである。特に各府縣によつて幾分生産價額の計算の範圍、方法を異するものがあつて(氣の付いた點は修正をかけた。)實數による府縣間の比較は極めて困難である。この點は百分比を使用したことによつて幾分緩和せられてゐると思ふ。次に各種の生産の地位の比較が價格によつてゐることは、農産物價格と工産物價格との變動の差異、地方的價格の差異が反映してゐる爲に相當當面の目的に對して難點があることは認めなければならぬ。

更に此の關係は職業別配偶關係によつても知ることが出来る。大正九年國勢調査の結果に基き職業別可婚年齢者配偶關係の百

第十一表 大正九年可婚年齢者職業別配偶關係百分比

| 職業 | 男      |       |       |       | 女      |       |       |       |
|----|--------|-------|-------|-------|--------|-------|-------|-------|
|    | 計      | 未婚    | 有配偶   | 死別離別  | 計      | 未婚    | 有配偶   | 死別離別  |
| 總計 | 100.00 | 25.72 | 63.93 | 10.35 | 100.00 | 27.89 | 65.34 | 6.86  |
| 農  | 100.00 | 19.20 | 71.12 | 9.67  | 100.00 | 21.97 | 70.73 | 7.30  |
| 水  | 100.00 | 25.98 | 66.93 | 7.08  | 100.00 | 27.15 | 68.04 | 6.82  |
| 林  | 100.00 | 27.13 | 68.32 | 6.55  | 100.00 | 30.12 | 63.77 | 6.11  |
| 鐵  | 100.00 | 37.96 | 53.30 | 8.73  | 100.00 | 35.83 | 58.45 | 5.67  |
| 工  | 100.00 | 26.11 | 62.26 | 11.62 | 100.00 | 26.77 | 67.02 | 6.21  |
| 商  | 100.00 | 33.24 | 61.27 | 5.49  | 100.00 | 33.13 | 61.54 | 5.33  |
| 通  | 100.00 | 40.81 | 51.56 | 7.63  | 100.00 | 33.67 | 57.93 | 5.37  |
| 公  | 100.00 | 20.00 | 55.94 | 24.06 | 100.00 | 24.62 | 60.47 | 14.91 |
| 其  | 100.00 | 26.72 | 45.79 | 27.48 | 100.00 | 11.22 | 76.58 | 12.27 |
| 他  | 100.00 | 27.79 | 35.81 | 36.40 | 100.00 | 37.25 | 47.89 | 14.96 |
| 家  |        |       |       |       |        |       |       |       |
| 事  |        |       |       |       |        |       |       |       |
| 職  |        |       |       |       |        |       |       |       |
| 無  |        |       |       |       |        |       |       |       |

備考 國勢調査報告に據る。

分比を算出して掲ぐれば第十一表の如くである。その詳細なる觀察は職業別配偶關係及び都鄙別配偶關係の稿に譲るが、一般に農業者、水産業者に於て有配偶者の割合は極めて高く未婚者の割合が極めて低く、工業者に於て全く反對であることを明かに認めることが出来る。

かくて工業的府縣が可婚年齢者を府縣外から吸収することによつて可婚年齢人口を比較的に大ならしめ、之に反して職業別配偶關係表にみる如く有配偶者數を比較的に小ならしめ、その結果有配偶率を明かに低下せしめてゐることを知るのである。

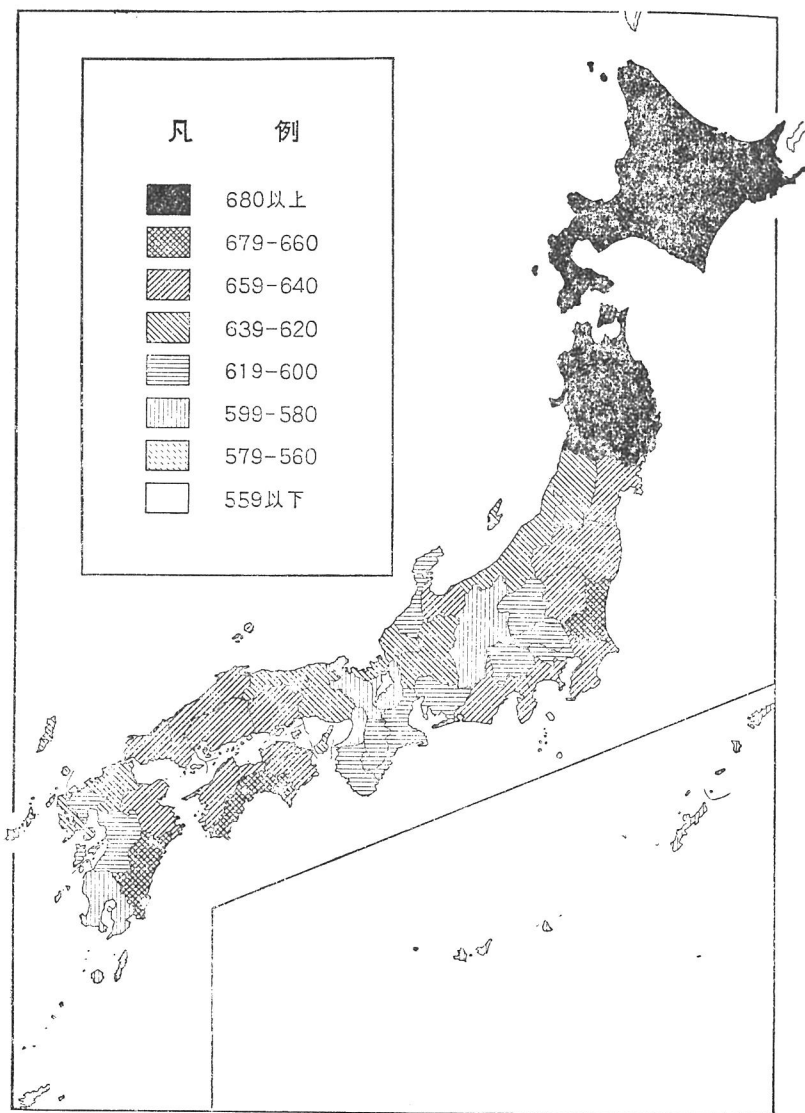
## (二) 男女別考察

第七圖及び第八圖の如く、地方の特殊事情によつて男女有配偶率の顯著に異つてゐるところがある。大正十四年に於て男子と女子とによつて有配偶率を著しく異にする地方を擧ぐれば、北海道、群馬、埼玉、東京、神奈川、石川、福井、長野、三重、滋賀、大阪、鳥取、佐賀、熊本、鹿児島、沖縄等の諸府縣である。

かくの如き男女有配偶率の差異は主として可婚年齢人口の男女比率( $\frac{M}{F}$ )の差異に基く。今、参考として可婚年齢人口の男女比率を算出して掲ぐれば第十二表の如くである。

第八圖 大正 14 年道府縣別可婚年齢人口有配偶率

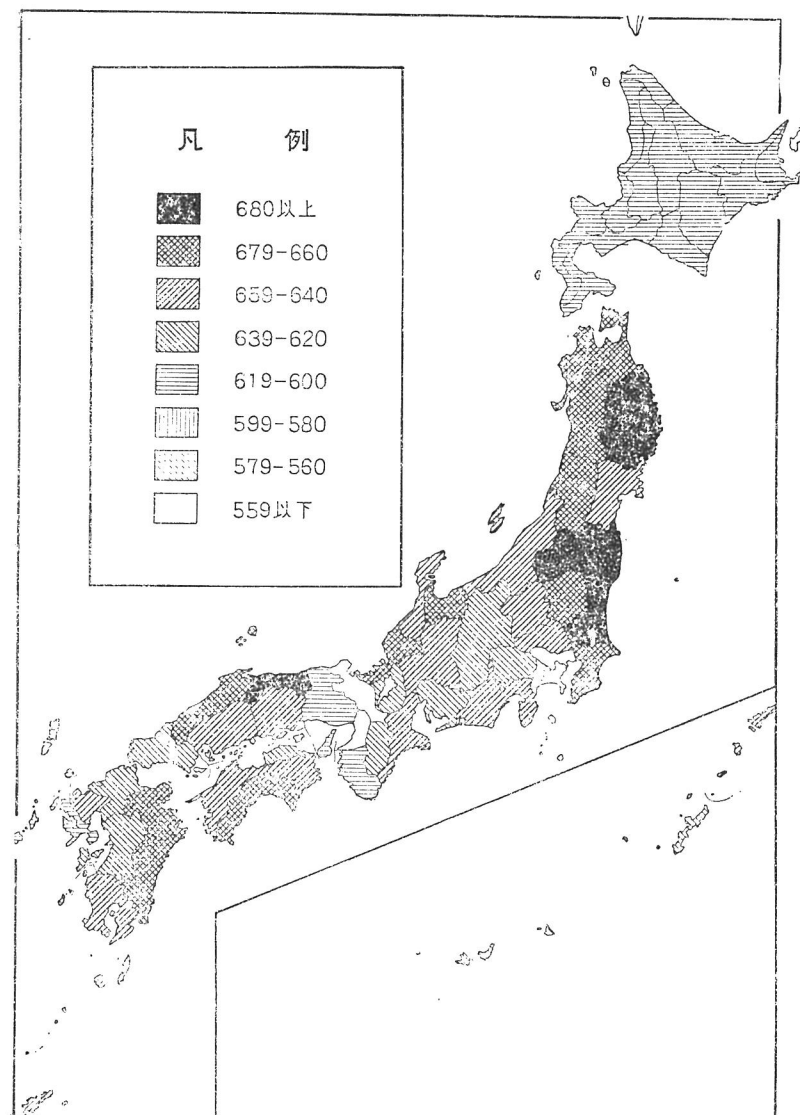
女



備考 第八表に據る。

第七圖 大正 14 年道府縣別可婚年齢人口有配偶率

男



備考 第八表に據る。

第十二表 道府縣別可婚年齢人口男女比率

男=100

| 道府縣名   | 昭和5年   | 大正14年  | 大正9年   | 府  | 縣名 | 昭和5年   | 大正14年  | 大正9年   | 縣  | 名 | 昭和5年   | 大正14年  | 大正9年   |
|--------|--------|--------|--------|----|----|--------|--------|--------|----|---|--------|--------|--------|
| 總數     | 97.73  | 99.53  | 100.43 | 16 | 宮  | —      | 107.42 | 109.23 | 32 | 根 | —      | 102.63 | 103.76 |
| 1 北海道  | —      | 87.32  | 84.66  | 17 | 石  | —      | 110.35 | 110.10 | 33 | 山 | —      | 103.60 | 103.05 |
| 2 青森   | —      | 99.62  | 99.34  | 18 | 福  | —      | 108.23 | 108.78 | 34 | 岡 | —      | 98.05  | 100.40 |
| 3 岩手   | —      | 103.13 | 102.94 | 19 | 山  | 102.83 | 103.02 | 108.73 | 35 | 口 | 102.41 | 98.44  | 101.21 |
| 4 宮城   | 99.10  | 99.71  | 98.71  | 20 | 野  | 109.32 | 107.27 | 108.02 | 36 | 島 | —      | 101.78 | 104.58 |
| 5 秋田   | 101.82 | 101.41 | 100.37 | 21 | 駿  | 100.75 | 100.46 | 100.69 | 37 | 川 | —      | 100.11 | 104.23 |
| 6 山形   | 105.37 | 105.49 | 104.86 | 22 | 國  | 100.82 | 101.40 | 101.79 | 38 | 媛 | —      | 104.68 | 105.94 |
| 7 福島   | 105.79 | 104.13 | 104.15 | 23 | 知  | 101.48 | 102.01 | 103.76 | 39 | 知 | —      | 103.12 | 104.70 |
| 8 茨城   | 104.36 | 104.91 | 106.09 | 24 | 重  | 105.04 | 106.13 | 106.48 | 40 | 賀 | 107.64 | 96.31  | 94.74  |
| 9 栃木   | 104.66 | 105.45 | 105.89 | 25 | 寶  | 108.63 | 110.78 | 112.75 | 41 | 分 | —      | 106.18 | 107.22 |
| 10 群馬  | 106.47 | 105.98 | 107.11 | 26 | 都  | 59.44  | 95.45  | 97.91  | 42 | 崎 | —      | 94.78  | 92.06  |
| 11 千葉  | 105.07 | 106.88 | 108.55 | 27 | 府  | 89.53  | 89.91  | 90.74  | 43 | 本 | —      | 106.14 | 108.42 |
| 12 東京  | 102.63 | 104.10 | 105.30 | 28 | 京  | 98.66  | 97.96  | 94.83  | 44 | 大 | 105.91 | 105.05 | 106.76 |
| 13 神奈川 | —      | 84.14  | 86.88  | 29 | 良  | 104.10 | 103.41 | 103.39 | 45 | 宮 | 98.63  | 98.95  | 100.00 |
| 14 新潟  | 90.04  | 87.76  | 88.36  | 30 | 和  | 101.81 | 102.80 | 104.60 | 46 | 鹿 | —      | 112.33 | 113.77 |
| 15 新潟  | —      | 106.33 | 108.45 | 31 | 取  | —      | 108.73 | 107.53 | 47 | 池 | 121.51 | 114.88 | 112.78 |

上記道府縣の内男子の有配偶率に比して女子のそれが著しく高い地方は北海道、東京、神奈川、大阪の府縣であつて男女比率は夫々八七、八四、八八、九〇を示してゐる。云ふ迄もなく北海道はその植民地的特殊性によるものであつて、卑俗に「北海道に於ては女權が強い」と云はれてゐることの意味を有配偶率の特殊性からも理解することが出来る。東京、大阪、神奈川の府縣は商工業の大中心地であつて府縣外から多數の壯年人口を吸収してゐるが、その中男子が女子の數を凌いでゐることによるもの

であらう。試みに中央職業紹介事務局調「大正十四年出稼者調査」によつて此等の府縣の入稼數性別をあぐれば次の如くである。

| 道府縣  | 入稼者男   | 入稼者女   | 計       |
|------|--------|--------|---------|
| 北海道  | 五五、〇三九 | 一四、二四八 | 六九、二八七  |
| 東京府  | 七五、五一四 | 四五、九一一 | 一二一、四二五 |
| 神奈川縣 | 一一、九四二 | 八、二八七  | 二一、二二九  |
| 大阪府  | 五九、〇二三 | 五一、三三〇 | 一一〇、三五三 |

爾餘の諸縣は何れも男子の有配偶率が女子に比して高率を示してゐるが、その中長野、群馬、埼玉、三重、滋賀等の諸縣は女子労働を必要とする産業が女子壯年人口を吸収することによつて女子の配偶關係に入ること延期せしめ、更に縣外よりの女子労働の移入を促して男女比率を上昇せしめるが故であると見ることが出来る。上掲出稼調の數字によつても此の間の事情の一端を窺ふことが出来る。(次表参照)

石川、福井、佐賀の諸縣は男子の出稼特に多く男子の有配偶率を相對的に高めてゐる。

| 道府縣 | 入稼男   | 入稼女    | 計      | 出稼男    | 出稼女   | 計      |
|-----|-------|--------|--------|--------|-------|--------|
| 長野縣 | 九、七七一 | 二五、八〇一 | 三五、五七二 | 六、五二四  | 六、九二三 | 一三、四四七 |
| 群馬縣 | 六、〇四五 | 六、二三八  | 一二、二八三 | 五、五三〇  | 三、四四二 | 八、九七二  |
| 埼玉縣 | 四、八八二 | 一一、八一九 | 一六、七〇一 | 二、六七六  | 一、三〇四 | 三、九八〇  |
| 三重縣 | 三、一三四 | 五、四八四  | 八、六一八  | 一〇、四〇五 | 九、七〇三 | 二〇、一〇八 |
| 滋賀縣 | 一、八九五 | 二、〇八八  | 三、九八三  | 七、〇五六  | 六、一一一 | 一三、一六七 |
| 石川縣 | 九三五   | 四三四    | 一、三六九  | 一〇、二五〇 | 二、六〇五 | 一二、四二〇 |



|      |       |       |       |        |        |        |
|------|-------|-------|-------|--------|--------|--------|
| 福井縣  | 五四一   | 一九六   | 七三七   | 七、八三七  | 三、七四七  | 一一、五八四 |
| 鹿兒島縣 | 二、六九九 | 九八九   | 三、六八八 | 一六、七三四 | 一五、七四三 | 三二、四七七 |
| 鳥取縣  | 二、一六三 | 二、〇三一 | 四、一九四 | 一、九三一  | 一、六一九  | 三、五五〇  |
| 佐賀縣  | 三、五四二 | 二、八一〇 | 六、三五二 | 四、一五一  | 二、九八四  | 七、一三五  |
| 熊本縣  | 三、三八三 | 一、八九〇 | 五、二七三 | 一七、六五二 | 一六、一一〇 | 三三、七六二 |
| 沖繩縣  | 一五〇   | 八九    | 二三九   | 六五五    | 五、七〇一  | 六、三五六  |

鹿兒島、熊本兩縣は男女共に出稼者數極めて多數に上り一般に婚期遅く、(第十五表参照)有配偶率を低下せしめてゐるが、特に鹿兒島縣に於ては壯年男子が漁業に従事するために女子の有配偶率を相對的に低下せしめてゐると見ることが出来る。尙熊本、佐賀、福岡、山口、和歌山、廣島、福島等の諸地方は移民渡航者多く爲に女子の有配偶率を低下せしめる要件の一となつてゐることを附言する。

### (三) 年齢階級別考察

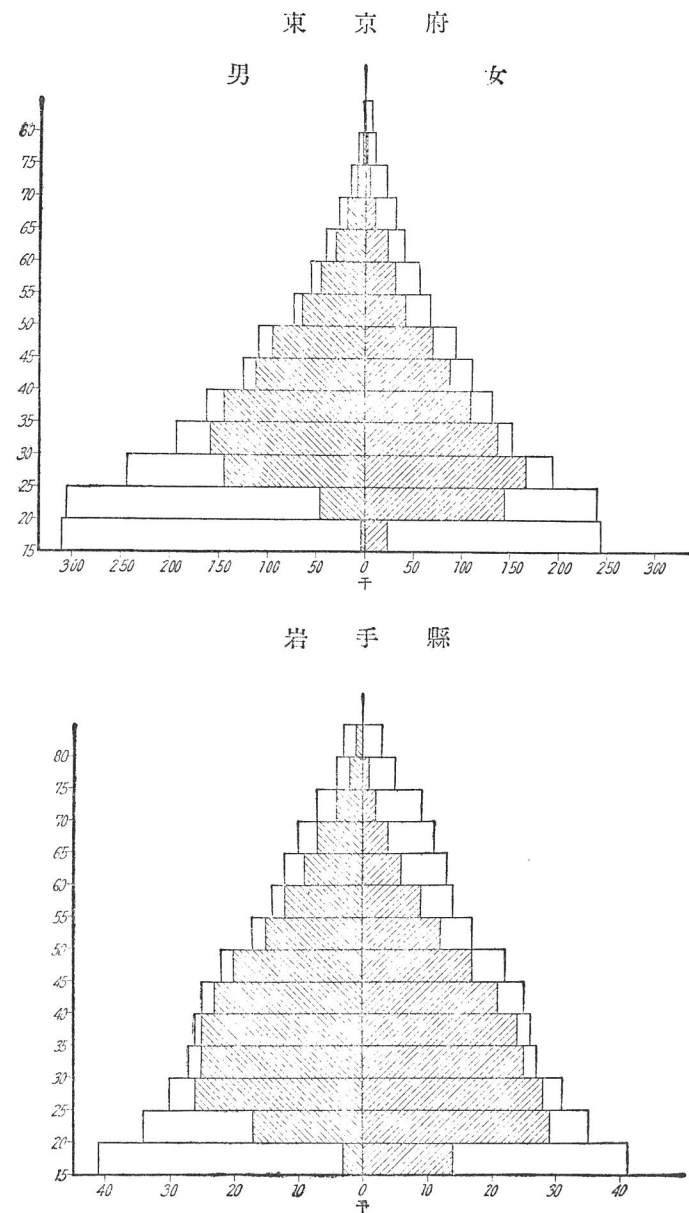
各地方に於ける年齢構成の上から有配偶率を見ることは極めて重要な意義を持つこと云ふ迄もないが、個々の地方について記述することは省略してただ極めて高き地方及び極めて低き地方を代表するものとして岩手縣及び東京府をとつて一言しておくこととする。兩府縣に於ける年齢五歲階級別配偶關係百分比を計算すれば次表の如くである(第十三表)。更に實數について之を圖示したのが第九圖である。

第十三表 大正14年東京府及岩手縣可婚年齢人口配偶關係性年齢別百分率

| 年 齡   | 男     |      |       |      | 女     |      |       |      |
|-------|-------|------|-------|------|-------|------|-------|------|
|       | 計     | 未 婚  | 有 配 偶 | 別 離  | 計     | 未 婚  | 有 配 偶 | 別 離  |
| 總 數   | 100.0 | 42.5 | 52.2  | 4.0  | 100.0 | 25.2 | 60.3  | 12.5 |
| 15-19 | 100.0 | 69.2 | 0.7   | —    | 100.0 | 90.0 | 9.8   | 0.2  |
| 20-24 | 100.0 | 84.8 | 14.6  | 0.2  | 100.0 | 38.6 | 59.4  | 0.7  |
| 25-29 | 100.0 | 39.4 | 58.2  | 1.0  | 100.0 | 10.9 | 85.1  | 0.7  |
| 30-34 | 100.0 | 12.3 | 83.7  | 2.0  | 100.0 | 5.0  | 88.9  | 3.3  |
| 35-39 | 100.0 | 5.6  | 89.1  | 3.9  | 100.0 | 3.2  | 87.6  | 6.3  |
| 40-44 | 100.0 | 3.4  | 89.8  | 4.4  | 100.0 | 2.5  | 82.9  | 11.5 |
| 45-49 | 100.0 | 2.9  | 87.8  | 6.6  | 100.0 | 2.3  | 74.9  | 19.3 |
| 50-54 | 100.0 | 2.1  | 85.0  | 10.0 | 100.0 | 1.8  | 64.2  | 39.4 |
| 55-59 | 100.0 | 1.6  | 81.7  | 14.1 | 100.0 | 1.4  | 50.2  | 45.3 |
| 60-64 | 100.0 | 1.2  | 76.1  | 20.3 | 100.0 | 1.1  | 38.2  | 58.1 |
| 65+   | 100.0 | 1.0  | 60.5  | 36.4 | 100.0 | 0.8  | 19.0  | 78.5 |
| 總 數   | 100.0 | 22.1 | 70.4  | 5.8  | 100.0 | 11.3 | 69.3  | 16.0 |
| 15-19 | 100.0 | 92.5 | 6.8   | —    | 100.0 | 62.2 | 34.1  | 0.1  |
| 20-24 | 100.0 | 46.7 | 50.1  | 0.3  | 100.0 | 12.2 | 82.6  | 0.8  |
| 25-29 | 100.0 | 11.2 | 85.6  | 0.7  | 100.0 | 4.2  | 91.4  | 1.7  |
| 30-34 | 100.0 | 3.4  | 93.8  | 1.0  | 100.0 | 2.1  | 92.3  | 3.2  |
| 35-39 | 100.0 | 1.6  | 95.3  | 1.7  | 100.0 | 1.5  | 89.6  | 6.3  |
| 40-44 | 100.0 | 1.3  | 94.3  | 2.8  | 100.0 | 1.3  | 84.7  | 11.1 |
| 45-49 | 100.0 | 1.2  | 92.8  | 4.3  | 100.0 | 1.0  | 78.8  | 17.2 |
| 50-54 | 100.0 | 0.9  | 97.6  | 6.8  | 100.0 | 0.7  | 71.8  | 24.6 |
| 55-59 | 100.0 | 0.7  | 86.4  | 11.0 | 100.0 | 0.5  | 61.2  | 33.8 |
| 60-64 | 100.0 | 0.6  | 81.2  | 16.2 | 100.0 | 0.4  | 51.9  | 40.4 |
| 65+   | 100.0 | 0.5  | 61.6  | 36.1 | 100.0 | 0.3  | 27.1  | 71.4 |

備考 國勢調査報告に據る。

第九圖 大正 14 年東京府及岩手縣可婚年齡人口性年齡別配偶關係



備考 國勢調査報告に據る。

此等を見れば先づ第一年齡構成の型の相異が顯著である。東京府は一五—二五歳の壯年人口特に多く四五歳以上の年齢階級の数が特に少くない。之に對して岩手縣は壯年人口の割合が少く老年人口の割合が大である。即ち一は典型的な都市型であり、他は農村型である。東京府は岩手縣に比し、全體的に見て男女各年齢階級の有配偶者の割合何れも少く、一五—一九歳に於いては特に著しく低い。更に注意すべきは出生率に影響するところ最も大なる二〇—三四歳に於ける有配偶者の割合が岩手縣に於て特に著しく大であるといふことである(第十四表)。かくて有配偶率高き地方に於ては(一)比較的早婚であり、(二)配偶關係に入り得る人々に對して婚姻數比較的に多く、(三)二〇—三四歳年齢階級に於ける有配偶者の割合比較的に多く、從つて比較的高き出生率を有すべきである。

第十四表 20—34 歳東京府及岩手縣配偶關係

|     | 計          | 男                 |                  |                  |               | 女                 |                  |                  |               |
|-----|------------|-------------------|------------------|------------------|---------------|-------------------|------------------|------------------|---------------|
|     |            | 未 婚               | 有 配 偶            | 死 別              | 離 別           | 未 婚               | 有 配 偶            | 死 別              | 離 別           |
| 東京府 | 貸 數<br>割 合 | 737,639<br>100.00 | 378,058<br>51.33 | 343,843<br>46.61 | 6,810<br>0.92 | 588,257<br>100.00 | 121,517<br>20.66 | 444,840<br>75.62 | 9,659<br>1.64 |
| 岩手縣 | 貸 數<br>割 合 | 90,967<br>100.00  | 29,097<br>22.09  | 68,051<br>74.81  | 563<br>0.62   | 92,876<br>100.00  | 6,166<br>6.64    | 82,001<br>88.29  | 1,697<br>1.79 |
|     |            |                   |                  |                  |               |                   |                  |                  | 3.28          |

備考 國勢調査報告に據る。

(四) 地方別平均婚姻年齡

次に大正十四年地方別平均婚姻年齡について見るに(第十五表参照)、夫最高は東京の三〇歳七七、之に次いで大阪の三〇歳四

更に地方別に配偶関係の成立即ち婚姻の状態を知る爲に、可婚年齢者中無配偶者千につき婚姻件数の比率即ち特殊婚姻率を算出すれば第十六表の如くである。之によつて大正十四年男子について見れば、富山縣の一六・五%を筆頭に青森縣一〇・八%、岩手縣一〇・七・八%、秋田縣一〇・六・七%、福島縣一〇・五%は極めて高く、石川、福井、新潟、山形、栃木、佐賀、大分、埼玉、茨城、静岡、宮城、山梨、鹿児島、徳島、香川、鳥取、愛媛等の諸縣は高き地方に属する。低き方では東京の四・一%を筆頭に大

### (五) 地方別特殊婚姻率

四國の有配偶率に對して比較的婚姻期おそきは興味ある事實である。

以上の如き一般に有配偶率高き地方は比較的早婚であり、有配偶率低き地方は晩婚である。東北地方の早婚、九州地方の晩婚、井の北陸諸縣は特に低き地方である。

三、神奈川二九歳八八、京都二九歳八三の順位である。北海道、山口、熊本、鹿児島、福岡、廣島、大分、滋賀、兵庫、愛知、長野、島根、宮崎等の諸縣はいづれも二十九歳以上にして平均婚姻年齢高き地方に属する。之に反してその最低は岩手の二六歳五〇であつて青森の二六歳五三之に次ぎ、東北地方、千葉、埼玉兩縣、新潟、富山、石川、福井の北陸諸縣及び静岡縣等は低き地方である。

妻に於ては大阪の二六歳七六を最高として北海道二五歳五九、東京二五歳五〇、神奈川二五歳二三、鹿児島二五歳〇六の順位を示し、山梨、長野、群馬、京都、長崎、奈良、熊本、福岡、佐賀、宮崎、島根、滋賀、栃木、埼玉、沖繩の諸縣は高き地方である。青森の二一歳四二を最低として、岩手の二二歳七一、秋田の二一歳九五の順位を占め、東北地方、新潟、富山、石川、福

第十五表 道府縣別夫妻平均婚姻年齢

(昭和5年・大正14年・大正9年)

| 道府縣別   | 年次 | 昭和5年  |       |      | 大正14年 |       |      | 大正9年  |       |      |
|--------|----|-------|-------|------|-------|-------|------|-------|-------|------|
|        |    | 夫     | 妻     | 差    | 夫     | 妻     | 差    | 夫     | 妻     | 差    |
| 總數     |    | 29.02 | 24.12 | 4.90 | 28.79 | 23.90 | 4.89 | 29.22 | 24.28 | 4.94 |
| 1 北海道  |    | 28.83 | 23.65 | 5.18 | 29.69 | 25.59 | 4.10 | 29.16 | 23.56 | 5.60 |
| 2 北海森手 |    | 26.58 | 21.45 | 5.13 | 26.53 | 21.42 | 5.11 | 26.48 | 21.61 | 4.87 |
| 3 北海岩宮 |    | 26.58 | 21.73 | 4.85 | 26.50 | 21.71 | 4.79 | 26.63 | 21.92 | 4.71 |
| 4 北海秋城 |    | 27.90 | 23.03 | 4.87 | 28.21 | 23.07 | 5.14 | 28.37 | 23.25 | 5.12 |
| 5 山形   |    | 27.26 | 21.88 | 5.38 | 27.27 | 21.95 | 5.32 | 27.28 | 22.12 | 5.16 |
| 6 山形形  |    | 27.98 | 23.53 | 4.45 | 27.94 | 23.56 | 4.38 | 28.32 | 23.83 | 4.49 |
| 7 福島   |    | 28.10 | 23.82 | 4.28 | 28.10 | 23.96 | 4.14 | 28.26 | 24.14 | 4.12 |
| 8 福島福  |    | 28.87 | 24.39 | 4.48 | 28.25 | 23.90 | 4.35 | 28.35 | 24.48 | 3.87 |
| 9 栃木   |    | 28.24 | 24.15 | 4.09 | 28.10 | 24.13 | 3.97 | 29.11 | 24.61 | 4.50 |
| 10 栃木馬 |    | 28.30 | 24.84 | 3.46 | 28.19 | 24.79 | 3.40 | 28.69 | 25.11 | 3.58 |
| 11 千葉  |    | 28.34 | 24.25 | 4.09 | 27.87 | 24.13 | 3.74 | 28.17 | 24.33 | 3.84 |
| 12 千葉東 |    | 27.90 | 23.71 | 4.19 | 27.66 | 23.71 | 3.95 | 27.73 | 23.74 | 3.99 |
| 13 東京  |    | 31.04 | 25.57 | 5.47 | 30.77 | 25.50 | 5.27 | 31.71 | 26.16 | 5.55 |
| 14 東京新 |    | 30.04 | 25.17 | 4.87 | 29.88 | 25.23 | 4.65 | 30.30 | 25.59 | 4.71 |
| 15 新潟  |    | 27.49 | 23.60 | 3.89 | 27.52 | 23.54 | 3.98 | 28.10 | 23.94 | 4.16 |
| 16 富山  |    | 27.58 | 22.20 | 5.38 | 27.47 | 21.92 | 5.55 | 28.12 | 22.05 | 6.07 |
| 17 石川  |    | 28.38 | 22.77 | 5.61 | 28.42 | 22.73 | 5.69 | 28.93 | 23.04 | 5.89 |
| 18 福井  |    | 28.04 | 22.69 | 5.35 | 28.26 | 22.70 | 5.56 | 28.63 | 23.05 | 5.58 |
| 19 山梨  |    | 29.09 | 25.17 | 3.92 | 28.82 | 24.98 | 3.84 | 29.51 | 25.41 | 4.10 |
| 20 長野  |    | 29.16 | 25.07 | 4.09 | 29.02 | 24.89 | 4.13 | 29.46 | 25.00 | 4.46 |
| 21 岐阜  |    | 28.97 | 23.74 | 5.23 | 28.97 | 23.78 | 5.19 | 29.57 | 24.09 | 5.48 |
| 22 静岡  |    | 27.56 | 23.02 | 4.54 | 27.48 | 23.73 | 3.75 | 28.68 | 23.10 | 5.58 |
| 23 愛知  |    | 28.95 | 23.87 | 5.08 | 29.09 | 24.01 | 5.08 | 29.36 | 24.21 | 5.15 |
| 24 滋賀  |    | 28.66 | 23.82 | 4.84 | 28.59 | 23.92 | 4.67 | 28.98 | 24.05 | 4.93 |
| 25 京都  |    | 29.33 | 24.20 | 5.13 | 29.21 | 24.23 | 4.98 | 29.86 | 24.62 | 5.24 |
| 26 大阪  |    | 29.79 | 24.73 | 5.06 | 29.83 | 24.68 | 5.15 | 30.35 | 24.97 | 5.38 |
| 27 兵庫  |    | 30.59 | 25.52 | 5.07 | 30.43 | 26.76 | 3.67 | 30.93 | 25.70 | 5.23 |
| 28 奈良  |    | 30.64 | 24.33 | 6.31 | 29.15 | 22.60 | 6.55 | 29.53 | 24.34 | 5.19 |
| 29 和歌山 |    | 28.76 | 24.40 | 4.36 | 28.58 | 24.86 | 3.72 | 29.10 | 24.61 | 4.49 |
| 30 鳥取  |    | 28.03 | 24.02 | 4.01 | 29.12 | 23.87 | 5.25 | 29.57 | 24.15 | 5.42 |
| 31 島根  |    | 27.86 | 23.77 | 4.09 | 27.59 | 23.65 | 3.94 | 27.71 | 23.89 | 3.82 |
| 32 岡山  |    | 29.69 | 24.29 | 5.40 | 29.07 | 24.31 | 4.76 | 29.28 | 24.41 | 4.87 |
| 33 広島  |    | 28.71 | 24.06 | 4.65 | 28.53 | 23.99 | 4.54 | 28.81 | 23.96 | 4.85 |
| 34 山口  |    | 29.33 | 24.04 | 5.29 | 29.29 | 23.75 | 5.54 | 29.64 | 23.88 | 5.76 |
| 35 徳島  |    | 29.77 | 23.88 | 5.89 | 29.79 | 23.73 | 6.06 | 30.36 | 24.27 | 6.09 |
| 36 香川  |    | 27.60 | 23.41 | 4.19 | 27.84 | 23.69 | 4.15 | 28.22 | 23.88 | 4.34 |
| 37 愛媛  |    | 28.71 | 23.85 | 4.86 | 28.86 | 23.95 | 4.91 | 29.23 | 24.01 | 5.22 |
| 38 高松  |    | 28.96 | 23.98 | 4.98 | 28.80 | 23.89 | 4.91 | 29.31 | 24.22 | 5.09 |
| 39 福岡  |    | 28.48 | 23.70 | 4.78 | 28.31 | 23.75 | 4.56 | 28.26 | 23.80 | 4.46 |
| 40 佐賀  |    | 29.88 | 24.81 | 5.07 | 29.49 | 24.58 | 4.91 | 29.90 | 24.76 | 5.14 |
| 41 熊本  |    | 29.37 | 24.70 | 4.67 | 29.14 | 24.54 | 4.60 | 29.42 | 24.74 | 4.68 |
| 42 大分  |    | 29.77 | 24.86 | 4.91 | 29.30 | 24.65 | 4.65 | 29.76 | 25.06 | 4.70 |
| 43 宮崎  |    | 29.77 | 24.87 | 4.90 | 29.68 | 24.82 | 4.86 | 30.21 | 25.16 | 5.05 |
| 44 鹿児島 |    | 29.19 | 24.01 | 5.18 | 29.23 | 24.03 | 5.20 | 29.28 | 24.70 | 5.08 |
| 45 沖縄  |    | 29.12 | 24.59 | 4.53 | 29.04 | 24.51 | 4.53 | 29.23 | 24.78 | 4.45 |
| 46 琉球  |    | 29.74 | 25.21 | 4.53 | 29.63 | 25.06 | 4.57 | 29.91 | 25.19 | 4.72 |
| 47 沖縄  |    | 28.07 | 24.53 | 3.54 | 28.05 | 24.19 | 3.86 | 27.81 | 24.33 | 3.48 |

備考 「日本帝國人口動態統計」に據つて夫妻夫々五歳階級別婚姻件数と、15-19 歳は 17.5 歳、20-24 歳は 22.5 歳といふが如く假定し、之に各階級の婚姻件数を乗じて平均を求めた。但し15歳未満は 14.5 歳、70 歳以上は 75 歳と假定した。

第十六表 道府縣別特殊婚姻率

(昭和5年・大正14年・大正9年)

| 道府縣名 | 年次 | 昭和5年   |        |        | 大正14年 |        |        | 大正9年  |        |        |
|------|----|--------|--------|--------|-------|--------|--------|-------|--------|--------|
|      |    | 總數     | 男      | 女      | 總數    | 男      | 女      | 總數    | 男      | 女      |
| 總數   |    | *33.00 | *63.80 | *68.35 | 37.05 | 73.55  | 74.67  | 41.50 | 82.91  | 83.09  |
| 北海道  | 1  | —      | —      | —      | 37.66 | 64.95  | 83.62  | 42.05 | 69.81  | 105.77 |
| 青森   | 2  | —      | —      | —      | 55.20 | 108.04 | 112.87 | 64.25 | 124.33 | 132.95 |
| 岩手   | 3  | —      | —      | —      | 52.12 | 107.84 | 100.86 | 61.67 | 126.92 | 119.96 |
| 宮城   | 4  | 35.56  | 72.18  | 74.07  | 44.67 | 88.45  | 90.25  | 53.16 | 103.55 | 109.23 |
| 秋田   | 5  | 46.00  | 91.71  | 92.27  | 53.78 | 106.66 | 108.45 | 62.82 | 123.02 | 123.38 |
| 山形   | 6  | 39.28  | 83.45  | 74.21  | 49.92 | 96.05  | 84.40  | 50.80 | 107.53 | 96.28  |
| 福島   | 7  | 39.17  | 84.28  | 73.18  | 47.19 | 100.53 | 88.93  | 53.88 | 113.57 | 102.53 |
| 茨城   | 8  | 34.12  | 71.94  | 64.88  | 42.23 | 90.13  | 79.46  | 44.78 | 96.91  | 83.26  |
| 栃木   | 9  | 37.23  | 79.05  | 70.82  | 44.66 | 95.55  | 83.85  | 47.06 | 101.10 | 88.02  |
| 群馬   | 10 | 32.39  | 70.23  | 60.11  | 39.38 | 85.63  | 72.91  | 40.24 | 87.90  | 74.23  |
| 埼玉   | 11 | 33.58  | 71.33  | 63.46  | 41.44 | 90.26  | 76.62  | 40.67 | 90.35  | 73.94  |
| 千葉   | 12 | 33.78  | 69.04  | 66.16  | 41.82 | 78.31  | 80.27  | 42.90 | 90.77  | 81.35  |
| 東京   | 13 | —      | —      | —      | 24.18 | 41.07  | 58.76  | 26.14 | 45.50  | 61.45  |
| 神奈川  | 14 | 27.89  | 49.75  | 63.49  | 34.34 | 59.89  | 80.51  | 33.76 | 59.02  | 73.89  |
| 新潟   | 15 | —      | —      | —      | 45.85 | 98.60  | 85.70  | 49.65 | 109.07 | 91.14  |
| 富山   | 16 | —      | —      | —      | 53.89 | 116.46 | 100.32 | 59.18 | 129.59 | 108.92 |
| 石川   | 17 | —      | —      | —      | 43.88 | 98.96  | 78.83  | 48.29 | 108.51 | 87.02  |
| 福井   | 18 | —      | —      | —      | 44.33 | 97.28  | 81.44  | 49.13 | 108.96 | 81.49  |
| 山梨   | 19 | 33.83  | 69.56  | 65.86  | 42.64 | 88.12  | 82.60  | 45.06 | 93.35  | 87.12  |
| 長野   | 20 | 30.21  | 67.47  | 54.71  | 35.99 | 73.99  | 66.10  | 37.45 | 82.62  | 68.48  |
| 岐阜   | 21 | 37.05  | 74.87  | 73.36  | 39.55 | 79.95  | 78.25  | 45.13 | 90.94  | 89.60  |
| 愛知   | 22 | 37.51  | 75.45  | 74.60  | 43.96 | 89.01  | 86.84  | 48.07 | 97.72  | 94.62  |
| 三重   | 23 | 29.23  | 59.83  | 57.40  | 33.78 | 69.48  | 65.76  | 38.68 | 80.90  | 74.11  |
| 滋賀   | 24 | 34.58  | 73.78  | 65.39  | 39.28 | 84.73  | 73.21  | 43.83 | 94.63  | 81.63  |
| 京都   | 25 | 34.22  | 75.12  | 62.84  | 38.39 | 86.50  | 69.03  | 40.12 | 92.23  | 71.02  |
| 大阪   | 26 | 23.48  | 44.94  | 49.16  | 26.81 | 51.22  | 56.26  | 31.61 | 61.81  | 64.68  |
| 兵庫   | 27 | 21.09  | 38.11  | 47.21  | 23.35 | 42.19  | 52.30  | 27.73 | 50.27  | 61.83  |
| 奈良   | 28 | 28.49  | 56.09  | 57.59  | 31.43 | 61.43  | 64.36  | 35.21 | 66.08  | 75.38  |
| 和歌山  | 29 | 34.78  | 72.27  | 67.05  | 38.68 | 79.90  | 74.96  | 41.37 | 85.31  | 80.32  |
| 徳島   | 30 | 32.36  | 65.16  | 64.29  | 36.28 | 73.91  | 71.26  | 42.71 | 88.21  | 82.80  |
| 香川   | 31 | —      | —      | —      | 38.72 | 87.02  | 69.77  | 43.63 | 96.55  | 79.59  |
| 高松   | 32 | —      | —      | —      | 41.95 | 85.82  | 81.07  | 45.26 | 93.66  | 87.59  |
| 岡山   | 33 | —      | —      | —      | 38.00 | 78.75  | 73.42  | 42.83 | 87.90  | 83.54  |
| 広島   | 34 | —      | —      | —      | 40.13 | 77.30  | 83.44  | 43.85 | 95.70  | 99.78  |
| 山口   | 35 | —      | —      | —      | 38.54 | 75.71  | 78.51  | 45.14 | 90.89  | 89.69  |
| 徳島   | 36 | 38.49  | 78.46  | 75.54  | 43.08 | 87.59  | 84.78  | 46.50 | 97.01  | 89.29  |
| 香川   | 37 | —      | —      | —      | 42.09 | 82.99  | 85.41  | 48.47 | 99.58  | 94.44  |
| 高松   | 38 | —      | —      | —      | 41.26 | 86.62  | 78.78  | 46.87 | 99.56  | 88.56  |
| 岡山   | 39 | —      | —      | —      | 42.20 | 87.31  | 81.67  | 47.42 | 99.46  | 90.63  |
| 広島   | 40 | —      | —      | —      | 34.84 | 67.40  | 72.10  | 38.80 | 73.04  | 82.77  |
| 山口   | 41 | 36.58  | 77.96  | 65.48  | 42.04 | 90.66  | 78.39  | 49.46 | 108.07 | 91.19  |
| 徳島   | 42 | —      | —      | —      | 32.79 | 69.39  | 38.97  | 72.14 | 84.75  | 84.75  |
| 香川   | 43 | —      | —      | —      | 37.48 | 80.75  | 67.94  | 45.18 | 99.79  | 82.54  |
| 高松   | 44 | 36.78  | 79.12  | 68.74  | 42.32 | 90.66  | 79.37  | 49.92 | 108.70 | 92.30  |
| 岡山   | 45 | 35.07  | 69.01  | 71.31  | 38.36 | 75.61  | 77.86  | 42.35 | 84.45  | 84.94  |
| 広島   | 46 | —      | —      | —      | 37.33 | 87.66  | 66.85  | 41.63 | 98.06  | 72.34  |
| 山口   | 47 | 34.74  | 82.66  | 59.94  | 36.74 | 83.19  | 65.79  | 32.67 | 74.06  | 58.45  |

備考 日本帝國人口動態統計により婚姻数とあり、國勢調査報告により可婚年齢(15歳以上)を算出し、内有配偶者を除き算出の基礎とせり。昭和五年空欄は國勢調査報告の未だ發表されざるもの。

\* 抽出法による概數

女子に於ては、最高青森の一・二・九%、秋田一〇・八・五%、岩手一〇・〇・九%、富山一〇・三%之に次ぎ、宮城、北海道、福島、静岡、新潟、香川、徳島、山形等の諸縣は高き地方に屬する。最低は大坂府の五・二・三%、京都五六・三%、東京五八・八%之に次ぎ、兵庫、愛知、沖繩、長野、鹿児島、熊本、滋賀、長崎、鳥取等の諸縣は低き地方に屬する。

一般に有配偶率高き地方に於ては特殊婚姻率高く、有配偶率低き地方に於ては特殊婚姻率も低い。素よりその程度に於て多くの例外も存在し極めて特殊的事情を反映して興味深き問題であるがここには省略する。

### (六) 地方別特殊出生率

最後に大正十四年妊孕年齢女有配偶者千に付き出生の比率を見れば、高きことに於て第一位を占めるのは山梨の二九・六・八%であつて、青森の二九・二・四%、宮城の二八・七・一%、埼玉の二八・五・三%、群馬の二八・四・七%、山形の二八・二・三%、栃木、新潟の二八・一・二%之に次いでゐる。北海道、岐阜、秋田、鹿児島、静岡、佐賀、福島、徳島、岩手、茨城、三重、富山、千葉の諸縣はいづれも高き地方である。大阪の一八・五・二%を以て最低となし、沖繩一九・四・九%、東京二一・三・九%、岡山二二・四・二%、京都二一・四・二%、福岡二二・四・一%、兵庫二二・四・一%、山口二二・五・六%、高知二二・五・八%之に次いで低き地方である。

以上の如く、有配偶率の地域的分布と妊孕力のそれとの間に相當の差異のあることを知り得る。有配偶率(總數)高きに拘はらず特殊出生率の比較的低き地方は高知、島根、岡山、宮崎、鳥取、岩手、大分、山口、茨城、富山、福岡、福島の諸縣である。



以上の如く配偶状態は各地方の自然的、社会的諸事情を反映して、夫々極めて興味深き特色を持つてゐる。個別的考察は他の機会に譲つて概観して得た結果の中特に注意を惹くべき若干の事實を列挙して一先づ稿を終ることとする。

### (七) 結 語

るに止めておく。

以上の如く有配偶率と特殊出生率の地方別的関係は極めて重要にして且つ興味深き問題であるが、ここには問題として提示するに止めておく。

かくの如く地方的諸事情の差異によつて有配偶率の分布と特殊出生率の分布と相當に趣を異にし、先に一言したるスペアーマンの $\rho$ を算出すれば〇・三五一を示してゐるに過ぎない。但し、極めて大體に於て有配偶率高き地方に特殊出生率も高く、前者の低き地方に後者も亦低いといふ傾向は否定し得ない事實である。有配偶率極めて高き東北地方は、やはり一般に特殊出生率も高く、前者の比較的低き九州に於ては後者も一般に低い。然し九州は有配偶率が低い割合には特殊出生率高く、之に反して東北地方は有配偶率が高い割合には特殊出生率が低いといふ傾がある。

高知縣の如きは有配偶率に於て第六位の高率を占めてゐるが特殊出生率に於ては第三十九位に下がつてゐる。有配偶率の第一位に位する岩手縣は特殊出生率に於て第十七位を占めてゐる。又、逆に有配偶率低きに拘はらず比較的特殊出生率の高き地方は、山梨、群馬、埼玉、鹿兒島、長野、新潟、滋賀、熊本、佐賀、岐阜、富山、山形、神奈川の諸縣である。山梨縣の如きは有配偶率に於て第三十四位に在るに拘はらず、特殊出生率は第一位を占めてゐる。群馬縣は有配偶率に於て第三十七位、特殊出生率に於て第五位の高位を占めてゐる。

第十七表 道府縣別特殊出生率

(昭和5年・大正14年・大正9年)

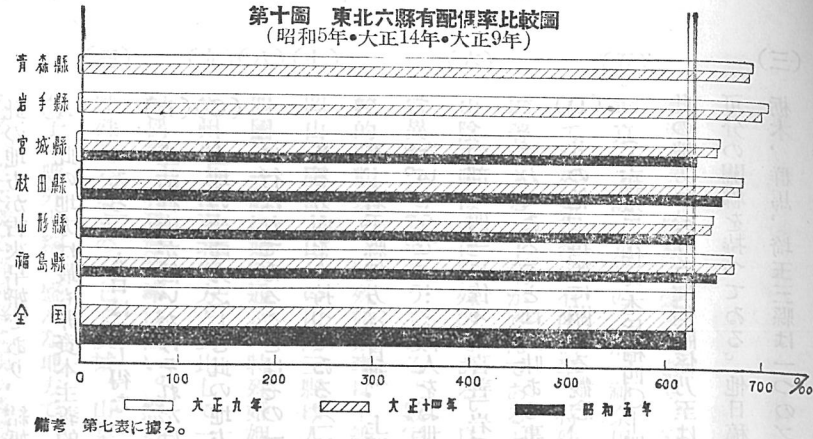
| 道府縣別 | 種別  | 年次 | 昭和5年      |           | 大正14年     |           | 大正9年      |           |
|------|-----|----|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|
|      |     |    | 出生数       | 出生率       | 出生数       | 出生率       | 出生数       | 出生率       |
| 總數   |     |    | 8,238,080 | 2,055,101 | 8,387,746 | 2,083,081 | 8,013,516 | 2,023,534 |
| 1    | 北海道 |    | 105,205   | —         | 354,144   | 93,182    | 353,397   | 97,496    |
| 2    | 青森  |    | 38,483    | —         | 125,795   | 36,778    | 118,772   | 37,071    |
| 3    | 岩手  |    | 38,415    | —         | 140,427   | 37,017    | 135,547   | 37,492    |
| 4    | 宮城  |    | 154,830   | 43,118    | 148,682   | 42,693    | 141,061   | 41,325    |
| 5    | 秋田  |    | 146,729   | 41,733    | 144,535   | 39,754    | 140,341   | 39,762    |
| 6    | 山形  |    | 146,702   | 42,403    | 145,717   | 41,133    | 140,833   | 40,685    |
| 7    | 福島  |    | 203,172   | 55,117    | 203,476   | 54,679    | 201,218   | 54,268    |
| 8    | 茨城  |    | 194,208   | 50,445    | 193,519   | 50,937    | 194,705   | 52,291    |
| 9    | 栃木  |    | 146,920   | 40,726    | 148,527   | 41,766    | 148,800   | 41,337    |
| 10   | 群馬  |    | 147,855   | 41,509    | 145,447   | 41,405    | 142,240   | 41,618    |
| 11   | 埼玉  |    | 185,216   | 49,640    | 182,100   | 51,954    | 176,964   | 51,375    |
| 12   | 千葉  |    | 195,654   | 47,721    | 192,913   | 50,544    | 189,277   | 48,529    |
| 13   | 東京  |    | —         | 151,493   | —         | 674,204   | —         | 541,782   |
| 14   | 神奈川 |    | 226,411   | 49,837    | 202,206   | 50,549    | 187,634   | 44,087    |
| 15   | 新潟  |    | —         | 71,021    | —         | 249,547   | —         | 248,504   |
| 16   | 富山  |    | —         | 23,399    | —         | 112,898   | —         | 111,323   |
| 17   | 石川  |    | —         | 24,786    | —         | 107,289   | —         | 108,473   |
| 18   | 福井  |    | —         | 20,589    | —         | 83,858    | —         | 85,723    |
| 19   | 山梨  |    | 75,492    | 20,925    | 75,571    | 22,429    | 76,713    | 21,909    |
| 20   | 長野  |    | 211,537   | 55,193    | 210,579   | 54,546    | 209,116   | 55,201    |
| 21   | 岐阜  |    | 155,952   | 41,951    | 153,729   | 42,289    | 150,302   | 43,305    |
| 22   | 静岡  |    | 244,333   | 62,301    | 238,218   | 64,976    | 225,715   | 59,318    |
| 23   | 愛知  |    | 353,552   | 83,762    | 327,398   | 80,979    | 298,871   | 77,391    |
| 24   | 三重  |    | 152,290   | 38,797    | 149,860   | 39,359    | 148,353   | 39,297    |
| 25   | 滋賀  |    | 86,825    | 21,334    | 85,258    | 21,638    | 85,826    | 22,924    |
| 26   | 京都  |    | 212,498   | 41,765    | 194,424   | 41,654    | 179,901   | 40,788    |
| 27   | 大阪  |    | 532,745   | 92,973    | 467,141   | 80,494    | 391,466   | 78,622    |
| 28   | 兵庫  |    | 383,651   | 77,506    | 360,703   | 77,232    | 336,949   | 77,552    |
| 29   | 奈良  |    | 79,191    | 18,028    | 78,418    | 19,065    | 75,945    | 20,494    |
| 30   | 和歌山 |    | 108,132   | 24,744    | 103,697   | 24,989    | 101,445   | 26,267    |
| 31   | 鳥取  |    | —         | 14,900    | —         | 65,072    | —         | 64,583    |
| 32   | 島根  |    | —         | 22,276    | —         | 103,000   | —         | 106,922   |
| 33   | 岡山  |    | —         | 37,447    | —         | 176,411   | —         | 177,859   |
| 34   | 広島  |    | —         | 50,694    | —         | 226,160   | —         | 229,435   |
| 35   | 山口  |    | —         | 32,287    | —         | 151,547   | —         | 146,869   |
| 36   | 徳島  |    | 93,826    | 24,132    | 90,946    | 24,215    | 90,180    | 25,378    |
| 37   | 香川  |    | —         | 24,164    | —         | 94,859    | —         | 93,795    |
| 38   | 愛媛  |    | —         | 38,066    | —         | 148,713   | —         | 145,892   |
| 39   | 高松  |    | —         | 21,461    | —         | 100,578   | —         | 98,998    |
| 40   | 福岡  |    | —         | 74,807    | —         | 334,487   | —         | 324,619   |
| 41   | 佐賀  |    | 89,987    | 22,856    | 93,613    | 25,359    | 94,170    | 24,811    |
| 42   | 長崎  |    | —         | 38,310    | —         | 156,889   | —         | 156,626   |
| 43   | 熊本  |    | —         | 42,915    | —         | 167,832   | —         | 163,127   |
| 44   | 大分  |    | 126,693   | 30,778    | 127,454   | 32,334    | 123,682   | 30,936    |
| 45   | 宮崎  |    | 103,465   | 25,515    | 98,998    | 23,854    | 95,278    | 23,162    |
| 46   | 鹿兒島 |    | —         | 50,227    | —         | 187,522   | —         | 188,832   |
| 47   | 沖縄  |    | 73,923    | 14,336    | 74,575    | 14,531    | 78,457    | 13,930    |

備考 1. 妊孕年特有配偶率は「國勢調査報告」に據る。

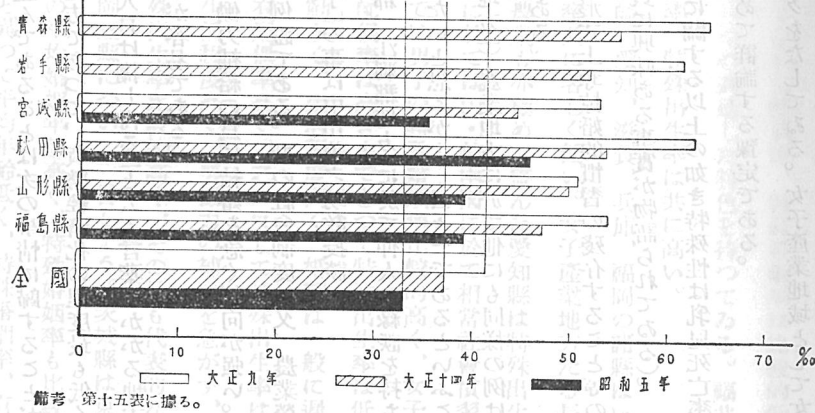
2. 出生率は「日本帝國人口動態統計」に據る。



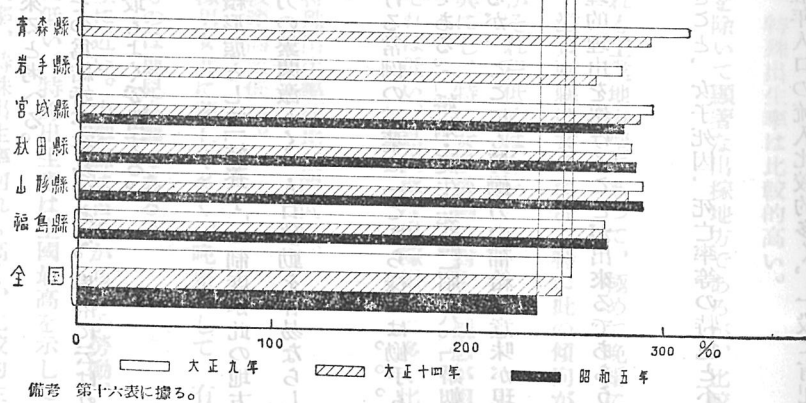
第十圖 東北六縣有配偶率比較圖  
(昭和5年・大正14年・大正9年)



第十一圖 東北六縣特殊婚姻率比較圖  
(昭和5年・大正14年・大正9年)



第十二圖 東北六縣特殊出生率比較圖  
(昭和5年・大正14年・大正9年)



## (一)

北海道は植民地的特殊事情によつて男女比率に著しき懸隔があり、従つて有配偶率も男女によつて著しく相異つてゐる。此の事は結婚の機会を乏しくし、爲に男女共に一般に晩婚である。然し特殊出生率は相當高い。

## (二)

「我が國の農村問題は東北地方の農村問題である」と云はれる。人口密度極めて低きに拘はらず東北地方の過剰人口が常に問題となる。特に此度の東北地方の凶作は異常の注意を惹いてゐる。自然的、經濟的條件に最も恵まれない此の地方は配偶關係を通じて見たる人口現象の上にも極めて特殊性を示してゐる。此の地方に對する諸政策は必ずその人口現象の特殊性に基いて考究せられなければならない。其の人口現象の特殊性は自ら問題の端緒を、端緒は解決の方向を指示するが故である。

此の地方の配偶狀態の特色を見れば、一般に男女共に極めて早婚であり、結婚すべき人々に對する婚姻の割合は最も高く、有配偶率も全國に冠絶してゐる。又特殊出生率も一般に高率を示してゐる、試みに、先に掲出した數字によつて東北六縣の有配偶率、特殊婚姻率及び特殊出生率を全國と比較圖示すれば第十圖、第十一圖及び第十二圖の如くである。最も窮乏してゐる此の地方が我が國人口再生産に貢獻するところ絶大なるは注目を要する。左表の如く此の地方の可婚年齢人口は全國のその九分八厘を占めてゐるが、全國婚姻件數の一割一分四厘、全國出生の一割二分一厘を東北區が占めてゐる。

全國  
東北區  
割合

|        |        |    |
|--------|--------|----|
| 可婚年齢人口 | 三七、八一三 | 千人 |
| 婚姻件數   | 三、六八八  | 千人 |
| 出生     | 五二、一   | 千人 |
|        | 六〇     | 千人 |
|        | 一一、四三  | 千人 |
|        | 二、〇八七  | 千人 |
|        | 二五二    | 千人 |
|        | 一一、〇八  | 千人 |

此の地方が古來早婚であり、結婚が盛んであることは次の事情に歸することが出来るかと考へる。

(A) 此の地方は最も非資本主義的な地方であつて、貨幣經濟化の程度最も低く、その爲結婚が容易である。卑俗に云はれてゐる「一人口は糊し得ないが二人口は糊し得る」と云ふ言葉はかかる地方に最もよく妥當する。

生活程度が低いだけそれだけ結婚が容易である。

(C)(B) 土地の生産力乏しき此の地方は勞働力補給の爲に結婚を急ぐ傾向が強い。相續形態として「姉養子」の制度が此の地方に行はれてゐることはその一つの例證である。此の社會制度は又、農業勞働力の繁閑激しく、人口移動を容易ならしめる方面をも持つてゐる。(「姉養子」の事は中川善之助教授談)

又、岩手縣地方(種貫郡、上閉伊郡、江刺郡地方)に於て仲人の縁談を持ちかける常例の言葉は「こちら様では働手もないやうで、……稼人をお世話したいと思ふが……云々」であるといふことである。(「婚姻・誕生・葬禮」昭・八。「婚姻の部」四一頁佐々木喜善「岩手縣地方」) 農業地方に於て他にも同様の例はあるが、ここにも勞働力の補給の意味が現はれてゐることは興味ある事實である。

(D) 其の他、再婚に關する觀念、婚姻形式上奪掠婚的慣習の殘存すること等の倫理的理由を擧げることが出来るであらう(上掲書、佐々木氏稿四〇—四一頁に興味ある事實が物語られてゐる)。

此の地方に於ける配偶關係乃至は結婚に關する以上の如き特殊性は乳兒死亡率高きこと、女子死因、死亡率等の特色と不可分の關聯を持つてゐる。他日稿を改めて詳論する豫定である。

(三) 栃木、群馬、埼玉三縣は一つのブロックをなしてゐる。女子産業地域として女子壯年人口の流入比較的多く、一般に有配

偶率は高いが、女子は比較的婚期おそくその有配偶率、特殊婚姻率は比較的低い。特殊出生率は比較的高い。

(四) 新潟、富山、石川、福井の北陸四縣は一つの共通した特色を持つてゐる。福井縣を除いて顯著な出稼地方であるが、比較的早婚で、結婚が盛んであり、有配偶率、特殊出生率は共に高い。

(五) 東京、大阪、京都の三府、神奈川、長崎、愛知、滋賀、兵庫、福岡の諸縣はいづれも工業地方型であつて、極めて晩婚にして特殊婚姻率、有配偶率、特殊出生率共に著しく低い。女子産業地方たる長野、滋賀兩縣は女子に於て特に此の傾向が顯著である。工業が盛んであると共に農業も亦極めて盛んな愛知縣は特殊出生率がそれ程低くはない。

(六) 山陰三縣は共に特殊的である。鳥取縣に於ては因・伯兩國に於て相當社會慣習を異にし、特に女子勞働に對する觀念が相當異なつてゐるやうである。數字の上では男子の特殊婚姻率比較的高く、女子のそれは低い。島根縣は出稼相當に多く比較的婚期遅く、特殊婚姻率は中等、有配偶率は高き方であつて特殊出生率は低い。

岡山、廣島、山口の山陽三縣は人口移動多く、生活程度高く、婚期は一般に遅く特殊出生率は比較的低い。

(七) 四國は一般に婚期通常、特殊婚姻率、有配偶率高く、之に反して特殊出生率は比較率的に低い。

(八) 九州地方は東北地方と對比して一般に生活程度高く、勞働力の補給を急がず、出稼男女共に著しく多く、晩婚にして、有配偶率、特殊婚姻率は低い。然るに特殊出生率比較的高く、その最も代表的なるものは鹿児島縣である。

(九) 特殊的なるものとして茨城、山梨、静岡三縣について一言しよう。茨城縣は東北型に近い。山梨縣は古くから女子勞働、女子の縣外出稼の盛んな地方で、女子の平均婚姻年齢高く、特殊婚姻率も比較的に低い。特殊出生率は全國最高を示してゐる。之に隣る静岡縣は獨り隣接諸縣と異つて平均年齢低く、特殊婚姻率、有配偶率、特殊出生率何れも高く、比較的生





かに就いては聞かないが、彼は最も優しく、公平で教養のある人であつたと想像される。彼は自分の教區と家庭的關係によつて傷付けられて居らなかつたし、又彼の性格の美しさの爲めに名高かつたさうである。

マルサスの最初の文學的所産は一七九七年に書かれた「危機」であつたらしいが、彼は父親に出版せよと勧められたに拘らず、決してこれを出版しなかつた。一七九八年に彼は無名で彼の有名な「將來の社會改善に及ぼす人口原理に關する論文」を出版した。彼は其後三年間北西部ヨーロッパ諸國を旅行して、諸狀態を研究し彼の最初の結論中の或るものを廢止した。此の結果は一八〇三年に彼自身の名前で出版した彼の論文の非常な擴大版となつて現はれた。其の論文は著者の生存中に六版出で、何の版も多少改訂してあつた。此の論文はマルサスの多くの論文中唯一のもので、然も或る程度まで最も有名であつたことは、記憶しなければならぬ。

其の論文はマルサスと彼の父との間の論争の結果であるらしい。父親が辯護して息子が攻撃したジャコビン主義のやうな問題と、社會改良方法に就いて普通に論じてゐた。一七九七年にウィリアム・ゴドウィンが「尋問」を出版した。これを其の息子は攻撃し父親は辯護した。イングランドとフランスの兩方の改革者達は當時の怖る可き狀態が變革されて皆が幸福になれば黄金時代に近付きつゝあるのだと考へた。父親は當時の一般的意見に同意したが息子は唱道された諸説と決して關聯せしめ得ない打勝ち難き難問題を知つた。彼は彼の議論を著述した。然し、それは父親を非常に悦ばせたので父親はその「論文」を出版せよと忠告した。

最初からマルサスの論文は無視せられはしなかつた。最初の驚愕は間もなく批評に變り、そして批評が數年間「雨と降り注いだ。彼は「彼の時代を最も旨く欺いた男」だと特性附けられた。ボナパルトさへ國民の大敵ではなかつた。彼は小兒の虐殺と奴

隸制度と天然痘を辯護して、檀家の扶持とスloop施行所と早婚を非難してゐると咎められた。此處に一人の男があつた。「彼は家庭の害惡に反對の説教をした後結婚するだけ厚顔であつた。彼は世界が非常に惡く治められてゐるから最上の行爲が最大の害惡を爲すと考へた。要するに、人生から總てのローマンスを採つて『空の空、總ては空なり』といふ陳腐な題で退屈な説教をした。」「」  
 咳くことや氣むづかしい氣質は無いのに、マルサスは惡口と課説を傳へられた。彼の批評家は、其後のダーウキン反對論者のやうに決して人口狀態を研究しなかつたし、又彼等の中の多くは彼の論文を決して一行も讀んではゐなかつた。一八〇四年にマルサスは幸福に結婚し、翌年ハイレイバークにある東印度専門學校の歴史と經濟學の教授となり、其の位置を一八三四年に死ぬるまで保つた。

マルサスの學說の背景——マルサスの學說は青く澄んだ空から滴り下ちたのではなくて、一般的社會及び經濟狀態が生んだ多くの學說の頂點であつた。

マルサス時代の貧民の怖ろしい狀態を想像することは私達には難かしい。其處には機械的發明が連續してゐて、全經濟過程を手製から機械製の品物に變革してゐた。消費し盡す戰爭は英國の信用を減少し、斯くて其の狀態を益々困難ならしめてゐた。凶作が続いて食糧狀態は不安になつてゐた、共有地私有法が擴張せられて多くの農民は都市に仕事を求めなければならなかつた。貧困は其の結果生じたものであつた。それと戦ふ爲めに有害な救貧制度が開始せられ、國家はそれで貧乏な家族を全部救済しやうと求めた。これは貧民の間に結婚と子供の増加とを奨め、又同時に賃銀の減少を來たらしめた。其の結果「金持はもつと金持となり貧乏人はもつと貧乏人になつた。此の一般的經濟及び社會狀態から一般的不安が起り、マルサスが論駁しやうとした社會主義者の思想が發達した。

工場制度の發達は古い經濟過程を完全に打破して全社會的及び經濟的關係を變革した。新しい關係が雇主と雇人の間に發達し、それは勞働組合や一般的理解を缺いてゐた爲めに、多くの全き不正を生じた。動力機械は生産の大増加を齎らした。それも亦賃銀制度を伴つたが、此の直接の影響は澤山の未組織勞働力にとつて有利であるよりもむしろ有害であつた。交通機關が限られてゐたから、勞働は地方的市場を有してゐたに過ぎず、又賃賃は非常に低廉であつた。最大の時間と最小の勞賃が勞働者の競争の結果生じた。女子と子供の雇用は勞働の供給を増加して、直ちに勞賃を肉體的の生計費以下に低下させた。ロイターは書いてゐる。「勞働者は解雇せられ、又飢餓に瀕して英國の道路と都會に滿ちた。子供は、一人の大人に對して十人から六十人の割合で工場に這入り込んだ。此の殘酷な刺戟の下で出生率は増加した。子供の勞働は需要せられてゐた。そして大人が生活することが出来たのは、彼等の子供の勞働によつてに過ぎなかつた。」<sup>2</sup>

勞働状態が極端に悪かつたことは、リヴァプールだけで七千八百六十位の地下室の中に二萬九千人から住込んでゐたといふ事實によつて證明される。子供が大抵の仕事をして、たゞに織物工場ばかりでなく煉瓦製造所や、釘製造所や、陶器製造所や、鑛山や其他の産業で働いてゐた。仕事日には朝の六時から夜の七時まで働いたが、忙がしい季節には子供達は朝の五時から夜の八時まで働いた。「或る大工場では、子供達は四分の一から五分の一まで、跛者であるか然もなければ不具者であるか、或は過勞により慘酷な濫用によつて、永久的に害されるかしてゐた。」とロバート・オーウェンは私達に告げる。

工場制度の最惡なる場面の一は、年期奉公として知られた奴隸制度の變形の發生であつた。此の制度の下に子供達は寄せ集められ、見守られ、打ち叩かれ、家に入れられ、そして締込まれた。恰かも彼等が非常に多くの野獸であつたかのやうに。製粉所の運用者は貧民の監督達と協定して、彼等の教區から貧乏人の子供を送らせた。これらの子供は需められてゐるやうな場所へ一緒

に連れて行かれた。屢々彼等は暗い地下室の中に入れられた。其處で「彼等を取引する商人が得意先をつれて来て、燈の光で其の子供達を調べるのである。」其の時「彼の四肢と體格が必要な検査に通らなかつたら、其の取引は止めになつて、憐れな小兒は製粉所へ送られた。」工場へ着くと、「主人は自分の徒弟に着物を著せ、そして工場の近くにある徒弟部屋で食物を與へて同居させる。監督が其の仕事を見る爲めに任命してあつて、彼の興味は其の子供達に最もよく働かせることであつた。それは彼の給料が搾ることの出来た仕事の分量に比例してゐたからである。殘酷は勿論其の結果であつた。」

そして多くの工場地域で殘酷なことが行はれた證據は澤山記録せられて居り、又今尙生きてゐる或る人々の記憶の中に残つてゐる……最も胸を裂くやうな殘忍な行爲が、此のやうにして製造業の親方に引渡された罪もなく友達もない者の上に行はれた。彼等は勞働が多過ぎて今にも死ぬる位い惱まされ、最も烈しくて巧な殘酷さで笞打たれ、足枷を掛けられ、拷問せられ、多くの場合に飢えて骨と皮になりながらも笞打たれて仕事を爲し、或る場合には世の殘酷を避けるために自殺さへ行はなければならなかつた。彼等は其の世の中へ生れて來て非常に間がないのであるけれども、一番幸福な瞬間を仕事場の著物と壓制との中で過したのであつた。<sup>3</sup>

「優れた取締」の行はれた工場へ子供達は僅か六歳の時に送られ、其處で朝の六時から晩の七時まで仕事をした。これらの子供達は自然に彼等の奴隸状態を嫌つて多くの者は脱走し又或る者は自殺を企てた。年期奉公が十三歳か十五歳で終つた時、彼等は發育不充分で丈の低い體をして、何も知らず、保護者もなしに、都會をうろつき「そして町々で澤山の罪惡と不幸を増すために全く旨い具合に仕込まれた。」

ギピンスは私達に告げてゐる、「優れた取締」の強制されなかつた場所では、「これら乞食徒弟の状態は餘りにも怖ろしくて詳細



に書き止めることが出来なかつた。豚にさへ馬鹿にされた洗濯桶から少年と少女が何のやうにして食物を求めたか、行儀正しくすることは全く出来なかつた家や小舎に眠らうとして子供達が何のやうに群つたか、彼等の力が無くなり始めて過勞の避け難い結果を感じ始めた時監督に何んなに打たれたり苦しめられたりしたか、殘酷な骨折仕事から彼等が抜け出すのを防ぐ鎖で何ういふ風に縛られてゐなければならなかつたに就いて、種々な物語が話されてゐる……若しも私達が、其の状態を研究する爲めに任命せられた勅命委員の青い本の中に歴然と書き下してある事實を知らなかつたなら、此のやうに殘酷なことが第十九世紀の終に許容せられてゐたとは、殆ど信ぜられないだらうと思はれる。<sup>4</sup>

マルサスの人口學說——マルサスの論文が現はれる數年前に、二人の著作家——ゴドウィンは、一七九三年に出版された同氏の「政治的正義」に於いて、又コンドルセイは、一七九五年に出版された同氏の「人間精神の進歩に關する歴史の見解の梗概」に於いて——は、マルサスが根本的に興味を覺えた問題へ哲學的見地から接近した。ゴドウィンは私有財産制度を不正義と不公平の源泉であると考へた爲めに攻撃した。此の制度の爲めに勞働が資本家の集團に搾取せられて勞働者が貧困でゐなければならぬのであつた。若しも理性が利得の觀念から解放せられることが出来たなら、改善された經濟状態が生れて利潤は減ぜられ、生産は増加し、そして勞働は適當の代價を得た筈である。彼は此の事が人口過剰に導くかも知れないことを認めなければ、次のやうに考へた。「人類が餘りにも幸福であり過ぎて、その必然的結果として或る遠い先きで人口稠密となり過ぎるに相違ないといふことを恐れて、本質的に人類の爲めになる計畫から私達が後込みするのは、眞に馬鹿らしい。」<sup>5</sup>

彼は「心は物に對して何時かは全能となるであらう」といふフランクリンの觀念を信じた。彼は居住し得る地球の四分の三は未耕地であるから人口増加に就いて恐れることは無用であり、又耕作すれば廣く利用出来ると思つた。「千年も萬年も人口が増加

すれば恐らく止んで、地球は更にその住民を生活させるに充分であることが發見されるかも知れない。」<sup>6</sup>

コンドルセイは、「これらの改良と増加の原理が、その繼續的作用によつて、終には退化と破壊に導きはしないであらうか？宇宙の住民の數は遂には生存手段を超過して、幸福と人口の繼續的減少と、野蠻への進歩と、或は少くとも善と惡との間に於ける一種の動搖を生じはしないであらうか？」<sup>7</sup>といふ問題に面接した。

彼の意見では、斯かる時代は遠い後のことであつて、その時代が来る前に「理性の進歩が科學の進歩と手に手をとつて歩み来るであらう。……だから人々は其時、繁殖と關係があるかも知れない彼等の義務が、更に多數の人々を生存させるといふ問題にはなくて、幸福の問題にあり……そして無益で不幸な人間で地球が一杯になるといふ小兒らしい考へにはないことを知るであらう。」<sup>8</sup>

マルサスはこれらの樂天的と哲學的の假定を歸納的分析によつて駁論しやうとした。然し彼は、「彼の説のより廣範な社會的影響を最初充分に認めてゐたとは思はれない。彼の思想は、ルッソウの弟子達であつた彼の父とゴドウィンの至善論者説、即ち惡い社會制度の廢止による人間の同心をむしろ嘖めてゐる説に對する、彼の反動によつて常に色付けられた。」<sup>9</sup>此の論争的小冊子の唯物論的且狹義の經濟的傾向は勿論、ルッソウから發したユートピア思想に對するマルサスの烈しい反動によつてゐた。彼の智識の範圍は全く限られてゐたやうに思はれる。「食糧供給の問題以外には彼は元々全然敢へて手を付けなかつた。そして此の問題でさへ彼は、搾取的産業の多少靜的な方面以外は少しも取扱はなかつた。科學と發明と、人間の行爲を支配する精神力に就いては、彼は少しの關係も示さなかつた。」<sup>10</sup>

マルサスの論文は人口が生活の手段を超過する不斷の傾向があるといふのである。彼は二箇の原理を立てた。「第一、食糧が人

間の生存に必要であること。第二、兩性間の情慾は必要であつて、殆ど現状のまゝで存続すること。IIこれらは種の繼續にとつて必要な二箇の根本的衝動である。それらの満足は鬭争を引起す。人口は或る非常に有力で顯著な妨礙によつて妨げられるのでなければ、生活手段が増加する場所では必然的に増加する「生活手段によつて制限される。」人口は幾何學的割合で増加するが食糧供給は算術的級數で増加する傾向がある。

|        |   |   |   |   |    |    |    |     |     |
|--------|---|---|---|---|----|----|----|-----|-----|
| 幾何學的割合 | 1 | 2 | 4 | 8 | 16 | 32 | 64 | 128 | 256 |
| 算術的割合  | 1 | 2 | 3 | 4 | 5  | 6  | 7  | 8   | 9   |

此のやうにして人口は二十五年毎に倍加するが、食糧供給は各期間同一の量で増加するに過ぎない。此の割合によれば、二百二十五年の短期間に人口は生活手段を二十七倍超過する。到る處でこれらの傾向は人口過剰に導き、人口過剰は又貧困と不幸と飢餓と死亡を生ずる。

マルサスに従へば二箇の主なる防止が人口を生存の繼につなぐ。第一、出生を妨げる、豫防的防止と、第二、積極的防止、即ち出生後に殺す力である。豫防的防止は低い出生率を意味すると同時に積極的方法は高い死亡率を意味する。積極的防止は自然による不健康な氣候、疾病、及び流行病のやうなものを含むか、又は人間による有害な職業、小兒の遺棄、大都市、兒童の悪い保育、貧困、戦争、及びあらゆる種類の不節制のやうなものを含む。豫防的防止も亦二種類ある。即ち一は淫賣とあらゆる形の性的罪惡に導くものであり、他は「道徳的抑制」即ち性的満足なしに結婚を延期することである。マルサスは其の論文の第一版に於いて、罪惡、不幸、及びそれらの恐れを防止だと云ふ。第二版と其後の版には第三の防止が附加してある。即ち「道徳的抑制」といふ實際的思慮分別であつて、斯くて彼の地位をより多く支持し得るやうにしてゐる。マルサスは道徳的抑制が不幸を

より少くすると信じた爲めにそれを強調した。彼は今日新マルサス主義と呼ばれてゐるものを主張しはしなくて、罪惡の下に「不規則なる兩性間の關係の結果を隱蔽す可き不適當な行爲」を含ませる。更に彼は云ふ「實際、私は常に人口を防止する人爲的及び不自然的方法は皆、特別に拒絶する。私が勵めた抑制は全く異なる性質のものである。」彼は明かに其後思想を變へて、兩親とならないで性的満足を満たすやうな行爲を看過した。最初は彼はそれらを罪惡であると分類したが、今や彼は云ふ「惡を伴はない方法のみで、私達の情慾を満足させる習慣を漸次に得ることは明かに私達の義務である。」

慈愛に對するマルサスの態度は當時の牧師に對しては非常に特異なものである。後の版から省かれた次に示す有名な章句は彼の最初の態度を表はした。「既に領有されてゐる世の中に生れる人が、若しも正しく要求し得る兩親から生計の資料を得ることが出來ず、又若し社會が彼の勞働を必要としなければ、彼は食糧の最少部分に對して權利を主張する資格がなく、又實際、彼の居る場所では仕事がない。自然の盛大な饗宴で彼には空いた食器がない。」彼は此の章句を其後の版から省略して、一八三二年に英國の一般的援助の組織を改めることを助けたが、マルサスがこれまで慈善の烈しい鼓吹者であつたと信ず可き理由はない。慈善殊に英國の救貧法のやうな方法による貧民救済は、單に彼等により多くの子供を持たせて、次の時代に一般的負擔と貧民の不幸を増す助けとなつたに過ぎない。これは製造業者と富豪の集團に非常に受けの好い説であつた。

マルサスの學說の批判——恐らく全く無意識的に、マルサスは批判の砲撃を自分自身に受けた。其の批判は多年の間反響したり反響し合つたりして、今でさへ遠くに響く。勿論彼は斯かる騒動を引起すやうなことを何か書いてゐたとは思はなかつたが、然も彼は自分自身を一定の批判を受けそうな場所に置いた。

1、生殖。マルサスは明かに食糧と性を等しく絶對的要件とした。食糧は生存を續けるのに必要であるが性はそうではない。

然も性は種の存続にとつて必要である。然しながら、彼は晩婚の鼓吹によつて證明される通りこれを認めたやうに思はれる。彼は明かに、性的願望と生殖的願望との間に區別のあることを、これらの願望が人間と動物との間で異なることを認めるに失敗した。恐らく人間と動物との間には食糧に對する願望と交合に對する願望に大いした相違はないが、交合の願望と生殖の願望との間に、人間には大いなる相違がある。交合に對する願望は不變であると認め得るかも知れないが、生殖の願望は極度に相違する。生殖の願望は大いに精神によつて抑制して、それを變化させることが出来る。マルサスは全人口が性慾の結果であり、此の願望は人間も動物も同一であり、そして變化しないと思つたらしい。マルサスは人間が一體として繁殖したと考へたが、事實人類は全く異なる生殖率を有する諸集團に分類されるといふ反對論が起つた。然しマルサスはこれを認めたやうに思はれる。それは彼が富者間に家族の少いのを注意したといふ事實が證明する通りである。

2、人口と食糧の間の割合。マルサスは最初此の關係を幾何學的と算術的の級數であると述べた。勿論、これは餘りにも決定的な關係である。彼が明かにこれを認めたことは、彼の論文の後版から彼がそれを削除したといふ事實が證明する。此の代りに彼は不完全な弾力性を有する「傾向」といふ言葉を用ひた。傾向は食糧に對すると同一の意味で、人口の増大には適用されない。疑ひもなく、人口に對する級數と生活手段に對する級數は兩方共批判し得る。其の級數は非常に澤山あるから、何れだけ早く人口が増加し何れだけ早く食糧供給を増加し得るかは、何人も云ひ得ない。人間よりも遙かに急速な増加率を有する動物は、人間の食糧を大部分供給する。然し、ガイドによれば「私達は二つの期限の間を二十五年から三十三年に伸さうが、又は其の級數を2から14や、14と110の間の幾らかに減じやうが、それは重要ではない」<sup>12</sup>其の運動は勿論もつと遅いであらうが、ガイドは次のやうに考へる。「其の幾何學的性質は充分認められなければならない。何となれば何れだけ遅く最初動くにしても、それは積り

積つて遂には總ての限界を超えるまで進むからである。これらの訂正は人口の法則に關するマルサスの論據の眞勢力に觸れることは出来ない。」<sup>13</sup>

3、妨止。マルサスは人口が生存の手段によつて生計を立て、生存の手段が増加する時に増加すると考へた。事實上何の國民も生存の限界までは増加せず、又フランス、イギリス及びドイツのやうな諸國はそれから遙かに遠い。然も人口は生存の手段が増加する時に増加する一定の傾向があつた。其の事實は、生存手段の限界に最も近く生活してゐる貧民がより急速に増加するといふことである。飢餓の恐れは人口を減少しはしなくて、むしろ生活の標準化と其の標準を維持したり増加したりしやうといふ一定の願望が人口を減少する。人口の種々な集團は常に或る制限方法を知つてゐる。そしてマルサスの時代以來避妊方法の使用は甚だ一般的となつてゐるから、フランスがその人口を標準まで引上げることが困難である。他の進歩的諸國も亦此の實行の影響を受けてゐる。

これらや其他の批判をマルサス説の反對として擧げることが出来るけれども、彼の根本的假定は、文字通りでないにしても大抵眞實であり、又明かに全く正しいやうに思はれる。

リヒテンバーガーは書いてゐる「マルサスの學說が其の當時に引起した烈しい反對論にも拘らず、又其後の著作者達が屢々輕蔑を以つて眺めさへしたに拘らず、私達はそれが人間の精神を最も見事に歸納的に概括したものゝ一である」と確信する。」リヒテンバーガーはマルサスが彼の原理からは認し難い結論を引出したと考へるが、然もこれは「その普遍妥當性を破りはしない。人々が空氣よりも重い機械で空中を航行するといふ事實は引力の法則を絶滅させない。一方に於ける出生率の自意的制限と、他方に於ける機械的生産は、彼の敘述した傾向を相殺するに役立つに過ぎない。それらはそれを除去しはしなかつた。」<sup>14</sup>

マルサスの貢獻——何んなに大きな貢獻をマルサスが經濟的及び社會的思想に對して爲したかは一の問題である。或る人々は彼の學說が新しく、彼の分析が無比で一大貢獻であると考へる。他の者共は彼の學說の中に何等新しいものを見ず、又彼は貢獻しなかつたと思ふ。彼の觀念が大抵彼の時代以前の思想家達の著作の中に含まれてゐたことは眞實である。マキアヴェリはマルサス以前三百年頃に著作して、人口が限られた領土内で生存手段以上に増加する危険があるといふことゝ、此の過剰人口が缺乏と疾病によつて減少されるといふことを明かに認めた。<sup>15</sup>

ボテローは一五九二年に著作して、人口は或る期間増加すると其後は同一の割合で増加し続けることが出來ずして、靜止するか又は減少さへすると主張した。彼は人口が生存手段によつて制限せられ、又食糧に對する此の闘が戦争と虐殺と競争の主なる原因であつたと信じた。生存手段の制限が人口の第一次的防止であつて、疾病、流行病、瘦地及び悪い氣候が第二次的防止であると彼は考へた。<sup>16</sup>

サー・ウォルター・ローリイは過剰人口が戦争を齎らし、又戦争は人口稠密を救ふから時としては有益であると信じた。彼は一國が病氣になる程烈しく人口過剰になるかも知れないと考へた。飢餓と惡疫と戦争と人爲的不妊は其の國が人口で溢れるのを防いだ。戦争と災禍はその人口を減少させる傾きがあつたが、平和時代には飢餓の恐れが人々に結婚を遅らせて人爲的制限を實行させた。<sup>17</sup>

サー・マシュー・ヘールは、一六七七年に出版された、氏の「人類の原始的組織」の中で、マルサスの主なる説を支持したやうに思はれる。スタンデランドは書いてゐる「彼は各種の計算によつて、人口が皆比較的短期間に非常に著しく増加し得ることを實證しやうと努める。實際、彼は云ふ。此の増加は幾何學的級數で起る傾きがあり、斯くて百年以上かゝつてマルサスの命題の

一を直接豫想してゐる。彼の論理によれば、人口は三十五年で倍加するであらう。然し此の増加率で人々の數は、生存手段によつて定められた限界を餘程後に超過したので、彼は眞に比較的少數の人口が飢饉、戦争、洪水、惡疫及び地震のやうな、一定の防止作用を受けてゐると説明した。そして彼は彼の主張を支持する歴史的の實例を引用した。<sup>18</sup>

マルサスが詳述した考へに似た考へを懷いてゐた多くの他の著作者が居た。例へば、モンテスキューは事實上、マルサスが唱道したと同一の慈善に關する見解を持つてゐた。又ド・サックスは人口が約三十年の時日の中に幾何學的級數で増加すると信じた。マルサスの時代に益々接近すればする程より明瞭に彼の觀念が先驅者によつて述べられてゐる。従つて彼の論文に注意を喚起させ、それによつて彼をして未來の思想界に莫大な影響を及ぼさしめ、又彼の名前を不朽たらしめたものは、凡ゆる顯著な新學說よりもむしろマルサスの算術的級數と類推であつたやうに思はれる。リヒテンバーガーは書いてゐる「何の科學界でマルサスの著作が最大の影響を及ぼしたかは恐らく云ひ難いであらう。彼は二大概念を創造した。其の各れをも彼は、經濟學上の『收益遞減の法則』とも、生物學上の『生存競争』とも名付けなかつた。そして社會學上の人口學研究全體に其の標準を置いた。<sup>19</sup>

## 註

- 1 ボーナー・ゼームス、「マルサスと其の事業」、『マクミラン(ロンドン)』、一八八五、頁、一。
- 2 「人口問題」、『リビンコット』、一九二三、頁、五六。
- 3 ギビンズ・エッチ及びビー、「一世紀間の經濟的及び産業的進歩」、『ブラッドレイ。ガレストン』、一九〇三、頁、三一六—一七より引用。
- 4 同書、頁、三一八。
- 5 「政治的正義」、『(ロンドン)』、一八九〇、頁、一一五。
- 6 同書、頁、一一五。



- 7 「人間精神の進歩に關する歴史の見解の概要」、『ロンドン』、一七九五、頁、三四五。
- 8 同書、頁、三四六—四七。
- 9 ウェザリイ・ユー・ジー・「社會的進歩」、『リビンコット』、一九二六、頁、三。
- 10 同書、頁、四。
- 11 「人口に關する論文」、『マクミラン』、一九二六、頁、一一。
- 12 ガイド及びリスト、『經濟學說史』、『ヒース』、一九一五、頁、一二四。
- 13 同書、頁、一二四。
- 14 「社會學說の發展」、『センチュリー』、一九二三、頁、二七四。
- 15 「フロレンスの歴史」、『ボーン』、一八四七、卷二、章一、參照。
- 16 スタンデランド・シー・イー・「マルサス以前の人口論」、『コロムビア大學版』、一九〇四、頁、一〇五—〇六、參照。
- 17 ローリー、『世界の歴史』、『ロンドン』、一六七六、殊に卷一、章三參照。
- 18 スタンデランド、前記の書中、頁、一四八。
- 19 「社會學說の發展」、『センチュリー』、一九二三、頁、二七四。

### 第十三章 マルサス以後の人口問題

前の諸章で私達は、マルサスの學說を生んだ人口増加の問題に、次第に興味の増してゐることを知つた。マルサスの論文は神學の圈内に旋風を惹起して他の學界に反響を及ぼし、そしてこれまでにない多くの論争を引起した。これらの論文は大抵マルサスの前提を以つて始つて、人口の確率的増加、可能なる妨止、及び人口過剰と人口稀薄から生ずる危険のやうな、其の前提から

起る多くの問題を論ずる。これらの議論は大抵何等價值がない。或る著作家達は彼の議論を排斥し又論駁しやうとした。他の者共は解説し、變化し、補足しやうと試み、又他の者共は自己の學說を確立しやうと求めた。

ロイターは書いてゐる「此の議論の多くは元々幾分誤れる前提に基く無用の争論に過ぎなかつた。或る批評家達はマルサスの論文を駁論しやうと企て、彼等の立場を其處に止めた。他の者は主なる論點を承認しながら、それを補足し、變化し、又解説しやうとした。更に他の著作家は其の假設を否定して、人口増大の作用のごとき非常に複雑な現象を理解せしめ得る一般的法則や原理を、敘述することは不可能であると大膽に主張した。然しマルサスの學說によつて論服させられずして、それと異つた、より堅實な概括であると彼等の思つたものを形成しやうと試みた多くの研究者があつた。」<sup>1</sup>

マルサスの時代から現代に至るまでの此の論争的資料全部の間には、人口問題の研究者が熟知してゐなければならない少數の學說がある。

ソンプソン——一八二四年にウィリアム・ソンプソンは「人間の幸福に最も資益する富の分配に關する原理の一研究」を出版した。ソンプソンは彼の生涯中極く僅かしか注意を惹かなかつたが、世に出てからは法外な稱讃を非常に受けた。彼は×産主義的社會主義の最初の建設者の一人であつて、彼の著作は人口に關する社會主義的思想の主なる觀念を具象した。

ソンプソンは勞働が其の生産物全部を享受しないといふ觀念を完全に把握したやうに思はれる。若しも勞働がその生産物全部を享受したら、自由競争は除去されて生活の標準は總ての人が「最も完全なる平等の保證」を得られるやうに高められる。彼は次のやうに信じた「國民が安樂に生活する時には、用心深い妨止が完全に作用して、少くとも人口の有害なる増加や、これらの安寧を減少するやうなことを防ぐのに、充分適してゐる。然し國民の境遇が悪い時には、作用するものが細心の妨止ではなく、

實際的思慮分別が永久的欲望の眞只中に這入らず・養育が下等動物の間のやうに行はれて、遂に寒さと、裸と、飢と、病が其の犠牲者を捕へて不幸が人口を悪い生計手段の水準まで引下げる。」二度「充分安樂になると享樂の習慣は享樂から離れ度くないと云ふ心持を生み」そして「優れた消息と廣まつた同情心は増して、古い分配者に對すると同様新しい分配者に對して不安を生ずるだらうとの考へから、此の嫌氣を矯正するだらう。實際に大家族の不便は相互的協同の下では、最も完全なる平等の保證を有する自由競争の下ほど烈しく個人を壓迫しはしないだらう・然し共通の安寧に對する尊敬と自己の安寧が含まれる其の安寧の共通の損失とは、間もなく單なる個人の動機が競争者達の精神中に生ずるやうに、協同者達の精神中で、少くとも有力なる障害となるだらう。」

レイ——ジョン・レイは、一八三四年に「資本に關する社會學的學說」と今日名付けられたる彼の書物を、不運なる名稱で出版した。レイはハワイ諸島で觀察して、マルサスの法則が其處の狀態に適應しなかつたことを知るやうになつた。其の結果彼は適應するだらうと思つた**有效な願望**の法則を公式で表はした。彼は彼の原則を次のやうに説明した。

「全問題を大膽に包括する、人口に關する眞の哲學的論文は、此のやうにして起るかも知れない。人間は一の動物であり然もそれ以上である。一の動物であるから彼は各時代に自分自身を再生産するよりも幾分大きな範圍まで繁殖力を働かさなければ、變災が人種を減少して遂には破壊して仕舞ふだらう。彼は此の點でも亦劣等動物に似るので、繁殖行動は強烈な快樂を伴ふ。然し此の點で相違する。即ち、彼は此の行爲の蓋然的結果（それを劣等動物は知らない）を知り、又これらの結果を恐れてそれを全然抑制したり否定する方法を用ひたりするかも知れない。彼は單なる快樂の爲めや、情愛を満足させたり確かめたりする手段として其の器官を用ふかも知れない。彼は要するに、正道を歩いてゐる時や邪道を歩いてゐる時に彼の理性が教へる禁戒によるか、

又は肉慾が豊かに満足される他の方法によつて、その數を減ずる才能を持つ。それ故、人間は動物よりもより多く、凡ゆる社會の人數を増加したり單に保存したりする爲に、**子孫に關する有効な願望**のあることが必要である。」

特殊な狀態がハワイ諸島には存在した「生存が此處では容易に出來て、肥沃な空地が澤山あり、毎日二時間労働すれば誰でも一大家族を充分に支へられるだらう。牛と山羊と馬（後者は土人が食ひ又牛肉よりも優れてゐる）は、前の時季の資源に加へられてゐる。では、何うして人口が増加しなかつたのか？レイは其處でも子孫に對する有効な願望があるに相違ないと信じた。ハワイ人は罪惡を行つたが、マルサスが考へたやうな人口過剰のためではなかつた。又「殊に若い女性の間の酒亂と放縱の形の」これらの罪惡は人口が増加してゐなかつた間に増加してゐた。彼等は「他の形の罪惡を犯した。そして罪惡に似たもの」例へば「戦争、流行病、人間の犠牲、嬰兒殺し、節操なき結婚、及び男性間の交合（最後のものは以前にはお規りの定例であつた）は總て、宣教師が來てから大いに減少し又全然無くなつた。」然も人口の壓迫は無かつた。そして人口は有効な願望を缺いてゐた爲めに増加しなかつた。此の願望はヨーロッパ諸國では「人種の中に打ち込まれ」てゐた。それは屢々戦争が起つて彼等が結婚に對する神聖な態度と「子孫に對する有効な願望」を生じて來てゐたからである。ハワイ人の經驗は異つてゐた。そして彼等は北部ヨーロッパ人の間に發見される此の子孫に對する願望を缺いてゐた。

ダウルデイ——一八四一年にトーマス・ダウルデイは「國民の食糧に關係ありと證明されたる眞の人口法則」といふ同氏の書物を出版した。サッドラーは一八三〇年に「人口の法則」を出版した。六卷からなる此の論文の中で彼は人間の超多産性を反證し、又人々の多産性が地球の肥沃度と直接比例することを證明しやうとした。アライソンは彼の二卷の著作、一八四〇年出版の「人口の原理」を以つて續いて立つた。彼は最も貧しい家族に最も子供の多いことを觀察して次のことを示す法則を確立しやうと

した。即ち、「増加の速度は一家族を安樂に獨立させるのに與へられる生存手段と反比例してゐる。」然し、ダウルデイは貧しい家族の間に子供が多くて富める家族の間に子供が少いのは、食物の生理學的影響によつてゐると説明した。彼は多産性が常に榮養物の分量に比例してゐると考へた。

彼は云ふ、「故に、植物生活と動物生活の兩方の増加や減少を眞に制限するやうに思はれる、其の一般的大法則はこれである。即ち、種や屬が擴大される時には何時でも、それに相當する努力が常にその保存と持續の爲めに自然によつて拂はれて居り、そしてこの事は殊に、適當な營養分や食糧の減少から非常な危険が起る時には何時でも起る。従つて其の結果、減少の状態或は減少状態は多産性にとつて有利であり、又他方に於いて、充滿状態或は充滿の状態は多産性にとつて不利である。それらは各状態の強度に比例してゐる。そしてこれは恐らく全自然界を通じて、動物界に於けると同様植物界に於いて、一般的である。更に、人類に應用すれば此の法則は次の結果を生じて、此のやうに作用する——

「あらゆる社會に於いて、食糧の供給の最も悪い部分の間、約言すれば、極貧階級の間には、常に人口が増加してゐる。

「富裕であつて、食糧と奢侈品を充分供給せられる状態の人々の間では、人口は常に減少する。これら二つの反對状態の間で中間或は普通の状態を形成する人々の間では、換言すれば、善い食糧を可成り十分供給せられて、過勞せず、未だ怠惰でもない人々の間では、人口は一定する。茲に於いてか次のことが起る。即ち、増加や減少が全體に依存するのは、これら三つの状態があらゆる社會で互に關係し合ふ數字上の割合に對してである。」<sup>5</sup>

ダウルデイによれば貧困の状態は烈しい出生率の結果生ずるのであるが、富裕な状態は出生率を減少する。富裕な状態にある人々は食糧と奢侈品を十分に供給せられ、その結果出生率が減少する。これと同一の過程は總ての様式の生命に就いて眞實であ

ると、彼は考へる。非常に肥沃な土地に成長する植物には花と實が少いか又は無い。種子を採る爲めには困難に會はすことが必要である。此れと同一の原則は、貧民間の大家族と男爵と貴族の消失とが證明する通り、人間に就いても眞實である。貧乏諸國では貧困に比例して出生率が増加するが、富裕で養ひの善い國民の中では人口の増加の中に減少がある。

スペンサー——一八五二年の四月に、ハーバート・スペンサーはウェストミンスター・レビュー中に「動物の多産性に關する一般法則から演繹した人口學說」の概論を發表した。其後彼はそれを修正して「生物學の原理」の第二卷の中の「繁殖の法則」、第四部として出版した。スペンサーは次の原理を以つて始める。即ち、「人種を保存する力は二つある——人種の各員中の自己保存の能力と、他の人員を生産する能力——個人生活を維持する力と、種を生ぜしむる力である。これらは逆に變化しなければならぬ。組織が下等なために、外部的危険と争ふ能力が小さい時には、其の結果生ずる死亡を補ふ爲めに産出性が大でなければならぬ。然もなければ人種は根絶しなければならぬ。之に反して、天稟が高くて自己保存の能力が大である時には、それ相當の低い産出性が必要である。其の危険に一定の分量で出會はずと假定しやう。そうすれば、あらゆる種の能力がそれらに出會すには分量も亦一定でなければならず——又これは二つの要素——個人生活を維持する力と増加する力——から成り立つのであるから、これらは逆に變化せざるを得ない。即ち、一方は他方が増加するにつれて減少しなければならぬ。」<sup>6</sup>

スペンサーは此の原理を「<sup>ハッカルネズミ</sup>」と「<sup>ハッカルネズミ</sup>」と人間の生殖率を以つて例證した。「若しもハッカルネズミの生殖が人間の生殖の通りに遅かつたら、ハッカルネズミは新しい一代が起り得る前に絶滅してゐるであらう……逆に、牡牛が滴蟲の通りに早く繁殖したら、人種は一週間の中に餓死するであらう。」<sup>7</sup>

斯様に、個性付與の過程(個人的生命を維持する力)が増加するにつれて發生(種を再生する力)が減少する。生命を維持する

能力の少ない種の間では再生力が高くなければならない。でないと絶滅して終ふからである。然るに自己保存の能力を多く賦與されてゐる種の間では反對の傾向が現はれる。だから個性付與と發生は相反してゐる。それは一組の力の増大が他方の犠牲にしてゐるからである。然し個性付與と發生との此の反對の變化は僅か許り接近してゐるに過ぎない。進化の有利なる増大は「その費用よりも幾分多くの利益を齎らすから、私達は發生が個性付與の増加と全く同様に早くは減少しないといふより嚴密に敘述された一般法則を知る。」<sup>8</sup> 茲に於いてか、闘争があり又「單獨に作用する適者生存が優等な種を劣等な種に絶えず置き代へてゐるのである。」<sup>9</sup> これと同一の傾向は種と同様人間にも作用してゐて、個人が進化するにつれてより多く養はれ、生産性の力が減少する爲めに出生率が減少する。勢力の分量は限られてゐて、自己達成により多く用ひられれば用ひられるだけ、生殖にはより少く残される。従つて、スペンサーによれば、専門學校の婦人は生産性の力が減じてゐるから、比較的子供を産まない。

スペンサーは諸集團中には常に人口の壓迫があつてこれが進歩の原因であつたと信じた。「それは人種を最初に流布させた。それは人々に餘儀なく掠奪的習慣を抛棄させて農業を行はせた。それは地球表面を掃除させた。それは無理やりに人々を社會狀態の中へ這入らせ社會組織を避け難いものとし、又社會的感情を發達させた。それは生産を益々進歩するやうに刺激して、熟練と知識を増加した。それは日々私達をより密接な接觸とより多く相互依存的な關係に投げ込んでゐる。そして最後にそうならなければならぬやうに、地球へ適當な人々を住まはせて、地球上の住み得る地方全部を最も高い文化狀態に引上げると——人間の慾望滿足の方法を全部完成すると——同時に、智識が完全な能力を發揮して作用するやうに發達して、感情が社會生活に完全に適應するやうに發達すると——これら全部を爲し終へると、人口の壓迫はその作用を漸次終へて、次第に自から終息するに相違ない。」<sup>10</sup>

ドゥモント——一八九〇年にアルセン・ドゥモントは「人口減少と文明」といふ書物を出版して、其の中で社會的毛細管現象

の法則として知られた氏の人口學説を發表した。ドゥモントは人口が生存手段を超過する傾きがあると信じた爲めに、マルサスの法則に反對した。然も彼はマルサスの法則よりもより根本的に經濟的な一學説を提出した。彼は出生率が「社會的毛細管現象」即ち社會的範圍内で増加する傾向に反比例してゐると信じた。彼は何等絶對的經濟法則を敘述しはしなかつたが、出生率が個人や集團の經濟狀態と幾分關係してゐると信じた。低い出生率は富、教育、及び宗教的信念の缺如と適合してゐるが、高い出生率は無知、貧困及び輕信と一致してゐると彼は信じた。彼は習慣と傳統が、英國に於いて明かに影響したやうに、出生率に影響するかも知れないといふ事實を看過しはしなかつた。然し一大出生率は、姓階制度がそれを不可能ならしめてゐる印度に於ける如く、社會的毛細管現象が缺けてゐるか又は弱い諸國を除く外は存続し得ない。民主主義的社會では、有爲にして大望を懷く人は出世する機會を持つて居り、又社會的毛細管現象が大きいためにそうなる。或る新しい國に於けるやうに、新しい經濟的機會の與へられる所では、社會的毛細管現象が大であつて人口は急速に増加する。合衆國のやうな國では社會的毛細管現象が最も貧しい集團の間で弱くて大家族が勢力を得てゐる。然し中流階級と富裕階級の間では社會的毛細管現象が強くて小家族が支配してゐる。現代に於ける自由競争の制度の下では、中流階級の人々は彼等の欲する生活標準を維持することの困難を發見して、これが出来るやうに家族を制限する。自由競争が烈しくなればなるだけ彼等はより多く家族を制限する。富裕階級は社會的便益と同時に經濟的必要の點から家族を制限する。彼等の生活標準は、若しも彼等が大家族であつたら果すことの出来ないやうな一定の社會的義務に、大部分の時を費すことを要求する。ドゥモントは民主主義的社會では此の社會的毛細管現象が、全階級が家族を過度に制限し得るやうに擴大することを認めた。彼は云ふ、「民主主義的社會では、眞の危險は全階級、最下級さへが、出生率を過度に制限することである。特權階級と社會的細胞層置が消失すると、各階級の人員は子孫の數を制限して自から現在の狀態以上に



昇らうと努力する。II ニイティはドゥモントの根本的教訓を次の通り概括する。

- (1) 出生率の向上は社會的毛細管現象と反比例してゐる。
- (2) 個人の向上は、個人的價值にせよ享樂にせよ、社會的毛細管現象と直接比例してゐる。
- (3) 人種の進化は、他方に於いて、價值や快樂に於ける個人的進化と反比例してゐる。
- (4) 文化の中心地はより多く立派であればだけ人目を惹き、又より多く人目を惹けば惹くだけ立派になる。これは自から發展する結果である。

(5) より著しく人目を惹けば惹くだけ、その影響を受ける人々がより急速に威壓される。平民は金持の息子よりもより高い理想を自身の前に置いてゐる。故に享樂は彼の方へ餘り近寄れなくなる。

(6) 斯くて、民主主義は文化を内包的に現はすが、社會的不平等の制度はそれを外包的に現はす。12

ニイティ——一八九三年にエフアル・エス・ニイティは「人口と社會制度」(英譯「人口と社會制度」)を出版した。ニイティは自家撞着を來してゐて彼の確信を動搖させてゐるやうに思はれる。彼はマルサスに反對してスペンサーとドゥモントの觀念を結合させやうと試みる。マルサスの法則は「何物も包含しない通りに何物も説明しない」と彼は云つた。

ニイティは書いてゐる、「野蠻、放牧、及び農耕の三つの原始的時代と、より僅かの程度ではあるが第四の時代とに起る、人口の自動的過剰が、人間進歩の最大原因であつたことを此處で注意するがよい。それは自動的過剰が全人口をして餘儀なく變化を受けさせたり衰微させたりして、原始的文明をして強制的に靜的時代を去つて動的時代に入らしめたからである。然し人類が文明化して最後の二つの時機(工業的及び商業的文明)が前の三時代の次に來るや否や、人々の生産は常に生存手段の生産と同比例

になつて來た。」13

他の關係に於いて彼は書いてゐる。「人口の問題は、人口が嚴密に制限される富の分配の見地から主として考察されなければならない。私達は次のやうに主張し得る。即ち、經濟的構成の現實的形態に於いて、一定數の個人を維持し得る一國は、其の經濟的形態が、生産された富が更に廣く分配される方向に従つて變革せられる時には、遙かに多數の人を支持することが出来る。」14

ニイティは高等な文明諸國の間で出生率の低下してゐることを説明する爲めに、スペンサーの生物學に社會意識を加へる必要を認めてゐるやうに思はれる。現代の社會では經濟組織が人口の増加に依存しはしないが、其の反對に、生存者の數と出生數は經濟狀態に依存する。若しも一集團の經濟狀態が低ければ、道德的感情が低く、快樂がより多く制限せられて居り、性がより多く大切であつて、出生率はより夥しくて不秩序である。

富の傳播、賃銀の騰貴、及び生活標準の改善のやうな一般的狀態の改良は皆、出生率を減少させる。

彼は云ふ、「富のあらゆる傳播と連帶性のあらゆる増加は、既に考察したやうに、個性の發達を意味する。個性のあらゆる發達は生産性の減少を意味する。」

「従つて、次の通り結論し得る。即ち、個性は強く發達させられるであらうが、社會化の進歩が個人の活動を絶滅させないあらゆる社會に於いては、富が大いに再分せられて不平等の社會的原因が、共同組合の高められた形態によつて除去せられるあらゆる社會に於いては、出生率が生存手段と等しくなる傾向があり、又人口學の進化の規則的變化に、過去に於ける如く、恐怖の要素がなくなるであらう。」15

バテン——一八九五年にサイモン・ネルソン・バテンは、政治學四季評論中に「人口法則換言」といふ一論文を發表した。彼は

マルサスの法則の限界を知つて、それが實際的に活用出来るやうに新しい論據を以つて換言しやうとした。

パテンによれば、「調和される可き對立は人口と生存手段との間ではなくて、むしろ人口と生産力との間である。」一國民の生産し得る食糧の總高はその生産力に依存し、又此の生産力は人民の智識と、其の特殊國の社會組織の能力に明確に關係してゐる。パテンは生産力を「人口と食糧供給との間を關係付ける環、平等にする力とする。それは前者を防止して後者を減少する。彼は次のやうに考へる、即ち「より天然自然の食慾と情慾は行爲の最も強い原動力である、有史以前の人々の間では。然し文明が進歩するにつれてこれらは漸次に制せられて他の快樂が一層強くなり、その爲めに新社會が「起つて來、其の社會で個人は、人口と生産力との間の關係をより密接にする傾のあるやうに行動する。」<sup>16</sup>

パテンは其の法則の新しい敘述に二つの考察が缺けてゐると主張する。第一、其の法則は人間と外的自然との間の對立には依存しなくて、「人間の性質の中にある種々な要素の間の對立に」依存する。第二、其の法則は環境に於ける客觀的變化よりもむしろ人間に於ける主觀的變化に依存する。彼は人間の性質が漸次に變化してゐるから新しい勢力と快樂が發達し、又これらにつれて個人の生産力が増加すると主張する。「これからして私達は幾分逆説的な結論に到達する。即ち、人口過剰の傾向は、人口過剰にではなくて人口不足に導く。」<sup>17</sup>

パテンは三組の無意識的防止を以つてマルサスの法則を補ふ。第一は經濟的防止である。それによつて、生産を助ける精神的能力が強められ、又社會の安寧を増す消費上に變化が起り易くなる。第二は社會學的防止である。社會の人々に自分の中にある情慾を餘り意識させないやうにする一定の狀態が、進歩的社會の中に創造される。第三は生理學的防止である。これは情慾そのものが減少して漸次にその力を失ふにつれて作用し始める。「斯う云ふ具合に、人口に對する經濟的、社會學的、及び生理學的防

止が増大して、社會狀態は次第に改善せられ、人間性の種々な方面に一大調和が起る。社會の生産力と其の増加率との對立が減少すると同時に、罪惡と不幸が社會進歩の必然的結果でなくなる。」<sup>18</sup>

ペル——一九二一年にシー・イー・ペルは「出生と死亡の法則」を出版した。ダウルデイの弟子であるペルは、出生率の減少は自然的原因によると信ずる。富裕階級の榮養過多と貧民階級の榮養不足は異なる出生率を生ずる。環境に影響を及ぼして變化を生ずるものは何物にせよ、或は氣候的條件にせよ、食糧にせよ、其他色々の物にせよ、神經の力に影響して今度はそれが出生率と死亡率を支配すると彼は信ずる。此の法則は植物と動物の兩方に適用し、又彼はそれが人間に適應すると信ずる。富裕階級は美食を食ひ、それが今度は彼等の神經系統に影響して彼等の生産性を減じ、其の結果小家族と不妊を生ずるのである。彼の假説は次のやうに敘述される。

- (1) 「出生率の減少は主として自然法則により、その自然法則が産出性の度合を人種の死亡率に適應させる。
- (2) 「動物の産出性の度合に變化が起るのは環境の直接作用に責があり、それは神經の強度の變化と反比例する……。
- (3) 「其の原則は精細胞と卵の結合を支配する法則である。」<sup>19</sup>

コックス——ハロールド・コックスは一九二二年に「人口問題」<sup>20</sup>を出版した。此の書物は人口學說よりもむしろ産兒制限に關する論說である。然も彼は「人口が増加するにつれて其の増加率は減少する傾きがある」ことを發見する。これは自然法則であつて植物と動物と人口に適用出来ると、彼は信ずる。彼は植物が生命のある最初の數日間に非常に急速に成長して、それからずつと遅くなることを發見する。普通の男兒は生れたてに六磅の目方がある。生後最初の四箇月で體重が二倍になる。若しも此の通りの割合で行けば、六歳の時までに五十一噸の目方になる。彼はこれが人口に適應する自然法則であると明かに信ずるが、然



- 7 同書、頁、四〇一。
- 8 「生物學原理」アブレトン、一八八六、卷、二、頁、四七七。
- 9 同書、頁、四七八。
- 10 「生物學原理」アブレトン、一八八六、卷、二、頁、五〇六—七。
- 11 ロイター・イー・ビー、「人口問題」リビンコット、一九二三、頁、八五、より引用。
- 12 ニイテ・エフ・エス、「人口と社會制度」英譯、「人口と社會制度」頁、七八—七九。
- 13 ニイテ・エフ・エス、前記の書中、頁、一一二。
- 14 同書、頁、一〇二。
- 15 同書、頁、一九一。
- 16 「人口法則換言」政治學四季評論、一八九五、卷、一〇、頁、五〇—五一。
- 17 同書、頁、五三。
- 18 バテン・エス・エヌ、前記の書中、頁、六〇。
- 19 頁、一九〇—九一。
- 20 ケープ(ロンドン)、一九二二。
- 21 「死の生物學」科學月刊雜誌、卷、一三、一九二二、九月、頁、二〇六。
- 22 バール・アール、「人間生物學の研究」ウイリアムスとウイルキンス、一九二四、頁、五九二。
- 23 「出生率と天候」フौरラム、卷、六六、一九二二、九月、頁、一九一—九六。

### 配偶關係より見たる死亡率(昭和五年)

研究員 館

総

菅) Richmond Mayo-Smith が其の著「統計學と社會學」(Statistics and Sociology)に於いて「配偶關係による死亡」を論じ、獨逸、伊太利、佛蘭西、和蘭、瑞典の統計を擧げて「一般に有配偶者の死亡率は無配偶者のそれよりも良好である。——男子は總べての年齡階級を通じて、女子は妊娠年齡以後の年齡階級に於て——といふことを明かにしたのは周知の通りである。(註一)以來各國の材料によつて此の事實が人口統計學的に實證せられ、應用方面としては、各國の生命保險經營上の一つの參考資料とせられてゐるやうである。我が國に於ては大正十四年の國勢調査の結果及び同年の日本帝國人口動態統計に基いて岡崎文規氏が以上の事實を實證せられてゐる。(註二)私は「我が國の配偶關係に關する調査」の途次、昭和五年について五歲年齡階級配偶關係別死亡率を算出したから若干の説明を附して參考に供しようと思ふ。云ふ迄もなく岡崎氏が「大正十四年について發表せられてゐるところそれ程變化を示してはゐない」。

此の計算に用ひた材料は第二表備考の如く、五歲年齡階級配偶關係別人口は昭和五年國勢調査の抽出法による結果であり、同



第二表 年齢配偶關係別人口及死亡者數 (全國)

昭和5年

|   |       | 有配偶者數<br>A | 有配偶死亡者數<br>B | 未婚者數<br>C | 未婚者死亡者數<br>D | 死別者數<br>E | 死別者死亡者數<br>F | 離別者數<br>G | 離別者死亡者數<br>H |
|---|-------|------------|--------------|-----------|--------------|-----------|--------------|-----------|--------------|
| 男 | 15—19 | 35,130     | 91           | 3,246,500 | 24,093       | 10        | 16           | 20        | 3            |
|   | 20—24 | 546,980    | 1,639        | 2,238,200 | 23,796       | 3,230     | 88           | 21,750    | 90           |
|   | 25—29 | 1,722,310  | 7,028        | 727,920   | 11,397       | 15,270    | 363          | 43,830    | 415          |
|   | 30—34 | 1,905,080  | 9,530        | 170,000   | 4,605        | 29,480    | 563          | 44,400    | 495          |
|   | 35—39 | 1,674,000  | 10,623       | 69,200    | 2,625        | 43,510    | 699          | 26,160    | 560          |
|   | 40—44 | 1,595,110  | 13,047       | 44,790    | 2,202        | 64,380    | 1,231        | 33,920    | 572          |
|   | 45—49 | 1,413,050  | 16,411       | 28,400    | 2,180        | 86,330    | 2,330        | 30,690    | 711          |
|   | 50—54 | 1,258,860  | 21,002       | 27,390    | 2,287        | 130,360   | 3,884        | 21,470    | 866          |
|   | 55—59 | 960,560    | 22,426       | 9,160     | 2,217        | 124,350   | 5,564        | 21,300    | 853          |
|   | 60—64 | 653,170    | 23,562       | 9,090     | 1,909        | 127,140   | 8,976        | 15,120    | 952          |
| 子 | 65—69 | 410,110    | 21,035       | 6,010     | 1,663        | 165,030   | 12,066       | 5,020     | 777          |
|   | 70—74 | 232,020    | 19,675       | 6,000     | 1,561        | 126,020   | 16,784       | 7,000     | 771          |
|   | 75—79 | 116,000    | 12,657       | 2,000     | 978          | 104,000   | 16,576       | 1,000     | 447          |
|   | 80 +  | 51,000     | 7,251        | 1,000     | 577          | 64,000    | 17,569       | 1,000     | 244          |
|   | 15—19 | 328,000    | 1,037        | 2,654,000 | 26,690       | 2,000     | 49           | 7,000     | 59           |
|   | 20—24 | 1,682,000  | 9,272        | 900,010   | 17,255       | 9,010     | 306          | 51,000    | 483          |
|   | 25—29 | 2,050,030  | 13,946       | 171,000   | 5,691        | 44,010    | 616          | 48,000    | 708          |
|   | 30—34 | 1,774,020  | 13,105       | 63,000    | 2,683        | 67,010    | 962          | 39,000    | 674          |
|   | 35—39 | 1,583,020  | 12,226       | 34,000    | 1,783        | 84,000    | 1,244        | 28,000    | 532          |
|   | 40—44 | 1,421,010  | 11,506       | 20,000    | 1,527        | 176,010   | 1,926        | 27,010    | 523          |
| 女 | 45—49 | 1,235,920  | 11,077       | 16,000    | 1,401        | 275,000   | 3,246        | 29,000    | 577          |
|   | 50—54 | 1,035,000  | 11,758       | 16,000    | 1,636        | 339,000   | 5,322        | 39,000    | 662          |
|   | 55—59 | 712,000    | 10,687       | 17,000    | 1,634        | 422,000   | 8,084        | 27,000    | 677          |
|   | 60—64 | 411,000    | 10,021       | 7,000     | 1,424        | 451,000   | 13,080       | 19,000    | 707          |
|   | 65—69 | 226,000    | 7,908        | 7,000     | 1,297        | 438,000   | 18,714       | 8,000     | 686          |
|   | 70—74 | 142,000    | 6,803        | 2,000     | 1,243        | 366,000   | 27,500       | 7,000     | 655          |
|   | 75—79 | 38,000     | 3,710        | 4,000     | 954          | 272,000   | 29,725       | 4,000     | 503          |
|   | 80 +  | 10,000     | 1,752        | 1,000     | 772          | 223,000   | 36,545       | —         | 368          |

備考 1. A, C, E, G, ……「抽出法に依る昭和5年國勢調査結果の概観」に據る。

2. B, D, F, H, ……「日本帝國人口動態統計」に據る。

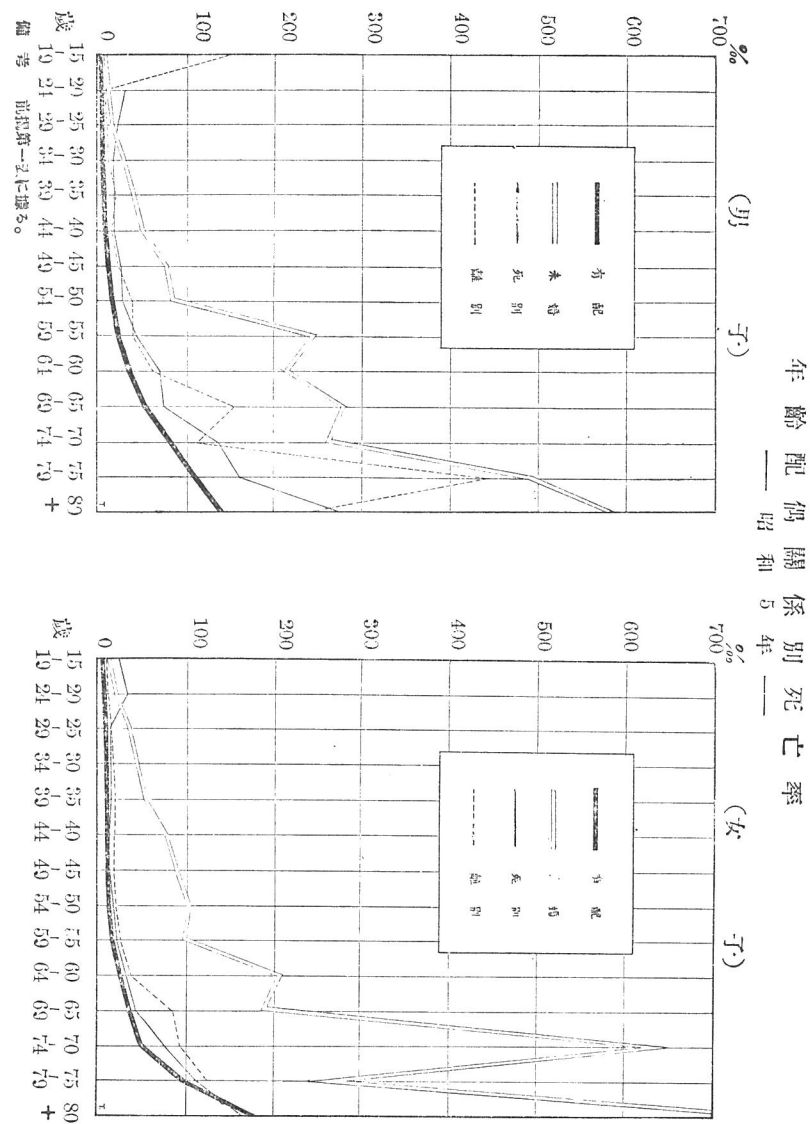
第一表 年齢配偶關係別死亡率 (全國)

昭和5年

|   | 有 配 偶 | 未 婚               | 死 別               | 離 別            |                     |
|---|-------|-------------------|-------------------|----------------|---------------------|
| 男 | 15—19 | 2.59 <sup>%</sup> | 7.42 <sup>%</sup> | — <sup>%</sup> | 150.00 <sup>%</sup> |
|   | 20—24 | 3.00              | 10.63             | 27.24          | 4.14                |
|   | 25—29 | 4.08              | 15.66             | 23.77          | 9.47                |
|   | 30—34 | 5.03              | 27.09             | 19.10          | 11.15               |
|   | 35—39 | 6.35              | 37.93             | 16.07          | 21.41               |
|   | 40—44 | 8.18              | 49.16             | 19.12          | 16.86               |
|   | 45—49 | 11.61             | 76.76             | 26.99          | 23.17               |
|   | 50—54 | 16.68             | 83.50             | 29.79          | 40.34               |
|   | 55—59 | 23.35             | 242.03            | 44.74          | 40.05               |
|   | 60—64 | 36.07             | 210.01            | 70.60          | 62.96               |
| 子 | 65—69 | 51.29             | 276.71            | 73.11          | 154.78              |
|   | 70—74 | 84.80             | 260.17            | 133.19         | 110.14              |
|   | 75—79 | 109.11            | 489.00            | 159.38         | 447.00              |
|   | 80 +  | 142.18            | 577.00            | 274.52         | 241.00              |
|   | 15—19 | 3.16              | 10.06             | 24.50          | 8.43                |
|   | 20—24 | 5.51              | 19.17             | 33.96          | 9.47                |
|   | 25—29 | 6.80              | 33.28             | 14.00          | 14.75               |
|   | 30—34 | 7.39              | 42.59             | 14.36          | 17.28               |
|   | 35—39 | 7.72              | 52.41             | 14.81          | 19.00               |
|   | 40—44 | 8.10              | 76.35             | 10.94          | 19.36               |
| 女 | 45—49 | 9.04              | 87.56             | 11.80          | 19.90               |
|   | 50—54 | 11.36             | 102.25            | 15.70          | 16.97               |
|   | 55—59 | 15.01             | 96.12             | 19.16          | 25.07               |
|   | 60—64 | 24.38             | 273.43            | 29.00          | 37.21               |
|   | 65—69 | 34.99             | 185.29            | 42.73          | 85.75               |
|   | 70—74 | 47.91             | 621.50            | 75.14          | 93.57               |
|   | 75—79 | 97.63             | 238.50            | 109.28         | 125.75              |
|   | 80 +  | 175.20            | 772.00            | 163.88         | —                   |

備考 第二表に據つて算出す。

死亡數は昭和五年日本帝國人口動態統計によつたものである。一五—一九歳死別者及び八〇歳以上離別者の死亡率が算出出来なかつたことは配偶關係別人口を抽出法の結果によつたことに歸し得る。同國勢調査の結果の發表を待つて訂正の上更に詳細に考察を加へたいと思つてゐる。次に有配偶者の極めて少ない十五歳未満は省略した。尙左に示す年齢階級配偶關係別死亡率(第一表)は男女別の圖表にして掲げておいた。此の圖表を見れば、次の項に列挙する諸要點は正に一目瞭然であらう。



## III

詳論は、他日、本表訂正の後に之を譲り、第一表を概観して知り得る主なることは次の諸點に要約することが出来ると思ふ。

一、男女各年齢階級を通じて有配偶者の死亡率は最低である。(其の唯一の例外をなすものは女子八十歳以上であつて死別者の死亡率が有配偶者のそのやや下位に位し、男女を通じて有配偶者死亡率線は初めてただ一回死別者死亡率線と相交はつてゐる。)

その理由は岡崎氏の引用せられてゐる通り Mayo-Smith によれば(一)「結婚それ自體が、自然の選擇の過程であること」(二)「結婚によつて入り込む生活は獨身生活に比して規則的且つ眞面目であること」である。(註3)更に一般に擧げられてゐる如く(三)生理、衛生學的に結婚生活が最も *hygienic* であること等に歸し得るであらう。

ここに注意すべきは Mayo-Smith 以來往々云はれてゐる「女子の最も出産率の高い年齢階級に於ける女子有配偶者の死亡率はその未婚者の死亡率よりも高い」といふ事實は我が國には認められないといふことである。

二、男女、二十五歳以後の各年齢階級を通じて未婚者の死亡率は最も高い。

三、従つて男女二十五歳以後の各年齢階級を通じて、死別者並に離別者の死亡率は互に纏綿して未婚者及び有配偶者の兩死亡率の中間に位する。二十五歳未満の階級に於ては、男子女子共に一般に死別者死亡率が最も高く離別者死亡率は有配偶者死亡率に次いで低く未婚者死亡率は死別者死亡率と離別者死亡率との中間に位する。(男子一五—二九歳の離別者死亡率は例外的である。)

四、有配偶者の死亡率は年齢階級の進むに従つて男女共に最も緩慢なカーヴを描いて上昇してゐる。且波動が最も少くカーヴの形状は最もスムーズである。

五、之に反して、未婚者の死亡率は上昇率最も高く、カーヴの形状も最も波亂を含んでゐる。

六、有配偶者の死亡率—男子に於ては一五—一九歳の二・五九%に出發し徐々に上昇して四〇—四四歳の八・一八%に達し、以後上昇の速度を高めて八〇歳以上の四二・一八%に至つてゐる。女子に於ては一五—一九歳の三・一六%と男子に比して稍々高き位置から出發して徐々に上昇を示し、四〇—四四歳の八・一〇%に達し、以後上昇の速度を高めて七五—七九歳の九七・六三%、八〇歳以上の二七五・二%に上つてゐる。ここに注意すべきは、女子妊娠年齢の有配偶者死亡率は男子に比して稍々高く、此の期間を経過するに於ては男子に比して相當低いといふことである。即ち、一五—一九、二〇—二四、二五—二九、三〇—三四、三五—三九歳の各年齢階級を通じて女子有配偶者死亡率は男子のその上位にあり、四〇—四四歳より一轉して以後女子のそれは男子の下位に在る。但し女子八〇歳以上は遙かに男子のそれを超え、全體的に一つの例外的事象たるは既に一言したところの如くである。

七、未婚者の死亡率—男子に於ては一五—一九歳の七・四二%に出發し、二〇—二四歳の一〇・六三%、以後相當急速の上昇を示し四五—四九歳の七六・七六%、五〇—五四歳の八三・五〇%に達してゐる。此の間女子の未婚者死亡率は一五—一九歳一〇〇・六%に初まり、各年齢階級共に男子よりも高率を示し四五—四九歳の八七・五六%、五〇—五四歳の二〇二・二五%に達してゐる。

男子の未婚者死亡率は五五—五九歳に於て急激に上昇し二四二・〇三%の高率を示し、次の六〇—六四歳に至つて二二〇・

〇一%に反落し六五—六九歳に於て反動的に二七六・七一%に上り、七〇—七四歳に稍々下向して二六〇・一七%を示し、七五—七九歳に至つては急騰して四八五%、八〇歳以上五七七%に上つてゐる。此の間に於ける女子の同死亡率を見れば、五五—五九歳に於ては九六・一二%に反落して男子のそれよりも低く、六〇—六四歳には二〇三・四三%に上り、六五—六九歳には一八五・二九%に下り、兩年齢階級共に男子のそれよりも相當低い。七〇—七四歳には六二一・五〇%と急激に上昇し男子よりも高く、七五—七九歳に至つては急激に二三八・五〇%に低下して男子よりも低く、八〇才以上にては七七二%に激昇して男子を凌いでゐる。

八、死別者死亡率—男子に於ては二〇—二四歳の二七・二四%に出發して漸次低下して三五—三九歳の一六・〇七%に至り以後上昇して五〇—五四歳の二九・七九%に達し、上昇の速度を高めて七五—七九歳の一五九・三八%、八〇歳以上の二七四・五二%に至つてゐる。女子に於ては二〇—二四歳三三・九六%にして男子よりも稍々高く、二五—二九歳にては一四%に低落し、以後徐々に上昇して五〇—五四歳一五・七%、七五—七九歳一〇九・二八%、八〇歳以上一六三・八八%を示してゐる。

二五—二九歳以後各年齢階級を通じて女子死別者死亡率は男子のそれに比して著しく低く、上昇率も男子のそれよりも極めて緩やかである。

九、離別者死亡率—男子に於ては一五—一九歳は異常に高く一五〇%に達し二〇—二四歳に於ては四・一四%に急激に低下し、以後徐々に上昇し、三五—三九歳にては二一・四一%を示し、四〇—四四歳にては一六・八六%に低下し、四五—四九歳に至つて二三・一七%に上昇し、以後再び上昇を示し、六五—六九歳にては一五四・七八%に達し、七〇—七四歳に於て一一〇・一四%に低下し、七五—七九歳、八〇歳以上は夫々四四七%、二四四%を示してゐる。

女子に於ては一五—一九歳の八・四三%に出發し漸次上昇して四五—四九歳の一九・九%に至り、五〇—五四歳にては一六・九七%と低下を示し、五五—五九歳二五・〇七%以後上昇して七五—七九歳の二五・七五%に至つてゐる。二〇—二四歳より四〇—四四歳の間に於ては一般に男子に比して高く、尤も三五—三九歳に於ては男子より稍々低く例外をなしてゐる。以後女子は男子よりも相當に低い。

一〇、死別者死亡率以外の各種死亡率はいづれも、女子の妊娠年齢期間内は女子が男子に比して高く、それ以後は男子の死亡率が女子のそれに比して遙かに高い。此のことは社會衛生上注意を要すべき現象であると考へられる。

(昭九・一二・七稿)

註 (1) Richmond Mayo-Smith; Statistics and Sociology—Science of Statistics, Part 1, 1893, pp. 146—147.

(2) 岡崎文規著 人口統計に於ける諸問題 昭和九年 一一頁—一二頁

(3) 岡崎氏 上掲書 一一五頁 Mayo-Smith; ibid. p. 147.

## 我が國人口現象の社會學的研究に關する若干の資料

研究員 館

稔

一、はしがき

二、豊浦淺吉氏「東京市の死亡率に就いて」

三、古山利雄氏「階級別出生率に就いて」

四、林惠海氏、松田泰次郎氏「我が國の都鄙別人口増加率に就いて」

一、はしがき

昭和九年五月五日、六日兩日に亘つて仙臺市東北帝國大學に於て日本社會學會第九回大會研究報告會が開催せられた。命に依つて研究員小田内通敏氏と共に大會に列席した。研究報告會に出席して先づ第一に感ぜられたことは、近時益々人口現象に對する社會學的研究が盛んになりつつあるといふことであつて、人口問題の調査研究に携はる我々として洵に欣快の至りであり、裨益するところも少くなかつた。人口問題に關する幾多の貴重なる研究が發表せられたが、その中二三のリポート・ペーパーが手元にあるものについて若干の説明を加へて資料としてここに掲載する。説明は報告を聞いた時の單なる記憶によるものであつて、報せ者の眞意を盡し得ない點も多からうと思ふ。

### 二、豊浦淺吉氏「東京市の死亡率に就いて」

氏は先づ東京市に於ける死亡率の著しき減少に關する池田宏氏、藤原九十九郎氏及び猪間驥一氏の所論を擧げて、此等所論の



(第2表)

普通死亡率同程度なるも保健状態著しく異ると見るべき例

普通死亡率

東京市=20.40

名古屋市=20.41

(1921年)

特殊死亡率 (各階級人口千に付)

| 年<br>齡 | 男     |       |                       | 女     |       |                       |
|--------|-------|-------|-----------------------|-------|-------|-----------------------|
|        | 東京市   | 名古屋市  | 東京に<br>比し名<br>古屋<br>% | 東京市   | 名古屋市  | 東京に<br>比し名<br>古屋<br>% |
| 0-     | 74.3  | 108.0 | 145                   | 66.1  | 96.2  | 145                   |
| 5-     | 6.5   | 6.4   | 98                    | 8.3   | 6.7   | 81                    |
| 10-    | 5.1   | 5.3   | 102                   | 9.5   | 8.5   | 89                    |
| 15-    | 9.3   | 12.6  | 136                   | 10.9  | 15.2  | 139                   |
| 20-    | 8.0   | 14.7  | 183                   | 11.1  | 15.5  | 139                   |
| 25-    | 7.5   | 12.9  | 170                   | 11.2  | 14.2  | 127                   |
| 30-    | 8.7   | 11.6  | 132                   | 11.5  | 13.1  | 114                   |
| 35-    | 10.9  | 11.2  | 102                   | 12.1  | 13.7  | 114                   |
| 40-    | 14.3  | 17.4  | 121                   | 12.5  | 16.3  | 131                   |
| 45-    | 20.8  | 24.2  | 116                   | 15.7  | 18.1  | 116                   |
| 50-    | 29.5  | 29.9  | 101                   | 17.8  | 19.1  | 107                   |
| 55-    | 42.9  | 44.7  | 104                   | 24.8  | 26.8  | 108                   |
| 60-    | 56.8  | 64.9  | 114                   | 37.5  | 35.6  | 95                    |
| 65-    | 91.6  | 109.7 | 120                   | 57.6  | 60.2  | 105                   |
| 70-    | 126.2 | 140.1 | 111                   | 95.0  | 97.4  | 103                   |
| 75-    | 190.9 | 229.4 | 120                   | 123.9 | 155.9 | 126                   |
| 80-    | 288.8 | 350.3 | 121                   | 210.4 | 274.0 | 130                   |
| 平均     |       |       | 123%                  |       |       | 116%                  |

$$\frac{123+116}{2}=120$$

(第1表)

本邦人生命表の死亡率

(1921—1925)

(各階級人口千に付)

| 年齢 | 男     | 女     |
|----|-------|-------|
| 0  | 162.0 | 144.0 |
| 1  | 48.5  | 47.6  |
| 2  | 26.1  | 26.3  |
| 3  | 16.6  | 17.4  |
| 4  | 10.5  | 11.5  |
| 5  | 7.0   | 7.8   |
| 10 | 3.2   | 3.7   |
| 15 | 6.0   | 9.0   |
| 20 | 10.8  | 12.1  |
| 25 | 9.5   | 11.2  |
| 30 | 8.2   | 10.5  |
| 35 | 8.7   | 10.7  |
| 40 | 10.5  | 11.3  |
| 45 | 13.7  | 11.3  |
| 50 | 18.6  | 13.8  |
| 55 | 26.3  | 18.4  |
| 60 | 39.2  | 26.4  |
| 65 | 37.1  | 39.8  |
| 70 | 87.8  | 61.6  |
| 75 | 124.5 | 95.9  |
| 80 | 182.7 | 150.3 |
| 85 | 264.6 | 233.2 |
| 90 | 372.8 | 353.5 |
| 95 | 510.6 | 511.1 |

四、一般に死亡率を標準化すれば地方の死亡率が常に必しも都市の死亡率に比して大なりとは云ひ得ない。

相違は一に死亡率の計算方法に依存することを指摘し、死亡率算定方法の極めて重大なる意義を明かにする。

普通死亡率と比較適性を論じ、推計人口の遊離化と普通死亡率の關係を、推計人口の過大なることによつて死亡率が過小に表現せられる場合、竝に推計人口が過小なることによつて生ずる死亡率の過大なる場合とに分ち第十二表に於て實例を以て例證する。更に第一表の如く、本邦人生命表の年齢階級別死亡率を示し、人口の特質に依る死亡率の著顯なる差異を示し、進んで第二表、第三表、第四表及び第十三表につき、各表頭註の如き場合を分ちて人口構成の差異が普通死亡率に及ぼす影響を比較例證し死亡率標準化の必要を明かにする。

次に死亡率標準化の理論竝に實例を示し、以下の如く直接標準化の方法竝に間接標準化の方法を比較紹介し、此等二つの方法が「孰れも靜態調査に依る各地域の人口構成統計を必要とし、従つて計算の極めて煩雜なる」缺點を指摘し、此の不便を緩和する爲に氏の所謂折衷法を提唱する。

最後に東京市の死亡率低減の内容を明かにし(第十一表)、更に他地方との比較(第十八表、第九表、第十四表)を試み、東京市死亡率の低減竝に都鄙死亡率に關して左の如き結論に到達する。

一、東京市の死亡率が震災を轉期として著しく減少しつつあることは事實である。

二、東京市の死亡率は他の大都市に比して低率であるが標準化死亡率を以て比較する時は普通死亡率を以て比較するとき程の差は生じない。

三、一般に大都市の死亡率を標準化するときは普通死亡率よりも大となり、地方に於てはその逆である。従つて普通死亡率は都市に於て過小に、地方に於て過大に評價せられる傾向がある。

(第 3 表)

普通死亡率の高低と保健状態の良否とは逆なりと見るべき例

普通死亡率

東京市=13.0

巴里=15.1

(1929年)

### 特殊死亡率

| 年<br>齡 | 男       |       |                 | 女       |       |                 |
|--------|---------|-------|-----------------|---------|-------|-----------------|
|        | 東京<br>市 | 巴里    | 東京に<br>比し巴<br>里 | 東京<br>市 | 巴里    | 東京に<br>比し巴<br>里 |
| 0—     | 49.0    | 41.7  | 85%             | 44.1    | 32.9  | 75%             |
| 5—     | 5.1     | 5.1   | 100             | 6.4     | 5.4   | 84              |
| 10—    | 3.5     | 1.6   | 46              | 5.5     | 1.6   | 29              |
| 15—    | 5.7     | 3.8   | 67              | 5.8     | 4.3   | 74              |
| 20—    | 4.9     | 5.4   | 110             | 6.2     | 4.6   | 74              |
| 25—    | 5.2     | 5.6   | 108             | 8.0     | 5.0   | 63              |
| 30—    | 5.0     | 7.4   | 148             | 8.2     | 4.7   | 57              |
| 35—    | 7.5     | 8.3   | 111             | 9.2     | 6.0   | 65              |
| 40—    | 11.6    | 12.8  | 110             | 10.7    | 7.3   | 68              |
| 45—    | 16.1    | 16.3  | 101             | 12.3    | 9.4   | 76              |
| 50—    | 24.4    | 23.5  | 96              | 15.2    | 13.8  | 91              |
| 55—    | 32.6    | 31.0  | 95              | 21.2    | 17.9  | 84              |
| 60—    | 51.9    | 45.7  | 88              | 33.1    | 26.3  | 79              |
| 65—    | 76.3    | 67.4  | 88              | 45.9    | 41.8  | 91              |
| 70—    | 114.8   | 99.2  | 86              | 81.7    | 69.1  | 85              |
| 75—    | 156.8   | 146.4 | 93              | 110.6   | 109.4 | 99              |
| 80—    | 215.0   | 205.5 | 96              | 182.7   | 171.6 | 94              |
| 平均     |         |       | 96%             |         |       | 76%             |

$$\frac{96 + 76}{2} = 86$$

(第 4 表)

普通死亡率に高低あるも保健状態に大  
差なしと見るべき例

普通死亡率

東京市 = 16.60

横濱市=18.67

(1925年)

### 特殊死亡率

| 年<br>齡 | 男       |         |                | 女       |         |                |
|--------|---------|---------|----------------|---------|---------|----------------|
|        | 東京<br>市 | 横濱<br>市 | 東京に<br>比し<br>濃 | 東京<br>市 | 横濱<br>市 | 東京に<br>比し<br>濃 |
| 0—     | 57.4    | 56.6    | %<br>99        | 52.8    | 50.5    | %<br>98        |
| 5—     | 5.1     | 5.2     | 102            | 5.9     | 5.3     | 99             |
| 10—    | 3.8     | 4.1     | 108            | 5.8     | 4.8     | 83             |
| 15—    | 6.3     | 8.1     | 129            | 8.2     | 9.6     | 117            |
| 20—    | 6.1     | 7.2     | 118            | 8.2     | 9.1     | 111            |
| 25—    | 5.9     | 5.8     | 98             | 9.8     | 10.6    | 108            |
| 30—    | 6.8     | 7.0     | 116            | 10.5    | 10.8    | 103            |
| 35—    | 9.4     | 9.7     | 103            | 11.5    | 10.2    | 88             |
| 40—    | 12.1    | 13.9    | 115            | 12.2    | 12.3    | 101            |
| 45—    | 16.3    | 19.6    | 120            | 12.8    | 11.4    | 89             |
| 50—    | 24.1    | 26.1    | 108            | 16.0    | 17.5    | 109            |
| 55—    | 40.7    | 39.2    | 96             | 22.3    | 21.5    | 96             |
| 60—    | 51.5    | 54.6    | 106            | 35.7    | 34.6    | 99             |
| 65—    | 81.6    | 82.0    | 100            | 52.6    | 61.5    | 117            |
| 70—    | 116.7   | 119.6   | 102            | 74.2    | 79.6    | 107            |
| 75—    | 165.5   | 175.6   | 106            | 113.8   | 126.2   | 111            |
| 80—    | 279.5   | 176.7   | 63             | 180.5   | 142.9   | 79             |
| 平均     |         |         | 105%           |         |         | 100%           |

$$\frac{105+100}{2}=102.5$$

## 直接標準化の方法

地方人口の體性年齢別各階級= $p$ 

地方死に數の

" " = d

標準人口の

" " = P

標準人口に現はるべき死亡數の

" " = D

さば、地方と同率で標準人口に死亡が發生するならば、 $d:p=D:P$  の關係式が成立する。この式を利用して次の如く標準率の公式を誘導し得る。

標準人口の死亡 D の總數は

$$\Sigma D = \Sigma \left( P \frac{d}{p} \right)$$

標準人口に直した普通死亡率即ち標準化死亡率を S とせば

$$S = \frac{\Sigma D}{\Sigma P} \cdot 1000 = \frac{1000 \sum \left( P \frac{d}{p} \right)}{\Sigma P} = \Sigma \left\{ \left( \frac{P}{\Sigma P} \cdot 1000 \right) \frac{d}{p} \right\}$$

るに小括弧内は標準人口の性別・年齢階別千分比であり、 $\frac{d}{p}$  は地方人口の性別・年齢階別死亡率に外ならぬから、之等を夫々

と置けば

標準人口に直した普通死亡率即ち標準化死亡率を  $S$  とせば

とせば、地方と同率で標準人口に死亡が發生するならば、 $d:P=D:P$  の關係式が成立する。この式を利用して次の如く標準化

然るに小括弧内は標準人口の體性並年齢別千分比であり、 $\frac{d}{p}$ は地方人口の體性並年齢別死亡率に外ならぬから、之等を夫々  $P'p'$  と置けば

即ち與へられた地方の特殊死亡率と之に照應する標準人口の構成割合の相乘積の總言が標準化死亡率である。

第 5 表 直 接 標 準 化 の 實 例  
昭和五年東京市 (標準人口は大正十四年全国人口)

| 年 齡  | 昭和五年東京市人口<br>( <i>p</i> ) |                 | 昭和五年東京市死亡數<br>( <i>d</i> ) |                            | 東京市各階級死亡率<br>( <i>d'</i> = $\frac{d}{p}$ 1000) |                             | 標準人口千分比<br>( <i>P'</i> )    |                             | 標準人口に發生すべき<br>死亡數 ( <i>P' d'</i> ) |                                |
|------|---------------------------|-----------------|----------------------------|----------------------------|------------------------------------------------|-----------------------------|-----------------------------|-----------------------------|------------------------------------|--------------------------------|
|      | 男 ( <i>pm</i> )           | 女 ( <i>pf</i> ) | 男 ( <i>d<sub>m</sub></i> ) | 女 ( <i>d<sub>f</sub></i> ) | 男 ( <i>d'<sub>m</sub></i> )                    | 女 ( <i>d'<sub>f</sub></i> ) | 男 ( <i>P'<sub>m</sub></i> ) | 女 ( <i>P'<sub>f</sub></i> ) | 男 ( <i>P' d'<sub>m</sub></i> )     | 女 ( <i>P' d'<sub>f</sub></i> ) |
| 0 -  | 110,517                   | 108,048         | 4,031                      | 3,509                      | 36,474                                         | 32,476                      | 69,647                      | 68,703                      | 2,540.30                           | 2,231.20                       |
| 5 -  | 86,696                    | 85,768          | 491                        | 490                        | 5,663                                          | 5,713                       | 58,443                      | 57,473                      | 330.96                             | 322.60                         |
| 10 - | 97,384                    | 83,231          | 343                        | 407                        | 3,522                                          | 4,890                       | 57,100                      | 55,645                      | 201.11                             | 272.10                         |
| 15 - | 189,770                   | 134,721         | 912                        | 810                        | 4,806                                          | 3,786                       | 50,026                      | 48,495                      | 240.42                             | 183.60                         |
| 20 - | 170,658                   | 119,814         | 832                        | 797                        | 4,875                                          | 6,652                       | 43,102                      | 41,611                      | 210.12                             | 276.80                         |
| 25 - | 118,918                   | 87,490          | 666                        | 685                        | 5,600                                          | 4,286                       | 37,774                      | 35,773                      | 211.53                             | 153.32                         |
| 30 - | 82,424                    | 67,214          | 521                        | 538                        | 6,321                                          | 8,004                       | 32,144                      | 30,064                      | 203.18                             | 240.63                         |
| 35 - | 64,627                    | 55,065          | 538                        | 509                        | 8,325                                          | 9,244                       | 29,605                      | 28,137                      | 246.46                             | 260.10                         |
| 40 - | 56,882                    | 49,132          | 708                        | 486                        | 12,447                                         | 9,892                       | 27,190                      | 26,743                      | 338.43                             | 264.54                         |
| 45 - | 46,872                    | 42,600          | 734                        | 514                        | 15,660                                         | 12,066                      | 25,771                      | 23,372                      | 403.57                             | 306.14                         |
| 50 - | 39,537                    | 36,408          | 966                        | 554                        | 24,433                                         | 15,216                      | 20,487                      | 20,541                      | 500.56                             | 312.55                         |
| 55 - | 26,274                    | 25,319          | 837                        | 509                        | 31,857                                         | 20,103                      | 16,426                      | 16,900                      | 523.28                             | 339.74                         |
| 60 - | 17,508                    | 19,556          | 917                        | 569                        | 52,376                                         | 29,096                      | 12,622                      | 13,632                      | 661.09                             | 396.64                         |
| 65 - | 10,620                    | 12,923          | 695                        | 542                        | 65,443                                         | 41,941                      | 10,069                      | 11,599                      | 658.95                             | 486.47                         |
| 70 - | 5,826                     | 8,466           | 613                        | 664                        | 105,218                                        | 78,524                      | 6,756                       | 8,632                       | 710.85                             | 677.82                         |
| 75 - | 2,557                     | 4,757           | 355                        | 551                        | 138,835                                        | 115,820                     | 3,576                       | 5,179                       | 496.47                             | 599.88                         |
| 80 - | 856                       | 2,485           | 191                        | 454                        | 221,983                                        | 182,636                     | 1,085                       | 3,078                       | 374.01                             | 562.34                         |
| 計    | 1,127,926                 | 942,987         | 14,350                     | 12,588                     | (12.72)                                        | (13.35)                     | 502,423                     | 497,577                     | 8,851.29                           | 7,386.47                       |
| 男女計  | 2,070,913                 |                 | 26,938                     |                            | (13.01)                                        |                             | 1,000,000                   |                             | 16,737.76                          |                                |

∴ 普通死亡率 = 13.01  
標準化死亡率 = 16.74

間接標準化の方法

地方人口に於て標準的な死亡が發生したと假定し、その普通死亡率を、指標死亡率 (Index death-rates) と名付け X とせば直接法と同様にして次の如く算式を誘導し得る。

$$\Sigma d = \Sigma \left( p \frac{D}{P} \right) \qquad X = \frac{1000}{\Sigma p} \Sigma \left( p \frac{D}{P} \right)$$

$$\frac{D}{P} = D' \text{ と置けば } \qquad X = \frac{1000}{\Sigma p} \Sigma (p D') \dots\dots\dots (1)$$

即ち地方の指標死亡率は標準的相対死亡率と之に照應する地方人口千分比各階級の相乗積の總和である。次に標準的普通死亡率を G とし G と X との比を F で表はせば

$$F = \frac{G}{X} \dots\dots\dots (2)$$

F は兩死亡率の實質的な高低を意味するものでなく、人口構成の差異を反映するもので、地方の死亡率に比較対照性を得さしむる爲には常にそれと直接相せねばならぬ場合を示すものに外ならぬ。依つて之を標準化系数 (standardizing factor) と呼ぶ、かくて求むる地方の標準化死亡率を S とし地方の普通死亡率を C とせば

$$S = FC \dots\dots\dots (3)$$

以上の如く間接法は三段の手續を経て標準化されるのであつて、この方法の特徴は系数を媒介として死亡率を標準化する點にあり一度系数が算出せらるると當該地方人口に微變なき限り近似的正確さを以て數年之を使用し得るのである。



## 折衷的標準化の方法

直接法間接法は孰れも靜態調査に依る各地域の人口構成統計が必要であり、その計算も煩はしい。仍つて多少とも簡單な方法を採り、帝國人口動態統計の計數をそのまま使用する道を考へる。

標準人口に於ける死亡數の體性年齢別を數年平均したもの各階級 = D  
標準人口の體性年齢別千分比の各階級 = P

地方に於ける死亡數の體性年齢別を數年平均したもの各階級 = d  
地方に於ける體性年齢別階級の P に照應する値 = p  
とすれば、地方の死亡が標準的死亡と同率であるためには、地方の人口は

$$\Sigma p = \Sigma \left( \frac{P^d}{D} \right)$$

今  $\frac{P}{D}$  を豫め計算し置き利用することとし、之を  $P'$  とせば

$$\Sigma p = \Sigma (P' d)$$

即ち地方人口は標準人口に對し、大なる或は小なる差異を示すであらう。  
地方人口の標準人口に對する比を V とせば

$$V = \frac{\Sigma p}{\Sigma P} = \frac{1}{\Sigma P} \Sigma (P' d) = \frac{1}{1000} \Sigma (P' d) \dots \dots (1) \quad (\because \Sigma P = 1000)$$

この値は地方の死亡率と標準人口の死亡率とが同率なるために、標準人口に對し地方人口が常に有つべき人口構成上の偏差程度を現はすものに外ならぬ。従つて地方の死亡率に比較適應性を持つる爲には、普通死亡率をそれだけ割附せねばならぬ。即ち地方普通死亡率を C とし、標準化死亡率を S とせば

$$S = VC \dots \dots (2)$$

第 6 表 間接標準化の實例

昭和五年東京市 標準死亡率は大正十四年全国

| 年<br>齡 | 體性年齢別標準死亡率<br>(各階級千に付) $D'$ |             | 體性年齢別東京市人口<br>(p) |        | 東京市に發生すべき死<br>亡數 d |         |
|--------|-----------------------------|-------------|-------------------|--------|--------------------|---------|
|        | 男 ( $D'm$ )                 | 女 ( $D'f$ ) | 男 (pm)            | 女 (pf) | 男 (dm)             | 女 (df)  |
| 0—     | 58.3                        | 53.4        | 110517            | 108048 | 6714.4             | 5769.8  |
| 5—     | 4.4                         | 4.8         | 86696             | 85768  | 468.2              | 411.7   |
| 10—    | 3.0                         | 4.2         | 97384             | 83231  | 292.2              | 349.6   |
| 15—    | 7.5                         | 9.6         | 189770            | 134721 | 1423.3             | 1293.3  |
| 20—    | 9.1                         | 10.7        | 170658            | 119814 | 1553.0             | 1282.0  |
| 25—    | 7.8                         | 9.6         | 118918            | 87490  | 927.6              | 840.0   |
| 30—    | 7.4                         | 9.4         | 82424             | 67214  | 609.9              | 631.8   |
| 35—    | 8.4                         | 10.2        | 64627             | 55065  | 542.9              | 561.7   |
| 40—    | 11.1                        | 10.5        | 56882             | 49132  | 631.4              | 510.0   |
| 45—    | 14.6                        | 11.2        | 46872             | 42600  | 684.3              | 477.2   |
| 50—    | 20.1                        | 14.3        | 39537             | 36408  | 794.7              | 520.6   |
| 55—    | 30.5                        | 20.2        | 26274             | 25319  | 801.4              | 511.4   |
| 60—    | 43.5                        | 29.1        | 17508             | 19556  | 761.6              | 586.7   |
| 65—    | 65.9                        | 46.0        | 10620             | 12923  | 699.9              | 594.4   |
| 70—    | 97.8                        | 70.0        | 5826              | 8456   | 569.8              | 591.9   |
| 75—    | 145.5                       | 109.9       | 2557              | 4757   | 372.0              | 522.7   |
| 80—    | 224.4                       | 202.0       | 856               | 2485   | 192.1              | 502.0   |
| 計      | (20.69)                     | (18.99)     | 1127926           | 942987 | 18038.7            | 15756.9 |
| 男女計    | (19.83)                     |             | 2070913           |        | 33795.6            |         |

$$\text{東京市指標死亡率 } X = \frac{33795.6}{2070913} \times 1,000 = 16.32$$

$$\text{標準化係數 } F = \frac{\text{標準普通死亡率}}{\text{指標死亡率}} = \frac{19.83}{16.32} = 1.215$$

$$\text{東京市昭和五年標準化死亡率} = 13.01 \times 1.215 = 15.81$$



| 年次   | 東京市   | 横濱市   | 名古屋市  | 京都市   | 大阪市   | 神戸市   | 全国    | 宮城県   | 千葉県   | 新潟県   | 滋賀県   | 廣島縣   | 香川縣   |
|------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 1921 | 26.25 | 24.21 | 26.72 | 28.40 | 24.24 | 22.88 | 22.73 | 20.79 | 24.27 | 22.33 | 24.34 | 22.81 | 22.21 |
| 1922 | 24.74 | 22.89 | 23.29 | 24.81 | 24.00 | 21.42 | 22.49 | 21.40 | 23.35 | 22.73 | 24.35 | 22.05 | 23.25 |
| 1923 | 40.44 | 48.47 | 24.76 | 27.19 | 21.42 | 23.74 | 22.30 | 21.00 | 25.78 | 21.69 | 24.11 | 22.99 | 20.80 |
| 1924 | 21.06 | 21.30 | 22.01 | 22.64 | 20.19 | 24.54 | 21.28 | 20.00 | 21.55 | 22.31 | 20.84 | 24.07 | 24.29 |
| 1925 | 21.55 | 22.07 | 20.74 | 22.36 | 23.12 | 22.19 | 20.72 | 18.40 | 20.73 | 20.40 | 21.31 | 21.07 | 19.04 |
| 1926 | 18.78 | 21.09 | 20.41 | 21.12 | 19.48 | 22.19 | 19.14 | 17.76 | 19.42 | 19.90 | 19.11 | 19.66 | 19.31 |
| 1927 | 19.46 | 20.36 | 22.22 | 21.43 | 21.00 | 22.14 | 19.72 | 18.21 | 19.34 | 19.52 | 19.71 | 19.94 | 19.96 |
| 1928 | 18.79 | 21.37 | 22.38 | 20.70 | 19.31 | 22.05 | 19.78 | 18.38 | 20.73 | 19.80 | 19.49 | 18.93 | 18.81 |
| 1929 | 18.56 | 22.81 | 21.12 | 20.30 | 20.18 | 22.15 | 19.87 | 17.38 | 20.29 | 20.32 | 19.69 | 18.91 | 20.12 |
| 1930 | 16.52 | 18.44 | 18.64 | 19.19 | 17.57 | 20.42 | 18.17 | 17.13 | 20.33 | 18.12 | 18.19 | 17.85 | 17.87 |
| 1931 | 18.75 | 19.57 | 19.40 | 20.78 | 19.14 | 20.22 | 18.98 | 16.30 | 19.16 | 19.44 | 20.02 | 18.39 | 19.14 |
| 1932 | 16.99 | 17.69 | 18.31 | 18.43 | 17.17 | 18.97 | 17.73 | 16.02 | 18.07 | 17.86 | 17.90 | 18.09 | 17.30 |

第 9 表 標準化死亡率

| 年次   | 東京市   | 横濱市   | 名古屋市  | 京都市   | 大阪市   | 神戸市   | 全国    | 宮城県   | 千葉県   | 新潟県   | 滋賀縣   | 廣島縣   | 香川縣   |
|------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 1921 | 20.40 | 20.50 | 20.41 | 23.84 | 21.41 | 19.29 | 22.69 | 22.91 | 26.36 | 24.48 | 25.89 | 22.33 | 23.20 |
| 1922 | 19.41 | 19.80 | 22.35 | 20.65 | 21.24 | 18.97 | 22.32 | 23.80 | 25.54 | 25.07 | 23.81 | 22.62 | 22.60 |
| 1923 | 28.38 | 40.94 | 22.31 | 22.51 | 18.97 | 19.79 | 22.78 | 23.00 | 28.38 | 22.88 | 25.71 | 22.62 | 22.04 |
| 1924 | 16.30 | 18.52 | 22.71 | 18.55 | 17.08 | 18.06 | 21.22 | 22.60 | 28.46 | 24.49 | 22.21 | 23.76 | 26.13 |
| 1925 | 16.60 | 18.67 | 19.06 | 18.94 | 19.13 | 19.19 | 20.27 | 20.09 | 22.38 | 22.30 | 22.65 | 20.56 | 19.80 |
| 1926 | 14.37 | 18.30 | 18.10 | 17.76 | 16.98 | 18.28 | 19.18 | 19.18 | 21.24 | 21.59 | 20.78 | 19.73 | 20.28 |
| 1927 | 14.48 | 17.76 | 19.55 | 17.97 | 18.25 | 18.34 | 19.80 | 19.70 | 21.16 | 21.20 | 21.53 | 20.00 | 21.01 |
| 1928 | 13.64 | 19.44 | 19.55 | 17.30 | 16.67 | 18.37 | 19.31 | 19.90 | 22.12 | 21.51 | 21.40 | 19.08 | 19.85 |
| 1929 | 13.09 | 21.24 | 18.35 | 16.95 | 17.47 | 18.02 | 20.04 | 19.48 | 22.23 | 22.09 | 21.73 | 18.98 | 21.28 |
| 1930 | 13.01 | 15.63 | 16.69 | 16.18 | 15.38 | 16.72 | 18.17 | 18.47 | 21.24 | 19.65 | 19.67 | 17.93 | 18.72 |
| 1931 | 14.77 | 16.58 | 17.37 | 16.66 | 16.75 | 16.56 | 18.98 | 17.57 | 20.35 | 21.09 | 21.65 | 18.47 | 20.05 |
| 1932 | 7.31  | 14.99 | 16.39 | 15.44 | 15.03 | 15.54 | 17.73 | 17.27 | 19.75 | 19.37 | 19.36 | 18.17 | 18.13 |

第 8 表 普通死亡率

第 7 表 折衷的標準化の實測

昭和五年東京市

| 年<br>齡 | 東京市大正十四年一昭和五年死亡平均 (d) |        | $P' = \frac{P}{d}$ |       | 東京市のあるべき人口構成 $p = P'd$ |      |
|--------|-----------------------|--------|--------------------|-------|------------------------|------|
|        | dm                    | df     | P'm                | P'f   | pm                     | pf   |
| 0—     | 3423                  | 3327   | 0.179              | 0.186 | 576                    | 598  |
| 5—     | 264                   | 344    | 2.319              | 2.038 | 668                    | 724  |
| 10—    | 253                   | 395    | 3.419              | 2.290 | 980                    | 737  |
| 15—    | 667                   | 606    | 1.350              | 1.015 | 865                    | 609  |
| 20—    | 546                   | 588    | 1.111              | 0.921 | 613                    | 508  |
| 25—    | 384                   | 506    | 1.294              | 1.013 | 528                    | 511  |
| 30—    | 338                   | 431    | 1.380              | 1.030 | 447                    | 418  |
| 35—    | 378                   | 418    | 1.239              | 0.984 | 416                    | 398  |
| 40—    | 422                   | 380    | 0.954              | 0.945 | 428                    | 364  |
| 45—    | 481                   | 349    | 0.722              | 0.893 | 371                    | 345  |
| 50—    | 487                   | 317    | 0.516              | 0.687 | 307                    | 268  |
| 55—    | 557                   | 352    | 0.342              | 0.486 | 174                    | 183  |
| 60—    | 522                   | 404    | 0.236              | 0.336 | 142                    | 149  |
| 65—    | 546                   | 494    | 0.160              | 0.218 | 79                     | 96   |
| 70—    | 398                   | 481    | 0.107              | 0.139 | 45                     | 71   |
| 75—    | 214                   | 342    | 0.073              | 0.090 | 18                     | 36   |
| 80—    | 120                   | 266    | 0.046              | 0.053 | 6                      | 17   |
| 計      | 10,000                | 10,000 | —                  | —     | 6663                   | 6032 |
| 男女計    | —                     | —      | —                  | —     | 12695                  | —    |

人口構成偏差の程度 =  $\frac{12695}{10000} = 1.2695$ 東京市昭和五年標準化死亡率 =  $13.01 \times 1.2695 = 16.52$ 

備考 標準人口は大正十四年全国

標準死亡数は大正十四年中央五ヶ年平均全国但標準並地方死亡数は取扱ふ数字を簡單ならしめるため便宜上帝國動態統計所載の各性年齢別千分比を用いた

第 12 表 人口推計の遊離化と普通死亡率

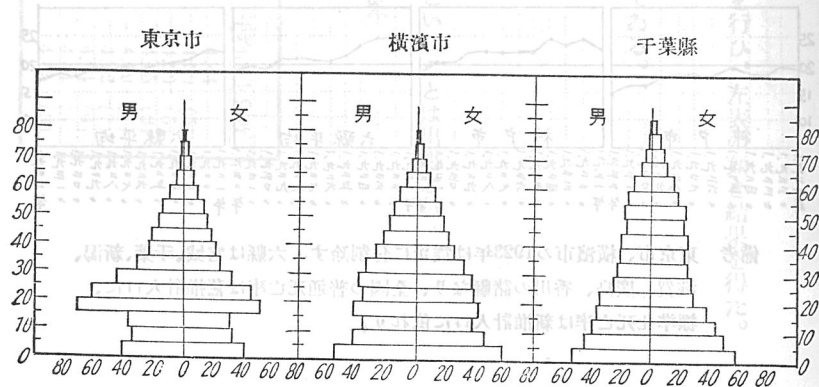
| 1. 推計人口過大、死亡率過小の例 (東京市) |           |           |       |       |
|-------------------------|-----------|-----------|-------|-------|
| 年次                      | 舊推計人口     | 新推計人口     | 舊死亡率  | 新死亡率  |
| 1925                    | 1,995,567 | 1,995,567 | 16.60 | 16.60 |
| 1926                    | 2,068,900 | 2,010,414 | 14.37 | 14.79 |
| 1927                    | 2,143,200 | 2,025,371 | 14.48 | 15.33 |
| 1928                    | 2,218,400 | 2,040,440 | 13.64 | 14.80 |
| 1929                    | 2,294,600 | 2,055,621 | 13.09 | 14.62 |
| 1930                    | 2,070,913 | 2,070,913 | 13.01 | 13.01 |
| 2. 推計人口過小、死亡率過大の例 (横濱市) |           |           |       |       |
| 1925                    | 405,888   | 405,888   | 18.67 | 18.67 |
| 1926                    | 411,500   | 421,263   | 18.30 | 17.87 |
| 1927                    | 529,300   | 554,837   | 17.76 | 17.25 |
| 1928                    | 536,500   | 575,854   | 19.44 | 18.11 |
| 1929                    | 543,900   | 597,667   | 21.24 | 19.33 |
| 1930                    | 620,306   | 620,306   | 15.63 | 15.63 |

舊推計人口及舊死亡率は帝國人口動態統計所載のもの。

新推計は一九二五年—一九三〇年基準補間法新死亡率は新推計人口に依る。

横濱市は一九二七年市域擴張す。

第 13 表 人口構成圖 昭和五年 總數千中各性各階級割合



第 10 表 標準化された東京市の死亡率

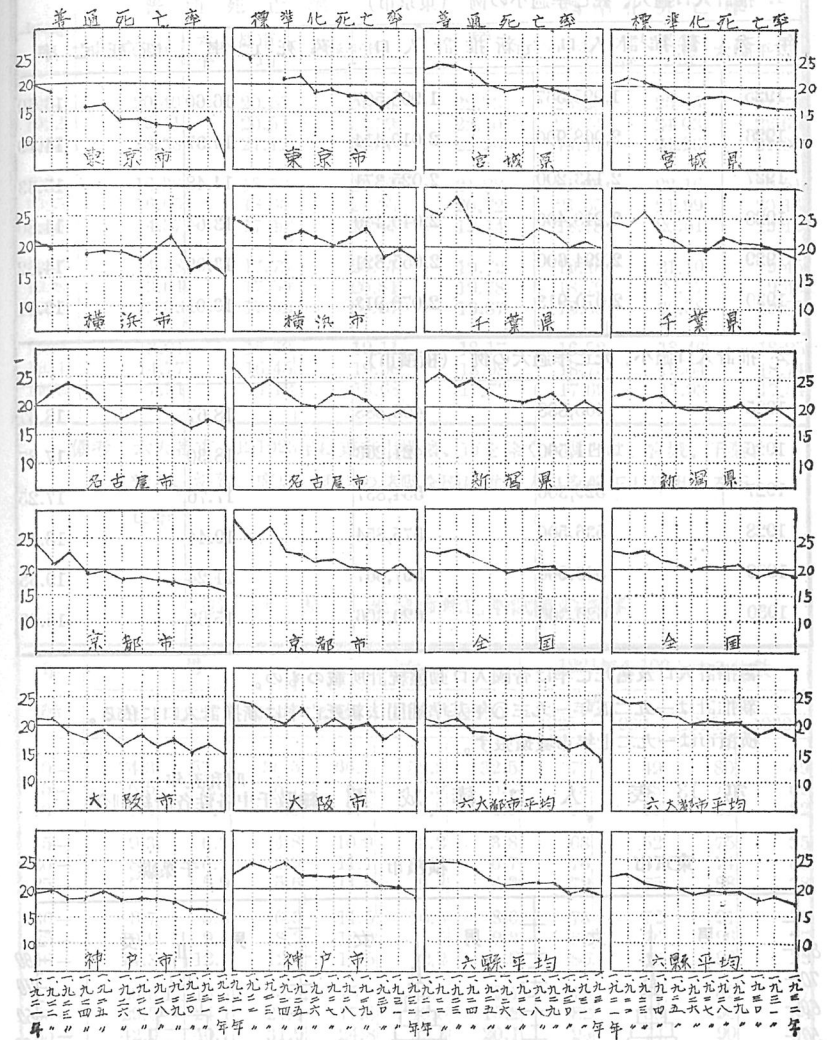
| 年次   | 普通死亡率 |        |       | 全 國   | 標準化死亡率 |        |       |
|------|-------|--------|-------|-------|--------|--------|-------|
|      | 東京市   | 六大都市平均 | 六縣平均  |       | 東京市    | 六大都市平均 | 六縣平均  |
| 1921 | 20.40 | 20.96  | 24.20 | 22.73 | 26.25  | 25.46  | 22.78 |
| 1922 | 19.41 | 20.54  | 24.39 | 22.40 | 24.74  | 24.03  | 22.69 |
| 1923 | 23.38 | 21.12  | 24.37 | 22.90 | 40.44  | 24.26  | 21.06 |
| 1924 | 16.30 | 18.79  | 23.78 | 21.28 | 21.06  | 22.16  | 20.51 |
| 1925 | 16.60 | 18.60  | 21.30 | 20.72 | 21.55  | 21.99  | 20.16 |
| 1926 | 14.37 | 17.40  | 20.47 | 19.14 | 18.78  | 20.51  | 19.19 |
| 1927 | 14.48 | 17.73  | 20.77 | 19.72 | 19.46  | 21.10  | 19.45 |
| 1928 | 13.64 | 17.50  | 20.81 | 19.78 | 18.79  | 20.77  | 19.43 |
| 1929 | 13.09 | 17.52  | 20.97 | 19.87 | 18.56  | 20.58  | 19.55 |
| 1930 | 13.01 | 15.60  | 19.11 | 18.17 | 16.52  | 18.46  | 18.25 |
| 1931 | 14.77 | 16.45  | 19.96 | 18.98 | 18.75  | 19.64  | 18.74 |
| 1942 | 7.31  | 14.12  | 18.68 | 17.73 | 17.69  | 17.93  | 17.54 |

備考 六大都市平均1923年は東京市横濱、市を除く六縣とは、宮城、千葉、新潟、滋賀、廣島、香川の諸縣全國は推計人口を修正し算出せる死亡率

第 11 表 東京市死亡率低減の内容

| 年 齡 | 男     |       |       | 女     |       |       | 1921年を100とする指数 |      |      |      |
|-----|-------|-------|-------|-------|-------|-------|----------------|------|------|------|
|     | 1921  | 1925  | 1930  | 1921  | 1925  | 1930  | 男              |      | 女    |      |
|     |       |       |       |       |       |       | 1925           | 1930 | 1925 | 1930 |
| 0—  | 74.3  | 57.4  | 36.5  | 66.1  | 52.8  | 32.5  | 77             | 49   | 80   | 49   |
| 5—  | 6.5   | 5.1   | 5.7   | 8.3   | 5.9   | 5.7   | 78             | 88   | 71   | 69   |
| 10— | 5.1   | 3.8   | 3.5   | 9.5   | 5.8   | 4.9   | 75             | 69   | 61   | 52   |
| 15— | 9.3   | 6.3   | 4.8   | 10.9  | 8.2   | 3.8   | 68             | 52   | 75   | 35   |
| 20— | 8.0   | 6.1   | 4.9   | 11.1  | 8.2   | 6.7   | 76             | 61   | 74   | 60   |
| 25— | 7.5   | 5.9   | 5.6   | 11.2  | 9.8   | 4.3   | 79             | 75   | 88   | 38   |
| 30— | 8.7   | 6.8   | 6.3   | 11.5  | 10.5  | 8.0   | 78             | 72   | 91   | 70   |
| 35— | 10.9  | 9.4   | 8.3   | 12.0  | 11.5  | 9.2   | 86             | 76   | 96   | 77   |
| 40— | 14.3  | 12.1  | 12.4  | 12.5  | 12.2  | 9.9   | 85             | 87   | 98   | 79   |
| 45— | 20.8  | 16.3  | 15.7  | 15.7  | 12.8  | 12.1  | 78             | 75   | 82   | 77   |
| 50— | 29.5  | 24.1  | 24.4  | 17.8  | 16.0  | 15.2  | 82             | 83   | 90   | 85   |
| 55— | 42.9  | 40.7  | 31.9  | 24.8  | 22.3  | 20.1  | 95             | 74   | 90   | 81   |
| 60— | 56.8  | 51.5  | 52.4  | 37.5  | 35.7  | 29.1  | 91             | 92   | 95   | 78   |
| 65— | 91.6  | 81.6  | 65.4  | 57.5  | 52.6  | 41.9  | 89             | 71   | 91   | 83   |
| 70— | 126.2 | 116.7 | 105.2 | 95.0  | 74.2  | 78.5  | 92             | 83   | 78   | 73   |
| 75— | 190.9 | 165.5 | 138.8 | 123.9 | 113.8 | 115.8 | 87             | 73   | 92   | 93   |
| 80— | 288.8 | 279.5 | 222.0 | 210.4 | 180.5 | 182.7 | 97             | 77   | 86   | 87   |

第 14 表 普通死亡率並標準化死亡率對比圖



備考 東京市、横濱市の1923年は震災に付割除す、六縣は宮城、千葉、新潟、滋賀、廣島、香川の諸縣なり、全國の普通死亡率は舊推計人口に、標準化死亡率は新推計人口に依れり。

三、古山利雄氏「階級別出生率に就いて」

昭和五年一月、氏は東京市麹町、芝、本所三區に於て社會階級別出生率に關する調査を行ひ、左表の如き結果を得た。

- 一、妻の婚姻年齢二〇歳未満及び二〇歳以上二四歳兩者に於て結果は大體一致を示してゐる。
- 二、労働者に於て出生率は最大である。(第二表職業部類Ⅴ)
- 三、資本家階級の出生率は第二位を占めてゐる。(第二表職業部類Ⅰ)
- 四、出生率の最低は知識階級である。(第二表職業部類Ⅱ)
- 五、從つて職業別出生率は「労働者階級に於て最大にして資本家階級に於て最小なり」といふことは出来ない。

東京市(麹町、芝、本所三區)に於ける階級別出生率表

昭和五年一月一日現在

| 第 1 表 貧富別出生率 |                 |
|--------------|-----------------|
| 所得年額         | 妻の婚姻年齢20—24歳のもの |
| 所            | 總數              |
| Ⅰ 500圓以上     | 1,200           |
| Ⅱ 1,000圓以上   | 74              |
| Ⅲ 1,500圓以上   | 198             |
| Ⅳ 2,000圓以上   | 249             |
| Ⅴ 2,500圓以上   | 159             |
| Ⅵ 3,000圓以上   | 185             |
| Ⅶ 3,500圓以上   | 157             |
| Ⅷ 4,000圓以上   | 113             |
| Ⅸ 4,500圓以上   | 65              |
| Ⅹ 5,000圓以上   | 289             |
| Ⅺ 5,500圓以上   | 444             |
| Ⅻ 6,000圓以上   | 437             |
| Ⅼ 6,500圓以上   | 439             |
| Ⅽ 7,000圓以上   | 455             |
| Ⅾ 7,500圓以上   | 499             |
| Ⅿ 8,000圓以上   | 422             |
| ⅰ 8,500圓以上   | 424             |
| ⅱ 9,000圓以上   | 444             |
| ⅲ 9,500圓以上   | 445             |
| ⅳ 10,000圓以上  | (3)             |



第 2 表 職 業 別 出 生 率

| 妻 婦 別 年 齢 20 歳 未 満 の も の |       | 妻 婦 別 年 齢 20 歳 - 24 歳 の も の |             |
|--------------------------|-------|-----------------------------|-------------|
| 職 業 部 類                  | 家 族 数 | 出 生 兒 数                     | 平 均 出 生 兒 数 |
| 總 数                      | 539   | 2,573                       | 4.77        |
| I .....                  | 101   | 520                         | 5.15 (2)    |
| II .....                 | 99    | 421                         | 4.25 (5)    |
| III .....                | 228   | 1,080                       | 4.74 (3)    |
| IV .....                 | 32    | 143                         | 4.47 (4)    |
| V .....                  | 79    | 409                         | 5.18 (1)    |
|                          |       | 1,200                       | 5.332       |
|                          |       | 197                         | 937         |
|                          |       | 176                         | 736         |
|                          |       | 513                         | 2,146       |
|                          |       | 78                          | 338         |
|                          |       | 236                         | 1,175       |
|                          |       |                             | 4.44        |
|                          |       |                             | 4.76 (2)    |
|                          |       |                             | 4.18 (4)    |
|                          |       |                             | 4.18 (4)    |
|                          |       |                             | 4.33 (3)    |
|                          |       |                             | 4.39 (1)    |

- 職業部類 I .....地主、家主、銀行會社重役、工場主、金融業主等  
II .....官公吏、教師、醫師、辯護士、銀行會社員、俳優等  
III .....製造販賣業者、小賣商、商人、飲食店料理屋業者、請負人等  
IV .....下級官公吏及銀行會社員、店員、戸内使用人、小使等  
V .....職工、工場労働者、職人、大工、左官、日傭人夫、水夫等

四、林惠海氏、松田泰次郎氏「我が國の都鄙別人口増加率に就いて」

林、松田兩氏は協同研究の結果、我が國の都鄙別人口増加率に關し次の諸表を得て發表せられた。

計算上注意すべきは、市域は昭和五年現在に換算して統一せられたものである。但し東京市は最近の市域による。

人口階級別市町村数及其の人口  
(依 調 査 時 の 地 域)

| 人 口 階 級   | 大 正 九 年 |            |         | 大 正 十 四 年 |            |         | 昭 和 五 年 |            |         |
|-----------|---------|------------|---------|-----------|------------|---------|---------|------------|---------|
|           | 市町村数    | 人          | 1,000 中 | 市町村数      | 人          | 1,000 中 | 市町村数    | 人          | 1,000 中 |
| 總 数       | 12,244  | 55,303,033 | 1,000   | 12,019    | 59,736,822 | 1,000   | 11,865  | 64,153,005 | 1,000   |
| 計         | 11,687  | 37,926,931 | 678     | 11,410    | 37,883,516 | 634     | 11,184  | 33,157,514 | 592     |
| 500未満     | 126     | 36,419     | 1       | 82        | 26,103     | 0       | 70      | 21,766     | 0       |
| 500以上     | 304     | 240,706    | 4       | 265       | 212,895    | 4       | 258     | 207,022    | 3       |
| 1,000以上   | 2,354   | 3,758,604  | 67      | 2,277     | 3,693,515  | 61      | 2,092   | 3,336,586  | 52      |
| 2,000以上   | 7,264   | 23,070,927 | 412     | 7,052     | 22,533,803 | 377     | 6,886   | 22,120,136 | 343     |
| 5,000以上   | 1,639   | 10,821,175 | 194     | 1,734     | 11,472,200 | 192     | 1,578   | 12,472,634 | 194     |
| 10,000以上  | 374     | 5,074,460  | 91      | 392       | 5,229,161  | 88      | 426     | 5,718,084  | 89      |
| 計         | 133     | 4,102,746  | 73      | 145       | 4,437,992  | 74      | 158     | 4,690,674  | 73      |
| 20,000以上  | 76      | 1,806,555  | 32      | 78        | 1,897,232  | 30      | 93      | 2,205,334  | 34      |
| 30,000以上  | 40      | 1,407,095  | 25      | 36        | 1,249,460  | 21      | 38      | 1,293,320  | 20      |
| 40,000以上  | 20      | 889,996    | 16      | 31        | 1,381,300  | 23      | 27      | 1,191,970  | 19      |
| 50,000以上  | 31      | 2,105,318  | 37      | 51        | 3,444,916  | 58      | 65      | 4,402,415  | 68      |
| 100,000以上 | 16      | 6,753,598  | 121     | 21        | 8,741,237  | 146     | 32      | 11,481,288 | 178     |



人口階級別市町村数及其の人口  
(依昭和五年の地域及昭和五年の人口階級)

| 人口階級 | 大正九年      | 大正十四年      |            | 昭和五年   |            |            |        |            |            |     |
|------|-----------|------------|------------|--------|------------|------------|--------|------------|------------|-----|
|      |           | 市町村数       | 人口         | 市町村数   | 人口         |            |        |            |            |     |
| 總計   | 11,785    | 55,963,053 | 1,000      | 11,784 | 59,733,822 | 1,000      | 11,783 | 64,450,005 | 1,000      |     |
|      | 11,166    | 35,783,865 | 640        | 11,165 | 36,621,281 | 613        | 11,164 | 38,048,254 | 590        |     |
|      | 73        | 25,530     | 1          | 71     | 21,658     | 0          | 70     | 21,766     | 0          |     |
|      | 500以上     | 258        | 209,216    | 4      | 258        | 207,397    | 4      | 258        | 207,022    | 3   |
|      | 1,000以上   | 2,028      | 3,324,563  | 59     | 2,090      | 3,303,062  | 55     | 2,090      | 3,332,941  | 52  |
| 村落   | 2,000以上   | 6,879      | 21,075,388 | 377    | 6,879      | 21,409,994 | 358    | 6,879      | 22,092,592 | 343 |
|      | 5,000以上   | 1,867      | 11,149,168 | 199    | 1,867      | 11,679,170 | 196    | 1,867      | 12,393,933 | 192 |
|      | 地方都會      | 412        | 4,705,408  | 80     | 412        | 5,034,889  | 84     | 412        | 5,519,669  | 86  |
|      | 計         | 131        | 2,983,978  | 53     | 131        | 3,372,910  | 56     | 131        | 3,748,074  | 58  |
|      | 20,000以上  | 84         | 1,535,318  | 28     | 84         | 1,778,762  | 33     | 81         | 1,995,361  | 31  |
| 小都會  | 39,000以上  | 31         | 849,178    | 15     | 31         | 965,357    | 16     | 31         | 1,053,839  | 16  |
|      | 40,000以上  | 16         | 542,482    | 10     | 16         | 628,791    | 10     | 16         | 698,874    | 11  |
| 中都會  | 50,000以上  | 48         | 2,471,941  | 44     | 48         | 2,836,985  | 48     | 48         | 3,203,358  | 50  |
| 大都會  | 100,000以上 | 28         | 10,014,861 | 179    | 28         | 11,870,757 | 199    | 28         | 13,930,650 | 216 |

人口階級別市町村数及其の人口

(依 昭 和 五 年 の 地 域)

| 人 口 階 級 | 大 正 九 年    |            |                | 大 正 十 四 年  |            |                | 昭 和 五 年    |            |                |
|---------|------------|------------|----------------|------------|------------|----------------|------------|------------|----------------|
|         | 市町村数       | 人 口        | 人 口<br>1,000 中 | 市町村数       | 人 口        | 人 口<br>1,000 中 | 市町村数       | 人 口        | 人 口<br>1,000 中 |
| 總 計     | 11,785     | 55,963,053 | 1,000          | 11,784     | 59,736,822 | 1,000          | 11,783     | 64,450,005 | 1,000          |
|         | 11,293     | 36,789,342 | 657            | 11,234     | 37,219,407 | 623            | 11,164     | 38,048,254 | 590            |
|         | 74         | 22,774     | 0              | 79         | 24,945     | 0              | 70         | 21,766     | 0              |
|         | 256        | 203,223    | 4              | 253        | 203,777    | 3              | 258        | 207,022    | 3              |
|         | 500以上      |            |                |            |            |                |            |            |                |
|         | 1,000以上    |            |                |            |            |                |            |            |                |
|         | 2,552      | 3,605,819  | 64             | 2,227      | 3,560,207  | 60             | 2,090      | 3,332,941  | 52             |
|         | 2,000以上    |            |                |            |            |                |            |            |                |
|         | 7,150      | 22,686,082 | 405            | 6,985      | 22,292,807 | 373            | 6,879      | 22,092,592 | 343            |
|         | 5,000以上    |            |                |            |            |                |            |            |                |
| 1,561   | 10,271,444 | 184        | 1,590          | 11,137,671 | 187        | 1,867          | 12,393,933 | 192        |                |
| 地方都會    | 332        | 4,444,163  | 79             | 372        | 4,964,227  | 83             | 412        | 5,519,669  | 86             |
|         | 計          |            |                |            |            |                |            |            |                |
| 小 都 會   | 110        | 3,327,501  | 60             | 121        | 3,716,346  | 62             | 131        | 3,748,074  | 58             |
|         | 20,000以上   |            |                |            |            |                |            |            |                |
|         | 66         | 1,606,131  | 29             | 64         | 1,495,010  | 25             | 84         | 1,995,361  | 31             |
|         | 30,000以上   |            |                |            |            |                |            |            |                |
| 中 都 會   | 28         | 992,647    | 18             | 31         | 1,048,875  | 17             | 31         | 1,053,839  | 16             |
|         | 40,000以上   |            |                |            |            |                |            |            |                |
| 大 都 會   | 16         | 728,723    | 13             | 26         | 1,172,461  | 20             | 16         | 698,874    | 11             |
|         | 50,000以上   |            |                |            |            |                |            |            |                |
| 大 都 會   | 31         | 2,164,944  | 39             | 33         | 2,328,394  | 39             | 48         | 3,203,358  | 50             |
|         | 100,000以上  |            |                |            |            |                |            |            |                |
|         | 19         | 9,237,103  | 165            | 24         | 11,508,448 | 193            | 28         | 13,930,650 | 216            |

(附) 市町村五階級別大正九年大正十四年昭和五年人口

(依昭和五年の地域及大正九年人口階級)

| 道府縣  | 大正九年に於て村落たりし地域の |            |            | 大正九年に於て地方都 |           |           | 大正九年に於て小都會の |
|------|-----------------|------------|------------|------------|-----------|-----------|-------------|
|      | 大正九年人口          | 大正十四年人口    | 昭和五年人口     | 大正九年人口     | 大正十四年人口   | 昭和五年人口    | 大正九年人口      |
| 總計   | 36,789,342      | 37,888,173 | 39,600,066 | 4,444,163  | 4,685,269 | 5,047,310 | 3,327,501   |
| 北海道  | 1,128,096       | 1,161,588  | 1,302,381  | 526,252    | 536,496   | 594,314   | 180,928     |
| 青森縣  | 605,501         | 640,738    | 687,860    | 20,476     | 17,677    | 18,707    | 75,524      |
| 岩手縣  | 753,739         | 795,050    | 849,482    | 25,996     | 29,924    | 33,439    | 65,805      |
| 宮城縣  | 769,840         | 813,677    | 872,411    | 34,364     | 40,171    | 49,450    | 22,067      |
| 秋田縣  | 772,794         | 795,523    | 834,613    | 84,648     | 93,756    | 102,023   | 41,095      |
| 山形縣  | 796,992         | 836,968    | 875,074    | 27,555     | 30,039    | 32,210    | 144,378     |
| 福島縣  | 1,130,631       | 1,178,342  | 1,225,608  | 87,217     | 86,756    | 89,430    | 144,902     |
| 茨城縣  | 1,198,197       | 1,242,031  | 1,302,815  | 87,438     | 96,709    | 105,823   | 64,626      |
| 栃木縣  | 796,675         | 820,045    | 851,344    | 95,022     | 104,927   | 111,620   | 91,011      |
| 群馬縣  | 856,487         | 888,321    | 925,079    | 50,859     | 59,170    | 63,242    | 82,939      |
| 埼玉縣  | 1,170,731       | 1,208,653  | 1,249,020  | 95,175     | 122,843   | 142,181   | 53,355      |
| 千葉縣  | 1,232,337       | 1,274,093  | 1,328,100  | 70,639     | 83,358    | 92,933    | 33,179      |
| 東京府  | 310,254         | 340,438    | 385,951    | —          | —         | —         | 38,955      |
| 神奈川縣 | 510,626         | 535,824    | 565,869    | 86,669     | 98,511    | 112,218   | 133,803     |
| 新潟縣  | 1,422,320       | 1,453,334  | 1,504,215  | 142,413    | 151,991   | 159,846   | 119,111     |
| 富山縣  | 569,029         | 582,064    | 603,802    | 44,453     | 46,953    | 48,292    | 44,954      |
| 石川縣  | 571,345         | 562,132    | 557,047    | 39,223     | 41,302    | 42,477    | 20,189      |
| 福井縣  | 493,435         | 486,253    | 498,539    | 28,892     | 30,408    | 32,810    | 20,189      |
| 山梨縣  | 527,246         | 532,400    | 551,995    | —          | —         | —         | —           |
| 長野縣  | 1,237,348       | 1,253,583  | 1,314,055  | 139,915    | 154,049   | 167,998   | 74,230      |
| 岐阜縣  | 926,231         | 955,917    | 987,388    | 52,212     | 59,102    | 62,397    | 29,251      |
| 靜岡縣  | 1,161,176       | 1,203,948  | 1,267,608  | 151,632    | 169,696   | 184,546   | 67,503      |
| 愛知縣  | 1,028,053       | 1,044,867  | 1,095,943  | 286,031    | 298,725   | 320,466   | 102,388     |
| 三重縣  | 856,062         | 870,305    | 900,847    | 40,748     | 44,699    | 48,476    | 172,460     |
| 滋賀縣  | 589,448         | 594,746    | 619,566    | 30,149     | 33,887    | 37,686    | 31,453      |
| 京都府  | 558,900         | 576,618    | 621,228    | 110,045    | 112,257   | 134,921   | 26,879      |
| 大阪府  | 678,186         | 777,888    | 901,107    | 20,667     | 25,582    | 29,887    | 29,306      |
| 兵庫縣  | 1,676,203       | 1,426,131  | 1,493,020  | 86,815     | 96,714    | 110,801   | 142,424     |
| 奈良縣  | 472,334         | 476,284    | 486,661    | 50,435     | 58,665    | 56,780    | 41,788      |
| 和歌山縣 | 601,487         | 621,212    | 650,669    | 29,290     | 33,508    | 37,456    | 23,964      |
| 鳥取縣  | 333,738         | 391,956    | 402,442    | 13,687     | 15,120    | 16,003    | 57,250      |
| 島根縣  | 664,929         | 667,512    | 680,187    | 12,256     | 13,494    | 14,818    | 37,527      |
| 岡山縣  | 986,203         | 989,537    | 1,010,694  | 46,025     | 44,863    | 49,049    | 74,962      |
| 廣島縣  | 1,043,199       | 1,060,950  | 1,073,114  | 88,454     | 87,196    | 91,025    | 56,234      |
| 山口縣  | 758,982         | 773,583    | 786,861    | 86,255     | 92,447    | 100,197   | 117,178     |
| 徳島縣  | 560,817         | 569,676    | 589,390    | 31,335     | 35,599    | 36,520    | —           |
| 香川縣  | 544,903         | 550,885    | 570,213    | 46,424     | 49,555    | 53,860    | 24,480      |
| 愛媛縣  | 865,959         | 890,609    | 914,905    | 53,485     | 54,593    | 56,729    | 62,590      |
| 高松縣  | 597,197         | 603,183    | 621,164    | —          | —         | —         | —           |
| 福岡縣  | 991,486         | 1,030,460  | 1,074,878  | 328,928    | 325,462   | 358,234   | 301,117     |
| 佐賀縣  | 534,182         | 549,197    | 567,171    | 76,406     | 68,609    | 58,173    | 63,307      |
| 長崎縣  | 753,371         | 755,903    | 779,507    | 106,830    | 108,133   | 116,055   | —           |
| 熊本縣  | 1,034,259       | 1,071,530  | 1,105,717  | 48,892     | 53,613    | 58,040    | 20,498      |
| 大分縣  | 712,827         | 741,978    | 758,068    | 51,229     | 55,223    | 58,772    | 96,226      |
| 宮崎縣  | 502,198         | 519,509    | 560,152    | 45,360     | 48,167    | 50,950    | 103,533     |
| 鹿児島縣 | 545,596         | 560,663    | 589,859    | 619,377    | 632,958   | 664,153   | 147,429     |
| 沖縄縣  | 207,153         | 202,069    | 206,847    | 243,930    | 235,654   | 242,303   | 66,607      |

人口階級別市町村数及其の人口  
(依昭和五年の地域及大正九年の人口階級)

| 人口階級      | 市町村数   | 人口         | 市町村数  | 人口     | 市町村数       | 人口    | 市町村数   | 人口         | 市町村数  | 人口  |
|-----------|--------|------------|-------|--------|------------|-------|--------|------------|-------|-----|
|           |        |            |       |        |            |       |        |            |       |     |
| 總計        | 11,785 | 55,063,033 | 1,000 | 11,781 | 59,736,822 | 1,000 | 11,783 | 64,451,005 | 1,000 | 615 |
| 500未満     | 11,293 | 36,789,342 | 657   | 11,292 | 37,888,173 | 634   | 11,291 | 39,600,066 | 615   | 1   |
| 500以上     | 74     | 22,774     | 0     | 73     | 22,407     | 0     | 72     | 23,937     | 1     | 3   |
| 1,000以上   | 236    | 203,223    | 4     | 256    | 207,998    | 4     | 256    | 212,110    | 3     | 58  |
| 2,000以上   | 2,252  | 3,605,819  | 64    | 2,252  | 3,632,705  | 61    | 2,252  | 3,717,911  | 376   | 177 |
| 5,000以上   | 7,150  | 22,686,082 | 405   | 7,150  | 23,293,658 | 389   | 7,150  | 24,233,481 | 376   | 78  |
| 10,000以上  | 1,561  | 10,271,444 | 184   | 1,561  | 10,761,405 | 139   | 1,561  | 11,410,627 | 177   | 20  |
| 20,000以上  | 332    | 4,444,163  | 79    | 332    | 4,685,269  | 78    | 332    | 5,047,310  | 64    | 30  |
| 30,000以上  | 110    | 3,327,501  | 60    | 110    | 3,735,166  | 63    | 110    | 4,149,503  | 64    | 14  |
| 40,000以上  | 28     | 902,647    | 18    | 23     | 1,134,079  | 19    | 28     | 1,292,631  | 20    | 43  |
| 50,000以上  | 16     | 723,723    | 13    | 16     | 838,600    | 14    | 16     | 930,128    | 14    | 200 |
| 100,000以上 | 31     | 2,164,944  | 39    | 31     | 2,478,158  | 42    | 31     | 2,787,291  | 43    | —   |
| 大都會       | 19     | 9,237,103  | 165   | 19     | 10,950,056 | 133   | 19     | 12,865,835 | —     | —   |

## 大正九年人口を百とした大正十四年昭和五年人口

(依昭和五年の地域及大正九年の人口階級)

| 道府縣 | 大正九年に於て小都會たりし地域の |         |        | 大正九年に於て地方都會たりし地域の |         |        | 大正九年に於て小都會たりし地域の |         |        | 大正九年に於て中都會たりし地域の |         |        | 大正九年に於て大都會たりし地域の |         |        |
|-----|------------------|---------|--------|-------------------|---------|--------|------------------|---------|--------|------------------|---------|--------|------------------|---------|--------|
|     | 大正九年人口           | 大正十四年人口 | 昭和五年人口 | 大正九年人口            | 大正十四年人口 | 昭和五年人口 | 大正九年人口           | 大正十四年人口 | 昭和五年人口 | 大正九年人口           | 大正十四年人口 | 昭和五年人口 | 大正九年人口           | 大正十四年人口 | 昭和五年人口 |
| 總計  | 100              | 103     | 108    | 100               | 105     | 114    | 100              | 112     | 125    | 100              | 114     | 129    | 100              | 119     | 133    |
| 北海道 | 100              | 103     | 115    | 100               | 102     | 113    | 100              | 103     | 119    | 100              | 102     | 113    | 100              | 125     | 144    |
| 北海  | 100              | 106     | 114    | 100               | 86      | 91     | 100              | 115     | 127    | 100              | 123     | 140    | —                | —       | —      |
| 道南  | 100              | 105     | 113    | 100               | 115     | 129    | 100              | 116     | 141    | —                | —       | —      | —                | —       | —      |
| 青森  | 100              | 106     | 113    | 100               | 117     | 144    | 100              | 116     | 139    | —                | —       | —      | 100              | 121     | 140    |
| 岩手  | 100              | 103     | 108    | 100               | 111     | 121    | 100              | 115     | 124    | —                | —       | —      | —                | —       | —      |
| 宮城  | 100              | 105     | 110    | 100               | 109     | 117    | 100              | 111     | 120    | —                | —       | —      | —                | —       | —      |
| 秋田  | 100              | 104     | 108    | 100               | 99      | 103    | 100              | 103     | 119    | 100              | 119     | 133    | —                | —       | —      |
| 山形  | 100              | 104     | 109    | 100               | 111     | 121    | 100              | 100     | 121    | —                | —       | —      | —                | —       | —      |
| 福島  | 100              | 103     | 107    | 100               | 110     | 117    | 100              | 93      | 107    | 100              | 119     | 128    | —                | —       | —      |
| 茨城  | 100              | 104     | 108    | 100               | 116     | 124    | 100              | 118     | 136    | 100              | 118     | 136    | —                | —       | —      |
| 栃木  | 100              | 103     | 107    | 100               | 129     | 149    | 100              | 118     | 127    | —                | —       | —      | —                | —       | —      |
| 群馬  | 100              | 103     | 108    | 100               | 118     | 132    | 100              | 126     | 148    | —                | —       | —      | —                | —       | —      |
| 千葉  | 100              | 110     | 124    | —                 | —       | —      | 100              | 116     | 133    | —                | —       | —      | 100              | 122     | 148    |
| 東京  | 100              | 105     | 111    | 100               | 114     | 129    | 100              | 128     | 158    | 100              | 107     | 123    | 100              | 103     | 123    |
| 神奈川 | 100              | 102     | 106    | 100               | 107     | 112    | 100              | 114     | 121    | 100              | 118     | 136    | —                | —       | —      |
| 新潟  | 100              | 102     | 106    | 100               | 106     | 109    | 100              | 109     | 115    | 100              | 108     | 114    | —                | —       | —      |
| 富山  | 100              | 98      | 97     | 100               | 105     | 108    | —                | —       | —      | —                | —       | —      | 100              | 108     | 115    |
| 石川  | 100              | 99      | 101    | 100               | 105     | 114    | 100              | 105     | 112    | 100              | 106     | 113    | —                | —       | —      |
| 福井  | 100              | 101     | 105    | —                 | —       | —      | —                | —       | —      | —                | —       | —      | —                | —       | —      |
| 山梨  | 100              | 102     | 106    | 100               | 110     | 120    | 100              | 110     | 120    | 100              | 117     | 131    | —                | —       | —      |
| 長野  | 100              | 103     | 107    | 100               | 113     | 120    | 100              | 122     | 132    | 100              | 131     | 144    | —                | —       | —      |
| 岐阜  | 100              | 104     | 109    | 100               | 112     | 122    | 100              | 125     | 147    | 100              | 125     | 145    | —                | —       | —      |
| 静岡  | 100              | 102     | 107    | 100               | 104     | 112    | 100              | 122     | 142    | 100              | 126     | 151    | 100              | 126     | 149    |
| 愛知  | 100              | 102     | 105    | 100               | 110     | 119    | 100              | 112     | 121    | —                | —       | —      | —                | —       | —      |
| 三重  | 100              | 101     | 105    | 100               | 112     | 125    | 100              | 107     | 109    | —                | —       | —      | —                | —       | —      |
| 滋賀  | 100              | 103     | 111    | 100               | 108     | 123    | 100              | 114     | 117    | —                | —       | —      | 100              | 115     | 129    |
| 京都  | 100              | 115     | 133    | 100               | 124     | 145    | 100              | 109     | 120    | 100              | 119     | 132    | 100              | 120     | 139    |
| 大阪  | 100              | 104     | 108    | 100               | 111     | 128    | 100              | 121     | 135    | 100              | 108     | 120    | 100              | 109     | 122    |
| 兵庫  | 100              | 101     | 103    | 100               | 116     | 113    | 100              | 117     | 126    | —                | —       | —      | —                | —       | —      |
| 奈良  | 100              | 103     | 108    | 100               | 114     | 128    | 100              | 102     | 105    | 100              | 113     | 123    | —                | —       | —      |
| 和歌山 | 100              | 102     | 105    | 100               | 110     | 117    | 100              | 114     | 124    | —                | —       | —      | —                | —       | —      |
| 鳥取  | 100              | 100     | 102    | 100               | 110     | 121    | 100              | 110     | 119    | —                | —       | —      | —                | —       | —      |
| 島根  | 100              | 100     | 102    | 100               | 97      | 107    | 100              | 106     | 113    | —                | —       | —      | 100              | 113     | 126    |
| 岡山  | 100              | 102     | 103    | 100               | 99      | 103    | 100              | 110     | 129    | —                | —       | —      | 100              | 115     | 130    |
| 広島  | 100              | 102     | 104    | 100               | 107     | 116    | 100              | 116     | 128    | 100              | 117     | 125    | —                | —       | —      |
| 山口  | 100              | 102     | 105    | 100               | 113     | 116    | —                | —       | —      | 100              | 108     | 116    | —                | —       | —      |
| 徳島  | 100              | 101     | 105    | 100               | 107     | 116    | 100              | 114     | 118    | 100              | 116     | 129    | —                | —       | —      |
| 香川  | 100              | 103     | 106    | 100               | 102     | 106    | 100              | 122     | 141    | 100              | 116     | 128    | —                | —       | —      |
| 愛媛  | 100              | 101     | 104    | —                 | —       | —      | —                | —       | —      | 100              | 114     | 132    | —                | —       | —      |
| 高知  | 100              | 104     | 108    | 100               | 99      | 109    | 100              | 98      | 107    | 100              | 112     | 127    | 100              | 118     | 147    |
| 福岡  | 100              | 103     | 106    | 100               | 99      | 76     | 100              | 106     | 105    | —                | —       | —      | —                | —       | —      |
| 佐賀  | 100              | 104     | 107    | 100               | 101     | 109    | —                | —       | —      | 100              | 111     | 134    | 100              | 107     | 116    |
| 熊本  | 100              | 104     | 106    | 100               | 110     | 119    | 100              | 116     | 126    | —                | —       | —      | 100              | 114     | 127    |
| 大分  | 100              | 104     | 106    | 100               | 103     | 115    | 100              | 123     | 134    | —                | —       | —      | —                | —       | —      |
| 宮崎  | 100              | 103     | 112    | 100               | 106     | 112    | 100              | 119     | 144    | —                | —       | —      | —                | —       | —      |
| 鹿児島 | 100              | 103     | 108    | 100               | 102     | 107    | 100              | 104     | 112    | —                | —       | —      | 100              | 121     | 133    |
| 沖縄  | 100              | 98      | 100    | 100               | 96      | 99     | 100              | 98      | 102    | 100              | 101     | 112    | —                | —       | —      |

## 市町村五階級別大正九年大正十四年昭和五年人口 (續)

(依昭和五年の地域及大正九年人口階級)

| 道府縣 | 大正九年に於て小都會たりし地域の |           |           | 大正九年に於て中都會たりし地域の |           |           | 大正九年に於て大都會たりし地域の |            |        |
|-----|------------------|-----------|-----------|------------------|-----------|-----------|------------------|------------|--------|
|     | 大正九年人口           | 大正十四年人口   | 昭和五年人口    | 大正九年人口           | 大正十四年人口   | 昭和五年人口    | 大正九年人口           | 大正十四年人口    | 昭和五年人口 |
| 總計  | 3,735,166        | 4,149,503 | 2,164,944 | 2,478,158        | 2,787,291 | 9,237,103 | 10,950,056       | 12,865,835 |        |
| 北海道 | 186,011          | 214,589   | 168,465   | 171,078          | 190,336   | 255,442   | 443,506          | 510,715    |        |
| 北海  | 87,034           | 96,244    | 54,953    | 67,528           | 77,103    | —         | —                | —          |        |
| 道南  | 76,010           | 92,850    | —         | —                | —         | —         | —                | —          |        |
| 青森  | 25,594           | 30,743    | —         | —                | —         | 135,497   | 164,594          | 190,180    |        |
| 岩手  | 47,129           | 51,070    | —         | —                | —         | —         | —                | —          |        |
| 宮城  | 160,290          | 172,750   | —         | —                | —         | —         | —                | —          |        |
| 秋田  | 172,498          | 193,112   | —         | —                | —         | —         | —                | —          |        |
| 山形  | 70,208           | 78,459    | —         | —                | —         | —         | —                | —          |        |
| 福島  | 89,348           | 97,385    | 63,771    | 76,138           | 81,388    | —         | —                | —          |        |
| 茨城  | 97,679           | 112,834   | 62,325    | 73,688           | 84,925    | —         | —                | —          |        |
| 栃木  | 62,697           | 67,971    | —         | —                | —         | —         | —                | —          |        |
| 群馬  | 41,806           | 49,088    | —         | —                | —         | —         | —                | —          |        |
| 千葉  | 45,288           | 51,888    | —         | —                | —         | —         | —                | —          |        |
| 東京  | 171,029          | 210,912   | 89,979    | 96,351           | 110,301   | 3,350,630 | 4,090,830        | 4,970,839  |        |
| 神奈川 | 135,541          | 144,157   | 92,130    | 108,941          | 125,108   | 502,413   | 515,077          | 620,306    |        |
| 新潟  | 48,894           | 51,760    | 55,840    | 71,332           | 75,099    | —         | —                | —          |        |
| 富山  | 21,295           | 22,596    | 56,639    | 59,943           | 64,199    | 136,792   | 147,420          | 157,311    |        |
| 石川  | —                | —         | 56,207    | 68,275           | 79,447    | —         | —                | —          |        |
| 福井  | 81,605           | 89,012    | 111,229   | 129,982          | 146,053   | —         | —                | —          |        |
| 山梨  | 35,636           | 38,508    | 62,713    | 81,902           | 90,112    | —         | —                | —          |        |
| 長野  | 84,381           | 99,692    | 169,986   | 213,192          | 245,959   | —         | —                | —          |        |
| 岐阜  | 124,973          | 145,045   | 65,163    | 82,371           | 98,555    | 608,127   | 768,558          | 907,404    |        |
| 静岡  | 192,688          | 208,084   | —         | —                | —         | —         | —                | —          |        |
| 愛知  | 33,779           | 34,379    | —         | —                | —         | —         | —                | —          |        |
| 三重  | 30,544           | 31,541    | —         | —                | —         | 591,323   | 679,963          | 765,142    |        |
| 京都  | 32,050           | 35,102    | 91,393    | 109,178          | 120,348   | 1,768,295 | 2,114,804        | 2,453,573  |        |
| 大阪  | 171,746          | 192,693   | 51,796    | 55,713           | 62,171    | 644,471   | 704,375          | 787,616    |        |
| 兵庫  | 48,879           | 52,784    | —         | —                | —         | —         | —                | —          |        |
| 奈良  | 24,398           | 25,179    | 95,670    | 108,395          | 117,444   | —         | —                | —          |        |
| 和歌山 | 65,154           | 70,821    | —         | —                | —         | —         | —                | —          |        |
| 鳥取  | 41,396           | 44,502    | —         | —                | —         | —         | —                | —          |        |
| 島根  | 79,521           | 84,997    | —         | —                | —         | 110,508   | 124,521          | 139,222    |        |
| 岡山  | 61,788           | 67,297    | —         | —                | —         | 354,018   | 407,746          | 460,699    |        |
| 広島  | 136,197          | 150,036   | 78,598    | 22,317           | 98,543    | —         | —                | —          |        |
| 山口  | —                | —         | 78,000    | 84,539           | 90,634    | —         | —                | —          |        |
| 徳島  | 27,941           | 28,837    | 62,045    | 71,897           | 79,906    | —         | —                | —          |        |
| 香川  | 76,247           | 88,011    | 64,686    | 74,917           | 82,477    | —         | —                | —          |        |
| 愛媛  | —                | —         | 73,698    | 84,295           | 96,988    | —         | —                | —          |        |
| 高知  | 296,358          | 321,015   | 296,429   | 330,705          | 376,486   | 270,289   | 318,683          | 396,506    |        |
| 福岡  | 67,025           | 66,221    | —         | —                | —         | —         | —                | —          |        |
| 佐賀  | —                | —         | 99,447    | 110,838          | 133,174   | 176,534   | 189,071          | 704,626    |        |
| 熊本  | 23,769           | 25,776    | —         | —                | —         | 129,584   | 147,174          | 164,460    |        |
| 大分  | 117,930          | 128,931   | —         | —                | —         | —         | —                | —          |        |
| 宮崎  | 123,418          | 149,365   | —         | —                | —         | —         | —                | —          |        |
| 鹿児島 | 153,838          | 165,442   | —         | —                | —         | 103,180   | 124,734          | 137,236    |        |
| 沖縄  | 65,556           | 67,824    | 53,882    | 54,643           | 60,535    | —         | —                | —          |        |



(附) 昭和五年の地域に依る大正九年人口を基準として見たる

|       |                  | 大 正 九 年 |            | 大 正 十 四 年 |            |      |           |       |           |       |           |  |  |
|-------|------------------|---------|------------|-----------|------------|------|-----------|-------|-----------|-------|-----------|--|--|
|       |                  | 市 人     |            | 村 落       |            | 地方都會 |           | 小 都 會 |           | 中 都 會 |           |  |  |
|       |                  | 町       | 口          | 市町村       | 人 口        | 市町村  | 人 口       | 市町村   | 人 口       | 市町村   | 人 口       |  |  |
| 全 國   | A<br>(10,000以上)  | 11,293  | 35,789,342 | 11,220    | 37,095,375 | 72   | 792,798   | —     | —         | —     | —         |  |  |
|       | B<br>(10,000以上)  | 332     | 4,444,163  | 14        | 124,031    | 296  | 4,099,401 | 22    | 461,836   | —     | —         |  |  |
|       | C<br>(20,000以上)  | 110     | 3,327,501  | —         | —          | 4    | 72,028    | 98    | 3,205,813 | 8     | 457,325   |  |  |
|       | D<br>(50,000以上)  | 31      | 2,164,944  | —         | —          | —    | —         | 1     | 48,697    | 25    | 1,871,069 |  |  |
|       | E<br>(100,000以上) | 19      | 9,237,103  | —         | —          | —    | —         | —     | —         | —     | —         |  |  |
| 北 海 道 | A                | 220     | 1,128,096  | 215       | 1,108,773  | 5    | 52,815    | —     | —         | —     | —         |  |  |
|       | B                | 40      | 526,252    | 3         | 23,158     | 35   | 467,798   | 2     | 40,540    | —     | —         |  |  |
|       | C                | 7       | 180,928    | —         | —          | 2    | 38,342    | 5     | 147,669   | —     | —         |  |  |
|       | D                | 3       | 168,465    | —         | —          | —    | —         | 1     | 48,697    | 2     | 122,381   |  |  |
|       | E                | 3       | 355,442    | —         | —          | —    | —         | —     | —         | —     | —         |  |  |
| 青 森 縣 | A                | 162     | 605,501    | 161       | 630,533    | 1    | 10,205    | —     | —         | —     | —         |  |  |
|       | B                | 2       | 20,476     | 1         | 7,188      | 1    | 10,489    | —     | —         | —     | —         |  |  |
|       | C                | 2       | 75,524     | —         | —          | —    | —         | 2     | 87,034    | —     | —         |  |  |
|       | D                | 1       | 54,953     | —         | —          | —    | —         | —     | —         | 1     | 67,528    |  |  |
|       | E                | —       | —          | —         | —          | —    | —         | —     | —         | —     | —         |  |  |
| 岩 手 縣 | A                | 233     | 753,739    | 231       | 773,860    | 2    | 21,190    | —     | —         | —     | —         |  |  |
|       | B                | 2       | 25,996     | —         | —          | 2    | 29,924    | —     | —         | —     | —         |  |  |
|       | C                | 2       | 65,805     | —         | —          | —    | —         | 1     | 22,499    | 1     | 53,511    |  |  |
|       | D                | —       | —          | —         | —          | —    | —         | —     | —         | —     | —         |  |  |
|       | E                | —       | —          | —         | —          | —    | —         | —     | —         | —     | —         |  |  |
| 宮 城 縣 | A                | 198     | 769,840    | 197       | 802,132    | 1    | 11,545    | —     | —         | —     | —         |  |  |
|       | B                | 3       | 34,364     | —         | —          | 3    | 40,171    | —     | —         | —     | —         |  |  |
|       | C                | 1       | 22,067     | —         | —          | —    | —         | 1     | 25,594    | —     | —         |  |  |
|       | D                | —       | —          | —         | —          | —    | —         | —     | —         | —     | —         |  |  |
|       | E                | 1       | 135,497    | —         | —          | —    | —         | —     | —         | —     | —         |  |  |
| 秋 田 縣 | A                | 231     | 772,794    | 229       | 774,261    | 2    | 21,262    | —     | —         | —     | —         |  |  |
|       | B                | 6       | 84,648     | —         | —          | 5    | 71,749    | 1     | 22,007    | —     | —         |  |  |
|       | C                | 1       | 41,095     | —         | —          | —    | —         | 1     | 47,129    | —     | —         |  |  |
|       | D                | —       | —          | —         | —          | —    | —         | —     | —         | —     | —         |  |  |
|       | E                | —       | —          | —         | —          | —    | —         | —     | —         | —     | —         |  |  |
| 山 形 縣 | A                | 222     | 796,992    | 220       | 815,407    | 2    | 12,561    | —     | —         | —     | —         |  |  |
|       | B                | 2       | 27,555     | —         | —          | 2    | 30,039    | —     | —         | —     | —         |  |  |
|       | C                | 4       | 144,378    | —         | —          | —    | —         | 3     | 104,206   | 1     | 55,994    |  |  |
|       | D                | —       | —          | —         | —          | —    | —         | —     | —         | —     | —         |  |  |
|       | E                | —       | —          | —         | —          | —    | —         | —     | —         | —     | —         |  |  |
| 福 島 縣 | A                | 395     | 1,130,631  | 393       | 1,155,943  | 2    | 22,399    | —     | —         | —     | —         |  |  |
|       | B                | 6       | 87,217     | —         | —          | 5    | 64,669    | 1     | 22,087    | —     | —         |  |  |
|       | C                | 5       | 144,902    | —         | —          | —    | —         | 5     | 172,498   | —     | —         |  |  |
|       | D                | —       | —          | —         | —          | —    | —         | —     | —         | —     | —         |  |  |
|       | E                | —       | —          | —         | —          | —    | —         | —     | —         | —     | —         |  |  |

昭和五年の地域に依る大正十四年人口昭和五年人口の動き

[illegible]



昭和五年の地域に依る大正九年人口を基準として見たる

|      |                        | 大 正 九 年 |           | 大 正 十 年 |           |       |         |     |        |     |        |
|------|------------------------|---------|-----------|---------|-----------|-------|---------|-----|--------|-----|--------|
|      |                        | 市町村     | 人 口       | 村 落     | 地方都會      | 小 都 會 | 中 都 會   |     |        |     |        |
|      |                        | 市町村     | 人 口       | 市町村     | 人 口       | 市町村   | 人 口     | 市町村 | 人 口    | 市町村 | 人 口    |
| 茨城縣  | 村 落 A<br>(10,000未満)    | 372     | 1,198,197 | 369     | 1,209,923 | 3     | 32,103  | —   | —      | —   | —      |
|      | 地方都會 B<br>(10,000以上)   | 7       | 87,438    | 1       | 9,820     | 6     | 86,889  | —   | —      | —   | —      |
|      | 小 都 會 C<br>(20,000以上)  | 2       | 64,626    | —       | —         | —     | —       | 2   | 70,208 | —   | —      |
|      | 中 都 會 D<br>(50,000以上)  | —       | —         | —       | —         | —     | —       | —   | —      | —   | —      |
|      | 大 都 會 E<br>(100,000以上) | —       | —         | —       | —         | —     | —       | —   | —      | —   | —      |
| 栃木縣  | A                      | 166     | 796,675   | 164     | 798,518   | 2     | 21,527  | —   | —      | —   | —      |
|      | B                      | 7       | 95,022    | —       | —         | 6     | 84,475  | 1   | 20,452 | —   | —      |
|      | C                      | 3       | 91,011    | —       | —         | —     | —       | 3   | 89,318 | —   | —      |
|      | D                      | 1       | 63,771    | —       | —         | —     | —       | —   | —      | 1   | 76,138 |
|      | E                      | —       | —         | —       | —         | —     | —       | —   | —      | —   | —      |
| 群馬縣  | A                      | 199     | 856,487   | 196     | 854,584   | 3     | 33,737  | —   | —      | —   | —      |
|      | B                      | 4       | 50,859    | —       | —         | 4     | 59,170  | —   | —      | —   | —      |
|      | C                      | 2       | 82,939    | —       | —         | —     | —       | 1   | 42,553 | 1   | 55,126 |
|      | D                      | 1       | 62,325    | —       | —         | —     | —       | —   | —      | 1   | 73,683 |
|      | E                      | —       | —         | —       | —         | —     | —       | —   | —      | —   | —      |
| 埼玉縣  | A                      | 360     | 1,170,731 | 358     | 1,188,246 | 2     | 20,407  | —   | —      | —   | —      |
|      | B                      | 7       | 95,175    | —       | —         | 6     | 97,734  | 1   | 25,109 | —   | —      |
|      | C                      | 2       | 53,355    | —       | —         | —     | —       | 2   | 62,697 | —   | —      |
|      | D                      | —       | —         | —       | —         | —     | —       | —   | —      | —   | —      |
|      | E                      | —       | —         | —       | —         | —     | —       | —   | —      | —   | —      |
| 千葉縣  | A                      | 342     | 1,232,337 | 338     | 1,223,870 | 4     | 50,223  | —   | —      | —   | —      |
|      | B                      | 5       | 70,639    | —       | —         | 5     | 83,358  | —   | —      | —   | —      |
|      | C                      | 1       | 33,179    | —       | —         | —     | —       | 1   | 41,806 | —   | —      |
|      | D                      | —       | —         | —       | —         | —     | —       | —   | —      | —   | —      |
|      | E                      | —       | —         | —       | —         | —     | —       | —   | —      | —   | —      |
| 東京府  | A                      | 109     | 310,254   | 106     | 330,072   | 1     | 10,366  | —   | —      | —   | —      |
|      | B                      | —       | —         | —       | —         | —     | —       | —   | —      | —   | —      |
|      | C                      | 1       | 38,955    | —       | —         | —     | —       | 1   | 45,288 | —   | —      |
|      | D                      | —       | —         | —       | —         | —     | —       | —   | —      | —   | —      |
|      | E                      | 1       | 3,350,630 | —       | —         | —     | —       | —   | —      | —   | —      |
| 神奈川縣 | A                      | 166     | 510,626   | 165     | 523,798   | 1     | 12,026  | —   | —      | —   | —      |
|      | B                      | 6       | 86,669    | —       | —         | 3     | 35,047  | 3   | 63,464 | —   | —      |
|      | C                      | 5       | 133,803   | —       | —         | 1     | 18,673  | 3   | 77,654 | 1   | 74,702 |
|      | D                      | 1       | 89,879    | —       | —         | —     | —       | —   | —      | 1   | 96,351 |
|      | E                      | 1       | 502,413   | —       | —         | —     | —       | —   | —      | —   | —      |
| 新潟縣  | A                      | 387     | 1,422,820 | 385     | 1,433,292 | 2     | 20,042  | —   | —      | —   | —      |
|      | B                      | 11      | 142,413   | —       | —         | 10    | 131,955 | 1   | 20,036 | —   | —      |
|      | C                      | 4       | 119,111   | —       | —         | —     | —       | 3   | 82,385 | 1   | 53,156 |
|      | D                      | 1       | 92,130    | —       | —         | —     | —       | —   | —      | —   | —      |
|      | E                      | —       | —         | —       | —         | —     | —       | —   | —      | —   | —      |

昭和五年の地域に依る大正十四年人口昭和五年人口の動き (續)

| 大都會 |           |     | 昭和五十六年    |   |         |     |         |     |         |     |   |     |           |   |
|-----|-----------|-----|-----------|---|---------|-----|---------|-----|---------|-----|---|-----|-----------|---|
| 村小落 |           |     | 地方都會      |   |         | 小都會 |         | 中都會 |         | 大都會 |   |     |           |   |
| 市町村 | 人         | 口   | 市町村       | 人 | 口       | 市町村 | 人       | 口   | 市町村     | 人   | 口 | 市町村 | 人         | 口 |
| —   | —         | 368 | 1,255,105 | 4 | 47,710  | —   | —       | —   | —       | —   | — | —   | —         | — |
| —   | —         | —   | —         | 7 | 105,823 | —   | —       | —   | —       | —   | — | —   | —         | — |
| —   | —         | —   | —         | — | —       | 1   | 27,811  | 1   | 50,643  | —   | — | —   | —         | — |
| —   | —         | —   | —         | — | —       | —   | —       | —   | —       | —   | — | —   | —         | — |
| —   | —         | 164 | 829,025   | 2 | 22,319  | —   | —       | —   | —       | —   | — | —   | —         | — |
| —   | —         | —   | —         | 6 | 89,651  | 1   | 21,969  | —   | —       | —   | — | —   | —         | — |
| —   | —         | —   | —         | — | —       | 3   | 97,385  | —   | —       | —   | — | —   | —         | — |
| —   | —         | —   | —         | — | —       | —   | —       | 1   | 81,388  | —   | — | —   | —         | — |
| —   | —         | —   | —         | — | —       | —   | —       | —   | —       | —   | — | —   | —         | — |
| —   | —         | 196 | 888,148   | 3 | 36,931  | —   | —       | —   | —       | —   | — | —   | —         | — |
| —   | —         | —   | —         | 3 | 41,246  | 1   | 21,996  | —   | —       | —   | — | —   | —         | — |
| —   | —         | —   | —         | — | —       | —   | —       | 2   | 112,834 | —   | — | —   | —         | — |
| —   | —         | —   | —         | — | —       | —   | —       | 1   | 84,925  | —   | — | —   | —         | — |
| —   | —         | —   | —         | — | —       | —   | —       | —   | —       | —   | — | —   | —         | — |
| —   | —         | 358 | 1,227,124 | 2 | 21,896  | —   | —       | —   | —       | —   | — | —   | —         | — |
| —   | —         | —   | —         | 4 | 65,303  | 3   | 76,878  | —   | —       | —   | — | —   | —         | — |
| —   | —         | —   | —         | — | —       | 2   | 67,971  | —   | —       | —   | — | —   | —         | — |
| —   | —         | —   | —         | — | —       | —   | —       | —   | —       | —   | — | —   | —         | — |
| —   | —         | 336 | 1,249,787 | 5 | 57,467  | 1   | 20,846  | —   | —       | —   | — | —   | —         | — |
| —   | —         | —   | —         | 3 | 49,593  | 2   | 43,340  | —   | —       | —   | — | —   | —         | — |
| —   | —         | —   | —         | — | —       | 1   | 49,088  | —   | —       | —   | — | —   | —         | — |
| —   | —         | —   | —         | — | —       | —   | —       | —   | —       | —   | — | —   | —         | — |
| —   | —         | 103 | 344,533   | 3 | 41,415  | —   | —       | —   | —       | —   | — | —   | —         | — |
| —   | —         | —   | —         | — | —       | —   | —       | —   | —       | —   | — | —   | —         | — |
| —   | —         | —   | —         | — | —       | —   | —       | 1   | 51,888  | —   | — | —   | —         | — |
| 1   | 4,099,830 | —   | —         | — | —       | —   | —       | —   | —       | —   | — | 1   | 4,970,839 | — |
| —   | —         | —   | —         | — | —       | —   | —       | —   | —       | —   | — | —   | —         | — |
| —   | —         | 165 | 550,561   | 1 | 15,308  | —   | —       | —   | —       | —   | — | —   | —         | — |
| —   | —         | —   | —         | 3 | 37,397  | 3   | 74,821  | —   | —       | —   | — | —   | —         | — |
| —   | —         | —   | —         | — | —       | 4   | 106,561 | —   | —       | —   | — | 1   | 104,351   | — |
| 1   | 515,077   | —   | —         | — | —       | —   | —       | —   | —       | —   | — | 1   | 110,301   | — |
| —   | —         | —   | —         | — | —       | —   | —       | —   | —       | —   | — | 1   | 620,306   | — |
| —   | —         | —   | —         | — | —       | —   | —       | —   | —       | —   | — | —   | —         | — |
| —   | —         | 384 | 1,473,125 | 3 | 31,090  | —   | —       | —   | —       | —   | — | —   | —         | — |
| —   | —         | —   | —         | 9 | 118,095 | 2   | 41,751  | —   | —       | —   | — | —   | —         | — |
| 1   | 108,941   | —   | —         | — | —       | 3   | 86,291  | 1   | 57,866  | —   | — | —   | —         | — |
| —   | —         | —   | —         | — | —       | —   | —       | —   | —       | —   | — | 1   | 125,108   | — |

昭和五年の地域に依る大正九年人口を基準として見たる

| 大 正 九 年       | 大 正 十 四 年 |           |     |           |         |         |       |        |       |         |
|---------------|-----------|-----------|-----|-----------|---------|---------|-------|--------|-------|---------|
|               | 市 町 村     |           | 村 落 |           | 地 方 都 會 |         | 小 都 會 |        | 中 都 會 |         |
|               | 市         | 人         | 市   | 人         | 市       | 人       | 市     | 人      | 市     | 人       |
| 富山縣           | 260       | 569,029   | 258 | 560,327   | 2       | 21,737  | —     | —      | —     | —       |
| 村 落 A         | —         | —         | —   | —         | —       | —       | —     | —      | —     | —       |
| (10,000未満) B  | 3         | 44,453    | —   | —         | 2       | 26,374  | 1     | 20,579 | —     | —       |
| 地方都會 C        | 1         | 44,954    | —   | —         | —       | —       | 1     | 48,894 | —     | —       |
| 小都會 D         | 1         | 65,840    | —   | —         | —       | —       | —     | —      | 1     | 71,332  |
| (20,000以上) E  | —         | —         | —   | —         | —       | —       | —     | —      | —     | —       |
| 中都會           | —         | —         | —   | —         | —       | —       | —     | —      | —     | —       |
| (50,000以上) F  | —         | —         | —   | —         | —       | —       | —     | —      | —     | —       |
| 大都會           | —         | —         | —   | —         | —       | —       | —     | —      | —     | —       |
| (100,000以上) G | —         | —         | —   | —         | —       | —       | —     | —      | —     | —       |
| 石川縣           | 214       | 571,345   | 214 | 562,132   | —       | —       | —     | —      | —     | —       |
| A             | 3         | 39,223    | —   | —         | 3       | 41,302  | —     | —      | —     | —       |
| B             | —         | —         | —   | —         | —       | —       | —     | —      | —     | —       |
| C             | —         | —         | —   | —         | —       | —       | —     | —      | —     | —       |
| D             | 1         | 136,792   | —   | —         | —       | —       | —     | —      | —     | —       |
| E             | —         | —         | —   | —         | —       | —       | —     | —      | —     | —       |
| 福井縣           | 175       | 493,435   | 175 | 486,253   | —       | —       | —     | —      | —     | —       |
| A             | 2         | 28,892    | —   | —         | 2       | 30,408  | —     | —      | —     | —       |
| B             | 1         | 20,189    | —   | —         | —       | —       | 1     | 21,295 | —     | —       |
| C             | 1         | 56,639    | —   | —         | —       | —       | —     | —      | 1     | 59,943  |
| D             | —         | —         | —   | —         | —       | —       | —     | —      | —     | —       |
| E             | —         | —         | —   | —         | —       | —       | —     | —      | —     | —       |
| 山梨縣           | 240       | 527,246   | 239 | 522,082   | 1       | 10,318  | —     | —      | —     | —       |
| A             | —         | —         | —   | —         | —       | —       | —     | —      | —     | —       |
| B             | —         | —         | —   | —         | —       | —       | —     | —      | —     | —       |
| C             | 1         | 56,207    | —   | —         | —       | —       | —     | —      | 1     | 68,275  |
| D             | —         | —         | —   | —         | —       | —       | —     | —      | —     | —       |
| E             | —         | —         | —   | —         | —       | —       | —     | —      | —     | —       |
| 長野縣           | 372       | 1,237,348 | 372 | 1,263,583 | —       | —       | —     | —      | —     | —       |
| A             | 10        | 139,915   | —   | —         | 9       | 133,981 | 1     | 20,068 | —     | —       |
| B             | 2         | 74,230    | —   | —         | —       | —       | 2     | 81,603 | —     | —       |
| C             | 2         | 111,229   | —   | —         | —       | —       | —     | —      | 2     | 129,982 |
| D             | —         | —         | —   | —         | —       | —       | —     | —      | —     | —       |
| E             | —         | —         | —   | —         | —       | —       | —     | —      | —     | —       |
| 岐阜縣           | 334       | 926,231   | 332 | 934,603   | 2       | 21,314  | —     | —      | —     | —       |
| A             | 4         | 52,212    | —   | —         | 4       | 59,102  | —     | —      | —     | —       |
| B             | 1         | 29,251    | —   | —         | —       | —       | 1     | 35,636 | —     | —       |
| C             | 1         | 62,713    | —   | —         | —       | —       | —     | —      | 1     | 81,902  |
| D             | —         | —         | —   | —         | —       | —       | —     | —      | —     | —       |
| E             | —         | —         | —   | —         | —       | —       | —     | —      | —     | —       |
| 静岡縣           | 312       | 1,161,176 | 309 | 1,171,447 | 3       | 32,501  | —     | —      | —     | —       |
| A             | 11        | 151,632   | —   | —         | 8       | 107,592 | 3     | 62,104 | —     | —       |
| B             | 2         | 67,593    | —   | —         | —       | —       | 2     | 84,381 | —     | —       |
| C             | 2         | 169,986   | —   | —         | —       | —       | —     | —      | 1     | 92,152  |
| D             | —         | —         | —   | —         | —       | —       | —     | —      | —     | —       |
| E             | —         | —         | —   | —         | —       | —       | —     | —      | —     | —       |
| 愛知縣           | 217       | 1,028,053 | 214 | 1,014,427 | 3       | 30,440  | —     | —      | —     | —       |
| A             | 22        | 286,031   | —   | —         | 21      | 277,692 | 1     | 21,033 | —     | —       |
| B             | 3         | 102,388   | —   | —         | —       | —       | 2     | 66,025 | 1     | 58,948  |
| C             | 1         | 65,163    | —   | —         | —       | —       | —     | —      | 1     | 82,371  |
| D             | 1         | 608,127   | —   | —         | —       | —       | —     | —      | —     | —       |
| E             | —         | —         | —   | —         | —       | —       | —     | —      | —     | —       |

昭和五年の地域に依る大正十四年人口昭和五年人口の動き (續)

| 大 正 十 四 年 | 昭 和 五 年 |           |     |         |         |         |       |        |       |         |
|-----------|---------|-----------|-----|---------|---------|---------|-------|--------|-------|---------|
|           | 市 町 村   |           | 村 落 |         | 地 方 都 會 |         | 小 都 會 |        | 中 都 會 |         |
|           | 市       | 人         | 市   | 人       | 市       | 人       | 市     | 人      | 市     | 人       |
| 大都會       | —       | —         | 258 | 580,589 | 2       | 23,213  | —     | —      | —     | —       |
| 村 落       | —       | —         | —   | —       | 2       | 26,469  | 1     | 21,823 | —     | —       |
| 地方都會      | —       | —         | —   | —       | —       | —       | —     | —      | 1     | 51,760  |
| 小都會       | —       | —         | —   | —       | —       | —       | —     | —      | 1     | 75,099  |
| 中都會       | —       | —         | —   | —       | —       | —       | —     | —      | —     | —       |
| 大都會       | —       | —         | —   | —       | —       | —       | —     | —      | —     | —       |
| 石川縣       | 214     | 557,047   | —   | —       | 3       | 42,477  | —     | —      | —     | —       |
| A         | —       | —         | —   | —       | —       | —       | —     | —      | —     | —       |
| B         | —       | —         | —   | —       | —       | —       | —     | —      | —     | —       |
| C         | —       | —         | —   | —       | —       | —       | —     | —      | —     | —       |
| D         | 1       | 147,420   | —   | —       | —       | —       | —     | —      | 1     | 157,311 |
| E         | —       | —         | —   | —       | —       | —       | —     | —      | —     | —       |
| 福井縣       | 175     | 498,539   | —   | —       | 1       | 11,833  | 1     | 20,977 | —     | —       |
| A         | —       | —         | —   | —       | —       | —       | 1     | 22,596 | —     | —       |
| B         | —       | —         | —   | —       | —       | —       | —     | —      | 1     | 64,199  |
| C         | —       | —         | —   | —       | —       | —       | —     | —      | —     | —       |
| D         | —       | —         | —   | —       | —       | —       | —     | —      | —     | —       |
| E         | —       | —         | —   | —       | —       | —       | —     | —      | —     | —       |
| 山梨縣       | 237     | 519,440   | 3   | 32,155  | —       | —       | —     | —      | —     | —       |
| A         | —       | —         | —   | —       | —       | —       | —     | —      | —     | —       |
| B         | —       | —         | —   | —       | —       | —       | —     | —      | —     | —       |
| C         | —       | —         | —   | —       | —       | —       | —     | —      | —     | —       |
| D         | —       | —         | —   | —       | —       | —       | —     | —      | —     | —       |
| E         | —       | —         | —   | —       | —       | —       | —     | —      | —     | —       |
| 長野縣       | 371     | 1,303,300 | 1   | 10,755  | 8       | 125,018 | 2     | 42,980 | —     | —       |
| A         | —       | —         | —   | —       | —       | —       | 1     | 35,138 | 1     | 53,874  |
| B         | —       | —         | —   | —       | —       | —       | —     | —      | 2     | 146,053 |
| C         | —       | —         | —   | —       | —       | —       | —     | —      | —     | —       |
| D         | —       | —         | —   | —       | —       | —       | —     | —      | —     | —       |
| E         | —       | —         | —   | —       | —       | —       | —     | —      | —     | —       |
| 岐阜縣       | 332     | 964,090   | 2   | 23,298  | —       | —       | —     | —      | —     | —       |
| A         | 1       | 9,319     | 3   | 53,078  | —       | —       | —     | —      | —     | —       |
| B         | —       | —         | —   | —       | —       | —       | —     | —      | —     | —       |
| C         | —       | —         | —   | —       | —       | —       | —     | —      | —     | —       |
| D         | —       | —         | —   | —       | —       | —       | —     | —      | —     | —       |
| E         | —       | —         | —   | —       | —       | —       | —     | —      | —     | —       |
| 静岡縣       | 305     | 1,187,766 | 7   | 79,842  | —       | —       | —     | —      | —     | —       |
| A         | —       | —         | 7   | 95,406  | 4       | 89,140  | —     | —      | —     | —       |
| B         | —       | —         | —   | —       | 1       | 44,027  | 1     | 55,665 | —     | —       |
| C         | —       | —         | —   | —       | —       | —       | —     | —      | —     | —       |
| D         | 1       | 121,040   | —   | —       | —       | —       | —     | —      | 2     | 245,959 |
| E         | —       | —         | —   | —       | —       | —       | —     | —      | —     | —       |
| 愛知縣       | 206     | 976,658   | 11  | 119,285 | —       | —       | —     | —      | —     | —       |
| A         | —       | —         | 21  | 297,501 | 1       | 22,965  | —     | —      | —     | —       |
| B         | —       | —         | —   | —       | 2       | 79,538  | 1     | 65,507 | —     | —       |
| C         | —       | —         | —   | —       | —       | —       | —     | —      | 1     | 98,555  |
| D         | —       | —         | —   | —       | —       | —       | —     | —      | —     | —       |
| E         | 1       | 768,558   | —   | —       | —       | —       | —     | —      | —     | —       |

昭和五年の地域に依る大正九年人口を基準として見たる

[illegible]

昭和五年の地域に依る大正十四年人口昭和五年人口の動き (續)

[illegible]









以上の諸表を一瞥して何よりも先づ我々は此のラボリアスな勞作に對して深甚の敬意を表する。時間の制限があつて此の結果の意義に關しては何等説明されなかつたのは遺憾である。著者は恐らくこの研究を基礎として注目すべき多くの勞作を近き將來に發表されることと思ふ。私は以上の諸表によつて注意すべき一つの事實だけを指摘して紹介の筆を措くこととする。それは「大正九年人口を百としたる大正十四年昭和五年人口」の表に見る如く、大都會に於ける増加率が最大であり、中、小、地方都會が此の順で之に次ぎ、村落人口の増加が最低であると云ふことである。これは人口の都市集中の結果であると云へばそれ迄であるが、この現象が有する經濟的、社會的意義は極めて複雑多岐であり重大である。特に地方別に之を見ると注目すべき幾多の重要な差異を示してゐる。例へば青森縣に於ては地方都市が減少を示してゐるが如き、之に反して石川、福井兩縣に於ては村落の減少、地方都市の増加の最大なること等々。

(昭和九・七・五)

附記 本稿校正中日本社會學會年報「社會學」(昭和九年十二月二十五日發行)が私の手元に送られた。此の年報に豊浦氏並に林氏の報告概要が掲載されてゐるが極めて簡單であつて此の稿と重複する點は少く寧ろ相補ふものである。相互参照されることを希望する。

(昭和一〇・二・三)

# 社會統計

研究員 増田重喜 編

(東京府管下に於ける社會統計を蒐集せるものにして、數字に關する解説は警視廳矢代警部の説明に據る)

## 目次

- 一、自殺者の諸傾向
- 二、家出人收容所取扱人員
- 三、營利職業紹介所の取扱人員
- 四、娼妓人員
- 五、密賣淫と花柳病
- 六、死亡率より觀たる傳染病
- 七、結核罹病人口
- 八、病類別に觀たる死亡人口の割合
- 九、精神病人員調査

## 一、自殺者の諸傾向

(イ)趨勢 不自然なる手段に依つて生命を絶つ、自殺者の東京市内に於ける狀態は、人口の激増、經濟情勢等の反映として年々

遞増し、大正十一年の既遂九百十六人、未遂四百五十三人が本年に至りては既遂千八百五人、未遂二千人を算し、既遂に於ては倍加し未遂にては、實に四倍餘に及んでゐる。之を前年に比するも、既遂二百十六人、未遂九百五十二人の著増である。

自殺者累年比較表

| 年次種別  | 計     |   | 既遂    |   | 指     |   | 未遂     |   | 未遂     |   |
|-------|-------|---|-------|---|-------|---|--------|---|--------|---|
|       | 年     | 別 | 年     | 別 | 年     | 別 | 年      | 別 | 年      | 別 |
| 大正十一年 | 一、三六九 |   | 九一六   |   | 四五三   |   | 一〇〇〇〇  |   | 一〇〇〇〇  |   |
| 〃 十二年 | 七六四   |   | 五九一   |   | 一七三   |   | 六四・五二  |   | 三八・一九  |   |
| 〃 十三年 | 一、二九二 |   | 八九五   |   | 三九七   |   | 九七・七一  |   | 八七・六四  |   |
| 〃 十四年 | 一、四七八 |   | 九七六   |   | 五〇二   |   | 一〇六・五五 |   | 一一〇・八二 |   |
| 昭和元年  | 一、五一六 |   | 一、〇二六 |   | 四九〇   |   | 一一二・〇〇 |   | 一〇八・一七 |   |
| 〃 二年  | 一、七八七 |   | 一、一六〇 |   | 六二七   |   | 一二六・六四 |   | 一三八・四一 |   |
| 〃 三年  | 一、八〇二 |   | 一、一八五 |   | 六一七   |   | 一二九・三七 |   | 一三六・二〇 |   |
| 〃 四年  | 一、八五〇 |   | 一、一五一 |   | 六九九   |   | 一二五・六六 |   | 一五四・三〇 |   |
| 〃 五年  | 一、九三四 |   | 一、二七二 |   | 六六二   |   | 一三八・八六 |   | 一四六・一四 |   |
| 〃 六年  | 二、〇八五 |   | 一、三一八 |   | 七六七   |   | 一四三・八九 |   | 一六九・三二 |   |
| 〃 七年  | 二、六三七 |   | 一、五八九 |   | 一、〇四八 |   | 一七三・四七 |   | 二三一・三四 |   |
| 〃 八年  | 三、八〇五 |   | 一、八〇五 |   | 二、〇〇〇 |   | 一九七・〇五 |   | 四四一・五〇 |   |

(ロ)原因 自殺の原因は之を個々に環境とか遠因等に及ぶときは、複雑なる種々の場合が想像せられ、斯様な分類は寧ろ不可能事であつて、表示の分類も自殺當時の状態を基礎としたものである。自殺者(未遂をも含む)男女の總數に就て其の割合を見るに、病苦に因るもの七百三十三人を算へ、總數の一割九分強を占め最も多く、家庭、親族の不和、失戀の各〇・九割、精神錯亂、活計困難、失業、憂鬱等の各〇・六五割内外之に次いでゐる。

詳細なる數字は表に明かであるが、特に注意を要する現象を摘録すると、輒近の深刻なる不況の反映と見られる失業に因る數が比較的多數で且増加の趨勢にあること、性別の比較に於て、失業に因るもの及淫逸放蕩は殆ど男が此の全部であつて、活計困難も亦男は女に倍してゐるが痴情又は嫉妬離縁を悲しみて等には流石に殆ど全部女であつて、男女境遇の反映が見られる。

自殺原因 (昭和八年)

| 計  | 病苦    |     | 精神錯亂  |     | 活計困難 |     | 痴情又は嫉妬 |     | 家庭又は親族不和 |     | 失業に因り |    | 憂鬱に因り |    | 淫逸放蕩 |     | 互に情死を謀りて |   | 失戀に因りて |   | 離縁を悲しむ |   | その他 |   | 不詳 |
|----|-------|-----|-------|-----|------|-----|--------|-----|----------|-----|-------|----|-------|----|------|-----|----------|---|--------|---|--------|---|-----|---|----|
|    | 女     | 男   | 女     | 男   | 女    | 男   | 女      | 男   | 女        | 男   | 女     | 男  | 女     | 男  | 女    | 男   | 女        | 男 | 女      | 男 | 女      | 男 | 女   | 男 |    |
| 計  | 二、四八八 | 四八六 | 一、三三三 | 一一一 | 一八一  | 四〇  | 一七     | 一六二 | 二三五      | 一九二 | 五八    | 七五 | 二〇一   | 一一 | 五〇五  | 二二二 | 六九       |   |        |   |        |   |     |   |    |
| 既遂 | 一、一五五 | 二六五 | 一五〇   | 七三  | 四二   | 一五  | 一〇     | 五六  | 七五       | 三五  | 二〇    | 二九 | 三八    | 一七 | 一一二  | 二二二 | 六九       |   |        |   |        |   |     |   |    |
| 未遂 | 一、三三三 | 二二一 | 二二一   | 四九  | 一〇五  | 二五  | 七      | 一〇六 | 一六〇      | 一七  | 三八    | 四六 | 一四三   | 八  | 三三三  | 二二二 | 六九       |   |        |   |        |   |     |   |    |
| 女  | 六六七   | 九七  | 三八    | 三八  | 二五   | 一〇八 | 九      | 四一  | 二        | 四八  | 一〇六   | 一七 | 一三八   |    |      |     |          |   |        |   |        |   |     |   |    |
| 男  | 一、三三三 | 二二一 | 二二一   | 四九  | 一〇五  | 二五  | 七      | 一〇六 | 一六〇      | 一七  | 三八    | 四六 | 一四三   | 八  | 三三三  | 二二二 | 六九       |   |        |   |        |   |     |   |    |



(ハ)年齢 自殺者の年齢分布を見ると、二十才以上三十才未満の數、男子三百四十人、女六百三十人で男女共に他の各年齢級を凌駕し總數の實に五割五分弱、即ち半數餘に及ぶのである。思想變化し易く感激性に富むことと環境に因るものであらう。尚二十歳未満の年少者に於て、男四百五十三人女二百六十五人の多數を算へることも注意せらるべき事實である。

自殺者年齢別 (昭和八年)

| 年齢別   | 利別    |       | 計     |     | 既     |     | 遂 |   | 未 |   |
|-------|-------|-------|-------|-----|-------|-----|---|---|---|---|
|       | 男     | 女     | 男     | 女   | 男     | 女   | 男 | 女 | 男 | 女 |
| 計     | 二、四八八 | 一、三二七 | 一、一五五 | 六五〇 | 一、三三三 | 六六七 |   |   |   |   |
| 十六歳未満 | 三四    | 一九    | 一五    | 八   | 一九    | 一一  |   |   |   |   |
| 十六歳以上 | 四一九   | 二四六   | 一二二   | 八二  | 二九七   | 一六四 |   |   |   |   |
| 二十歳以上 | 一、三四〇 | 六三〇   | 四九一   | 二五五 | 八四九   | 三七五 |   |   |   |   |
| 三十歳以上 | 二三〇   | 一五五   | 一四六   | 九一  | 八四    | 六四  |   |   |   |   |
| 四十歳以上 | 一三二   | 八一    | 九一    | 五四  | 四一    | 二七  |   |   |   |   |
| 五十歳以上 | 二七    | 一六二   | 二三四   | 一三六 | 四三    | 二六  |   |   |   |   |
| 不詳    | 五六    | 二四    | 五六    | 二四  | 一     | 一   |   |   |   |   |

二、家出人收容所取扱人員

昭和七年四月二十七日家出人收容所 (小石川區小石川町一番地所在積善寮) 開所せられて、翌五月一日より實際事務の實施を

見たのであるが、其の取扱は各警察署に於て、發見救護したる家出人中、泥酔者、瘋癲者、企自殺者以外のもので、且犯罪並思想上何等容疑の點なき、純然たる家出人に對する救護保護を目的とするものであつて、本年中に於ける取扱は男一千八百十人、女六百七人、計二千四百七十七人で、其の延人員は男一萬一千八百八十七人、女三千三百二十四人、計一萬四千五百十六人を算へ一箇月平均の新收容人員は二百一人に及び、延人員に一千二百九人である。

之等收容者の家出原因、家庭配偶關係、取扱結束等は次表に明かであるが、特に家庭關係に於て、兩親なきもの、父母何れか一方のみの者の計數は、九百三十人で總數の、三割八分強に及び、家庭的な不遇者の極めて多いことを物語つてゐる。尙配偶關係に於ては未婚者九割六分を占めて居り年齢別から見ると二十年未満千六百九十二人で七割に及び、次いで二十年以上三十年未満六百五十人、二割七分で三十年以上は僅かに七十餘人三分の割合であつて青少年が大部分を占むる譯である。

| 家 出 原 因     |       |   |       |   |
|-------------|-------|---|-------|---|
| 家 庭 不 和     | 一 二 九 | 計 | 二、四一七 | 計 |
| 戀 愛 關 係     | 七 二   |   |       |   |
| 厭 世 悲 觀     | 一 二 二 |   |       |   |
| 性 行 不 良     | 二 〇 六 |   |       |   |
| 誘 惑         | 二 〇 五 |   |       |   |
| 都 會 憧 憬     | 二 〇 二 |   |       |   |
| 拐 帶         | 四 三   |   |       |   |
| 業務を嫌ひて      | 三 一 〇 |   |       |   |
| 他の業を求めて     | 九 六 九 |   |       |   |
| 其の他の        | 三 五 九 |   |       |   |
|             |       |   | 一、八一〇 | 男 |
|             |       |   | 六〇七   | 女 |
| 家 庭 配 偶 關 係 |       |   |       |   |
| 兩 親 有       | 一、四八七 | 計 | 二、四一七 | 計 |
| 父 の み       | 三 二 二 |   |       |   |
| 母 の み       | 三 九 七 |   |       |   |
| 計           | 二、四一七 |   |       |   |
| 未 婚         | 二、三三三 | 計 | 二、四一七 | 計 |
| 配 偶         | 六 八   |   |       |   |
| 死 別         | 三 六   |   |       |   |
| 死 別         | 三 六   |   |       |   |
| 取 扱 結 末     |       |   |       |   |
| 家 族         | 七 四 二 | 計 | 二、四二二 | 計 |
| 親 戚         | 三 七 〇 |   |       |   |
| 知 己         | 一 六 八 |   |       |   |
| 雇 主         | 二 六 九 |   |       |   |
| 幼 少 年       | 六 三   |   |       |   |
| 保 護 所       | 七 九   |   |       |   |
| 其の他の        | 一 一 八 |   |       |   |
| 職業          | 五 二 三 |   |       |   |
| 釋 放         | 九 〇   |   |       |   |
| 其の他の        | 九 〇   |   |       |   |



三、營利職業紹介所の取扱人員

茲に紹介取扱人員とは、藝娼妓、酌婦等の紹介を除きたる私營職業紹介業者の取扱たる員數を指稱するものである。女子求職は近年非常なる増加を來たし、昭和五年遂に男子數を凌駕して以來年々増加を來し本年も昨年と同様一萬六千六百餘人の差數を示し、斷然優勢となつた。以上は大體求職者方面の概觀であるが需要方面の趨勢も寧ろ其の誘因は需要者側にあるかも知れないが、略々其の軌を同じうして男子の漸減に反し女子は遞増の傾向を辿つてゐる。左に就職者の比率を観るに年々有利に轉廻して、本年は昨年より更に七%の増加である。更に之を男女別に見ると男子は六七%より七六%に女子は五八%より六四%とに孰れも就職率が増加した。

營利職業紹介取扱人員累年比較

| 種別 | 年次   | 營業者數 | 求人      |         | 求職登錄數   |         | 就職者數    |         | 就職率 %  |        |
|----|------|------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|--------|--------|
|    |      |      | 計       | 男女      | 計       | 男女      | 計       | 男女      | 計      | 男女     |
| 實數 | 昭和五年 | 二二八  | 800,743 | 二二八,740 | 一八八,四六六 | 一八一,一三三 | 一四〇,〇三三 | 一三一,一〇一 | 六三,800 | 七〇,833 |
|    | 同 六年 | 二二六  | 三〇〇,373 | 二〇〇,二二九 | 一六〇,二二〇 | 一三六,一三三 | 一二一,七三三 | 一三六,一三七 | 六七,三三三 | 六九,五九二 |
|    | 同 七年 | 二二八  | 809,733 | 二〇九,七三三 | 一〇三,二二〇 | 一〇三,二二〇 | 一二一,七三三 | 一二一,七三三 | 七六,二二〇 | 七六,二二〇 |
|    | 同 八年 | 二二五  | 801,740 | 二〇一,七四〇 | 一〇三,二二〇 | 一〇三,二二〇 | 一二一,七三三 | 一二一,七三三 | 七六,二二〇 | 七六,二二〇 |
| 指  | 昭和五年 | 100  | 100     | 100     | 100     | 100     | 100     | 100     | 100    | 100    |

| 數 | 同 六年 | 同 七年 | 同 八年 | 計  | 男  | 女  | 計  | 男  | 女  | 計  | 男  | 女  |
|---|------|------|------|----|----|----|----|----|----|----|----|----|
|   |      |      |      |    |    |    |    |    |    |    |    |    |
| 數 | 九六   | 九六   | 八七   | 九六 | 九六 | 九六 | 九六 | 九六 | 九六 | 九六 | 九六 | 九六 |

因に其の就職先は男子に於ては商業方面を最高とし、家内使用人、通信運搬人が之に亞ぎ、是等三者の合算數は男子總體の約七割強を占めてゐる。女子は家内使用人に最も多く總體の約八割を占め商業方面は約一割と云ふ状態である。

四、娼妓人員

娼妓と貸座敷並に遊客と其の遊興費に就て最近十ヶ年の情勢を観るに娼妓と貸座敷とは毎年増加の傾向を辿り、本年末現在娼妓數は七千三百九十一人、貸座敷數は八百六軒である。遊客人員も概して増加の傾向を歩み、現在五百三十五萬五千人を算してあるが獨り其の遊興費に至つては、將に反比例して大正十三年の一人平均消費額四圓六十八錢に對し、本年は僅かに其の半額にも達しない二圓三十錢であつて現下の經濟狀態を物語るものと謂へやう。

尙娼妓の稼業地たる遊廓は新吉原、洲崎を筆頭に新宿、品川、千住、板橋、八王子、府中、調布の九箇所外に小笠原島に貸座敷一を數へる。

而して貸座敷總數は本年末現在八百六軒であり就中新吉原、洲崎は各三百軒を數へ、其の大部を占めてゐる。

娼妓と貸座敷並に其の遊客

| 年次     | 種別     | 貸座敷数 | 娼妓数   | 遊客人員      | 遊客一人平均消費金額 |
|--------|--------|------|-------|-----------|------------|
| 大正十三年  | 大正十三年  | 七三四  | 四、九八九 | 四、一九九、四四六 | 四・六八       |
| 昭和十四年  | 昭和十四年  | 七四五  | 五、一五九 | 三、七四三、九九二 | 四・二七       |
| 昭和十五年  | 昭和十五年  | 七四四  | 五、二九一 | 三、九四四、四三六 | 三・七五       |
| 昭和十六年  | 昭和十六年  | 七五〇  | 五、七三二 | 四、二二一、六三一 | 三・七七       |
| 昭和十七年  | 昭和十七年  | 七四八  | 六、一三二 | 四、六九八、〇〇三 | 三・七四       |
| 昭和十八年  | 昭和十八年  | 七六三  | 六、四一七 | 四、一八三、〇一二 | 三・六二       |
| 昭和十九年  | 昭和十九年  | 七六九  | 六、七九四 | 四、〇一四、一四九 | 三・〇八       |
| 昭和二十年  | 昭和二十年  | 七七五  | 七、一五六 | 四、六一五、四四六 | 二・五八       |
| 昭和二十一年 | 昭和二十一年 | 七九二  | 七、五四九 | 四、九一九、五二六 | 二・三六       |
| 昭和二十二年 | 昭和二十二年 | 八〇六  | 七、三九一 | 五、三五四、九一九 | 二・三〇       |

### 五、密賣淫と花柳病

東京府各署に於ける密賣淫犯者数は本年中千八百四十八人であり年々減少の傾向にあるが之を以て直に密賣淫の趨勢を現はすものとは見られない。

蓋し密賣淫の合理的取締は廢娼問題の解決を見たる今後に残された懸案であつて、今將に其の研究準備の時代だからである。併しながら之より生ずる衛生上の危害はそれが直に國民保健に影響するところ大であるから一日も之を等閑に附することが出来

な。

斯かる情勢に促されて昭和三年九月遂に花柳病豫防法の施行を見たのであるが、然らば同施行法施行の効果は如何であうか。

今密賣淫の健康診断成績を觀るに其の施行を見たる昭和三年に於ける花柳病罹病者数は健康診断施行人員二千四百六十六人に對し七百二十一人であつて實に二十九%であつたが爾來逐年減少を示し本年末現在に於ては其の施行人員千七百九十一人に對し百五十六人であつて僅かに九%に過ぎない。之、取りも直さず花柳病豫防法の効果であつて、同法が其の施行以來着々其の實效を顯はしてゐることを物語つて餘りあると思ふ。

### 密賣淫の健康診断成績

| 年次   | 種別   | 賣淫犯者  | 健康診断施行人員 | 有病  |     |      |         | 無病 |       |
|------|------|-------|----------|-----|-----|------|---------|----|-------|
|      |      |       |          | 計   | 花柳病 | 軟性下疳 | 性病總數に對す | 其他 | 無病    |
| 昭和三年 | 昭和三年 | 二、八二〇 | 二、四六六    | 七二一 | 一一  | 五六六  | 一四四     | 二九 | 一、六九五 |
| 同四年  | 同四年  | 二、六九六 | 二、二六九    | 三六五 | 一二  | 三〇三  | 五〇      | 一六 | 一、八九四 |
| 同五年  | 同五年  | 二、八九六 | 二、六一七    | 三二〇 | 四   | 二七七  | 三九      | 一二 | 二、二七五 |
| 同六年  | 同六年  | 二、七〇六 | 二、四四四    | 三四二 | 五   | 二八〇  | 五七      | 一四 | 二、〇九三 |
| 同七年  | 同七年  | 一、九〇〇 | 一、七六七    | 一六七 | 一八  | 一三四  | 一五      | 九  | 一、五九六 |
| 同八年  | 同八年  | 一、八四八 | 一、七九〇    | 一五六 | 五   | 一〇一  | 五〇      | 九  | 一、六一八 |

## 六、死亡率より観たる傳染病

近時死亡率の最も高きは流行性腦脊髄膜炎であつて、疫痢、腸「チブス」、「デフテリア」、赤痢の順序で昭和三年以降五ヶ年の平均死亡率を観るに、罹病者百人中流行性腦脊髄膜炎は六十六人、疫痢五十八人、腸「チブス」及「デフテリア」十九人、赤痢十六人である。死亡率の最も低きは猩紅熱及「パラチブス」の二者であつて、百人に就き僅かに三人乃至七人の割合である。

傳染病總平均の死亡率は、昭和三年に於ては百人に就き二十八人弱であつたが、本年は二十一人となつて七人の減少を示し、又各病に就て見るも漸減しつゝあるが殊に赤痢、「デフテリア」等最も著しく、其の昭和三年以降本年迄の減少の割合は平均毎年百人中疫痢約四人、其の他の赤痢及「デフテリア」は共に一人強と謂ふ好成绩を示してゐる。

## 最近六ヶ年間に於ける死亡率 (%)

| 年次      | 種別 | コレラ  | 赤痢   | 其 他   | 腸チブス  | チブス  | 發疹チブス | 痘瘡    | 猩紅熱  | デフテリア | ペスト | 流行性腦脊髄膜炎 | 平均    |
|---------|----|------|------|-------|-------|------|-------|-------|------|-------|-----|----------|-------|
| 昭和三年    |    | —    | 六・六一 | 一八・〇三 | 二〇・三三 | 九・八八 | —     | 一七・九二 | 三・三三 | 二〇・九七 | —   | 七・六二     | 二七・七七 |
| 同 四 年   |    | —    | 六・三三 | 一六・七七 | 一九・八一 | 八・四三 | —     | —     | 四・〇一 | 三〇・六三 | —   | 六・〇〇     | 二七・三〇 |
| 同 五 年   |    | —    | 五・一一 | 一四・八一 | 一九・八三 | 六・〇七 | —     | 一〇・〇〇 | 三・三三 | 一八・三二 | —   | 六・六六     | 二五・八一 |
| 同 六 年   |    | —    | 四・〇七 | 一四・〇七 | 一九・七九 | 四・八九 | —     | —     | 三・四六 | 一八・七八 | —   | 六・五三     | 二三・七〇 |
| 同 七 年   |    | 三・三三 | 五・〇三 | 一三・六六 | 一八・一七 | 七・一〇 | —     | —     | 三・〇〇 | 一六・五五 | —   | 六・九三     | 二二・四三 |
| 五ヶ年間の平均 |    | 六・七七 | 五・七八 | 一五・五四 | 一九・五八 | 七・二七 | —     | 三・三八  | 三・四二 | 一九・〇五 | —   | 六・五八     | 二五・三八 |
| 昭和八年    |    | —    | 四・八八 | 一二・三三 | 二〇・五九 | 六・九三 | —     | 一八・六〇 | 二・五五 | 一六・四三 | —   | 七・〇九     | 二二・一〇 |

## 七、結核罹病人口

結核中恐るべき肺結核に付いて、昭和四年以降五ヶ年の平均に依りて、年齢分布の百分比を見るに、二十歳以上三十歳以下の三四・七%を最多とし、次は十一歳以上二十歳未満の二五・八%にして爾他の年齢は著しく低下し、三十一歳以上四十歳以下一七・六%、四十一歳以上五十歳以下九・九%、五十歳以上九・二%、十歳以下二・七%の割合になつてゐる。

尙其の他の結核も殆ど之と軌を同じうしてゐる。此の年齢分布から見ると、三十歳以下の少壯年期中最も死亡者が多く、三十歳以上年齢の進むに伴つて、其の率が著しく低下することが明瞭であると同時に反面から、罹患者の數も之に比例するものと觀て誤りないと思ふ。結局少壯年期中本病に對する最も危険期であることは、一般に觀念せられるところであると共に、統計の數字も亦明かに之を證明してゐる。率こそ極めて低いが、三十歳以上の中老年に至りても亦十歳以下の幼年期中にも前記の數字を示し、遍く各年齢に分布し世人の老年期に入りては皆無であるやうに考へられてゐることも一つの誤謬であることが指摘されるのである。

次に五ヶ年間平均肺結核男女の死亡割合は、男の五六%強に對し女子は四四%弱にして、女子の死亡割合が少い結果が現はれてゐる。或は妥當なる觀察でないかも知れぬが男子の外部的活動が罹患機會を多からしむる結果ではあるまいかと考へられる。

更に累年の趨勢を見るに僅かに五ヶ年の統計ではあり、人口増加も考慮せなければならぬが單に數字の上では、甚だしき増加を見ざると同時に激減の傾向も見られない。本年中東京市中の死亡總數八萬九千三百七十人に對する本病の割合は、一四・七%中肺結核一一%弱にして、所謂、俗に四百四病とも言はれる病氣中此の割合は恐るべき高率であると言はねばならぬ。



今茲に、全國の肺結核患者死亡の割合を見るに、昭和七年全國死亡者總數百十七萬五千三百四十四人中、結核性に因り死亡したるものは十一萬九千九百九十六人にして、全死亡者數の一〇・一%強に當り内肺結核に因るもの八萬七千四百二十七人、七・四%であつて、東京府下に比し遙かに低率である。

肺結核及其他結核死亡人口累年比較

| 年次   | 病名    | 結核死亡者 |       |       |        |        |       | 結核死亡割合 |
|------|-------|-------|-------|-------|--------|--------|-------|--------|
|      |       | 總計    | 十一歳未満 | 十一歳以上 | 四十一歳未満 | 四十一歳以上 | 男女率   |        |
| 昭和四年 | 肺結核   | 四、六八九 | 一、四〇〇 | 一、〇九〇 | 一、四〇〇  | 一、三〇〇  | 五五・五% | 〇・一三六  |
|      | 其他の結核 | 一、〇〇〇 | 四六三   | 四九三   | 一七三    | 二四三    | 四七・五% | 〇・一五六  |
| 同五年  | 肺結核   | 四、六三三 | 一、三〇〇 | 一、一八三 | 一、四〇七  | 一、三〇三  | 五三・九% | 〇・一五〇  |
|      | 其他の結核 | 一、六七三 | 四八三   | 四八三   | 一三〇    | 二二二    | 四六・六% | 〇・一五三  |
| 同六年  | 肺結核   | 三、七四三 | 一、〇九一 | 一、一五三 | 一、三〇三  | 一、〇〇一  | 四六・六% | 〇・一四三  |
|      | 其他の結核 | 一、六八〇 | 四六一   | 四四〇   | 一五〇    | 二四八    | 四三・七% | 〇・一三七  |
| 同七年  | 肺結核   | 四、八八九 | 一、三〇〇 | 一、〇四四 | 一、六三七  | 一、四〇九  | 五三・五% | 〇・一五三  |
|      | 其他の結核 | 一、七〇六 | 四〇六   | 四三三   | 一七〇    | 二六六    | 四八・八% | 〇・一四九  |

八、病類別に觀たる死亡人口の割合

| 平均比率 | 同八年 |       | 平均比率 |
|------|-----|-------|------|
|      | 肺結核 | 其他の結核 |      |
| 100  | 100 | 100   | 100  |
| 二・七  | 二・八 | 二・八   | 二・七  |
| 三・八  | 三・八 | 三・八   | 三・八  |
| 一・七  | 一・七 | 一・七   | 一・七  |
| 一・九  | 一・九 | 一・九   | 一・九  |
| 六・九  | 六・九 | 六・九   | 六・九  |
| 二・七  | 二・七 | 二・七   | 二・七  |
| 六・三  | 六・三 | 六・三   | 六・三  |
| 一・一  | 一・一 | 一・一   | 一・一  |
| 四・七  | 四・七 | 四・七   | 四・七  |
| 〇・一  | 〇・一 | 〇・一   | 〇・一  |

昭和八年中に於ける東京市中の死亡者八萬九千三百七十人の病類を大別して、其の割合を見るに、其の最高は肺結核で一〇・九%に當り、更に其の他の結核四%を加へたる所謂結核性疾患は、實に一四・九%で約一割五分を占めてゐる。次で腸胃其の他消化器疾患九・八%、肺炎及氣管支炎九・六%、腦出血及腦卒中八・四%決定傳染病七・一%等の順序である。而して、之等死亡者の總數に就て年齢別の割合を見るに、十歳以下最も多く、實に三八・二%を占め、六十歳以上の一九・二%に次いでゐる。他は著しく低下して、二二——三〇歳一〇・三%、五一——六〇歳九・三%、一一——二〇歳八・五%、三十一——四〇歳七・四%、四十一——五〇歳の七・一%の順序である。

次に年齢別の病類に就て見るに、驚異すべき高率の十歳以下の幼年者に於ては、肺炎及氣管支肺炎、腸胃其の他消化器疾患の各一七・七%強、傳染性疾患(主に疫痢)一五・一%、畸形及先天性弱疾一四・六%の四類斷然多く、之等の計は實に六割五分を占めて



ある。  
次いで高率なる六十一歳以上の高齢者の病類割合は、脳出血脳卒中二三・七%、老衰一七・四%、急慢性の腎臓炎一二・一%の三類最も多く之等の計は五割四分に相當する。

尙、その他死亡割合低き一一・五〇歳特に壯老年期に於ける病類に於て結核性疾患斷然多きことは、特に關心を要する事實である。

以上に依り如何なる年齢に死亡者が多いか、又年齢別に依る病類關係の概要は判然すると思ふが、尙詳しくは左表に就て検討せられたのである。

死亡者病類大別 (昭和八年中)

| 種別                    | 年齢別 | 總數    | 十歳以下  | 二十歳以下 | 三十歳以下 | 四十歳以下 | 五十歳以下 | 六十歳以下 | 六十一歳以上 | 總數ヲ千トシタル指數 |
|-----------------------|-----|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|--------|------------|
| 總數                    |     | 八,九七〇 | 三,四六一 | 七,六九  | 九,一六三 | 六,五八六 | 六,三九  | 八,一九二 | 一七,一五〇 | 一,〇〇〇      |
| 法定傳染病                 |     | 六,三四三 | 五,一六七 | 三二    | 三〇六   | 三〇六   | 一〇三   | 一〇六   | 一三     | 七二         |
| 肺結核                   |     | 九,七七七 | 二六    | 二,七五  | 三,四七  | 一,六三  | 九八    | 一〇六   | 二九〇    | 一〇九        |
| 其他の結核                 |     | 三,五七  | 一,〇五  | 九八    | 七九    | 三六    | 一八三   | 二六    | 七      | 四〇         |
| 麻疹及百日咳                |     | 二,二七  | 二,二七  | 一     | 一     | 一     | 一     | 一     | 一      | 二五         |
| 其他急慢性傳染病              |     | 二,三〇六 | 一,一〇  | 二七    | 一五    | 一九九   | 一九三   | 一九    | 二二     | 二六         |
| 肺炎及氣管支肺炎              |     | 八,四四  | 五,八三  | 三〇    | 四七    | 三六    | 三九    | 三〇七   | 八八     | 九六         |
| 急慢性氣管支炎、同肋膜炎及其他の呼吸器疾患 |     | 三,九七一 | 一,一四  | 四八    | 四六    | 二八    | 二九〇   | 四二八   | 八七九    | 四四         |

### 九、精神病者人員調査

本調査に關しては内務省衛生局豫防課長高野六郎氏の資料より輯録したものである。

精神病者は年々増加する。其の増加の趨勢は次表の示す通りであつて、大體に於て患者實數も人口に對する患者數も、段々増して居る。昭和六年の患者總數七三、七三一人、人口一萬に就き一一・二八と云ふのが最近の數字である。

此の調査の數字は警察調査の結果であつて、醫學的診斷の成績でない。従つて此の調査が一層正確に行はれるに至ることは望ましくもあるし、又正確に調査すれば患者數も更に増加するであらうと考へられる。現在の儘にしても人口千人に對し一人以上

|              |       |       |      |      |       |       |       |       |      |
|--------------|-------|-------|------|------|-------|-------|-------|-------|------|
| 腸胃其他消化器の疾患   | 八,七七一 | 五,三〇〇 | 二七六  | 三〇〇  | 一,〇四  | 二,五〇  | 五,一〇  | 一,〇八  | 九八   |
| 心臟麻痺其他血行器の疾患 | 四,七三  | 六〇八   | 二九   | 四一   | 五〇五   | 六三    | 八四    | 一,九八  | 五三   |
| 痛及其他惡性腫瘍     | 三,六三七 | 三七    | 三    | 七六   | 二七九   | 六七六   | 一,一三四 | 一,四一四 | 四一   |
| 腦出血及腦卒中      | 二,一〇七 | 一,〇七  | 二三四  | 一五   | 八〇    | 五三    | 五〇    | 三     | 二六   |
| 腦膜炎          | 七,四八九 | 一     | 八    | 一五   | 三五六   | 九四七   | 二,〇四四 | 四,〇六四 | 八四   |
| 急慢性腎臓炎       | 四,六六  | 五五四   | 二四   | 二五   | 三三三   | 四〇九   | 六六七   | 二,三四四 | 五三   |
| 畸形及先天性弱質     | 四,九四  | 四,九七四 | 二    | 一    | 四     | 一     | 一     | 一     | 五六   |
| 老衰           | 二,〇四  | 一     | 一    | 一    | 一     | 一     | 一     | 一     | 三四   |
| 自殺及外因死       | 二,九五  | 五三四   | 四八四  | 七六   | 三七〇   | 二八二   | 二七    | 三三    | 三三   |
| 其他の疾患        | 九,九七  | 二,六七  | 一,二〇 | 一,五八 | 一,二八六 | 一,〇四三 | 九二九   | 一,九八〇 | 一一   |
| 診斷不明の死       | 二五    | 三     | 三    | 二    | 三     | 四     | 三     | 七     | 〇・二八 |

の精神病者があると云ふことは嚴然たる事實なのである。

| 年次     | 精神病者總數 | 前年度精神病者との差 | 人口一萬人に付 | 前年の人口一萬人に付きの差 |
|--------|--------|------------|---------|---------------|
| 明治三十八年 | 二三、九三一 | +          | 五〇〇     | +             |
| 大正四年   | 四一、九二〇 | +          | 七、五一    | +             |
| 同五年    | 四四、二二五 | +          | 八、〇一    | +             |
| 同六年    | 四八、四六〇 | +          | 八、六五    | +             |
| 同七年    | 四九、四二七 | +          | 八、八八    | +             |
| 同八年    | 四九、三九八 | +          | 八、七九    | +             |
| 同九年    | 四九、四六三 | +          | 八、七〇    | +             |
| 同十年    | 五〇、八九一 | +          | 八、九七    | +             |
| 同十一年   | 五一、七二八 | +          | 八、九七    | +             |
| 同十二年   | 五二、六〇一 | +          | 九、一九    | +             |
| 同十三年   | 五四、六七三 | +          | 八、九八    | +             |
| 同十四年   | 五〇、四〇九 | +          | 九、五一    | +             |
| 大正十五年  | 六〇、四〇九 | +          | 九、九八    | +             |
| 昭和元年   | 六二、三六七 | +          | 一〇、一七   | +             |
| 昭和二年   | 六九、五五三 | +          | 一一、二〇   | +             |
| 昭和三年   | 六八、〇〇〇 | +          | 一〇、八〇   | +             |
| 昭和四年   | 七三、一六六 | +          | 一一、三五   | +             |
| 昭和五年   | 七三、七三一 | +          | 一一、二八   | +             |

自昭和八年一月移殖民に關する文献目錄

海外興業株式會社調査課

單行書

洋書

| 著者      | 書名               | 發行日    | 備考           | 筆著者      | 記事                        | 誌名   | 卷號   |
|---------|------------------|--------|--------------|----------|---------------------------|------|------|
| 永田 和    | 農村人口問題と移殖民移住地の建設 | 昭和八年二月 | 日本評論社發行      | 在伯、林 大 使 | 一九三二年中「リオデ・ジャネイロ」港發着移民統計表 | 移民情報 | 五卷六號 |
| 大塚 好    | 移殖民と教育問題         | 八、二    | 日本力行會發行      | 在伯、林 大 使 | 一九三二年中「サン・パウロ」港發着移民統計表    | 移民情報 | 五卷七號 |
| 招務省     | 招務要覽(昭和七年度)      | 八、一    | 刀江書院發行       | 在伯、林 大 使 | 一九三二年中「サン・パウロ」港發着移民統計表    | 移民情報 | 同 一二 |
| 同       | 招務統計(同)          | 同      |              | 在伯、林 大 使 | 一九三二年中「サン・パウロ」港發着移民統計表    | 移民情報 | 同 九  |
| 同       | 移殖民關係法規          | 八、四    |              | 在伯、林 大 使 | 一九三二年中「サン・パウロ」港發着移民統計表    | 移民情報 | 同 十  |
| 外務省通商局  | 海外發展と衛生問題        | 同      |              | 在伯、林 大 使 | 一九三二年中「サン・パウロ」港發着移民統計表    | 移民情報 | 同 九  |
| 同       | 海外在留本邦人口表(昭和七年度) | 同      |              | 在伯、林 大 使 | 一九三二年中「サン・パウロ」港發着移民統計表    | 移民情報 | 同 四  |
| 田中 秀作   | 我國の向外性と植民地理教育    | 同      | 彦根高商調査研究第二九輯 | 在伯、林 大 使 | 一九三二年中「サン・パウロ」港發着移民統計表    | 移民情報 | 同 四  |
| 外務省通商局  | 伊太利移民            | 同      |              | 在伯、林 大 使 | 一九三二年中「サン・パウロ」港發着移民統計表    | 移民情報 | 同 四  |
| 矢内原 忠雄  | 植民及植民政策(改訂)      | 八、八    | 有斐閣發行        | 在伯、林 大 使 | 一九三二年中「サン・パウロ」港發着移民統計表    | 移民情報 | 同 四  |
| ハッドン 著  | 民族移動史            | 八、九    | 改造文庫・改訂發行    | 在伯、林 大 使 | 一九三二年中「サン・パウロ」港發着移民統計表    | 移民情報 | 同 四  |
| 小山 榮三 譯 | 南海雄飛記            | 九、二    | 實業之日本社發行     | 在伯、林 大 使 | 一九三二年中「サン・パウロ」港發着移民統計表    | 移民情報 | 同 五  |
| 編纂之日本社  | 日本神話第二卷          | 同      | 實業之日本社發行     | 在伯、林 大 使 | 一九三二年中「サン・パウロ」港發着移民統計表    | 移民情報 | 同 五  |
| 西村 眞次   | 御朱印船と日本人の海外進出    | 八、一二   | 新潮社發行        | 在伯、林 大 使 | 一九三二年中「サン・パウロ」港發着移民統計表    | 移民情報 | 同 九  |

International Labour Office, Report IV.  
Maintenance of the Rights in Course of Acquisition and the Acquired Rights of Migrant Workers under Invalidity, Old-age and Widows' and Orphans' Insurance.  
雜誌記事論文

|           |                          |      |       |     |
|-----------|--------------------------|------|-------|-----|
| 在ミラン      | 伊太利の出移民近況                | 移民情報 | 五卷六號  | 通商局 |
| 在獨上       | クント將軍のアマゾン水源地方植民計畫       | 同    | 同二    | 同   |
| 藤井臨時代理大使  | 獨逸人の南伯進出                 | 同    | 同一一   | 同   |
| 在山總領事     | 伯國バラナ州向埃太利移民の渡伯民移動狀況     | 同    | 同一二   | 同   |
| 在西山總領事    | 一九三一年度に於ける西班牙移民移動狀況      | 同    | 同五    | 同   |
| 青木公使      | 葡國最近の移民概況                | 同    | 同一一   | 同   |
| 在荷蘭公使     | 希臘國海外移動狀況                | 同    | 同一一   | 同   |
| 嘉納臨時代理公使  | 一九三二年中に於けるユーゴ一スラヴィア出移民統計 | 同    | 同六    | 同   |
| 水野臨時代理公使  | 昭和七年中に於ける本邦人歸國者數         | 同    | 同〇    | 同   |
| 通商局       | 昭和七年中移民渡航許可數             | 同    | 同一二   | 同   |
| 同         | 在外邦人概況                   | 同    | 同一一   | 同   |
| 同         | 拓殖訓練所の設置                 | 同    | 同八    | 同   |
| 同         | 主要入移民國に於ける各國移民數統計        | 同    | 同三    | 同   |
| 同         | 各國移民統計                   | 同    | 同五    | 同   |
| 同         | 移民と經濟的不況                 | 同    | 同二    | 同   |
| 同         | 最近に於ける移民出入狀況             | 同    | 同六卷一號 | 同   |
| 同         | 最近に於ける在外邦人狀況             | 同    | 同     | 同   |
| 在ニューオルレアン | 米國移民法修正問題に關する新期論調        | 同    | 同     | 同   |
| 佐藤領事代理    | 政務國移民法修正に關する同國新聞論調       | 同    | 同     | 同   |
| 渡邊臨時代理公使  | 同                        | 同    | 同     | 同   |

[illegible]



|                        |   |     |
|------------------------|---|-----|
| 獨逸人のアマゾン植民計畫           | 同 | 七二  |
| 巴奈馬に於ける支那移民            | 同 | 二三  |
| アメリカに於ける入移民の傾向         | 同 | 二四  |
| 滿洲に於ける支那移民             | 同 | 二五  |
| ヘルマー・ケー氏新植民政策(一、二、三、四) | 同 | 二六  |
| 昭和七年度日本人移住者申込数及配       | 同 | 二七  |
| 海外移住優勢町村の調査            | 同 | 二八  |
| 昭和七年度渡航獎勵金交付規則         | 同 | 二九  |
| 墨國の入國移住に關する重要法規        | 同 | 三〇  |
| 第一次滿洲自衛移民團の狀況          | 同 | 三一  |
| (昭和六年十二月)              | 同 | 三二  |
| 第一次滿洲自衛移民に關する各種統       | 同 | 三三  |
| 計                      | 同 | 三四  |
| 北米に於ける亞細亞移民と日本の領       | 同 | 三五  |
| 土的擴張                   | 同 | 三六  |
| 滿洲國の外國人入國取締規則          | 同 | 三七  |
| 墨國移住法規の改正              | 同 | 三八  |
| 伯國の日本人移住者申込数及配         | 同 | 三九  |
| 調一九三二年度に於ける亞國人口及移      | 同 | 四〇  |
| 民に關する統計                | 同 | 四一  |
| 西班牙國移住統計論(一、二、三、四、五、六) | 同 | 四二  |
| 一九三二年度上半年亞國入移民統計       | 同 | 四三  |
| 同                      | 同 | 四四  |
| 同                      | 同 | 四五  |
| 同                      | 同 | 四六  |
| 同                      | 同 | 四七  |
| 同                      | 同 | 四八  |
| 同                      | 同 | 四九  |
| 同                      | 同 | 五〇  |
| 同                      | 同 | 五一  |
| 同                      | 同 | 五二  |
| 同                      | 同 | 五三  |
| 同                      | 同 | 五四  |
| 同                      | 同 | 五五  |
| 同                      | 同 | 五六  |
| 同                      | 同 | 五七  |
| 同                      | 同 | 五八  |
| 同                      | 同 | 五九  |
| 同                      | 同 | 六〇  |
| 同                      | 同 | 六一  |
| 同                      | 同 | 六二  |
| 同                      | 同 | 六三  |
| 同                      | 同 | 六四  |
| 同                      | 同 | 六五  |
| 同                      | 同 | 六六  |
| 同                      | 同 | 六七  |
| 同                      | 同 | 六八  |
| 同                      | 同 | 六九  |
| 同                      | 同 | 七〇  |
| 同                      | 同 | 七一  |
| 同                      | 同 | 七二  |
| 同                      | 同 | 七三  |
| 同                      | 同 | 七四  |
| 同                      | 同 | 七五  |
| 同                      | 同 | 七六  |
| 同                      | 同 | 七七  |
| 同                      | 同 | 七八  |
| 同                      | 同 | 七九  |
| 同                      | 同 | 八〇  |
| 同                      | 同 | 八一  |
| 同                      | 同 | 八二  |
| 同                      | 同 | 八三  |
| 同                      | 同 | 八四  |
| 同                      | 同 | 八五  |
| 同                      | 同 | 八六  |
| 同                      | 同 | 八七  |
| 同                      | 同 | 八八  |
| 同                      | 同 | 八九  |
| 同                      | 同 | 九〇  |
| 同                      | 同 | 九一  |
| 同                      | 同 | 九二  |
| 同                      | 同 | 九三  |
| 同                      | 同 | 九四  |
| 同                      | 同 | 九五  |
| 同                      | 同 | 九六  |
| 同                      | 同 | 九七  |
| 同                      | 同 | 九八  |
| 同                      | 同 | 九九  |
| 同                      | 同 | 一〇〇 |

|                   |   |     |
|-------------------|---|-----|
| 伯國渡航者の變遷          | 同 | 八一  |
| 一九三二年度聖州入移民の首位は依  | 同 | 八二  |
| 然日本人              | 同 | 八三  |
| 最近ブラジルに於ける邦入移民需給  | 同 | 八四  |
| 狀況                | 同 | 八五  |
| 伯國聖州に於ける我國移民需給狀況  | 同 | 八六  |
| 最近五年間全國各府縣別ブラジル   | 同 | 八七  |
| 移民數               | 同 | 八八  |
| 移民保護法施行規則一部改正     | 同 | 八九  |
| 最近數年間に於ける歸國邦人數調   | 同 | 九〇  |
| 一九三二年度我移民界        | 同 | 九一  |
| 一九三三年度我移民界        | 同 | 九二  |
| 在伯邦人發展狀況          | 同 | 九三  |
| 一九三三年の我移民界        | 同 | 九四  |
| 伯國勞働立法の制定愈々進捗す    | 同 | 九五  |
| アツシリア人の伯國大移住計畫    | 同 | 九六  |
| 一九三四年度我移民界        | 同 | 九七  |
| 昭和八年の我國海外移住關係出來   | 同 | 九八  |
| 世界移民界消息           | 同 | 九九  |
| 一九三三年度入聖邦人配耕狀況    | 同 | 一〇〇 |
| 一九三二年度入移民數        | 同 | 一〇一 |
| イラク國內アツシリア人の伯國移住  | 同 | 一〇二 |
| 計畫                | 同 | 一〇三 |
| 北米農民の伯國移住         | 同 | 一〇四 |
| 一九三三年度上半年サントス經由各  | 同 | 一〇五 |
| 國移民聖州入出月別及國籍別統計   | 同 | 一〇六 |
| 一九三三年度ベルギー國出入移民狀況 | 同 | 一〇七 |
| 世界移民界消息           | 同 | 一〇八 |

|                        |   |     |
|------------------------|---|-----|
| 獨逸人のアマゾン植民計畫           | 同 | 二二  |
| 巴奈馬に於ける支那移民            | 同 | 二三  |
| アメリカに於ける入移民の傾向         | 同 | 二四  |
| 滿洲に於ける支那移民             | 同 | 二五  |
| ヘルマー・ケー氏新植民政策(一、二、三、四) | 同 | 二六  |
| 昭和七年度日本人移住者申込数及配       | 同 | 二七  |
| 海外移住優勢町村の調査            | 同 | 二八  |
| 昭和七年度渡航獎勵金交付規則         | 同 | 二九  |
| 墨國の入國移住に關する重要法規        | 同 | 三〇  |
| 第一次滿洲自衛移民團の狀況          | 同 | 三一  |
| (昭和六年十二月)              | 同 | 三二  |
| 第一次滿洲自衛移民に關する各種統       | 同 | 三三  |
| 計                      | 同 | 三四  |
| 北米に於ける亞細亞移民と日本の領       | 同 | 三五  |
| 土的擴張                   | 同 | 三六  |
| 滿洲國の外國人入國取締規則          | 同 | 三七  |
| 墨國移住法規の改正              | 同 | 三八  |
| 伯國の日本人移住者申込数及配         | 同 | 三九  |
| 調一九三二年度に於ける亞國人口及移      | 同 | 四〇  |
| 民に關する統計                | 同 | 四一  |
| 西班牙國移住統計論(一、二、三、四、五、六) | 同 | 四二  |
| 一九三二年度上半年亞國入移民統計       | 同 | 四三  |
| 同                      | 同 | 四四  |
| 同                      | 同 | 四五  |
| 同                      | 同 | 四六  |
| 同                      | 同 | 四七  |
| 同                      | 同 | 四八  |
| 同                      | 同 | 四九  |
| 同                      | 同 | 五〇  |
| 同                      | 同 | 五一  |
| 同                      | 同 | 五二  |
| 同                      | 同 | 五三  |
| 同                      | 同 | 五四  |
| 同                      | 同 | 五五  |
| 同                      | 同 | 五六  |
| 同                      | 同 | 五七  |
| 同                      | 同 | 五八  |
| 同                      | 同 | 五九  |
| 同                      | 同 | 六〇  |
| 同                      | 同 | 六一  |
| 同                      | 同 | 六二  |
| 同                      | 同 | 六三  |
| 同                      | 同 | 六四  |
| 同                      | 同 | 六五  |
| 同                      | 同 | 六六  |
| 同                      | 同 | 六七  |
| 同                      | 同 | 六八  |
| 同                      | 同 | 六九  |
| 同                      | 同 | 七〇  |
| 同                      | 同 | 七一  |
| 同                      | 同 | 七二  |
| 同                      | 同 | 七三  |
| 同                      | 同 | 七四  |
| 同                      | 同 | 七五  |
| 同                      | 同 | 七六  |
| 同                      | 同 | 七七  |
| 同                      | 同 | 七八  |
| 同                      | 同 | 七九  |
| 同                      | 同 | 八〇  |
| 同                      | 同 | 八一  |
| 同                      | 同 | 八二  |
| 同                      | 同 | 八三  |
| 同                      | 同 | 八四  |
| 同                      | 同 | 八五  |
| 同                      | 同 | 八六  |
| 同                      | 同 | 八七  |
| 同                      | 同 | 八八  |
| 同                      | 同 | 八九  |
| 同                      | 同 | 九〇  |
| 同                      | 同 | 九一  |
| 同                      | 同 | 九二  |
| 同                      | 同 | 九三  |
| 同                      | 同 | 九四  |
| 同                      | 同 | 九五  |
| 同                      | 同 | 九六  |
| 同                      | 同 | 九七  |
| 同                      | 同 | 九八  |
| 同                      | 同 | 九九  |
| 同                      | 同 | 一〇〇 |

|                  |   |    |
|------------------|---|----|
| 一八二七—三一年伯國聖州入移民統 | 同 | 〇  |
| 計                | 同 | 一  |
| 伯國に於ける日本人移住者申込及配 | 同 | 二  |
| 各船別渡伯移住者統計表(自第一回 | 同 | 三  |
| 至第一八二回)          | 同 | 四  |
| サルバドル國移住法        | 同 | 五  |
| 蘭領東印度に於ける外國人移民制限 | 同 | 六  |
| 一九三三年コロンビア國入移民割當 | 同 | 七  |
| 數                | 同 | 八  |
| 移住動態と經濟          | 同 | 九  |
| 昭和七、八年各國體取扱伯國移住者 | 同 | 一〇 |
| 月別比較             | 同 | 一一 |
| 第一次滿洲自衛移民の狀況     | 同 | 一二 |
| 墨國內務省の勞働入國移住禁止令  | 同 | 一三 |
| 主要入移民國に於ける各國移民數統 | 同 | 一四 |
| 計                | 同 | 一五 |
| 最近五ヶ年間の世界移民統計    | 同 | 一六 |
| 世界各國移民の減少の傾向     | 同 | 一七 |
| 世界民間移民保護團體國際聯合總會 | 同 | 一八 |
| 狀況               | 同 | 一九 |
| 歐洲移民界            | 同 | 二〇 |
| 一九三二年度英國移民界      | 同 | 二一 |
| 亞洲移民界            | 同 | 二二 |
| 海峽植民地の移民入國制限     | 同 | 二三 |
| 海峽植民地入國外國人取締新法令  | 同 | 二四 |
| フランス移民界          | 同 | 二五 |



| 著者                                      | 題名                                           | 発行日 | 誌名      |
|-----------------------------------------|----------------------------------------------|-----|---------|
| 海本 徹雄                                   | 文化外交と移民問題(一、二、三、四)                           | 同   | 農業のプラジル |
| 谷垣 勝藏                                   | 同胞子弟教育について                                   | 同   | 同       |
| 海本 徹雄                                   | 移民政策の合理化に就いて(一、二、三、四、五)                      | 同   | 同       |
| 古關 徳彌                                   | 「植民の研究」ノロエステ邦人地主の経済状態(一、二、三)                 | 同   | 同       |
| 同                                       | 「植民の研究」サンタカタリナ州ハルモニア植民地に於ける地主移動地代拂込に關する研究    | 同   | 同       |
| 同                                       | 「植民の研究」ハルモニア植民地の現況紹介並に考察                     | 同   | 同       |
| 同                                       | 「同」邦人移住者の定住性に關する考察                           | 同   | 同       |
| 同                                       | 「同」果して集團移住は伯國を害するか                           | 同   | 同       |
| 秋山 讓                                    | 移住者輸送船の話                                     | 同   | 同       |
| 新宮 新                                    | 新聞紙に現はれた日本移民制限問題(一、二)                        | 同   | 同       |
| 海本 徹雄                                   | 對伯植民略史                                       | 同   | 同       |
| 小林 直太郎                                  | ブラジルに於ける外國人文化事業の展望                           | 同   | 同       |
| 加藤 完治                                   | メキシコ植民史(一、二、三、四)                             | 同   | 同       |
| 横尾 惣三郎                                  | 滿蒙移民は果して不可能か<br>ブラジル排日の真相<br>滿蒙移民は如何にして成功するか | 同   | 同       |
| 藤井 寛太郎                                  | 滿洲國大移民案                                      | 同   | 同       |
| 藤田 進一郎                                  | ブラジルの我移民排斥                                   | 同   | 同       |
| 平 貞藏                                    | 滿蒙移民論                                        | 同   | 同       |
| 上塚 司                                    | ブラジルの排日法案について                                | 同   | 同       |
| 久保田 一郎                                  | ブラジルの排日と其真相                                  | 同   | 同       |
| 久間 俊三                                   | ブラジルの排日憲法成立                                  | 同   | 同       |
| 桑原 忠夫                                   | 日本はなぜ排斥されるか<br>ブラジル移民制限 上、下                  | 同   | 同       |
| 荻田 均                                    | ブラジル排日法の裏面                                   | 同   | 同       |
| 記 文                                     | 伯國排日案の成立と其對策<br>ブラジルの移民制限                    | 同   | 同       |
| Agreement between France and Yugoslavia | 16 Jan. 1933                                 | 同   | 同       |
| Alien Labour in France.                 | 同                                            | 同   | 同       |
| Migration of Indian Workers in 1931.    | 同                                            | 同   | 同       |
| Regulation of Immigration in Venezuela  | 23                                           | 同   | 同       |
| Restiction of Immigration in Uruguay.   | 同                                            | 同   | 同       |
| Position of the Philippine Islands.     | 13 Feb.                                      | 同   | 同       |
| Tithanian Emigration Statistics         | 27                                           | 同   | 同       |

| 著者                                                               | 題名           | 発行日 | 誌名 |
|------------------------------------------------------------------|--------------|-----|----|
| Polish Emigration Statistics.                                    | 27 Feb. 1933 | 同   | 同  |
| Colonisation in Cyrenaica.                                       | 同            | 同   | 同  |
| Protection of Emigrants from Portuguese India.                   | 同            | 同   | 同  |
| Migration in Mandated Areas.                                     | 6 March      | 同   | 同  |
| Further Restrictions in Argentina.                               | 同            | 同   | 同  |
| Austrian Migration Statistics.                                   | 3 April      | 同   | 同  |
| New Immigration Regulations in the Straits Settlements.          | 10           | 同   | 同  |
| New Regulations in the United States.                            | 17 April     | 同   | 同  |
| British Migration Statistics.                                    | 同            | 同   | 同  |
| Migration Statistics of the Irish Free State.                    | 同            | 同   | 同  |
| Canadian Immigration Statistics.                                 | 24           | 同   | 同  |
| Employment of Bulgarians in Rumania.                             | 同            | 同   | 同  |
| Immigration Policy in the United States.                         | 同            | 同   | 同  |
| Results of Restrictions in Brazil.                               | 15 May       | 同   | 同  |
| Japanese Migration to Brazil.                                    | 同            | 同   | 同  |
| Italian Emigration to Argentina.                                 | 同            | 同   | 同  |
| Immigration Policy in Palestine.                                 | 同            | 同   | 同  |
| Spanish Migration Statistics.                                    | 22           | 同   | 同  |
| Polish Migration Movements.                                      | 12 June      | 同   | 同  |
| Bulgarian Migration in 1932.                                     | 12 June 1933 | 同   | 同  |
| German-Italian Agreement on Student Employees.                   | 26           | 同   | 同  |
| Finish Migration in 1932.                                        | 3 July       | 同   | 同  |
| Estonian Migration in 1932.                                      | 同            | 同   | 同  |
| Migration Movements in Rumania.                                  | 同            | 同   | 同  |
| Canadian Emigration to the Soviet Union.                         | 10           | 同   | 同  |
| Agreement between Belgium and the Netherlands.                   | 31           | 同   | 同  |
| Immigration Restrictions in the United States.                   | 14 August    | 同   | 同  |
| The Situation in Australia.                                      | 28           | 同   | 同  |
| Danish Emigration Policy.                                        | 4 Sept. 1933 | 同   | 同  |
| Emigration from Poland.                                          | 同            | 同   | 同  |
| Work of the Polish Emigration Syndicate.                         | 同            | 同   | 同  |
| Investigation of the Opportunities for Indian Emigration.        | 11           | 同   | 同  |
| Paraguayan Proposal for an International Migration Organization. | 2 Oct. 1933  | 同   | 同  |
| Jewish Emigration from Germany into Palestine.                   | 同            | 同   | 同  |
| Immigration of German Jews into Palestine.                       | 同            | 同   | 同  |
| Regulations for Aliens Resident in Belgium.                      | 同            | 同   | 同  |
| Conference for the Protection of Migrants.                       | 9            | 同   | 同  |
| The League of Nations and Refugees.                              | 27           | 同   | 同  |

| 料 外 口 移 動 及 難 民 救 済                                          |              |     | Industrial and Labour Information                 |               |                                   |
|--------------------------------------------------------------|--------------|-----|---------------------------------------------------|---------------|-----------------------------------|
| Migration Movements in France in 1932.                       | 23 Oct. 1933 |     | Industrial and Labour Information                 |               |                                   |
| A New Migration Act in Salvador                              | " "          | " " |                                                   |               |                                   |
| Evaporation of Aliens from the United States                 | " "          | " " |                                                   |               |                                   |
| Emigration of Assyrian Refugees from Iraq                    | 13 Nov. "    | " " |                                                   |               |                                   |
| Immigration in the United States.                            | 4 Dec. "     | " " |                                                   |               |                                   |
| Migration Movements in Yugoslavia in 1932.                   | 11 "         | " " |                                                   |               |                                   |
| Czechoslovak Migration in 1932.                              | " "          | " " |                                                   |               |                                   |
| British Statistics for 1932.                                 | " "          | " " |                                                   |               |                                   |
| Protection of the Health of Spanish Emigrants.               | " "          | " " |                                                   |               |                                   |
| The International Status of Refugees.                        | 18 "         | " " |                                                   |               |                                   |
| Congress of Yugoslav Emigrants.                              | " "          | " " |                                                   |               |                                   |
| Swedish Migration Movements in 1932.                         | " "          | " " |                                                   |               |                                   |
| Migration of Indian Workers in 1932                          | 1 Jan. 1934  | " " |                                                   |               |                                   |
| Proposed Legislation in Denmark                              | " "          | " " |                                                   |               |                                   |
| The League of Nations and Assistance to Indigent Foreigners. | 22 "         | " " |                                                   |               |                                   |
| Oversea Emigration from Norway in 1933.                      | 19 "         | " " |                                                   |               |                                   |
| Settlement of German Jews in Palestine.                      | 5 March "    | " " |                                                   |               |                                   |
| Immigration in Canada                                        | " "          | " " |                                                   |               |                                   |
| Japanese Emigration to Brazil.                               | " "          | " " |                                                   |               |                                   |
|                                                              |              |     | Regulation of Immigration in Argentina.           | 12 March 1934 | Industrial and Labour Information |
|                                                              |              |     | Immigration Restrictions in New Zealand.          | " "           | " "                               |
|                                                              |              |     | Migration Movements in the Union of South Africa. | " "           | " "                               |
|                                                              |              |     | Japanese Immigration in Manchuria                 | 2 April "     | " "                               |
|                                                              |              |     | British Settlers in Australia.                    | " "           | " "                               |
|                                                              |              |     | Austrian Migration in 1933.                       | 16 "          | " "                               |
|                                                              |              |     | British Migration in 1933.                        | 23 "          | " "                               |
|                                                              |              |     | Elimination of Alien Labour in French Mines.      | 30 "          | " "                               |
|                                                              |              |     | Proposed Taxes on Alien Labour in France.         | 7 May "       | " "                               |
|                                                              |              |     | Immigration Restrictions in Mexico                | " "           | " "                               |
|                                                              |              |     | Migration Statistics for Switzerland              | 14 "          | " "                               |

紹介

デニ「世界人口の將來」

研究員 左右田 武夫

The Future of Human Population; Corr de Gini  
(The American Journal of Sociology, Vol. XXXVI  
No. 2 Sept 1930)

著者デニ氏は羅馬大學統計學教授であると共に羅馬中央統計局長の要職にあつて、氏の所謂「民族の人口の進化論」はフアシズムの國伊太利人口政策の基礎をなすものであると云はれて居る。

人口問題、民族問題の意義益々重大化しつつある現下の情勢に於て、其處に一つの指導的理論を提示して其混沌に一道の光を與へつつあるデニ氏の説は我々の異常なる興味の的でなければならぬ。

本論文は斯る彼の理論「民族の人口の進化論」に基きて、混沌として豫測を許さざる「世界人口の將來」なる問題を論究し

結論として之に明快なる解答を提示して居るのである。以下其荒筋を紹介して見よう。

先づ氏は世界人口の増加にする考への變遷から始め「未だ歐洲の人口が殆ど停止状態にあつた時代に於ては世界の人口は或る地方、或る時代に於て増減があるとしても全體としては殆ど同一状態を持続するものであると云ふ説が廣く行はれて居つたのであるが其後十八、九世紀に至り人口の急速なる増加を見るに及びその考へは一變し、世界が將來の人口發展のためには餘りに狭くなりはいないかと感ぜられ出すと共に又他方歐洲外の諸民族は優秀なる白色人種と接觸する事により恰も太陽の直射を受けた霜雪の如くに淡くも融け去つて終ふものと考へられるに至つた。」

然し斯る考へは事實に照して見て訂正せられねばならぬなつたとして、幾つかの反證を次に挙げる、

第一「にエデプト人、アラビア人、印度人及支那人は容易に同化、征服し得ざる存在であるのみならず更に歐洲民族の優越に對し絶えざる反抗をなし、同一の水準に立たんとする野心さへ抱いて居る。即ち日本による露西亞帝國の慘敗の如きは其好例であつて、其は歐洲をして永久不動と信じられて居た其優越

性の根柢に就いて反省せざるを得ざらしめたのである。」

第二「成程多くの民族は歐洲民族と接觸して死滅せるは事實であるが、然し其は適々其民族が既に衰滅に瀕して居つたと云ふに過ぎない。そして又或る人種の内部に於て白色人種と接觸せざる部分が、接觸し混合せる部分に比し反つて其抵抗力少しと云ふ事實は更に上述の事を裏書きする。」

第三には「其隆盛を誇りつつある歐洲民族の間にも最近の調査により既に衰頹の危期迫れるもの少からずと云ふ事實の判明せる事である。」

即ち其減少が表面化して居らぬ場合にも、それは單に過去に於ける出生増加のために、現在に於て二十歳より四十歳に至る年齢の人口が異常に多いと云ふ事に原因すると云ふに過ぎない。何者、之年齢の人口の多數である事は一方に於てその人口の出生數を異常に増加せしむると共に他方その人口の死亡數を異常に減少せしめるからである。斯くの如き状態にありと云はれる國々はスエーデン、ノールウェー、フィンランド、エストニア、ラトビア、ドイツ、オーストリア、ハンガリア、スイス、ベルギー、フランス、イギリス等であつて、以上はデンマークとオランダを除いた全北部、中部及び西部歐羅巴を包含する國

々である。そして歐羅巴外の國としてはアメリカ合衆國が斯る状態に向つて急速に近きつゝある。

「又其と同時に世界の或る部分に於ては白色人種の侵入により滅亡するものと考へられて居た民族が寧ろ反對に白色人種を壓迫しつゝある事實がある。黄色人種は暫く別として、南アフリカのバンツ族、アメリカに於けるメキシコ人は現に白人の優越性を脅しつゝある。」

デニの「民族の人口的進化論」は以上に擧げられた例證により基礎付けられて居るのであるが其説を立證するものは以上のみに止るのではない。

即ち「各人種又は民族の人口學的事實は、歴史と考古學的發見の教ふる所、及び他方古生物學の探索、植物學者、動物學者の觀察と種々なる實驗の證する所等と相俟ちて、人類の種族、民族が其進化に於て個體と同様なる一定の誕生、成熟、成長の停止、老衰、死亡と云ふ循環をなすと云ふ事を我々に信ぜしめる。」

「明かに歴史上に於て種々なる意味に於て優秀である民族、人種があつたと共にそれに混つて劣悪なるものもあつた。然し乍ら多くのものはその年齢、換言すれば進化の段階の相異が其發展の時期を決定して居るのである。」

然らば民族は如何にして發生し、發展し、死滅するに至るかデニの理論は之に答へて積極的に歴史的事實に基きて述べられる。

「歴史は有力民族が老朽衰頹に瀕しつつある人口の境界線上に勃興する事を教へる。即ちそこに於ては、一般に餘り進化して居らないか又は異つた方向に進化した人類との混血が行はれ易いからである。古代ギリシアに於けるマケドニア人、エトルシアに於けるローマ人、ローマ帝國に於けるチュートン族はそれ／＼境界線に發生した。同様にハム族に於けるバンツ族、支那及マレー族の邊境に於ける日本民族、トルコ帝國の境界地方に於けるスラブ族の興起が數へられる。」

「然し乍ら上述の如き歴史上に現れたる新民族の誕生は混血の結果の極一部分にしか過ぎない。之に對して其多くのものは素質の劣悪、非多産性、又は生存競争、性的淘汰、移民に對する非適應性等により發展を見ずして消滅して終ふのである。」

然らば新民族は如何にして發展し行くか。

「新興民族スラブ族の發展は、死亡率を遙かに越えた特に高い出生率に基く、古い民族内への漸進的浸潤と代替により進行しつつある。」

「其發展は弱き再生産力を有する民族の大なる人口的發展力を有する民族による代替により行はれるが故に、代替すべき後者の再生産力が前者の再生産力の減少を償ひ得なくなるに及び其人口の發展は停止し、更に新しき血液の流入がないならば、漸時衰頹の一路を辿り死滅するに至る。」

「其死滅には色々な場合がある。新しい民族により平和裏に漸次代替せられる場合もあるが、若しその代替が阻止せられ人口の壓力の差異が激しくなるとその場合には新興民族の急激なる侵入が行はれ、古い民族は一掃せられるか、同化又は追放せられるに至る。ビグミー族、ブッシマン族、ネグリート族、アイヌ族、ラブランド人、エスキモー人、ヒュージー島人等は邊境の地に僅に生存を續けつゝあるそれらの敗殘民族である。」

更に家畜、植物等の養殖による交種の研究を引證して人口的進化論の基礎を補強して居るがそれらは省略し、以上を要約すれば「凡べての人口は各々最近に於ける又は遠い昔に於ける混血により勃興したと云ふ意味に於て、世界の凡べての人口は混血せられて居ると云へやう。其れ故に本來純粹なる種族と云ふものはなく、只純化されたる種族のみが存在し得るのである。」

然も其純化せられた種族と雖も永遠に存続し得ると云ふのでは



なく、進化の或る段階に到達して等質化が或る限度に進むに至ると、新しい混血による民族の新鮮化が行はれない限り衰頽により終焉を告げるのである。」

デニの理論の概要は以上の如くである。斯る理論により世界人口の將來を如何に見るか。本論文の結論的部分に於てそれが述べられて居る、

「チュートン民族の時代は既に過ぎつつある。そしてチュートン民族に代るべく若い民族は所々に興りつつある。同じ白色人種の中に於ては前述の如くスラブ民族、南アメリカに於ける白人系の混血民族等が注目に價する。白人文明の境界に立つものに印度人あり。其圏外に屬するものには日本、支那、ジャバ等の民族がある。其他、中央及び熱帯南アメリカに於ける白人種とインディアンとの混血民族、南アメリカに於けるバンツ族が數へられる。」

「世界の將來は斯くて若き白色人種と黄色人種との爭覇場裏と化すであらう。」

「廣い見地に立つて見るならば、性質、様相の各々異つた民族が順次に人類の指導者となり、各々其獨特の文化、天分に依り世界の文明に貢獻する事は文明の進歩にとつて必要不可欠なる

事である。」

「地球上に於ける如何なる人種と雖も、多分其時期が來たならば、必ずや人類世界を其永遠の運命に向つて指導した事をよく誇り得ないものはないであらう。」乙が本論文を結ぶ最後の言葉である。

其理論は自然科學及び社會科學の分野に亘る各種の理論、事實、實驗及び經驗を基礎資料として、その上に立てられ、歴史發展の力を人口の内に求める一種の人口史觀たるの觀がある。

其故に之に對する批判は部分的には其基礎的理論及び資料に就いて、體系的全般的には其人口史觀其のものに就いてなされ得やう。

其理論の如何、其結論の當否は別問題として、茲では其批判には觸れない事にするが、世界人口の將來に就いて主張するデニの大膽なる豫測が一方現實に世界の人々の頭腦と胸底の内に成長しつつある恐怖、危慮となりつつあり、又他方希望、理想ともなりつつあると云ふ事は何人も疑なき所であらう。

「ギリシア、ローマの時代に於て、誰が其野蠻民族と呼んで居つた民族が世界の文明を背負つて立つと云ふ事を豫測し得たであらうか」と云ふ言葉はデニの豫測を信ぜしめる大きな力である。

## 白柳秀湖氏の

### 「日本民族論」を讀む

研究員 増田重喜

最近刊行せられたものうち、最も感興を惹き且つ痛快味を覺えた著書は、白柳秀湖氏の「日本民族論」であらう。人口問題研究の見地から云つても、質的方面に於ける對象として種族的構成に對する歴史的考察は、決して等閑に附することが出来ない。否、この方面の研究は、人口の量的方面に對すると同様に之れを進めなければならぬからだ。此の意味に於て、白柳氏の「日本民族論」は、我等の研究心を昂奮せしむる一刺激たるを失はぬ。

著者が本書を公表するに至つた動機は、その序文にも自己の赤心を漏らしたやうに、日本民族の偉大なる發展性を認めて、雷に之れを嘆美するばかりでなく、「その自然の環境と相俟つて世界に稀らしい特殊の社會的、經濟的、生活様式を産み出すに至るまでの徑路」を指示して、日本民族の將來に處する信念を

強調し、且つ曰く、われ／＼はどんな優秀な民族、どんな強大な民族に對しても、國家の存立の爲には、正に堂々とその正義を主張する用意がなければならぬとの國民的決心を教へると共に、また「どんな劣弱な民族、どんな昏迷な民族に對しても、常にこれを扶掖し、誘導して、世界の平和と人類の幸福とに貢獻させる心がけがなければならぬ。劣弱なるが故に安りに侮り昏迷なるが故に安りに挑むといふやうなことは、われ／＼の祖先が斷じて取らなかつたところである」と戒めた態度は、眞にわが國史の眞精神を體得せる人士の語と云ふべきである。著者は猶曰く、著者が單行本の孤壘に立てこもり、何ほどの讀者の熱心な激勵と鞭撻とを唯一の恃みとして、滔々たる文章畫面化の時流に反抗して居るのは、おほけなくもその志が報國になるからだ。以て著者の愛國的熱情を、此の書に依りても看取出来るのである。

著者は先づ、第一章に於て現下日本精神の危機に遭遇してゐることを憂ひ、自由主義者に愛國的至情の缺いてゐることを痛嘆し、第二章に於て、文化進展の過程より日本歴史と西洋歴史とを比較し、特に日本と英國と歴史上比較すべき類似點を挙げ「世界に國は多いが、日本と自然環境の最もよく似通つてゐる國



は先づイギリスであらう。日本歴史と外國の歴史と比較して、その異同を辨別する上に最も効果的であるのは、イギリスでなければならぬ。日本とイギリスとは、その歴史的發展の基礎ともいふべき自然の環境に於て、次に擧げるやうな多くの一致點を持つてゐる」とて、大陸に對する島嶼的地位、大洋、幾多の島嶼の成立、氣候及風土、海岸線の延長といふやうな地理的條件を擧げ、また日本はアジアの後進國であるやうにイギリスも歐洲の後進國であることを述べ、更に此の兩者が古代史にかて類似してゐることを指摘した。

それは原日本人すなはち天孫民種（と著者はかく云ふ、これは後で是非批評したい論點である）はバイカル地方から追々に南下して（これも後で論評し度い點である）、朝鮮半島の一部を経由して九州に徙遷したと想ふ。しかるに、原日本人の徙遷以前に、支那本土に於ける漢族の勢力がわが先住民族の一部に及んでゐた點が古代英國と似てゐるとて、漢族と原日本人との相違をローマ人とアングロ・サクソン人との相違に比してゐる。そして、漢族も原日本人もモンゴリア人種といふ大きい枝から見れば同じ人種であることは、ローマ人に屬するラテン人とアングロ・サクソン人の屬するチュートン人とがコーカサス人種

と同種であるのと同じだと云ふ。著者は更に、人種的支配關係に於ける類似點を擧げた。古代イギリスに於て、ローマ人がケルト人を支配したのは、古代日本に於て、漢族が耶馬臺國や狗奴國（熊襲）を支配したのと同じだ。ただイギリスの場合に於てローマが兵力でケルト人を根こそぎ征服したのに、日本の場合では、漢族は兵力に依らず其の屬領であつた朝鮮（帶方郡）の郡守を通じて、耶馬臺の諸國や狗奴の諸國を手なづけてゐた點が異ると云ふ。以上については、誰人も異論はあるまい。著者は割合に正しい見方をしてゐる。特に、日本は何故にインド、支那と同じ非運に陥没しなかつたかと云ふ論題の許に、次のやうに論じてゐる。

「西洋の船が西洋文化を載せて東洋に押出して来る足どりの早かつたのは、むしろ西洋文化の偉大を物語るもので、日本人はただ棚から落ちて來た牡丹餅をとつて食つただけの果報ものかといふに、著者は決してさやうには考へぬ。若し或自由主義者達が考へてゐるやうに、西洋の文明が船脚早く押よせて來さへすれば、その國はきつと日本のやうに開けるかといふに、決してさうではない。エデプトもインドも、マレーも、フィリッピンも、シヤムも、ルスンも、支那も、日本より早く西洋の船

がついて西洋人がその生活様式を植付けてゐるけれども、國民は少しも幸福にはならなかつた。」

それは何ういふわけであるかと云ふに、ラテン文化が天文、永祿の間に洪水のやうに日本に押よせて來た時に、日本にはすでに本質的にかれ等の郷土に劣らぬ文化が發達してゐたからである。ラテン文化に直面して、よくその取捨を誤らず、榮養とすべきものは取り、捨つべきものは捨てることの出來たのは、日本にヨーロッパ文化を消化吸収するに足るだけの經濟生活の發展があつたからだと著者は云ふのである。これは正しい見方である。が、批評者は之れに更に附加へ度いことは、我國では既に奈良朝時代に支那文化を實によく取入れて文化を向上し且つ生産力を發展せしめた體驗を有してゐた。この時の翻譯力を重要視せねばならぬ。翻譯力はタルドの社會法則に従つて同化力となるものであるが、これは自己發展への創造資料であることを言はねばならぬ。それからもう一つ、インドやマレーやフィリッピンやシヤム民族と同様に日本民族は著しくラテン文化を輸入したのに、彼等よりも我方は同化力の偉大であることは何故であるか。この問題に對する解答に就いては著者は我民族の經濟發展のあつたことを擧げてゐるが、これだけでは物足

らぬ。我方の消化力の偉大な原因は、日本民族は彼等よりも異種民族の混合混血の度が高く、それだけ外來文化の同化力が強いのである。著者の云ふが如く單に經濟發展の一方的見方だけではその説明にはならぬ。

## 二

著者は、割合に正しい歴史眼を持つておられることに、批評者は敬意を表する。例へば、伊勢外宮は内宮よりおくれで丹波から伊勢に遷祀された。雄略天皇は何故に豐受姬神を伊勢に並祀なされたかの問題に就いて著者の興へた説明は、余も日頃から持つてゐる見解と一致するので嬉しい。希望と云へば、この外宮の神靈は、伏見稻荷神社とその祭神の同一若くは類似してゐるものであることを一言して貰ひ度かつた。伏見の神社も、米の生産指導者を祭神としたもので、大陸系民族に依りて本邦に於ける植民地に於て祭祀された。大陸民族が半島を遡つて移入して來た地方は丹備地方、近江、河内、大和、和泉方面であつたが、そのうち最も優勢であつたのは山城平野であつて、その中でも秦氏が非常な勢力家であつた。米の神稻荷大明神は此の秦家の祭神であつた。元、丹波に祭られた豐受大神が米の生産神である所から見ても兩者の間の類似點を擧げてよかつた。

それからもう一つ著者と見方を等しくする點は、天孫降臨の場所たる高千穂の所在である。霧島山降臨と云ふものは、むしろ信仰と云つてもよい位非科學的の見方であるが、然らば、之を否定するとせば、降臨の所在を何處に求むるかが問題だ。著者は本居宣長の説を取つて、之を日向の北部地方にある臼杵の高千穂説を取つたのは、大によい。

なぜその見方に就いて、余は特に感興を惹き、嬉しく思つたかと云ふに、元來著者の日本歴史——古代史に對する態度は、古事記を神話篇として考へず、どこまでも之を××として受入れ、其の中の記事を事實資料として採用してゐるので、著者の日本古代に關する見方に、科學的見地に於て反對せざるを得ない個所が多くある。しかし、それを一々遠慮なく言ふことを差控へねばならぬ。が、すでに多くの研究者等が著書で公開した論點に就いて茲に言ふことに、何等遠慮ないことと思ふから次に一、二自分の思出した點を擧げて、著者の研究心を反省せしめ度い。

一、著者は、天孫降臨の場所を臼杵の高千穂においたことは余の見方と同一である。しかし、著者は高天原から天孫が舟に乗つて來て上陸し、一と先づ高千穂に駐屯されたと云つてゐる。

日向國の海岸に出る爲に山門郷から山越すれば臼杵の高千穂に出る。茲を通じて川を下り延岡に出られる。この見方は、太田亮氏の日本古代史新研究を讀めば、すぐ首肯されやう。官幣大社阿蘇神社の祭神は、臼杵氏も云ふやうに神武天皇の皇子神八井耳命の御子速磐龍命である。阿蘇地方は神武天皇と因縁は深し。

臼杵氏は熊本を中心とする肥後を豐葦原中國と見たが、これは卓見である。そして菊地郡山門郷は此の國內にあるのだ。私は太田亮氏と同様の見方で、此の地方を天神民族の故國とすれば、この地方から阿蘇地方の山越をして東隣の日向へ出づると臼杵の高千穂へ現はれ、ここで勢ぞろへをして海岸に出で東征の壯途に就かれたと見度い。

二、それから、もう一つ大なる論點は、臼杵氏は「天孫民族はバイカル地方から追々に南下して、朝鮮半島の一部を経由し九州の一角に徙遷したと想定する(同書二四、八六頁)」。そして臼杵氏に依れば、九州日向の海岸に着き、そこから臼杵の高千穂へ現はれた(降臨)といふのであるが、この場合に、天孫民族より先住してゐる出雲民族や、北九州の海神民族のあることを臼杵氏は認めてゐる。南洋民族の先住的地位も認めてゐる。

(日本民族論一四五頁)この點、余は同意し難い。天孫降臨の場所として所謂高千穂に就いては、今の宮崎縣西臼杵郡三田井及岩戸地方の高千穂(これは延岡の河を遡行し細見、下渡、新町を過ぎ、岩井川を更にさかのぼり、椎谷から左に二上山を見て進めば三田井の里に至る。ここから少し北に大岩戸神社のある岩戸がある。この地方は古代知舖と云つて隣國の日の國(火の國、肥後、阿蘇山麓)へ數箇所の途を通じて行ける所だ。西臼杵郡の岩戸は、大古茲で天照大神が隠れさせ給ひし所だと今でも里人が傳へてゐる。古事記に出て來る二上山も、その南方にある。この地方は古の千穂の里で丘の高地といふので、高千穂と云ふのだ。此の地に天孫が現はれたことは、史實として見てもよからう。が、臼杵氏は海岸から此の地方の高千穂に現はれたと解釋するけれども、余は此の點に反對し、むしろ太田亮氏のやうに隣國の日の國から茲に來たと見度い。茲から海岸へ降つて行つたのが順序であらう。太田氏に従へば、古事記の日向之高千穂之久士なる多氣に天孫の降臨した場所は臼杵郡内知舖郷で、西隣肥後阿蘇郡にも知保郷があるので、兩國に亘つて知保と云つた。九州の耶馬臺に當てて見度い。此の高千穂から西へ行くと菊地郡山門郷あり、從つて耶馬臺と高天原と見れば、

然らば、余は科學的見地に於て、著者に質疑を發し度い。

臼杵氏の見方が如く、天孫民族がバイカル地方から南下して本土に徙遷した時代を觀すると、各種民族(古代本土に徙遷して來た種族)は大體ネグリート、アイヌ、ツングース、カルマック、漢族、印度支那(苗族)、インドネシア族(白人系臺灣生蕃)で、日本民族は是等多種民族の混血だ)の移入順序から見て、遅れて後になつて現はれたことになる。

臼杵氏に依ると、それがバイカル方面から來たものだと思ふのでツングース系若くはツングース亞系であらう。然らば之れを經濟史的に生産的地位を見るに原始的に近く、産業的分類から見れば狩獵民族である。主なる産業は牧畜であるから、榮養攝取の系統から見ると肉食でなく肉食種族だ。この民族の生産手段は簡單であるから、本土に來ても列島の地形は狭少で牧畜に必要な大草原を缺いてゐる。この事情の下では此民族が本土に來ても從來の生産方法を正規の一労働部門とし發達させることが出來ぬであらうから、生業を他に轉ずる要がある。それで米の生産地の征服に向つたと説けば筋途は一應は立つのであるが、著者はそう説いてゐない。否、假りにそう説いたとせよ。しかし、狩獵民族は生産階梯に於て技術的に下層に位するもの

であるから、狩獵民族が農業へ轉するまでには、前進的移行に於て相當の年月を要する。生産技術的に幼稚なだけ生産要具も他の生産的發展の高度にある先進民族たる出雲民族や丹備及近畿民族や、北九州の海神民族に比しバイカル地方から來たと云ふ天孫民族は低位にあり、生産要具の下層に屬する限り、智力の發達も劣つて居るし、古代にありては生産要具の進歩は武器の進歩を意味するものであるから、従つて武器の利用も劣つてゐる筈だ。生産的に發展せる優勢民族たる先住諸民族を、後から突然やつて來て而も劣等な生産要具や劣勢な武器で以て、果して征服し得るか。科學的に冷靜に考察すれば、それは到底出來ないことだと思ふが、著者は以て如何と爲す乎。

古代の本土には、六、七種の異人種が民族的各地方に居住してゐた。その中でも生産の高度に達してゐた文化民族は、北九州の海神族、その本國の耶馬臺、出雲地方のヅンクス系民族、丹備、近畿地方の大陸系民族であらう。この中で一民族が他民族を征服する爲には、生産的組織に於て相當の發展を遂げ、養殖人口を包容し、生産要具も發達し、従つて武器も發達したものを持つてゐることを條件とする。之れに人種的に見てインドネシアのやうに勇猛敢爲な人種的特性を必要とする。かく見る

場合に、古代本土に於て他種民族を征服したものは、後から遅れて徙遷してシベリア民族而も生産力の弱い武器の低級な民族であるとするのは、どう考へても首肯出来ない。他の民族を征服する爲には、我方の民族として先づ經濟組織の體系を有してゐなければならぬ。それは集團社會として生産の無政府的狀態の無秩序を許さない。

周原始生産の形態にあつたとしても、共產制の中に力強き存在として協力と統制があつた。勞働部門が分業的に行はれても、奴隸的使用は生産を高度化し、之に對する支配力は政府的狀態へ發展せしめた。その生産統制者は同時に武力的行使者であつた。これは耶馬臺の如き女性支配制國に於ても副將軍の武力的行使者があつて、共產制をして軍國政府狀態へと發展せしめた。自己民族に對する中央集權的存在として力強き者が、共同體内部に於ける諸産業に對する直接的結合の機關であつた。かかる集團的生産の原則こそ集團の共產體に對する統制者として、同時に生産的勞働部門を擧げて他民族に對する征服的軍隊の統率者であることが出来るのである。神武天皇は、かかる集團的勞働部門の統制者として、計畫的に之れを軍國主義的兵力へ轉用して、高千穗から壯大なる征途に就いたものではなかつたか。

分散的原始生産の狀態から、かかる集團的生産の統制まで進歩するには、民族經濟發展上相當の過程がある筈であつて、少くとも數百年の民族的定住を想見せざるを得ぬ。それなのに白柳氏の如く、シベリアからおくれてやつて來た生産技術の劣等民族が、突如關門海峽を通過して日向の海岸に上陸して萬千穗に休息するや、生産的發展の高い狀態にある近畿地方の大陸系民族に向つて、直ちに征討の大軍を發するといふ風に考へるのは、あまりに非科學的の見方ではないか。著者の一考を要する問題だ。

三、天照大神の高天原民族を、余は著者の如くバイカル高原からやつて來た民族とは考へぬ。神話(古事記)に依るに、天照大神とスサノヲノ尊との間に出來た御子の中に、南洋植物に因む名前のあることは著者も説明してあるだらう。例へば樟の名の熊野櫟樟日尊の如きはそれだ。素盞鳴尊と南洋民族の大山祇神と密接な關係があるし、皇孫ニギノ尊と大山祇神の女木花咲耶姫との關係、是等は同種民族血統の相通するものあるの表示にあらざる乎。

三、天照大神の高天原民族を、余は著者の如くバイカル高原からやつて來た民族とは考へぬ。神話(古事記)に依るに、天照大神とスサノヲノ尊との間に出來た御子の中に、南洋植物に因む名前のあることは著者も説明してあるだらう。例へば樟の名の熊野樟日尊の如きはそれだ。素盞鳴尊と南洋民族の大山祇神と密接な關係があるし、皇孫ニギノ尊と大山祇神の女木花咲耶姫との關係、是等は同種民族血統の相通するものであるの表示にあらざる乎。

垂仁天皇の時に天照大神の靈廟を伊勢に奉遷したことは誰も知つてゐるが、倭姫命の承つた神話「この神風の伊勢國は、則ち常世の波の重波よする國なり。カタ國のウマシ國なり、この

國に居らんと欲す」の御聲は何を意味するか。これこそ高天原民族が北から來たか、南から來たかをそれ自體に於て告白する文獻上の好資料ではないか。著者は此の貴き御聲を、通り一遍に解釋して民族的起源論上の注意を看過したのは遺憾に耐えぬ。若し北から、所謂著者の云ふが如く『バイカルから北滿へかけて』の高天原から來たものとすれば、天照大神の神託は必ずや北方を指すであらう所の出雲地方か、然らざれば北越地方の場所に大神を祭祀せしむべきことを欲するであらう。余は、もつと／＼語りもし批評もし度い。是等の問題に就いては、汲めども盡きせぬ感興を覺ゆるものであるが、茲で筆を割愛することにしやう。(昭九、十、十二日夜)



# 田中館秀三氏著

## 一『東北地方市町村別人口密度表』

## 二『東北地方人口増加率の地域的分析』

研究員 小田内通敏

田中館秀三氏は、昭和二年五月、富田・齋藤二氏と共に、『仙臺財団法人齋藤報恩會學術研究報告第四』として『東北地方市町村別人口密度圖』並に『同密度表及び密度圖解説』を出して、東北地方の人口分布を論じ、此の地方を一の農業地と見做して、人口飽和度を概算し、なほ今後人口的發展の餘地ありや否やを豫察し、當時いまだ人口の地理學的研究乏しき學界に對して、大に啓發する所あつたが、今回『同研究報告第十九』として、『東北地方市町村別人口密度表』

を出した。同氏の研究によれば、

東北地方は北海道を除き、全國に於て、人口密度最も小なる地方なるを知るべく、各縣とも日本全國の密度より遙に小て

ある。そして東北地方の平均人口密度は、日本全國の1/3に比して、僅かに10%に當る。東北六縣の中、宮城・山形・福島島の三縣は東北の平均以上の密度を有し、他はそれ以下である。又現住人口の増加率から見ると、關東、東海、近畿の大都市及び工業地を包有する人口集積地には遠く及ばざるも、北海道の如き今なほ植民地行政下にある人口集積地、又は工業地を含む九州地方と殆んど同様である。然し日本全體の人口増加率に比すると遙に低い。

とされ、密度階級に就いては、十階級に分ちて、東北六縣の市町村數を配してゐる。なほ、精細なる左の二表に於て、

第一表 東北地方縣郡市別人口密度表(昭和五年)

第二表 東北六縣市町村別人口密度表(大正九年・昭和五年)  
前者には、六縣の市郡別の人口密度並に十ヶ年並に二十七ヶ年の増加率を明かにし、後者には、六縣の市町別の面積・人口・密度・増加等を明かにするやうになつてゐる。是等の人口現象は更に、彩色鮮明なる

一、東北地方市町村別人口密度圖(八十萬分一)

二、東北地方市町村別人口増加率分布圖(八十萬分一)  
によつて、夫等の地域的特色が明かにされるやうになつてゐる。

の人口増加を實證してゐる。

密度に就ても

山地、平原地、海岸地、核心地域

に分ちて検討し、

最近の人口増加率に就きても、

山地、平原地、海岸地、核心地域

に分ちて考察し、更に

核心地域人口密度の比較

核心都市の人口増加率

東北地方の人口移動

に及び、是等の諸現象を歸納して、山地は主として中増、平原地は主として弱増地で、漁業地・鑛業地は、産業の消長によつて人口は移動するから、一般的な増加傾向を知る事が困難だと結び、其の地域的現象を例示してゐる。

以上田中館氏の東北地方の人口研究は、井上修二氏の研究と共に、東北地方に於ける人口研究の先驅であるばかりではなく其の他の諸地域に於ける人口の地域的研究に對しても、相當な示唆を與ふるものである。

我が人口問題研究會に於ても、去る七月『日本人口密度圖』を

## 『東北地方人口増加率の地域的分析』

は、田中館氏が、東北帝國大學法文學部十周年記念『經濟論集』に發表されたもので、先づ東北地方の地域區劃即ち

一、山地

二、平原地、海岸地及特殊地域(核心地域を附加す)

の地域的分布を圖示し、進んで

一、人口増加率

二、人口密度

三、最近の人口増加率

を研究してゐる。

増加率に就いては、先づ東北地方の自然増加率と全國の自然増加率を年次別に、次に六縣別に比較して、之を地域的に

一、集積地域

二、強増地域

三、中増地域

四、弱増地域

五、減少地域

に分ちて、各地域の

山地、平原地、海岸地、炭田地



公にして、

一、道府縣郡別人口密度

二、道府縣郡別對耕地村人口密度

三、道府縣別市並町人口密度

を明かにしてゐるが、是等の密度と、土地利用、土地所有並に人口移動の關係を明かにすべく、昭和四年の

一、全國各市各郡別町部村部全面積に對する耕地面積の比率（千分比）

二、同耕地面積に對する田及畑の面積の比率（千分比）

三、同耕地面積に對する自作及小作面積の比率（千分比）

と、昭和五年の

全國各市各郡別町部村部出生地別人口の總人口に對する比率（千分比）

を、更に、東北六縣の各市町村に就きては、是等の全國の傾向に對していかなる位置を明かにする爲に、以上の諸表に於ける土地並に人口の諸狀態の比率を、東北六縣の各市町村の比率に求めてゐる。是等の集計は、委囑せる内閣統計局の集計を俟ちて、直ちに作圖する事になつてゐる。其の完成の曉には、東北六縣の人口研究に對して、相當な基本的資料たるであらう。

に於て纏められてゐる。

第一篇に收むるところは（一）國勢調査に於ける年齢の誤謬、（二）大都市人口の構成、（三）舊約聖書に於ける人口、（四）飛彈白川村の人口、（五）生産休止期間の生産序列別、（六）スコットランドの家族統計、（七）造船船工場に於ける公傷率、（八）配偶關係と死亡率、（九）社會現象としての乳兒死亡率、（十）自殺に關する統計的研究及び（十一）私生兒の地位と運命、以上十一篇であつて廣く人口現象の社會學的、倫理的方面の統計的研究に亘つてゐる。

此等多數の論文を一々紹介する餘白がないから一、二のものについて一言することしよう。

先づ卷頭の「國勢調査に於ける年齢の誤謬」といふ論文に於て著者は國勢調査の各種の誤謬を掲げて、其の中最も普通なるものとして年齢誤謬をとり、諸外國の事例を引證しつつ我が國大正九年及び大正十四年兩度の國勢調査の結果によつて年齢の誤謬を吟味してゐる。

先づ（一）概數年齢の誤謬に關して Paines によつて印度の極端なる事實を挙げ、英米獨の興味ある諸事實を参照したる後、我が國兩度の國勢調査の結果につき四歳乃至八十一歳の各歳別

## 岡崎文規氏著「人口統計に於ける諸問題」

（昭和九年七月發行）

研究員 館

稔

人口問題の研究が益々盛んになつて來たが、人口問題研究上人口統計學が如何に重要な地位を占めてゐるかは、近代人口問題の研究が人口統計學の母胎から生れ養はれ來つた歴史に顧みても多言を要しないところである。然るに我が國に於いて人口統計學に關する著書はまだ／＼極めて少ないと云つてよい。今、我々は表記の近刊岡崎氏の勞作を之に加へることが出來た。

本書は著者が序言に述べてゐる如く、同氏著「人口統計研究」並に「職業統計問題」に於て發表せられたもの以外の（一）人口現象の統計的研究並に（二）人口統計の方法論に關する論文を輯録せられたものである。

本書を二篇に分ち、第一篇に於ては人口現象の統計的研究に關する諸論文を集め、人口統計の方法論に關するものを第二篇

人口を比較對照して、五及び十の倍數に該當する年齢階級に着目し、大正九年に於ける五又は十の倍數に當る年齢階級の人ロで其の前後の年齢階級の人口より隆起してゐるものとして十五、五十五、六十歳の三階級を挙げ、大正十四年に於ては、五歳二十歳、六十歳、六十五歳の四階級を求め、大正十四年の五歳を除外すれば兩度の國勢調査の間隔は五ヶ年であるから此の年齢には一奇妙なる一致の存すること指摘してゐる。而して之等の年齢階級が特に隆起してゐるのは勿論概數年齢の誤謬もなしとは云ひ得ないが、特殊の社會事象（例之、戦争、惡疫、景氣等）が刻んだ結果とも見得るとなし、我が國に於て英米に比して概數年齢の人口數がかくの如く著しき隆起を示してゐない最大の原因を、原則として生年月日を記入せしむる我が國國勢調査の中告方法に歸してゐる。一般に年齢調査に當つて「何歳」と云ふ申告方法を探る場合には概數年齢を中心とする偏傾誤謬が發現する傾向があり、反之、生年月日を申告する方法による時はこの危険が少い。かくて生年月日の申告方法を採用する我が國國勢調査の結果に於て「偏傾誤謬の存在する危険至つて少なく、偶然誤謬も、正及び負の兩面に於て、全般の年齢に分散してゐるものと考へるのが至當である。」（本書一〇頁）となし、

此の點に關する限り、「我が國の年齢別人口統計資料は、ある程度まで信用してよい。」(本書一〇頁)と斷じてゐる。

次に(二)幼少年齡に於ける誤謬に關し Whipple 等によつて米國初め英獨の事實を示し、先づ大正九年及び大正十四年の國勢調査の結果について我が國幼少年齡の(a)「事實に反する申告」に關して考察する。大正九年の人口分布を見れば、「一歳未満の人口は一歳以上二歳未満の人口よりも多く、一歳以上二歳未満の人口は二歳以上三歳未満の人口よりも多いが、二歳以上三歳未満の人口は三歳以上四歳未満の人口よりは、逆に少なく、また三歳以上四歳未満の人口も四歳以上五歳未満の人口より、同じく少ない。」(本書一三—一四頁)かくの如く大正九年の人口分布はノルマルでないが、大正十四年のそれはノルマルである。大正九年がアブノルマルであるのは主として大正七年の流行性感冒による同年に於ける死亡率の著しき上昇と翌八年の出生率の著しき下降の人口年齡構成への表現であるとなし、「事實に反せる年齢の申告が、幼少年齡に於ける人口にも行はれてゐる事を否定は出来ないと思ふが、斯くの如き例外的事例の加はらざる限り我が國の幼少年齡別人口の分布状態が、決して英米のそのの如く不良でない事は、大正十四年に於ける幼少年齡人口の分布状態が之を立證してゐる。」(本書一五頁)と斷じてゐる。(b)次に幼

少年齡人口の申告洩れについて、大正九年〇歳以上五歳未満の人口と滿五ヶ年後の大正十四年の五歳以上十歳未満の人口との差を求め、この間に於ける動態統計による當該年齡階級の死亡數とを比較し國勢調査による大正九年〇歳以上五歳未満人口と大正十四年五歳以上十歳未満人口との差五三三、一八三を求め、死亡統計によつて八九六、〇〇〇の結果を得實に後者が三六二、七二七の超過を示してゐることを指摘し、幼少年齡に於ける申告洩れが相當に存在する事は想像に難くないとしてゐる。進んで同様の方法を用ひて五歳未満各歲別に考察し、二歳未満の年齢に於ける申告洩れが特に多い事實を見出してゐる。

(三)女子妙齡人口の不正の申告による誤謬に關し、Baines, Hooker 等を引用して、印度、英國の事例を参照し、翻つて我が國女子妙齡人口に關して(a)大正九年及び大正十四年の二十歳乃至三十歳の年齡階級に於ける女子及び男子人口を比較し、英國の如く此の間特に著しく女子人口が累積してゐるとは考へられないとしてゐる。次に(b)大正九年十五歳乃至十九歳人口を大正十四年二十歳乃至二十四歳人口と各歲毎に比較し、此の間の推移の極めて自然的經過なるを明かにし、之等の年齡階級に於

ける女子人口の分布状態が特に不良であるとは云ひ得ないとなしてゐる。之は「英國の如く『何歳』を以て年齢を申告する場合、虚榮に基くと云ふよりも、婦人らしき羞恥感に驅られて實際よりも若き年齢を申告する可能性が多かる可く、『生年月日』を以て年齢を申告する場合、特に我が國の如く特殊なる年號を使用する場合にはこの危険が少なくなるのではあるまいか」と結んでゐる。

(四)最後に高齢人口の申告誤謬については Tyszkiewicz, Mayr, Newsholme 等によつて獨逸の興味ある事實を示し我が國の百歳以上の高齢者は極めて少數であつて重要視する必要のないことと再審査の統計資料を缺くことによつて之を省略してゐる。

「第六スコットランドの家族統計」は著者が緒論に該當する部分で云つてゐるやうに種々の意味から出産力の調査が極めて重要視せられるに至つた今日多大の参考となるべきものであらう。著者は第二篇第一「社會生物學的問題の家族統計的研究に就いて」の項に於てその性質及び方法に關する理論的論述を試み、家族統計の基礎たる調査方法及び其の結果に關する一つのイクザンプルとして一九一一年四月一日國勢調査に於いて採用したスコットランドの調査方法並にその結果の概要を Burgdörfl-

er によつて要領よく紹介したるものである。

次に第八「配偶關係と死亡率」の篇は、偶々私が昭和五年について配偶關係別死亡率を算出したので本輯に掲げその中で之を紹介して置いた。

第二篇人口統計論に集めるところは一、社會生物學的問題の家族統計的研究に就いて、二、世帯統計に就いて、三、住居統計に就いて、四、婚姻率の算定に就いて、五、明治維新以後の人口調査及び六、支那の人口調査の六篇である。いづれも人口問題研究者にとつて頗る便利な論文であるが特に第六は極めて要領よく纏められた我が國人口調査の歴史であつて甚だ便宜なものであると思ふ。

以上の如く本書は人口統計に關する興味深き論文集であるが人口現象の社會的倫理的方面の研究が多い。人口それ自體の現象と經濟現象との關係に關する研究も甚だ重要であり、その資料も決して豊富ではない。著者は此の問題に關して既に「職業統計問題研究」を公にしてゐるが、更に廣く人口と經濟との關係に關する人口統計學的研究の結果を發表せられることに切に希望して一先づこの極めて粗略な紹介の筆を措くことにする。

# 大沼幸之助氏著

『農村に於ける青年層の状態』

研究員 小田内通敏

此のバムフレットは、頁数からいへば、僅かに三三ページに過ぎないが、其の研究方法は、眞摯な學問の良心から生み出されたものである。

秋田縣の平鹿郡植田村といへば、横手盆地の一角で、雄物川の支流皆瀬川に沿へる沖積地。従つて耕地は全面積の83%で、其の9割は水田である。全村406戸のうち農家は331戸、専業農家が多く、しかも自作兼小作農と小作農が多い。

此の村に對して、著者は昭和11年5月以降、忠實に青年男女の離村状態、職業状態、教育程度、結婚並に死亡等に就いて調査して來た。

其の調査の方法は、先づ必要な人口統計を年次別に蒐集整理し、これらを歸納して、其の傾向をグラフにあらはして、それらの理由を詳しく説明してゐる。而して最後に總括として、左

の十數項が擧げられてある(抄録)。

- 1 農村に於ては、其の出身青年の約半數は離村し、特に女子は9割以上の割前後で、昭和年以後著しい。
- 2 離村してゐる青年の年齢は、高年齢の離村者が多く、逐年増加してゐる。
- 3 村へ入つて來るものよりも、出てゆくものが多い。
- 4 年齢別人口の構成の上から見ると、幼老年の數が著しく多い。
- 5 離村先は、大體大東京等の大都市へ向ふ傾向にある。
- 6 離村する青年は、小學校卒業期と、徴兵適齡期の二期がある。
- 7 離村の原因は、經濟的窮迫の爲に、家計を助けやうとするものが逐年増加する。
- 8 離村せる青年の職業は、複雑化して來てゐる。
- 9 在郷青年は、村の農業勞働の主要な役割をつとめてゐる。
- 10 離村と教育程度との關係を見ると、高い教育程度のもほど多いから、農村の智能構成が低下してゆく。
- 11 青年の結婚年齢は、男にあつては22歳、女にあつては20歳頃が多い。初婚平均年齢は、男では23歳、女では22歳、

これは内地平均初婚年齢に比べると、男では3歳、女では3歳強の早婚である。

- 12 青年の死亡の年齢を見ると、第一期は小學校卒業期の15歳であり、第二期は、適齡期たる20歳前後で、其の死亡原因は、呼吸器疾患によるもの最も多く、しかも逐年激増の傾向にあるのは注目すべきである。

これは昭和6年3月の脱稿で、10月に出版されてゐる。此の眞摯な研究は、植田村の青年男女に多大の衝動を與へてゐるであらうし、同縣の智識階級または農村に關心を有つものにも多大の示唆を與へてゐるであらう。かゝる調査は、地味でしかも困難であるから、從來あまり我が國の農村居住者によつて着手されてゐないが、我が國の村落人口の現在から將來への動向の眞の凝視は、かゝる準備工作によつてそれが築き上げられるであらう。切に著者の健在と進んで縣内に於ける代表的な村落の人口調査に著手せられん事を希望する。



記事

財團法人人口問題研究會主催

第一回人口問題同攻者

會合記錄

昭和九年十一月七日午後二時より内務省第一會議室に於て本會主催第一回人口問題同攻者會合を開催した。本稿はその際に於ける速記録の概要である。

出席者

- 社會局事務官 安積 得也氏 帝國農會 青鹿 四郎氏
産業組合中央會 東浦 庄治氏 社會局囑託 早崎 八洲氏
東京商科大 猪谷 善一氏 農林技師 坂井 申生氏
學助教授 井上 謙二氏 法政大學 伊豆川 淺吉氏
土方成美教授 井口 東輔氏 社會局保險部長 川西 實三氏
日本經濟研究所 神谷 慶治氏 社會局技師 菊田 貞雄氏
東京帝國大學農學部 古山 利雄氏 社會局技師 古瀬 安俊氏
東京經濟研究所 龜田 豊治郎氏 社會局技師 森田 優三氏
逓信技師 龜田 豊治郎氏 社會局技師 森田 優三氏
理學博士 龜田 豊治郎氏 社會局技師 森田 優三氏
明治學院教授 三好 豊太郎氏 社會局技師 森田 優三氏

- 協 調 會 美濃口 時次郎氏 東京商大 中山伊知郎氏
社會局技師 長澤 柳作氏 早稲田大學教授 西野入 徳氏
社會局技師 長瀬 恒藏氏 慶應義塾教授 奥井復太郎氏
社會局技師 大西 清治氏 關東學院教授 小田橋貞壽氏
經濟統計研究 下條 康磨氏 簡易保險局技師 齋藤 齋氏
柳澤統計研究 阪本 敦氏 慶應義塾教授 寺尾 琢磨氏
農林技師 戸倉 莞爾氏 東京帝國大學 田中節秀三氏
東京市統計課 豊浦 淺吉氏 法政大學 武見 芳二氏
辯護士辦理士 徳村 謙吉氏 業大學校教授 吉田 秀夫氏

- 本 會 側
會 長 伯爵 柳澤 保惠 常務理事 井上 雅二
理 事 經濟學博士 永井 亨 理 事 法學博士 下村 宏
監 事 山川 端夫 理 事 長谷川 勉夫
評 議 員 矢野 恒太 評 議 員 池田 宏
評 議 員 戸田 貞三 評 議 員 安部 磯雄
幹 事 持永 義夫 幹 事 長谷川 透
社會局事務官 清水 虎雄 研究員 小田内通敏
研究員 増田 重喜 研究員 左右田武夫
研究員 館 稔 助 手 平石 忠
書 記 秋村 潔 書 記 平間莊太郎
館研究員開會を宣し、會長柳澤伯爵本輯卷頭掲載の挨拶をさる。會長の指名により――

館研究員 私から簡単に會の事業に就きまして御説明申上げます。只今會長から本會の趣旨に關しまして御話をごさるましたやうに本會は一面に於きましては會自身調査研究を致しますと同時に、他方に於きましては人口問題の研究促進、人口政策施設の促進を圖る方面と二つの方面を持つてゐる譯であります。従つて事業も二つの方面に分れて居りますが、先づ最初に調査研究の方から簡単に御説明申上げます。本會の調査研究事項はお手許に配布致しました印刷物の通りであります。只今では研究員四名を置きまして、人口問題に關する調査研究を分擔してやつて居ります。今研究員の方で着手致して居ります研究は小田内研究員は「過剰人口に關する調査」と、人口の地域的産業的分布並に移動に關する調査で、第二の人口の地域的産業的分布並に移動に關する調査の一部分は既に「日本人口密度圖」と致して發表して居ります。増田研究員は「過剰人口の調査」と「人口増加に關する調査」とを擔當して居ります。第二の人口増加に關する調査は相當進捗致しまして、近く發表の豫定であります。左右田研究員は外國の人口思潮に關する調査を擔當して居ります。最後に館研究員は内國の人口思潮に關する調査を擔當致しまして、更に「配偶關係の調査」に着手して居り

- ます。研究員の調査研究の分擔は以上の如くでありまして、更に一方理事の中から指導理事三名を設けまして研究員の指導に當られる外、指導理事自身夫々研究項目を定めて研究をお進めになつて居る次第であります。その指導理事の研究項目の概要を簡単に申上げますと次の如くであります。
上田貞次郎博士
一、人口の構成特に年齢構成の變動に關する事項
一、將來に於ける人口の豫測に關する事項
一、人口と産業、貿易、一般經濟との關係に關する事項
一、産業の人口吸収力、就中商工業の發展に關する事項
那須皓博士
一、人口の分布及び移動に關する事項
一、都市及び村落人口に關する事項
一、人口と食糧、農業、土地經濟との關係に關する事項
一、食糧自給の限界並に收容人口の極限に關する事項
永井亨博士
一、過剰人口及び過少人口に關する事項
一、職業人口、就中勞働人口に關する事項
一、人口と職業、過剰人口と失業との關係に關する事項



一、國民所得の分配に關する事項  
 一、生計調査及び消費經濟に關する事項  
 を御分擔になつて居ります。

更に井上常務理事

一、移植民に關する事項

下村理事

一、人口統制に關する事項を御分擔になつて居ります。

これ等の研究員の分擔並に指導理事の研究の外に委託調査を行ひまして、重要な問題に就きましては専門の研究機關なり、専門のお方なりに委託調査を御願ひして居ります。その主なるものは、「全國の耕地面積に對する郡別町村人口密度に關する調査」は、その集計を嚮に内閣統計局に委託して、既に完了致し印刷に付して發表して居ります。又「賃銀別労働者子女數に關する調査」も内閣統計局に委託し、集計が完成致しましたので近く取纏めて出す豫定になつて居ります。これが大體の調査研究の大要であります。

調査研究に附帶致して内外の資料を極力蒐集して居ります。條件の許す限り可及的に資料の蒐集を行つて居りますのでございますが、何分創立後間もありませんので澤山とは申されませぬ。

ぬが、約一千部以上を藏するに至つて居ります。

次に國內の聯絡提携は先程會長からも御話のありましたやうに此の事業を重要視致しまして、本日此處に開催致しました同政者會合もこの事業の一部でありますが、又全國的な協議會等を開いて國內の聯絡提携に進むことになつて居ります。

國內の聯絡提携の外に先程會長からお話のありました通り、國際的な聯絡提携にも重きを置いて居りまして、世界人口會議を通して人口問題の各研究機關、或は個人の有力な方々に會の設立を報告すると共に聯絡提携方を依頼致しました。國際的な各研究機關としては國際人口會議、イタリー國立人口問題研究所、スクリツプ財團人口問題研究所、イギリスの人口問題協會、北米合衆國の人口問題協會その他の機關で、尙ほ個人としても有名な人々、パウラムベルト、フエアチャイルド、ウエルプトン、コックスなどと云ふ人からも既に研究の資料交換を受けてゐるのであります。

次に人口問題の知識を普及し、研究を促進する爲に公開講演會を開催して居りまして、第一回は昭和八年十二月十一日、東京朝日講堂で開催致しまして多數の來聽者があつたのであります。第二回の公開講演會は大阪市中之島中央公會堂で大阪府市

後援、本會の主催によつてやりましたが、これ亦非常な盛會を極めました。

次に人口問題研究の促進並に知識の普及と云ふ意味から懸賞論文を募集致しました。昭和八年八月、「我國人口問題の解決方針」と云ふ題名の下に募集を發表致しまして、内地、植民地に亘り總數百二十二篇からの大部な應募原稿が集まりまして、昭和九年一月二十日募集を締切り、本年四月二十四日に審査を終了致しまして、二等三名、三等四名を採用と決定し、發表致しました。

次に人口問題に關する本會で纏めました資料、或は重要な資料を本會を通じて印刷發行致して居るのであります。先程の第一回の公開講演會の速記録を「人口問題講演集第一輯」として發行して居ります。尙ほ先程内閣統計局に委託調査を願ひました、全國耕地面積に對する郡別町村人口密度に關する調査による日本人口密度圖を第二輯として發行致して居ります。それから先程申しました懸賞論文の入賞したもの全部を編輯して、第三輯「我國人口問題の解決方針」と云ふ題名で本年の十一月一日に發行致しました。最後に皆様のお手許に配布しました第二回の人口問題講演會の速記録を「人口問題講演集第二輯」として出して居ります。尙ほ此の外一九三一年ローマの國

際人口會議の資料の中で重要なもの英文六篇、獨文のもの三篇、佛文のもの五篇、伊太利文のもの六篇を選びまして、只今翻譯原稿の整理を急いで近く發行の豫定になつて居ります。

最後に近く行ふ事業と致しまして、既に決定を見て居るものに關しまして一言致しますが、それは御承知のやうに本年はマルサス歿後百年に當りますので、これを機會に記念事業としてマルサス歿後百年記念人口問題研究資料展覽會と、同時に講演會を開催することになつて居ります。期日は本年十一月二十九日、三十日、十二月一日の三日間、日比谷の蠶絲會館で開催することになつて居ります。講演會は二十九日の夜、矢張り蠶絲會館で以てやることになつて居ります。只今各方面に依頼した資料が集つて居ります。尙ほこのマルサス記念展覽會に附帶致しまして、マルサス自身の研究並にマルサス以後のマルサスに關する重要な資料を集めまして、マルサス文獻集の編輯を致して居ります。

大體これまで行つて居ります會の事業の大略は以上の如くであります。先程會長も御話になりましたやうに、まだ設立後日尙ほ淺く、資金も十分ではないのでありますけれども、出來得

る限りのことは致しまして、會の趣旨に従つて事業の進行を計つてゐるのであります。皆様方の御希望なり御批判なりを伺ひまして参考と致したいと思ひます。簡單ではござりますが、事業の概要を申述べた次第であります。

**柳澤會長** 皆様に御相談致す爲にこれより懇談に移ります。懇談の内容は本會で決めましたのが、

第一 本會の事業に就いての御希望又は御意見

第二 今後の同政者會合に於ける研究事項報告項目竝にその方法

第三 本會會員組織の件

先づ斯様に決めて懇談を願ひ度いと思ひます。私の會長としての務は済みましたから、これから懇談會に移ります。どうぞさう云ふことにお願ひし度いと思ひます。

(柳澤會長、會長席を退く)

**館研究員** 本日の同政者會合の懇談の座長を柳澤會長にお願ひし度いと思ひます。御異議はござりませんか。

(異議なしと呼ぶものあり)御異議がないようですから伯爵にお願ひ致します。(柳澤伯爵座席に着く)

**柳澤座長** それでは懇談會の座長を勤めます。

只今館研究員から事業概況を申し上げましたが、ああ云ふ方針でやつて居ります。それに就いて御質問なり、御意見なり御希望なりが御座りましたら御遠慮なくお述べ願ひ度いと思ひます。速記がござりますけれども極めて御自由にお願ひし度いと思ひます。

(以下發言者は夫々座長に發言を求め、許可を得て發言せられたが、發言要求の言葉は省略する。)

**下條氏** 段々此の人口問題に就いて御研究になつて居られる方が、更に一層此の問題に就いての研究を進める爲に私は一つの希望を申し上げて見度いと思ひます。

それは人口問題の有力なる題目として認められて居ります移民に就いては、將來非常な減退をするのではないかと云ふ懸念を持つて居る譯である。その懸念の存する點は、日本の人口問題が海外の諸國から十分認識されてゐない點もありはしないかと思ふ。一部の學者の間には日本の人口問題に就いての知識があるやうでありますけれども、一般には日本の人口問題が斯くの如く重大性を帯びてゐると云ふ認識が極めて不十分であります。これらの理解を進める爲に、又一面に於きましては此の人口問題研究の爲に、私はなし得るならば、昭和十年に我が國で世

界人口會議を御開きになることを御計畫になつてはどうかと思ひまして希望を申し上げます。今申上げました通り世界的に日本の人口問題に就いて理解を求める爲と、その世界人口會議を開くと云ふ計畫に於きましては、先程會長からお述べになりました、經濟學、社會學、統計學、生物學、その他各方面の研究を促進して、日本の人口問題研究に資する。斯様な意味に於きまして、此の會から世界人口會議の計畫を爲すことが最も時宜に適するものであると信するのであります。豫算關係なども御考慮になるものと思ひますが。――

**柳澤座長** 一寸伺ひますが、一九三一年の世界人口會議の繼續でござりますか。或は又別にやるのでござりますか。

**下條氏** 別でよからうと思ひます。實は最近に開かれました赤十字の國際會議等に於きましては二百六十何名かが日本に来て、あれでも大分日本の經濟事情、社會事情の理解が高まつたやうに聞いて居ります。移民問題の解決に就きまして、實際の日本を見て貰はぬと、どうも話が決定せぬのではないかと思ひます。随分新聞などにも移民に關する面白くないものがあります。矢張り日本の實情が十分知られてないと云ふ點もあらうと思ひます。又先程館研究員からの御話にも世界人口會議で

色々な、有力な資料が分けて貰へましたと云ふことであります。が、ああ云ふ風にこんな機會に各方面から研究資料が集つたり、會議で有力な資料を提供することにもならないかと、斯様に思ひます。

**柳澤座長** それは非常に結構でござりますが、それに就いて皆さんの御意見を伺ひ度いと思ひます。尚下條君のは政府から手傳ふ意味ですか。

**下條氏** さう云ふ意味です。

**柳澤座長** それは却々大きいものですからね。これに就いて井上さんから御意見を伺ひ度いと思ひます。

**井上常務理事** 只今下條さんから御希望であつたやうでありますから、私が何かその點に就いて、只私一個の考を申上げて見度いと思ひます。本會の方でも寄々人口會議を開いたらと云ふ意見が出て居るのであります。公にはなつて居りませぬけれども、一部に於きましてはさう云ふ話が話題には上つて居ります。只これを何時やるかと云ふことに就きましては、只今も會長に館研究員よりの御話竝に報告にもありましたやうに、まだ創立早々でありまして、材料が十分に纏りませぬので、會としての一つの成案が來年までに出來ますれば非常に結構と思ひ

ますけれども、その點が如何であらうかと思ひます。

第二は今の下條さんの御話にあつたやうに政府に協力を求めると云ふ點から見ましても來年度の豫算は略々決定されて居るやうでありますから、來年度に於いて、何かこれに要する費用を出して貰へるか否かが理事者の一人として考へられる譯であります。申すまでもなく早い方がよいが、斯様な費用を捻出し得るやが疑問である。折角やるならば出来るだけ完全にやるべきものであらうと思ひます。又私共の経験からしましても、人口問題の研究者なり、權威者は各方面にあるやうであります。北米合衆國、ヨーロッパのみならず、南米諸邦に於きましても、矢張り或る方面の權威者はあるやうであります。従ひまして招集致しまするに致しましても、世界の各地からお出を願はなければ十分なる説明なり、了解なりが出来ないと思ひます。非常な遠い方面から、學者を主として出しまするので経費の點から言つても却々かかるので参加されない。自分の費用でやつて貰ふと云ふことになる、これ又その人が非常に少くなる。色々なことを考へまして、私個人のかとしては御提案は吾々の考へとしても思ふことであるが、何時やつていいかと云ふことは、此方の準備を先にしてやり度いと云ふ感じを持つて居

るのであります。これだけ申上げまして、出来るだけ早くさう云ふことになるやうに同攻者の方々にもお願いし度いと思ひます。私だけの考を申上げましてお答へに代へ度いと思ひます。

**猪谷氏** 只今の下條さんの御趣旨は賛成であります。それに何か井上さんの御話がありまして、何か準備の御話がありました。それがその準備の意味に於きましても此の重要な團體でやられた御研究なり、御調査なりの結果を外國文で海外に配つて頂き度いと思ひます。國際會議に於いても十分考へてやらないとお祭騒になる危険がある。その意味に於いても、かう云ふ權威ある團體から今までの研究なり調査を少くとも英佛獨文のパンフレットにして出したならば事務的の効果もあるのではないかと思ひます。下條さんの御提案に賛成しますが、希望條件として私はもう一つ此の事を附加し度いのであります。

**田中館氏** 只今の御話に就いて一寸申上げますが、萬國地理學會を開催するにつきましても實現には幾多の議論がありま

ら見ますと、まだ全く期待され得ない。寧ろ此の際小さな問題から築き上げて、もう少し人口問題の研究を始める方が先づ第一だらうと思ひます。

それから自分の研究のことを申上げ度いと思ひますが後に致しませうか。

**柳澤座長** 宜しう御座ります。

**田中館氏** 私は地理學を二十七八年やつて居りますが、此の項目の中にも地域的と云ふと非常に軽く取扱はれてゐるやうであります。先程會長の所に二枚程私共の仲間が作り出した圖を出しましたが、私自身地理學の中の極く小さい地域的研究をして居ります。どうしても地理學から始めて人口問題を研究しなければいけないと思ひます。此處に色々な参考論文を持つて來て居りますけれども、日本の農村の人口が減るとかで今これは非常に重要なことでありまして、此處にあります論文を見ましても、日本の中央に一つの線を引きますと、その日本海に向いた方の農村の人口は渡つて太平洋に向いた方の農村の人口は増加を認める譯で、大變な違を來して居ります。又都市人口と申しましても色々な場合があります。私の取扱うて居ります東北地方について見ましても色々な場合があります。例へ

ば此處に小さなものがありますが、過去明治三十一年から大正十四年まで二十六年十ヶ月間の人口の増加率と増加數があります。それを覚えて置きます。その年數は恰度マルサスの云ふ二十五年間にして人口は倍加すると云ふ年數に近いものであります。東北で調べて見ますと、純農村で二十五年間に倍加した村はたつた一つ私に見付かりました。岩手縣の北上の山地の北にあります。一方井と云ふ村であります。後は外の物が這入つて人口が倍加して居る。さう云ふことが分るのであります。一體日本の増加率から見ますと、この二十六年十ヶ月の間に四十%殖えた譯であります。それから東北地方でありますと五〇%殖えた筈であります。減少の村が非常に多い。これは色々なこともありませうけれども、日本の人口はその時代時代に於きましては飽和點に近いものであると云ふやうに考へて居ります。さう云ふ風で、此處に二つ、三つ簡単な論文を廻しますが、私の仲間の作つたものであります。極く差當つた問題は東北地方の飢饉の地域的人口分布即ち罹災民の分布、さう云ふものから考へて、各地域々々によつて救済の方策を樹てなけりやアいかんだらうと云ふやうに考へて居ります。——一寸館さんその圖を掛けて下さい——それから恰度二三日前に、こ



これは十年間の人口の動態圖であるが、紫は減少傾向を示すものでありますが、大部分の地方は減少を示して居ります。もう一つ地域的に申しますと、これが二十六年十ヶ月の人口増加率を各町村別にしたのでありますが、此處に（青森方面から下關方面へ）一線を引きます。さうすると日本海の方と、太平洋の方では、此方（日本海の方）は減少を示し、此方（太平洋の方）は増加を示して居ります。それで農村の人口を問題にする場合に日本全體としては、これは當分の問題でないかと思ひます。地域地域によつて違ふ。さう云ふ風に減少をして居る。又過去十年間のものはかう云ふ風なものになります（圖示）。それに致しましても増加率が減る傾向が現はれて居ります。ヨーロッパの人口が、産兒の數は減少する傾向があると言はれて居りますが、日本の産兒は増加して居ります。最近の調査によりますと、矢張りヨーロッパの産兒の傾向を辿つてゐるやうであります。平地の人口は矢張り多少づつ増加して居ります。都市の人口は増加する。さう云ふ地域的の傾向があるのであります。もう一つ此處に二三日前の地理學會總會で吾々の仲間がやりましたものを見ますと、これは平方糎の中に無居住の地域を書いたのであります。それがかう云ふやう（圖示）になります。詰り五萬平

方糎——五十里に六十里の長方形が日本の無居住地の大きになります。さう云ふことが、この無居住地圖に現はれてゐるのであります。東北地方の中央部はかう（圖示）、更に九州、四國になりますとかう云ふ（圖示）風に無居住地が出て居ります。今後開拓する上に多少根本的な資料になると思ひます。吾々の地理の方の連中の仕事と致しましては、かう云ふ風な仕事も致しますし又移民問題、さう云ふやうな問題も取扱ひます。皆統計で現はれて居りますが、さう云ふ風な方面から人口問題を一つ御研究になつたらどうかと思ひます。これはこの會に於いても非常に重要なことではないかと思ひます。差當つての問題は東北の飢饉圖を此の人口の方から如何に取扱ふかと云ふことを議して頂くことであり、東北で考へると特に満足します。一寸私は、地理學者はどう云ふ方面から人口問題を取扱ふか。その地理學的人口の取扱方が聽て此の研究會で研究される場合に非常に役に立ちはないかと云ふことを一つ申上げて置きます。更に最近の問題として飢饉と云ふものに對して、どう云ふ方策を定めて調査するか。これを申上げる次第であります。

**下村理事** 今の下條君のお話に對して、私の方の事を参考までに申上げて置きますが、人口會議は却々——日本で開き度い

けれども、日本で開いても亦何處の國で開いても今のやうな状態では却々順調には運び難い。若し人口會議なり、移民會議が絶えず、豫定通り開かれて、各國の代表者が皆集まるやうであつたら世界各國の間が餘りにアツクユニネートにはならぬ。殆ど今日の世界の所謂非常時の問題の根柢は人口問題から出て居るのであります。何時も人口の稠密な側と、又極めて稀薄な側とは茲に利害の衝突がある。従つて移民會議にしてもローマの人口會議でも、その後開かれると云つても却々開かれな。まアその中には、何も政府の代表とか、さう云ふ者が集つて議すると云ふことは出来ないとしてもせめて人口問題にインテレストを持つてゐる相當のエキスパートが寄つて話すことにしても、私共は人口會議のやうなものが、その程度でも、どうか出来ればいいと思ふ。それから又参加する國が少くとも、それはそれで不承してやるより仕方がないが、恐らくは人口が稠密で自分の自由に入りたいサイドと、入れたくないサイドがあるがせめて學究だけでもやつて、効果が學ばれたいと思ひます。外へ出ることも必要であるが、これまでのやうには行かぬ。リットン卿の報告で、ジュネーブでも話しましたが、獨逸の代表が總て此の事を話して、人口會議と云ふものを開いて

それが何等か世界の人口の分布の上に多少とも緩和する道が開かれればよい。さうして國際的のエキユニネートに何等かの緩和になればよいがならない。總て御承知の通り何よりも先づ——或はローレンが取られ、ポーランドが割かれる問題よりも、自分の持つて居たアフリカ邊りの植民地、それがフランスへ行つても、イギリスへ行つても別にイギリスやフランスの人口が多い譯ではない。それが付け加つて自分の方に片よつた。せめて自分達の植民地を元に戻して欲しいと云ふ問題を持つて居りました。逆もやつても寄りはないだらうと冗談話をしたことがあります。これは私人口問題の會議を開いていかぬと云ふのではない。開かなければいけないが、その時に餘り大きな期待をしてはならぬと云ふのであります。兎に角エキスパートが寄つて議して行くことは人口の分布の上に何等か効果を齎して行く。従つて今あたりからでも國際的の人口問題に觸れる。會議と云ふ會議此の間の國際労働會議の時でも、どんな時でも根柢問題からと云ふことになる人口問題から話して行くことと云ふことが、私共殆ど世界の會議で、日本の代表者が一つの大きな主張をする點であります。同時に此度は國內でも少し人口問題と云ふものを朝野共に考へて貰ひ度い。これは當



然すぎる程ですが、御承知のやうに、今までの日本の人口數の將來に關しても政府でやつた人口食糧の調査研究でも、人口推定は過去に殖えた所によつてやつてゐる。稻垣博士などは多少變つた推算をして居つたが、近頃——まだ國勢調査が不十分であつたので、さう云ふ算出をした——日本の將來の人口數がどうやら實際となりさうな研究になつて居ります。陸軍の兵役の問題にしても、内務省の失業調査にしても、農林省の米穀の生産調査にしても、どうしても日本の將來の人口がどうなつて来るか、その構成が根本であるが、それに對しては存外關心が薄いと思ふ。今の忙しい關係諸君がかう云ふ問題に觸れ得ないことは別として、せめて各省で消費その他需給等色々の問題を議する時はどうしても、將來の人口數がどうなるかと云ふことが本になる。今に人口數はかうなる。それにはかう云ふ缺點が生ずる。或はかう云ふことが認められるから、かう云ふ豫算を立てる。といふやうに日本でも朝野共に今少し關心を持たなければならぬ。それで此の研究會が貧弱ながら残つたと思ひますが、今の所で、現に此處に集つて居る顔觸を見まして、も、もつとさう云ふエキスパートが多くなければいけない。又尙ほ朝野に於いてより有力な連中が、より多く此の問題に關心

を持つてゐなければならぬ。さう云ふ點に吾々微力ながら機會を捉へようとして居るのであります。皆様方でも會の方でももう少し身を入れなければならぬかと思ふ。さう云ふ會議が開かれると、それが多少共刺戟になつて少し眼が覺めて來るとも言へると思ひます。何れにしても、私の、理事の一人として考へて居ることは、人口會議を開くと云ふやうなことは先程の井上君の話にもあつたやうに、よく話には出るものであるが、これは相當難事だらう。然し早くかう云ふことの出来る機會を待つてゐる。然しそれによつてどう云ふ結果が得られるかと云ふことは大きな期待をしない。先程の人口の分布、これが會議では斷じて——斷じてと云ふと言ひ過ぎるかも知れぬが——會議で解決は出来ない。日本が如何に山間地帯が多く、住み得る土地が如何に過剰人口で行詰つて居るかと云ふことを世界各國に知らせる効果はあらうと思ひますから賛成は致しますが、さう云ふ點を私共は考慮して居る。同時に外は外であります、國內に於いても——朝野の有力な人々に——非常に直接影響を持つてゐるに拘らず、人口問題に關心が薄いから、これはどうか皆さんの力で此の機運を促進して頂き度い。かう云ふことを考へる。それだけであります。

**下條氏** 此の問題は理事會の方で十分御研究頂きたいと思ひます。

**柳澤座長** 下條さんのお話に對しては井上君から、御趣旨は不賛成ではないが、まだ此の會が創立早々であるから準備が進んでゐない。もう少し仕事をしてからでないと出来難いだらうと云ふことでござぬました。これは決を取りませぬが、理事にお任せ願つて何とか然るべく致します、政府に申込むのもこれは相談してから申込みませう。

何か外に本會の事業に關する御希望なり御意見は、どなたかありませぬか。

**大西氏** 一寸先程來本會の事業に就いて御話を承りまして誠に結構な事と考へて居ります。私元來醫學を修めた者であります故に、一寸私の希望を申し上げたいのでありますが、人口問題が量的な問題であると同時に又質の問題と致しましても相當研究を要すべきものであらうと思ひますが、而も此の質の問題に立到りますと醫學が、之に十分關與しなければならぬ事も、之亦皆さんの御了解を得る事が出來ると思つて居るのであります。所が從來の人口問題に於きましては夫等は、殆んど社會學者或は又經濟學者等に依りましてのみ此の問題が論議されて居

る様に聞き及んで居りますが、此の人口問題研究會と云ふやうな權威ある團體が出来ました以上、出來得る限り將來に於きましては、矢張り醫學的研究と云ふ問題に就き十分の御考慮或は御注意を願つて置きたい。之が一ツ私の小さい希望として申上げて置きます。

それから序でに此の場合に一寸御紹介申上げたい事は、最近衛生學的な方面の人口問題に關する研究の二、三を御參考迄に申上げて置きます。その一ツは本年の四月東京に開催せられた學會に於ける發表でござぬますが、それは京城大學の水島教授の日本人口數の報告として日本の人口數に關する極めて詳細な統計があつたのであります。此の問題に就いて先程下村先生の御話もござぬましたが、上田先生が非常に熱心な御研究をされて居るやうに聞及んで居りますが、京城大學の水島君の研究はロデカルカーブを利用した日本の人口の將來の増加率に對する豫想を發表致して居ります。之等の問題も矢張經濟學者や社會學者に於いて十分考慮して戴くだけの價值があるだらうと思ひます。

それから多少私の關係致しました問題でありますが社會局の西野技師が我國の職業人口に關する研究で、その結論を簡単に

御紹介申上げますと、我國の各種の職業を色々職業の種類別に平均年齢と云ふものを算出致しまして、或は又平均年齢を統計學的に見まして、所謂經濟的生産年齢と云ふものを算出して見るに、職業の種類に依つて日本人の職業人口の生産年齢が著明な差異を現して居る。その結果の最も興味あるものは工業と鑛業、即ち industry と mining でありますが、極めて筋肉的勞働の激しい勞働に従事してゐる職業年齢は非常に低くして、而もその經濟的生産年齢の期間が非常に短いと云ふ事になるのであります。それからその次に日本人の勞働壽命と云ふ事に就きましては色々興味のある結果を報告致して居るのであります。之が先づ最近現れました職業人口に關する相當この社會衛生學的に見まして特徴のある論文と思ひますので一寸此の場合に御披露申上げて置きます。

その次に私自身が關係致しました問題でありますが、それは御承知の通り現在の我が國の社會事象の特徴とも云ふべき婦人の職業界、職業戦線への進出の極めて顯著な現象と云ふものは相當社會衛生學的に見まして研究を要すべきものではなからうかと思ふ。その私共の研究致した問題は東京市内外に於きまして各種の職業デパートのショッ・プ・ガール、或は自動車の車掌、

或は工業従業員、或は又その他の職業者と云ふ各種の職業に就きまして、職業婦人を一々個人々々に當りましてその生理的狀態を具さに調査致したのであります。その結果現在の職業婦人には相當醫學的に見まして憂ふべき現象が現れて居る。即ち質が徐々に低下しつつあるのではないかと云ふ風な考が十分起き得るだけの結果が現れて居ります。

此の二つの研究論文を只今手元に一部づつ持つて居りますので、極めて貧弱なる資料ではござゐますが本會の研究資料の一部として御提供申して置きたいと思ふのであります。

要するに私共の希望と致しましては社會衛生學的に見た人口問題の研究も亦極めて重要な問題ではないかと云ふ事を一ツ認識して戴きたいと思ひます。

**下村理事** 私共が研究會の方で多少人口の質の方から見ての將來の日本人口の推算と云ふ方を私が受持つて居るのですが、御話の様に醫學の方は是非一緒に研究して戴かねと困る。此の前の人口調査會の時にも御醫者さんの委員が恰度見えられなかつたので、私共が當局に御願して永井清君に這入つて貰つて、今度自分達の此の研究には永井君に限りませぬが醫學の方の方々の協力を得て、日本の民族の質の如何と云ふことは、云ふ迄も

なくそれが勞働者の壽命とか或は生産年齢と云ふ事が、色々機構に影響を持つて、又結局日本の人口の將來に非常な増減を來すのでありますから、只今の御注意の點は研究者としては全然賛成であります。

**柳澤座長** 大西さんの社會衛生學と人口問題の關係、此のことに就きまして私は大阪の第二回講演會の時申して置きましたからここに申添へて置きます。

**西野入氏** 只今社會局の大西さんから御話があつた事を私は熟々痛感して居つたのであります。それで今色々研究調査を御發表になつて居るのを承つて、私それを是非拜見したいと思つて居るのでござゐますが、更にもう一ツ人口問題研究會の調査事項として此の際やつて見て戴きたいと思ふ事が一ツござゐます。それは女子の高等教育とそれから人口増加率の關係であります。之は非常に重要な問題でありますけれども、日本と致しましては未だ十分に調査が出来て居りませぬので、結局人口の増加は婦人に俟つの他はないのであります。日本の人口が過剰になるか、過少になるかの問題と婦人の教育の問題、今の婦人と職業の問題に就いては御調査になつて居る様であります。私の寡聞に於いては、日本に於いては女子の高等教育は十分に

進んで参りましたが、それと日本の人口の將來に關しては科學的研究が出て居らない様でありますから、人口問題研究會に於いて調査員のどなたかが此の方面に御着手になる事を愚見として希望申上げたいのであります。

**柳澤座長** 御希望、御意見がござゐますでせうか。どうぞ御遠慮なくお話し下さい。又後から出ませうけれども、同攻者會合に對する希望又は研究事項を伺ひ度いので、同攻者會合と云ふのはこちらで勝手につけたのであります。此の會は將來續けてやる積りでありますが、どう云ふ方針でしやうかと云ふ事を御相談願ひたいのであります。何か御考がござゐませぬでせうか(具體的に説明され度しとの發言あり)。

**館研究員** 簡単に御説明申上げます。同攻者の會合を開催致しましてその目的を達する爲にやつて行きます會議の討論の仕方等に色々な方法が考へられるのであります。只今大體會の方で豫想致して居ります遺方は、一ツには豫め重要な問題を選びましてその問題に就きまして皆様方の御研究を煩して此の席上で第二回以後討論を煩すと云ふ方法も考へられるのであります。尚ほ亦もう一ツの方法と致しましてはどなたか御研究の結果をこの會合の席上で御發表願ひまして、その結果に就きまし

て、皆様に討論して戴く方法もあると考へます。さう云ふ方法も只今一寸會の方で豫定致して居るのでありますが、尙ほ研究項目その他さう云ふ研究方法等に就きましての御意見なり御希望なりを伺ひたいと思ふ次第であります。

青鹿氏 農業に關係を持つて居ります立場から一言希望を上上げて置きたいと思ふのであります。それはその人口問題が主として最も大きな範圍に關係を持つて居るのはどうしても原始的産業、殊に農業であるのであります。その他水産業の如きも非常に海國日本としては考へられて居るのであります。で今日御集りの方々の色々の御所屬を見ましても農業方面は若干出て居りますが、水産關係には、私の寡聞かも知れませぬが出て御出でにならない。殊に日本の沿岸漁業の如きは毎年或一定の速力でそれが後退して行く。段々沖漁業になり、遠洋漁業になる。更に遠洋漁業が顯著であると云ふ事もあるものであります。から、漁權の擴大と人口の問題と云ふ事が相當大きな問題にならないかと思ひます。さう云ふ意味で水産關係にもエキスパートをこゝに網羅されてはどうか、と云ふ事と同じ意味で山林關係に於いてもさう云ふ事が申されやしないかと思ひます。先程山地に於ける人口が段々減退して行く事を御話がありましたが、

山地に於けるその方面のエキスパートも網羅する必要はないかと思ひます。それは今日御集りになつて居る同政者會合のメンバーの構成に關する一つの小さい希望であります。その他にこの原始産業の最も大きな、私達の關聯をして居る農業に就いてであります。が、農業と一口に申しますると甚だ簡單の様に聞えますがその内容は甚だ複雑で日本全國の農業を分けてもまるで寄木細工の様な非常に混み入つた農業地域があるのであります。單に人口分布と云ふ表に現れただけの統計許りでは窺ひ知れない所の混み入つた、異つた表現を持つて居るので、農業組織別によつて人口の支持力と云ふものが非常に違つて、今凶作で悩んで居る東北方面の米作は別としても、畑作の如きは先づ一年一作、一年に一回作付ける。それから二年毎に三作と云つた様な極く原始的な農法もありますが、關東であるとか、或は關西の方面に行くと多毛作と云ひませうか、一年に三回も五回も七回、中には十回も十五回も切り變へて作ると云ふ、集約程度の違ふ様に地方に依つて非常に違ふ。そこには生活程度の相違がある。従つて同一面積に於ける人口支持力が非常に階段的に違つて来る。さう云ふ具合に異なると云ふ事は單に自然的條件に依る許りでなく、今後主として經濟的、殊に今日のその高

度に發達した資本主義的なさう云つた様な影響で、悉く人文的な影響によつて寄木細工のやうな農業地帯が構成されて行く。從來の地理學或は地質學に見た様な自然的コンディション許りでなく、非常に人為的な、人文的なコンディションが支配する事になつてゐる。かう云ふ様な意味で複雑な農業地帯が構成される従つて吾々が考へてゐる所は原始産業、殊に農業に於いても行詰つて農業の人口許り見ないで、もう少しこの農業の構成を變へて、より以上人口を同一面積から支持して行かうと云ふ様な企に就いて吾々の間では考へられて居るんであります。併しその方面に對して、未だあまり金もないのであるし、さう云つた様な學問の進歩も餘りに進んでもゐないし、今後に主として俟たなきやならぬのであります。此の際かう云ふ様な結構な機關が出来て居るのでありますから、此の研究事項の中にも一、二として人口の分布に關する調査、その中産業的分布とありますから、此の中に恐らく含んで居ると思ひますけれども、此の内容をもつと重んじて戴きたい。此の方面に大いに研究の要點を置いて戴きたいと、内容に就いて一言中上げる次第であります。

古瀨氏 一寸之は御伺ひですが、先程事業の内容を御説明に

なりました中に、各先生方が分擔して研究されて居る事や、又研究員の方々が調べて居られる項目がずうつと擧げられて居りました。あれは出来ました場合の御發表には此の會で御演説か何かになつてそれを討議する様な事に將來御取扱ひになるので。今後はどう云ふ風になるんですか。只今主題でも出して問題でも選んでおいてそれを討議しようかと云ふ話もありましたが、もう既に幾多の問題が先程の御話では研究されてゐる様であります。それらのものが何時頃御發表になるのであるかそれを承りたいと思ふのであります。

館研究員 簡單にお答へ致します。御質問の點は會の方で研究員の分擔致して居りますもの、並びに指導理事の研究の發表の時期及び同政者會出席者の研究發表方法に關する御質問の様に承りましたが、研究員の方でやつて居ります研究は先程申しました様に相當の期間の調査を要しますので出来た部分から、逐次獨立の印刷物或は又將來豫定致して居ります定期刊行物等の發行を致してその上で發表して行く豫定になつて居ります。それから指導理事の御研究になつて居ります報告に就きましては本會に御報告いただいて、それを獨立の印刷物或はその他の印刷物の形式を以て發表致す豫定になつて居るのであり



ます。尙ほ此の同攻者會合で研究して行くものの發表に就きましては只今の所では、後程御説明申上げる豫定に致して居りますが、會員組織に致しまして、定期刊行物等の發行を致しまして會員に頒布致し、定期刊行物の上で出来ました御研究を適當に會の方で發表したいと考へて居る譯であります。

柳澤座長 只今御質問がありましたから會員組織の説明を致させます。

館研究員 それでは會員組織の件に關する點を御説明申上げます。

御手元に配付致しました印刷物の「人口問題研究會々員規則要綱」と申しますのは、之は大體かう云ふ方法に依りまして會員組織を致しましては如何がかと云ふ案の要綱を示したものであります。

本會の寄附行爲の第五條は會員を分ちて特別會員、終身會員及び通常會員の三種とする。特別會員は本會に功勞ある者又は學識名望あるものに就き理事會に於いてこれを推薦す。終身會員は本會の趣旨に賛同し所定の會費を納入するものとす、その入會退會並會費の納入に關する規則は理事會の議決

を経て別に之を定む

之が第五條で寄附行爲の上に於いて斯様に定められて居ります。その意味に於いて大體かかる用意をして居ります。此の案に對して御希望なり御意見なりを伺ひまして、尙ほ充分練りまして理事會で正式の會員規則を作る豫定に致して居ります。その印刷物の第一の所は先程の寄附行爲の第五條を朗讀致しました所で大體盡きて居ると思ふのであります。會員には第二に書かれて居ります本會の發行圖書、定期刊行物その他の印刷物の無料、又は實費にて頒布をする事になつて居ります。尙ほ又只今の所未定ではござめますけれども定期刊行物を發行致します際には、御投稿を戴く事を豫定致して居ります。

第三に通常會員の會費は年額三圓と大體定めては如何かと思ふのであります。

第四に申し落しましたが終身會員は一時金百圓以上を納入して入會する事になります。

その他は第四、第五、第六の事は詳細に御説明申上げる迄もなからうと存じます。

第四 會員の氏名、住所に移動を生じた時は直にその旨届出づること

第五 通常會員退會せんとする時は其の旨を届出づること。

此の場合には既に納入したる會費を返還せざることを。

第六 通常會員にして會費の納入を怠りたる場合は會員たることを取消すこと

大體此の様な案を出しまして、何れ皆様方の御意見を承りまして然るべき訂正を加へ、又は補正致しまして、理事會の議を経て會員規則の起草に着手する豫定に致して居ります。

何か御希望なり御不審の點なりござりましたら是非聞かして戴きたいと存じます。

柳澤座長 速記がござりますので御遠慮になつて居るのではないかと思います。もう時間も相當進みましたし、速記が要らなければ止して懇談が出来る様にしても宜しい、粗末な御菓子ではあります御話旁々御あがり下さい。

古瀬氏 もう一ツ御伺ひして置きたいと思ひますが、定期刊行物と云ふものはパンフレットか何か御出しになるのでござりますか。所謂雑誌を御出しになるのですか。さうして會員の研究なり論文等をそれに掲げて行くと云ふ事になりますのでせうか。私と致しましては雑誌を御出しになつて、さう云ふものを利用して戴きたく考へます。それにすると三圓と云ふ會費は

安いと思ひます。之は補助金があるから定期刊行物でも毎月御

出しになつても行けるではありませんが、只パンフレットの様なものを御出しになるのでせうか。一寸御伺ひ致します。希望としては毎月御出しになつて戴くと云ふ事を私共としては希望して居ります。

館研究員 只今の御質問の點に簡單に御答致します。定期刊行物と申しますのは未だ會の方で決めて居りませぬのでどう云ふものになりますか確定的の御答致し兼ねますが、大體出来る限り先程御話の様に雑誌の形式を取りたいと思つて居ります。

なるべくならば月刊を希望するのですが、人の書かれるものの都合とか、その他資金の關係もありますので毎月月刊として出す事は最初は相當困難ではないかと豫想致されるのであります。大體クワッター位の程度に迄は漕ぎつけたと思ふのであります。クワッター位に致しまして年額三圓の會費でもつて印刷費の全部乃至は一部をカバーすると云ふ計算になつて居ります。謂はば費用主義乃至は手數料主義を採用致しまして價格主義には依らないのであります。

尙本日御出席になる筈でありました三好豊太郎さんから、本日御差支へが出来ましたさうで本會の研究方針の御意見として



三ヶ條出て居りますからここに朗讀致します。  
一、研究會は繼續して隨時開催する事に賛成致します。  
一、人口問題研究に關し重要事項を採決し、綜合研究をなし整理案を逐次研究されること緊要と考へられます。  
一、多數同攻者のある時は適當の會によつて研究して行くことも一方法と存じます。  
以上の希望が出て居ります。

森田氏 質問でござぬますが、此の同攻者會とそれから人口問題研究會の關係はどう云ふ風でござぬますか。

柳澤座長 之は同攻者會と云ふ事になりますと妙でありますが、人口問題研究會が主となつて人口問題の同攻者の方に集つて戴くと云ふ譯であります。會に附屬するのではない、どうぞさう云ふ風に御考願ひます。私は人口問題同攻者會合と申上げて居りますから、別に會と云ふ名前はないのであります。人口問題研究會が主になつて同攻者に御集り願ふ會合であります。先程事業の説明で申しましたように本會が主催して講演會を開催するのと同様の意味であります。

柳澤座長 餘り御意見が出ませぬから本日は此の位にして置きます。三ツの懇談項目の中で第一の人口問題研究會への御希

望、御意見と云ふのは、下條さんその他から色々御意見がありました。第二の同攻者の會合の方法に關してはお話がありましたが、餘り澤山出ませぬけれども第一回ですから、此位に致しまして、今日はこれで終に致したいと存じます。會員組織如何と云ふことも別に御話がないやうでありますから、後で相談を致しますが、今年が出来ませぬ、來年になります、何等か御希望があつたらどうぞ尙ほ伺ふ事とし、皆さんの御意見に背かぬようにし度いと心掛けて居ります。これで閉會致します。

もう速記は御座りませぬから、御話が御座りましたら御遠慮なく。(終)

## 會報

(自昭和九年四月  
至昭和九年十二月)

### ○役員變動

七月三十一日、社會局長官赤木朝治氏評議員を受諾する。

八月七日、評議員會に於て赤木評議員理事に互選さる。

八月八日、赤木理事常務理事を受諾する。

### ○調査研究

指導理事中那須、上田兩博士の研究進行狀態は次の如くである。

理事 那 須 皓

### 昭和九年度第一期研究進行の狀態報告

第一期の前年に於ては農村人口の密度と農業經營事情との相關關係に就きて全般的調査をなし、以て地方的特殊研究の前提たらしめむとし、其の一部は既に完了せるも尙續行中なり。

又、東北及北海道に於ける産業開發と人口

収容力との關係につきて調査をなし、最近に於ては凶作が人口移動及農業經營に及ぼす影響を研究中なり。

理事 上田 貞次郎

### 昭和九年度第一期研究進歩の狀態報告

一、本年度に着手したる研究題目は左の二件なり。

第一、將來に於ける我が國人口の豫測に關する事項の一として最近の出生率及死亡率低減の狀態

第二、産業の人口収容力に關する事項の一として大正九年及昭和五年の國勢調査に現はれたる職業の増加の程度及その種類の變化

二、右の内第一に就いては大正九年以來の出生率を妊孕年齡婦人數に割合したる出生率を詳細に計算したる結果出生率の低減は婚姻の延期と婚姻したるものの産兒數減少と二つの原因に歸すべきものなることを確めた。

死亡率の低減は殆んど全く幼兒死亡率改善を示すものにして幼兒以外の死亡率は全體

としては變化なきことを明かにしたり。前記の出生率及死亡率の狀態は十九世紀末及二十世紀初頭の歐洲諸國のそれと類似するものなることを知りたり。

三、第二に就いては二回の國勢調査に於ける職業調査の數字を基礎とし研究したる結果職業の増加は人口の増加に及ぼざりしことを明かにしたり。

但し職業人口の年齢構成を見れば一般に婦人及老幼者の就業が著しく減退し、盛年男子の就業率悪化の程度は左程甚だしきものにあらざることを知り得たり。

職業の種類の變化に就いては、農業にありては殆んど増減なく増加したる人口の全部が都市の職業に吸収されたること及都市の職業中工業の吸収力は意外に少く商業及公務自由業の増加著しきことを知り得たり。

四、右二項の研究の結果は取敢えず個人の名義にて發表したれども尙未完なるを以て更に修正の上詳細報告致す豫定なり。

研究員の調査研究は同攻者會合速記録中本會の事業概要の説明の中に述べたるところの如くであつて此處には省略する。

○集會

第二回人口問題講演會 六月二十二日、大阪府市後援の下に大阪市北區中之島中央公會堂に於て第二回人口問題講演會を開催す。

午後六時館研究員開會を宣し、大阪市長關一博士登壇挨拶に入る。博士は我が國現下の情勢に於て人口問題研究の重要な所以を力説し人口問題講演會を大阪市に於て開催したこと極めて有意義なることを述べらる。つづいて會長柳澤伯爵の開會の辭に移り、三十分間に亘り人口問題研究の重要性、本會設立の趣旨、沿革及び事業を紹介し將來の抱負を述べらる。

六時四十二分より左の如く講演に入る。

米穀問題と人口問題

農學博士 那須 皓氏

生活標準と人口問題

文學博士 高田 保馬氏

維新前の人口問題

經濟學博士 本庄榮治郎氏

各講師は夫々専門の立場より熱辯を振はれ聴衆に多大の感動を與へらる。聴衆は二千名を超え極めて盛會裡に九時三十分閉會す。

當日の講演の内容は「人口問題講演集」(第一輯)として印刷發行せり。

第二輯)として印刷發行せり。

第一回人口問題同政者會合 十一月七日午後二時より内務省第一會議室に於て第一回人口問題同政者會合を開催し午後四時三十分極めて盛會裡に散會せり。當日會長の挨拶は本輯卷頭に、此の會合の模様は口繪及び速記録の概要として掲出した。

マルサス没後百年記念人口問題展覽會及び講演會 本年十二月二十九日はマルサス没後百年に該當するを以てマルサスを記念し併せて之を機會として我が國人口問題に關する知識の普及研究の促進を圖る目的を以て十一月二十九日、三十日、十二月一日三日間、麴町區有樂町一ノ七蠶絲會館に於てマルサス没後百年記念人口問題展覽會を、十一月二十九日午後六時三十分より同會館講堂に於て講演會を開催せり。展覽會は全國及び植民地の各官廳學校研究所その他公私諸團體より出品甚だ多く本會出品の分をも合せて統計表、統計圖及び地圖二百五十七點、書籍及び印刷物二百五十八點、寫真二百三十六點、標本類約六十點に達した。統計圖表及び寫真は我が國全國並に地方別の人口現象の各種の様相を一眸の下に集め何れも得難き資料として識者の注目

を惹くこと多大であつた。書籍中には極めて稀少なる我が國明治初年の人口統計關係原本マルサス諸著書の原本、マルサスに關する貴重な文獻を蒐めて展覽に供するを得た、觀衆は第一日には約二千名の多きに達し、第二日第三日共に夫々約四百名に上つた。

十一月二十九日午後六時三十分講演會を開催したが講師演題は左の如く、各講師夫々専門の立場から周到なる準備の下に熱辯を振はれ聴衆約八百名を超え極めて盛會裡に午後十時散會した。講師及び演題は次の如くである。

家族構成と人口

東京帝國大學教授 戸田貞三氏

數と質

同 醫學博士 永井 潜氏

マルサスの經濟理論

同 經濟學博士 土方成美氏

尙十一月二十九日、マルサスを記念して會長柳澤伯爵は我が國華族の人口問題に關し伯爵永年の特殊の御研究の一端をラヂオによつて放送せられた。

此の展覽會の出品圖表寫真等を蒐集して「マルサス没後百年記念人口問題展覽會寫真帳」を作製し詳細目錄を添付して印刷發行の豫定である。又講演會の速記録は近く印刷に

付する豫定で目下編輯中である。

○資料の印刷發行

人口問題講演集(第一輯)「人口問題資料第一輯」昭和九年四月二十日發行

昭和八年十二月十一日、東京朝日講堂に於て開催した第一回人口問題講演會の速記を編輯したものであつて、其の內容次の如し。

はしがき

開會の辭

會長 伯爵 柳澤 保憲

我が國人口問題の將來

法學博士 上田貞次郎

滿洲問題と人口問題

法學博士 下村 宏

過剩人口か失業か

經濟學博士 永井 亨

日本人人口密度圖(人口問題資料第二輯)

昭和九年七月二十日發行

本調査は我が國人口現象研究上基本資料として村落人口並に都市人口の地域的意義を明らかにしたものであつて次の如く三圖及び四箇の精密なる對照統計表よりなつてゐる。

第一圖 道府縣別村人口密度圖

第二圖 道府縣別對耕地村人口密度圖

第三圖 道府縣別市並に町人口密度圖

第一表 道府縣別村人口密度表

第二表 道府縣別町人口密度表

第三表 道府縣別市人口密度表

第四表 市街地人口密度表

我國人口問題の解決方針「人口問題資料第三輯」昭和九年十月一日發行

昭和八年八月「我國人口問題解決方針」なる論題の下に懸賞論文を募集し、全國植民地に亘り百二十二篇の應募原稿中審査の結果二等三名、三等四名を入選と決定し、昭和九年四月二十日發表した。入選七篇に特別審査委員の評文を附して參考資料として集録したるものが本輯である。

人口問題講演集(第二輯)「人口問題資料第四輯」昭和九年十一月十日發行

上記の如く本年六月二十二日大阪市中之島中央公會堂に於て開催した第二回人口問題講演會の速記を編輯したものであつて、其の內容次の如し。

子孫繁昌手引草(口繪)

挨拶 大阪市長法學博士 關 一

開會の辭 會長 伯爵 柳澤 保憲

米穀問題と人口問題

農學博士 那須 皓

生活標準と人口問題

文學博士 高田 保馬

維新前の人口問題

經濟學博士 本庄榮治郎

○雜報

○井上常務理事渡伯 常務理事井上雅二氏は五月二十六日エムブレツス・オブ・ルシア號にて横濱解纜ブラジル視察の途に上られ、九月二十七日龍田丸にて歸朝さる。

○小田内研究員渡波 研究員小田内通敏氏はボーランド國ワルソー市に於て開催の第四回國際地理學會會議に列席の爲八月六日出發十月十三日歸朝さる。

○和歌山縣統計展覽會資料出品 十月一日、和歌山縣主催第一回統計圖表展覽會開催せられ本會より左の資料を出品した。

一、經濟變動と出生

1、人口及び産業的傾向線 自大正九年至昭和五年

2、通貨と出生との數量的變動に於ける關係

3、通貨と物價との數量的變動に於ける關係

4、物價と出生との數量的變動に於ける關係

- 係
- 5、貨銀と出生との数量的變動に於ける關係
- 6、米の生産高と出生との数量的變動に於ける關係
- 二、我國の將來人口に關する資料
- 1、年齡別出生率及び死亡率を一定とせる我國將來人口
- 2、推定人口の年齡構成百分比
- 3、推定人口に於ける出生率と妊孕年齡出生率、計算の基礎となる年齡別出生率
- 4、一九六〇年に於ける年齡構成
- 5、各種推定將來人口の比較
- 6、我國及び歐羅巴諸國に於ける純再生産率
- 三、我國の職業人口に關する資料
- 1、大正九年及び昭和五年に於ける産業別有業者の比較
- 2、昭和五年の就業人口年齡構成大正九年の就業率によるものと比較
- 3、我國就業人口の年齡構成
- 4、同右
- 附 昭和五年産業別有業者の年齡構成
- 四、我國婚姻に關する資料

- 1、可婚年齡者配偶關係 性、年齡階級別百分率
  - 2、可婚年齡者配偶關係百分比 五歲階級別可婚年齡者中有配偶者數
  - 3、道府縣別可婚年齡者有配偶率(其ノ一、其ノ二)
  - 4、道府縣別特殊婚姻率(其ノ一、其ノ二)
  - 5、道府縣別平均婚姻年齡(其ノ一、其ノ二)
  - 6、道府縣別妊孕年齡女に對する出生率
- 以上臺紙三十枚  
(昭和九年十二月三日記)
- 寄贈圖書目(自四月至十一月)
- 和書(受付順)
- 神戶市統計書(第二回第七編) 發行年月 寄贈者
  - 神戶市統計書(第一回第四編) 昭和九年三月 神戶市役所
  - 農務調查報告(昭和七年四月) 三 法八協調會
  - 大阪府勢(昭和九年) 九、二 大阪府
  - 大阪府人口の速報 九、三 大阪府
  - 大阪府生産統計の概 九、三 大阪府
  - 要(昭和七年) 八、十 三井合名會社
  - 日本の經濟的地位 八、十 三井合名會社

|                        |      |              |
|------------------------|------|--------------|
| 神戶市勢要覽(第十回)            | 八、五  | 神戶市役所        |
| 消費經濟の合理化               | 九、三  | 社會局          |
| 浴風會事業報告(昭和六年度)         | 七、六  | 財團法人浴風會      |
| 金融事項參考書(昭和七年調)         | 七、十二 | 大藏省理財局       |
| 福島縣勢要覽                 | 八、十二 | 福島縣          |
| 炭坑夫の出身地調査              | 九、三  | 福岡縣地方職業紹介事務局 |
| 職業紹介事業要覽               | 九、三  | 〃            |
| 沖繩縣勢要覽(昭和六年)           | 八、六  | 沖繩縣          |
| 沖繩縣統計書(昭和七年第三編)        | 九、三  | 〃            |
| 健康保險事業年報(昭和七年)         | 九、三  | 社會局保險部       |
| 神戶市統計書(第二回第五編)         | 九、五  | 神戶市役所        |
| 國勢調查報告(大正十四年第二卷記述篇)    | 九、三  | 內閣統計局        |
| 仙臺市勢要覽(昭和八年)           | 九、三  | 仙臺市役所        |
| 宮城縣統計書(昭和七年第三編)        | 九、三  | 宮城縣知事官房統計課   |
| 宮城縣統計書(昭和六年第二編)        | 八、四  | 〃            |
| 宮城縣統計書(昭和六年第一編)        | 八、四  | 〃            |
| 宮城縣現住人口數(自明治三十二年至昭和三年) | 六、一四 | 仙臺市役所        |
| 仙臺市統計書(昭和七年)           | 九、三  | 〃            |

|                             |     |              |
|-----------------------------|-----|--------------|
| 神戶市統計書(第二回第七編)              | 九、五 | 神戶市役所        |
| 三重縣志摩半島(海女)勞働事情             | 九、三 | 名古屋地方職業紹介事務局 |
| 名古屋港に於ける仲仕勞働調査(昭和八年)        | 九、三 | 〃            |
| 本邦經濟統計(昭和八年)                | 九、五 | 日本銀行調査局      |
| 東京市統計年表(第三十回昭和七年)           | 九、三 | 東京市役所        |
| 自一八三三至一八八三三十五年間             | 九、三 | 海外興業株式會社     |
| 伯國移民總數                      | 九、三 | 〃            |
| 伯國移民總數別年次統計                 | 九、三 | 〃            |
| 第六回全國安全週間報告(昭和八年)           | 九、六 | 財團法人産業福利協會   |
| 我國に於ける勞働委員會の概況              | 九、六 | 〃            |
| 女子保健體操選舉統計                  | 九、六 | 東京市役所        |
| 失業統計に就て                     | 九、六 | 伯島柳澤保惠       |
| 浴風會事業報告(昭和七年)               | 八、四 | 財團法人浴風會      |
| 東京市勤勞階級家計調査(自昭和七年九月至昭和八年八月) | 九、三 | 東京市役所        |
| 朝鮮人渡來歸國狀況                   | 九、九 | 大阪府          |
| 朝鮮人に關する統計表                  | 九、九 | 〃            |
| 沖繩縣勢要覽(昭和七年)                | 九、六 | 沖繩縣          |
| 昭和五年國勢調查報告第四卷山梨縣            | 九、六 | 內閣統計局        |
| 福島縣                         | 九、六 | 〃            |

|               |     |       |
|---------------|-----|-------|
| 昭和五年國勢調查報告第四卷 | 九、七 | 內閣統計局 |
| 秋田縣           | 九、五 | 〃     |
| 大阪府           | 九、五 | 〃     |
| 京都府           | 九、八 | 〃     |
| 滋賀縣           | 九、五 | 〃     |
| 靜岡縣           | 九、二 | 〃     |
| 神奈川縣          | 九、二 | 〃     |
| 群馬縣           | 九、四 | 〃     |
| 奈良縣           | 九、三 | 〃     |
| 大分縣           | 九、二 | 〃     |
| 德島縣           | 九、二 | 〃     |
| 栃木縣           | 九、二 | 〃     |
| 茨城縣           | 九、五 | 〃     |
| 山形縣           | 九、二 | 〃     |
| 愛知縣           | 九、七 | 〃     |
| 和歌山縣          | 九、四 | 〃     |
| 埼玉縣           | 九、一 | 〃     |
| 千葉縣           | 九、五 | 〃     |
| 三重縣           | 九、五 | 〃     |
| 宮崎縣           | 九、五 | 〃     |
| 長野縣           | 九、六 | 〃     |

|                         |      |           |
|-------------------------|------|-----------|
| 滿洲國經濟地理圖說               | 九、七  | 川西 正鑑     |
| 昭和五年國勢調查報告第四卷山梨縣        | 九、三  | 內閣統計局     |
| 神戶市統計書(第二回第三編)          | 九、七  | 神戶市役所     |
| 我國人口問題と國民生活安定策          | 九、五  | 福井 茂一     |
| 昭和五年國勢調查報告第四卷宮城縣        | 九、七  | 內閣統計局     |
| 橫濱市第二十七回統計書             | 九、七  | 橫濱市役所     |
| 山形商工案内                  | 九、八  | 山形商工會議所   |
| 東京市人口動態統計速報(昭和八年)       | 九、九  | 東京市役所     |
| 我國國民の職業は如何にして發生したか      | 九、七  | 上田 貞次郎    |
| 日本現下の失業は如何にして發生したか      | 九、七  | 辛濃口時次郎    |
| 埼玉縣勢要覽                  | 九、五  | 埼玉縣       |
| 市町村統計摘要(昭和七年)           | 九、三  | 埼玉縣       |
| 昭和八年度年報動のに觀たる靜岡縣人(昭和八年) | 九、六  | 大坂乳幼児保護協會 |
| 山口縣勢要覽                  | 九、三  | 山口縣       |
| 山口縣勢一班                  | 九、三  | 〃         |
| 山口縣勢一覽                  | 九、五  | 〃         |
| 京城帝國大學一覽(昭和九年)          | 九、八  | 京城帝國大學    |
| 東京市死亡並死産調査(昭和五年)        | 五、一一 | 東京市役所     |



[illegible]

|       |                              |      |             |                       |      |              |                  |      |           |
|-------|------------------------------|------|-------------|-----------------------|------|--------------|------------------|------|-----------|
| 第四十二回 | 日本帝國司法省第五十八年統計要旨             | 九、四  | 岐阜縣知事官      | ブラジル國バエトス             | 八、九  | 鹿兒島縣社會課      | 昭和五年國勢調查報告第四卷府縣編 | 九、一〇 | 內閣統計局     |
| 第三十九回 | 日本帝國司法省第五十四年統計要旨             | 九、三  | 司法大臣官房調査課   | ブラジル國チエテ移住者通信(第二)     | 九、一  | 三井合名會社調查部    | 鳥根縣              | 九、一〇 | 〃         |
| 第三十八回 | 日本帝國司法省第五十三年統計要旨             | 九、六  | 〃           | 重要銀行會社營業成績            | 九、一  | 明大學會         | 愛媛縣              | 九、一〇 | 〃         |
| 第三十七回 | 日本帝國司法省第五十二年統計要旨             | 九、八  | 〃           | 法律論叢                  | 九、九  | 臺灣總督府        | 山口縣              | 九、一〇 | 〃         |
| 第三十六回 | 滿洲國及中華民國在留本邦人及外國人口統計表(第二十六回) | 九、九  | 外務省東亞局      | 臺灣現勢要覽                | 九、七  | 臺灣總督府        | 大阪乳幼児保護協會        | 九、四  | 大坂乳幼児保護協會 |
| 第三十五回 | 神戶市工業調査速報                    | 九、九  | 神戶市役所       | 臺灣第二十八統計摘要(昭和七年)      | 八、二  | 〃            | 東亞經濟研究           | 五、四  | 東亞經濟研究所   |
| 第三十四回 | 大阪帝國大學一覽                     | 九、一〇 | 大阪帝國大學      | 臺灣事情(昭和八年)            | 八、二  | 臺灣農友會        | 調查課時報            | 七、二  | 〃         |
| 第三十三回 | 川入定男                         | 九、九  | 川入定男        | 臺灣農業年報(昭和七年)          | 九、一  | 臺灣總督府殖資局     | 生徒生計調査書          | 八、五  | 〃         |
| 第三十二回 | 其の二                          | 九、一〇 | 〃           | 臺灣米穀要覽(昭和九年)          | 九、五  | 〃            | 〃                | 七、二  | 〃         |
| 第三十一回 | 人口自然増加率の比較方法に就て              | 八、一  | 〃           | 第二次臺灣商工統計             | 九、三  | 朝鮮總督府內務部社會課外 | 〃                | 八、二  | 〃         |
| 第三十回  | 鹿兒島縣勢要覽                      | 九、三  | 鹿兒島縣        | 臺灣犯罪統計(昭和七年)          | 九、三  | 朝鮮總督府外務課     | 〃                | 七、二  | 〃         |
| 第二十九回 | 學藝叢報                         | 九、九  | 三重高等農林學校同窓會 | 在滿朝鮮人の概況              | 七、一  | 山梨縣知事官       | 〃                | 八、二  | 〃         |
| 第二十八回 | 統計上より觀たる山口縣の地位               | 九、一〇 | 山口縣知事官房統計課  | 統計上より見たる本邦人の死亡に就いて第一輯 | 八、一  | 房統計課         | 〃                | 九、二  | 〃         |
| 第二十七回 | 鳥取縣勢要覽(昭和八年版)                | 九、八  | 鳥取縣         | 第二輯                   | 九、一〇 | 內閣統計局        | 〃                | 四、八  | 〃         |
| 第二十六回 | 横濱市勢要覽(昭和九年版)                | 九、九  | 横濱市役所       | 昭和五年國勢調查報告第四卷府縣編北海    | 九、八  | 〃            | 〃                | 四、二  | 〃         |
| 第二十五回 | 最近ブラジル便り                     | 八、一  | 鹿兒島縣社會課     | 福岡縣                   | 九、九  | 〃            | 〃                | 五、〇  | 〃         |
| 第二十四回 | 南米に奮闘する人々                    | 九、三  | 〃           | 岩手縣                   | 九、一〇 | 〃            | 〃                | 六、三  | 〃         |
| 第二十三回 | 〃                            | 九、三  | 〃           | 青森縣                   | 九、一  | 〃            | 〃                | 七、三  | 〃         |

|    |                                                                              |    |   |    |   |    |   |    |   |    |   |    |   |    |   |
|----|------------------------------------------------------------------------------|----|---|----|---|----|---|----|---|----|---|----|---|----|---|
| 洋書 | VII Centinno Generale della Popolazione, 21 April 1931, Vol III Fascicolo, 3 | 19 | 〃 | 42 | 〃 | 48 | 〃 | 42 | 〃 | 50 | 〃 | 63 | 〃 | 37 | 〃 |
| 洋書 | Istituto Centrale di Statistica del Regno d'Italia                           | 〃  | 〃 | 〃  | 〃 | 〃  | 〃 | 〃  | 〃 | 〃  | 〃 | 〃  | 〃 | 〃  | 〃 |



Istituto Centrale  
di Statistica del  
Regno d'Italia

Istituto Centrale  
di Statistica del  
Regno d'Italia

## 5. 外國貿易總額 (内地朝鮮及臺灣) (金額單位千圓)

| 年及月次  | 内地 (樺太ヲ含ム) |               |         | 朝鮮     |             |        | 臺灣      |            |        | 合計        |               |         |
|-------|------------|---------------|---------|--------|-------------|--------|---------|------------|--------|-----------|---------------|---------|
|       | 輸出         | 輸入            | 超過      | 輸出     | 輸入          | 超過     | 輸出      | 輸入         | 超過     | 輸出        | 輸入            | 超過      |
| 大正    |            |               |         |        |             |        |         |            |        |           |               |         |
| 3年計   | 591,101    | 595,735 (-)   | 4,634   | 5,801  | 24,184 (-)  | 18,383 | 12,982  | 13,013 (-) | 31     | 609,884   | 632,932 (-)   | 23,048  |
| 7年計   | 1,962,100  | 1,668,143 (+) | 293,957 | 15,984 | 41,035 (-)  | 24,051 | 33,415  | 33,554 (-) | 139    | 2,012,500 | 1,742,734 (+) | 269,766 |
| 8年計   | 2,098,872  | 2,173,459 (-) | 74,587  | 19,816 | 85,838 (-)  | 76,032 | 35,625  | 64,132 (-) | 28,507 | 2,154,314 | 2,333,461 (-) | 179,146 |
| 9年計   | 1,948,394  | 2,336,174 (-) | 387,780 | 22,577 | 95,838 (-)  | 73,262 | 41,171  | 73,642 (-) | 32,471 | 2,012,144 | 2,506,656 (-) | 494,513 |
| 10年計  | 1,252,837  | 1,614,154 (-) | 361,317 | 20,884 | 75,855 (-)  | 55,015 | 128,893 | 93,522 (+) | 35,374 | 1,402,619 | 1,783,576 (-) | 380,957 |
| 11年計  | 1,637,451  | 1,890,308 (-) | 252,857 | 17,489 | 95,797 (-)  | 78,308 | 30,563  | 36,921 (-) | 6,358  | 1,685,504 | 2,023,027 (-) | 337,522 |
| 12年計  | 1,447,750  | 1,982,230 (-) | 534,480 | 20,372 | 98,338 (-)  | 77,966 | 29,152  | 39,208 (-) | 10,056 | 1,497,275 | 2,119,777 (-) | 622,501 |
| 13年計  | 1,807,034  | 2,453,402 (-) | 646,368 | 22,378 | 97,776 (-)  | 75,397 | 42,575  | 46,424 (-) | 3,849  | 1,871,988 | 2,597,602 (-) | 725,614 |
| 14年計  | 2,305,589  | 2,572,657 (-) | 267,068 | 24,341 | 105,388 (-) | 81,047 | 47,965  | 56,439 (-) | 8,523  | 2,377,896 | 2,734,534 (-) | 356,638 |
| 15年計  | 2,044,727  | 2,377,484 (-) | 332,757 | 24,779 | 123,933 (-) | 99,154 | 49,315  | 62,007 (-) | 12,692 | 2,118,822 | 2,563,426 (-) | 444,603 |
| 昭和    |            |               |         |        |             |        |         |            |        |           |               |         |
| 24年計  | 1,992,317  | 2,179,153 (-) | 186,836 | 28,133 | 113,945 (-) | 85,810 | 44,597  | 65,840 (-) | 21,242 | 2,065,048 | 2,358,936 (-) | 293,888 |
| 34年計  | 1,971,955  | 2,196,314 (-) | 224,359 | 32,149 | 118,151 (-) | 86,002 | 33,895  | 58,333 (-) | 24,440 | 2,038,000 | 2,372,800 (-) | 334,801 |
| 44年計  | 2,148,618  | 2,216,238 (-) | 67,619  | 35,773 | 107,767 (-) | 71,994 | 33,187  | 64,541 (-) | 31,353 | 2,217,579 | 2,388,546 (-) | 170,968 |
| 54年計  | 1,469,852  | 1,546,070 (-) | 76,218  | 25,852 | 88,854 (-)  | 63,002 | 22,807  | 45,131 (-) | 22,324 | 1,518,512 | 1,680,036 (-) | 161,544 |
| 64年計  | 1,146,981  | 1,235,672 (-) | 88,691  | 12,771 | 52,695 (-)  | 39,924 | 19,448  | 30,838 (-) | 11,401 | 1,179,201 | 1,319,227 (-) | 140,026 |
| 74年計  | 1,409,991  | 1,431,461 (-) | 21,469  | 29,299 | 61,685 (-)  | 32,476 | 18,045  | 31,040 (-) | 12,995 | 1,457,246 | 1,524,188 (-) | 66,941  |
| 84年計  | 1,861,045  | 1,917,219 (-) | 56,174  | 52,773 | 64,368 (-)  | 11,594 | 17,666  | 35,476 (-) | 17,810 | 1,931,485 | 2,017,064 (-) | 85,579  |
| 9年    |            |               |         |        |             |        |         |            |        |           |               |         |
| 1月    | 128,288    | 144,832 (-)   | 16,544  | 3,287  | 6,040 (-)   | 2,753  | 1,437   | 4,153 (-)  | 2,715  | 133,013   | 155,026 (-)   | 22,013  |
| 2月    | 158,597    | 176,630 (-)   | 18,032  | 3,308  | 4,414 (-)   | 1,105  | 1,334   | 3,107 (-)  | 1,773  | 163,239   | 184,141 (-)   | 20,901  |
| 3月    | 175,795    | 206,893 (-)   | 31,097  | 4,070  | 7,559 (-)   | 3,488  | 1,877   | 2,467 (-)  | 589    | 181,744   | 216,921 (-)   | 35,176  |
| 4月    | 164,997    | 208,090 (-)   | 43,093  | 5,267  | 8,473 (-)   | 3,206  | 1,640   | 3,119 (-)  | 1,478  | 171,905   | 220,283 (-)   | 48,378  |
| 5月    | 192,104    | 219,967 (-)   | 27,862  | 5,135  | 8,959 (-)   | 3,823  | 2,400   | 3,246 (-)  | 54     | 199,641   | 231,272 (-)   | 31,631  |
| 6月    | 183,904    | 201,605 (-)   | 17,701  | 4,778  | 7,249 (-)   | 2,471  | 2,938   | 4,460 (-)  | 1,522  | 191,621   | 213,316 (-)   | 21,695  |
| 7月    | 179,259    | 169,311 (+)   | 9,928   | 4,538  | 4,848 (-)   | 310    | 2,415   | 3,373 (-)  | 957    | 186,213   | 177,753 (+)   | 8,460   |
| 8月    | 209,608    | 182,939 (+)   | 26,668  | 5,185  | 5,287 (-)   | 102    | 1,798   | 2,855 (-)  | 1,056  | 216,592   | 191,082 (+)   | 25,509  |
| 9月    | 171,102    | 155,385 (+)   | 15,717  | 6,101  | 4,660 (+)   | 1,441  | 2,797   | 1,804 (+)  | 993    | 180,900   | 162,449 (+)   | 18,451  |
| 10月   | 201,494    | 177,466 (+)   | 24,028  | 6,558  | 5,831 (+)   | 727    | 2,498   | 2,932 (-)  | 464    | 210,559   | 186,259 (+)   | 24,301  |
| 8年10月 | 171,177    | 138,999 (+)   | 32,178  | 6,095  | 4,819 (+)   | 1,276  | 1,646   | 1,977 (-)  | 331    | 178,918   | 145,735 (+)   | 33,183  |

(-)印は入超。

(+)印は出超。

南洋を含まず。

備考 「大蔵省外國貿易月報」に據る。

## 6. 全國生計費指數

| 年 月   | 總指數 | 飲食費 | 住居費 | 光熱費 | 被服費 | 文化費 |
|-------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 昭和    |     |     |     |     |     |     |
| 6年10月 | 161 | —   | —   | —   | —   | —   |
| 11月   | 159 | —   | —   | —   | —   | —   |
| 12月   | 161 | —   | —   | —   | —   | —   |
| 7年    |     |     |     |     |     |     |
| 1月    | 165 | 138 | 243 | 171 | 118 | 179 |
| 2月    | 166 | 141 | 242 | 170 | 120 | 179 |
| 3月    | 166 | 141 | 242 | 166 | 119 | 179 |
| 4月    | 165 | 140 | 242 | 164 | 117 | 179 |
| 5月    | 164 | 140 | 241 | 158 | 113 | 179 |
| 6月    | 162 | 137 | 241 | 154 | 113 | 179 |
| 7月    | 162 | 137 | 241 | 152 | 112 | 178 |
| 8月    | 162 | 136 | 240 | 151 | 116 | 178 |
| 9月    | 164 | 137 | 240 | 153 | 126 | 179 |
| 10月   | 162 | 133 | 240 | 153 | 127 | 179 |
| 11月   | 164 | 155 | 240 | 158 | 132 | 179 |
| 12月   | 168 | 145 | 240 | 163 | 137 | 179 |
| 8年    |     |     |     |     |     |     |
| 1月    | 171 | 147 | 240 | 170 | 139 | 180 |
| 2月    | 169 | 143 | 238 | 170 | 137 | 180 |
| 3月    | 168 | 142 | 237 | 168 | 136 | 181 |
| 4月    | 168 | 142 | 237 | 168 | 135 | 180 |
| 5月    | 167 | 142 | 237 | 167 | 135 | 180 |
| 6月    | 167 | 142 | 236 | 166 | 136 | 180 |
| 7月    | 167 | 141 | 236 | 166 | 138 | 180 |
| 8月    | 167 | 140 | 236 | 168 | 140 | 179 |
| 9月    | 168 | 140 | 236 | 171 | 142 | 179 |
| 10月   | 169 | 142 | 235 | 175 | 144 | 179 |
| 11月   | 170 | 144 | 235 | 181 | 144 | 179 |
| 12月   | 169 | 142 | 234 | 184 | 143 | 179 |
| 9年    |     |     |     |     |     |     |
| 1月    | 168 | 141 | 234 | 183 | 143 | 179 |
| 2月    | 170 | 143 | 234 | 182 | 144 | 179 |
| 3月    | 171 | 144 | 234 | 182 | 147 | 179 |
| 4月    | 172 | 147 | 234 | 180 | 147 | 179 |
| 5月    | 173 | 149 | 234 | 179 | 147 | 179 |
| 6月    | 172 | 148 | 234 | 178 | 148 | 180 |
| 7月    | 174 | 151 | 234 | 176 | 148 | 180 |
| 8月    | 176 | 157 | 234 | 176 | 149 | 180 |
| 9月    | 176 | 156 | 234 | 180 | 150 | 181 |
| 10月   | 180 | 163 | 234 | 184 | 149 | 181 |

備

考

飲食費……米、麥其他、  
魚介類、肉類、卵乳類  
蔬菜類、乾物類、豆腐  
漬物類、調味料類、酒  
類、煙草菓子果物類飲  
料 以上13品目  
住居費……家賃、修繕費  
什器、水道料 以上 4  
品目  
光熱費……薪炭類、瓦斯  
電燈 以上 2 品目  
被服費……衣服類、身廻  
品 以上 2 品目  
文化費……保健衛生費、  
育兒教育費、交通費、  
娛樂修養費 以上 4 品  
目

朝日新聞社調、大正三年七月基準

### 三 産業の活動に関する統計

## 1. 生產指數

|                                           |       | 總指數<br>(20 年<br>加重算<br>基準年) | 生絲   | 絹絲    | 人絹  | 毛絲  | 絹織物 | 綿織物  | 曹達灰 | 苛性曹達 | 晒粉  | 洋紙    | 過燐石灰 | 硫安  | 石灰窒素 |
|-------------------------------------------|-------|-----------------------------|------|-------|-----|-----|-----|------|-----|------|-----|-------|------|-----|------|
| 昭和 2年                                     | —     | —                           | * 88 | * 100 | —   | —   | —   | * 93 | —   | 76   | 87  | 84    | —    | —   | —    |
|                                           | 3年    | —                           | 99   | 97    | —   | —   | —   | 100  | —   | 86   | 96  | 95    | —    | —   | —    |
|                                           | 4年    | —                           | 101  | 111   | —   | —   | —   | 111  | —   | 102  | 124 | 104   | —    | —   | —    |
|                                           | 5年    | 100.0                       | 100  | 100   | 100 | 100 | 100 | 100  | 100 | 100  | 100 | 100   | 100  | 100 | 100  |
|                                           | 6年    | 102.4                       | 103  | 102   | 130 | 131 | 109 | 101  | 141 | 111  | 83  | 97    | 82   | 220 | 59   |
|                                           | 7年    | 107.9                       | 91   | 111   | 179 | 150 | 111 | 110  | 161 | 127  | 96  | 96    | 95   | 276 | 74   |
| 8年                                        | 124.1 | 91                          | 123  | 252   | 175 | 111 | 121 | 225  | 159 | 133  | 106 | 104   | 287  | 106 | —    |
| 昭和 9年                                     | 1月    | 132.4                       | 142  | 131   | 397 | 155 | 95  | 122  | 289 | 152  | 130 | 109   | 119  | 272 | 103  |
|                                           | 2月    | 129.2                       | 142  | 132   | 306 | 165 | 103 | 125  | 249 | 138  | 118 | 111   | 106  | 252 | 62   |
|                                           | 3月    | 130.1                       | 102  | 129   | 356 | 178 | 125 | 124  | 290 | 163  | 125 | 104   | 116  | 281 | 77   |
|                                           | 4月    | 131.4                       | 90   | 132   | 383 | 169 | 131 | 128  | 289 | 169  | 120 | 114   | 110  | 266 | 136  |
|                                           | 5月    | 135.3                       | 97   | 132   | 404 | 168 | 127 | 126  | 296 | 176  | 139 | 114   | 102  | 359 | 108  |
|                                           | 6月    | 135.1                       | 94   | 135   | 403 | 180 | 115 | 129  | 309 | 177  | 150 | 117   | 88   | 360 | 56   |
|                                           | 7月    | 136.1                       | 92   | 139   | 396 | 171 | 126 | 132  | 236 | 181  | 148 | 118   | 105  | 339 | 62   |
|                                           | 8月    | 136.1                       | 84   | 143   | 415 | 181 | 139 | 138  | 263 | 180  | 137 | 123   | 80   | 311 | 50   |
|                                           | 9月    | —                           | 87   | 139   | 394 | —   | —   | 131  | —   | 171  | 145 | 119   | —    | —   | —    |
|                                           | 10月   | —                           | —    | —     | 409 | —   | —   | —    | —   | —    | —   | —     | —    | —   | —    |
| 昭和 8年 8月                                  | 127.7 | 95                          | 125  | 273   | 182 | 128 | 128 | 201  | 168 | 130  | 106 | 88    | 329  | 99  | —    |
| 板硝子 洋灰 麥酒 砂糖 小麥 金 銀 銅 銑鐵 鋼付 石灰 原油 硫黃 人絹織物 |       |                             |      |       |     |     |     |      |     |      |     |       |      |     |      |
| 昭和 2年                                     | —     | —                           | * 94 | * —   | —   | —   | —   | —    | 78  | 76   | 74  | * 107 | —    | —   | —    |
|                                           | 3年    | —                           | 102  | —     | —   | —   | —   | —    | 81  | 91   | 89  | 109   | —    | —   | —    |
|                                           | 4年    | —                           | 114  | —     | —   | —   | —   | —    | 97  | 92   | 105 | 109   | —    | —   | —    |
|                                           | 5年    | 100                         | 100  | 100   | 100 | 100 | 100 | 100  | 100 | 100  | 100 | 100   | 100  | 100 | 100  |
|                                           | 6年    | 102                         | 96   | 93    | 82  | 100 | 109 | 106  | 96  | 85   | 85  | 88    | 99   | 98  | 130  |
|                                           | 7年    | 101                         | 100  | 93    | 66  | 101 | 109 | 102  | 91  | 93   | 109 | 89    | 83   | 136 | 189  |
| 8年                                        | 131   | 128                         | 122  | 79    | 117 | 119 | 116 | 88   | 123 | 137  | 103 | 72    | 184  | 211 | —    |
| 昭和 9年                                     | 1月    | 164                         | 125  | 133   | 68  | 111 | 115 | 120  | 78  | 145  | 144 | 119   | 71   | 184 | 185  |
|                                           | 2月    | 147                         | 123  | 103   | 57  | 104 | 121 | 125  | 83  | 128  | 142 | 123   | 63   | 175 | 158  |
|                                           | 3月    | 155                         | 132  | 91    | 65  | 109 | 131 | 135  | 92  | 145  | 167 | 123   | 69   | 207 | 235  |
|                                           | 4月    | 147                         | 134  | 92    | 69  | 109 | 130 | 143  | 93  | 144  | 173 | 118   | 70   | 214 | 277  |
|                                           | 5月    | 147                         | 137  | 116   | 74  | 120 | 119 | 128  | 79  | 148  | 163 | 117   | 75   | 219 | 295  |
|                                           | 6月    | 153                         | 124  | 127   | 75  | 104 | 123 | 130  | 87  | 145  | 215 | 112   | 76   | 215 | 296  |
|                                           | 7月    | 119                         | 126  | 147   | 92  | 130 | 127 | 124  | 90  | 135  | 163 | 107   | 82   | 236 | 289  |
|                                           | 8月    | 84                          | 128  | 139   | 93  | 145 | 133 | 142  | 87  | 141  | 141 | 109   | 86   | 237 | 295  |
|                                           | 9月    | —                           | 123  | 115   | —   | —   | —   | —    | 88  | —    | —   | 107   | —    | —   | —    |
|                                           | 10月   | —                           | —    | —     | —   | —   | —   | —    | —   | —    | —   | —     | —    | —   | —    |
| 昭和 8年 8月                                  | 109   | 131                         | 130  | 99    | 126 | 115 | 107 | 83   | 126 | 132  | 108 | 73    | 196  | 217 | —    |

備考 三菱經濟研究所「本邦財界情勢」に據る。

\* 季節的變動修正。

人絹織物は 26 品目中に含まず。

## 2. 日本銀行東京卸賣物價指數

|   |   |   |   |    |   |        |
|---|---|---|---|----|---|--------|
| 昭 | 和 | 9 | 年 | 1  | 月 | 175.50 |
|   |   |   |   | 2  | 月 | 177.50 |
|   |   |   |   | 3  | 月 | 176.90 |
|   |   |   |   | 4  | 月 | 176.90 |
|   |   |   |   | 5  | 月 | 176.20 |
|   |   |   |   | 6  | 月 | 174.50 |
|   |   |   |   | 7  | 月 | 174.10 |
|   |   |   |   | 8  | 月 | 176.90 |
|   |   |   |   | 9  | 月 | 179.20 |
|   |   |   |   | 10 | 月 | 181.80 |
| 前 | 年 | 同 |   |    | 期 | 180.40 |

備考 日本銀行調査局「物價調」に據る。

## 3. 日本銀行東京小賣物價指數

[illegible]

備考 日本銀行調査局「物價調」に據る。

#### 4. 國有鐵道輸送貨物

| 年 度 次   |     |   |   | 貨 物 輸 送 噸 數 |     |            |   | 年 度 次   |             |     |           | 貨 物 輸 送 噸 數 |   |   |   |
|---------|-----|---|---|-------------|-----|------------|---|---------|-------------|-----|-----------|-------------|---|---|---|
| 會 計 月 度 |     |   |   | 會 計 月 度     |     |            |   | 會 計 月 度 |             |     |           | 會 計 月 度     |   |   |   |
| 大 正     | 3   | 年 | 度 | 35,837,241  | 昭 和 | 6          | 年 | 度       | 60,590,307  | 昭 和 | 6         | 年           | 度 |   |   |
|         | 8   | 年 | 度 | 60,898,557  |     | 7          | 年 | 度       | 61,732,756  |     | 7         | 年           | 度 |   |   |
|         | 9   | 年 | 度 | 57,529,853  |     | 8          | 年 | 度       | 71,970,592  |     | 8         | 年           | 度 |   |   |
|         | 10  | 年 | 度 | 58,312,333  |     | 9          | 年 | 1       | 月           |     | 6,050,603 | 9           | 年 | 1 |   |
|         | 11  | 年 | 度 | 63,095,702  |     |            |   | 2       | 月           |     | 6,073,472 |             |   | 2 |   |
|         | 12  | 年 | 度 | 65,818,955  |     |            |   | 3       | 月           |     | 6,838,408 |             |   | 3 |   |
|         | 13  | 年 | 度 | 71,178,263  |     |            |   | 4       | 月           |     | 6,517,988 |             |   | 4 |   |
|         | 14  | 年 | 度 | 73,090,274  |     |            |   | 5       | 月           |     | 6,441,612 |             |   | 5 |   |
|         | 15  | 年 | 度 | 74,780,409  |     |            |   | 6       | 月           |     | 5,952,467 |             |   | 6 |   |
|         | 昭 和 | 2 | 年 | 度           |     | 78,621,788 |   |         | 7           |     | 月         | 5,716,200   |   |   | 7 |
|         | 3   | 年 | 度 | 79,762,959  |     |            | 8 | 月       | * 5,219,106 |     |           | 8           |   |   |   |
|         | 4   | 年 | 度 | 77,224,824  |     |            | 9 | 月       | * 5,255,942 |     |           | 9           |   |   |   |
|         | 5   | 年 | 度 | 64,087,099  | 前 年 | 同          |   | 期       | 5,644,103   |     |           |             |   |   |   |

備考 年計は鐵道省鐵道統計資料に據り月計は運輸成績統計月報に據る。

\* 印は概算



## 6. 職 業 紹 介 數

(昭和九年一月十八日)

| 種 別           | 1 月 | 2 月     | 3 月     | 4 月     | 5 月     | 6 月     | 7 月     | 8 月     | 9 月     | 合 計       |
|---------------|-----|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|-----------|
| 求 人 數         | 男   | 111,925 | 133,494 | 154,994 | 148,105 | 133,300 | 115,785 | 99,517  | 99,995  | 997,115   |
|               | 女   | 147,883 | 142,852 | 112,495 | 97,771  | 92,918  | 77,428  | 75,678  | 85,985  | 833,010   |
|               | 計   | 259,808 | 276,346 | 267,489 | 245,876 | 226,218 | 193,213 | 175,195 | 185,980 | 1,830,125 |
| 同 上 本 月 受     | 男   | 76,343  | 73,341  | 96,002  | 76,401  | 74,666  | 65,744  | 63,157  | 68,053  | 593,707   |
|               | 女   | 99,283  | 52,857  | 66,189  | 50,234  | 60,644  | 47,993  | 45,553  | 54,751  | 477,537   |
|               | 計   | 175,626 | 126,198 | 162,191 | 126,635 | 135,310 | 113,737 | 108,710 | 122,804 | 1,071,244 |
| 求 職 者 數       | 男   | 124,584 | 146,581 | 158,353 | 149,929 | 144,744 | 132,146 | 122,282 | 123,583 | 1,099,202 |
|               | 女   | 78,009  | 70,194  | 76,792  | 73,115  | 67,361  | 62,403  | 54,167  | 51,454  | 533,495   |
|               | 計   | 202,593 | 216,775 | 235,145 | 223,044 | 212,105 | 194,549 | 176,449 | 175,037 | 1,632,697 |
| 同 上 本 月 受     | 男   | 90,138  | 86,009  | 103,194 | 89,791  | 91,853  | 75,767  | 73,385  | 75,332  | 685,469   |
|               | 女   | 53,226  | 45,358  | 54,503  | 45,530  | 43,061  | 38,321  | 31,705  | 33,500  | 345,204   |
|               | 計   | 143,364 | 131,367 | 157,697 | 135,321 | 134,914 | 114,088 | 105,090 | 108,832 | 1,030,673 |
| 就 職 者 數       | 男   | 28,199  | 33,229  | 42,879  | 36,434  | 35,726  | 28,328  | 23,274  | 23,693  | 259,762   |
|               | 女   | 35,334  | 26,629  | 26,657  | 21,745  | 17,889  | 15,980  | 13,900  | 15,972  | 174,097   |
|               | 計   | 63,533  | 59,849  | 69,536  | 58,179  | 53,615  | 44,308  | 42,174  | 42,665  | 433,859   |
| 同 上 中 臨 時 雇 傭 | 男   | 3,629   | 4,059   | 4,947   | 3,781   | 5,284   | 4,746   | 7,647   | 5,017   | 39,110    |
|               | 女   | 1,352   | 1,507   | 1,985   | 1,934   | 1,989   | 1,951   | 1,384   | 1,603   | 13,705    |
|               | 計   | 4,981   | 5,566   | 6,932   | 5,715   | 7,273   | 6,697   | 9,031   | 6,620   | 52,815    |
| 本 月 未 済       | 男   | 60,593  | 59,411  | 72,735  | 59,045  | 49,938  | 36,613  | 32,325  | 36,151  | 406,811   |
|               | 女   | 93,401  | 46,361  | 47,867  | 34,841  | 29,712  | 30,679  | 31,397  | 35,755  | 350,013   |
|               | 計   | 153,994 | 105,772 | 120,602 | 93,886  | 79,650  | 67,292  | 63,722  | 71,906  | 756,824   |
| 求 職 者 數       | 男   | 61,154  | 55,647  | 60,708  | 53,057  | 56,381  | 49,192  | 45,237  | 48,965  | 430,391   |
|               | 女   | 24,999  | 22,362  | 27,657  | 24,331  | 24,079  | 22,312  | 13,026  | 17,216  | 180,992   |
|               | 計   | 86,153  | 78,009  | 88,375  | 77,388  | 80,460  | 71,504  | 63,313  | 66,181  | 611,383   |

備考「職業紹介公報」による。

## 7. 俸給生活者職業紹介成績

(昭和九年八月)

| 取扱種別                | 性別 | 求 人 數  |            | 求 職 者 數 |            | 就 職 者 數 |             | 本 月 未 済 |       |
|---------------------|----|--------|------------|---------|------------|---------|-------------|---------|-------|
| 勤務先別                |    | 總 數    | 同上中<br>本月受 | 總 數     | 同上中<br>本月受 | 總 數     | 同上中<br>臨時雇傭 | 求人數     | 求職者數  |
| 官 公 署               | 男  | 297    | 245        | 443     | 313        | 225     | 34          | 32      | 111   |
|                     | 女  | 69     | 38         | 137     | 110        | 27      | —           | 22      | 88    |
|                     | 計  | 366    | 303        | 580     | 423        | 252     | 34          | 54      | 199   |
| 銀 行                 | 男  | 1      | 1          | 72      | 33         | 1       | —           | —       | 32    |
|                     | 女  | 2      | 2          | 60      | 37         | 1       | —           | 1       | 34    |
|                     | 計  | 3      | 3          | 132     | 70         | 2       | —           | 1       | 66    |
| 保 險 會 社             | 男  | 25     | 20         | 62      | 34         | 6       | 2           | 13      | 32    |
|                     | 女  | 47     | 44         | 45      | 26         | 26      | —           | 19      | 20    |
|                     | 計  | 72     | 64         | 107     | 60         | 32      | 2           | 32      | 52    |
| 商 事 會 社             | 男  | 245    | 219        | 1,949   | 1,141      | 155     | 86          | 62      | 994   |
|                     | 女  | 565    | 537        | 2,006   | 1,283      | 344     | 93          | 186     | 902   |
|                     | 計  | 810    | 756        | 3,955   | 2,424      | 499     | 179         | 248     | 1,896 |
| 工 業 會 社             | 男  | 81     | 54         | 291     | 156        | 24      | 3           | 29      | 131   |
|                     | 女  | 68     | 65         | 117     | 83         | 37      | —           | 26      | 64    |
|                     | 計  | 149    | 119        | 408     | 239        | 61      | 3           | 55      | 195   |
| 鐵 業 會 社             | 男  | 2      | 1          | 8       | 5          | 1       | —           | —       | 4     |
|                     | 女  | 1      | 1          | 3       | 3          | 1       | —           | —       | 2     |
|                     | 計  | 3      | 2          | 11      | 8          | 2       | —           | —       | 6     |
| 個 人 商 店             | 男  | 300    | 225        | 752     | 401        | 91      | 11          | 109     | 329   |
|                     | 女  | 95     | 76         | 312     | 199        | 52      | 2           | 13      | 162   |
|                     | 計  | 395    | 301        | 1,064   | 600        | 143     | 13          | 122     | 491   |
| 個 人 工 場             | 男  | 105    | 63         | 118     | 72         | 23      | —           | 35      | 59    |
|                     | 女  | 18     | 17         | 28      | 20         | 8       | —           | 7       | 14    |
|                     | 計  | 123    | 80         | 146     | 92         | 31      | —           | 42      | 73    |
| 學 校                 | 男  | 7      | 6          | 29      | 11         | 6       | 3           | —       | 8     |
|                     | 女  | 12     | 6          | 34      | 20         | 1       | —           | 5       | 19    |
|                     | 計  | 19     | 12         | 63      | 31         | 7       | 3           | 5       | 27    |
| 新 聞 誌               | 男  | 68     | 53         | 116     | 74         | 35      | 28          | 12      | 59    |
|                     | 女  | 14     | 11         | 34      | 29         | 11      | 8           | 3       | 18    |
|                     | 計  | 82     | 64         | 150     | 103        | 46      | 36          | 15      | 77    |
| 其 他                 | 男  | 535    | 484        | 768     | 626        | 430     | 361         | 50      | 228   |
|                     | 女  | 242    | 221        | 317     | 257        | 191     | 145         | 24      | 88    |
|                     | 計  | 777    | 705        | 1,085   | 883        | 621     | 506         | 74      | 316   |
| 計                   | 男  | 1,666  | 1,371      | 4,608   | 2,866      | 997     | 498         | 342     | 1,987 |
|                     | 女  | 1,133  | 1,038      | 3,093   | 2,067      | 699     | 248         | 306     | 1,411 |
|                     | 計  | 2,799  | 2,409      | 7,701   | 4,933      | 1,696   | 746         | 648     | 3,398 |
| 昭和8年<br>8月計         | 男  | 1,328  | 1,089      | 7,451   | 2,840      | 566     | 187         | 398     | 3,985 |
|                     | 女  | 695    | 570        | 4,515   | 1,311      | 336     | 124         | 189     | 2,829 |
|                     | 計  | 2,023  | 1,659      | 11,966  | 4,151      | 902     | 311         | 587     | 6,724 |
| 昭和9年<br>自1月<br>至8月計 | 男  | 27,282 | —          | 48,387  | —          | 7,457   | —           | —       | —     |
|                     | 女  | 8,627  | —          | 35,862  | —          | 6,100   | —           | —       | —     |
|                     | 計  | 20,909 | —          | 84,249  | —          | 12,557  | —           | —       | —     |

備考 職業紹介公報に據る。



## 4. 官業労働者異動調

| 年 月   | 解 雇 | 雇 入    | 年 (月) 末 現 在 |         |
|-------|-----|--------|-------------|---------|
|       |     |        | 調 査 箇 所 数   | 勞 働 者 数 |
| 昭和 1年 |     | 18,542 | 14,215      | 56      |
| 2年    |     | 15,082 | 14,426      | 56      |
| 3年    |     | 16,291 | 17,646      | 56      |
| 4年    |     | 16,921 | 15,851      | 74      |
| 5年    |     | 13,272 | 10,484      | 73      |
| 6年    |     | 30,120 | 16,680      | 76      |
| 7年    |     | 21,027 | 27,347      | 78      |
| 8年    |     | 38,079 | 49,039      | 78      |
| 9年 1月 |     | 2,003  | 2,036       | 78      |
| 2月    |     | 1,939  | 1,816       | 78      |
| 3月    |     | 3,550  | 3,002       | 78      |
| 4月    |     | 2,715  | 8,847       | 77      |
| 5月    |     | 2,232  | 3,785       | 77      |
| 8年 5月 |     | 3,308  | 4,024       | 78      |

備考 社会局職業課「工場、鉱山並官業労働者異動調」による。

## 5. 失 業 状 況

| 年 月   | 種 別 | 給 料 生 活 者 |        |      | 勞 働 者     |         |      |             |         |      | 合 計       |         |      |
|-------|-----|-----------|--------|------|-----------|---------|------|-------------|---------|------|-----------|---------|------|
|       |     | 調査人口      | 失業者    | 失業率  | 日 雇 勞 働 者 |         |      | 其 他 の 勞 働 者 |         |      | 調査人口      | 失業者     | 失業率  |
| 昭和 4年 | 9月  | 1,572,219 | 59,158 | 3.76 | 1,511,291 | 96,269  | 6.37 | 3,516,268   | 113,163 | 3.22 | 6,599,778 | 268,590 | 4.07 |
|       | 10月 | 1,599,717 | 62,550 | 3.91 | 1,523,374 | 107,622 | 7.06 | 3,624,896   | 123,152 | 3.36 | 6,767,987 | 292,324 | 4.33 |
|       | 11月 | 1,600,090 | 61,808 | 3.86 | 1,568,332 | 114,741 | 7.32 | 3,716,984   | 123,646 | 3.33 | 6,885,406 | 300,195 | 4.36 |
|       | 12月 | 1,643,873 | 63,410 | 3.86 | 1,574,699 | 120,759 | 7.67 | 3,723,365   | 131,100 | 3.52 | 6,941,937 | 315,269 | 4.54 |
| 5年    | 1月  | 1,635,740 | 65,836 | 4.02 | 1,628,047 | 128,796 | 7.91 | 3,647,561   | 145,856 | 4.00 | 6,911,348 | 340,488 | 4.93 |
|       | 2月  | 1,651,093 | 66,966 | 4.06 | 1,653,732 | 131,194 | 7.93 | 3,716,507   | 152,212 | 4.10 | 7,021,332 | 350,372 | 4.99 |
|       | 3月  | 1,639,716 | 68,263 | 4.16 | 1,624,140 | 130,134 | 8.01 | 3,745,351   | 153,192 | 4.09 | 7,009,207 | 351,589 | 5.02 |
|       | 4月  | 1,661,633 | 78,603 | 4.73 | 1,638,853 | 135,293 | 8.26 | 3,781,412   | 158,231 | 4.18 | 7,081,898 | 372,127 | 5.25 |
|       | 5月  | 1,656,212 | 80,444 | 4.86 | 1,657,804 | 132,680 | 8.00 | 3,793,242   | 165,391 | 4.36 | 7,107,258 | 378,515 | 5.33 |
|       | 6月  | 1,666,269 | 79,137 | 4.75 | 1,614,743 | 124,076 | 7.68 | 3,789,588   | 158,703 | 4.19 | 7,070,600 | 361,916 | 5.12 |
|       | 7月  | 1,669,546 | 79,057 | 4.74 | 1,610,655 | 128,214 | 7.96 | 3,811,001   | 171,213 | 4.49 | 7,091,202 | 378,484 | 5.34 |
|       | 8月  | 1,654,629 | 77,927 | 4.71 | 1,602,800 | 130,913 | 8.17 | 3,803,031   | 177,554 | 4.67 | 7,060,460 | 386,394 | 5.47 |
|       | 9月  | 1,664,257 | 78,877 | 4.74 | 1,602,826 | 136,489 | 8.52 | 3,808,964   | 179,878 | 4.72 | 7,076,047 | 395,244 | 5.59 |
|       | 10月 | 1,644,082 | 72,753 | 4.47 | 1,612,298 | 139,356 | 8.64 | 3,680,546   | 162,031 | 4.40 | 6,936,929 | 374,140 | 5.39 |
|       | 11月 | 1,629,393 | 63,553 | 3.90 | 1,619,507 | 145,541 | 8.98 | 3,645,747   | 141,171 | 3.87 | 6,894,647 | 350,265 | 5.05 |
|       | 12月 | 1,624,463 | 63,541 | 3.91 | 1,615,057 | 146,598 | 9.07 | 3,650,722   | 151,911 | 4.16 | 6,890,248 | 362,050 | 5.25 |

| 年 月   | 種 別 | 給 料 生 活 者 |        |      | 勞 働 者     |         |       |             |         |      | 合 計       |         |      |
|-------|-----|-----------|--------|------|-----------|---------|-------|-------------|---------|------|-----------|---------|------|
|       |     | 調査人口      | 失業者    | 失業率  | 日 雇 勞 働 者 |         |       | 其 他 の 勞 働 者 |         |      | 調査人口      | 失業者     | 失業率  |
| 昭和 6年 | 1月  | 1,634,745 | 62,920 | 3.85 | 1,607,570 | 150,277 | 9.34  | 3,646,653   | 158,596 | 4.35 | 6,888,968 | 371,802 | 5.39 |
|       | 2月  | 1,638,336 | 64,447 | 3.93 | 1,678,460 | 157,504 | 9.38  | 3,584,780   | 165,509 | 4.62 | 6,901,576 | 387,460 | 5.61 |
|       | 3月  | 1,638,093 | 65,467 | 4.00 | 1,615,943 | 157,842 | 9.77  | 3,597,025   | 173,519 | 4.82 | 6,851,061 | 396,828 | 5.79 |
|       | 4月  | 1,637,181 | 68,309 | 4.17 | 1,625,597 | 155,576 | 9.58  | 3,668,686   | 170,740 | 4.65 | 6,931,464 | 394,625 | 5.69 |
|       | 5月  | 1,639,484 | 69,752 | 4.25 | 1,620,987 | 154,186 | 9.51  | 3,698,000   | 177,477 | 4.80 | 6,958,471 | 401,415 | 5.77 |
|       | 6月  | 1,647,787 | 69,245 | 4.20 | 1,645,508 | 152,375 | 9.26  | 3,699,718   | 169,757 | 4.59 | 6,999,013 | 391,377 | 5.59 |
|       | 7月  | 1,648,886 | 71,249 | 4.32 | 1,651,009 | 154,038 | 9.37  | 3,683,768   | 181,036 | 4.91 | 6,983,663 | 406,923 | 5.83 |
|       | 8月  | 1,651,438 | 73,195 | 4.43 | 1,651,569 | 158,850 | 9.63  | 3,691,191   | 186,551 | 5.05 | 6,994,198 | 418,596 | 5.98 |
|       | 9月  | 1,656,293 | 74,091 | 4.47 | 1,657,511 | 164,368 | 9.92  | 3,763,974   | 187,067 | 4.97 | 7,077,778 | 425,526 | 6.01 |
|       | 10月 | 1,659,303 | 74,567 | 4.49 | 1,664,596 | 173,649 | 10.43 | 3,706,736   | 190,798 | 5.15 | 7,030,635 | 439,014 | 6.24 |
|       | 11月 | 1,662,937 | 76,540 | 4.60 | 1,674,818 | 180,599 | 10.78 | 3,716,568   | 197,536 | 5.32 | 7,054,323 | 454,675 | 6.45 |
|       | 12月 | 1,664,268 | 77,350 | 4.65 | 1,665,797 | 188,936 | 11.34 | 3,717,658   | 204,450 | 5.50 | 7,047,713 | 470,736 | 6.68 |
| 7年    | 1月  | 1,662,942 | 78,068 | 4.69 | 1,666,877 | 193,192 | 11.59 | 3,671,824   | 214,620 | 5.85 | 7,001,643 | 485,886 | 6.94 |
|       | 2月  | 1,664,283 | 78,448 | 4.71 | 1,667,086 | 191,929 | 11.51 | 3,680,241   | 214,913 | 5.84 | 7,011,610 | 485,290 | 6.92 |
|       | 3月  | 1,652,754 | 77,428 | 4.68 | 1,654,221 | 189,350 | 11.45 | 3,659,157   | 206,979 | 5.66 | 6,966,132 | 473,757 | 6.80 |
|       | 4月  | 1,662,891 | 81,615 | 4.91 | 1,661,954 | 190,484 | 11.46 | 3,691,800   | 210,287 | 5.70 | 7,016,645 | 482,366 | 6.87 |
|       | 5月  | 1,669,283 | 81,200 | 4.86 | 1,670,945 | 192,631 | 11.53 | 3,702,414   | 209,278 | 5.65 | 7,042,642 | 483,109 | 6.86 |
|       | 6月  | 1,670,071 | 82,407 | 4.93 | 1,680,780 | 188,529 | 11.22 | 3,696,074   | 210,633 | 5.70 | 7,046,923 | 481,589 | 6.83 |
|       | 7月  | 1,674,836 | 82,080 | 4.90 | 1,691,904 | 210,076 | 12.42 | 3,725,910   | 218,745 | 5.87 | 7,092,650 | 510,901 | 7.20 |
|       | 8月  | 1,684,552 | 82,257 | 4.88 | 1,723,993 | 208,207 | 12.08 | 3,763,953   | 219,116 | 5.82 | 7,172,498 | 509,580 | 7.10 |
|       | 9月  | 1,691,267 | 81,801 | 4.84 | 1,742,375 | 209,110 | 12.00 | 3,775,661   | 215,058 | 5.70 | 7,209,303 | 505,969 | 7.02 |
|       | 10月 | 1,686,243 | 88,668 | 5.26 | 1,759,603 | 207,770 | 11.81 | 3,775,197   | 207,520 | 5.50 | 7,221,043 | 503,958 | 6.92 |
|       | 11月 | 1,687,731 | 86,109 | 5.10 | 1,795,200 | 200,824 | 11.19 | 3,784,747   | 197,280 | 5.21 | 7,267,678 | 484,213 | 6.66 |
|       | 12月 | 1,692,724 | 83,659 | 4.94 | 1,781,735 | 193,813 | 10.88 | 3,788,933   | 185,931 | 4.91 | 7,263,392 | 463,403 | 6.38 |
| 8年    | 1月  | 1,692,545 | 80,519 | 4.76 | 1,787,936 | 188,086 | 10.52 | 3,764,821   | 175,427 | 4.66 | 7,245,302 | 444,032 | 6.13 |
|       | 2月  | 1,694,454 | 78,847 | 4.65 | 1,781,668 | 184,910 | 10.38 | 3,760,555   | 175,023 | 4.65 | 7,236,677 | 438,780 | 6.06 |
|       | 3月  | 1,694,954 | 76,669 | 4.52 | 1,780,126 | 181,121 | 10.17 | 3,786,838   | 166,497 | 4.40 | 7,261,918 | 424,287 | 5.84 |
|       | 4月  | 1,698,524 | 72,062 | 4.24 | 1,780,032 | 183,202 | 10.29 | 3,786,350   | 159,128 | 4.20 | 7,264,906 | 414,392 | 5.70 |
|       | 5月  | 1,699,454 | 69,614 | 4.10 | 1,773,366 | 201,488 | 11.36 | 3,795,954   | 158,193 | 4.17 | 7,268,774 | 429,295 | 5.91 |
|       | 6月  | 1,695,565 | 70,194 | 4.13 | 1,774,102 | 199,577 | 11.25 | 3,811,254   | 158,937 | 4.17 | 7,183,921 | 428,708 | 5.97 |
|       | 7月  | 1,701,642 | 69,938 | 4.11 | 1,777,936 | 197,788 | 11.12 | 3,817,531   | 150,451 | 3.94 | 7,297,109 | 418,177 | 5.81 |
|       | 8月  | 1,705,434 | 69,769 | 4.09 | 1,779,308 | 195,905 | 11.01 | 3,835,923   | 147,975 | 3.86 | 7,320,665 | 413,649 | 5.65 |
|       | 9月  | 1,709,819 | 68,607 | 4.02 | 1,778,904 | 191,015 | 10.74 | 3,853,397   | 140,496 | 3.65 | 7,342,120 | 400,118 | 5.45 |
|       | 10月 | 1,713,280 | 68,203 | 4.04 | 1,785,740 | 188,605 | 10.56 | 3,874,141   | 134,486 | 3.47 | 7,373,161 | 392,294 | 5.32 |
|       | 11月 | 1,718,270 | 69,479 | 4.04 | 1,788,871 | 184,244 | 10.30 | 3,890,736   | 129,559 | 3.34 | 7,397,877 | 383,582 | 5.19 |
|       | 12月 | 1,720,993 | 69,003 | 4.01 | 1,789,756 | 183,351 | 10.24 | 3,899,375   | 126,567 | 3.25 | 7,410,124 | 378,921 | 5.11 |
| 9年    | 1月  | 1,714,358 | 68,546 | 4.00 | 1,787,249 | 185,102 | 10.36 | 3,909,126   | 128,667 | 3.29 | 7,410,735 | 382,315 | 5.16 |
|       | 2月  | 1,722,192 | 69,498 | 4.04 | 1,790,213 | 190,997 | 10.67 | 3,928,179   | 129,748 | 3.30 | 7,440,584 | 390,243 | 5.24 |
|       | 3月  | 1,725,026 | 68,854 | 3.99 | 1,798,228 | 190,535 | 10.60 | 3,929,736   | 125,954 | 3.21 | 7,452,990 | 385,343 | 5.17 |
|       | 4月  | 1,711,145 | 68,626 | 4.01 | 1,783,235 | 188,115 | 10.55 | 3,921,180   | 124,373 | 3.17 | 7,415,560 | 381,114 | 5.14 |
|       | 5月  | 1,726,154 | 69,193 | 4.01 | 1,779,324 | 187,915 | 10.56 | 3,956,558   | 125,869 | 3.18 | 7,462,041 | 382,977 | 5.13 |
|       | 6月  | 1,731,947 | 69,635 | 4.02 | 1,786,600 | 184,950 | 10.35 | 3,952,698   | 123,480 | 3.12 | 7,471,245 | 378,065 | 5.06 |
|       | 7月  | 1,731,178 | 68,960 | 3.98 | 1,780,802 | 183,556 | 10.31 | 3,969,060   | 119,554 | 3.01 | 7,481,040 | 372,070 | 4.97 |
|       | 8月  | 1,733,720 | 68,341 | 3.94 | 1,780,202 | 181,845 | 10.21 | 3,975,463   | 117,764 | 2.96 | 7,489,385 | 367,950 | 4.91 |

備考 社会局職業課「失業状況推定月報概要」による。

|      | 一月乃至三月計 |       |                        | 一 月 |     | 二 月 |     | 三 月 |     | 前年同期  |     |
|------|---------|-------|------------------------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-------|-----|
|      | 出生      | 死亡    | 死亡に對し<br>出生の増<br>(-)は減 | 出生  | 死亡  | 出生  | 死亡  | 出生  | 死亡  | 出生    | 死亡  |
| 唐津市  | 273     | 170   | 103                    | 108 | 51  | 78  | 62  | 87  | 57  | 295   | 161 |
| 長崎市  | 1,683   | 1,001 | 682                    | 638 | 358 | 480 | 334 | 535 | 309 | 1,699 | 998 |
| 佐世保市 | 1,370   | 718   | 652                    | 540 | 241 | 363 | 241 | 467 | 236 | 1,249 | 579 |
| 熊本市  | 1,503   | 990   | 513                    | 569 | 379 | 404 | 301 | 530 | 310 | 1,634 | 748 |
| 大分市  | 529     | 314   | 215                    | 206 | 92  | 159 | 127 | 164 | 95  | 613   | 240 |
| 別府市  | 446     | 338   | 108                    | 174 | 127 | 121 | 111 | 151 | 100 | 425   | 298 |
| 中津市  | 302     | 162   | 140                    | 120 | 61  | 86  | 43  | 96  | 58  | 304   | 179 |
| 宮崎市  | 581     | 278   | 303                    | 248 | 118 | 164 | 73  | 169 | 87  | 656   | 324 |
| 都城市  | 351     | 162   | 189                    | 144 | 55  | 84  | 57  | 123 | 50  | 414   | 131 |
| 延岡市  | 440     | 203   | 237                    | 175 | 71  | 117 | 68  | 148 | 64  | —     | —   |
| 鹿児島市 | 1,163   | 618   | 545                    | 513 | 230 | 304 | 199 | 346 | 189 | 1,335 | 558 |
| 那覇市  | 284     | 263   | 21                     | 100 | 92  | 93  | 82  | 91  | 89  | 296   | 238 |
| 首里市  | 88      | 93    | (-) 5                  | 24  | 35  | 26  | 25  | 33  | 33  | 111   | 62  |

備考 昭和九年十一月二十日官報に據る。

## 二 人口と職業に関する統計

## 1. 工場鑛山等労働者数調

|         | 總 計       |           |           | 工 場 勞 働 者 |           |           | 鑛 山 勞 働 者 |        |         |
|---------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|--------|---------|
|         | 男         | 女         | 計         | 男         | 女         | 計         | 男         | 女      | 計       |
| 昭和四年六 月 | 3,254,364 | 1,577,451 | 4,831,815 | 1,185,199 | 1,058,369 | 2,193,568 | 194,037   | 52,750 | 246,787 |
| 十二月     | 3,311,770 | 1,561,311 | 4,873,081 | 1,145,252 | 1,057,252 | 2,202,504 | 225,325   | 52,768 | 278,093 |
| 昭和五年六 月 | 3,239,733 | 1,534,314 | 4,774,047 | 1,077,188 | 1,013,428 | 2,090,616 | 203,427   | 44,774 | 248,201 |
| 十二月     | 3,218,030 | 1,494,972 | 4,713,002 | 1,094,387 | 981,618   | 2,076,005 | 191,539   | 34,323 | 225,862 |
| 昭和六年六 月 | 3,215,256 | 1,514,180 | 4,729,436 | 1,041,270 | 991,083   | 2,032,353 | 175,882   | 26,044 | 201,926 |
| 十二月     | 3,201,238 | 1,469,037 | 4,670,275 | 1,065,125 | 961,287   | 2,026,412 | 171,264   | 24,247 | 195,511 |
| 昭和七年六 月 | 3,168,270 | 1,451,710 | 4,619,980 | 1,051,840 | 924,804   | 1,976,644 | 166,133   | 22,179 | 188,312 |
| 十二月     | 3,355,237 | 1,505,039 | 4,860,276 | 1,127,220 | 973,318   | 2,100,538 | 171,575   | 19,596 | 191,171 |
| 昭和八年六 月 | 3,363,527 | 1,518,433 | 4,881,959 | 1,173,232 | 967,403   | 2,140,635 | 175,786   | 18,942 | 194,728 |
| 十二月     | 3,592,899 | 1,533,820 | 5,126,719 | 1,247,644 | 986,385   | 2,234,029 | 202,862   | 25,126 | 227,988 |

|         | 運 輸 交 通 勞 働 者 |        |         | 日 傭 勞 働 者 其 の 他 |         |           |
|---------|---------------|--------|---------|-----------------|---------|-----------|
|         | 男             | 女      | 計       | 男               | 女       | 計         |
| 昭和四年六 月 | 451,548       | 39,000 | 490,548 | 1,473,580       | 427,332 | 1,900,912 |
| 十二月     | 440,790       | 40,112 | 480,902 | 1,500,403       | 411,179 | 1,911,582 |
| 昭和五年六 月 | 465,785       | 47,684 | 513,469 | 1,493,333       | 423,428 | 1,921,761 |
| 十二月     | 462,640       | 44,056 | 506,696 | 1,469,464       | 434,975 | 1,904,439 |
| 昭和六年六 月 | 479,532       | 52,261 | 531,793 | 1,518,572       | 444,792 | 1,963,364 |
| 十二月     | 454,927       | 51,684 | 506,611 | 1,509,922       | 431,819 | 1,941,741 |
| 昭和七年六 月 | 460,310       | 51,471 | 511,781 | 1,489,987       | 453,256 | 1,943,243 |
| 十二月     | 467,935       | 53,144 | 521,079 | 1,588,507       | 458,981 | 2,047,488 |
| 昭和八年六 月 | 479,813       | 58,245 | 538,058 | 1,534,696       | 473,842 | 2,008,538 |
| 十二月     | 496,233       | 60,636 | 556,929 | 1,646,100       | 461,673 | 2,107,773 |

備考 社会局勞政課「勞働時報」に據る。

## 2. 工場労働者異動調

| 年 月   | 解 雇     | 雇 入     | 月 末 現 在 * |           |
|-------|---------|---------|-----------|-----------|
|       |         |         | 工 場 数     | 職 工 数     |
| 昭和 1年 | 842,204 | 964,128 | 8,785     | 1,365,538 |
| 2年    | 684,568 | 688,224 | 7,888     | 1,322,374 |
| 3年    | 655,096 | 679,815 | 8,232     | 1,363,809 |
| 4年    | 671,936 | 695,834 | 8,967     | 1,296,405 |
| 5年    | 569,433 | 515,159 | 5,606     | 1,139,887 |
| 6年    | 656,114 | 555,055 | 5,484     | 1,100,730 |
| 7年    | 483,853 | 540,543 | 5,239     | 1,071,372 |
| 8年    | 524,937 | 634,254 | 5,447     | 1,195,129 |
| 9年 1月 | 40,401  | 77,731  | 5,398     | 1,168,174 |
| 〃 2月  | 47,478  | 68,686  | 5,435     | 1,193,415 |
| 〃 3月  | 41,302  | 70,526  | 5,466     | 1,220,919 |
| 〃 4月  | 42,609  | 100,763 | 5,445     | 1,283,558 |
| 〃 5月  | 42,450  | 48,166  | 5,455     | 1,292,982 |
| 8年 5月 | 35,783  | 37,671  | 5,071     | 1,134,738 |

\* 昭和1年より昭和8年迄は毎年10月末現在のものを示す

## 3. 鑛山労働者異動調

| 年 月   | 解 雇     | 雇 入     | 年 (月) 末 現 在 |         |
|-------|---------|---------|-------------|---------|
|       |         |         | 鑛 山 数       | 鑛 夫 数   |
| 昭和 1年 | 214,402 | 204,418 | 309         | 231,114 |
| 2年    | 218,030 | 215,307 | 348         | 288,675 |
| 3年    | 200,067 | 193,378 | 312         | 280,692 |
| 4年    | 192,846 | 179,848 | 295         | 267,473 |
| 5年    | 163,611 | 112,930 | 338         | 216,189 |
| 6年    | 103,015 | 69,954  | 313         | 180,427 |
| 7年    | 87,173  | 75,460  | 288         | 170,518 |
| 8年    | 114,670 | 147,059 | 335         | 205,841 |
| 9年 1月 | 12,067  | 14,385  | 350         | 210,117 |
| 〃 2月  | 10,133  | 11,095  | 358         | 210,871 |
| 〃 3月  | 12,176  | 13,396  | 362         | 212,836 |
| 〃 4月  | 12,431  | 12,698  | 371         | 213,475 |
| 〃 5月  | 13,041  | 12,723  | 371         | 213,632 |
| 8年 5月 | 9,600   | 11,616  | 307         | 180,477 |



|      | 一月乃至三月計 |        |                        | 一 月    |       | 二 月    |       | 三 月    |       | 前年同期   |        |
|------|---------|--------|------------------------|--------|-------|--------|-------|--------|-------|--------|--------|
|      | 出生      | 死亡     | 死亡に對し<br>出生の増<br>(-)は減 | 出生     | 死亡    | 出生     | 死亡    | 出生     | 死亡    | 出生     | 死亡     |
| 秋田市  | 593     | 288    | 305                    | 217    | 107   | 201    | 86    | 175    | 95    | 535    | 275    |
| 山形市  | 630     | 309    | 321                    | 232    | 99    | 183    | 79    | 215    | 131   | 654    | 318    |
| 米沢市  | 421     | 270    | 151                    | 155    | 102   | 121    | 79    | 145    | 89    | 462    | 207    |
| 鶴岡市  | 375     | 188    | 187                    | 140    | 57    | 119    | 68    | 116    | 63    | 425    | 189    |
| 酒田市  | 300     | 179    | 121                    | 130    | 65    | 80     | 55    | 90     | 59    | —      | —      |
| 福島市  | 417     | 217    | 200                    | 164    | 78    | 115    | 69    | 138    | 70    | 478    | 241    |
| 郡山市  | 444     | 266    | 178                    | 166    | 91    | 125    | 67    | 153    | 108   | 402    | 229    |
| 郡山市  | 566     | 264    | 302                    | 208    | 83    | 188    | 91    | 170    | 90    | 676    | 228    |
| 宇都宮市 | 523     | 287    | 236                    | 194    | 100   | 144    | 93    | 185    | 94    | 503    | 229    |
| 宇都宮市 | 713     | 380    | 333                    | 278    | 153   | 203    | 126   | 232    | 101   | 815    | 400    |
| 足利市  | 430     | 234    | 196                    | 166    | 85    | 116    | 66    | 148    | 83    | 481    | 216    |
| 前橋市  | 862     | 461    | 401                    | 327    | 165   | 203    | 146   | 272    | 150   | 863    | 386    |
| 高崎市  | 585     | 287    | 298                    | 241    | 103   | 156    | 97    | 188    | 87    | 659    | 266    |
| 桐生市  | 654     | 271    | 383                    | 246    | 89    | 188    | 89    | 220    | 93    | 632    | 287    |
| 川越市  | 289     | 195    | 94                     | 113    | 82    | 81     | 64    | 95     | 49    | 339    | 151    |
| 熊谷市  | 344     | 183    | 161                    | 148    | 62    | 97     | 57    | 99     | 64    | —      | —      |
| 川口市  | 462     | 251    | 211                    | 182    | 106   | 124    | 81    | 156    | 64    | —      | —      |
| 千葉市  | 510     | 290    | 220                    | 199    | 113   | 139    | 83    | 172    | 94    | 553    | 234    |
| 千代田市 | 494     | 286    | 208                    | 169    | 117   | 154    | 91    | 171    | 88    | —      | —      |
| 東京市  | 46,976  | 23,591 | 23,385                 | 10,544 | 8,989 | 12,925 | 7,046 | 14,507 | 7,556 | 53,319 | 20,660 |
| 八王子市 | 529     | 277    | 252                    | 231    | 106   | 155    | 81    | 143    | 90    | 551    | 260    |
| 横濱市  | 5,783   | 3,260  | 2,523                  | 2,425  | 1,362 | 1,596  | 896   | 1,762  | 1,002 | 6,885  | 2,845  |
| 横須賀市 | 1,307   | 638    | 669                    | 544    | 238   | 391    | 178   | 372    | 222   | 1,100  | 425    |
| 川崎市  | 1,401   | 629    | 772                    | 577    | 245   | 365    | 189   | 459    | 195   | 1,526  | 471    |
| 平塚市  | 368     | 198    | 170                    | 140    | 68    | 106    | 53    | 122    | 77    | 368    | 189    |
| 新潟市  | 1,248   | 671    | 577                    | 534    | 252   | 326    | 193   | 388    | 226   | 1,344  | 582    |
| 岡崎市  | 458     | 280    | 178                    | 187    | 108   | 127    | 89    | 144    | 83    | 542    | 274    |
| 長岡市  | 255     | 166    | 89                     | 97     | 45    | 70     | 62    | 88     | 59    | 254    | 164    |
| 高松市  | 335     | 151    | 184                    | 131    | 58    | 102    | 46    | 102    | 47    | —      | —      |
| 三富山  | 714     | 445    | 269                    | 263    | 135   | 202    | 151   | 219    | 159   | 740    | 424    |
| 高岡市  | 514     | 299    | 215                    | 200    | 101   | 146    | 89    | 168    | 109   | 535    | 298    |
| 金沢市  | 1,320   | 974    | 346                    | 479    | 352   | 418    | 325   | 423    | 297   | 1,347  | 928    |
| 福井市  | 627     | 406    | 221                    | 251    | 152   | 168    | 130   | 208    | 124   | 735    | 373    |
| 甲府市  | 689     | 428    | 261                    | 282    | 156   | 195    | 140   | 212    | 123   | 702    | 337    |
| 長野市  | 666     | 385    | 281                    | 262    | 120   | 186    | 148   | 218    | 117   | 733    | 341    |
| 松本市  | 564     | 292    | 272                    | 211    | 86    | 170    | 107   | 183    | 99    | 593    | 277    |
| 本田市  | 281     | 172    | 109                    | 103    | 51    | 72     | 53    | 106    | 68    | 322    | 153    |
| 田中市  | 931     | 574    | 357                    | 388    | 221   | 270    | 169   | 273    | 184   | 1,046  | 475    |
| 大垣市  | 387     | 209    | 178                    | 165    | 53    | 96     | 70    | 126    | 86    | 363    | 166    |
| 静岡市  | 1,594   | 782    | 812                    | 695    | 289   | 463    | 224   | 436    | 269   | 1,553  | 754    |
| 濱松市  | 1,123   | 501    | 622                    | 494    | 177   | 305    | 169   | 324    | 155   | 1,187  | 531    |
| 沼津市  | 432     | 253    | 179                    | 205    | 98    | 105    | 73    | 122    | 82    | 464    | 204    |
| 清水市  | 633     | 266    | 367                    | 283    | 95    | 168    | 84    | 182    | 87    | 654    | 275    |
| 名古屋市 | 9,289   | 5,372  | 3,917                  | 4,009  | 1,704 | 2,658  | 1,652 | 2,622  | 2,016 | 9,707  | 4,084  |
| 豊橋市  | 1,227   | 671    | 556                    | 542    | 223   | 380    | 214   | 305    | 234   | 1,223  | 537    |
| 岡崎市  | 583     | 368    | 215                    | 219    | 141   | 201    | 114   | 163    | 113   | 728    | 347    |
| 宮崎市  | 373     | 212    | 161                    | 159    | 71    | 116    | 67    | 98     | 74    | 441    | 175    |
| 瀬戸市  | 414     | 191    | 223                    | 182    | 61    | 128    | 71    | 104    | 59    | 397    | 186    |

|      | 一月乃至三月計 |        |                        | 一 月   |       | 二 月   |       | 三 月   |       | 前年同期   |        |
|------|---------|--------|------------------------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|--------|--------|
|      | 出生      | 死亡     | 死亡に對し<br>出生の増<br>(-)は減 | 出生    | 死亡    | 出生    | 死亡    | 出生    | 死亡    | 出生     | 死亡     |
| 津市   | 456     | 313    | 143                    | 198   | 119   | 138   | 94    | 120   | 100   | 491    | 264    |
| 四日市市 | 506     | 259    | 247                    | 208   | 84    | 141   | 73    | 157   | 102   | 562    | 285    |
| 市田市  | 449     | 291    | 158                    | 217   | 94    | 121   | 94    | 111   | 103   | 469    | 197    |
| 市松市  | 296     | 193    | 103                    | 132   | 76    | 86    | 59    | 78    | 58    | —      | —      |
| 市大津市 | 550     | 324    | 226                    | 232   | 113   | 162   | 123   | 156   | 88    | 374    | 205    |
| 京都市  | 8,175   | 4,454  | 3,721                  | 3,338 | 1,584 | 2,331 | 1,402 | 2,506 | 1,468 | 8,599  | 4,332  |
| 大阪市  | 29,149  | 11,210 | 8,939                  | 8,214 | 4,264 | 5,863 | 3,371 | 6,072 | 3,575 | 20,841 | 10,553 |
| 大塚市  | 906     | 610    | 296                    | 377   | 241   | 284   | 180   | 245   | 189   | 1,027  | 565    |
| 市和田市 | 272     | 192    | 80                     | 113   | 86    | 84    | 54    | 75    | 52    | 318    | 184    |
| 市戸市  | 6,681   | 3,624  | 3,057                  | 2,792 | 1,379 | 1,903 | 1,085 | 1,936 | 1,160 | 7,218  | 3,340  |
| 姫路市  | 560     | 320    | 240                    | 233   | 114   | 151   | 111   | 176   | 95    | 576    | 264    |
| 市時市  | 503     | 271    | 232                    | 198   | 104   | 160   | 83    | 145   | 84    | 548    | 238    |
| 市石市  | 381     | 189    | 192                    | 153   | 75    | 113   | 67    | 115   | 47    | 406    | 175    |
| 市西宮市 | 709     | 332    | 377                    | 290   | 130   | 204   | 96    | 215   | 106   | 350    | 161    |
| 市奈良市 | 430     | 266    | 164                    | 153   | 107   | 112   | 73    | 165   | 86    | 450    | 230    |
| 和歌山市 | 1,337   | 915    | 422                    | 530   | 326   | 382   | 285   | 425   | 304   | 1,047  | 513    |
| 新宮市  | 260     | 224    | 36                     | 118   | 92    | 73    | 62    | 69    | 70    | —      | —      |
| 市取市  | 422     | 253    | 169                    | 152   | 89    | 136   | 85    | 134   | 79    | 368    | 218    |
| 米子市  | 323     | 214    | 109                    | 134   | 68    | 84    | 70    | 105   | 76    | 299    | 163    |
| 松江市  | 376     | 243    | 133                    | 129   | 75    | 118   | 84    | 129   | 84    | 360    | 244    |
| 岡山市  | 1,120   | 811    | 309                    | 467   | 258   | 325   | 274   | 328   | 279   | 1,363  | 660    |
| 倉敷市  | 277     | 135    | 142                    | 99    | 41    | 83    | 46    | 95    | 48    | 302    | 124    |
| 津山市  | 307     | 204    | 103                    | 125   | 66    | 77    | 61    | 105   | 77    | 356    | 167    |
| 廣島市  | 2,520   | 1,365  | 1,155                  | 1,029 | 513   | 729   | 415   | 762   | 437   | 2,583  | 1,055  |
| 呉市   | 1,860   | 836    | 1,024                  | 823   | 268   | 560   | 262   | 477   | 306   | 2,064  | 711    |
| 尾道市  | 190     | 139    | 51                     | 66    | 48    | 66    | 52    | 58    | 39    | 243    | 132    |
| 福山市  | 450     | 261    | 189                    | 172   | 99    | 125   | 78    | 153   | 84    | 528    | 240    |
| 下関市  | 1,057   | 578    | 479                    | 421   | 204   | 323   | 174   | 322   | 200   | 959    | 489    |
| 宇部市  | 633     | 360    | 273                    | 251   | 120   | 200   | 122   | 182   | 118   | 632    | 312    |
| 山口市  | 264     | 189    | 75                     | 111   | 63    | 67    | 52    | 86    | 74    | 257    | 175    |
| 萩市   | 344     | 215    | 129                    | 137   | 86    | 103   | 58    | 104   | 71    | 329    | 173    |
| 徳島市  | 837     | 566    | 271                    | 356   | 190   | 241   | 192   | 240   | 184   | 978    | 489    |
| 高松市  | 702     | 492    | 210                    | 257   | 154   | 243   | 162   | 202   | 176   | 820    | 443    |
| 丸亀市  | 233     | 160    | 73                     | 99    | 66    | 76    | 41    | 58    | 53    | 250    | 139    |
| 松山市  | 689     | 424    | 265                    | 246   | 131   | 210   | 139   | 233   | 154   | 774    | 416    |
| 今治市  | 451     | 286    | 165                    | 173   | 91    | 126   | 93    | 152   | 102   | 460    | 190    |
| 宇和島市 | 331     | 279    | 52                     | 124   | 80    | 90    | 88    | 117   | 111   | 453    | 266    |
| 高知市  | 628     | 536    | 92                     | 277   | 185   | 170   | 160   | 181   | 191   | 841    | 511    |
| 高岡市  | 2,596   | 1,365  | 1,231                  | 1,090 | 555   | 691   | 408   | 815   | 402   | 2,327  | 1,000  |
| 若松市  | 597     | 316    | 281                    | 229   | 111   | 181   | 100   | 187   | 105   | 656    | 258    |
| 八幡市  | 2,023   | 868    | 1,155                  | 813   | 284   | 585   | 259   | 625   | 325   | 2,071  | 836    |
| 戸田市  | 530     | 271    | 259                    | 219   | 88    | 135   | 87    | 176   | 96    | 532    | 198    |
| 久留米市 | 776     | 493    | 283                    | 297   | 180   | 232   | 165   | 247   | 148   | 912    | 372    |
| 大牟田市 | 964     | 450    | 514                    | 355   | 168   | 304   | 120   | 305   | 162   | 1,172  | 460    |
| 小倉市  | 943     | 502    | 441                    | 357   | 170   | 264   | 159   | 322   | 173   | 970    | 424    |
| 門司市  | 1,001   | 518    | 483                    | 428   | 197   | 258   | 153   | 315   | 168   | 1,027  | 442    |
| 市方市  | 457     | 218    | 239                    | 181   | 72    | 129   | 82    | 147   | 64    | 468    | 178    |
| 市塚市  | 340     | 223    | 117                    | 134   | 90    | 88    | 63    | 118   | 70    | 403    | 169    |
| 佐賀市  | 469     | 262    | 207                    | 188   | 89    | 125   | 74    | 156   | 99    | 446    | 234    |

## 3. 昭和九年一月乃至三月内地人出生及死亡 (現在地別)

## 道府県の部

(註) 本数字は四月末日までに届出られたるものに係る。

|      | 一月乃至三月計 |         |                        | 一 月     |         | 二 月     |         | 三 月     |         | 前年同期    |         |
|------|---------|---------|------------------------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|
|      | 出生      | 死亡      | 死亡に對し<br>出生の増<br>(-)は減 | 出生      | 死亡      | 出生      | 死亡      | 出生      | 死亡      | 出生      | 死亡      |
| 内地   | 374,954 | 354,713 | 320,241                | 250,326 | 121,832 | 197,025 | 111,947 | 227,603 | 120,934 | 715,398 | 323,157 |
| 北海道  | 33,761  | 13,752  | 20,009                 | 11,727  | 4,009   | 9,732   | 4,184   | 12,302  | 5,559   | 35,838  | 13,028  |
| 東北區  |         |         |                        |         |         |         |         |         |         |         |         |
| 青森縣  | 11,147  | 4,409   | 6,738                  | 3,522   | 1,403   | 3,402   | 1,330   | 4,223   | 1,676   | 11,354  | 4,346   |
| 岩手縣  | 11,607  | 5,411   | 6,196                  | 3,652   | 1,693   | 3,639   | 1,740   | 4,316   | 1,978   | 12,323  | 6,989   |
| 宮城縣  | 14,379  | 5,830   | 8,549                  | 4,948   | 1,960   | 4,297   | 1,815   | 5,134   | 2,055   | 14,445  | 6,151   |
| 秋田縣  | 12,549  | 5,285   | 7,264                  | 4,201   | 1,669   | 3,979   | 1,655   | 4,369   | 1,961   | 13,315  | 5,371   |
| 山形縣  | 12,569  | 5,695   | 6,874                  | 4,264   | 1,897   | 3,750   | 1,786   | 4,555   | 2,012   | 13,496  | 5,518   |
| 福島縣  | 17,138  | 7,750   | 9,388                  | 5,782   | 2,508   | 5,181   | 2,556   | 6,175   | 2,686   | 17,372  | 7,357   |
| 關東區  |         |         |                        |         |         |         |         |         |         |         |         |
| 茨城縣  | 15,947  | 9,028   | 6,919                  | 5,201   | 3,210   | 4,689   | 2,869   | 6,057   | 2,949   | 16,488  | 8,114   |
| 栃木縣  | 13,174  | 6,142   | 7,032                  | 4,552   | 2,085   | 3,736   | 2,011   | 4,886   | 2,046   | 13,625  | 6,209   |
| 群馬縣  | 13,306  | 6,924   | 6,382                  | 5,019   | 2,271   | 3,950   | 2,279   | 4,337   | 2,374   | 13,242  | 5,766   |
| 埼玉縣  | 15,427  | 9,235   | 6,192                  | 5,857   | 3,332   | 4,621   | 2,924   | 4,949   | 2,979   | 16,100  | 8,381   |
| 千葉縣  | 15,007  | 9,057   | 5,950                  | 5,819   | 3,307   | 4,079   | 2,798   | 5,109   | 2,952   | 16,662  | 8,502   |
| 東京府  | 51,756  | 26,159  | 25,597                 | 21,529  | 9,963   | 14,261  | 7,820   | 15,966  | 8,376   | 58,237  | 22,905  |
| 神奈川縣 | 16,258  | 8,686   | 7,572                  | 6,745   | 3,405   | 4,484   | 2,490   | 5,029   | 2,791   | 18,481  | 7,676   |
| 北陸區  |         |         |                        |         |         |         |         |         |         |         |         |
| 新潟縣  | 21,931  | 10,465  | 11,466                 | 7,973   | 3,276   | 6,205   | 3,434   | 7,753   | 3,755   | 23,178  | 9,745   |
| 富山縣  | 8,501   | 4,740   | 3,761                  | 3,286   | 1,575   | 2,421   | 1,534   | 2,794   | 1,631   | 9,116   | 4,423   |
| 石川縣  | 7,822   | 5,144   | 2,678                  | 2,829   | 1,607   | 2,353   | 1,690   | 2,640   | 1,847   | 8,269   | 4,616   |
| 福井縣  | 6,705   | 4,242   | 2,463                  | 2,222   | 1,361   | 2,032   | 1,370   | 2,351   | 1,511   | 6,892   | 3,756   |
| 東山梨縣 | 6,658   | 3,413   | 3,245                  | 2,518   | 1,217   | 1,932   | 1,115   | 2,208   | 1,081   | 6,963   | 3,019   |
| 長野縣  | 16,685  | 8,474   | 8,211                  | 6,029   | 2,741   | 4,888   | 2,738   | 5,771   | 2,945   | 17,326  | 7,523   |
| 岐阜縣  | 12,894  | 6,955   | 5,849                  | 5,059   | 2,309   | 3,689   | 2,136   | 4,056   | 2,510   | 13,109  | 6,331   |
| 東海區  |         |         |                        |         |         |         |         |         |         |         |         |
| 静岡縣  | 20,028  | 10,260  | 9,768                  | 8,287   | 3,573   | 5,702   | 3,228   | 6,039   | 3,459   | 20,431  | 9,359   |
| 愛知縣  | 25,744  | 14,887  | 10,857                 | 10,644  | 4,782   | 7,646   | 4,709   | 7,454   | 5,396   | 26,964  | 12,821  |
| 三重縣  | 11,500  | 7,270   | 4,230                  | 4,611   | 2,421   | 3,436   | 2,371   | 3,453   | 2,478   | 12,080  | 6,187   |
| 近畿區  |         |         |                        |         |         |         |         |         |         |         |         |
| 滋賀縣  | 6,893   | 4,317   | 2,486                  | 2,408   | 1,408   | 2,031   | 1,431   | 2,364   | 1,478   | 6,811   | 3,931   |
| 京都府  | 14,155  | 7,838   | 6,317                  | 5,508   | 2,648   | 4,107   | 2,531   | 4,549   | 2,639   | 14,478  | 7,577   |
| 大阪府  | 30,410  | 17,337  | 13,073                 | 12,041  | 6,501   | 9,058   | 5,364   | 9,311   | 5,472   | 31,883  | 16,220  |
| 兵庫縣  | 26,293  | 13,883  | 12,410                 | 10,129  | 4,862   | 7,721   | 4,412   | 8,443   | 4,699   | 27,723  | 12,653  |
| 奈良縣  | 5,614   | 3,660   | 1,954                  | 2,015   | 1,324   | 1,687   | 1,124   | 1,912   | 1,212   | 6,034   | 3,146   |
| 和歌山縣 | 7,881   | 4,603   | 3,278                  | 3,010   | 1,574   | 2,369   | 1,442   | 2,502   | 1,587   | 8,811   | 3,918   |
| 中國區  |         |         |                        |         |         |         |         |         |         |         |         |
| 鳥取縣  | 4,657   | 2,610   | 2,047                  | 1,709   | 855     | 1,473   | 816     | 1,475   | 939     | 4,734   | 2,343   |
| 島根縣  | 7,885   | 4,668   | 3,217                  | 2,753   | 1,594   | 2,433   | 1,498   | 2,699   | 1,666   | 7,618   | 4,032   |
| 岡山縣  | 12,224  | 7,632   | 4,592                  | 4,349   | 2,445   | 3,680   | 2,527   | 4,195   | 2,660   | 13,649  | 6,575   |
| 広島縣  | 17,126  | 9,299   | 7,827                  | 6,525   | 3,157   | 4,983   | 2,951   | 5,618   | 3,191   | 18,562  | 8,180   |
| 山口縣  | 11,286  | 6,618   | 4,668                  | 4,335   | 2,342   | 3,390   | 2,092   | 3,561   | 2,184   | 11,766  | 5,828   |

|      | 一月乃至三月計 |        |                        | 一 月    |       | 二 月   |       | 三 月   |       | 前年同期   |        |
|------|---------|--------|------------------------|--------|-------|-------|-------|-------|-------|--------|--------|
|      | 出生      | 死亡     | 死亡に對し<br>出生の増<br>(-)は減 | 出生     | 死亡    | 出生    | 死亡    | 出生    | 死亡    | 出生     | 死亡     |
| 四國區  |         |        |                        |        |       |       |       |       |       |        |        |
| 香川縣  | 7,938   | 4,665  | 3,273                  | 2,832  | 1,512 | 2,434 | 1,506 | 2,672 | 1,647 | 8,469  | 3,917  |
| 愛媛縣  | 7,741   | 4,667  | 3,074                  | 2,892  | 1,494 | 2,380 | 1,560 | 2,469 | 1,613 | 8,906  | 3,929  |
| 高松縣  | 11,454  | 6,696  | 4,758                  | 4,168  | 2,146 | 3,539 | 2,162 | 3,747 | 2,388 | 12,329 | 5,782  |
| 徳島縣  | 6,394   | 3,931  | 2,463                  | 2,508  | 1,452 | 1,916 | 1,183 | 1,970 | 1,296 | 7,332  | 3,807  |
| 九州區  |         |        |                        |        |       |       |       |       |       |        |        |
| 福岡縣  | 27,685  | 14,188 | 13,497                 | 10,648 | 5,168 | 7,977 | 4,427 | 9,060 | 4,593 | 29,022 | 12,157 |
| 佐賀縣  | 7,863   | 4,184  | 3,679                  | 3,165  | 1,535 | 2,215 | 1,323 | 2,483 | 1,323 | 8,280  | 3,716  |
| 熊本縣  | 12,913  | 6,876  | 6,037                  | 4,550  | 2,454 | 3,731 | 2,217 | 4,631 | 2,205 | 12,986 | 6,420  |
| 大分縣  | 14,996  | 7,996  | 7,600                  | 5,262  | 2,621 | 4,209 | 2,322 | 5,525 | 2,453 | 16,139 | 6,575  |
| 宮崎縣  | 10,852  | 5,958  | 4,894                  | 3,764  | 2,037 | 3,251 | 1,933 | 3,837 | 1,988 | 11,704 | 5,360  |
| 鹿児島縣 | 8,575   | 3,897  | 4,678                  | 2,949  | 1,421 | 2,541 | 1,188 | 3,085 | 1,288 | 9,794  | 3,669  |
| 沖縄縣  | 17,795  | 7,777  | 10,018                 | 5,232  | 2,823 | 4,601 | 2,404 | 7,962 | 2,550 | 19,323 | 6,924  |
| 内地外  | 4,011   | 2,800  | 1,211                  | 1,201  | 975   | 1,195 | 899   | 1,615 | 926   | 3,718  | 2,406  |
| 朝鮮   | 14,603  | 5,885  | 8,718                  | 5,870  | 1,996 | 4,142 | 1,768 | 4,591 | 2,121 | 14,738 | 5,944  |
| 臺灣   | 5,009   | 2,077  | 2,932                  | 1,967  | 681   | 1,382 | 620   | 1,660 | 776   | 5,135  | 1,999  |
| 南洋羣島 | 2,055   | 697    | 1,448                  | 894    | 224   | 619   | 179   | 542   | 204   | 2,272  | 552    |
| 南洋羣島 | 3,168   | 1,088  | 2,080                  | 1,143  | 349   | 877   | 339   | 1,148 | 400   | 3,249  | 1,317  |
| 東洋羣島 | 328     | 91     | 237                    | 128    | 32    | 96    | 30    | 104   | 29    | 222    | 41     |
| 中國   | 1,168   | 528    | 640                    | 422    | 181   | 355   | 147   | 391   | 200   | 1,237  | 502    |
| 海外   | 2,873   | 1,366  | 1,507                  | 1,314  | 518   | 813   | 431   | 746   | 417   | 2,615  | 1,411  |
| 航空   | 2       | 123    | (-) 124                | 2      | 11    | —     | 21    | —     | 94    | 8      | 119    |
| 不詳   | —       | 2      | (-) 2                  | —      | —     | —     | 1     | —     | 1     | —      | 3      |

備考 昭和九年十一月二十日官報に據る。

## 市の部

(註) 市は昭和九年首現在とす。

|     | 一月乃至三月計 |        |                        | 一 月    |        | 二 月    |        | 三 月    |        | 前年同期    |        |
|-----|---------|--------|------------------------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|---------|--------|
|     | 出生      | 死亡     | 死亡に對し<br>出生の増<br>(-)は減 | 出生     | 死亡     | 出生     | 死亡     | 出生     | 死亡     | 出生      | 死亡     |
| 總 数 | 179,553 | 93,203 | 81,350                 | 73,204 | 35,563 | 51,117 | 29,938 | 55,232 | 32,702 | 183,095 | 84,379 |
| 札幌市 | 1,914   | 1,032  | 882                    | 678    | 330    | 577    | 319    | 659    | 383    | 2,111   | 1,032  |
| 旭川市 | 877     | 473    | 404                    | 310    | 146    | 245    | 128    | 322    | 199    | 1,038   | 514    |
| 小樽市 | 1,444   | 646    | 798                    | 530    | 210    | 416    | 238    | 498    | 198    | 1,461   | 726    |
| 函館市 | 1,741   | 1,670  | 71                     | 741    | 344    | 526    | 333    | 474    | 993    | 2,062   | 856    |
| 室蘭市 | 612     | 325    | 287                    | 248    | 121    | 180    | 95     | 184    | 109    | 580     | 229    |
| 釧路市 | 491     | 242    | 249                    | 175    | 68     | 133    | 82     | 183    | 92     | 555     | 271    |
| 廣島市 | 370     | 205    | 165                    | 136    | 62     | 108    | 72     | 126    | 71     | —       | —      |
| 前橋市 | 440     | 230    | 210                    | 180    | 97     | 128    | 59     | 132    | 74     | 440     | 240    |
| 青森市 | 970     | 391    | 579                    | 366    | 125    | 314    | 142    | 290    | 124    | 987     | 384    |
| 八戸市 | 593     | 362    | 231                    | 188    | 104    | 192    | 127    | 213    | 131    | 666     | 276    |
| 盛岡市 | 621     | 321    | 300                    | 234    | 124    | 194    | 100    | 193    | 97     | 657     | 309    |
| 仙台市 | 2,153   | 1,046  | 1,107                  | 801    | 368    | 657    | 307    | 695    | 371    | 2,191   | 994    |
| 石巻市 | 351     | 164    | 187                    | 125    | 53     | 109    | 54     | 117    | 57     | —       | —      |



|        | 婚姻件数   | 離婚件数  | 出生     |        |        | 死亡    |       |       |
|--------|--------|-------|--------|--------|--------|-------|-------|-------|
|        |        |       | 總數     | 男      | 女      | 總數    | 男     | 女     |
| 19 山梨  | 4,556  | 375   | 20,817 | 10,706 | 10,111 | 1,205 | 635   | 571   |
| 20 長野  | 11,911 | 888   | 52,472 | 26,845 | 25,627 | 3,078 | 1,655 | 1,418 |
| 21 岐阜  | 9,543  | 893   | 40,740 | 20,868 | 19,872 | 1,964 | 1,099 | 862   |
| 22 静岡  | 13,907 | 1,539 | 63,043 | 33,314 | 30,729 | 3,670 | 1,971 | 1,697 |
| 23 愛知  | 19,366 | 1,956 | 86,140 | 43,975 | 42,165 | 4,350 | 2,394 | 1,954 |
| 24 三重  | 9,160  | 793   | 37,730 | 19,399 | 18,331 | 1,862 | 994   | 868   |
| 25 滋賀  | 5,731  | 416   | 20,613 | 10,650 | 9,963  | 1,005 | 547   | 453   |
| 26 京都  | 10,823 | 990   | 43,098 | 22,125 | 20,973 | 2,578 | 1,409 | 1,153 |
| 27 大阪  | 23,124 | 2,433 | 97,112 | 50,136 | 46,976 | 7,210 | 3,913 | 3,215 |
| 28 兵庫  | 18,863 | 1,801 | 79,658 | 40,947 | 38,711 | 4,792 | 2,601 | 2,151 |
| 29 奈良  | 5,163  | 393   | 17,909 | 9,222  | 8,687  | 1,309 | 650   | 647   |
| 30 和歌山 | 6,447  | 576   | 25,065 | 12,852 | 12,213 | 1,365 | 790   | 570   |
| 31 鳥取  | 3,777  | 447   | 14,839 | 7,604  | 7,235  | 915   | 501   | 467   |
| 32 島根  | 5,931  | 741   | 23,220 | 12,007 | 11,213 | 1,327 | 715   | 608   |
| 33 岡山  | 10,529 | 1,037 | 38,870 | 19,933 | 18,937 | 2,475 | 1,377 | 1,081 |
| 34 広島  | 14,260 | 1,743 | 52,434 | 26,948 | 25,486 | 2,615 | 1,472 | 1,171 |
| 35 山口  | 9,266  | 1,133 | 33,703 | 17,210 | 16,493 | 1,489 | 828   | 656   |
| 36 徳島  | 5,911  | 562   | 25,043 | 12,729 | 12,323 | 1,458 | 753   | 692   |
| 37 香川  | 6,477  | 684   | 25,295 | 13,056 | 12,239 | 1,198 | 674   | 599   |
| 38 愛媛  | 9,133  | 1,327 | 33,291 | 19,666 | 18,625 | 1,755 | 949   | 796   |
| 39 高知  | 5,455  | 757   | 21,468 | 10,953 | 10,515 | 1,109 | 595   | 500   |
| 40 福岡  | 18,824 | 1,992 | 79,060 | 40,731 | 38,329 | 4,620 | 2,514 | 2,098 |
| 41 佐賀  | 5,864  | 575   | 23,034 | 10,787 | 11,247 | 1,000 | 532   | 467   |
| 42 長崎  | 8,989  | 1,033 | 39,919 | 20,468 | 19,451 | 1,698 | 907   | 788   |
| 43 熊本  | 10,420 | 1,070 | 43,650 | 22,351 | 21,299 | 1,370 | 779   | 591   |
| 44 大分  | 7,579  | 849   | 32,350 | 16,710 | 15,640 | 1,417 | 749   | 667   |
| 45 宮崎  | 5,651  | 621   | 27,624 | 10,085 | 13,539 | 1,330 | 693   | 636   |
| 46 鹿児島 | 12,288 | 1,066 | 51,765 | 26,276 | 25,489 | 1,879 | 1,047 | 830   |
| 47 沖縄  | 5,046  | 736   | 14,993 | 7,726  | 7,267  | 3     | 1     | 2     |
| 内地     | 6,177  | 570   | 50,442 | 25,966 | 24,476 | 480   | 261   | 316   |
| 朝鮮     | 1,577  | 102   | 15,689 | 8,051  | 7,638  | 5     | 2     | 3     |
| 臺灣     | 748    | 50    | 7,226  | 3,672  | 3,554  | —     | —     | —     |
| 樺太     | 1,733  | 142   | 10,075 | 5,190  | 4,885  | 462   | 253   | 206   |
| 南洋群島   | 47     | 4     | 1,359  | 691    | 668    | —     | —     | —     |
| 關東州    | 510    | 69    | 3,686  | 1,916  | 1,770  | —     | —     | —     |
| 外國     | 1,562  | 203   | 12,373 | 6,425  | 5,948  | —     | —     | —     |
| 航海中    | —      | —     | 34     | 21     | 13     | —     | —     | —     |
| 不詳     | —      | —     | —      | —      | —      | 13    | 6     | 7     |

官報による

| 産<br>男女不詳 | 死      |        | 亡      |      | 比    |       | 例 (人口千=付) |       |    |  | 順<br>序 |
|-----------|--------|--------|--------|------|------|-------|-----------|-------|----|--|--------|
|           | 總 數    | 男      | 女      | 婚 姻  | 離 婚  | 出 生   | 死 産       | 死 亡   |    |  |        |
| —         | 11,132 | 5,698  | 5,434  | 7.02 | 0.58 | 32.08 | 1.86      | 17.15 | 19 |  |        |
| 5         | 27,708 | 14,077 | 13,631 | 6.73 | 0.50 | 29.66 | 1.74      | 15.66 | 20 |  |        |
| 3         | 23,264 | 11,734 | 11,530 | 7.92 | 0.74 | 33.80 | 1.63      | 19.30 | 21 |  |        |
| 32        | 32,733 | 17,039 | 15,694 | 7.43 | 0.82 | 33.66 | 1.96      | 17.48 | 22 |  |        |
| 22        | 45,957 | 23,392 | 22,565 | 7.14 | 0.72 | 31.74 | 1.60      | 16.93 | 23 |  |        |
| 8         | 22,696 | 11,447 | 11,249 | 7.72 | 0.67 | 31.79 | 1.57      | 19.11 | 24 |  |        |
| 5         | 14,119 | 7,131  | 6,988  | 8.08 | 0.59 | 29.08 | 1.42      | 19.92 | 25 |  |        |
| 16        | 27,889 | 14,441 | 13,447 | 6.60 | 0.60 | 26.29 | 1.57      | 17.01 | 26 |  |        |
| 82        | 62,657 | 32,961 | 29,696 | 6.05 | 0.64 | 25.39 | 1.89      | 16.38 | 27 |  |        |
| 40        | 49,431 | 25,928 | 23,503 | 6.84 | 0.65 | 28.86 | 1.47      | 17.91 | 28 |  |        |
| 12        | 11,637 | 6,093  | 5,544  | 8.55 | 0.65 | 29.67 | 2.17      | 19.28 | 29 |  |        |
| 5         | 14,554 | 7,603  | 6,951  | 7.53 | 0.67 | 29.27 | 1.59      | 17.00 | 30 |  |        |
| 7         | 8,806  | 4,487  | 4,319  | 7.56 | 0.90 | 29.72 | 1.83      | 17.64 | 31 |  |        |
| 4         | 15,710 | 7,850  | 7,860  | 7.91 | 0.99 | 30.98 | 1.77      | 20.96 | 32 |  |        |
| 17        | 24,918 | 13,002 | 11,916 | 8.03 | 0.79 | 29.65 | 1.88      | 19.01 | 33 |  |        |
| 7         | 30,627 | 15,949 | 14,678 | 8.21 | 1.00 | 30.20 | 1.53      | 17.64 | 34 |  |        |
| 5         | 21,433 | 11,060 | 10,373 | 7.99 | 0.98 | 29.05 | 1.28      | 18.48 | 35 |  |        |
| 13        | 14,363 | 7,422  | 6,941  | 8.07 | 0.77 | 34.19 | 1.99      | 19.61 | 36 |  |        |
| 15        | 14,338 | 7,447  | 6,891  | 8.61 | 0.91 | 33.63 | 1.59      | 19.06 | 37 |  |        |
| 10        | 21,350 | 11,119 | 10,231 | 7.81 | 1.13 | 32.75 | 1.50      | 18.26 | 38 |  |        |
| 14        | 13,669 | 7,099  | 6,579  | 7.41 | 1.03 | 29.16 | 1.51      | 18.56 | 39 |  |        |
| 8         | 45,972 | 24,079 | 21,893 | 7.08 | 0.75 | 29.72 | 1.74      | 17.28 | 40 |  |        |
| 1         | 13,824 | 7,177  | 6,647  | 8.43 | 0.83 | 33.12 | 1.44      | 19.88 | 41 |  |        |
| 3         | 22,337 | 11,667 | 10,670 | 7.05 | 0.81 | 31.32 | 1.33      | 17.53 | 42 |  |        |
| —         | 24,288 | 12,115 | 12,173 | 7.51 | 0.77 | 31.44 | 0.99      | 17.49 | 43 |  |        |
| 1         | 19,525 | 9,868  | 9,657  | 7.86 | 0.88 | 33.56 | 1.47      | 20.26 | 44 |  |        |
| 1         | 13,460 | 6,950  | 6,510  | 7.05 | 0.77 | 34.47 | 1.66      | 16.79 | 45 |  |        |
| 2         | 25,911 | 13,411 | 12,500 | 7.65 | 0.66 | 32.22 | 1.17      | 16.13 | 46 |  |        |
| —         | 9,441  | 4,708  | 4,733  | 8.56 | 1.25 | 25.44 | 0.01      | 16.20 | 47 |  |        |
| 3         | 25,413 | 15,085 | 10,328 | —    | —    | —     | —         | —     | —  |  |        |
| —         | 7,867  | 4,187  | 3,680  | —    | —    | —     | —         | —     | —  |  |        |
| —         | 2,494  | 1,459  | 1,035  | —    | —    | —     | —         | —     | —  |  |        |
| 3         | 5,172  | 3,001  | 2,171  | —    | —    | —     | —         | —     | —  |  |        |
| —         | 592    | 250    | 142    | —    | —    | —     | —         | —     | —  |  |        |
| —         | 1,852  | 1,046  | 807    | —    | —    | —     | —         | —     | —  |  |        |
| —         | 7,262  | 4,842  | 2,420  | —    | —    | —     | —         | —     | —  |  |        |
| —         | 325    | 277    | 48     | —    | —    | —     | —         | —     | —  |  |        |
| —         | 48     | 23     | 25     | —    | —    | —     | —         | —     | —  |  |        |

|      | 總數      | 男       | 女       |       | 總數        | 男       | 女       |
|------|---------|---------|---------|-------|-----------|---------|---------|
| 南海郡部 | 82,900  | 40,400  | 42,500  | 延岡市部  | 35,800    | 18,300  |         |
| 大野郡部 | 88,500  | 44,300  | 44,200  | 宮崎郡部  | 69,800    | 34,900  | 17,500  |
| 直入郡部 | 46,600  | 23,200  | 23,400  | 南那珂郡部 | 90,000    | 45,100  | 44,900  |
| 玖珠郡部 | 36,000  | 18,100  | 17,900  | 北諸縣郡部 | 109,800   | 55,200  | 54,600  |
| 日田郡部 | 76,500  | 39,000  | 37,500  | 西諸縣郡部 | 84,200    | 42,800  | 41,400  |
| 下毛郡部 | 47,500  | 23,400  | 24,100  | 東諸縣郡部 | 46,500    | 24,300  | 22,200  |
| 宇佐郡部 | 70,100  | 37,300  | 38,800  | 兒湯郡部  | 99,000    | 49,400  | 49,600  |
| 宮崎縣  | 815,600 | 411,000 | 404,600 | 北白杵郡部 | 113,500   | 57,500  | 56,000  |
| 市部   | 144,000 | 71,700  | 72,300  | 西白杵郡部 | 58,800    | 30,100  | 28,700  |
| 郡部   | 671,600 | 339,300 | 332,300 | 鹿兒島縣  | 1,623,800 | 785,400 | 838,400 |
| 宮部   | 68,600  | 34,300  | 34,300  | 市部    | 176,900   | 86,800  | 90,100  |
| 都城   | 39,600  | 19,100  | 20,500  | 郡部    | 1,446,900 | 698,600 | 748,300 |

## 2. 現在地別婚姻、離婚、

|        | 婚姻件數    | 離婚件數   | 出生        |           | 死亡        |         | 男      | 女      |
|--------|---------|--------|-----------|-----------|-----------|---------|--------|--------|
|        |         |        | 總數        | 男         | 總數        | 男       |        |        |
| 總數     | 492,235 | 49,852 | 2,171,695 | 1,113,954 | 1,058,041 | 114,618 | 62,341 | 51,737 |
| 內地     | 486,058 | 49,282 | 2,121,253 | 1,087,688 | 1,033,565 | 114,138 | 62,080 | 51,521 |
| 1 北海道  | 19,087  | 1,951  | 103,074   | 52,880    | 50,194    | 4,533   | 2,453  | 2,073  |
| 2 青森   | 7,467   | 909    | 39,367    | 20,220    | 19,138    | 1,841   | 992    | 845    |
| 3 岩手   | 7,498   | 798    | 38,157    | 19,617    | 18,540    | 2,316   | 1,247  | 1,069  |
| 4 宮城   | 8,662   | 752    | 43,103    | 21,924    | 21,179    | 2,144   | 1,197  | 936    |
| 5 秋田   | 8,072   | 1,112  | 40,185    | 20,598    | 19,587    | 2,326   | 1,242  | 1,077  |
| 6 山形   | 8,432   | 839    | 40,186    | 20,575    | 19,611    | 1,907   | 1,035  | 867    |
| 7 福島   | 11,692  | 1,019  | 54,202    | 27,746    | 26,456    | 2,986   | 1,625  | 1,355  |
| 8 茨城   | 10,556  | 709    | 50,346    | 25,725    | 24,621    | 3,277   | 1,762  | 1,500  |
| 9 栃木   | 8,237   | 647    | 40,388    | 20,806    | 19,582    | 2,599   | 1,385  | 1,206  |
| 10 群馬  | 8,777   | 679    | 40,172    | 20,729    | 19,443    | 2,464   | 1,334  | 1,126  |
| 11 埼玉  | 10,978  | 786    | 50,606    | 25,728    | 24,878    | 3,358   | 1,836  | 1,515  |
| 12 千葉  | 11,087  | 897    | 49,171    | 25,054    | 24,117    | 2,849   | 1,564  | 1,263  |
| 13 東京  | 34,220  | 3,520  | 164,067   | 80,203    | 79,861    | 9,464   | 5,216  | 4,169  |
| 14 神奈川 | 11,201  | 1,023  | 52,278    | 26,867    | 25,411    | 3,281   | 1,800  | 1,473  |
| 15 新潟  | 16,545  | 2,031  | 70,373    | 35,896    | 34,407    | 3,266   | 1,753  | 1,509  |
| 16 富山  | 7,244   | 778    | 29,041    | 14,868    | 14,173    | 1,144   | 621    | 523    |
| 17 石川  | 6,776   | 729    | 25,520    | 13,053    | 12,467    | 1,286   | 718    | 562    |
| 18 福井  | 5,542   | 672    | 21,132    | 10,900    | 10,232    | 1,015   | 557    | 452    |

|       | 總數      | 男      | 女       |     | 總數      | 男       | 女       |
|-------|---------|--------|---------|-----|---------|---------|---------|
| 鹿兒島市部 | 176,900 | 86,800 | 90,100  | 沖繩縣 | 593,300 | 276,700 | 316,600 |
| 鹿兒島市部 | 67,300  | 32,100 | 35,200  | 市部  | 84,900  | 38,700  | 46,200  |
| 鹿兒島市部 | 90,400  | 42,600 | 47,800  | 市部  | 508,400 | 238,000 | 270,400 |
| 鹿兒島市部 | 133,800 | 63,500 | 70,300  | 市部  | 65,200  | 29,400  | 35,800  |
| 鹿兒島市部 | 129,000 | 61,400 | 67,600  | 市部  | 19,700  | 9,300   | 10,400  |
| 鹿兒島市部 | 162,300 | 78,600 | 83,700  | 市部  | 154,600 | 72,800  | 81,800  |
| 鹿兒島市部 | 102,000 | 50,200 | 51,800  | 市部  | 145,800 | 67,100  | 78,700  |
| 鹿兒島市部 | 44,700  | 22,400 | 22,300  | 市部  | 110,600 | 50,800  | 59,800  |
| 鹿兒島市部 | 160,800 | 79,200 | 81,600  | 市部  | 64,400  | 30,800  | 33,600  |
| 鹿兒島市部 | 111,400 | 55,200 | 56,200  | 市部  | 33,000  | 16,500  | 16,500  |
| 鹿兒島市部 | 177,600 | 88,400 | 89,200  |     |         |         |         |
| 鹿兒島市部 | 59,400  | 29,600 | 29,800  |     |         |         |         |
| 鹿兒島市部 | 208,200 | 95,400 | 112,800 |     |         |         |         |

## 出生、死産及死亡 (昭和八年)

| 產<br>男女不詳 | 死         |         | 亡       |      | 比    |       | 例 (人口千=付) |       |    |   | 順<br>序 |   |   |   |
|-----------|-----------|---------|---------|------|------|-------|-----------|-------|----|---|--------|---|---|---|
|           | 總         | 數       | 男       | 女    | 婚    | 姻     | 離         | 婚     | 出  | 生 |        | 死 | 產 | 死 |
| 540       | 1,219,400 | 633,581 | 585,819 | —    | —    | —     | —         | —     | —  | — | —      | — | — | — |
| 537       | 1,193,987 | 618,496 | 575,491 | 7.23 | 0.73 | 31.55 | 1.70      | 17.76 |    |   |        |   |   |   |
| 7         | 50,934    | 27,327  | 23,607  | 6.37 | 0.65 | 34.88 | 1.51      | 16.99 | 1  |   |        |   |   |   |
| 4         | 18,062    | 9,462   | 8,600   | 8.12 | 0.99 | 42.81 | 2.00      | 19.64 | 2  |   |        |   |   |   |
| 3         | 22,648    | 11,537  | 11,111  | 7.35 | 0.78 | 37.41 | 2.27      | 22.29 | 3  |   |        |   |   |   |
| 8         | 20,912    | 10,806  | 10,106  | 7.21 | 0.63 | 35.88 | 1.78      | 17.41 | 4  |   |        |   |   |   |
| 7         | 20,202    | 10,484  | 9,718   | 7.93 | 1.09 | 39.47 | 2.28      | 19.84 | 5  |   |        |   |   |   |
| 5         | 21,293    | 10,861  | 10,432  | 7.59 | 0.76 | 36.16 | 1.72      | 19.16 | 6  |   |        |   |   |   |
| 6         | 26,380    | 13,608  | 12,772  | 7.54 | 0.66 | 34.97 | 1.93      | 17.02 | 7  |   |        |   |   |   |
| 15        | 27,596    | 14,372  | 13,224  | 6.88 | 0.46 | 32.84 | 2.14      | 18.00 | 8  |   |        |   |   |   |
| 8         | 20,809    | 10,836  | 9,973   | 7.03 | 0.55 | 34.46 | 2.22      | 17.75 | 9  |   |        |   |   |   |
| 4         | 20,163    | 10,306  | 9,857   | 7.16 | 0.55 | 32.77 | 2.01      | 16.45 | 10 |   |        |   |   |   |
| 7         | 28,937    | 14,869  | 14,068  | 7.33 | 0.52 | 33.79 | 2.24      | 19.32 | 11 |   |        |   |   |   |
| 22        | 29,917    | 15,473  | 14,444  | 7.33 | 0.59 | 32.52 | 1.88      | 19.79 | 12 |   |        |   |   |   |
| 79        | 86,141    | 46,139  | 40,002  | 5.75 | 0.59 | 27.55 | 1.59      | 19.47 | 13 |   |        |   |   |   |
| 8         | 28,011    | 14,975  | 13,036  | 6.44 | 0.59 | 30.65 | 1.89      | 16.10 | 14 |   |        |   |   |   |
| 4         | 38,303    | 19,439  | 18,864  | 8.34 | 1.02 | 35.46 | 1.65      | 19.32 | 15 |   |        |   |   |   |
| —         | 17,503    | 8,897   | 8,606   | 9.07 | 0.98 | 36.46 | 1.44      | 21.97 | 16 |   |        |   |   |   |
| 6         | 17,711    | 8,886   | 8,825   | 9.91 | 0.96 | 33.56 | 1.69      | 23.29 | 17 |   |        |   |   |   |
| 6         | 14,716    | 7,273   | 7,443   | 8.80 | 1.07 | 33.54 | 1.61      | 23.36 | 18 |   |        |   |   |   |



|       | 總數        | 男       | 女       |      | 總數        | 男       | 女       |
|-------|-----------|---------|---------|------|-----------|---------|---------|
| 吉上川阿眞 | 66,100    | 32,400  | 33,700  | 大津郡  | 51,300    | 25,700  | 25,600  |
| 備房上哲庭 | 41,600    | 20,700  | 20,900  | 阿武郡  | 72,100    | 37,000  | 35,100  |
| 郡部市市  | 42,500    | 21,300  | 21,200  | 德島縣  | 737,800   | 366,800 | 371,000 |
| 郡部市市  | 53,100    | 27,400  | 25,700  | 市部市市 | 95,500    | 47,400  | 48,100  |
| 郡部市市  | 61,100    | 30,400  | 30,700  | 市部市市 | 642,300   | 319,400 | 322,900 |
| 苦勝英久  | 47,700    | 24,500  | 23,200  | 市部市市 | 95,500    | 47,400  | 48,100  |
| 田田米   | 52,200    | 26,300  | 25,900  | 市部市市 | 51,700    | 26,100  | 25,600  |
| 郡部市市  | 37,800    | 19,200  | 18,600  | 市部市市 | 41,900    | 20,600  | 21,300  |
| 郡部市市  | 44,300    | 22,600  | 21,700  | 市部市市 | 91,300    | 45,700  | 45,600  |
| 廣島縣   | 1,751,800 | 887,300 | 864,000 | 市部市市 | 42,700    | 21,600  | 21,100  |
| 市部市市  | 591,200   | 311,300 | 279,900 | 市部市市 | 44,200    | 21,900  | 22,300  |
| 市部市市  | 1,160,100 | 576,000 | 584,100 | 市部市市 | 114,100   | 56,900  | 57,200  |
| 市部市市  | 295,700   | 151,700 | 144,000 | 市部市市 | 40,700    | 20,000  | 20,700  |
| 市部市市  | 207,100   | 115,700 | 91,400  | 市部市市 | 53,300    | 26,200  | 27,100  |
| 市部市市  | 30,100    | 15,000  | 15,100  | 市部市市 | 89,200    | 44,400  | 44,800  |
| 福安佐安山 | 58,300    | 28,900  | 29,400  | 市部市市 | 73,200    | 36,000  | 37,200  |
| 山藝伯佐縣 | 108,900   | 54,100  | 54,800  | 香川縣  | 753,600   | 381,600 | 377,000 |
| 郡部市市  | 104,600   | 52,900  | 51,700  | 市部市市 | 115,800   | 58,500  | 57,300  |
| 郡部市市  | 59,500    | 29,200  | 30,300  | 市部市市 | 642,800   | 323,100 | 319,700 |
| 郡部市市  | 52,700    | 26,900  | 25,800  | 市部市市 | 80,300    | 43,300  | 43,000  |
| 高賀豐御世 | 57,400    | 28,400  | 29,000  | 市部市市 | 29,500    | 15,200  | 14,300  |
| 田茂田調繼 | 109,600   | 55,300  | 54,300  | 市部市市 | 82,400    | 40,600  | 41,800  |
| 郡部市市  | 117,700   | 58,400  | 59,300  | 市部市市 | 78,300    | 39,800  | 38,500  |
| 郡部市市  | 125,800   | 61,600  | 64,200  | 市部市市 | 48,800    | 24,800  | 24,000  |
| 郡部市市  | 37,500    | 18,800  | 18,700  | 市部市市 | 77,700    | 39,300  | 38,400  |
| 沼深庵神甲 | 90,900    | 44,000  | 46,900  | 市部市市 | 124,400   | 63,200  | 61,200  |
| 隈安品石奴 | 48,200    | 23,700  | 24,500  | 市部市市 | 94,600    | 48,000  | 46,600  |
| 郡部市市  | 67,300    | 32,600  | 34,700  | 三豐郡  | 136,600   | 67,400  | 69,200  |
| 郡部市市  | 29,000    | 14,600  | 14,400  | 愛媛縣  | 1,178,500 | 582,500 | 596,000 |
| 郡部市市  | 19,100    | 9,400   | 9,700   | 市部市市 | 196,400   | 96,000  | 100,400 |
| 雙比三婆  | 61,900    | 30,600  | 31,300  | 市部市市 | 982,100   | 486,500 | 495,600 |
| 郡部市市  | 70,000    | 35,500  | 34,500  | 市部市市 | 88,500    | 44,400  | 44,100  |
| 山口縣   | 1,168,300 | 583,600 | 581,700 | 市部市市 | 52,700    | 24,600  | 28,100  |
| 市部市市  | 267,100   | 136,400 | 130,700 | 市部市市 | 55,200    | 27,000  | 28,200  |
| 市部市市  | 901,200   | 450,200 | 451,000 | 市部市市 | 148,200   | 73,700  | 74,500  |
| 市部市市  | 120,400   | 64,100  | 62,300  | 市部市市 | 118,500   | 58,100  | 60,400  |
| 市部市市  | 76,000    | 39,900  | 36,100  | 市部市市 | 51,100    | 25,500  | 25,600  |
| 市部市市  | 33,500    | 17,500  | 16,000  | 市部市市 | 101,000   | 50,300  | 50,700  |
| 萩大玖熊郡 | 31,200    | 14,900  | 16,300  | 市部市市 | 74,100    | 36,500  | 37,600  |
| 島珂毛濃  | 65,600    | 26,800  | 29,800  | 市部市市 | 41,000    | 20,800  | 20,200  |
| 郡部市市  | 152,400   | 76,800  | 75,600  | 市部市市 | 65,700    | 32,500  | 33,200  |
| 郡部市市  | 76,600    | 37,800  | 38,800  | 市部市市 | 88,400    | 43,600  | 44,800  |
| 郡部市市  | 111,400   | 56,900  | 54,500  | 市部市市 | 102,200   | 49,500  | 52,700  |
| 佐吉厚豐美 | 83,500    | 41,700  | 41,800  | 市部市市 | 58,600    | 29,100  | 29,500  |
| 波敗狹浦  | 80,200    | 39,800  | 40,400  | 市部市市 | 96,400    | 48,300  | 48,100  |
| 郡部市市  | 74,200    | 37,100  | 37,100  | 市部市市 | 36,900    | 18,600  | 18,300  |
| 郡部市市  | 100,500   | 49,400  | 51,100  |      |           |         |         |
| 郡部市市  | 42,400    | 21,200  | 21,200  |      |           |         |         |

|      | 總數        | 男         | 女         |      | 總數        | 男       | 女       |
|------|-----------|-----------|-----------|------|-----------|---------|---------|
| 高知縣  | 742,500   | 369,500   | 373,000   | 佐賀郡  | 92,800    | 46,100  | 46,700  |
| 市部市市 | 107,100   | 52,100    | 55,000    | 市部市市 | 44,600    | 22,100  | 22,500  |
| 市部市市 | 635,400   | 317,400   | 318,000   | 市部市市 | 63,200    | 30,100  | 33,100  |
| 市部市市 | 107,100   | 52,100    | 55,000    | 市部市市 | 58,500    | 28,100  | 30,400  |
| 市部市市 | 89,400    | 45,600    | 43,800    | 市部市市 | 111,100   | 54,700  | 56,400  |
| 市部市市 | 78,200    | 37,700    | 40,500    | 市部市市 | 71,000    | 34,500  | 36,500  |
| 市部市市 | 77,200    | 38,600    | 38,600    | 市部市市 | 106,600   | 52,000  | 54,600  |
| 市部市市 | 38,500    | 20,000    | 18,500    | 市部市市 | 69,700    | 33,800  | 35,900  |
| 市部市市 | 71,300    | 35,600    | 35,700    | 長崎縣  | 1,288,500 | 680,000 | 628,500 |
| 市部市市 | 149,700   | 74,400    | 75,300    | 市部市市 | 367,900   | 197,700 | 170,200 |
| 市部市市 | 131,100   | 65,500    | 65,600    | 市部市市 | 920,600   | 462,300 | 458,300 |
| 福岡縣  | 2,706,300 | 1,371,600 | 1,334,700 | 市部市市 | 217,000   | 109,100 | 107,900 |
| 市部市市 | 1,112,300 | 571,500   | 540,800   | 市部市市 | 150,900   | 88,600  | 62,300  |
| 市部市市 | 1,594,000 | 800,100   | 793,900   | 市部市市 | 177,300   | 91,500  | 85,800  |
| 市部市市 | 282,900   | 142,800   | 140,100   | 市部市市 | 90,900    | 46,100  | 44,800  |
| 市部市市 | 71,700    | 37,200    | 34,500    | 市部市市 | 81,000    | 39,600  | 41,400  |
| 市部市市 | 200,500   | 106,200   | 94,300    | 市部市市 | 177,500   | 86,300  | 91,200  |
| 市部市市 | 62,700    | 33,200    | 29,500    | 市部市市 | 187,000   | 94,000  | 93,000  |
| 市部市市 | 91,600    | 46,000    | 45,600    | 市部市市 | 111,800   | 56,000  | 55,800  |
| 市部市市 | 105,000   | 53,400    | 51,600    | 市部市市 | 40,900    | 20,100  | 20,800  |
| 市部市市 | 101,000   | 52,100    | 48,900    | 市部市市 | 54,200    | 28,700  | 25,500  |
| 市部市市 | 115,300   | 59,400    | 55,900    | 熊本縣  | 1,400,000 | 685,000 | 715,000 |
| 市部市市 | 35,800    | 17,700    | 18,100    | 市部市市 | 186,000   | 91,900  | 94,100  |
| 市部市市 | 45,800    | 23,500    | 22,300    | 市部市市 | 1,214,000 | 593,100 | 620,900 |
| 市部市市 | 113,100   | 57,400    | 55,700    | 市部市市 | 186,000   | 91,900  | 94,100  |
| 市部市市 | 44,000    | 21,800    | 22,200    | 市部市市 | 95,700    | 47,500  | 48,200  |
| 市部市市 | 85,900    | 43,900    | 42,000    | 市部市市 | 45,600    | 22,100  | 23,500  |
| 市部市市 | 95,500    | 49,700    | 45,800    | 市部市市 | 149,100   | 72,200  | 76,900  |
| 市部市市 | 212,500   | 110,500   | 102,000   | 市部市市 | 84,900    | 41,200  | 43,700  |
| 市部市市 | 87,000    | 42,400    | 44,600    | 市部市市 | 90,200    | 43,900  | 46,300  |
| 市部市市 | 52,200    | 25,400    | 26,800    | 市部市市 | 92,000    | 46,100  | 45,900  |
| 市部市市 | 18,300    | 9,000     | 9,300     | 市部市市 | 91,200    | 44,400  | 46,800  |
| 市部市市 | 61,600    | 30,300    | 31,300    | 市部市市 | 78,500    | 37,200  | 41,300  |
| 市部市市 | 57,800    | 27,500    | 30,300    | 市部市市 | 109,300   | 53,000  | 56,300  |
| 市部市市 | 71,600    | 35,200    | 36,400    | 市部市市 | 77,000    | 37,700  | 39,300  |
| 市部市市 | 105,900   | 52,600    | 53,300    | 市部市市 | 118,300   | 59,000  | 59,300  |
| 市部市市 | 127,300   | 62,800    | 64,500    | 市部市市 | 182,200   | 88,800  | 93,400  |
| 市部市市 | 82,000    | 40,300    | 41,700    | 大分縣  | 970,100   | 477,700 | 492,400 |
| 市部市市 | 53,400    | 26,200    | 27,200    | 市部市市 | 137,700   | 67,700  | 70,000  |
| 市部市市 | 46,500    | 26,200    | 20,300    | 市部市市 | 832,400   | 410,000 | 422,400 |
| 市部市市 | 151,000   | 76,000    | 75,000    | 市部市市 | 60,400    | 30,600  | 29,800  |
| 市部市市 | 65,600    | 32,700    | 32,900    | 市部市市 | 47,500    | 22,500  | 25,000  |
| 市部市市 | 62,800    | 30,200    | 32,600    | 市部市市 | 29,800    | 14,600  | 15,200  |
| 佐賀縣  | 696,900   | 339,400   | 357,500   | 市部市市 | 42,300    | 20,400  | 21,900  |
| 市部市市 | 79,400    | 38,000    | 41,400    | 市部市市 | 62,300    | 30,200  | 32,100  |
| 市部市市 | 617,500   | 301,400   | 316,100   | 市部市市 | 71,500    | 34,900  | 36,600  |
| 市部市市 | 49,400    | 23,700    | 25,700    | 市部市市 | 97,300    | 47,900  | 49,400  |
| 市部市市 | 30,000    | 14,300    | 15,700    | 市部市市 | 104,900   | 50,900  | 54,000  |

|      | 總數        | 男       | 女       |      | 總數        | 男         | 女         |
|------|-----------|---------|---------|------|-----------|-----------|-----------|
| 安濃郡  | 29,200    | 14,700  | 14,500  | 加佐郡  | 88,200    | 43,400    | 44,800    |
| 濃志郡  | 95,000    | 47,800  | 47,200  | 與謝郡  | 63,100    | 30,600    | 32,500    |
| 飯南郡  | 60,600    | 30,800  | 29,800  | 中野郡  | 23,300    | 11,800    | 11,500    |
| 多氣郡  | 48,200    | 24,300  | 23,900  | 竹野郡  | 33,500    | 16,800    | 16,700    |
| 度會郡  | 107,600   | 52,500  | 55,100  | 熊野郡  | 16,900    | 8,500     | 8,400     |
| 阿山郡  | 73,700    | 35,800  | 37,900  | 大阪府  | 3,921,800 | 2,045,700 | 1,876,100 |
| 名賀郡  | 50,200    | 25,300  | 24,900  | 市部   | 2,889,400 | 1,529,600 | 1,359,800 |
| 志摩郡  | 72,700    | 34,600  | 38,100  | 市部   | 1,032,400 | 516,100   | 516,300   |
| 北牟婁郡 | 49,500    | 25,300  | 24,200  | 大阪府  | 2,722,700 | 1,445,000 | 1,277,700 |
| 南牟婁郡 | 56,300    | 27,800  | 28,500  | 北花區  | 230,300   | 123,300   | 107,000   |
| 滋賀縣  | 714,800   | 349,700 | 365,100 | 此花區  | 201,200   | 107,400   | 93,800    |
| 市部   | 66,600    | 32,300  | 34,300  | 東西區  | 161,300   | 95,200    | 66,100    |
| 津賀太郡 | 618,200   | 317,400 | 330,800 | 西港區  | 122,800   | 65,800    | 57,000    |
| 大津郡  | 66,600    | 32,300  | 34,300  | 大正區  | 308,400   | 165,900   | 142,500   |
| 栗太郡  | 34,700    | 17,000  | 17,700  | 天王寺區 | 118,500   | 65,900    | 52,600    |
| 野洲郡  | 56,000    | 27,900  | 28,100  | 南區   | 117,000   | 59,900    | 57,100    |
| 甲賀郡  | 43,400    | 21,500  | 21,900  | 浪速區  | 118,500   | 61,600    | 56,900    |
| 蒲生郡  | 73,300    | 36,200  | 37,100  | 西淀川區 | 140,500   | 75,900    | 64,600    |
| 神崎郡  | 94,900    | 45,400  | 49,400  | 東淀川區 | 166,000   | 87,600    | 78,400    |
| 愛知郡  | 38,000    | 18,500  | 19,500  | 東成區  | 201,700   | 105,900   | 95,800    |
|      | 44,800    | 21,600  | 23,200  | 旭區   | 273,900   | 145,100   | 128,800   |
| 大阪府  | 71,300    | 34,300  | 37,000  | 西吉區  | 132,200   | 69,100    | 63,100    |
| 上田郡  | 80,400    | 39,100  | 41,300  | 西成區  | 238,500   | 116,000   | 122,500   |
| 東淺井郡 | 30,000    | 17,900  | 18,100  | 堺市   | 191,900   | 100,400   | 91,500    |
| 伊香島郡 | 30,200    | 15,400  | 14,800  | 岸和田市 | 129,200   | 66,400    | 62,800    |
| 高島郡  | 45,300    | 22,600  | 22,700  | 三島郡  | 37,500    | 18,200    | 19,300    |
| 京都府  | 1,663,200 | 852,000 | 817,200 | 豐能郡  | 136,700   | 68,000    | 68,700    |
| 市部   | 1,052,500 | 546,400 | 506,100 | 北郡   | 109,200   | 54,300    | 54,900    |
| 郡都   | 616,700   | 305,600 | 311,100 | 泉南郡  | 151,800   | 75,100    | 76,700    |
| 京都市  | 1,052,500 | 546,400 | 506,100 | 南河內郡 | 157,200   | 75,800    | 81,400    |
| 上京區  | 238,800   | 120,900 | 117,900 | 中河內郡 | 137,100   | 69,600    | 67,500    |
| 左京區  | 120,900   | 63,400  | 57,500  | 北河內郡 | 222,900   | 114,000   | 108,900   |
| 中京區  | 182,000   | 100,100 | 81,900  | 兵庫縣  | 117,500   | 59,300    | 58,200    |
| 東山京區 | 117,200   | 56,000  | 61,200  | 市部   | 2,798,800 | 1,407,300 | 1,391,500 |
| 下京區  | 232,000   | 123,100 | 108,900 | 市部   | 1,108,500 | 565,200   | 543,300   |
| 右京區  | 74,700    | 39,300  | 35,400  | 神戶市  | 1,690,100 | 842,100   | 848,000   |
| 伏見區  | 86,900    | 43,600  | 43,300  | 灘區   | 853,800   | 438,100   | 415,700   |
| 愛宕郡  | 11,100    | 5,700   | 5,400   | 葺合區  | 106,500   | 53,400    | 53,100    |
| 葛城郡  | 1,400     | 700     | 700     | 神戶區  | 117,000   | 60,800    | 56,200    |
| 宇治郡  | 26,700    | 13,700  | 13,000  | 神戶區  | 82,100    | 43,200    | 38,900    |
| 宇治郡  | 7,700     | 4,000   | 3,700   | 湊區   | 62,600    | 31,000    | 31,600    |
| 宇治郡  | 32,500    | 16,400  | 16,100  | 湊區   | 48,300    | 24,600    | 23,700    |
| 喜樂郡  | 41,200    | 20,700  | 20,500  | 兵庫區  | 138,200   | 72,400    | 65,800    |
| 桑田郡  | 44,100    | 22,200  | 22,200  | 林田區  | 208,400   | 108,000   | 100,400   |
| 南桑田郡 | 36,100    | 18,100  | 18,000  | 須磨區  | 99,700    | 44,700    | 46,000    |
| 北桑田郡 | 18,600    | 9,700   | 8,900   | 姫路市  | 77,000    | 38,600    | 38,400    |
| 船井郡  | 51,000    | 25,200  | 25,800  | 尼崎市  | 54,700    | 28,700    | 26,000    |
| 天田郡  | 70,800    | 35,000  | 35,800  | 明石市  | 40,300    | 19,500    | 20,800    |
| 何鹿郡  | 50,500    | 23,400  | 27,100  | 西宮市  | 82,700    | 40,300    | 42,400    |

|     | 總數      | 男       | 女       |      | 總數        | 男       | 女       |
|-----|---------|---------|---------|------|-----------|---------|---------|
| 武庫郡 | 160,300 | 79,200  | 81,100  | 日高郡  | 104,100   | 51,700  | 52,400  |
| 庫邊郡 | 134,100 | 65,300  | 68,800  | 西牟婁郡 | 107,400   | 53,300  | 54,100  |
| 有馬郡 | 45,600  | 23,000  | 22,600  | 東牟婁郡 | 63,600    | 31,500  | 32,100  |
| 明美郡 | 68,000  | 34,600  | 33,400  | 鳥取縣  | 502,800   | 245,800 | 257,000 |
|     | 43,200  | 22,200  | 21,000  | 市部   | 80,300    | 38,800  | 41,500  |
| 加多郡 | 55,000  | 27,500  | 27,500  | 市部   | 422,500   | 207,000 | 215,500 |
| 多加郡 | 44,600  | 21,500  | 23,100  | 鳥取市  | 43,800    | 21,500  | 22,300  |
| 加加郡 | 42,300  | 21,300  | 21,000  | 米子市  | 36,500    | 17,300  | 19,200  |
| 加加郡 | 86,300  | 42,900  | 43,400  | 岩美市  | 39,500    | 20,300  | 19,200  |
| 加加郡 | 58,000  | 28,600  | 29,400  | 八頭郡  | 67,500    | 33,600  | 33,900  |
| 加加郡 | 105,800 | 52,100  | 53,700  | 氣高郡  | 53,300    | 25,900  | 27,400  |
| 加加郡 | 56,500  | 28,400  | 28,100  | 西伯郡  | 117,700   | 57,200  | 60,500  |
| 加加郡 | 89,300  | 44,600  | 44,700  | 日野郡  | 106,400   | 51,000  | 55,400  |
| 加加郡 | 68,400  | 34,600  | 33,800  |      | 38,100    | 19,000  | 19,100  |
| 加加郡 | 29,100  | 14,700  | 14,400  | 島根縣  | 753,100   | 376,000 | 377,100 |
| 加加郡 | 56,400  | 28,200  | 28,200  | 市部   | 47,000    | 23,800  | 23,200  |
| 加加郡 | 82,300  | 40,800  | 41,500  | 松江市  | 708,100   | 352,200 | 355,900 |
| 加加郡 | 23,800  | 12,000  | 11,800  | 江東義  | 47,000    | 23,800  | 23,200  |
| 加加郡 | 50,300  | 25,000  | 25,300  | 八能郡  | 89,300    | 44,800  | 44,500  |
| 加加郡 | 35,300  | 17,800  | 17,500  | 仁多郡  | 43,500    | 21,700  | 21,800  |
| 加加郡 | 44,900  | 22,200  | 22,700  | 大原郡  | 24,500    | 12,200  | 12,300  |
| 加加郡 | 72,900  | 36,600  | 36,300  | 石川郡  | 34,600    | 17,800  | 16,800  |
| 加加郡 | 50,700  | 26,000  | 24,700  | 飯饗郡  | 34,700    | 17,900  | 16,800  |
| 加加郡 | 124,800 | 61,700  | 63,100  | 安濃郡  | 139,600   | 67,800  | 71,800  |
| 加加郡 | 62,200  | 31,300  | 30,900  | 通邑郡  | 26,100    | 13,200  | 12,900  |
| 加加郡 | 606,100 | 300,000 | 306,100 | 摩智郡  | 31,700    | 14,900  | 16,800  |
| 加加郡 | 55,900  | 27,100  | 28,800  | 賀茂郡  | 56,700    | 29,200  | 27,500  |
| 加加郡 | 550,200 | 272,900 | 277,300 | 美濃郡  | 102,700   | 50,600  | 52,100  |
| 加加郡 | 55,900  | 27,100  | 28,800  | 足郡   | 55,900    | 28,200  | 27,700  |
| 加加郡 | 38,500  | 19,300  | 19,200  | 鹿島   | 33,000    | 17,300  | 15,700  |
| 加加郡 | 83,200  | 41,000  | 42,200  | 隱岐   | 33,800    | 16,600  | 17,200  |
| 加加郡 | 40,600  | 20,800  | 19,800  | 岡山縣  | 1,320,100 | 657,300 | 662,800 |
| 加加郡 | 77,300  | 37,900  | 39,400  | 市部   | 228,600   | 113,000 | 115,600 |
| 加加郡 | 39,500  | 19,900  | 19,600  | 市部   | 1,091,500 | 544,300 | 547,200 |
| 加加郡 | 45,000  | 21,800  | 23,200  | 岡倉市  | 160,500   | 80,500  | 80,000  |
| 加加郡 | 70,900  | 35,000  | 35,900  | 津島市  | 31,900    | 15,500  | 16,400  |
| 加加郡 | 31,000  | 14,800  | 16,200  | 津島市  | 36,200    | 17,000  | 19,200  |
| 加加郡 | 27,200  | 13,300  | 13,900  | 御津郡  | 50,600    | 25,100  | 25,500  |
| 加加郡 | 97,000  | 49,100  | 47,900  | 赤和郡  | 45,700    | 22,800  | 22,900  |
| 加加郡 | 865,100 | 433,200 | 431,900 | 久遠郡  | 48,400    | 24,300  | 24,100  |
| 加加郡 | 232,200 | 118,400 | 113,800 | 上道郡  | 48,800    | 24,600  | 24,200  |
| 加加郡 | 632,900 | 314,800 | 318,100 | 兒島郡  | 43,100    | 21,200  | 21,900  |
| 加加郡 | 171,400 | 88,500  | 82,900  | 津島郡  | 118,700   | 58,900  | 59,800  |
| 加加郡 | 29,500  | 14,300  | 15,200  | 窪郡   | 63,300    | 31,300  | 32,000  |
| 加加郡 | 31,300  | 15,600  | 15,700  | 淺口郡  | 100,300   | 49,300  | 51,000  |
| 加加郡 | 94,400  | 47,200  | 47,200  | 小田郡  | 86,700    | 42,700  | 44,000  |
| 加加郡 | 99,400  | 49,400  | 50,000  | 後月郡  | 39,500    | 19,300  | 20,200  |
| 加加郡 | 81,400  | 40,400  | 41,000  |      |           |         |         |
| 加加郡 | 82,600  | 41,300  | 41,300  |      |           |         |         |



|       | 總數        | 男       | 女         |      | 總數        | 男       | 女       |
|-------|-----------|---------|-----------|------|-----------|---------|---------|
| 三浦郡   | 93,800    | 47,800  | 46,000    | 金澤市  | 165,200   | 82,200  | 83,000  |
| 鎌倉郡   | 90,600    | 44,200  | 46,400    | 江沼郡  | 55,600    | 26,200  | 29,400  |
| 高座郡   | 137,000   | 68,700  | 68,300    | 美川郡  | 103,900   | 50,700  | 53,200  |
| 中柄上郡  | 103,000   | 51,400  | 51,600    | 石川郡  | 89,600    | 43,100  | 46,500  |
| 足柄下郡  | 54,100    | 26,800  | 27,300    | 河北郡  | 65,500    | 31,600  | 33,900  |
| 足柄中郡  | 100,400   | 49,400  | 51,000    | 羽咋郡  | 68,400    | 33,100  | 35,300  |
| 津久井郡  | 43,600    | 22,200  | 21,400    | 鹿島郡  | 82,800    | 40,100  | 42,700  |
| 新瀉縣   | 30,700    | 15,400  | 15,300    | 鳳洲郡  | 89,000    | 43,700  | 45,300  |
|       | 1,999,700 | 988,800 | 1,010,900 | 珠洲郡  | 41,600    | 19,900  | 21,700  |
| 市部    | 263,900   | 130,600 | 133,300   | 福井縣  | 634,200   | 313,600 | 320,600 |
| 市部    | 1,735,800 | 858,200 | 877,600   | 市部   | 71,400    | 36,000  | 35,400  |
| 新潟市   | 137,900   | 68,100  | 69,800    | 市部   | 562,800   | 277,600 | 285,200 |
| 長岡市   | 61,600    | 29,900  | 31,700    | 福井市  | 71,400    | 36,000  | 35,400  |
| 高岡市   | 31,000    | 15,600  | 15,400    | 足吉郡  | 40,500    | 19,300  | 21,200  |
| 三條市   | 33,400    | 17,000  | 16,400    | 坂井郡  | 44,500    | 21,900  | 22,600  |
| 北蒲原郡  | 211,900   | 104,000 | 107,900   | 大野郡  | 100,700   | 49,000  | 51,700  |
| 中蒲原郡  | 194,100   | 95,000  | 99,100    | 今立郡  | 77,900    | 38,500  | 39,400  |
| 南蒲原郡  | 146,000   | 71,200  | 74,800    | 丹生郡  | 61,700    | 29,800  | 31,900  |
| 東蒲原郡  | 116,700   | 57,300  | 59,400    | 南條郡  | 59,500    | 29,900  | 29,600  |
| 三島郡   | 23,800    | 14,700  | 14,100    | 敦賀郡  | 45,900    | 22,800  | 23,100  |
| 古志郡   | 92,600    | 46,000  | 46,600    | 賀方郡  | 44,400    | 23,100  | 21,300  |
| 北魚沼郡  | 93,600    | 47,000  | 46,600    | 三遠郡  | 23,000    | 11,400  | 11,600  |
| 南魚沼郡  | 74,000    | 36,800  | 37,200    | 大飯郡  | 46,600    | 23,000  | 23,600  |
| 中魚沼郡  | 69,200    | 35,700  | 33,500    | 山梨縣  | 18,100    | 8,900   | 9,200   |
| 刈羽郡   | 86,900    | 44,100  | 42,800    | 市部   | 655,200   | 327,300 | 327,900 |
| 中頸城郡  | 112,900   | 58,700  | 61,200    | 市部   | 88,300    | 43,100  | 45,200  |
| 東頸城郡  | 55,400    | 27,600  | 27,800    | 甲府市  | 536,900   | 284,200 | 282,700 |
| 中西頸城郡 | 182,700   | 90,300  | 92,400    | 東山梨郡 | 88,300    | 43,100  | 45,200  |
| 岩船郡   | 72,100    | 37,100  | 35,000    | 西山梨郡 | 79,500    | 39,500  | 40,000  |
| 佐渡郡   | 85,900    | 41,400  | 44,500    | 東八代郡 | 27,300    | 14,500  | 12,800  |
| 富山縣   | 106,000   | 51,300  | 54,700    | 西八代郡 | 57,900    | 29,400  | 28,500  |
|       | 892,600   | 392,300 | 410,300   | 南巨摩郡 | 44,300    | 22,100  | 22,200  |
| 市部    | 135,100   | 66,500  | 68,600    | 中巨摩郡 | 55,100    | 27,400  | 27,700  |
| 市部    | 667,500   | 325,800 | 341,700   | 北巨摩郡 | 94,200    | 46,300  | 47,900  |
| 富山市   | 78,100    | 38,500  | 39,600    | 南都留郡 | 79,500    | 40,000  | 39,500  |
| 高岡市   | 57,000    | 28,000  | 29,000    | 北都留郡 | 74,000    | 36,800  | 37,200  |
| 上新川郡  | 77,000    | 37,700  | 39,300    | 長野縣  | 55,100    | 28,200  | 26,900  |
| 中新川郡  | 79,800    | 38,800  | 41,000    | 市部   | 1,787,000 | 862,900 | 924,100 |
| 下新川郡  | 107,800   | 51,500  | 56,300    | 市部   | 196,100   | 96,600  | 99,500  |
| 婦負郡   | 70,900    | 35,500  | 35,400    | 市部   | 1,590,900 | 766,300 | 824,600 |
| 水見郡   | 95,900    | 46,600  | 49,300    | 長野市  | 79,800    | 40,300  | 39,500  |
| 東礪波郡  | 58,600    | 28,800  | 29,800    | 松本市  | 79,100    | 38,100  | 41,000  |
| 西礪波郡  | 89,100    | 44,000  | 45,100    | 上野田市 | 37,200    | 18,200  | 19,000  |
| 石川縣   | 88,400    | 42,900  | 45,500    | 南佐久郡 | 79,100    | 39,400  | 39,700  |
|       | 761,600   | 370,600 | 391,000   | 北佐久郡 | 106,800   | 53,400  | 53,400  |
| 市部    | 165,200   | 82,200  | 83,000    | 小縣郡  | 123,200   | 58,900  | 64,300  |
| 市部    | 596,400   | 288,400 | 308,000   | 諏訪郡  | 202,900   | 81,700  | 121,200 |
|       |           |         |           | 上伊那郡 | 158,900   | 77,500  | 81,400  |

|      | 總數        | 男       | 女       |       | 總數        | 男         | 女         |
|------|-----------|---------|---------|-------|-----------|-----------|-----------|
| 下伊那郡 | 197,100   | 97,800  | 99,300  | 榛原郡   | 104,000   | 51,400    | 52,600    |
| 西摩郡  | 59,900    | 30,600  | 29,300  | 小笠原郡  | 121,600   | 60,800    | 60,800    |
| 東南部  | 136,600   | 67,500  | 69,100  | 周智郡   | 51,500    | 26,100    | 25,400    |
| 安曇郡  | 59,700    | 29,100  | 30,600  | 磐田郡   | 150,700   | 76,000    | 74,700    |
| 更埴郡  | 62,100    | 30,500  | 31,600  | 濱名郡   | 195,100   | 96,100    | 99,000    |
| 上水内郡 | 80,600    | 40,500  | 40,100  | 引佐郡   | 51,600    | 26,000    | 25,600    |
| 下高井郡 | 56,000    | 27,100  | 28,900  | 愛知縣   | 2,764,400 | 1,378,900 | 1,385,500 |
| 上井内郡 | 61,200    | 29,000  | 32,200  | 市部    | 1,333,500 | 675,600   | 657,900   |
| 高井郡  | 65,600    | 32,400  | 33,200  | 市部    | 1,430,900 | 703,300   | 727,600   |
| 水内郡  | 106,400   | 53,500  | 52,900  | 名古屋區  | 1,017,700 | 526,200   | 491,500   |
| 岐阜縣  | 34,800    | 17,400  | 17,400  | 東西區   | 261,200   | 132,900   | 128,300   |
|      | 1,214,800 | 609,500 | 605,300 | 中區    | 180,300   | 94,200    | 86,100    |
| 市部   | 157,500   | 75,900  | 81,600  | 豐橋市   | 329,600   | 171,400   | 158,200   |
| 市部   | 1,057,300 | 533,600 | 523,700 | 豐橋市   | 246,600   | 127,700   | 118,900   |
| 岐阜市  | 116,700   | 56,000  | 60,700  | 岡宮市   | 154,800   | 70,100    | 84,700    |
| 大垣市  | 40,800    | 19,900  | 20,900  | 一宮市   | 70,700    | 34,400    | 36,300    |
| 羽島郡  | 100,900   | 52,100  | 48,800  | 瀬戸市   | 48,200    | 22,900    | 25,300    |
| 津島郡  | 56,800    | 28,000  | 28,800  | 愛知市   | 42,100    | 22,000    | 20,100    |
| 老破郡  | 26,200    | 13,000  | 13,200  | 春日井市  | 60,600    | 30,600    | 30,000    |
| 八幡郡  | 32,500    | 16,100  | 16,400  | 西春日井市 | 89,100    | 45,200    | 43,900    |
| 不安郡  | 35,400    | 17,600  | 17,800  | 丹羽郡   | 63,400    | 31,400    | 32,000    |
|      | 45,500    | 22,900  | 22,600  |       | 92,600    | 45,100    | 47,500    |
| 掛本郡  | 55,500    | 27,600  | 27,900  | 葉栗郡   | 34,900    | 16,300    | 18,600    |
| 武庫郡  | 49,800    | 25,200  | 24,600  | 中島郡   | 102,700   | 49,100    | 53,600    |
| 上郡   | 29,700    | 15,300  | 14,400  | 海部郡   | 128,400   | 62,300    | 66,100    |
|      | 95,700    | 47,400  | 48,300  | 知多郡   | 200,800   | 99,100    | 101,700   |
| 加茂郡  | 58,300    | 30,000  | 28,300  | 碧海郡   | 174,800   | 85,600    | 89,200    |
| 茂原郡  | 84,000    | 42,200  | 41,800  | 幡豆郡   | 94,100    | 45,900    | 48,200    |
| 兒岐郡  | 38,800    | 19,400  | 19,400  | 額田郡   | 41,700    | 20,600    | 21,100    |
| 那郡   | 91,700    | 46,300  | 45,400  | 西加茂郡  | 52,900    | 26,300    | 26,600    |
| 那郡   | 113,800   | 56,100  | 57,700  | 東加茂郡  | 31,400    | 15,900    | 15,500    |
| 那郡   | 38,200    | 20,100  | 18,100  | 北設樂郡  | 36,800    | 19,100    | 17,700    |
| 大野郡  | 56,900    | 29,400  | 27,500  | 南設樂郡  | 34,200    | 17,300    | 16,900    |
| 吉城郡  | 47,600    | 24,900  | 22,700  | 寶飯郡   | 95,400    | 46,200    | 49,200    |
| 靜岡縣  | 1,898,400 | 952,400 | 946,000 | 渥美郡   | 69,700    | 33,800    | 35,900    |
| 市部   | 424,600   | 214,900 | 209,700 | 八名郡   | 27,400    | 13,500    | 13,900    |
| 市部   | 1,473,800 | 737,500 | 736,300 | 三重縣   | 1,196,900 | 591,900   | 605,000   |
| 岡部市  | 189,400   | 96,600  | 92,800  | 市部    | 212,100   | 105,000   | 107,100   |
| 松津市  | 123,300   | 62,300  | 61,000  | 市部    | 984,800   | 486,900   | 497,900   |
| 市    | 48,800    | 23,700  | 25,100  | 津市    | 65,600    | 32,300    | 33,300    |
| 清水市  | 63,100    | 32,300  | 30,800  | 四日市市  | 55,400    | 28,200    | 27,200    |
| 寶田郡  | 82,200    | 40,500  | 41,700  | 宇治山田市 | 56,100    | 27,600    | 28,500    |
| 東郡   | 170,600   | 86,000  | 84,600  | 松坂市   | 35,000    | 16,900    | 18,100    |
| 富郡   | 122,900   | 60,900  | 62,000  | 桑名郡   | 64,900    | 31,600    | 33,300    |
|      | 133,700   | 66,100  | 67,600  | 員辨郡   | 45,900    | 23,700    | 22,200    |
| 庵原郡  | 80,800    | 40,700  | 40,100  | 三鈴郡   | 102,900   | 49,500    | 52,800    |
| 安倍郡  | 37,200    | 19,200  | 18,000  | 河藝郡   | 59,800    | 28,900    | 30,900    |
| 志太郡  | 171,900   | 87,700  | 84,200  |       | 68,900    | 34,300    | 34,600    |

|       | 總數        | 男       | 女       | 人口   | 總數        | 男       | 女       |
|-------|-----------|---------|---------|------|-----------|---------|---------|
| 秋田縣   | 60,500    | 30,400  | 30,100  | 雄物川郡 | 65,200    | 31,700  | 33,500  |
| 鹿角市   | 59,500    | 29,500  | 30,000  | 雄物川郡 | 109,200   | 53,200  | 56,000  |
| 北秋田郡  | 131,300   | 66,400  | 64,900  | 茨城縣  | 1,549,200 | 786,100 | 783,100 |
| 本庄市   | 105,800   | 51,600  | 54,200  | 市部   | 66,100    | 33,200  | 32,900  |
| 山形縣   | 137,200   | 67,800  | 69,400  | 市部   | 1,483,100 | 732,900 | 750,200 |
| 河邊郡   | 41,900    | 20,900  | 21,000  | 市部   | 66,100    | 33,200  | 32,900  |
| 山形縣   | 118,400   | 58,300  | 60,100  | 市部   | 122,600   | 60,800  | 61,800  |
| 仙北郡   | 161,200   | 81,200  | 80,000  | 市部   | 75,200    | 37,100  | 38,100  |
| 鹿角郡   | 115,800   | 58,500  | 57,300  | 那珂郡  | 129,000   | 63,300  | 65,700  |
| 雄勝郡   | 96,900    | 49,200  | 47,700  | 那珂郡  | 125,400   | 61,600  | 63,800  |
| 山形縣   | 1,121,900 | 553,100 | 568,800 | 那珂郡  | 128,300   | 63,500  | 64,800  |
| 市部    | 185,500   | 90,400  | 95,100  | 那珂郡  | 87,900    | 43,400  | 44,500  |
| 市部    | 936,400   | 462,700 | 473,700 | 那珂郡  | 60,500    | 29,900  | 30,600  |
| 山形縣   | 72,200    | 36,300  | 35,900  | 那珂郡  | 112,500   | 56,100  | 56,400  |
| 米澤市   | 44,800    | 21,800  | 23,000  | 那珂郡  | 145,900   | 71,600  | 74,300  |
| 鶴岡市   | 36,300    | 16,900  | 19,400  | 那珂郡  | 85,700    | 42,500  | 43,200  |
| 酒田市   | 32,200    | 15,400  | 16,800  | 那珂郡  | 129,300   | 64,300  | 65,000  |
| 南村山郡  | 68,700    | 33,400  | 35,300  | 那珂郡  | 109,600   | 54,400  | 55,200  |
| 東村山郡  | 101,600   | 49,900  | 51,700  | 那珂郡  | 119,400   | 58,800  | 60,600  |
| 西北村山郡 | 104,400   | 52,000  | 52,400  | 那珂郡  | 51,800    | 25,600  | 26,200  |
| 北村山郡  | 109,800   | 54,600  | 55,200  | 栃木縣  | 1,182,500 | 594,000 | 588,500 |
| 最上郡   | 99,100    | 49,600  | 49,500  | 市部   | 133,100   | 65,200  | 67,900  |
| 南陽郡   | 34,500    | 17,500  | 17,000  | 市部   | 1,049,400 | 518,800 | 530,600 |
| 西陽郡   | 103,000   | 50,000  | 53,000  | 市部   | 85,600    | 42,400  | 43,200  |
| 東陽郡   | 80,400    | 40,600  | 39,800  | 市部   | 47,500    | 22,800  | 24,700  |
| 川口郡   | 95,200    | 47,200  | 48,000  | 市部   | 118,200   | 60,400  | 57,800  |
| 西田川郡  | 62,300    | 29,500  | 32,800  | 上野郡  | 150,400   | 74,500  | 75,900  |
| 飽海郡   | 77,400    | 38,400  | 39,000  | 上野郡  | 122,900   | 60,800  | 62,100  |
| 福島縣   | 1,564,200 | 767,600 | 793,600 | 上野郡  | 217,000   | 107,100 | 109,900 |
| 市部    | 152,200   | 74,200  | 78,000  | 上野郡  | 96,400    | 47,300  | 49,100  |
| 市部    | 1,412,000 | 693,400 | 718,600 | 上野郡  | 181,700   | 89,300  | 92,400  |
| 福島縣   | 49,100    | 23,700  | 25,400  | 安藤郡  | 88,800    | 43,500  | 45,300  |
| 福島市   | 45,100    | 22,900  | 22,200  | 安藤郡  | 74,000    | 35,900  | 38,100  |
| 若松市   | 58,000    | 27,600  | 30,400  | 群馬縣  | 1,239,500 | 606,700 | 632,800 |
| 信夫郡   | 84,500    | 42,300  | 42,200  | 市部   | 224,600   | 108,000 | 116,600 |
| 伊達郡   | 133,400   | 65,700  | 67,700  | 市部   | 1,014,900 | 498,700 | 516,200 |
| 安達郡   | 109,100   | 54,000  | 55,100  | 市部   | 93,900    | 43,700  | 45,200  |
| 安房郡   | 52,000    | 25,700  | 26,300  | 市部   | 63,700    | 32,000  | 31,700  |
| 安岩郡   | 60,400    | 29,400  | 31,000  | 市部   | 67,000    | 32,300  | 34,700  |
| 南會津郡  | 45,600    | 22,700  | 22,900  | 勢多郡  | 127,600   | 63,500  | 64,100  |
| 北會津郡  | 41,700    | 19,900  | 21,800  | 勢多郡  | 153,900   | 75,300  | 78,600  |
| 耶麻郡   | 96,500    | 46,600  | 49,900  | 勢多郡  | 84,000    | 40,700  | 43,300  |
| 耶麻郡   | 55,600    | 26,800  | 28,800  | 勢多郡  | 88,600    | 43,500  | 45,100  |
| 大沼郡   | 50,100    | 24,700  | 25,400  | 勢多郡  | 69,600    | 34,100  | 35,500  |
| 東白川郡  | 51,600    | 25,400  | 26,200  | 吾妻郡  | 65,600    | 32,600  | 33,000  |
| 西白河郡  | 74,600    | 36,200  | 38,400  | 吾妻郡  | 85,000    | 42,700  | 42,300  |
| 石川郡   | 50,500    | 24,800  | 25,700  | 吾妻郡  | 116,100   | 56,700  | 59,400  |
| 石川郡   | 114,400   | 56,000  | 58,400  |      |           |         |         |
| 石川郡   | 217,600   | 108,300 | 109,300 |      |           |         |         |

|     | 總數        | 男         | 女         |      | 總數        | 男       | 女       |
|-----|-----------|-----------|-----------|------|-----------|---------|---------|
| 新田郡 | 76,200    | 36,600    | 39,600    | 四谷區  | 75,100    | 37,500  | 37,600  |
| 田代郡 | 51,900    | 25,400    | 26,500    | 小石川區 | 128,500   | 67,900  | 60,600  |
| 新田縣 | 96,400    | 47,600    | 48,800    | 小石川區 | 150,600   | 77,900  | 72,700  |
| 市部  | 1,510,800 | 748,100   | 762,700   | 本郷區  | 138,100   | 72,300  | 65,800  |
| 市部  | 166,300   | 83,300    | 83,000    | 下谷區  | 175,000   | 95,200  | 79,800  |
| 市部  | 1,344,500 | 664,800   | 679,700   | 淺草區  | 249,300   | 133,900 | 115,400 |
| 市部  | 36,000    | 17,900    | 18,100    | 本所區  | 257,900   | 143,800 | 114,100 |
| 市部  | 38,400    | 17,500    | 20,900    | 深川區  | 189,800   | 102,200 | 87,600  |
| 市部  | 47,200    | 24,800    | 22,400    | 品川區  | 194,800   | 101,000 | 93,800  |
| 市部  | 44,700    | 23,100    | 21,600    | 目黒區  | 144,100   | 75,300  | 68,800  |
| 市部  | 257,900   | 128,000   | 129,900   | 荏原區  | 179,700   | 92,700  | 87,000  |
| 市部  | 240,700   | 119,800   | 120,900   | 大森區  | 189,400   | 95,400  | 94,000  |
| 市部  | 101,400   | 50,200    | 51,200    | 蒲田區  | 130,300   | 66,600  | 63,700  |
| 市部  | 116,000   | 57,200    | 58,800    | 世田谷區 | 176,900   | 92,700  | 84,200  |
| 市部  | 84,700    | 39,900    | 44,800    | 澁谷區  | 231,600   | 117,700 | 113,900 |
| 市部  | 147,200   | 72,300    | 74,900    | 澁谷區  | 168,600   | 88,000  | 80,600  |
| 市部  | 159,600   | 78,600    | 81,000    | 中野區  | 172,900   | 91,200  | 81,700  |
| 市部  | 146,800   | 73,900    | 72,900    | 杉並區  | 189,000   | 96,300  | 92,700  |
| 市部  | 90,200    | 44,900    | 45,300    | 豐島區  | 267,300   | 139,300 | 128,000 |
| 千葉縣 | 1,526,400 | 759,800   | 766,600   | 澁谷區  | 115,400   | 59,900  | 55,500  |
| 市部  | 100,800   | 49,500    | 51,300    | 荒川區  | 330,000   | 174,900 | 155,100 |
| 市部  | 1,425,600 | 710,300   | 715,300   | 板橋區  | 159,800   | 82,300  | 77,500  |
| 市部  | 54,900    | 27,100    | 27,800    | 足立區  | 139,200   | 72,400  | 66,800  |
| 市部  | 45,900    | 22,400    | 23,500    | 向島區  | 157,900   | 81,100  | 76,800  |
| 市部  | 163,600   | 80,400    | 83,200    | 城東區  | 183,400   | 94,500  | 88,900  |
| 市部  | 91,300    | 44,700    | 46,600    | 葛飾區  | 166,700   | 87,500  | 79,200  |
| 市部  | 134,100   | 66,300    | 67,800    | 葛飾區  | 112,300   | 57,600  | 54,700  |
| 市部  | 90,600    | 45,000    | 45,600    | 江戸川區 | 122,700   | 63,100  | 59,600  |
| 市部  | 125,400   | 61,900    | 63,500    | 八王子市 | 57,100    | 28,500  | 28,600  |
| 市部  | 72,400    | 36,100    | 36,300    | 西多摩郡 | 103,300   | 51,500  | 51,800  |
| 市部  | 94,000    | 51,200    | 42,800    | 南多摩郡 | 91,800    | 46,400  | 45,400  |
| 市部  | 256,300   | 128,200   | 128,100   | 北多摩郡 | 190,600   | 98,300  | 92,300  |
| 市部  | 144,800   | 73,100    | 71,700    | 大島郡  | 21,700    | 11,100  | 10,600  |
| 市部  | 150,500   | 73,800    | 76,700    | 八丈島  | 9,000     | 4,400   | 4,600   |
| 市部  | 56,100    | 26,900    | 29,200    | 小笠原島 | 5,700     | 3,200   | 2,500   |
| 市部  | 46,500    | 22,700    | 23,800    | 神奈川縣 | 1,780,800 | 918,500 | 862,300 |
| 東京府 | 6,142,100 | 3,226,800 | 2,915,300 | 市部   | 1,038,200 | 546,700 | 491,500 |
| 市部  | 5,720,000 | 3,011,900 | 2,708,100 | 市部   | 742,600   | 371,800 | 370,800 |
| 市部  | 422,100   | 214,900   | 207,200   | 市部   | 708,900   | 361,700 | 342,200 |
| 市部  | 5,682,900 | 2,983,400 | 2,679,500 | 市部   | 103,200   | 53,500  | 49,700  |
| 市部  | 60,600    | 31,900    | 28,700    | 市部   | 149,700   | 76,400  | 73,300  |
| 市部  | 131,200   | 76,500    | 54,700    | 市部   | 361,400   | 187,800 | 174,100 |
| 市部  | 103,900   | 63,700    | 46,200    | 市部   | 49,700    | 25,000  | 24,700  |
| 市部  | 140,800   | 70,200    | 62,600    | 市部   | 39,900    | 19,500  | 20,400  |
| 市部  | 179,100   | 97,700    | 81,400    | 市部   | 160,200   | 95,800  | 64,400  |
| 市部  | 85,400    | 44,100    | 41,300    | 市部   | 139,200   | 72,100  | 67,100  |
| 市部  | 59,600    | 31,100    | 28,500    | 市部   | 34,900    | 17,100  | 17,800  |
| 市部  |           |           |           | 市部   | 11,400    | 5,800   | 5,600   |
| 市部  |           |           |           | 市部   | 35,400    | 18,300  | 17,100  |
| 市部  |           |           |           | 市部   | 42,600    | 21,800  | 20,800  |



## 目次

## 一、人口統計

1. 昭和九年十月一日現在全國道府縣市(區)郡島嶼別推計人口..... 3
2. 昭和八年現在地別婚姻離婚出生死産及死亡..... 12
3. 昭和九年一月乃至三月内地人出生及死亡(現在地別)..... 16

## 二、人口と職業に關する統計

1. 工場鑛山等勞働者數調..... 20
2. 工場勞働者異動調..... 21
3. 鑛山勞働者異動調..... 21
4. 官業勞働者異動調..... 22
5. 失業狀況..... 22
6. 職業紹介數..... 24
7. 俸給生活者職業紹介成績..... 25

## 三、産業の活動に關する統計

1. 生産指數..... 26
2. 日本銀行東京卸賣物價指數..... 27
3. 日本銀行東京小賣物價指數..... 27
4. 國有鐵道貨物輸送高..... 27
5. 外國貿易總輸出入額..... 28
6. 全國生計費指數..... 29

## 一人口統計

## 1. 昭和九年十月一日現在全國道府縣市(區)郡島嶼別推計人口

|         | 總數         | 男          | 女          |         | 總數        | 男       | 女       |
|---------|------------|------------|------------|---------|-----------|---------|---------|
| 全 國     | 68,194,900 | 34,279,300 | 33,915,600 | 岩 手 縣   | 1,035,200 | 517,300 | 517,900 |
| 市 部     | 21,647,700 | 11,164,500 | 10,483,200 | 市 部     | 69,200    | 34,800  | 34,400  |
| 市 部     | 46,547,200 | 23,114,800 | 23,432,400 | 市 部     | 966,000   | 482,500 | 483,500 |
| 北 海 道   | 3,061,600  | 1,598,100  | 1,463,500  | 盛 岡 市 郡 | 69,200    | 34,800  | 34,400  |
| 市 部     | 814,500    | 425,800    | 388,700    | 盛 岡 市 郡 | 89,200    | 45,200  | 44,000  |
| 市 部     | 2,247,100  | 1,172,300  | 1,074,800  | 紫 波 郡   | 48,900    | 24,300  | 24,600  |
| 市 部     | 193,200    | 97,600     | 95,600     | 稗 貫 郡   | 64,400    | 31,200  | 33,200  |
| 市 部     | 90,600     | 48,900     | 41,700     | 和 賀 郡   | 77,900    | 38,500  | 39,400  |
| 市 部     | 153,200    | 79,000     | 74,200     | 膽 澤 郡   | 74,800    | 37,100  | 37,700  |
| 函 館 市 郡 | 223,700    | 118,400    | 105,300    | 江 刺 郡   | 49,300    | 24,300  | 25,000  |
| 市 部     | 60,500     | 31,600     | 28,900     | 西 磐 井 郡 | 61,800    | 30,200  | 31,600  |
| 市 部     | 58,900     | 32,700     | 26,200     | 東 磐 井 郡 | 87,300    | 43,600  | 43,700  |
| 市 部     | 34,400     | 17,600     | 16,800     | 氣 仙 郡   | 71,800    | 35,300  | 36,500  |
| 支 部     | 137,200    | 71,000     | 66,200     | 上 閉 伊 郡 | 97,100    | 51,700  | 45,400  |
| 空 知 支 部 | 425,500    | 220,100    | 205,400    | 下 閉 伊 郡 | 100,100   | 50,600  | 49,500  |
| 上 川 支 部 | 298,000    | 154,800    | 143,200    | 九 戸 郡   | 81,300    | 39,700  | 41,600  |
| 後 志 支 部 | 176,300    | 89,000     | 87,300     | 二 戸 郡   | 62,100    | 30,800  | 31,300  |
| 渡 島 支 部 | 78,200     | 40,700     | 37,500     | 宮 城 縣   | 1,221,200 | 615,200 | 606,000 |
| 青 森 縣   | 180,600    | 95,300     | 85,300     | 市 部     | 251,700   | 127,900 | 123,800 |
| 支 部     | 106,700    | 55,200     | 51,500     | 市 部     | 969,500   | 487,300 | 482,200 |
| 支 部     | 70,800     | 37,800     | 33,000     | 仙 臺 市 郡 | 216,900   | 109,500 | 107,400 |
| 支 部     | 181,100    | 95,400     | 85,700     | 石 卷 市 郡 | 34,800    | 18,400  | 16,400  |
| 支 部     | 86,700     | 45,900     | 40,800     | 刈 田 郡   | 51,900    | 25,600  | 26,300  |
| 支 部     | 82,800     | 45,400     | 37,400     | 柴 田 郡   | 45,700    | 22,600  | 23,100  |
| 支 部     | 263,600    | 138,000    | 125,600    | 伊 具 郡   | 55,000    | 27,600  | 27,400  |
| 支 部     | 73,000     | 38,800     | 34,200     | 瓦 名 郡   | 34,200    | 17,000  | 17,200  |
| 支 部     | 86,600     | 44,900     | 41,700     | 宮 城 郡   | 62,900    | 31,900  | 31,000  |
| 青 森 縣   | 933,100    | 467,400    | 465,700    | 宮 城 郡   | 99,700    | 50,600  | 49,100  |
| 市 部     | 194,100    | 96,500     | 97,600     | 黑 川 郡   | 31,700    | 16,100  | 15,600  |
| 市 部     | 739,000    | 370,900    | 368,100    | 加 美 郡   | 37,500    | 18,500  | 19,000  |
| 市 部     | 45,600     | 22,900     | 22,700     | 志 田 郡   | 53,500    | 26,800  | 26,700  |
| 市 部     | 90,500     | 45,100     | 45,400     | 玉 造 郡   | 31,200    | 15,500  | 15,700  |
| 市 部     | 58,000     | 28,500     | 29,500     | 遠 田 郡   | 58,100    | 28,700  | 29,400  |
| 東 津 輕 郡 | 87,000     | 44,200     | 42,800     | 栗 原 郡   | 103,200   | 51,900  | 51,300  |
| 西 津 輕 郡 | 75,000     | 37,400     | 37,600     | 登 米 郡   | 88,800    | 44,800  | 44,000  |
| 中 津 輕 郡 | 74,000     | 37,600     | 36,400     | 桃 生 郡   | 80,500    | 40,500  | 40,000  |
| 南 津 輕 郡 | 127,100    | 64,000     | 63,100     | 牡 鹿 郡   | 46,000    | 23,100  | 22,900  |
| 北 津 輕 郡 | 82,300     | 41,100     | 41,200     | 本 吉 郡   | 89,600    | 46,100  | 43,500  |
| 上 北 郡   | 118,900    | 58,700     | 60,200     | 秋 田 縣   | 1,028,500 | 514,300 | 514,200 |
| 下 北 郡   | 61,400     | 31,800     | 29,600     | 市 部     | 60,500    | 30,400  | 30,100  |
| 三 戸 郡   | 113,300    | 56,100     | 57,200     | 市 部     | 968,000   | 483,900 | 484,100 |

備考 内閣統計局發表「統計集誌」昭和九年十一月二十五日號による。

昭和十年二月十八日印刷  
昭和十年二月二十三日發行

圖 1

內務省社會局內

編輯者兼  
發行

人口問題研究會

東京市世田谷區北澤三丁目九二〇番地

禁轉載

館

稔

印刷者

東京市牛込區西五軒町五十二  
白井祐吉

印刷所

行政學會印刷所

發賣所

東京市神田區  
駿河台三丁目六番地

電話・神田・三一八九

刀江書院